

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成17年7月

沼津工業高等専門学校

目 次

対象高等専門学校の現況及び特徴	1
目的	2
基準ごとの自己評価	
基準1 高等専門学校の目的	6
基準2 教育組織（実施体制）	1 4
基準3 教員及び教育支援者	5 3
基準4 学生の受入	7 3
基準5 教育内容及び方法	8 5
基準6 教育の成果	2 3 7
基準7 学生支援等	2 5 3
基準8 施設・設備	3 4 7
基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	3 6 5
基準10 財務	3 9 5
基準11 管理運営	4 1 1
選択的評価基準	
研究活動の状況	4 2 4
正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	4 4 8

対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 対象校名 沼津工業高等専門学校

(2) 所在地 静岡県沼津市大岡3600

(3) 学科等構成

学科：機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，制御情報工学科，物質工学科

専攻科：機械・電気システム工学専攻，制御・情報システム工学専攻，応用物質工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成17年4月1日現在）

学生数：準学士課程1,056名，専攻科課程52名

教員数：84名（校長含む）

2 特徴

沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、産業界からの強い要望に応えるため、昭和37年4月に2学科（機械工学科，電気工学科）で創設された。以後、時代の要請に伴い、昭和41年に工業化学科を設置、昭和61年に電子制御工学科を設置、平成元年に工業化学科を物質工学科に改組、平成4年に機械工学科の1学級を制御情報工学科に改組、平成8年に専攻科（3専攻）を設置、平成11年に電気工学科を電気電子工学科に名称変更し、準学士課程5学科，専攻科課程3専攻として現在に至っている。

本校では、創設以来、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」との教育理念の下、静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ、専門教育においては、実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い、実践的技術者を養成することを目的に教育を行っている。

この教育理念や目的に基づき、(1)低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人格教育を行うとともに、(2)コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者、(3)実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者、(4)教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を教育目標に掲げ、「進取の気風に富み、幅の広い豊かな教養と質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことのできるものづくりの基盤技術を支え

る、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者の養成」を実践することにより、工業を中心とした産業界に多大な貢献を行ってきた。

準学士課程においては、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、一般科目と専門科目を楔形に編成し、5年間一貫教育で効果的な専門教育を実施している。また、準学士課程の成果を基礎としてさらに高度な知識と技術の習得を目指す専攻科課程においては、高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業界との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的として、きめ細かい教育を行っている。

一方、本校では、他高専に比べて大きな特徴の一つに、前述の教育目標にも掲げた「低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人格教育を行うこと」がある。学生の人間形成を助け、かつ、学生の修学に便宜を供与し、教育目標達成に資するため、入学後2年間の学生寮入寮を原則義務付けている。教育寮である学生寮での寮生の指導には、専任の寮監を配置し、全教員の輪番の宿直とともに、寮務担当教員と学生課寮務係の職員が当たり、寮生が常時指導と助言が受けられる体制が整えられている。また、寮生が組織する「寮生会」による自治も効果的に機能し、共同生活による学生の社会性の向上に寄与している。

また、昭和51年に全国54国立高専で2校のみに設置された情報処理教育センター（現総合情報センター）では、中学卒業後間もない1年次から全学科の学生を対象に基礎的な情報処理教育を行うとともに、2年次以降においては、各学科の専門科目に関連した情報処理教育を行い、情報技術に強い技術者を養成している。さらに、本校では、総合技術開発能力のある学生の育成、地域産業界等との共同研究等の推進や地域産業の振興を目的に、平成16年度に地域共同テクノセンターを設置し、地域産業界と本校との共同研究等のテーマについて、学生も交えて具体的な実験、試験、解析を、最新の設備と研究環境の中で実施できるような体制を整え、産学連携や地域貢献を一層推進している。

目的

沼津工業高等専門学校の使命

本校は、養成すべき人材像を次のように掲げている。

「進取の気風に富み、幅の広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者」

本校の使命は、静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として、上述の条件を満たし日本の産業界に有為な貢献をなす人材を世に送り出すことである。

教育活動等の基本的な方針，教育目標等

1 教育目的，教育目標

【教育目的】

本校は、静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ、専門教育においては、実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い、実践的技術者を養成することを目的としている。

【教育目標】

- (1) 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人格教育を行う。
- (2) コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- (3) 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- (4) 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

2 準学士課程・専攻科課程又は学科・専攻ごとの独自の目的

(1) 教養教育

教養科の担当する一般科目の教育は、実践的技術者の養成という高専教育の目的に合わせて、専門教育の基礎となる知識の習得をまず目標とする。その一方で、実用的な専門知識を身に付けながらも偏りのない総合的な視野から現代社会の多様な問題を理解し解決する豊かな感性を持つ、国際的にも通用する人間の形成を目標とする。それと同時に、卒業後も積極的に新しい知見を求める態度を養い、あふれる情報の中から必要な知識を導き出す批判的思考力を身に付けさせることをも目標として、その実現に向けて多様な学問分野を網羅して教育課程の編成を行う。

(2) 専門教育

機械工学科

機械工学はものづくりの基本であり、学生は材料力学をはじめとする力学、設計製図、機械工作法、機械要素、材料、制御、電気・電子工学、コンピュータ、統計などの基礎を確実に身に付けることが必要である。また、力学の基礎として、物理、数学の力が重要である。これらの基礎の上に、卒業研究を通して工学問題に対するアプローチの方法、知識及び技術の実践的活用法、問題についての議論や発表方法など技術者に求められる能力を修得させ、これにより自らの頭で考え、身体を動かせる実践的な技術者を育成する。

電気電子工学科

電気電子工学科の学生は、回路理論や電磁気などの基礎科目を電験第二種（理論）レベルまで確実に身に付けると共に、情報処理技術から電力工学に至る幅広い電気電子工学の専門科目を学ぶことが必要である。また、電磁気などの基礎として、物理、数学の学力が重要である。これらの基礎学力の上に、知識及び技術の実践的活用法、問題についての議論、発表方法など技術者に求められる総合的能力を習得し、自らの頭で考え、行動できる実践的な技術者を育成する。

電子制御工学科

技術者に共通のものとして、継続的な自己研鑽・生涯教育の根幹となる基礎科目(設計・計画, 情報・論理, 解析, 材料・化学・バイオ), 産業・社会における技術者の責任ある役割を自覚し, 理解するための適性科目(技術者倫理), 社会の要請に即応できるための共通科目(数学, 物理学, 化学)を教育内容とし, 技術士一次試験レベルの内容をかなりの程度理解させる。専門科目については, 電気・電子工学, 機械工学及び情報工学などに幅広くまたがる科目のそれぞれをデジタル・エンジニアリングをキーワードとして教育し, 技術士一次試験専門科目(機械部門, 電気・電子部門, 情報工学部門)レベルの内容を一定程度理解させる。英語運用能力については, 5年次修了時点でかなりの数の学生に TOEIC400 点以上を取得させる。

制御情報工学科

情報, 機械, 電気・電子, システム・制御の基礎を幅広く身に付け, コンピュータを応用した生産システムや複合機器の設計, 開発, 製作等の分野で社会に貢献できる人材を育成する。その中で, 企業等の現場において実践的技術者として職務遂行できる程度に, 自ら文献・資料等の調査ができ, 種々の科学機器を工学の基礎的問題解決のために有効に使用でき, 更に複数のメンバーと協調して問題解決のためのプロジェクトが遂行でき, その結果を的確にまとめ, 記述, 発表, 討論できるコミュニケーション力を養成する。

物質工学科

材料化学及び生物工学の急速な発展に対応した幅広い知識と技術を習得させ, 物質の組成, 構造, 変化について基礎的理解を示し, 化学的又は生物化学的に物質を製造する分野において研究開発, 生産技術分野で活躍できる工業技術者を育成する。また, 急速に進む国際化のために英語を重視し, 技術者に必要な工学倫理を身に付け, 新しい化学工業の発展に充分対応できる創造性豊かな工業技術者を育成する。

(3) 専攻科教育

専攻科教育の目的は, 「広い視野」と「深い専門性」を持った技術者の養成にある。「広い視野」とは, 機械工学, 電気電子工学, 情報工学, 化学・生物工学の領域工学の全てにわたる基礎的な素養を身に付けた技術者の育成を目的とする。この「基礎的な素養」とは, 米国工学・測量資格認定委員会(National Council of Examiners for Engineering and Surveying)の技術者1次試験(FE-Exam.)に提示されている工学(一般)(“General”)のレベルを達成目標とすることである。この目標を達成するために必要なカリキュラム編成を行う。「深い専門性」とは, 地域産業との結び付きを密にし, 専攻科学生をして創造性を発揮し, 地域企業における技術移転・改良に関する研究を企画し, 計画し, 実施し, 検討して実用に供することができるようせしめることを達成目標とする。この目標を達成するために, 専攻科研究指導の在り方を指導教員相互が研鑽できるよう密なネットワーク組織を構築する。技術者として, 当然身に付けなければならない「徳育」のレベルを, 専攻科学生が「日本技術士会の倫理コード」を理解し, 技術的实践に当たって, それを基に行動できるようになることを目標とする。この目標を達成するために, 工学倫理の授業を必修とする。

(選択的評価基準「研究活動の状況」に係る目的)

本校における研究活動は、

1. 研究活動を通じて得た知見を学生への教育活動に効果的に還元し、もって総合技術開発能力のある学生の育成に資すること。
 2. 国立高等教育機関として、産学連携の研究活動を通じて、地域社会への貢献をより一層推進すること。
- の2点を主目的として行う。

1. 教育活動への還元

科学技術が急速に発展していく現在において、各教員は研究活動に精力的に取り組む、本校における授業又は学生の研究指導に当たる際、学術や産業の進展に即応できるようにする必要がある。

また、実践的技術者の養成を使命とする本校においては、科学技術の高度化や産業構造の変化等、社会のニーズを適確に把握する必要がある。民間企業等と産学連携形式で研究活動を推進することにより、教員が企業の現場との接点を持ち、社会のニーズを知ることが可能となる。

また、企業等との共同研究活動に学生を関わらせることにより、自分たちの学習と社会との明確な接点を実体験させ、また、基礎理論がどのように産業に応用されるかを身を持って学ばせることができ、学生の総合技術開発能力の向上にとって大きな教育効果が期待できる。

2. 地域社会への貢献

本校は、静岡県東部地区で唯一の国立高等教育機関であり、しかも、実践的技術者の養成を使命とし産業に直結する教育・研究活動を行っている機関であることから、その研究成果を地域に還元することが強く期待されている。本校においては、そのような社会的使命を深く認識し、技術革新や社会的要請に対して、機敏かつ柔軟に対応しうるよう体制を整え、本校の「知」を地域社会に効果的に還元することを目指している。

(選択的評価基準「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的)

静岡県東部地区には科学博物館等の施設がなく、子どもたちの科学的興味を受け入れる施設や事業が少ない状況にある。当地区の中心に位置する理系の国立高等教育機関である本校には、「理科離れ」が叫ばれている子どもたちの科学への関心を高めるという社会的使命がある。

また、静岡県東部地区には高等教育機関が少なく、中でも国立高等教育機関としては本校が唯一の存在であることから、本校には学習意欲を持つ地域住民を可能な限り柔軟かつ適切に受け入れる体制を整えるという社会的使命がある。

この点を踏まえ、本校における正規課程の学生以外に対する教育サービスについては、小中学生を主対象とする公開講座の開設や各種イベントへの出展等を積極的に行うことにより、子どもたちが潜在的に有している科学的興味を刺激し、もって子どもたちの科学への関心を高めるきっかけを提供すること、並びに、研究生・聴講生・科目等履修生等の制度を設けることにより、社会人等のパートタイムでの受け入れを可能とし、もって地域住民の学習意欲に応えることを目的とする。

基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況) 本校は、学則第 1 条においてその目的を明文化している(資料 1 - 1 - 1)。

資料 1 - 1 - 1 : 沼津工業高等専門学校学則(抜粋)

第 1 章 本校の目的

第 1 条 本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0010_gakusoku.htm

また、平成 16 年 4 月の独立行政法人化に伴い定められた沼津工業高等専門学校中期計画(以下「中期計画」という。)においても、学校全体の教育理念及び養成すべき人材像と、教養科・各専門学科・専攻科の教育目標を明確に定めている(資料 1 - 1 - 2)。

資料 1 - 1 - 2 : 沼津工業高等専門学校中期計画(抜粋)

(前文)

教育理念

静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関としての社会的使命と役割を認識しつつ、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」(初代井形校長の遺訓)との教育方針を、時代の変化に即応しつつ、展開していく。

養成すべき人材像

進取の気風に富み、幅の広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

(略)

I 国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関して達成すべき内容・水準(徳育、創造性教育を含む)

教養教育

実践的技術者として備えるべき人文・社会系、体育、ならびに理数系を含む教養教育や外国語能力の内容・水準

教養科の担当する一般科目の教育は、実践的技術者の養成という高専教育の目的に合わせて、専門教育の基礎となる知識の習得をまず目標とする。その一方で、実用的な専門知識を身に付けながらも偏りのない総合的な視野から現代社会の多様な問題を理解し解決する豊かな感性を持つ、国際的にも通用する人間の形成を目標とする。それと同時に、卒業後も積極的に新しい知見を求める態度を養

い、あふれる情報の中から必要な知識を導き出す批判的思考力を身に付けさせることをも目標として、その実現に向けて多様な学問分野を網羅して教育課程の編成を行う。

専門教育

実践的技術者として備えるべき内容・水準（学科ごとに記載）

（機械工学科）

機械工学はものづくりの基本であり、学生は材料力学をはじめとする力学、設計製図、機械工作法、機械要素、材料、制御、電気・電子工学、コンピュータ、統計などの基礎を確実に身に付けることが必要である。また、力学の基礎として、物理、数学の力が重要である。これらの基礎の上に、卒業研究を通して工学問題に対するアプローチの方法、知識及び技術の実践的活用法、問題についての議論や発表方法など技術者に求められる能力を修得させ、これにより自らの頭で考え、身体を動かせる実践的な技術者を育成する。

（電気電子工学科）

電気電子工学科の学生は、回路理論や電磁気などの基礎科目を電験第二種（理論）レベルまで確実に身に付けると共に、情報処理技術から電力工学に至る幅広い電気電子工学の専門科目を学ぶことが必要である。また、電磁気などの基礎として、物理、数学の学力が重要である。これらの基礎学力の上に、知識及び技術の実践的活用法、問題についての議論、発表方法など技術者に求められる総合的能力を習得し、自らの頭で考え、行動できる実践的な技術者を育成する。

（電子制御工学科）

技術者に共通のものとして、継続的な自己研鑽・生涯教育の根幹となる基礎科目（設計・計画、情報・論理、解析、材料・化学・バイオ）、産業・社会における技術者の責任ある役割を自覚し、理解するための適性科目（技術者倫理）、社会の要請に即応できるための共通科目（数学、物理学、化学）を教育内容とし、技術士一次試験レベルの内容をかなりの程度理解させる。専門科目については、電気・電子工学、機械工学及び情報工学などに幅広くまたがる科目のそれぞれをデジタル・エンジニアリングをキーワードとして教育し、技術士一次試験専門科目（機械部門、電気・電子部門、情報工学部門）レベルの内容を一定程度理解させる。英語運用能力については、5年次修了時点でかなりの数の学生にTOEIC400点以上を取得させる。

（制御情報工学科）

情報、機械、電気・電子、システム・制御の基礎を幅広く身につけ、コンピュータを応用した生産システムや複合機器の設計、開発、製作等の分野で社会に貢献できる人材を育成する。その中で、企業等の現場において実践的技術者として職務遂行できる程度に、自ら文献・資料等の調査ができ、種々の科学機器を工学の基礎的問題解決のために有効に使用でき、更に複数のメンバーと協調して問題解決のためのプロジェクトが遂行でき、その結果を的確にまとめ、記述、発表、討論できるコミュニケーション力を養成する。

（物質工学科）

材料化学及び生物工学の急速な発展に対応した幅広い知識と技術を習得させ、物質の組成、構造、変化について基礎的理解を示し、化学的又は生物化学的に物質を製造する分野において研究開発、生産技術分野で活躍できる工業技術者を育成する。また、急速に進む国際化のために英語を重視し、技術者に必要な工学倫理を身に付け、新しい化学工業の発展に充分対応できる創造性豊かな工業技術者を育成する。

専攻科教育

高度な実践的技術者として備えるべき内容・水準

専攻科教育の目的は、「広い視野」と「深い専門性」を持った技術者の養成にある。「広い視野」とは、機械工学，電気電子工学，情報工学，化学・生物工学の領域工学の全てにわたる基礎的な素養を身に付けた技術者の育成を目的とする。ここに「基礎的な素養」とは，米国工学・測量資格認定委員会(National Council of Examiners for Engineering and Surveying)の技術者1次試験(FE-Exam.)に提示されている工学(一般)(“General”)のレベルを達成目標とすることである。この目標を達成するために必要なカリキュラム編成を行う。「深い専門性」とは，地域産業との結びつきを密にし，専攻科学生をして創造性を発揮し，地域企業における技術移転・改良に関する研究を企画し，計画し，実施し，検討して実用に供することができるようせしめることを達成目標とする。この目標を達成するために，専攻科研究指導の在り方を指導教官相互が研鑽できるよう密なネットワーク組織を構築する。技術者として，当然身に付けなければならない「徳育」のレベルを，専攻科学生が「日本技術士会の倫理コード」を理解し，技術的实践に当たって，それを基に行動できるようになることを目標とする。この目標を達成するために，工学倫理の授業を必修とする。また，早期にJ A B E Eの認定を受けるため必要な教育内容・体制等の整備を図る。

(出典：沼津工業高等専門学校中期計画)

さらに，平成16年度に教育理念等を見直し，教育理念，教育目的及び教育目標のより一層の明確化を図った(資料1-1-3)。

資料1-1-3：教育理念等

教 育 理 念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目 的

静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として，地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ，時代の変化に即応しながら，豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ，専門教育においては，実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い，実践的技術者を養成する。

教 育 目 標

- 1 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて，全人格教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し，社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に，独創的技術者の養成を行う。

養成すべき人材像

進取の気風に富み，幅の広い豊かな教養と，質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて，常に新たな発想の下に，技術革新を担うことができる，ものづくりの基盤技術を支える，創造性豊かな，企業から信頼される指導的な実践的技術者

(出典：平成17年度学生便覧)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。本校の使命，教育理念，教育目的，教育目標及び学科等毎の教育目標は，資料に示すとおりすべて明確に定めてある。

観点1-1-3：目的が，学校教育法第70条の2に規定された，高等専門学校一般に求められる目的から，はずれるものでないか。

(観点に係る状況) 本校学則第1条に定められた目的は，学校教育法第70条の2の条文をほぼ引

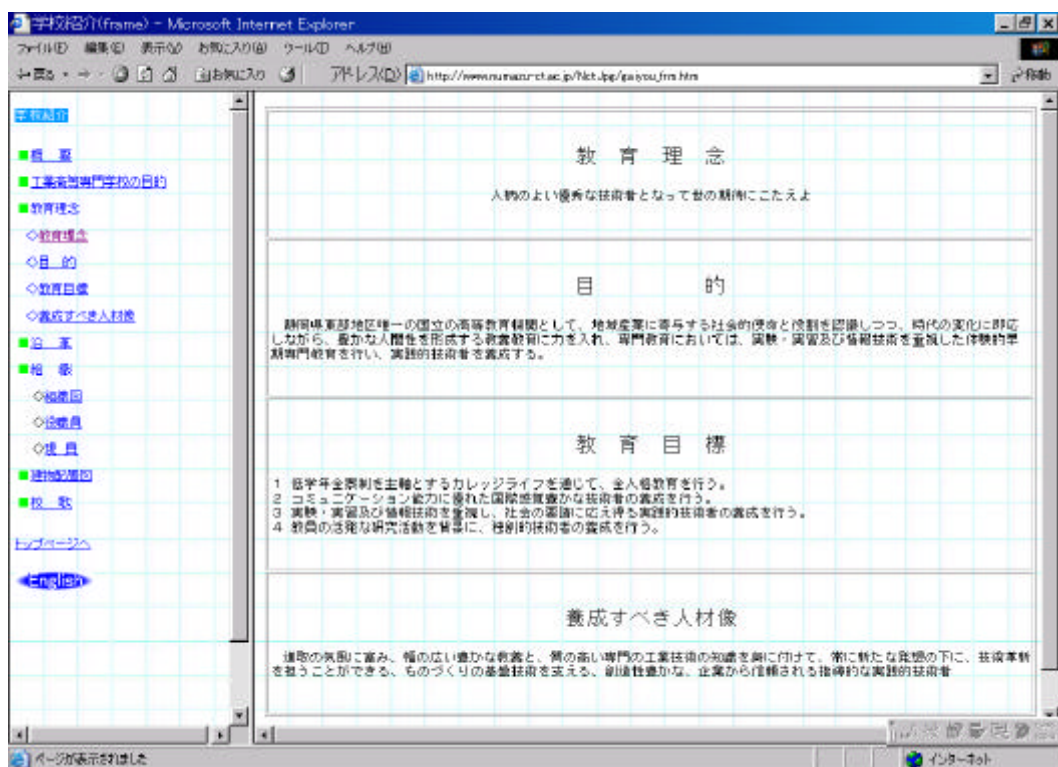
用しており、その趣旨にはずれものではない。また、教育理念並びに中期計画記載の各教育目標も「実践的技術者の養成」を至上命題に掲げており、高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

(分析結果とその根拠理由) 相応である。本校の教育理念、教育目的、教育目標及び学科等毎の教育目標は、学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

観点1-2- : 目的が、学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況) 本校の教育理念及び教育目的は、職員にはウェブサイト(資料1-2- - 1)、学校概要(資料1-2- - 2)及び新入教職員オリエンテーション等により周知し、学生にはウェブサイト、学生便覧(資料1-2- - 3)及び新入生オリエンテーション等により周知している。

資料1-2- - 1: 教育理念等を掲載したウェブサイトの該当部分



(出典: 本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gaiyou02_1.htm

資料 1 - 2 - - 2 : 教育理念等を掲載した学校概要の該当部分

● **教育理念**
人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ


● **目的**
 静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ、専門教育においては、実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い、実践的技術者を養成する。

● **教育目標**

- 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人格教育を行う。
- コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

● **学生受入方針**

- 他人を思いやる心を持ち、責任感のある誠実な人
- 技術者や科学者を目指す人
- 勉強が好きで、自分の才能を伸ばすために努力できる人



学生写真


(出典：沼津工業高等専門学校学校概要)

資料 1 - 2 - - 3 : 教育理念等を掲載した学生便覧の該当部分

平成17年度

学 生 便 覧

沼津工業高等専門学校



教 育 理 念
 人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目 的
 静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ、専門教育においては、実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い、実践的技術者を養成する。

教 育 目 標

- 1 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人格教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

養成すべき人材像
 重視の父親に富み、幅広い豊かな教養と、豊かな専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から留められる優秀な実践的技術者。

(出典：平成17年度学生便覧)

また、各学科等毎の教育目標は、教職員にはウェブサイト中の学科紹介ページ(資料 1 - 2 - - 4)や教員会議等により周知し、学生にはウェブサイト、学生便覧、シラバス(資料 1 - 2 - - 5)及び各学年開始時期のオリエンテーション等により周知している。

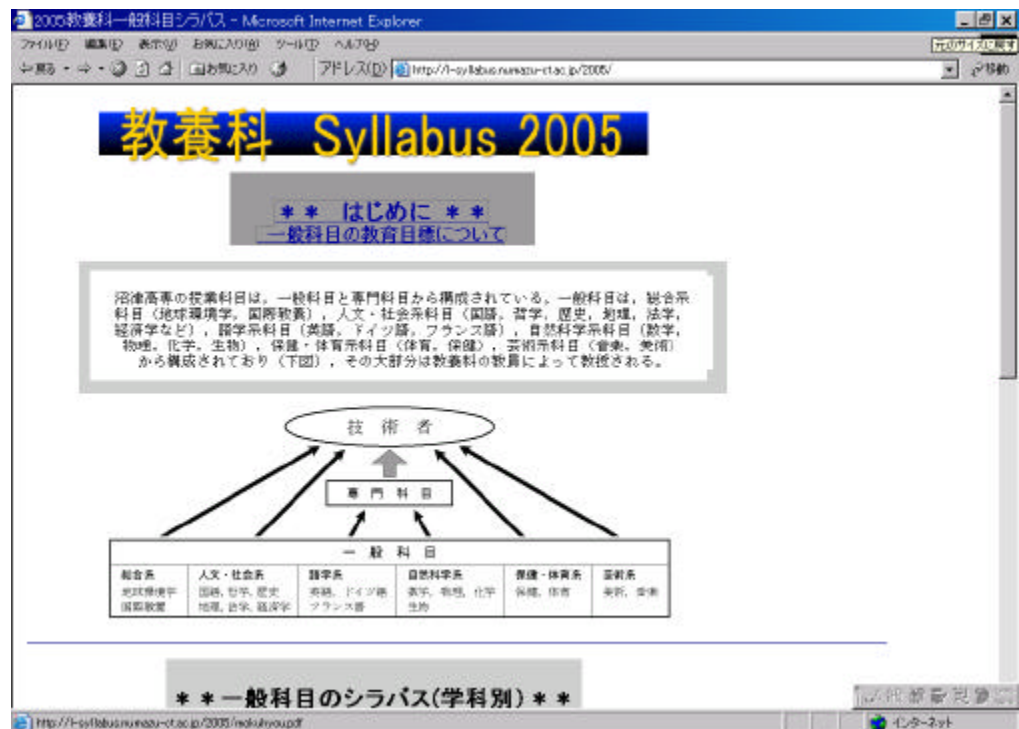
資料 1 - 2 - - 4 : ウェブサイト中の学科紹介ページ



(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_frm.htm

資料 1 - 2 - - 5 : シラバスの各学科等目標記載ページ (教養科の例)



(出典：本校シラバス)

<http://l-syllabus.numazu-ct.ac.jp/2005/>

(分析結果とその根拠理由) 優れている。本校の教育理念、教育目的等について、特に年度当初に集中してさまざまな手段を講じて周知を図っており、教職員及び学生に浸透している。

観点 1 - 2 - : 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況) ウェブサイトにおいて教育理念, 教育目的等を掲載・公表し, また, 教育方針を掲載している学校概要を毎年発行している(前出資料 1 - 2 - - 1 及び 2)。

さらに, 本校への進学に興味を持つ中学生及びその保護者並びに中学校教員を対象とした進学説明会を静岡県内 4 会場, 神奈川県 1 会場及び山梨県 1 会場において開催し, 本校の教育理念, 教育目的等を説明している。併せて, 本校の教員が県内の中学校を直接訪問し, 学校の PR を行うとともに本校の教育方針等を説明している。就職関連企業には, ウェブサイト及び学校概要を通じて教育内容及び教育方針を説明している。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。ウェブサイトによって社会全体に公表している。また, 特に将来本校の構成員となる可能性を持つ中学生関係には重点的に PR している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) ウェブサイトを積極的に活用するとともに, 紙媒体や口頭での対面プレゼンテーションを組み合わせて多様な手段で教育目的等の周知を図っている点は, 情報取得手段が多様化している現代において幅広い対象に周知できる体制となっている点から, 優れている。

(改善を要する点) 特になし。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校は, 学則第 1 条においてその目的を明文化している。また, 平成 16 年 4 月の独立行政法人化に伴い定められた沼津工業高等専門学校中期計画(以下「中期計画」という。)においても, 学校全体の教育理念及び養成すべき人材像と, 教養科・各専門学科・専攻科の教育目標を明確に定めている。さらに, 平成 16 年度に教育理念等を見直し, 教育理念, 教育目的及び教育目標をより一層の明確化を図った。本校の使命, 教育理念, 教育目的, 教育目標及び学科等毎の教育目標はすべて明確に定めてあり, 優れている。

本校の教育理念, 教育目的, 教育目標及び学科等毎の教育目標は, 「実践的技術者の養成」を至上命題に掲げるなど, 学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではなく, 相応である。

本校の教育理念及び教育目的は, 職員にはウェブサイト, 学校概要及び新入教職員オリエンテーション等により周知し, 学生にはウェブサイト, 学生便覧及び新入生オリエンテーション等により周知している。また, 各学科等毎の教育目標は, 教職員にはウェブサイト中の学科紹介ページや教員会議等により周知し, 学生にはウェブサイト, 学生便覧, シラバス及び各学年開始時期のオリエンテーション等により周知している。このように, 本校の教育理念, 教育目的等について, 特に年度当初に集中してさまざまな手段を講じて周知を図っており, 教職員及び学生に浸透していると考えられ, 優れている。

社会一般に対しても, ウェブサイトにおいて教育理念, 教育目的等を掲載・公表し, また, 教育方針を掲載している学校概要を毎年発行している。さらに, 本校への進学に興味を持つ中学生及びその保護者並びに中学校教員を対象とした進学説明会を県内外において開催し, 本校の教育理念, 教育目的等を説明している。併せて, 本校の教員が県内の中学校を直接訪問し, 学校の PR を行うとともに本校の教育方針等を説明している。就職関連企業には, ウェブサイト及び学校概要を通じて教育内容及び教育方針を説明している。ウェブサイトを積極的に活用するとともに, 紙媒体や口

頭での対面プレゼンテーションを組み合わせる多様な手段で教育目的等の周知を図っている点は、情報取得手段が多様化している現代において幅広い対象に周知できる体制となっている点から、優れている。

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2 - 1 - 1 : 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）本校の教育目的（資料 2 - 1 - 1）を達成するため、準学士課程には 5 つの専門学科（機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，制御情報工学科及び物質工学科）が体系的に編成され設置されていて，各科共通の一般科目を担当する教養科がこれを支えている（資料 2 - 1 - 2 ~ 4）。それぞれの専門学科では，教育課程を一般科目と専門科目が楔形（低学年においては教養・基礎科目を重視し，高学年になるにつれ専門科目や演習，実験・実習等に力を入れること。）となるよう編成し（資料 2 - 1 - 5），高度な技術へのスムーズな展開を実現している。

資料 2 - 1 - 1 : 本校の教育目的

目 的

静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として，地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ，時代の変化に即応しながら，豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ，専門教育においては，実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い，実践的技術者を養成する。

（出典：本校公式ウェブサイト）

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gaiyou02_1.htm

資料 2 - 1 - 2 : 沼津工業高等専門学校学則

第 3 章 学科，学級数，入学定員及び教職員

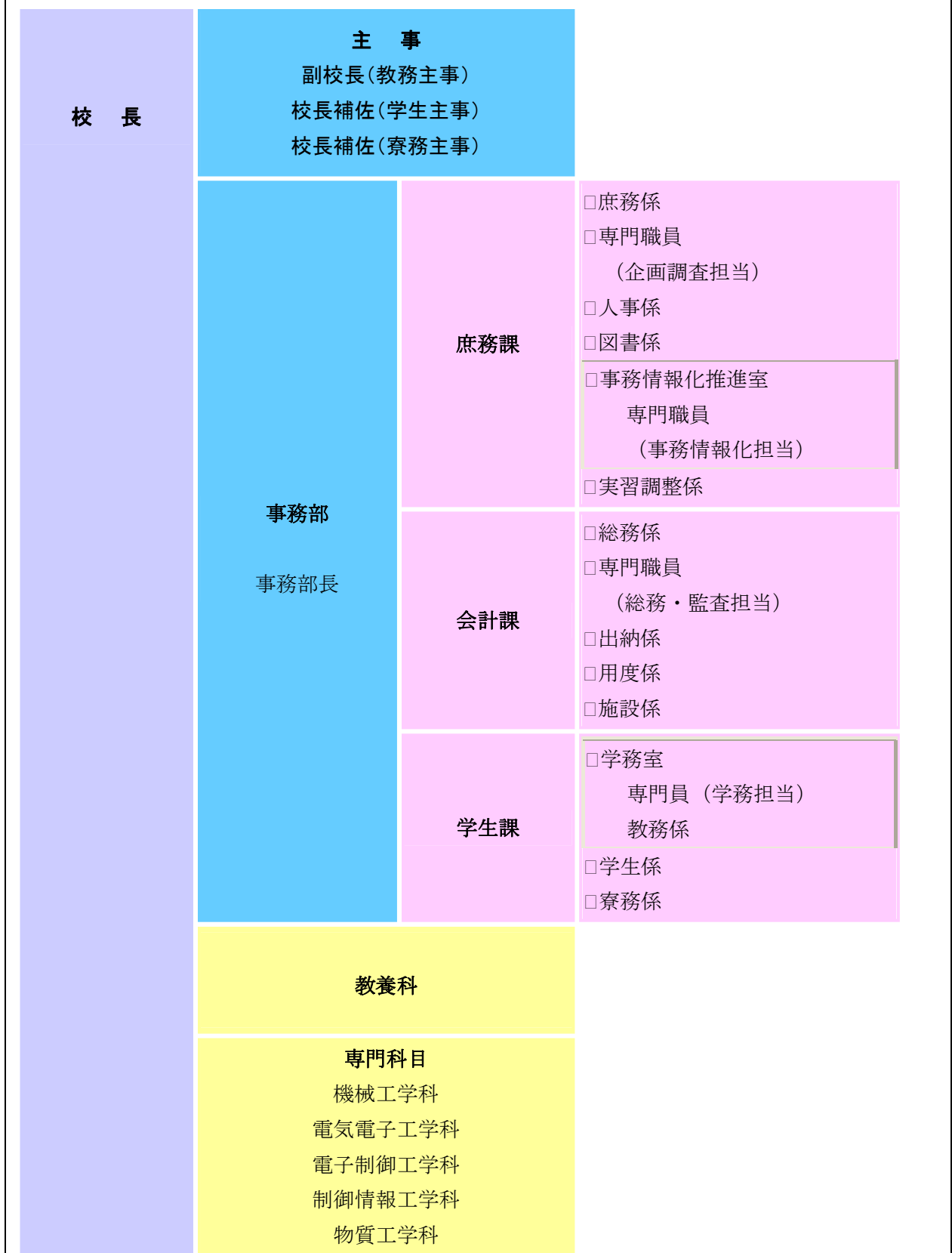
第 7 条 学科・学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

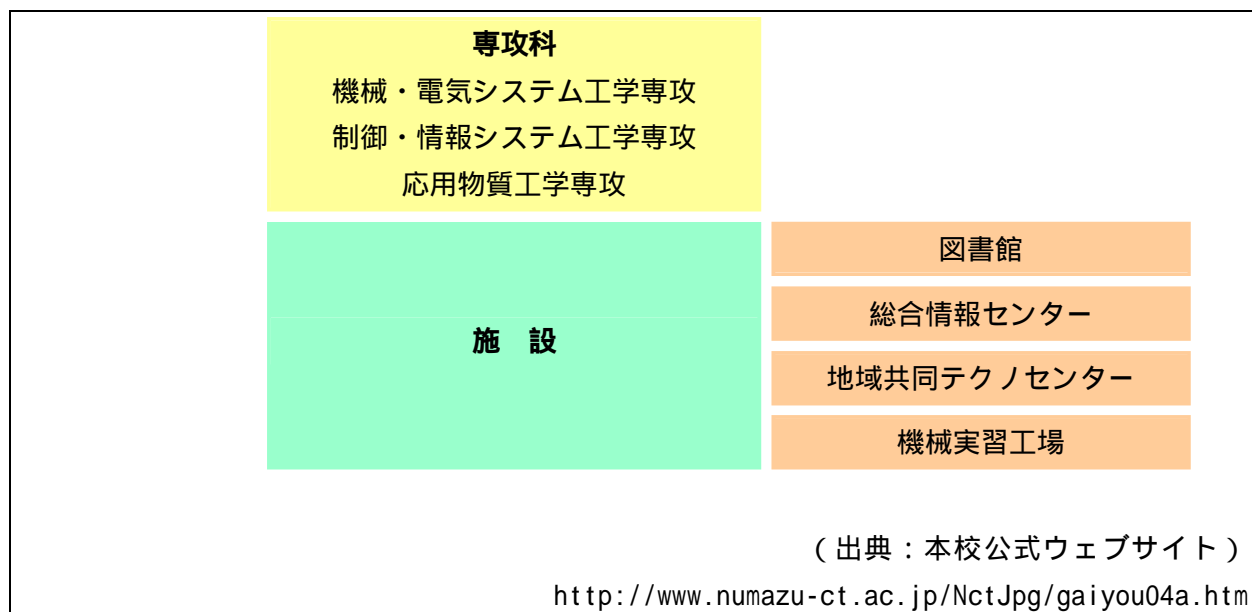
学 科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気電子工学科	1	40人
電子制御工学科	1	40人
制御情報工学科	1	40人
物質工学科	1	40人

（出典：平成17年度学生便覧）

資料 2—1—①—3 : 組織図

組織図





資料 2 1 4 : 各学科の概要

教養科

「教養科」は沼津高専の五つの専門学科に属さない教員集団の組織名である。「教養科」が目指すものは二つある。一つは心身ともに健全な社会人に求められる人間性と常識を養うことである。広範な知識・技能と、適確な思考力・行動力を持ち、豊かな個性と社会性を兼ね備えた沼津高専卒業生を作りたい。もう一つは学生が所属するそれぞれの学科の専門教科を学ぶのに必要な基礎学力を身につけさせることである。

高等学校と大学の教養課程で教えられるほとんどの教科が、1学年次から5学年次まで、専門科目とのバランスを考えて、機能的に配置されている。数学と語学には特に力を入れている。必修のドイツ語(4年次)のほか、5年生の希望者にはフランス語も開講している。

全国の高専に先駆けて設けられた「国際教養」(5年選択)は年々国際化する日本社会の変貌によりよ〈対応しようとする教養科の姿勢を示す。時代を超えた真理と時代が要請する賢明さを修得させるべく、教養科は柔軟かつ堅固に、限られた条件の下で最も適切なカリキュラムを編成している。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_G.htm

機械工学科

機械工学科は、機能的に編成されたカリキュラムによって、機械及び装置に関連する諸システムを設計・製造する能力を養成することを主目標としている。低学年から始まる機械工作実習によって基本的製作実技を、さらに5年間にわたる機械設計製図によって製品の設計・製図技術を完全に修得する。材料力学、熱力学、水力学等の主要教科目は基礎科目と密接な連携をとって講義される。さらに、実験・演習を行うことにより機械工学の基幹的技術・知識を学生に体得させている。近年機械技術者に要望されている情報処理・コンピュータ技術は、その教科目に加えて各専門教科目からも多角的に教授して完成度を上げている。また、密度の濃い卒業研究の指導を行い、人格形成とともに研究の進め方を実践的に教授している。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_M.htm

電気電子工学科

生産ラインの自動化やロボット化を始め、コンピュータやインターネットの普及などによるエレクトロニクス化と情報化が急速に進み、電気電子技術者に対する要求はあらゆる産業で強まっている。電気電子工学科では、回路理論や電磁気などの基礎学習に力を入れるとともに、社会の要請に応えられる電気電子技術者を養成するため、コンピュータ・電子工学・情報通信工学・制御工学・電力工学などの専門分野も教授している。コンピュータではハードとソフト、電子回路ではアナログとデジタル技術の両分野を教育している。さらに、高学年では先端技術に関するテーマを選択科目として開講している。また、電気電子工学実験には情報処理はもとより電子回路の設計・製作・シミュレーション、マイクロ波やレーザーなど基礎から応用まで豊富なテーマを取り入れている。教員と技術職員の全員が、3名から5名の小人数のグループごとに丁寧に指導し、実践的な技術者の育成に努めている。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_E.htm

電子制御工学科

マイクロプロセッサに代表される集積回路 (IC) 技術のめざましい発展に伴って、高度な制御技術が、ロボット、自動車、オーディオ機器、医療機器、パーソナルコンピュータなど身近な分野に使われるようになった。これらの機器は、コンピュータ・ソフトウェアを中心として、機械部分、電気・電子部分がひとつの総合的な複合体として組み上げられており、さらに個々の機器が情報ネットワークを介して接続され、より大きな複合体を形成する傾向にある。現在、このような新しい技術分野である電子制御技術が独自に発展しつつある。

本学科では、電子制御技術者の人材育成を目的として、機械工学、制御工学、電気・電子工学、情報工学に関する必要不可欠な要素技術、並びにシステム工学等のシステム統合化技術を学ぶためのカリキュラムと、意欲的に学習できる環境を用意している。特に、体験的学習とチーム学習を重視し、カリキュラムにインターネットを使った情報ネットワークの演習や自律知能ロボットの設計・製作を設けるなど特別の配慮をはらっているほか、電子制御工学科のネットワークやコンピュータールームを常時開放し、学生の便宜を図っている。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_D.htm

制御情報工学科

制御情報工学科は、コンピュータを応用した複合機器システムを設計・制作し運用できる、情報処理技術に精通した実践的技術者の養成を目標としている。カリキュラムは、情報工学、制御工学、機械工学を重視し、電気・電子工学の関係分野を包含して体系的に編成してある。低学年に対しては、制御情報工学演習において、情報処理のためのコンピュータ言語演習とマイクロプロセッサ制御の自律ロボット製作実習に多くの時間を充てている。高学年に対しては、制御・機械・メカトロニクスに関する実験、コンピュータを活用したシミュレーションやデータ処理などの演習を体験を通して教育する。卒業研究は5年間の一貫教育を総括する教科であり、個別指導のもとに具体的な問題の発見と解決を体験させ、創造力の育成をめざしている。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_S.htm

物質工学科

物質は原子の集合であり,無生物と生物に二分される。したがって物質工学とは人類に有用な物質を見いだして利用する,又は,有用な物質を新規に作り出す学問ということになる。

物質工学科では物質の組成,構造,変化について基礎的理解を示し,化学的又は生物化学的に物質を製造する技術者の養成を目標に,カリキュラムを編成している。分析化学,微生物学,無機化学,有機化学,生物化学,物理化学,化学工学の順に講義と実験によって物質工学の基礎を学ぶ。さらに4年から「材料化学」と「生物工学」の2コースに別れて,それぞれに必要な工学技術を学ぶ。「材料化学」のコースでは無機材料や高分子・有機材料の製造・物性・分析など,「生物工学」のコースでは分子生物学,酵素・細胞・遺伝子などを中心に学ぶ。

創造性の開発,自発的態度の育成,実践的技術の習得を目的として,科学英語などに小人数のセミナー形式を取り入れ,総仕上げに卒業研究を行う。以上により化学工業,医薬品工業,食品工業などの研究開発・生産技術分野で活躍できる人材の養成を目指している。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_C.htm

(出典:本校公式ウェブサイト)

資料 2 - 1 - 5 一般科目と専門科目の学年別単位配分の例

機械工学科

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1	2	3	4	5	
専門科目合計							
必修科目合計	91	8	9	19	26	29	
選択科目合計	2	-	-	-	-	2	標準履修単位数
履修科目合計	93	8	9	19	26	31	
一般科目合計	84	27	25	18	8	6	
合計	177	35	34	37	34	37	
選択科目(専門) 開講単位数	12	-	-	-	6	6	

(出典:本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/cal_M1.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応である。学科構成は,工業の幅広い分野を包含し,それぞれ一般教養と専門分野をバランスよく教授する教育課程が整えられており,高等専門学校設置基準に沿っている。また各学科とも,本校の教育目的(前出資料 2 - 1 - 1)及び学校教

育法でいうところの「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」(学校教育法第70条の2)を念頭に置いた内容を備えている。

観点2-1- : 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況) 専攻科課程には、専攻科教育目的(資料2-1-1)を達成するために3専攻(機械・電気システム工学専攻, 制御・情報システム工学専攻, 応用物質工学専攻)が設置されている(資料2-1-2及び3)。これらの3専攻が、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学」を構成していて、その要件を定め、教育目標を達成するためのカリキュラム作成の指針としている(資料2-1-4~6)。

資料2-1-1: 専攻科教育目的

専攻科

I. [目的]

沼津高専専攻科の目的は、次の3点です。

1. 研究指導を通じた工学に関する深い専門性を教育する。
2. 創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成する。
3. 産業社会との学術的な協力と地域社会の産業と文化の進展に寄与する。

(出典: 本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_A.htm

資料2-1-2: 沼津工業高等専門学校学則(抜粋)

第9章 専攻科

第46条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専攻	入学定員
機械・電気システム工学専攻	8人
制御・情報システム工学専攻	8人
応用物質工学専攻	4人

(出典: 本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0010_gakusoku.htm

資料 2 1 3 : 専攻科概要

[専攻科概要]

1950年代後半～60年代初頭、「欧米に追いつけ、追い越せ」というのは日本の工業にとっての課題でした。欧米に「手本」があって、日本の技術者はその「手本」に沿って「ものづくり」に邁進することが求められた時代です。高専が誕生したのはその頃です。従って、高専では「効率的なものづくり」を実現するため、早期専門教育を中心とした即応的なものづくり教育が行われてきました。高専教育が日本の高度経済成長を支え、国民生活向上の一端を担ったことは、産業界からも高く評価されています。

1980年代後半～90年代初頭、日本の工業にとっての課題は「世界をリードする技術の創造」へと変わってきました。「手本」なき技術革新の時代が始まりました。こうした変化の過程で、高専教育も「即応的なものづくり教育」から「基礎学力に立脚した総合的な技術教育」へと、社会からの要求の変化への対応を迫られることになりました。勿論、こうした幅広い対応は、既存の5年制教育で行うのではなく、2年間の教育課程を付加して、7年間の教育課程を構築して行うものです。これが高専に専攻科が設置された意義であります。

時代の変化と、それに対応すべき高専教育の充実が「高専＋専攻科」によって図られようとしています。専攻科は「総合システム工学」にふさわしい、充実したカリキュラムを提供します。沼津高専専攻科は「やる気のあるエンジニア」を育てるところです。

(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_A.htm

資料 2 1 4 : 沼津工業高等専門学校学則（抜粋）

第9章 専攻科

第46条の3 第46条に規定する3専攻は、別表第3に定める単一の技術者教育プログラムである総合システム工学を構成する。

2 総合システム工学は、別に定める総合システム工学要件を満たさなければならない。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0010_gakusoku.htm

資料 2 1 5 : 総合システム工学体系

別表第 3

総合システム工学体系

専 攻 科

		基礎工学分類Ⅰ 設計・システム系	基礎工学分類Ⅱ 情報・論理系	基礎工学分類Ⅲ 材料・バイオ系	基礎工学分類Ⅳ 力学・数理・解析系	基礎工学分類Ⅴ 社会・技術連関系
1	工学共通基礎		マルチメディア・ ネットワーク 化学データ解析	材料強度論 結晶化学 生物化学工学	現代物理学 量子力学 熱統計物理学 応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用数学Ⅲ	工学倫理 地球環境学 エネルギーと社会
2	専門工学系 (機械工学)	システム制御 工学 振動制御工学 ロボット制御 工学 適応制御工学		工業材料 塑性加工学 表面工学	流体力学 応用伝熱学 音響工学 流体エネルギー 変換工学	
3	専門工学系 (電気電子工学)	集積回路設計 電磁波工学Ⅱ パワーエレクト ロニクス特論 電力制御機器工学	信号処理 通信処理	電気電子材料 電子デバイス	電磁波工学Ⅰ 電気機器学特論 電磁エネルギー変 換工学	
4	専門工学系 (情報工学)	計算機アーキ テクチャー 数値シミュ レーション オブジェクト 指向プログラ ム設計	有限オートマト ンと言語理論 アルゴリズムと データ構造 プログラム言語 計算機システム 画像処理工学 地理情報学 化学情報学 ネットワーク		計算力学 計算流体力学	
5	専門工学系 (応用化学・ 生物工学)	有機材料設計 環境安全工学		有機化学 微生物工学 食品保存工学 生物生産工学 材料物理化学	反応速度論	

(出典：平成17年度学生便覧)

資料 2 1 6 : 専攻科総合システム工学要件

1 . 沼津工業高等専門学校専攻科総合システム工学要件

沼津工業高等専門学校学則第 46 条の 3 第 2 項に基づき総合システム要件を定め、専攻科生が習得すべき知識・能力を以下に示す。

なお、「総合システム工学」とは、基礎工学並びに機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のいずれかの領域工学に関する専門的知識・能力を統合した工学をいう。

1 基礎能力

基礎能力とは、学則別表第 3 総合システム工学体系（以下「別表第 3」という。）における工学共通基礎（-部の専門工学系も含む）において、数学系、物理学系、化学系、環境科学系科目及び情報技術基礎のうち、最低 6 科目を取得して得られる専攻科教育目標の(2)に対応する知識とそれらを用いた問題解決能力を意味する。

(1)数学、応用数学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力：

解析学の基礎、微分方程式、数値解析及びそれらの応用は、別表第 3 の基礎工学分類 の応用数学 I で授業する。

確率と統計及びその応用は、別表第 3 の基礎工学分類 の応用数学 で授業する。

線形代数学及びその応用は、別表第 3 の基礎工学分類 の応用数学 で授業する。

(2)一般物理学、一般化学、分子生物学、遺伝子工学、環境科学の基礎知識とそれらを用いた問題解決能力：

一般物理学については、別表第 3 の基礎工学分類 の現代物理学、量子力学及び熱統計物理学のいずれの教科目においても授業する。

一般化学については、別表第 3 の基礎工学分類 の結晶化学で授業する。

分子生物学については、別表第 3 の基礎工学分類 の生物化学工学で授業する。

遺伝子工学については、別表第 3 の基礎工学分類 の生物生産工学で授業する。

環境科学については、別表第 3 の基礎工学分類 V の地球環境学で授業する。

(3)情報技術の基礎知識及びそれらを用いたコミュニケーション能力：

情報技術基礎に関する授業は、別表第 3 の基礎工学分類 における教科目で、授業する。

2 基礎工学並びに専門工学の知識・能力

(1)基礎工学の知識・能力とは、以下の 5 系からなる基礎工学の中から、少なくとも 5 科目、合計最低 6 科目を取得して得られる；専攻科教育目標の(1)，(2)，(3)に対応する知識・能力を意味する。

設計・システム系科目群（別表第 3 における基礎工学分類 I）

情報・論理系科目群（別表第 3 における基礎工学分類 ）

材料・バイオ系科目群（別表第 3 における基礎工学分類 ）

力学・数理・解析系科目群（別表第 3 における基礎工学分類 ）

社会・技術連関係科目群（別表第 3 における基礎工学分類 V）

(2)専門工学の知識・能力とは、専攻科研究、実験、演習、実習並びに別表第 3 において専門工学系に分類され、専攻科教育目標の(1)，(2)，(3)，(4)，(5)に対応する教科目を取得して得られる知識であり、以下に示す能力である。

いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力

工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決する能力

技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力

（出典：平成 17 年度学生便覧）

(分析結果とその根拠理由) 相応である。専攻科課程の3専攻は準学士課程の各専門学科に対応し、さらに第1学年から第3学年までの工学技術導入教育の成果を引き継ぎつつ、第4学年並びに第5学年の体験重視型早期専門教育の後を受け継いで、研究指導を通じて得られる領域工学(機械工学, 電気電子工学, 情報工学, 応用化学・生物工学)に関する深い専門性を基に、社会の要請に応え、文化の進展に寄与することのできる創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成する教育を実現している。

観点 2 - 1 - : 全学的なセンター等が設置されている場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況) 本校には、全学的なセンター等として、機械実習工場・総合情報センター・地域共同テクノセンターの3つが設置されている(前出資料 2-1-①-2 並びに資料 2-1-③-1 及び 2)。

資料 2-1-③-1 : 総合情報センター規則

○沼津工業高等専門学校総合情報センター規則

(平成 17.3.9 制定)

(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、総合情報センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 センターは、学内情報基盤の維持管理、運用及び設計並びに学内情報資源の有効活用のための企画、調整及び技術支援等を行うとともに、学内全般の情報リテラシー教育の中心的役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学内情報基盤の維持管理、運用及び設計に関すること。
- (2) 学内情報ネットワークのセキュリティ管理に関すること。
- (3) サブネットワーク運用の調整及び技術支援に関すること。
- (4) 学内情報資源の有効活用のための企画、調整及び技術支援に関すること。
- (5) 学生及び教職員に対する情報リテラシー教育に関すること。
- (6) 事務情報化の推進に関すること。
- (7) 高等専門学校情報処理教育研究委員会に関すること。
- (8) プログラミングコンテスト学内審査に関すること。
- (9) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(組織)

第 4 条 センターに、次に掲げる教職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センターの専任教員
- (4) 各学科及び教養科から選出される教員 各 1 人以上
- (5) 事務部から選出される事務職員及び技術職員 若干人

(6) その他校長が指名する教員 若干人

- 2 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。
- 3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。
- 4 副センター長は、第5条第3項に規定する部門長の中からセンター長の推薦に基づき校長が任命する。
- 5 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 第1項第4号及び第5号の教職員の選出に当たっては、事前に学科長、教養科長又は事務部長とセンター長が協議を行うものとする。
- 7 第1項第3号、第5号及び第6号の教職員は、第3条に規定する業務を分担して従事するものとする。
- 8 第1項第4号の教員は、第3条に規定する業務を分担して従事するとともに、各学科等との連絡調整を行うものとする。
- 9 第1項第1号、第2号、第4号及び第6号の教員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門)

第5条 センターに、第2条の目的を達成するため、次の部門を置く。

- (1) ネットワーク管理部門
 - (2) 情報資源活用部門
 - (3) 情報教育部門
 - (4) 事務情報化推進部門
- 2 各部門は、次に掲げるセンターの業務を分担し、相互に連携協力してセンターの業務を円滑に遂行しなければならない。
- (1) ネットワーク管理部門 第3条第1号から第3号までの業務
 - (2) 情報資源活用部門 第3条第4号及び第7号の業務
 - (3) 情報教育部門 第3条第5号及び第8号の業務
 - (4) 事務情報化推進部門 第3条第6号の業務
- 3 各部門に、部門長を置く。
- 4 第1項第1号から第3号までの部門長は、第3条に規定する業務に従事する教員のうちからセンター長が指名するものを、同項第4号の部門長は庶務課長をもって充てる。
- 5 部門長（第1項第4号の部門長を除く。）の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議)

第6条 本校に、センターの管理運営の基本方針、事業計画その他センターの運営に関し必要な事項を審議するため、センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

- 2 運営会議は、本校総務委員会委員（校長を除く。）で組織する。
- 3 運営会議に議長を置き、副校長をもって充てる。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。
- 5 運営会議は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くこと

ができる。

(センター委員会)

第7条 センターに、当該センターの円滑な運営を図るため、センター委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、第4条第1項に掲げる教職員で組織する。

(センター企画会議)

第8条 センターに、第5条に規定する各部門の運営に関する連絡調整を図るため、センター企画会議(以下「企画会議」という。)を置く。

2 企画会議は、センター長及び部門長で組織する。

(事務)

第9条 センターに関する事務は、庶務課において処理する。

(細目)

第10条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な細目は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 沼津工業高等専門学校情報処理教育センター規則(昭和55年9月1日制定)は、廃止する

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/1081_sougou-jouhou-center.htm

資料2 1 2 : 地域共同テクノセンター規則

沼津工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

(平成15.3.12制定)

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、総合技術開発能力のある学生の育成並びに地域産業界等との共同研究の推進及び地域産業の振興に寄与するとともに、本校における教育研究の充実発展に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 総合技術開発能力のある学生の育成に関すること。
- (2) 学科間の横断的な研究協力及びその支援に関すること。
- (3) 地域産業界等との共同研究及び受託研究の推進に関すること。
- (4) 地域産業界等に対する技術相談、講習会、セミナー等に関すること。
- (5) 社会人を対象としたリフレッシュ教育に関すること。
- (6) 小中高生を対象とした体験教育に関すること。
- (7) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(組織)

第 4 条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 各学科及び教養科から選出される教員（以下「センター員」という。） 各 1 人
- (4) その他必要な職員

2 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。

3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。

4 副センター長は、本校の教授又は助教授の中から校長が任命する。

5 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。

6 センター員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。

7 センター長、副センター長及びセンター員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第 5 条 センターの円滑な運営を図るため、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関すること。
- (2) センターの利用に関すること。
- (3) センターの将来計画に関すること。
- (4) その他センター長が必要と認める事項

3 委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター員
- (4) 事務部長
- (5) その他校長が指名する者 若干人

4 前項第 5 号の委員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

6 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

7 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第 6 条 センターに関する事務は、庶務課において処理する。

(細目)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な細目は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成15年3月12日から施行する。
- 2 沼津工業高等専門学校科学技術相談室運営委員会規則（平成3年10月16日制定）は、廃止する

（出典：本校規則集）

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0250 techno-center.htm>

< 機械実習工場 >

機械実習工場は、機械工作実習教育用として設立され、その他に卒業研究及び教員研究用実験装置の製作等にも対応し、全学科の学生を対象に機械工学の基礎教育用施設として機能している（資料2-1-3）。2棟の工場建物内に各種設備が設置され（資料2-1-4）、機械製法担当教員と専任技術職員が連携して教授内容を吟味し、全設備が学習内容に有機的に活用されている。また、技術の実習のみならず、安全教育についても配慮して教育している（資料2-1-5）。

資料2-1-3：実習工場時間割（平成17年度）

前期時間割

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月			M 3			M 3		
火					M 4			
水		E 3				M 1		
木					M 2			
金	C 5				卒研			

後期時間割

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月			M 3			M 3		
火		S 4				M 4		
水						M 1		
木					M 2			
金		D 2			卒研			

（出典：本校公式ウェブサイト）

<http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/jikan.html>

資料 2 1 4 : 実習工場内主要設備

CAD / CAMシステム一式 / DNCシステム一式 / CNC旋盤 1 / 立形マシニングセンター 1 / 横形マシニングセンター 1 / 精密ワイヤー放電加工機 1 / 自動フライス盤 1 / 汎用旋盤10 / タレット旋盤 1 / 精密高速旋盤 1 / 立てフライス盤 1 / 万能検フライス盤 1 / 倣いフライス盤 1 / 横中ぐり盤 1 / 平面研削盤 1 / 万能工具研削盤 1 / 万能円筒研削盤 1 / ホブ盤 1 / 形彫放電加工機 1 / 万能試験機 1 / 油圧プレス 1 / クランクプレス 1 / 剪断機 1 / 帯のこ盤 1 / 直立ボール盤 1 / 卓上ボール盤 3 / 電気溶接機 2 / TIG溶接機 1 / MIG溶接機 1 / 自動溶断 2 / 非鉄金属溶解炉 1 / 工具顕微鏡 1 / 測微機 1 / 万能投影機 1 / ハイトマスター 1 / 工作測定用工具一式

(出典 : 平成17年度学生便覧)

資料 2 1 5 : 実習安全教育

実習安全教育

一般心得

1. 正しい服装で自分の身なりをきちんと整えること。身なりが整えば自然に心も引き締まる。緊張した心で実習を行えば、技術の向上があるのみでなく、怪我をすることも無い。
2. 規律を重んずること。
3. 実習工場の発展は自己の幸せになることを知り、時間や品物を無駄にしないこと。
4. 油断は災害のもと、不注意は過失のもと、怠慢は失敗のもととなることを十分に心がけること。
5. お互いに礼儀を守り、他人をそしめることのないようにすること。
6. 材料や作品の上に乗ったり跨いだりしないこと。
7. 危険な個所を発見した時は直ちに注意し合うこと。
8. 工場内を走らないこと。
9. 配電盤等に触れないこと。
10. 長時間の実習によって疲れても、機械等にもたれたりしないこと。

11. 工場内では携帯電話等の電源を切っておくこと。

実習作業全般における注意事項

1. 機械類のベッド等をふき、注油個所には指定の油をさすこと。
2. 実習中無断で機械から離れぬこと。止むを得ず離れる場合には指示を受け、必ず機械を停止して離れること。
3. クラッチやギヤの掛け外しは停止してから行うこと。
4. 図面を良く読み、寸法及び注意事項を見誤らないようにすること。
5. 寸法を測る場合は、機械を止めること。
6. ワークをはずす前に切削屑等を払うこと。
7. ワークや工具の取り付けのゆるみやガタに注意すること。
8. 切り込みを入れたまま、或いは送りを掛けたまま、機械を止めないこと。
9. 使用法がのみ込めないものを適当に使用しないこと。
10. 機械の異常を認めたならば、直ちに申し出ること。
11. 実習中は、脇見や談話をしないこと。
12. テーブルやベッドの上に工具類を置かぬこと。
13. 工具類は常に整理整頓しておくこと。
14. 工具の取り扱いは丁寧にする事。
15. スパナ類、ゲージ、測定器をハンマ等の代わりとして使用しないこと。
16. スパナは必ずナットにあったものを用いること。

鍛造における注意事項

1. 加工中及び加工直後は、直接手で触れないこと。
2. 酸化物が飛散することがあるので注意する。
3. 箆は製品にあったものを使用すること。
4. 冷めた材料は打たないこと。
5. ハンマを振る時は、周囲を見渡してから行うこと。

鑄造作業における注意事項

1. 炉前にむやみに近づかないこと。
2. 湯つぎをした後はその口を覗かないこと。
3. 湯を運ぶ時はあらかじめ通路を決め、ならしておくこと。
4. 材料を取り出した時は火傷をする場合があるので手で触らないこと。

溶接作業における注意事項

1. むれた服装は厳禁。
2. 危険なガスを取り扱うため、使用に際しては十分注意を払うこと。
3. 実習中は指定された保護めがね及び手袋を使用すること。
4. 火花が飛ぶ場合があるので服装を整えること。
5. ボンベは指示なくして移動しないこと。
6. 吹管の吸い込み試験を必ず行い、異常を認めたならば、直ちに申し出ること。
7. 場所を長時間離れる場合はボンベの弁を閉めること。

プレス作業における注意事項

1. 機械を操作する時は、回りを確認すること。
2. 材料の取り付け取り外しは注意して行うこと。
3. 型の取り付け取り外しは慎重に行うこと。
4. 安全装置に触れないこと。

測定における注意事項

1. 測定器は丁寧に取り扱い、静かに置くこと。
2. 測定以外の目的に使用しないこと。
3. 測定範囲をこえて使用しないこと。

旋削加工における注意事項

1. チャックの爪の緩みを再度確認すること。
2. 切削中バイトに手を触れないこと。
3. 心押し台を使用しない時は、できるだけ、端の方に寄せてクランプしておくこと。
4. チャックの爪等がフラットより出ないようにすること。

5. 送りを掛けた時はハンドルに注意すること。

6. チャックハンドルは使用后，必ず外すこと。

7. 工具類をベッドの滑り面に置かないこと。

フライス削り加工における注意事項

1. テーブルの上に工具類を置かないこと。

2. テーブルの溝にある切り屑は常に取り除くこと。

3. テーブルの溝にあったT型ナットを使用すること。

4. 万力を使用する場合は，テーブル上面と万力の底面をきれいにすること。

5. 注油は指定の油を使用すること。

6. 切削中に送り及び回転を止めないこと。

7. 万力にワークを確実に固定すること。

8. ギヤ等の変速は機械を止めてから行うこと。

研削加工における注意事項

1. 材料の取り付けは確実にすること。

2. 砥石の破損，ワークの飛散を考え，加工中は砥石の回転方向には立たないこと。

3. 必要以上の切り込みを入れないこと。

4. ワークの取り付け取り外しは，砥石が停止していることを確認のうえ行うこと。

5. 加工終了後はしばらく，砥石を回転させておくこと。

穴あけ加工における注意事項

1. 小さな穴でもなるべく治具等を使用して行うこと。

2. 穴あけ加工中にワークが回されたならば，直ちにスイッチを切ること。

3. 薄物の穴あけは抜け際にワークが振り回されることが多いので注意すること。

NC機における注意事項

1. 機械稼働中は機械の扉を開けないこと。

2. プログラムチェックを行うこと。

3. 使用する工具を確認すること。

4. 加工前に空運転を行うこと。

5. むやみに操作盤に触れないこと。

CAD / CAMにおける注意事項

1. LOGINする場合、指定された名前を使用すること。

2. 図面等を出力する場合、出力先及び用紙を確認すること。

3. 指定されたドライブ以外に登録しないこと。

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/anzen.html>

<総合情報センター>

総合情報センターは、情報処理機器の活用能力を養うため、1年次より全学科の学生を対象にコンピュータを利用した情報処理教育を行っている(資料2 1 6)。また、2年次以降においては、各学科の専門科目に関連した情報処理教育が行われ、情報技術に強い技術者養成に中心的な役割を担っている。総合情報センターには、専任の教員、技術職員を擁しており、教育研究環境の維持、向上に努めている。なお、授業で使用している時以外の時間帯では、昼休みに第1(49台)、第2演習室(25台)の計算機はほぼ全て利用されていて、放課後の利用者も多い。また、授業開始前早朝の利用者も、第1演習室が満員になるほどである。このような状況を考慮して、正規には放課後17時15分までの利用時間であるところ、実際には教職員のいる限り学生に開放しており、正規利用時間の延長を検討している。

教育用の計算機は、ハードウェア、ソフトウェアの技術の進歩に対応できるように定期的に更新する必要があるため、平成17年度より計算機システムを、ディスプレイはCRT(ブラウン管)から液晶(17インチ)のものに変え、パソコン本体もスリムなタイプにしたため、机上が広がり教科書やノートを使用し易く、机の向きも前向きに変えることができ、対面授業となり、学生は講義を聴きやすく、講師は学生の反応を把握しやすい、スクールキャップという教師側から学生のコンピュータ画面をコントロールするソフトも導入し、教師用コンピュータの画面を投影するプロジェクタを100インチサイズの大画面に更新し、より一層教育効果を高めることを図った。

資料 2 1 6 : 総合情報センター時間割

平成17年度前期時間割

	月	火	水	木	金
1	情報処理基礎 C1	情報処理基礎 E1	情報処理基礎 S1	数値解析 M4	プログラミング E3
2					
3	アルゴリズム と データ構造 専攻科1	数値解析 S4	プログラミング 演習 M2	情報処理基礎 D1	
4					
5		電気電子工学 実験 E2	情報処理基礎 M1	電気電子工学 実験 E3	(文学特論 M4)
6		(文学特論 S4)			
7		電気電子工学 実験 E2			
8					
9			日本事情 留学生		
10					

(書きは不定期で利用されるもの)

(出典：平成16年度情報処理センター自己点検書)

< 地域共同テクノセンター >

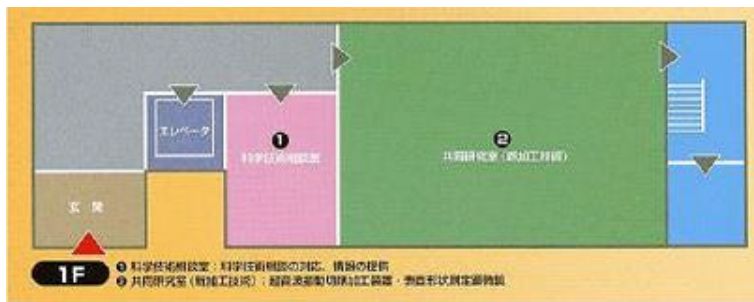
地域共同テクノセンターは、3つの研究室（新加工技術研究室、環境工学研究室、メカトロCAD/CAM・電子応用研究室）を中心に最新の設備と研究環境の中で、具体的な実験・試験・解析等を実施できるよう体制を整備し（資料2 1 7）、総合技術開発能力のある学生の育成、地域産業界等との共同研究、受託研究及び受託試験の推進並びに地域産業の振興に寄与している（資料2 1 8）。

資料2 1 7：地域共同テクノセンター概要

施設の概要

地域共同テクノセンター棟

1階 新加工技術研究室



主な設備

1. 超音波振動切削加工装置

（難削金属，CFRP・GFRP等の複合材料の経済的高精度加工技術の開発）

- ・立形マシニングセンター (株)「牧野フライス製作所製 V33
- ・超音波振動切削装置 エンドミル仕様 富士工業(株)製
周波数27kHz，出力300Wの超音波ねじり振動

2. 表面形状測定顕微鏡 (株)キーエンス VK8500

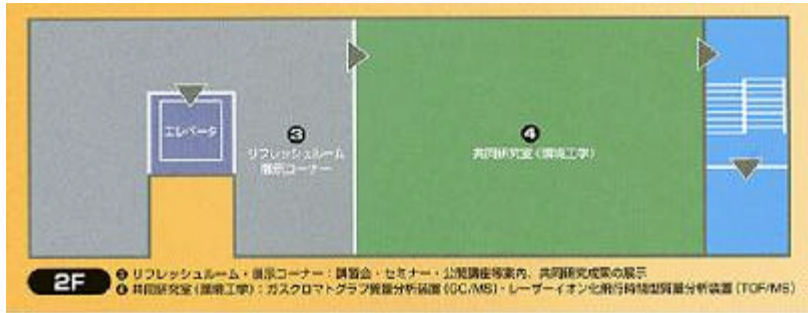
（顕微鏡をのぞく感覚で，nmレベルの世界をカラーで観察できる）

最小測定分解能：0.01μm，測定範囲：70×70×28mm

測定対象物：金属，樹脂，セラミックス，ガラス，カラートナー
食品・微生物，病理組織，高分子材料，薄膜

アプリケーション：プロファイル計測，粗さ計測，面粗さ計測，
表面積・体積計測，各種平面計測

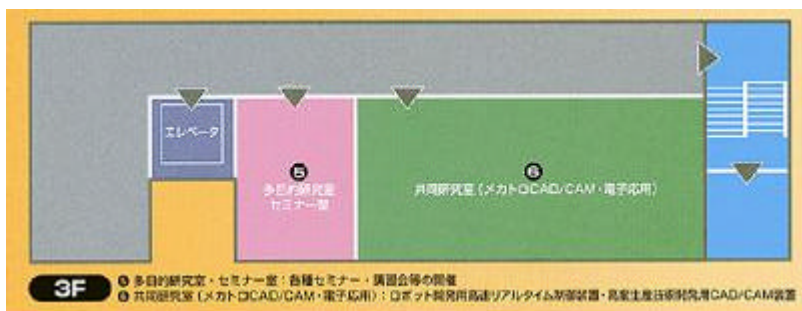
2階 環境工学研究室



主な設備

- ・ガスクロマトグラフ質量分析装置(GC/MS)
（低分子量の有機分子の高感度な検出，および構造解析）
環境分析，食品分析，薬剤の分析，石油化学製品の分析に有効
- ・レーザーイオン化飛行時間型質量分析装置(TOF/MS)
（タンパク質を含む高分子量有機化合物の構造解析）
微量な試料で高分解能の質量分析が可能
- ・その他 物質工学科 設置分析機器
クロマトグラフ（GC，LC，イオン），NMR，FT-IR，
蛍光分光光度計，紫外可視分光光度計
DNA シークエンサー，プロテインシークエンサー

3階 メカトロCAD/CAM・電子応用研究室



主な設備

- ・ロボット開発用リアルタイム制御装置
（メカトロ製品の試作段階における制御系の研究開発の短縮化をはかる）
精密モデルシミュレータ(MATLAB, Simulink 他)
開発用リアルタイム制御装置

制御系開発およびモニタ(Real Time Work Shop 他)
リアルタイム制御システム(DSP 開発システム)

・高度生産技術開発用 C A D / C A M 装置

(3次元立体の測定から加工まで生産技術開発と生産性の向上をはかる)

C A D ソフト (SolidWorks2003)

C A M ソフト (MasterCAM 9.1 MillLevel3)

3軸, 5軸ミールリング, 3軸NCシミュレーション, 旋盤, 放電加工用

非接触3次元測定器(MINOLTA Vivid910)

3次元立体のレーザ測定とモデル化, 検証

その他の校内設備

電気電子・物性関連

メカトロラボ 2 P C (各種回転機特性比較・組み立て等), パワトロラボ(各種電力用半導体素子の特性測定と応用), 波形デジタル(μs オーダの波形メモリー), アナライジングレコーダ(高調波分析機能あり), デジタルパワーメータ(3相), R F マグネトロンスパッタリング装置(200W), D C マグネトロンスパッタリング装置(200W), 真空蒸着装置, X線回折装置(粉末), 分光光度計(可視, 近赤外 180~2500nm), 回路基盤 C A M, 構造物振動解析装置, マルチチャンネルデータステーション, マルチパーパス FFT アナライザー, アコースティックエミッション(A E)計測装置, P L C, C P L D 開発キット一式, D S P 開発ツールキット, 小型風洞

機械・材料・加工関連

電子顕微鏡付き疲労試験機(2kN), 超高サイクル疲労試験機(5kN), 疲労試験機(98kN), 精密万能試験機(98kN), 万能試験機(490kN), C N C 平面研削盤, N C 立フライス盤, 超音波ねじり振動切削装置(施削用, 穴加工用), 卓上簡易計測・加工装置(Ro1andDG MDX-15), 液体ホーニング装置, プラストドレッシング装置, 油圧源ユニット(最大圧力20MPa, 最大流量90L/min), 水圧源ユニット(最大圧力14MPa, 最大流量30L/min), タービン流量計, 歯車型流量計, 騒音計測システム, 大判プリンタ(B0サイズ対応)

物質工学関連

蛍光X線分析装置, 原子吸光光度計, イオンクロマトグラフ, X線回折装置, フーリエ変換核磁気共鳴装置(FT-NMR), D N A シークエンサー, プロテインシークエンサー, 可視紫外分光光度計, フーリエ変換赤外分光装置(FT-IR), 蛍光分光光度計, ガスクロマトグラフ(GC), 高速液体クロマトグラフ(HPLC)

(出典: 本校公式ウェブサイト)

<http://techno.numazu-ct.ac.jp/gaiyou.html>

資料 2 1 8 共同研究・受託研究申請一覧表

通番	申請日付	研究題目	沼津高専の研究担当者	経費
1	H16 4.26	宇宙・航空機用複合材料の経済的高精度加工技術の開発	柳下 福蔵	1000千円
2	5.19	プラスチック成型の高効率・高精度加工	柳下 福蔵 藤尾三紀夫 佐竹 利文 鈴木 茂樹	420千円
3	5.21	電波の反射を利用した、舗装路面の状態検知技術の開発	清谷 進 加藤 繁 真鍋 保彦	500千円
4	5.27	検査治具のCADによる自動設計及び加工NCデータ変換	藤尾三紀夫	800千円
5	5.26	抗原の特異的エピトープに対する抗体の作成	蓮實 文彦	500千円
6	5.26	酵素センサーを用いた難培養性病原微生物検出法の開発	蓮實 文彦	500千円
7	5.26	大腸癌モニター用物質とその測定キットの開発に関する研究	蓮實 文彦	500千円
8	7.20	T I ボード無線ロボットシステムの開発	澤 洋一郎	500千円
9	7.29	カルシウム清涼飲料水賞味期限	蓮實 文彦	100千円

通番	申請日付	研究題目	沼津高専の研究担当者	経費
10	7.7	「マイクロガスセンサ」の検出機構および使用触媒に関する改善並びに技術確立に関する共同研究開発	蓮實 文彦 望月 孔二 竹口 昌之	1年につき 100千円
11	9.15	損失電流測定による木トリー劣化ケーブルの診断法の開発研究	遠山 和之	1000千円
12	12.13	プレス金型表面処理	永禮 哲夫 新富 勲仁	200千円
13	12.8	低コスト・高信頼性分散クラスターサーバの開発	佐竹 利文 鈴木 茂樹	100千円
14	12.20	エポキシハイドロラーゼ生産菌の探索	竹口 昌之	500千円
15	7.29	馬鈴薯澱粉工場における産業廃棄物の有効利用について	蓮實 文彦	500千円
16	7.15	電力ケーブル絶縁体部分の劣化診断技術に関する共同研究	遠山 和之	500千円
17	H17 2.23	業務アルコール測定機器の性能評価	竹口 昌之	500千円

平成16年度の受託研究実績

通番	申請日付	研究題目	沼津高専の研究担当者	経費
1	H16 6.23	ペーパーラジック由来セルローズに特異的な熱安定セルラゼを用いたペーパーラジックの資源化	鎌実 文彦	1500千円
2	9.1	無線テレメトリ受信データの収録及びインターネットによるユーザ配送システムの研究	長澤 正氏	250千円

通番	申請日付	研究題目	沼津高専の研究担当者	経費
3	7.1	新規大腸がんマーカーの探索とそれを用いた診断薬の開発	蓮實 文彦 芳野 哲士 竹口 昌之 葦科 知之	4000千円
4	12.24	茅野市駒形遺跡の研究	望月 明彦	5,024,250円
5	12.1	転印防止シールの性能評価	藤 萬治	200千円

平成16年度の科学技術相談実績

番号	日付	相談内容	対応者	学 科
1	H16 4.7	マイクロ波の発振・受信方式、反射特性	清原 進	電気電子
2	4.9	複合はりにおける3層接着シートの応力分散効果の解析	小林 隆志	機 械
3	4.21	電池封じ用コンパウンドの成分と特性及び製法	小林 美学	物 質
4	4.23	SGベースの理論解析について	柳下 福蔵	制御情報
5	5.14	赤外線放射率可変素子について	柳下 福蔵	制御情報
6	5.18	共同研究の打ち合わせ	遠山 和之	電子制御
7	5.24	カーボンコンポジット製風力発電設備の開発	柳下 福蔵	制御情報
8	6.2	茶殻の有効利用方法	後藤 孝昭	物 質
9	6.4	バイオ式生ゴミ処理機におけるバイオの働き	鎌実 文彦	物 質
10	6.18	道路のアスファルト舗装面切断用工具の開発	柳下 福蔵	制御情報
11	6.21	緑茶中のカテキン類と没食子酸の抗酸化能の比較	芳野 哲士	物 質
12	6.22	CFRP-GFRPの経済的高精度加工技術の開発	柳下 福蔵	制御情報
13	6.28	CFRP部品の利用拡大について	柳下 福蔵	制御情報
14	6.30	実験器具の地震による振動防止に関するデータ採取	藤 萬治	電子制御
15	7.5	清涼飲料水の保存期限	鎌実 文彦	物 質
16	7.24	共同研究の可能性に関する打ち合わせ	柳下 福蔵 藤尾三紀夫	制御情報
17	7.25	アクチュエータシステム	柳下 福蔵	制御情報

番号	日付	相談内容	対応者	学 科
18	8.4	共同研究打ち合わせ	柳下 福蔵 藤尾三紀夫	制御情報
19	8.10	ものづくり支援ネットワーク事業委員の依頼	柳下 福蔵	制御情報
20	8.10	レイニーの精密加工について	柳下 福蔵	制御情報
21	9.22	携帯電話を活用した非常時警報システムの開発	柳下 福蔵 鈴木 茂樹	制御情報
22	9.29	ペルチェ素子を用いた温冷湿有装置の開発基本調査	望月 孔二	電気電子
23	10.7	表面張力についての考察	藤山 智男	教 養
24	10.19	液晶ディスプレイ昇降装置	小林 隆志	機 械
25	11.4	封緘用糊のリサイクル向け材質改良	押田 達夫	物 質
26	11.18	銅パイプのプレス成形	柳下 福蔵	制御情報
27	11.22	物体の振動エネルギー	三谷祐一朗 村松 久巳	機 械
28	11.26	電場処理	柳下 福蔵	制御情報
29	12.7	温間（熱間）鍛造装置の開発	柳下 福蔵	制御情報
30	H17 1.5	海洋微生物を応用した植物活性成分の肥料登録上の問題点	鎌実 文彦	物 質
31	1.5	開発中の有機肥料の問題点	鎌実 文彦	物 質
32	1.27	日本月形状の非接触測定及び3次元CADデータ化	藤尾三紀夫	制御情報
33	2.1	ガスバーナー火口の精密な形状測定	藤尾三紀夫	制御情報
34	2.3	材料（FC200）及び加工応力割れ原因	山本 治利	コデクター

（出典：地域共同テクノセンターニュース 創刊号）

(分析結果とその根拠理由)優れている。全学で共通的に利用する機械実習工場，総合情報センター及び地域共同テクノセンターに求められる教育支援サービスは，設置目的どおり機能しているばかりでなく，設備の充実を図り多様な要求に応えられるよう工夫しており，利用状況も充実している。

観点 2 - 2 - 1 : 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)教育課程全体を検討する組織として教務委員会を設置し(資料 2 - 2 - 1)，本校の教務に関する重要事項を審議している。委員の構成としては，副校長(教務主事)を委員長とし，教養科長を含めた各学科長，専攻科長，図書館長，教務主事補，学生課長で構成され，教育課程の編成等に関する企画・調整を行っている(資料 2 - 2 - 2)。

各学科等においては，定期的に学科会議等を開催し，教育指導上の課題・情報等を報告・検討し，全校的な検討が必要な場合には，教務委員会あるいはその下部組織である教務主事補会議(教務主事と教養科及び各学科の教務主事補で構成)で審議・検討することとなっている(資料 2 - 2 - 3)。専攻科においては，企画運営委員会を中心にカリキュラムの検討が行われている(資料 2 - 2 - 4)。

また，教育課程の全般の見直しについては，教員会議等の審議を経て，校長を委員長とする総務委員会が行うこととなっている。

資料 2 - 2 - 1 : 教務委員会規則

沼津工業高等専門学校教務委員会規則

(昭和 49.4.1 制定)

最終改正 平成 17.4.13

第 1 条 沼津工業高等専門学校の教務に関する重要な事項を審議するため，教務委員会(以下「委員会」という。)をおく。

(組織)

第 2 条 委員会は，次の委員をもって組織する。

- (1)副校長(教務主事)
- (2)教務主事補
- (3)学科長，教養科長及び専攻科長
- (4)図書館長
- (5)本校教員で校長が任命した者

(審議事項)

第 3 条 委員会は，校長の諮問に応じ，次の事項を審議する。

- (1)教育課程及び授業時間割の編成に関すること。
- (2)学校行事に関すること。
- (3)学生の教科履修に関すること
- (4)入学，退学，編入及び転科等に関すること。
- (5)指導要録等教務記録に関すること。
- (6)その他教務に関し必要と認められること。

(委員の任期)

第4条 委員は、校長が任命し、その任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

2 補欠により選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会の委員長は、副校長(教務主事)とする。

2 委員長に事故あるときは、教務主事補がその職務を代行する。

(委員会の開催)

第6条 委員長は、必要と認めるとき委員会を開催し、その議長となる。

(小委員会)

第7条 委員長が必要と認めるときは、適時に小委員会をおき、委員長から委嘱された者は、指定された事項について調査及び研究し、委員会に報告するものとする。

(委員以外の者の委員会への出席)

第8条 委員長が必要と認めるときは、その都度委員以外の者に委員会への出席が求め、その意見をきくことができる。

(校長への報告)

第9条 委員長は、委員会で審議された事項を、校長に報告するものとする。

(幹事)

第10条 委員会に幹事をおき、会務を整理する。

2 幹事は、学生課長をもってあてる。

(委員会の事務)

第11条 委員会の事務は、学生課教務係において処理する。

(雑則)

第12条 この規則の実施について、この規則の規定によりがたいときは、委員会の審議を経て、委員長が定めるものとする。

附 則

この規則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月14日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成17年4月13日から施行し、同年4月1日から適用する。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0060_kyoumu-iinkai.htm

資料 2 2 2 : 教務委員会開催案内

平成17年 5 月 2 3 日

教務委員会委員 各位

副校長（教務主事）

第 1 回教務委員会の開催について

標記のことについて下記のとおり開催いたしますので出席願います。

なお、欠席される場合はあらかじめ教務係まで連絡願います。

記

日 時： 平成17年 6 月 3 日（金） 1 4 : 0 0 ~

場 所： 学生課小会議室（共通棟 1 F）

- 議 題：
- 1 . 再評価について
 - 2 . 公休の認定について
 - 3 . 技能審査の合格における単位修得の認定について
 - 4 . 平成 1 6 年度の成績訂正について
 - 5 . その他

（出典：平成17年度第 1 回教務委員会開催案内メール）

資料 2 2 3 : 教務委員会・教務主事補会議の実績

平成 16 年度議事録

1. 第 1 回教務主事補会議議事録 [TXI](#) 教務委員のみアクセス可 2004.6.3 掲載
2. 第 1 回教務委員会議事録 [TXI](#) 教務委員のみアクセス可 2004.6.25 掲載
3. 第 2 回教務主事補会議議事録 [TXI](#) 教務委員のみアクセス可 2004.9.16 更新
4. 第 3 回教務主事補会議議事録 [TXI](#) 教務委員のみアクセス可 2004.9.6 掲載
5. 第 2 回教務委員会議事録 [TXI](#) 教務委員のみアクセス可 2004.9.24 掲載
6. 第 4 回教務主事補会議議事録 [TXI](#) 教務委員のみアクセス可 2005.3.14 掲載

7. 第 5 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004.12.9 掲載
8. 第 6 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004.11.17 掲載
9. 第 7 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004.11.22 掲載
10. 第 3 回教務委員会議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004.12.8 掲載
11. 第 8 回教務主事補会議議事録 [doc](#) 教務委員のみアクセス可 2005.1.7 掲載
12. 第 9 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2005.1.26 掲載
13. 第 4 回教務委員会議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2005.2.14 掲載
14. 第 5 回教務委員会議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2005.3.14 掲載

(出典：学内限定ウェブサイト)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/kyoumuin/index.htm>

資料 2 - 2 - - 4 : 専攻科担当教員会議規則 (抜粋)

沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則

(平成 15.6.11 制定)

最終改正 平成 16.4.14

(企画・運営委員会)

第 6 条 会議の円滑な運営を図るため、企画・運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、専攻科長及び第 3 条第 2 号の構成員のうちから専攻科長が指名する者をもって組織する。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0130_senkouka-kyoukankaigi.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応である。教育課程等教務に関する重要な事項は、教務委員会が中心となって企画・調整しており、十分機能している。

観点 2 - 2 - : 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点到に係る状況) 各学科とも 1・2 年生の担任には教養科の教員を充てており(資料 2 - 2

1), 定期試験の後などの学科会議には 1・2 年生の担任も出席し、成績を含めた生活全般について意見交換を行い、学生指導に教養科と各専門学科の教員が連携して当たっている。一般科目を担当する教養科と専門科目を担当する各専門学科は、教務委員会あるいは教務主事補会議において情報交換及び意見交換を行っており、その内容はそれぞれの学科等会議において全教員に周知されている。また、全校的な重要課題については、全教員が参加する教員会議において報告・討議が行われ、周知徹底されている。尚、応用数学・応用物理の定員を教養科に取り込み数学・物理の教育の一貫性が損なわれないよう配慮している。

資料 2 - 2 - - 1 : 教養科教員一覧表

教 養 科

教 員

職名	学位	氏名	主要な担当教科目 (専門分野)	校務分担
教授	文学修士	勝呂 讓	英語 (英語教育)	
教授	文学修士	山岸 文明	英語 (英語教授法・英文学)	教養科長, サブネット総括責任者
教授	工学博士	浦崎 巖	化学 国際教養 (物理有機化学)	
教授	文学修士	野澤 正信	哲学 東洋思想史 国際教養 (イント哲学)	校長補佐 (学生主事)
教授	教育学修士	谷 次雄	数学 (トポロジー)	図書館長, サブネット総括責任者, 教育後援会連絡担当
教授	博士 (理学)	勝山 智男	応用物理・工業力学 (統計物理学 (実験))・国際教養	学生主事補, 学生会顧問
教授	文学修士	大久保 清美	ドイツ語 A・ドイツ語 B 地球環境学概論 (ドイツ地域文化研究)	校長補佐 (寮務主事)
教授	博士 (理学)	相原 義弘	数学・応用数学 (複素解析 及び 複素幾何)	D1 担任
教授	文学修士	坂本 信男	国語 文学特論 (後期古代語 後期古代文学)	S1 担任
教授	工学修士	西垣 誠一	数学 (実関数論)・応用数学	教務主事補
教授	理学修士	遠藤 良樹	数学・応用数学 国際教養 (幾何学的測度論)	寮務主事補, 後期寮監代行, サブ ネット管理者
助教授	理学修士	待田 芳徳	数学・応用数学 (幾何学 数学物理)	
助教授	博士 (学術)	大石 加奈子	国語 文学特論 国際教養 (テキスト分析・コミュニケーション科学)	C2 担任
助教授	教育学修士	塩谷 三徳	英語 (英語教授法)	学生主事補, 学生会顧問, E2 担任
助教授	体育学修士	佐藤 誠	体育 (スポーツ運動学 体操競技)	D2 担任
助教授		渡邊 志保美	体育 (運動生理学 体育実技)	M1 担任
助教授	博士 (理学)	住吉 光介	物理 (宇宙核物理学) 国際教養	専攻科企画運営委員, C1 担任
助教授	博士 (理学)	鈴木 克彦	応用物理 物理実験 (ハドロン物理)	学生主事補, S2 担任
助教授	修士 (理学)	佐藤 志保	数学 (微分幾何学)	学生主事補, E1 担任
助教授	修士 (教育学)	村上 真理	英語 (英語教授法)	寮務主事補, M2 担任
講師		水口 好美	数学 (オペレーションズ・リサーチ)	寮監
講師	修士 (文学)	佐藤 崇徳	地理 政治経済 (地理学 地理情報システム)	サブネット管理者
講師	修士 (文学)	平田 陽一郎	歴史 (中国史) 歴史特論	寮務主事補, 後期寮監代行

講師	修士 (文学)	藤井 数馬	英語 (英語学)	寮務主事補
講師	博士 (理学)	松澤 寛	数学 (偏微分方程式論) 応用数学	寮務主事補

(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_G.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応である。教務委員会あるいは教務主事補会議における情報交換・課題審議等は有効に機能しており、教養科と各専門学科の連携は、学校の教育目的を実現する上で必要な連携が執られている。

観点 2 - 2 - : 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況) 本校では、5 学科 5 学年の計 25 学級すべてに学級担任教員を配置し、担任は学級日誌などを通して学生一人一人の学習状況を把握するよう努めており、科目担当教員等と連携しつつ教育活動の一層の円滑化を図っている(資料 2 2 1 及び 2)。その学級担任の教育活動を支援するものとして担任マニュアルを作成している(資料 2 2 3)。また、各学年の学級担任の中に代表を置くことにより、各学年の中で横のつながりを持ち意見交換のできる場を設けている。更に、担任の学生指導の支援として学生生活支援室(資料 2 2 4)の果たしている役割も大きく、殊に学生の精神面での問題等学級担任のみの知識では及ばないようなことに関して、相談等により非常勤のカウンセラーがその支援に当たっている。また、課外活動においても、学生会及び各クラブに複数の顧問教員を配置し、分担して指導に当たる体制となっている(資料 2 2 5)。成績の取りまとめ、定期試験時間割の作成、あるいは課外活動に関する支援等、学生課の支援体制が教員の教育活動を支えている(資料 2 2 6)。

資料 2 2 1 : 各種委員会名簿

平成 17 年度 各種委員会委員名簿

平成 17 年 4 月 1 日 現在

総務委員会	濱屋 進 大島 茂 柳下 福藏	野澤 正信 蓮實 文彦 事務部長	大久保清美 山岸 文明 ◇庶務課長	大賀 喬一 森井 宜治 ◇会計課長	江間 敏 谷 次雄 ◇学生課長	舟田 敏雄 高橋 儀男 (事務)庶務係	
学級担任	1 機械工学科 渡邊 志保美	電気電子工学科 佐藤 志保	電子制御工学科 相原 義弘	制御情報工学科 坂本 信男	物質工学科 住吉 光介	学年代表 坂本 信男	
	2 村上 真理	塩谷 三徳	佐藤 誠	鈴木 克彦	大石加奈子	佐藤 誠	
	3 井上 聡	加藤 繁	大原 順一	鈴木 茂樹	竹口 昌之	加藤 繁	
	4 三谷祐一朗	高野 明夫	鄭 萬溶	長谷 賢治	後藤 孝信	長谷 賢治	
	5 村松 久巳	望月 孔二	長澤 正氏	吉野龍太郎	小林 美学	吉野龍太郎	
教務委員会	○濱屋 進 西垣 誠一 山岸 文明	西田 友久 大賀 喬一 森井 宜治	西村 賢治 江間 敏 谷 次雄	川上 誠 舟田 敏雄 ◇学生課長	長谷 賢治 大島 茂 (事務)	望月 明彦 蓮實 文彦 教務係	
自己点検・評価委員会	○久賀 重雄 舟田 敏雄	濱屋 進 大島 茂	野澤 正信 蓮實 文彦	大賀 喬一 山岸 文明	森井 宜治 (事務)	江間 敏 事務部長 専門員(企画調整)	
厚生補導委員会	○野澤 正信 大原 順一 佐藤 志保	大久保清美 鈴木 康人 ◇学生課長	宮内 太積 柳川 達夫	新富 雅仁 勝山 智男	加藤 繁 塩谷 三徳 (事務)	遠山 和之 鈴木 克彦 学生係	
寮務運営委員会	○大久保清美 事務部長	濱屋 進 ◇学生課長	野澤 正信	大澤 和夫	遠藤 良樹 (事務)	水口 好美 寮務係	
寮務委員会	○大久保清美 江上 親宏 村上 真理 佐藤 誠	濱屋 進 大澤 和夫 平田陽一郎 加藤 繁	野澤 正信 大久保進也 藤井 数馬 長谷 賢治	永禮 哲生 渡辺 敦雄 松澤 寛 吉野龍太郎	嶋 直樹 菓科 知之 水口 好美 ◇学生課長(事務)	大庭 勝久 良樹 信男 寮務係	
図書室運営委員会	○谷 次雄 佐藤 志保	黒下 清志 大石加奈子	望月 孔二 庶務課長	澤 洋一郎	鈴木 康人 (事務)	菓科 知之 図書係	
総合情報センター運営会議	○濱屋 進 舟田 敏雄 柳下 福藏	高橋 儀男 大島 茂 事務部長	野澤 正信 蓮實 文彦	大久保清美 山岸 文明	大賀 喬一 森井 宜治 (事務)	江間 敏 谷 次雄 専門員(事務情報担当)	
総合情報センター委員会	○高橋 儀男 菓科 知之	嶋 直樹 住吉 光介	加藤 賢一 庶務課長	三谷祐一朗 青田 広史	澤 洋一郎 新吾 松尾 純一 (事務)	佐竹 利文 松尾 純一 専門員(事務情報担当)	
尚友会館運営委員会	○野澤 正信 学生課長	濱屋 進 ◇学生係	大久保清美	事務部長	庶務課長	会計課長 学生係	
就職委員会	○久賀 重雄 蓮實 文彦 小林 美学	野澤 正信 山岸 文明 事務部長	大賀 喬一 村松 久巳 学生課長	江間 敏 望月 孔二	舟田 敏雄 長澤 正氏 (事務)	大島 茂 吉野龍太郎 学生係	
学生生活支援室	○浦崎 巖 学生課長	三谷祐一朗 松本 諦子	佐竹 利文	加藤美知代	渡邊志保美 (事務)	八十川 徹 学生係	
広報委員会	高専だより	○坂本 信男 大石加奈子	黒下 清志 事務部長	西村 賢治 庶務課長	鄭 萬溶 学生課長	吉野龍太郎 (事務)	瀬尾 邦昭 庶務係
	学校要覧	○望月 明彦 事務部長	西田 友久 庶務課長	西村 賢治 学生課長	大原 順一	柳下 福藏 (事務)	西垣 誠一 庶務係
研究報告委員会	○谷 次雄 山岸 文明	大賀 喬一	江間 敏	舟田 敏雄	大島 茂	蓮實 文彦	
地域共同テクノセンター運営委員会	○柳下 福藏 柳川 達夫	蓮實 文彦 勝山 智男	村松 久巳 事務部長	高野 明夫	澤 洋一郎 (事務)	藤尾三紀夫 専門員(企画調整)	
国際交流委員会	○久賀 重雄 舟田 敏雄 会計課長	濱屋 進 大島 茂 学生課長	野澤 正信 蓮實 文彦	大久保清美 山岸 文明	大賀 喬一 事務部長 (事務)	江間 敏 庶務課長 専門員(学務担当)	
国際交流委員会 外国人留学生部会	○濱屋 進 大島 順一 水口 好美	野澤 正信 蓮實 文彦 鄭 萬溶 村上 真理	大久保清美 山岸 文明 長谷 賢治	大賀 喬一 柳田 武彦 鈴木 茂樹 (事務)	江間 敏 永禮 哲生 後藤 孝信 (事務)	舟田 敏雄 高野 明夫 新富 雅仁 専門員(学務担当)	
外国人留学生指導教員	柳田 武彦 長谷 賢治	永禮 哲生 鈴木 茂樹	高野 明夫 後藤 孝信	舟田 敏雄	大原 順一	鄭 萬溶	
動物実験委員会	○芳野 恭士 雨宮 博	後藤 孝信 鈴木 猛	蓮實 文彦	浦崎 巖	小林 美学 (事務)	庶務課長 庶務係	
組換えDNA安全委員会	蓮實 文彦	加藤美知代	竹口 昌之	庶務課長	雨宮 博 (事務)	庶務係	
環境保全委員会	○野澤 正信 蓮實 文彦	大久保清美 山岸 文明	大賀 喬一 森井 宜治	江間 敏 谷 次雄	舟田 敏雄 事務部長 (事務)	大島 茂 会計課長 用度係	
毒劇物管理委員会	○蓮實 文彦 森井 宜治	大賀 喬一 事務部長	平林 紘治 会計課長	舟田 敏雄	大島 茂 (事務)	浦崎 巖 用度係	
安全衛生委員会	○濱屋 進 杉山 賢一	大賀 喬一	渡辺 敦雄	三輪 史朗 (事務)	室伏 啓二 人事係	松本 諦子 施設係	
スペース・コラボレーション・システム事業委員会	○濱屋 進 蓮實 文彦	西田 友久 西垣 誠一	西村 賢治 学生課長	舟田 敏雄	川上 誠 (事務)	大澤 和夫 教務係	

○印は委員長等、◇印は幹事を示す。

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://jimbu.numazu-ct.ac.jp/meibotou.htm>

資料 2 2 2 : 学級日誌様式

学級担任 教官印		月 日 曜日	天 候	当番 氏名
授業科目名	教官名	学習内容の要点	遅刻者氏名	欠課者氏名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教室 清掃 当番	No.	清掃 状況	本日の反省と所感	
	～ No.			

(出典 : 学生課教務係)

資料 2 2 3 : 学級担任のための手引書表紙

学級担任のための リファレンスマニュアル

目次

まえがき	0
学級担任諸規定	1
I 学級運営について	
1 学級委員について	2
2 週番について	2
3 「学生身上調書」について	2
4 特別活動について	2
5 学校行事について	2
6 「学生指導要録」について	2
7 その他	2
II 学級員の指導について	
1 教務面	2
2 厚生補導面	2
3 寮務面	2
4 事務面	2
~ ~ ~ ~ ~	
教務規則索引	5
学生便覧索引	8
学生指導要録取扱要領	11
〃別紙1 (記入様式)	13
〃別紙2 (行動及び性格の記録の観点)	14
〃別紙3 (記入文例)	16
〃関連情報	

まえがき

高等教育機関としての高専教育の特色の一つに学級並びに学級担任制度がある。

初中等教育の小・中・高の3学校には、生徒に対する従来の学級担任制が確立されている。大学・短大には、これに類似の制度がある所もあれば、ない所もあり、あっても有名無実の所もあるように聞く。

定員40名に編成された学級をあらかじめ、5年間の一貫教育に、3年間の正課内特別活動に、校長と学生の懸け橋として、集団教育の実施者として、クラス員のチームワーク、学校内・学校外の生活指導、予習復習の指導に、学生の人間形成の大半を握っているのが学級担任である。

本マニュアルは、「学級担任に関する内規」が制定された時期に版した第一版を、その後の規則等改定に合せ内容を加除訂正しOn_line対応に改定したものである。学級担任としての留意点をあげるとともに、諸規則閲覧時の便を目的とした索引を併載し、新任教官あるいは初めて学級担任となった教官の参考に供する。

● [Return to Site Home page](#)

● [Go to NCT Home page](#)

http://202.236.218.194/nctfaculty/facul_mans/tanninman/body.htm

(出典 : 学級担任のためのリファレンスマニュアル (冊子))

資料 2 2 4 : 学生生活支援室規則

沼津工業高等専門学校学生生活支援室規則

(平成 15.11.12 制定)

最終改正 平成 17.3.9

(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、学生生活支援室(以下「支援室」という。)を置く。

(業務)

第 2 条 支援室は、次に掲げる業務を行う。

(1) 学習, 進路, 対人関係, 精神衛生上の問題等, 本校学生個人が抱えている問題に対する相談及び援助に関すること。

(2) その他学生の生活支援に必要な資料の収集, 作成, 提供等に関すること。

(組織及び任期)

第 3 条 支援室は、次に掲げる支援室員で組織する。

(1) 室長

(2) カウンセラー

(3) 教員 若干名

(4) 学生課長

(5) 看護師

2 前項第 1 号及び第 3 号に掲げる者は、副校長(教務主事), 校長補佐(学生主事), 校長補佐(寮務主事), 各学科長, 教養科長及び専攻科長以外の教員のうちから校長が任命する。

3 第 1 項第 1 号及び第 3 号に掲げる者の任期は、1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(任務)

第 4 条 室長は、支援室の業務を統括する。

2 室長以外の支援室員は、室長の命を受け、支援室の業務に従事する。

(報告及び協力)

第 5 条 室長は、必要に応じて運営状況を校長に報告する。

2 支援室員は、必要に応じて関係教職員に協力を求めることができる。

3 支援室員以外の教職員が、支援室における相談若しくは援助等が必要と思われる学生を認めるときは、支援室に連絡するものとする。

(秘密の保持)

第 6 条 支援室員及び前条第 3 項により支援室に連絡した教職員は、業務を処理する上で知り得た個人の秘密を他に漏らしてはならない。

(事務)

第 7 条 支援室の事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、支援室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 14 日から施行し、同年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0941_gakuseisiensitu.htm

資料 2 2 5 : クラブ・同好会顧問一覧表

平成 17 年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧 問 教 員 名				
陸上競技部	渡邊志保美	大久保清美	牛丸 真司	野澤 正信		
ソフトテニス部	塩谷 三徳	佐藤 崇徳	住吉 光介			
バレーボール部	高野 明夫	加藤 繁				
バスケットボール部	遠山 和之	西村 賢治				
野 球 部	大久保進也	鈴木 克彦	勝山 智男	藁科 知之	渡辺 敦雄	藤井 数馬
卓 球 部	高橋 儀男	勝呂 譲				
柔 道 部	西垣 誠一	吉野龍太郎	松澤 寛			
剣 道 部	遠藤 良樹	谷 次雄	佐藤 志保			
サ ッ カ ー 部	平田陽一郎	押川 達夫	永禮 哲生	大石加奈子	江上 親宏	
ラ グ ビ ー 部	井上 聡	黒下 清志	鄭 萬溶	小林 隆志		
体 操 部	佐藤 誠	浦崎 巖	江間 敏			
水 泳 部	小林 美学	山岸 文明	相原 義弘	新富 雅仁		
合 気 道 部	長谷 賢治					
テ ニ ス 部	竹口 昌之	川上 誠	西田 友久	若松 勝寿		
ス キ ー 部	嶋 直樹	川上 誠	大原 順一			
ハンドボール部	望月 孔二	大島 茂	西田 友久			
弓 道 部	芳野 恭士	大賀 喬一	柳田 武彦			
空 手 部	宮内 太積	柳田 武彦	後藤 孝信			
バドミントン部	加藤 賢一	押川 達夫	坂本 信男			
トライアスロン部	三谷祐一朗					
写 真 部	後藤 孝信					
吹 奏 楽 部	鈴木 茂樹	蓮実 文彦				
美 術 部	長澤 正氏	望月 明彦				
囲 碁 将 棋 部	浜渦 允紘					
茶 道 部	村上 真理	加藤美知代				
ゴルフ同好会	岩谷 隆史	黒下 清志				
オリエンテーリング同好会	休部中					
女子バレーボール同好会	大庭 勝久	加藤美知代	長澤 正氏			
女子バスケットボール同好会	佐竹 利文					
フットサル同好会	藤尾三紀夫					
ソフトボール同好会	嶋 直樹					
E S S 同 好 会						
合 唱 同 好 会	佐藤 志保	浦崎 巖				
天 文 同 好 会	嶋 直樹	瀬尾 邦昭	勝山 智男			
軽 音 楽 同 好 会	佐藤 志保					
機 械 工 学 同 好 会	村松 久巳					
環 境 問 題 研 究 会	西村 賢治					
ソフトウェア創作同好会						
映 画 製 作 同 好 会						
ロ ボ コ ン 同 好 会	吉野龍太郎	望月 孔二	柳田 武彦			
学 生 会	勝山 智男	大原 順一	塩谷 三徳			

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/meibotou.htm>

資料 2 2 6 : 学生課内役割分担

学生課

学務室担当事務

[専門員 (学務担当) (内線 5732 / gakum-ss@numazu-ct.ac.jp)

入学者選抜
 学生の修学指導
 教育課程の編成・実施
 学籍
 外国人留学生の受入, 学生の派遣

[教務係] (内線 5733 / kyoumu@numazu-ct.ac.jp)

入学者選抜
 教育課程
 授業及び休業
 校外実習・見学
 試験
 成績の評価, 進級, 卒業, 留年等
 学級担任
 学生及び卒業生の学籍並びに成績等諸証明
 教科書及び教材, 教具
 学生の課外教養行事
 授業料

学生係担当事務 (内線 5734 / gakusei@numazu-ct.ac.jp)

課外活動
 学生生活
 厚生補導
 福利厚生
 奨学金
 就職関係
 保健衛生
 学割証, 通学証明書発行
 授業料免除
 下宿・アルバイト紹介
 学生相談

寮務係担当事務 (内線 5736 / ryoumu@numazu-ct.ac.jp)

学寮の維持保全, 防災警備
 入退寮
 寮生の食事
 在寮証明
 寮費
 寮生宛て小荷物等の受領

(出典: 本校公式ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/office/bunsiyou.htm>

(分析結果とその根拠理由) 優れている点もあるが, 改善の余地もある。学級担任教員は, 本校における教育活動を学生個人単位で捉え, 支援している。その学級担任の教育活動を支援するものとして学級担任マニュアルは有用なものであり, 学生指導を各学級担任の思いつくところのみ任せず, 共通して行わなければならないことなどを遺漏なくまとめたものとして大変意義のあるものである。ただし, 平成9年度以降見直しが行われておらず, 一部に現状とそぐわない点が見られ, 早急な見直しが必要とされる。また, 優れた点の一つとして, 学生生活支援室, 殊にカウンセラーの専門的立場からのアドバイスが学級担任の学生指導の手助けとして有効に働いている点が挙げられる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 学級担任マニュアルを早い時期から明文化しており、学級担任の経験が浅い教員にあっても学生指導がある程度遺漏なく行えるようにしてきたこと、及び学級担任同士の共通認識が保証されてきたことは、優れている。また、カウンセラーの専門的立場からのアドバイスを受けることができる点も学級担任の学生指導を支援している優れた点である。

(改善を要する点) 優れた点でもある学級担任マニュアルの明文化であったが、平成9年度以降見直しが行われておらず、文言等も含めて一部現状とそぐわない点が出てきてしまっているため、見直しが必要である。

(3) 基準2の自己評価の概要

本校は、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科の5学科からなり、これを各科共通の基礎教育を担当する教養科が支え、本校の目的である「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を念頭に、工業高等専門学校として適切な学科構成をなしている。また、5年間の準学士課程の上に、更に2年間の学士課程としての専攻科があり、機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻の3専攻からなっている。これら3専攻が単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学」を構成していて、その要件を定めて教育目標を達成するためのカリキュラム作成の指針としている。

本校には、これらの教育を補助・補完する全学的な施設として、機械実習工場・総合情報センター・地域共同テクノセンターが設置されている。機械実習工場は、全学科の学生を対象に機械工学の基礎教育用施設として機能しており、総合情報センターは、情報処理機器の活用能力を養う情報処理教育を行う場でもあるが、昼休みや放課後等の授業で使用されていない時間帯には、学生の自学自習の場としても活用されている。また、地域共同テクノセンターは、最新の設備と研究環境の中で、総合開発能力のある学生の育成とともに、地域産業界等との共同研究・受託研究等を推進し、地域産業の振興にも寄与している。

これら教育課程全体を企画調整するための組織として、教務委員会が設置されており、教務に関する重要事項が審議されている。また、審議事項の素案作りや各学科から出された意見の取りまとめや調整のため、教務主事と教養科及び各学科から一名ずつ出ている教務主事補からなる教務主事補会議が有効に機能している。専攻科においては、企画運営委員会を中心にカリキュラムの検討が行われている。

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携としては、各学科とも1・2年生の学級担任に教養科教員を充てており、定期試験の後などの学科会議には1・2年の学級担任も出席し、成績を含めた生活全般について意見交換を行い、学生指導に連携して当たっている。教育活動を支援する体制としては、担任の学生指導の支援としてカウンセラーの専門的アドバイスがあり、また、各学年の学級担任の中に代表をおくことにより、各学年の中で横のつながりを持ち意見交換のできる場を設けたりしている。これらの事務的な裏付けとして、事務部学生課が大きな役割を果たしている。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①：教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況) 本校の一般科目担当教員の現員は、常勤25名、非常勤35名であり(前出資料2-2-②-1及び資料3-1-①-1)、科目別教員配置は、教育課程を踏まえ、教養科において審議・決定されている。一部は、より適切な教育を学生に提供するため非常勤講師に依頼している。

資料3-1-①-1：教養科非常勤講師一覧表

教養科

■非常勤講師

■学位等	■氏名	■担当教科目	■備考
	赤羽 徹	生物	沼津工業高等専門学校名誉教授
	伊藤 匡穎	数学B	
	稲 伸博	数学B	
	鈴木 伸宏	数学B	
比較文化修士	井上 朋子	総合英語	
	佐藤 静枝	英語W・国際理解	
	中村 稔	総合英語・国際理解	
教育学修士	辻 直人	総合英語・国際理解	英語塾経営
修士(考古学)	野上・マスリエ・ニコル	国際理解	
修士(独語・独文学)	杉山 和子	ドイツ語・国際理解	
	柴田 和子	音楽	
	大塚 節夫	美術	
文学修士	神田 朝美	国語	
	諏訪 睦生	古典・文学特論	
	高澤 啓子	日本語(留学生対象)	
	高橋 豊	化学	
薬学博士	斉藤 慎一	化学	
工学博士	勝澤 英夫	化学	
客員教授	垂石 公司	物理・現代物理学・応用物理	沼津工業高等専門学校名誉教授

	丹波 之宏	物理・応用物理	
	鈴木 静恵	歴史	
	藤井 靖士	歴史	
	八十川 徹	地理学特論	
修士(経済学)	榎 満信	経済学	
法学修士	清水 雅彦	法学	
	片山 孝	保健	
客員教授	勝又 瑛逸	体育	沼津工業高等専門学校名誉教授
	丸川 岳浩	体育	
	村山 勝	体育	
	鈴木 みち代	体育	
	アンソニー・ダンフィ ー	英語C	
	アンドレアス・バウマ ン	ドイツ語	日本大学国際関係学部助教授
	アン・メイン	国際理解	
	デービット・トレーナ ー	国際理解	
	ベンジャミン・ギャベ ル	国際理解	

(出典：本校公式ウェブサイト)
http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_G.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応である。現在の定員配置は、きめ細かい教育を実現するためには若干不十分ではあるが、一部の科目を非常勤講師に依頼することにより、概ね適切な教員配置となっている。

観点 3-1-②：教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到係る状況) 本校の専門科目担当教員の現員は、機械工学科常勤12名・非常勤10名、電気電子工学科常勤12名・非常勤6名、電子制御工学科常勤11名・非常勤7名、制御情報工学科常勤11名・非常勤7名、物質工学科常勤12名・非常勤5名の合計常勤58名・非常勤35名であり(資料：3-1-②-1)，科目別教員配置は教育課程を踏まえ、各学科等において審議・決定されている。一部は、より適切な教育を学生に提供するため非常勤講師に依頼している。

資料 3 1 1 : 専門学科常勤・非常勤教員一覧表

機械工学科

教員

職名	学位	氏名	主要な担当教科目(専門分野)	校務分担
教授	工学博士	柳田 武彦	熱力学・伝熱工学(伝熱工学)	
教授	工学博士	黒下 清志	水力学・油空圧工学(流体工学)	
教授	工学博士	大賀 喬一	機械工作法・塑性力学(塑性加工学)・図学	機械工学科長,実習工場長,サ グネット総括責任者
教授	工学博士	岩谷 隆史	材料力学・弾性力学(材料力学)	専攻科企画運営委員
教授	博士(工学)	西田 友久	材料力学・トライボロジー,機械設計製図 (材料力学)	教務主事補,実習副工場長
助教授		宮内 太積	機械設計製図・工業力学(機械力学)	学生主事補
助教授	博士(工学)	小林 隆志	電子計算機・数値解析(計算力学)	
助教授	工学修士	井上 聡	金属材料学・機械設計製図(合金設計)	M3 担任
助教授	工学博士	村松 久巳	情報工学・振動工学(流体工学・音響工学)	M5 担任
助教授	博士(工学)	三谷 祐一郎	プログラム演習・数値制御・自動制御(制御 工学)	サグネット管理者, M4 担任
助手	修士(工学)	永禮 哲生	機械設計製図・機械計測(切削工学)・機械 要素学	寮務主事補,前期寮監代行
助手	博士(工学)	新富 雅仁	機械設計製図・熱力学(燃焼工学)	学生主事補

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_M.htm

非常勤講師

学位等	氏名	担当教科目	備考
工学博士 客員教授	上田 雅信	塑性力学	
工学博士 客員教授	楠井 直樹	機械設計法	元沼津工業高等専門学校教授
客員教授	田中 勝爾	電子計測	(株)ニューフレアテクノロジー品質保 証部 FS 管理グループ
	大場 康正	電子工学	国産電機(株)技術本部技術管理セン ター
工学修士	井戸 章雄	流体機械	(株)電業社機械製作所技術研究所

客員教授	伊良 博史	機構学	
工学修士 客員教授	相磯 勝宜	機械設計製図	
客員教授	垣花 亮	経営工学	
Ph.D 客員教授	中山 顕	エネルギー工学	静岡大学工学部教授
客員教授	井下 芳雄	メカトロニクス	エミック(株)技術部

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_M.htm

電気電子工学科

教員

職名	学位	氏名	主要な担当教科目(専門分野)	校務分担
教授	博士(工学)	若松 勝寿	電磁気・回路理論(放電・高電圧工学)	
教授		平林 紘治	固体電子工学・回路理論(電子材料)	
教授	工学博士	濱屋 進	通信工学・マイクロ波工学 情報理論(マイクロ波工学)	副校長(教務主事)
教授	工学修士	高橋 儀男	回路網理論・電気電子計測・CAD・回路シミュレーション演習(電気機器)	情報処理教育センター長, サブネット総括責任者
教授	工学修士	江間 敏	電力工学・パワーエレクトロニクス・電磁気学(電力工学)	電気電子工学科長, サブネット総括責任者
助教授		加藤 繁	直流回路・電子回路(計算機工学)	学生主事補, E3 担任
助教授	工学修士	高野 明夫	制御工学・自動制御・電気電子機器(パワーエレクトロニクス, 電動機制御)	E4 担任
助教授	博士(工学)	望月 孔二	電子回路・電子材料・電子回路設計(電子回路)	専攻科企画運営委員, E5 担任
助教授	工学修士	加藤 賢一	情報処理基礎・コンピュータ工学(電気回路)	基幹ネット管理者, サブネット管理者
助教授	博士(工学)	西村 賢治	ロジック回路・気体電子工学(プラズマ工学)	教務主事補
助教授	博士(工学)	嶋 直樹	プログラミング・デジタル信号処理(電波物理解)	寮務主事補, 前期寮監代行, 情報処理教育副センター長, 基幹ネット管理者
助手	修士(工学)	真鍋 保彦	情報処理基礎(情報処理)	サブネット管理者

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_E.htm

非常勤講師

学位等	氏名	担当教科目	備考
客員教授	越智 幹汎	現代制御理論	
工学修士 客員教授	富川 和人	図学・製図	東芝機械(株)技術開発部参与
	小森 憲昭	新エネルギー工学	
	山崎 利栄	新エネルギー工学	
	畠野 耕平	オプトエレクトロニクス	
	松坂 孝	工業英語	技術士事務所トーテック所長

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_E.htm

電子制御工学科

教員

職名	学位	氏名	主要な担当教科目(専門分野)	校務分担
教授	工学博士	森井 宜治	電磁気学・環境学基礎・工学数理特論・量子力学(応用物理)	専攻科長
教授	工学博士	舟田 敏雄	工学数理 計算機力学(数理工学)	電子制御工学科長, サブネット総括責任者
教授	工学博士	澤 洋一郎	制御工学・工業英語 制御システム設計(ロボット工学)	
教授	工学修士	長澤 正氏	計算機工学 線形回路解析(通信工学)	D5 担任
助教授	博士(理学)	牛丸 真司	UNIX 入門・システム制御工学・電子機械設計製作(大気物理学)	基幹ネット管理者
助教授	工学修士	川上 誠	電気回路・電子回路・ロボット工学演習(画像処理・電子回路)	教務主事補
助教授	博士(工学)	遠山 和之	計算機基礎・回路理論・電子材料(誘電・絶縁材料)	学生主事補, 専攻科企画運営委員
助教授	博士(工学)	鄭 萬溶	工学数理演習・工業英語・プログラミング言語 Java(振動工学)	サブネット管理者, D4 担任
助教授	博士(工学)	大原 順一	工業熱力学 情報処理基礎演習 電子機械設計製作(伝熱工学)	学生主事補, 学生会顧問, D3 担任
助手	修士(工学)	大庭 勝久	プログラミング入門・C言語基礎演習・電子回路演習(流体工学)	寮務主事補, 後期寮監代行

助手	博士 (工学)	江上 親宏	電子制御工学実験,工学数理演習(関数微分方程式)	寮務主事補
----	---------	-----------------------	--------------------------	-------

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_D.htm

非常勤講師

学位等	氏名	担当教科目	備考
	水野 充	図学・電気機械製図	
客員教授	大日方 一郎	集積回路工学	(株)日立コミュニケーションテクノロジー キャリアネットワーク事業部
客員教授	浅井 登	人工知能	(株)富士通インフォソフトテクノロジー 第三開発統 部長
客員教授	松坂 孝	専攻科技術英語・品質マネジメント工学・工業熱力学・計測工学	技術士事務所トーテック所長
理学博士 客員教授	三谷 哲也	計測工学	矢崎総業(株)技術開発センター企画部主管
客員教授	小林 幸也	計算機工学 情報工学	元沼津工業高等専門学校教授
客員教授	山岸 昭英	材料力学・機械要素	国立和歌山工業高等専門学校名誉教授

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_D.htm

制御情報工学科

教員

職名	学位	氏名	主要な担当教科目(専門分野)	校務分担
教授	工学博士	柳下 福蔵	加工学・振動工学・計測工学(精密加工学)	地域共同テクノセンター長
教授	工学博士	大島 茂	メカトロニクス 設計工学・創造設計 流体応用工学(水圧 油圧工学)	制御情報工学科長,サブネット総括責任者
教授	工学修士	吉野 龍太郎	創造設計・システム工学・ロボット工学(ロボット工学)	S5 担任
教授	工学博士	長谷 賢治	自動制御 制御工学 数理計画法・創造設計(制御工学)	教務主事補, S4 担任
助教授		大澤 和夫	データベースシステム 機械・電気製図(情報処理・内燃機関工学)	寮務主事補, 前期寮監代行
助教授	工学修士	鈴木 茂樹	プログラミング・電子計算機 計算機シミュレーション(信号処理)	サブネット管理者, S3 担任

助教授	博士 (情報工学)	藤尾 三紀夫	図形処理 情報処理 制御情報工学演習 (CG・CAD/CAM)	専攻科企画運営委員
助教授	博士 (情報工学)	佐竹 利文	人工知能・オペレーティングシステム 制御情報工学演習 (生産システム)	
助教授	博士 (工学)	芹澤 弘秀	電気回路 電磁気学 制御情報工学演習 ・ データ通信 (電波工学)	
講師	博士 (情報科学)	鈴木 康人	プログラミング 制御情報工学演習・情報数理 (情報論理)	学生主事補
助手	博士 (工学)	大久保 進也	計算機入門・電子回路 制御情報工学演習 (情報 通信工学 光情報工学)	寮務主事補, 前期寮監代行

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_S.htm

非常勤講師

学位等	氏名	担当教科目	備考
博士 (工学)	小久保光典	精密工学	東芝機械 (株) 微細転写事業部主幹
客員教授	丸山 公孝	材料工学	芝浦産業 (株) 材料分析センター部長
工学修士	井戸 章雄	流体力学	(株) 電業社機械製作所研究開発グループ
工学博士 客員教授	影山 学	数値解析 熱統計力学	沼津工業高等専門学校名誉教授
客員教授	垣花 亮	生産システム工学	
理学博士 客員教授	垂石 公司	電磁気学	沼津工業高等専門学校名誉教授
理学修士	山口 武志	情報数理 情報数理	

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_S.htm

物質工学科

教員

職名	学位	氏名	主要な担当教科目 (専門分野)	校務分担
教授	農学博士	加藤 美知代	生物化学・遺伝子工学・細胞工学 (育種工学)	
教授	工学博士	瀬尾 邦昭	有機化学 (有機合成化学)	
教授	理学博士	瀧渦 允紘	物理化学 材料物性化学・触媒工学 (物理化学)	

教授	理学修士	望月 明彦	分析化学・分析化学実験・機器分析 (分析化学・考古化学)	教務主事補
教授	博士 (工学)	蓮實 文彦	微生物学・培養工学・微生物学実験 (応用微生物学・酵素化学)	物質工学科長, 地域共同テクノ/副センター長, サブネット総括責任者
教授	薬学博士	芳野 恭士	細胞工学・薬理学・生物工学実験 (生物化学・生物系薬学)	専攻科企画運営委員
助教授	博士 (工学)	渡辺 敦雄	化学工学 2,3 安全工学・環境工学・環境安全工学 (化学工学, 安全工学)	
助教授	博士 (工学)	押川 達夫	有機化学・有機材料化学・グリーンケミストリ (有機化学)	学生主事補
助教授	博士 (薬学)	後藤 孝信	生物化学・酵素工学・生物化学実験 (水産化学)	寮務主事補, C4 担任
助教授	工学修士	小林 美学	無機化学・無機材料化学・無機化学実験 (無機化学)	サブネット管理者, C5 担任
講師	博士 (工学)	竹口 昌之	反応工学・基礎化学工学・化学工学実験 (生物化学工学・微生物工学・生物無機化学)	C3 担任
助手	博士 (工学)	藁科 知之	材料化学実験 (分析化学)	寮務主事補, 後期寮監代行

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_C.htm

非常勤講師

学位等	氏名	担当教科目	備考
	大場 康正	電子機器	国産電機 (株) 技術本部技術管理センター
理学博士 客員教授	三谷 哲也	物質工学総論	矢崎総業 (株) 技術開発センター企画部主管
客員教授	染野 哲也	生物有機化学	微生物化学研究センター 沼津創薬医科学研究所
客員教授	塚原 裕	化学製図	
	伊藤 寛文	品質管理	東レ (株) 東レ総合センター

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_C.htm

(出典: 本校公式ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。現在の定員配置は、きめ細かい教育を実現するためには若干不十分ではあるが、一部の科目を非常勤講師に依頼することにより、概ね適切な教員配置となっている。

観点 3 - 1 - : 専攻科を設置している場合、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況) 本校では、専攻科専任の教員は配置しておらず、すべて準学士課程との兼務で行われているが、専攻科担当教員の資格を、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する(平成 3 年大学評価・学位授与機構規程第 4 号)第 2 条第 1 項第 4 号に規定する資格を有し(資料 3 1 1), 教育研究上の能力があると認められる者とするとしている。平成 16 年度専攻科担当教員 58 名中、博士の学位を有するものは 39 名であり、民間企業における技術者として 10 年以上の経験を有し、技術者実務についての指導ができる教員は 4 名である。他に非常勤講師として、技術士 1 名が参加している。

資料 3 1 1 : 短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規程(抜粋)

短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規程

第 2 条 機構は、短期大学又は高等専門学校に置かれる専攻科で、次の各号に該当すると認められるものを、学位規則第 6 条第 1 項に規程する専攻科として認定する。

(一～三 略)

四 授業科目を担当する教員は、大学設置基準(昭和 3 1 年文部省令第 2 8 号)に定める教授、助教授又は講師の資格に相当する資格を有する者であること

(五 略)

(出典:平成 3 年 1 2 月 2 5 日 大学評価・学位授与機構規程第 4 号)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。専攻科専任の教員は配置していないが、準学士課程との連携の下、計画的に適切な人員を配置している。

観点 3 - 1 - : 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置(例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。)が講じられているか。

(観点に係る状況) 本校の教員採用は、教員選考内規に基づき、校長、三主事、当該学科長、事務部長による教員選考委員会において行われ、当該学科内各教員の経歴や学科内外の年齢構成等を踏まえ、バランスの取れた人材配置となるよう配慮されている。その結果、教員の年齢構成一覧(資料 3 1 1 及び 2)・経歴一覧(資料 3 1 3)に見るとおり、これらの点においては、おおそバランスの取れた構成となっているが、女性教員の割合がやや少ない(資料 3 1 1)。

本校教員の学位取得状況(資料 3 1 4)は高レベルであり、深く専門の学芸を教授するという高専の目的に即したものである。また、外部研修を積極的に推進し(資料 3 1 5)、教員の資質向上に努めている。

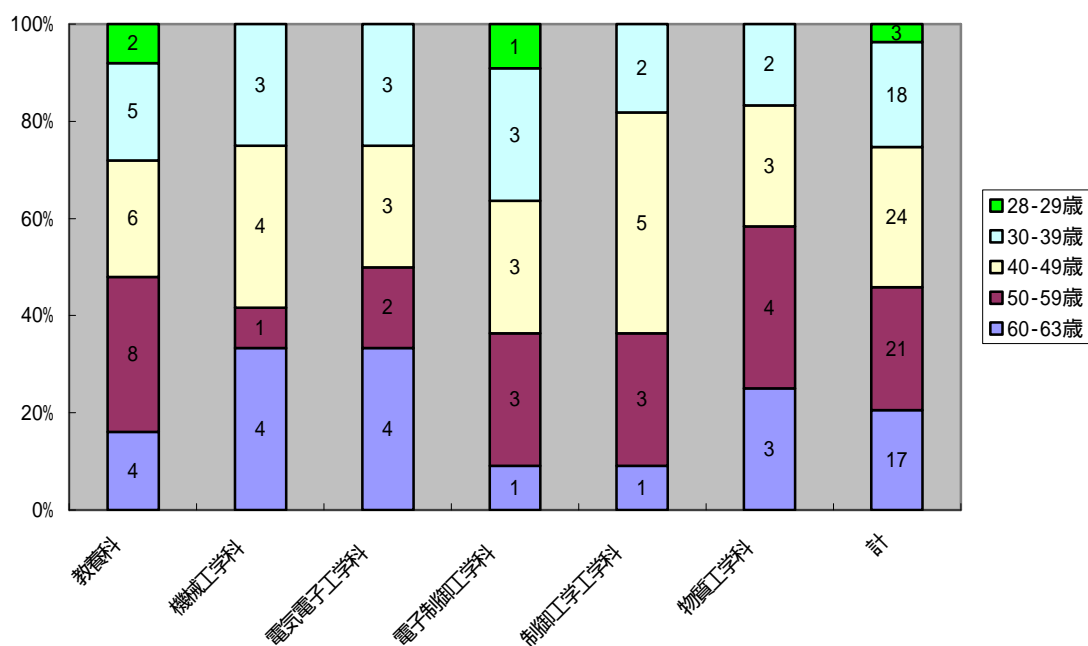
資料3 1 1 : 教員の年齢構成及び女性教員数

	教養科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御工学工学科	物質工学科	計
60-63歳	4	4	4	1	1	3	17
50-59歳	8	1	2	3	3	4	21
40-49歳	6	4	3	3	5	3	24
30-39歳	5	3	3	3	2	2	18
28-29歳	2			1			3
計	25(4)	12	12	11	11	12(1)	83(5)

計の()内は女性教員数

(出典 : 庶務課人事係)

資料3 - 1 - 2 : 常勤教員の年齢構成



(出典 : 庶務課人事係)

資料 3 - 1 - - 3 : 本校以外の勤務歴

	他高専	大 学	高校以下	官公庁	民間企業	自営業	海外研究	延べ人数	実人数	複数経歴内訳
教授	3人	2人	3人	1人	13人	0人	1人	23人	20人	高校以下・民間企業 他高専・民間企業 大学・民間企業
助教授	0人	6人	3人	0人	8人	0人	2人	19人	18人	大学・民間企業
講師	0人	1人	2人	0人	0人	0人	0人	3人	3人	
助手	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
教員 合計	3人	9人	8人	1人	21人	0人	3人	42人	41人	

(出典：庶務課人事係)

資料 3 - 1 - - 4 : 教員の学位取得者数

学 位 取 得 者 数

	現員	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	教養科	合計
教授	35人	5人	2人	3人	3人	5人	3人	21人
助教授	34人	3人	3人	3人	3人	3人	3人	18人
講師	7人				1人	1人	1人	3人
助手	7人	1人		1人	1人	1人		4人
合計	83人	9人	5人	7人	8人	10人	7人	46人

(出典：庶務課人事係)

資料 3 - 1 - - 5 : 平成16年度外部研修一覧表

研修会名称	場所	開催日時(期間)		参加者
		開始日	終了日	
平成16年度独立行政法人国立高等専門学校機構主催高等専門学校教員研究集会	釧路東急イン	H16.7.29	~ H16.7.30	1名
平成16年度高等専門学校新任教員研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター	H16.8.18	~ H16.8.20	3名
平成16年度独立行政法人国立高等専門学校機構主催高等専門学校教育教員研究集会	ホテルメトロポリタン長野	H16.8.26	~ H16.8.27	1名
平成16年度東海・北陸地区国立高等専門学校教員研究集会	富山第一ホテル	H16.9.9	~ H16.9.10	2名
第1回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	KKRホテル東京	H17.3.22	~ H17.3.23	2名

(出典：庶務課人事係)

(分析結果とその根拠理由)概ね相応であるが、現時点では改善の余地も残る。採用段階において経歴や年齢等を充分考慮した選考を行っているほか、採用後も外部研修等の奨励により、各教員のレベルアップに努めているが、高専機構中期計画に掲げられている「優れた教員の確保」(資料3 1 6)について現時点では満たされていないものもある。すなわち、本校以外の勤務等を経験した教員の割合が、教授・助教授のうち60%以上であることが求められている点(資料3 1

7) , および専門科目担当教員のうち70%以上に学位を取得していることを要求している点についてである(資料3 1 8)。ただし, 中期計画の定める年限までには目標を達成できる範囲内である。また, 女性教員の数が少ないことも問題であり, ことに専門学科において女性教員を採用することが望まれる(前出資料3 1 1)。

資料3 - 1 - - 6 : 国立高等専門学校機構中期計画(抜粋)

(3) 優れた教員の確保

多様な背景を持つ教員組織とするため, 中期目標の期間中に, 公募制の導入などにより, 教授及び助教授については, 採用された学校以外の高等専門学校や大学, 高等学校, 民間企業, 研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者, 又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が, 全体として60%以上となるようする。

教員の力量を高め, 学校全体の教育力を向上させるために, 採用された学校以外の高等専門学校などに年以上の長期にわたって勤務し, またも1との勤務校に戻ることでできる人事制度や, 高等学校, 大学, 企業などとの任期を付した人事交流制度等について検討を進め, これらの制度を導入する。

専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ)については, 博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者, 理系以外の一般科目については, 修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。中期目標の期間中に, この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%以上とし, 理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%以上となるようにする。

中期目標の期間中に, 全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また, 特に一般科目や生活指導などに関する研修のため, 地元教育委員会等と連携し, 高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。

教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。

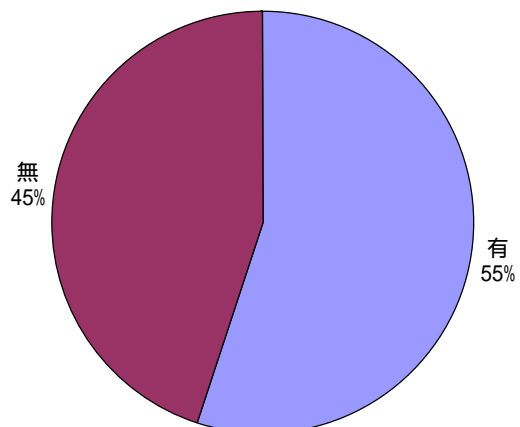
文部科学省の制度や外部資金を活用して, 中期目標の期間中に, 300名の教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を設けるとともに, 教員の国際学会への参加を促進する。

(出典: 国立高等専門学校機構ウェブサイト)

[http://www.kosen-k.go.jp/pdf/keikaku\(H17.3.31\).pdf](http://www.kosen-k.go.jp/pdf/keikaku(H17.3.31).pdf)

資料 3 1 7 : 本校以外の勤務歴

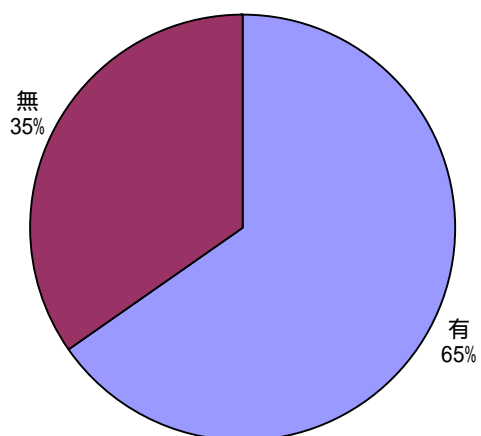
本校以外の勤務歴 (教授・助教授)



(出典：庶務課人事係)

資料 3 1 8 : 専門科目担当教員の学位の有無

専門科目担当教員の学位の有無



(出典：庶務課人事係)

観点 3 - 2 - : 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況) 教員の資格については、従来から基づいていた高等専門学校設置基準の教員資格(資料 3 2 1)に加えて平成 8 年に教員選考内規を制定し、選考の手続き等が定められており、その基準に基づき選考が行われている(資料 3 2 2)。また、採用に当たってはウェブサイト等を通じて広く公募している。採用及び昇格については、高等専門学校設置基準に則って、「採用にあたって留意すべき点」や「教員昇任判定基準」(資料は訪問調査において提示)に基づいて行われており、各科の推薦委員会の推薦を受けて選考委員会が発議し、校長が判断する。これらのことが適切に行われている。

資料 3 - 2 - - 1 : 高等専門学校設置基準(抜粋)

第 3 章 教員の資格

(教授の資格)

第 11 条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- 二 学位規則(昭和二十八年文部省令第 9 号)第 5 条の 2 に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者
- 三 大学(短期大学を含む。以下同じ。)又は高等専門学校において教授、助教授又は専任の講師の経歴(外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者
- 四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
- 五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(助教授の資格)

第 12 条 助教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 前条各号のいずれかに該当する者
- 二 大学又は高等専門学校において助手又はこれに準ずる職員としての経歴(外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。)のある者
- 三 修士の学位又は学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)を有する者
- 四 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(講師の資格)

第 13 条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 第 11 条又は前条に規定する教授又は助教授となることのできる者
- 二 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者
(助手の資格)

第 14 条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 学士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)又は準学士の称号(外国におけるこれに相当する称号を含む。)を有する者

二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(出典：高等専門学校設置基準)

<http://kyouiku.hourei.info/kyouiku65-3.html>

資料 3 - 2 - - 2 : 教員選考内規

沼津工業高等専門学校教員選考内規

(平成 8.9.11 制定)

最終改正 平成 17.3.9

(趣旨)

第 1 条 本校における教員(教授, 助教授, 講師及び助手)の採用及び昇任(以下「採用等」という。)の選考等は, 独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則(平成 16 年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 6 号), その他法令等に特別の定めのある場合を除くほか, この内規の定めるところによる。

(採用等の発議)

第 2 条 各学科又は教養科(以下「学科等」という。)において, 教員の採用等を必要と認めたときは, 当該の学科等の長が校長に申し出る。

(推薦委員会)

第 3 条 校長は, 前条の申し出がありこれを必要と認めたとき又は管理運営上特に必要があると認めたとき, 当該の学科等に推薦委員会を設置する。

2 推薦委員会は, 当該の学科等の長及び校長が指名した教員をもって組織する。

(候補者の推薦)

第 4 条 推薦委員会は, 採用等の候補者を選定し, 次の書類をもって校長に推薦する。

(1) 推薦書

(2) 履歴書(採用者の場合)

(3) 教員選考個人調書

(4) 著書・論文等一覧

(5) 著書・論文等の概要

(6) 企業での各部門における実績(企業からの採用者の場合)

(7) その他校長が必要と認めた書類

(選考委員会)

第 5 条 校長は, 推薦委員会から候補者の推薦があったとき, 選考委員会を設置する。

2 選考委員会は, 次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 校長

(2) 副校長(教務主事), 校長補佐(学生主事)及び校長補佐(寮務主事)

(3)当該の学科等の長

(4)事務部長

3 選考委員会は、必要に応じ候補者の担当授業科目と関連する教員を出席させ、その意見を聴くことができる。

4 選考委員会は、校長が招集し、議長となる。

(候補者の選考)

第6条 採用等の候補者の選考は、選考委員会の議に基づき校長が行う。

(事務)

第7条 選考委員会に関する事務は、庶務課が行う。

(補則)

第8条 この内規に定めるもののほか、教員の採用等の選考に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この内規は、平成8年9月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から適用する。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0460_kyouinsenkou-naiki.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応であるが改善の余地もある。採用や昇格等は適切に行われているが、採用にあたって留意すべき点や教員昇任判定基準(訪問時間閲覧可能)は作られているものの、より明確で適切な基準を策定すべきである。

観点3-2- : 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点到に係る状況) 平成11年に自己点検・評価委員会(前出資料2 2 1)を設置し、各学科等・委員会等のセルフチェックを中心とした自己点検・評価活動を行っている。また、教務委員会において学生による授業評価アンケートを毎年実施していて(資料3 2 1)、各教員はその結果に基づき、改善点を次年度のシラバスに明記することとなっている。

資料3-2- - 1: 授業アンケート実施要綱

授業アンケートの目的

- ・ アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- ・ 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- ・ 学生自身の授業に対する自覚を高める。

公表範囲

- ・ 個々の科目の基礎データ（授業毎にまとめたデータ）に関しては、学内公開とする。
- ・ 個々の学科で作成する自己点検評価書などを通じて、アンケート結果とその分析・対応などを一般に公開する。
- ・ 学内公開用のフォーマットは別途定める。

実施範囲

- ・ 実験・実習・卒研などを含む全科目で実施する。

評価段階と項目

- ・ 評価は「非常に良い，良い，あまり良くない，悪い」の4段階で行う。
- ・ 実験・実習系の科目で，該当しない項目については，授業担当者の指示で解答しないこととする。

実施時期

- ・ 科目担当の教官が最終の授業（試験含む）時間の中で実施する。
- ・ 前期で終了する科目は前期の終わりに実施する。それ以外の科目は学年末に実施する。
- ・ 最終の授業までで行うか，試験時に行うかは，個々の教官が判断する。

アンケートの配布と回収

- ・ アンケート実施要綱，質問用紙，コード表，マークシート記入要綱を，教務係から担当教官に事前に配布する。
- ・ 質問用紙，マークシート記入要綱，マークシートを，アンケート実施に学生に配布する。
- ・ アンケート終了後，配布した用紙を全て回収する。
- ・ マークシートの回答は，定められた期限までに，教務係に設置したアンケート回収箱に投函する。
- ・ マークシート以外の用紙は，必要なら繰り返し利用する（教務係への返却は必要ない）。

（出典：本校規則集）

<http://nct.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/j-anc/2002/youkou.pdf>

（分析結果とその根拠理由）優れている。本校の教員により自ら教育活動を評価する「自己点検・評価」，学生による教員の授業評価など多面的な点検・評価が行われている。また，この授業評価に基づく各教員の改善点をシラバスに明記することにより，授業改善に対する意識をより明確のものとさせている。

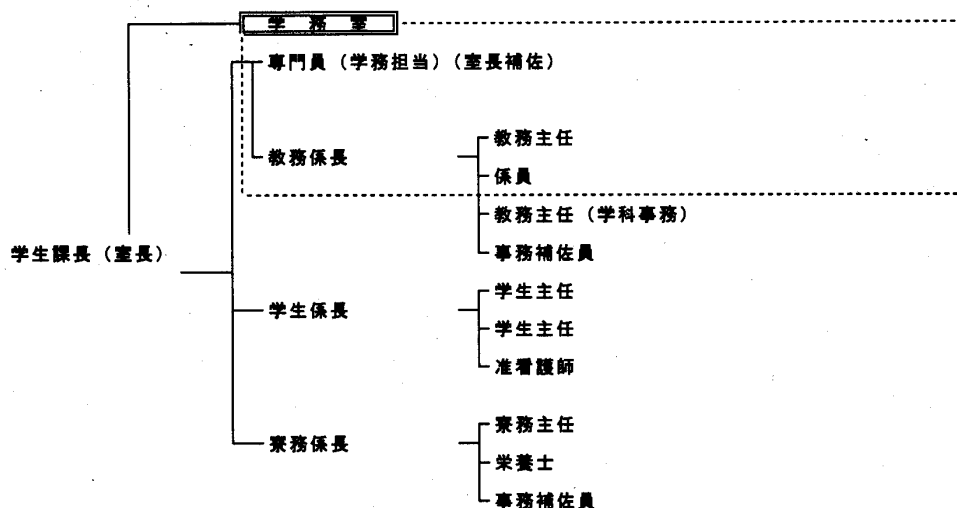
観点 3 - 3 - : 学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）事務組織では，授業等教育を実施するための支援組織として学生課を配置している（資料 3 3 1 及び前出資料 2 2 6）。教育課程の支援は主に学生課教務係で行われており，例えば，定期試験の時間割を組むこと，教科書の注文の取りまとめ等がある。また，各学科において実施されている実験・実習については，庶務課実習調整係を設置し，技術職員による教育活動の支援を行っている（資料 3 3 2）。尚，教育活動への多面的支援を行うために技術職員の更なる一元的組織化を検討している。

資料として事務系職員の人員配置表を添付する（資料 3 3 3）。

資料 3 - 3 - - 1 : 教務関係組織図

教務関係事務組織図



教育活動に関わる事務分掌が把握できる資料

○沼津工業高等専門学校事務分掌細則
(昭和44.4.1制定) 最終改正 平成13.4.1

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/kisokusyuu-mokuji.htm>

(出典：庶務課人事係)

資料 3 - 3 - - 2 : 実習調整係分掌

実習調整係担当事務 (内線 5798 / koujou@numazu-ct.ac.jp)

- 実習工場における実習の準備及び実習指導の補助調整
- 実習工場の施設及び設備の保守管理
- 実習用諸材料の準備及び保管
- 実習工場の安全保持
- 教室系職員の連絡調整

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/office/bunsyou.htm>

資料 3 - 3 - 3 : 事務系職員配置表

事務職員 , 技術職員の配置状況

	事務職員	技術職員	栄養士	准看護師	自動車運転手	事務補佐員	庶務係連携コーディネーター	司書 (内数)	司書補 (内数)
事務部長	1								
庶務課	課長	1							
	専門職員	2				2	1		
	庶務係	2			1				
	人事係	3							
	図書係	2							1
	実習調整係		5						
教室系技術職員		11							
会計課	課長	1							
	専門職員	1							
	総務係	2							
	出納係	3							
	用度係	3							
	施設係		2			1			
学生課	課長	1							
	専門員	1							
	教務係	4				1			
	学生係	3		1					
	寮務係	2		1		1		1	
計	32	18	1	1	1	5	1	1	

実習調整係長は, 教室系技術職員へ含めた。
司書, 司書補は, 事務職員の内数である。
教育後援会職員は含まない。

(出典 : 庶務課人事係)

(分析結果とその根拠理由) 相応であるが, 昨今の定員削減問題に鑑みて, 技術職員の一元的組織化による効果的な活用方法は現在検討中であり, 更なる改善の余地はある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 学生による授業アンケートを毎年実施し, その結果を全教員にフィードバックしている取組みは, 教育活動の対象である学生の意見を直接把握し, 改善に結び付けることができる点で優れている。

(改善を要する点) 平成16年度からの高専機構中期計画で求めるところの優れた教員の確保に関する条件に若干満たされていない点があること。また, 教員の採用及び昇任の基準について, より明確で適切な基準を策定する必要があること。更に, 技術職員の一元的組織化は検討中であり, 現在のところ更なる効果的活用の余地を模索している。

(3) 基準 3 の自己評価の概要

本校の教員は, 一般科目担当・専門科目担当ともに, 本校の教育目的を達成するために概ね適切に配置されているが, 常勤教員の定員の関係上, よりきめ細かな教育を実現するために, 一部を非常勤講師に頼っている。また, 専攻科については, 専任の教員は配置しておらず, すべて準学士課程との兼務で行われているが, 大学評価・学位授与機構の定めるところの資格を有する教員が適切に配置されている。

教員の採用については, 年齢構成・学位の取得等の条件を鑑み, 高等専門学校設置基準に則り適

切に行われている。教員の昇格に関することも合わせて、その手続きについては、教員選考内規により明文化されている。基準についても作成されているが、より明確で適切な基準を策定すべきである。

さて、平成16年度に示された高専機構中期計画にある「優れた教員の確保」の求めるところに対して、学位取得者の割合・本校以外の勤務経験を有する者の割合が、現在のところ若干低いところにあるが、中期計画の定める年限までには目標を達成できるものと思われる。ただし、近年の高専における女子学生の増加に対して、その精神面でのサポートの必要性等も含めて、女性教員の重要性は周知のことであるが、現実には83名の教員のうち、女性教員はわずか5名であり、この点は改善努力が望まれる。

教員の教育活動に関する評価としては、自己点検・評価委員会が設けられており、各学科あるいは各委員会等でセルフチェックを中心とした自己点検・評価活動を行っている。また、教員の授業に対しては、学生による授業評価アンケートを毎年実施しており、そのアンケート結果は学内で公表され、各教員はそれに基づき改善点を次年度のシラバスに記載することになっている。

教育課程を展開するに必要な事務職員・技術職員等については、事務職員は主に学生課に、技術職員については各学科に教室系職員が、実習工場に実習調整係が適切に配置されているが、昨今の定員削減問題に鑑みて、技術系職員の更なる有効的な配置を検討している。

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4 - 1 - : 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）準学士課程のアドミッション・ポリシーは明文化されており（資料 4 - 1 - 1）、学生募集要項（資料 4 - 1 - 2）やウェブサイト（資料 4 - 1 - 3）、学校概要（資料 4 - 1 - 4）に掲載され、学校の構成員に周知されているとともに、社会に対して公表されている。

資料 4 - 1 - 1：準学士課程アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシー（受入れ方針）について

沼津高専は初代校長の遺訓「人柄の良い優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ」にあるように人柄を重要視しています。また、講義と共に実験実習等の体験学習を通して一般科目や専門教科を修めた上に、情報技術を駆使できる学生を育成したいと考えています。そのため、

- (1) 他人を思いやる心を持ち、責任感のある誠実な人
- (2) 技術者や科学者を目指す人
- (3) 勉強が好きで、自分の才能を伸ばすために努力できる人

が入学してくることを望んでいます。

（出典：平成 17 年度沼津工業高等専門学校学生募集要項）

資料 4 - 1 - - 2 : 募集要項に掲載された準学士課程の受入れ方針

VI. 入学説明会

入学を希望する者は、平成17年3月8日(火)午前10時からの入学説明会に出席し、所定の経費を納入してください。この説明会に出席しない者は、本校に入学の意志がないものとして合格を取り消します。

なお、入学説明会当日(3月8日)までに必要な経費は次のとおりです。

入 学 料	84,600円
授業料前払分として	114,000円 (年額228,000円)
その他として	約100,000円

(教科書代、新入生合宿研修経費、教育後援会費、4月分寮費等)

注1 納入金額は、規則等の改正により変更することがあります。この場合は入学願書受付時に連絡します。

いったん納入された入学金は返還しません。

注2 成績優秀者で、経済的理由により、入学金、授業料、寄宿料の納入が困難な者については、減免制度があります。

注3 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定後の新授業料が適用されます。

VII. 入学者の入寮

本校に入学した者は、第1・2学年は、原則として全員入寮するものとします。ただし、第2学年は、自宅通学を希望する者に限り、入寮を免除します。

VIII. アドミッション・ポリシー(受入れ方針)について

沼津高等は初代校長の遺訓「人柄の良い優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ」にあるように人柄を重要視しています。また、講義と共に実験実習等の体験学習を通して一般科目や専門教科を修めた上に、情報技術を駆使できる学生を育成したいと考えています。そのため、

- (1) 他人を思いやる心を持ち、責任感のある誠実な人
- (2) 技術者や科学者を目指す人
- (3) 勉強が好きで、自分の才能を伸ばすために努力できる人が入学してくることを望んでいます。

機械工学科

機械工学科では機械や装置などを合理的に設計・製作するための知識と技術を習得します。また、機械技術者に求められる電気・電子工学の知識やコンピュータを利用する技術なども学びます。機械工学科では次のような人を求めています。

- (1) モノづくりが好きな人
- (2) ロボットや自動車などに代表される機械の原理やしくみに興味がある人
- (3) 絶えず疑問を持ち、その疑問を解決するためにチャレンジする人

電気電子工学科

電気電子工学科では、電力、制御、情報技術、通信、電子回路、デバイスなどについて学び、これらの分野に対応できる技術者になるための勉強をします。本学科では、次のような人を求めています。

- (1) 電気電子情報分野に夢をもっている人
- (2) 電力や通信などの社会基盤をつくる技術者になりたい人
- (3) 電気電子情報関連の先端技術にチャレンジしたい人

電子制御工学科

電子制御工学科では、次のような能力をもつ技術者の育成を教育目標としています。

- (1) 技術が地球環境へ及ぼす影響を考慮ことができ、社会的責任を自覚できる。
- (2) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力。
- (3) 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力。
- (4) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力。
- (5) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力。

本学科において技術者教育を受け、将来は技術者として専門技術を発揮して活躍し、社会的責任を自覚して世界のために貢献することを目指す学生の入学を希望します。

制御情報工学科

制御情報工学科では、コンピュータの仕組みを理解し、自動車、ロボット、通信・ネットワーク、医療器械、家電機器などの各種産業分野で、コンピュータを利用した「モノづくり」を通して社会に貢献できる技術者を育てることを目標としています。そのため、次のような人を求めています。

- (1) モノづくりが好きで、技術者になって社会に貢献することを目指す人
- (2) 機械、電気・電子、制御、コンピュータの技術を幅広く学習したい人
- (3) コンピュータに関するハードウェアやソフトウェアの技術に興味を持つ人

物質工学科

物質工学科では、分析化学、無機化学、物理化学、有機化学、化学工学、生物化学など、化学技術者になるための知識と技術を勉強します。そのため、本学科では次のような人を求めています。

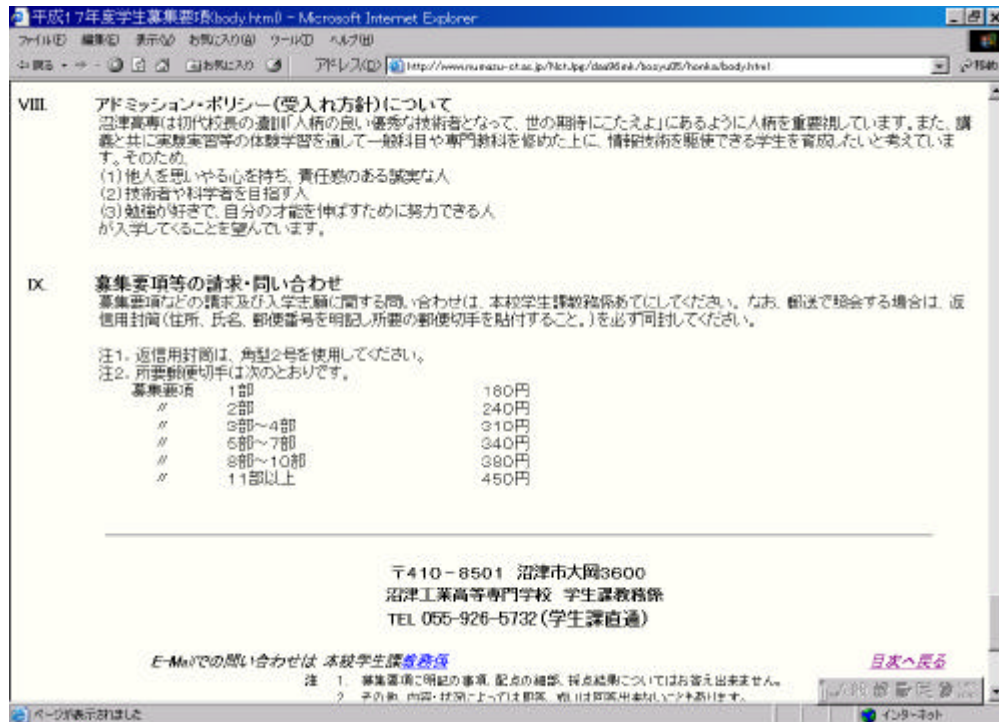
- (1) 化学、生物学を中心とした理科が好きで、この分野の勉強に自ら熱心に取り組める人
- (2) 実験や実習等で化学や生物に関する理論や仕組みを自分で確めたり、実験装置を自分で作ることが好きな人
- (3) 化学工業、食品工業、医薬品工業などの分野で技術者として活躍したい人
- (4) 新しい材料の開発やバイオテクノロジーなどにチャレンジしたい人

- 8 -

- 7 -

(出典：平成 17 年度沼津工業高等専門学校学生募集要項)

資料 4 - 1 - - 3 : ウェブサイトに掲載された準学士課程アドミッション・ポリシー



(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/Nct/Jpg/daa96mk/bosyu05/honka/body.html

資料 4 - 1 - - 4 : 学校概要に掲載された準学士課程アドミッション・ポリシー

● 教育理念
人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ


● 目 的
静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ、専門教育においては、実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い、実践的技術者を養成する。

● 教育目標

- 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人格教育を行う。
- コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

● 学生受入方針

- 他人を思いやる心を持ち、責任感のある誠実な人
- 技術者や科学者を目指す人
- 勉強が好きで、自分の才能を伸ばすために努力できる人



学生寮風景

(出典 : 平成 17 年度沼津工業高等専門学校学校概要)

また、中学校訪問や進学説明会、一日体験入学の際の説明会等においても準学士課程のアドミッション・ポリシーを説明している。

高校からの第 4 学年編入学に関しても受入れ方針を明文化し (資料 4 - 1 - - 5) , 編入学案内 (資料 4 - 1 - - 6) 及びウェブサイトに掲載している。

資料 4 - 1 - - 5 : 「編入学案内」に掲載された 4 年次編入学生受け入れ方針

沼津高専 4 年次編入学生受け入れ方針

沼津高専は以下の条件を満たす有資格者の高専 4 年次への編入学を受け入れます。

- (1) 技術者になるという明確な意志があること。
- (2) 将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
- (3) 科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
- (4) 数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理科系科目、の基本的学力を有していること。
- (5) 高等学校における工業教育、もしくは自然科学教育の教科目において、継続的な学習を行ってきた経験があること。
- (6) 社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

(出典 : 沼津工業高等専門学校編入学案内)

資料 4 - 1 - - 6 : 「編入学案内」に掲載された 4 年次編入学生受け入れ方針

入 学 案 内

工業高等専門学校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」ことを目的とし、豊かな教養と専門の技術を身につけた実践的な技術者の育成を使命としており、中学校卒業程度を入学資格とする 5 年制の一貫教育を行う国立の高等教育機関（大学等）である。

本校では、理論的な基礎とともに、実験・実習を重視し、実践的エンジニアを養成しており、卒業生は希望にかなった会社へ就職でき、また、更に深く勉強したい人には、大学の 3 年次への編入学、高専専攻科の道が開かれている。

1. 沼津高専 4 年次編入学生受け入れ方針

沼津高専は以下の条件を満たす有資格者の高専 4 年次への編入学を受け入れます。

- (1) 技術者になるという明確な意志があること。
- (2) 将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
- (3) 科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
- (4) 数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理科系科目、の基本的な学力を有していること。
- (5) 高等学校における工業教育、もしくは自然科学教育の教科目において、継続的な学習を行ってきた経験があること。
- (6) 社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

（出典：沼津工業高等専門学校編入学案内）

専攻科課程の受け入れ方針は「専攻科入学者選考規程」（資料 4 - 1 - - 7）により明文化され、専攻科募集要項（資料 4 - 1 - - 8）及びウェブサイトを通じて公開されている。

資料 4 - 1 - - 7 : 専攻科入学者選考規程（抜粋）

（選考方針）

第 2 条 専攻科は、当該専攻科の目的を達成し、及び教育目標を実現するため、当該専攻科へ入学を志願する者のうちから、次に掲げる意欲、学力及び経験を有するものを選考するものとする。

- (1) 広い視野と深い専門性を身に付けた技術者として、将来、社会の発展及び公衆の福祉に寄与する意欲を持った者
- (2) 数学、自然科学及び英語に関し、工学教育を受けるために必要な学力を有する者
- (3) 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、一定の期間にわたって実践した経験を有する者

（出典：本校規則集）

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/ki_sokusyu/0762_senkouka-nyuugakusyasenkou.htm

資料 4 - 1 - - 8 : 専攻科生選抜方針

III 選 抜 方 針

本専攻科への入学者に、以下の意欲、学力、及び経験を具備していることを要請します。

- (1) 広い視野と、深い専門性を身につけた技術者として、社会の発展、公衆の福祉に寄与したいという意欲
- (2) 数学、自然科学、及び英語に関して、工学教育を受けるために必要な学力
- (3) 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、初歩的ではあっても、一定の期間にわたって実践した経験

(出典：沼津工業高等専門学校専攻科学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。各段階のアドミッション・ポリシーは全て明文化され、冊子、ウェブサイト、口頭の対面プレゼンテーションなど多様な手段を通じて周知が図られている。

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点到に係る状況) 準学士課程の一般選抜については、学力試験が全国の国立高専で統一の問題を使用して行われるため、問題そのものに本校独自のアドミッション・ポリシーを反映することは困難である。ただし、技術者としての素養として数学を重視するという観点から、数学の素点を 2 倍にする「傾斜配点」を行っている。また、面接での口頭試問の内容に反映している(資料は訪問調査において提示)。

さらに、調査書記載事項(特別活動の実績等)を点数化する際にもアドミッション・ポリシーを反映している(資料は訪問調査において提示)。

準学士課程の推薦選抜については、上記一般選抜と同様、面接での口頭試問の内容及び調査書記載事項の点数化にアドミッション・ポリシーを反映しているほか、一部の学科では適性試験・小論文試験等を実施してより確実な反映を図っている。

高校からの第 4 学年編入学については、受入れ方針の各項目を試験問題等へ反映させている(資料 4 - 2 1)。

資料 4 - 2 1 : 第 4 学年編入学試験の実施方法

() 選 抜 の 基 本 方 針

高校卒業者を高専第 4 学年に受け入れている。受け入れの条件は、

- ・ 高校を卒業しているか、来年度卒業の見込みの者
- ・ 沼津高専が提示する受け入れ方針を認める者

となっている。

沼津高専が提示する第 4 学年編入生の受け入れ方針は以下の 6 項目である。

- (ア) 技術者になるという明確な意志があること。
- (イ) 将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
- (ウ) 科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
- (エ) 数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理科系科目、の基本的な学力を有していること。

(オ) 高等学校における工業教育，もしくは自然科学教育の教科目において，継続的な学習を行ってきた経験があること。

(カ) 社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

これらの受け入れ方針は，'05 年度編入学案内に印刷されて，過去編入学実績のある高校を始め，問い合わせのあった高校にも配布される。また，第 4 学年編入生募集のウェブサイトにて公開される。

() 具体的選抜方法

(ア)～(ウ)については，面接による口頭試問で行う。

(エ)については，数学，英語の各学科共通の試験を行う。

(オ)については，各学科が専門試験を行う。

(カ)については，面接により確認する。

・合否判定

合否については，上記 6 課題についての採点・評価結果を各学科会議が取りまとめ，高専入試実行委員会に報告し，高専入試実行委員会 の総意に基づいて決定する。

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書)

専攻科課程の選抜については，選抜の基本方針を面接・筆頭試問・口頭試問の各方法に反映している(資料 4 - 2 2)。

資料 4 - 2 2：専攻科入学試験の実施方法

本プログラム後半部は基本的に，高専，短大の卒業生を受け入れの対象者としている。従って，専攻科入学が同時に本プログラム後半部履修者の決定過程であり，同時にプログラムへの編入過程でもある。本専攻科には JABEE 対応の総合システム工学プログラム後半部のみが存在する。

() 選抜の基本方針

本プログラム後半部における選抜の基本方針は，「沼津高専専攻科入学者選考規程」に規定され，専攻科公式ウェブサイトを通じて公開されている。要約すれば，(1)技術者として社会発展や公衆福祉へ貢献する意欲，(2)工学教育を受けるために必要な数学，自然科学，英語等の基礎学力，(3)工学実践の経験 の 3 課題に要約される。これらの課題は「沼津高専専攻科募集要項」の刊行と全国高専等への配布を通じて公開し，入学希望者が課題に答えられるかどうかは「専攻科選抜試験実施要領」に従い検査される。

選抜の基本方針と，実施内容の関係を下図に示す。

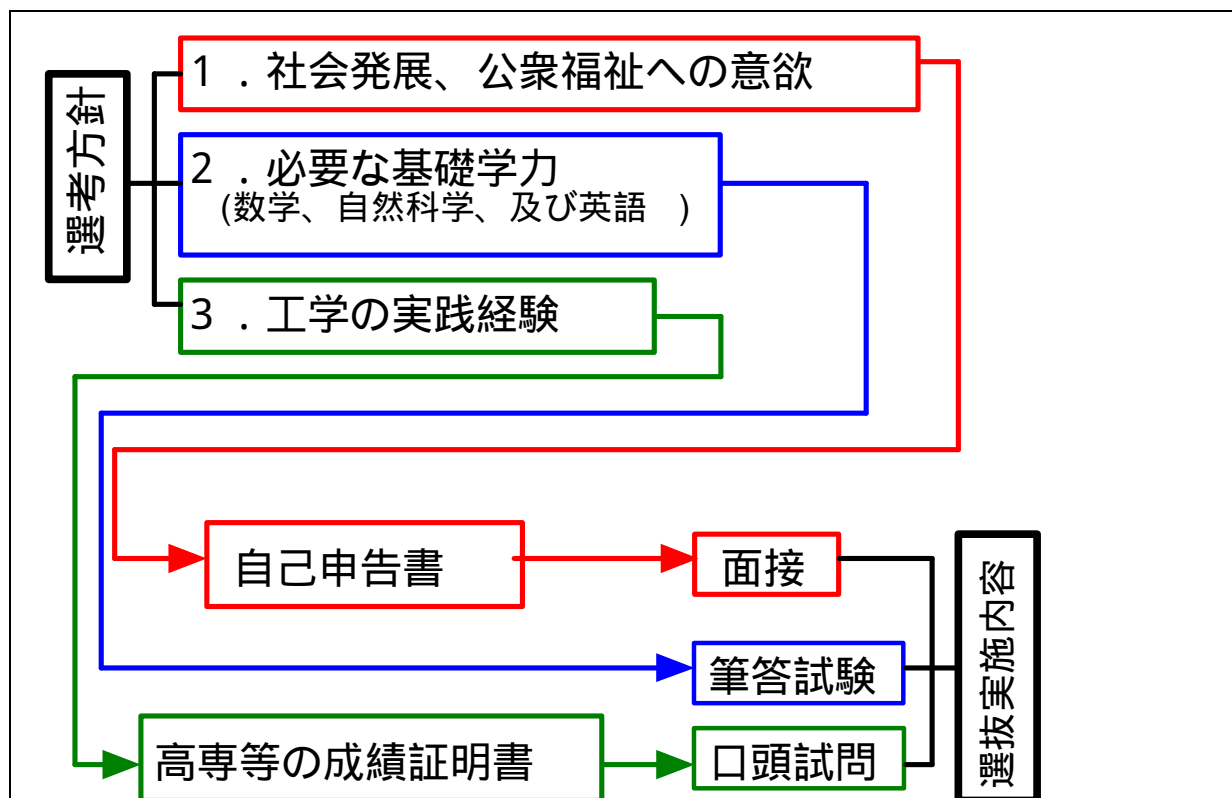


図 3 . 2 . 選抜方針と試験方法

() 具体的選抜方法

1. 自己申告書に基づく、「意欲」の審査は、総合システム工学を形成する各専攻分野から 4 名の専攻科担当教員が検査員として『専攻科入試委員会』より選任され、これにあたる。審査基準は『専攻科入試委員会』より提示される基本案を参考にし、検査員が独自に設定し、採点する。面接については独自の判断に基づき、A,B,C,D の 4 段階法で採点する。
2. 基礎学力を判定する筆答試験は、数学、自然科学(物理、化学)については SAT -Subject Test , 及び技術士 1 次試験・共通試験を参考にして作成した 5 肢選択法の客観テストを実施する。数学 IC については必須であり、数学 C, 物理、化学については 1 科目を選択するものとする。問題については幾つかの例題を募集要項に示す。英語については TOEIC スコア 350 程度以上を要求し、TOEIC Test に準じる試験を必須として実施する。この旨も募集要項に記載し、公開する。
3. 口頭試問については、National Council of Examiners for Engineering and Surveying (NCESS) の Fundamentals of Engineering (FE) 試験のレベルの問題を作成し、受験者の既習分野について質問する。問題は英文で示し、日本語で解答することを求める。
4. 十分な「意欲」と「工学の実践経験」を持つと認められた受験希望者は、沼津高専の学科による推薦を受けることができる。学科からの推薦者は面接と口頭試問を免除し、これらの検査については学科主任による推薦状を持って代用する。
5. 合否については、上記 3 課題についての採点・評価結果を専攻科入試委員会が取りまとめ、専攻科担当教員会議に報告し、会議の総意に基づいて決定する。

() 公開方法とその実態

入学希望者への公開に関しては、「沼津高専専攻科募集要項」を全国高専等へ送付し、文書による公開を行う。また、沼津高専内においては専攻科進学説明会を行い、沼津高専の第 4,5 学年への周知徹底をはかる。'04 年度の受験者は昨年度比 37%増加した。

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。各段階の選抜において、それぞれアドミッション・ポリシーに基づいた選抜手段が可能な限り講じられている。

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況) 入試実行委員会及び専攻科入試実行委員会において、各年度の入学試験について準備から段階的に検討が重ねられており、前年度の検証・反省を活かして改善策を講じている(資料 4 - 2 - - 1)。

資料 4 - 2 - - 1 : 入試改善への取組状況

題名	入試改善について
差出人	濱屋 進

平成 17 年 2 月 21 日

教職員各位 濱屋です。メールで失礼します。

平成 17 年度の推薦入試及び一般入試につきましては、天候にも恵まれ滞りなく実行でき、ご苦勞様でした。採点業務も午前中に終了し、この後、合否判定及び合格発表等の業務がありますが、よろしくお願ひします。

さて、推薦入試及び一般入試をとおして、今回の入試に関する反省点等や改善点について、入試業務を個々に担当された皆様から、ご意見等を聞き来年度以降の入試及び入試業務に反映させたいと思います。

ついで、下記のとおり意見や感想を皆様からお聞きしたいので、項目番号を付してご意見等を、学生課長 (gkacho@numazu-ct.ac.jp) あてに、3 月 4 日までにお寄せください。

また、入試実行委員の皆様には、これらの意見を集約後に入試反省会を実施したいと思いますので、その際にはご多忙のところ恐縮ですが、ご参集くださいますよう併せてお願ひします。

記

1. 推薦入試に関すること。
 - 1-1. 試験室、保護者控え室等に関すること。
 - 1-2. 試験準備に関すること。
 - 1-3. 試験当日の業務に関すること。
 - 1-4. 合否発表に関すること。
 - 1-5. 推薦入試において上記以外に関すること。
2. 一般入試に関すること。
 - 2-1. 試験室、保護者控え室等に関すること。
 - 2-2. 試験準備に関すること。
 - 2-3. 試験当日の業務に関すること。
 - 2-4. 試験採点に関すること。
 - 2-5. 合否発表に関すること。
 - 2-6. 一般入試において上記以外に関すること。

(出典：入試実行委員会資料)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。毎年の入試実行委員会において必ず前年度の反省が行われ、その上に立った改善策が議論されており、入学志願者も定員の約2倍を維持している。

観点4-3- : 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況) 最近の実入学者は、準学士課程においては入学定員を大幅に超える、又は下回る状況にはなっていない(資料4-3 1)が、専攻科課程において一部の専攻の実入学者数が定員を大幅に超えている(資料4-3 2)。ただし、教員の配置や教育方法・内容に工夫をしており(資料4-3 3)、教育活動上に特段の支障を生じていない。

資料4-3 1: 準学士課程における今年度及び昨年度の学生入学状況

学 科	平成 16年度				平成 17年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率	募集人員	志願者	入学者	倍率
機械工学科	40 (16)	79 (24)	43 (18)	1.8 (1.3)	40 (16)	81 (33)	43 (18)	1.9 (1.8)
電気電子工学科	40 (16)	67 (22)	42 (16)	1.6 (1.4)	40 (16)	67 (30)	42 (16)	1.6 (1.9)
電子制御工学科	40 (16)	86 (43)	40 (17)	2.1 (2.5)	40 (16)	77 (33)	41 (16)	1.9 (2.1)
制御情報工学科	40 (16)	88 (36)	43 (19)	2.0 (1.9)	40 (16)	69 (25)	42 (16)	1.6 (1.6)
物資工学科	40 (16)	104 (39)	43 (19)	2.4 (2.1)	40 (16)	98 (45)	43 (18)	2.3 (2.5)
計	200 (80)	424 (164)	211 (89)	2.0 (1.8)	200 (80)	392 (166)	211 (84)	1.9 (2.0)

()内は推薦選抜による内数。倍率は、小数点第2位を四捨五入。

(出典: 本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/data_GK1.htm

資料4-3 2: 専攻科課程における今年度及び昨年度の学生入学状況

専 攻	募集人員	平成 16年度		平成 17年度	
		志願者	入学者	志願者	入学者
機械・電気システム工学専攻	8	20	6	17	8
制御・情報システム工学専攻	8	24	14	20	14
応用物質工学専攻	4	9	5	7	4
計	20	53	25	44	26

(出典: 本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/data_GK1.htm

資料 4 - 3 3：専攻科課程における教員の配置や教育方法・内容の工夫
平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書（抜粋）

3.2 教育方法

(3) 授業等での学生支援の仕組みとその開示・実施

() 学生支援の仕組み 指導教員制 -

専攻科学生は本専攻科在籍期間を通じて研究指導教員の指導を受けて学習・研究の方法を学び、態度を身につける。従って、研究指導教員の指導範囲は狭義の研究テーマに限らず、授業等についても科目担当教員と連絡を取りつつ、学業上での学生支援に及ぶ。また、学生は、自己の意志に基づき、学期毎に研究指導教員の変更を専攻科担当教員会議に申し出ることが出来る。

学習・教育目標 (5) 「産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力」を実現するために、本プログラム後半部で必修科目として実施している専攻科実習に関し、研究指導教員が行う学生支援の内容は「専攻科実習規則」に定めている。研究指導教員は学生が専攻科実習を受講するに当たって、以下の事項を通じて学生を支援する。

- 1．受入先の選定及び配属先の決定
- 2．受入先における実習指導者の指定
- 3．実習テーマ，内容等に関する指導・助言
- 4．実習における安全管理（傷害保険への加入を含む。），就業心得等の事前指導
- 5．実習中に発生した事故又は異常事態の処置及び校長への報告

() 学生支援の仕組みの開示方法

研究指導教員は学期始毎に「研究指導計画書」を作成し，学期末毎に「研究指導報告書」を作成し，開示するものとする。

研究指導教員の指導，支援の範囲については以下の図に示す。

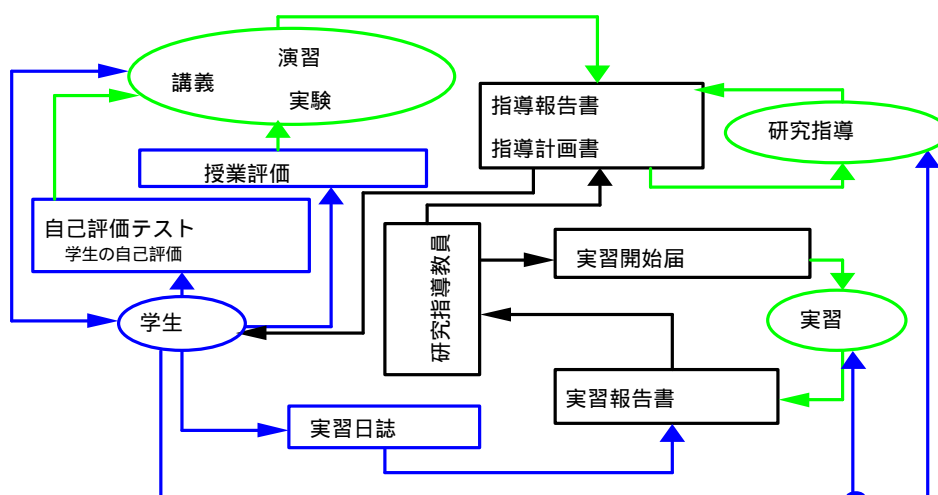


図 3 . 5 . 学生と研究指導教員

学生支援の仕組みは、関連する諸規則で定めており、全て専攻科公式ホームページで公開している。

プログラム前半部における第 4 学年並びに第 5 学年への学生支援は、主として学級担任を通じて行われる。学生生活支援室も第 4 学年並びに第 5 学年学生のメンタル・ケアを通じて学生支援を行っている。[3.2(3)]

() 専攻科学生支援の仕組みの活動実績

1. 研究指導報告書にて開示。
2. 専攻科担当教員毎におけるオフィスアワーを設定し、専用連絡ボードを設置し、学生支援に活用している。

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。準学士課程においては、入学定員と実入学者数との関係は適正に管理されている。専攻科課程においては、一部において実入学者数が定員を大幅に超えているが、同専攻を志願する者に比べて定員が僅少 (8 名) であるためであり、教員配置や教育方法の工夫などによって問題の発生を防止しており、全体として相応である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 入学者選抜の全ての段階 (準学士課程 1 年生、準学士課程 4 年生編入学、専攻科課程) においてアドミッション・ポリシーを明文化し、冊子、ウェブサイト、口頭の対面プレゼンテーションなど多様な手段を通じて周知を図る取組は、将来の構成員を含めた社会に対して広く受入れ方針を自主的に発信している点から、優れている。

(改善を要する点) 特になし。

(3) 基準 4 の自己評価の概要

入学者選抜の全ての段階 (準学士課程 1 年生、準学士課程 4 年生編入学、専攻科課程) においてアドミッション・ポリシーは明文化されており、学生募集要項やウェブサイトに掲載され、学校の構成員に周知されているとともに、社会に対して公表されている。また、中学校訪問や進学説明会等においても準学士課程のアドミッション・ポリシーを説明している。以上のように、各段階のアドミッション・ポリシーは冊子、ウェブサイト、口頭の対面プレゼンテーションなど多様な手段を通じて周知が図られている点は、優れている。

準学士課程の一般選抜については、学力試験が全国の国立高専で統一の問題を使用して行われるため、問題そのものに本校独自のアドミッション・ポリシーを反映することは困難である。ただし、傾斜配点や面接での口頭試問により反映を図っている。さらに、調査書記載事項 (特別活動の実績等) を点数化する際にもアドミッション・ポリシーを反映している。準学士課程の推薦選抜については、上記一般選抜と同様、面接での口頭試問の内容及び調査書記載事項の点数化にアドミッション・ポリシーを反映しているほか、一部の学科では適性試験・小論文試験等を実施してより確実な反映を図っている。高校からの第 4 学年編入学については、受入れ方針の各項目を試験問題等へ反映させている。専攻科課程の選抜については、選抜の基本方針を面接・筆頭試問・口頭試問の各方法に反映している。各段階の選抜において、それぞれアドミッション・ポリシーに基づいた選抜手

段が可能な限り講じられており，相応である。

入試方法等の改善については，入試実行委員会及び専攻科入試実行委員会において，各年度の入学試験について準備から段階的に検討が重ねられており，前年度の検証・反省を活かして改善策を講じており，相応である。

準学士課程においては，入学定員と実入学者数との関係は適正に管理されているが，専攻科課程において一部の専攻の実入学者数が定員を大幅に超えている。ただし，これは同専攻を志願する者に比べて定員が僅少（8名）であるためであり，教員配置や教育方法の工夫などによって問題の発生を防止しており，教育活動上に特段の支障を生じておらず，全体として相応である。

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

< 準学士課程 >

観点 5 - 1 : 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況) 準学士課程においては、一般科目と専門科目の履修時間数を年次とともに楔形に組み、学年が上がるに連れて、一般科目が少なく専門科目が多くなるよう構成している。また、高学年では一部を選択科目として学生の多様なニーズに応えるよう配慮している。

一般科目の教育課程表を（資料 5 - 1 - - 1 ）に、専門学科の教育課程表を、機械工学科（資料 5 - 1 - - 2 ）、電気電子工学科（資料 5 - 1 - - 3 ）、電子制御工学科（資料 5 - 1 - - 4 ）、制御情報工学科（資料 5 - 1 - - 5 ）、物質工学科（資料 5 - 1 - - 6 ）の順に示す。

教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程の体系性が確保されているかを点検するため、本校の目的、教育目標、養成すべき人材像に書かれているキーワードを類別し、それらを達成するための授業科目の体系を一覧表（資料 5 - 1 - - 7 ）に整理した。

資料 5 - 1 - - 1 : 教育課程 一般科目

別表第 1

教育課程

一般科目 (各学科共通)

(平成17年度現在第1学年に在学する者に適用)

授業科目	単位数	学年別配当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国 語	4		2	2			
現 代 国 語	2		2				
古 典	1	1					
文 学 特 論	2				2		
哲 学	2					2	
歴 史	4		2	2			
地 理	2	2					
数 学 A I	6	2	2	2			上段は機械工学科,電気電子工学科,制御情報工学科,物質工学科が履修する。 下段は電子制御工学科が履修する。
	4	2	2				
数 学 A II	4	2	2	2			
	4	2	2				
数 学 A	2			2			電子制御工学科が履修する。
数 学 B	6	2	2	2			上段は機械工学科,電気電子工学科,制御情報工学科,物質工学科が履修する。 下段は電子制御工学科が履修する。
	4	2	2				
数 学 B I	2	2					電子制御工学科が履修する。
数 学 B II	2	2					
物 理	4	2	2				上段は機械工学科,電気電子工学科,電子制御工学科,制御情報工学科が履修する。 下段は物質工学科が履修する。
	5	2	2	1			
物 理 実 験	1		1				機械工学科,電気電子工学科,電子制御工学科,制御情報工学科が履修する。
化 学 I	2	2					
化 学 II	2		2				上段は機械工学科,電気電子工学科,電子制御工学科,制御情報工学科が履修する。 下段は物質工学科が履修する。
	2	2					
化 学 III	1		1				
生 物	1	1					
保 健	2		2				
体 育	8	2	2	2	2		
美 術	1	1					
音 楽	1	1					
総 合 英 語 A	8	2	2	2	2		
総 合 英 語 B	4	1	1	2			
英 語 W	4	2	2				
英 語 C	1	1					
ド イ ツ 語 I A	2				2		
ド イ ツ 語 I B	1				1		電子制御工学科が履修する。
地 球 環 境 学 概 論	1	1					機械工学科,電気電子工学科,制御情報工学科,物質工学科が履修する。
社 会 と 文 化	2			2			

授業科目	単位数	学年別配当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
法 学	2					2	法学,経済学のうち,いずれかを 選択して履修しなければならない。
経 済 学						2	
国 際 理 解	2					2	英語,ドイツ語II,フランス語,国 際教養のうち,いずれかを選択し て履修しなければならない。
ド イ ツ 語 II						2	
フ ラ ン ス 語						2	
国 際 教 養						2	
ド イ ツ 語 演 習 I	1				1		自由に選択し履修することが できる。
ド イ ツ 語 演 習 II	1					1	
日 本 語	5			2	2	1	外国人留学生は,国語,文学特論, 歴史,社会と文化,国際理解の履 修科目として履修しなければ ならない。
日 本 事 情	4			2	2		
数 学 演 習	2			2			
物 理 学 演 習	2			2			外国人留学生がこの科目を履修 することができる。
必 修 科 目 合 計	80	27	25	18	8	2	1. 上段は機械工学科,電気電子 工学科,制御情報工学科, 中段は電子制御工学科, 下段は物質工学科 2. 選択科目合計及び履修科目合 計は標準履修単位数
		28	25	16	9	2	
選 択 科 目 合 計	4					4	
履 修 科 目 合 計	84	27	25	18	8	6	
		28	25	16	9	6	
選 択 科 目 開 講 単 位 数	27			8	5	14	

(注) 上記に定める授業科目のほか,特別活動を90単位時間以上実施する。

(出典:平成17年度学生便覧 p.17,18)

資料 5 - 1 - - 2 : 機械工学科の教育課程

別表第 2

専門科目 機械工学科 (平成17年度現在第1・2学年に在学する者に適用)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用数学 A	2				2		
応用数学 B	2				2		
応用物理	4			2	2		
図学	1	1					
機械工学入門	1	1					
機構学	2			2			
工業力学	2			2			
金属材料学	3		2	1			
材料力学	4			2	2		
熱力学	2				2		
水力学	2				2		
力学演習	1				1		
機械工作法	4			2	2		
情報処理基礎	1	1					
プログラム演習	1		1				
電子計算機	1			1			
数値解析	1				1		
電気工学	1		1				
電子工学	2			2			
機械工作実習	9	3	3	3			
機械設計法	3				2	1	
機械設計製図	12	2	2	2	3	3	
自動制御	2					2	
電子計測	1					1	
伝熱工学	1					1	
流体機械	1					1	
機械計測	1				1		
数値制御	1				1		
経営工学	1					1	
エネルギー工学	1					1	
油空圧工学	1					1	
振動工学	1					1	
情報工学	1					1	
弾性力学	1					1	
塑性力学	1					1	
機械工学実験	6				3	3	
工業外国語 A	1					1	
工業外国語 B	1					1	
卒業研究	8					8	
機械要素学	1					1	いずれかの科目を選択し履修しなければならない。
トライボロジー	1					1	
現代物理学	1					1	いずれかの科目を選択し履修しなければならない。
メカトロニクス	1					1	
機械工学演習 I	2				2		編入生、留學生が履修できる。
機械工学演習 II	2					2	留學生が履修できる。
応用物理概論	1				1		編入生が履修できる。
学外実習 A	2					2	
学外実習 B	1					1	いずれかの科目を選択し履修することができる。
必修科目合計	91	8	9	19	26	29	
選択科目合計	2					2	選択科目合計は標準履修単位数
履修科目合計	93	8	9	19	26	31	
一般科目合計	84	27	25	18	8	6	
合計	177	35	34	37	34	37	
選択科目(専門)開講単位数	12				6	6	

(出典：平成17年度 学生便覧)

資料 5 - 1 - - 3 : 電気電子工学科の教育課程

専門科目 電気電子工学科 (平成17年度現在第1～5学年に在学する者に適用)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応 用 数 学 A	2				2		
応 用 数 学 B	2				2		
応 用 物 理	4			2	2		
電 磁 気	6		2	2	2		
直 流 回 路	2	2					
回 路 理 論	6		2	2	2		
回 路 網 理 論	2					2	
図 学 ・ 製 図	2	2					
情 報 処 理 基 礎	2	2					
必 ロジック回路	2		2				
必 プログラミング	2			2			
必 コンピュータ工学	1				1		
必 通 信 工 学	2				2		
必 情 報 理 論	2					2	
必 電 子 回 路	4			2	2		
必 電 子 回 路 設 計	1					1	
必 電 子 材 料	2				2		
必 気 体 電 子 工 学	2				2		
必 固 体 電 子 工 学	2					2	
必 マイクロ波工学	2					2	
選 電 気 電 子 計 測	2			2			
選 機 械 工 学 概 論	2			2			
選 電 気 電 子 機 器	2				2		
選 パワーエレクトロニクス	1					1	
選 自 動 制 御	1				1		
選 制 御 工 学	2					2	
選 電 力 工 学	2					2	
選 工 業 英 語	1					1	
選 電 気 電 子 工 学 実 験	15	1	4	4	4	2	
選 卒 業 研 究	10					10	
選 新エネルギー工学	1				1	1	4年または5年が履修できる。(集中講義)
選 CAD-CAMシミュレーション演習	1				1		
選 シミュレーション工学	1					1	
選 デジタル信号処理	1					1	
選 現 代 制 御 理 論	1					1	
選 オプトエレクトロニクス	1					1	
選 学 外 実 習 A	2				2		A、Bはいずれか選択して履修できる。
選 学 外 実 習 B	1				1		
選 応 用 物 理 概 論	1				1		編入生が履修できる。
専 門 必 修 科 目 合 計	88	7	10	18	26	27	
専 門 選 択 科 目 合 計	0						
専 門 履 修 科 目 合 計	88	7	10	18	26	27	
一 般 科 目 合 計	84	27	25	18	8	6	
合 計	172	34	35	36	34	33	
選 択 科 目 (専 門) 開 講 単 位 数	11				6	5	

(出典：平成17年度 学生便覧)

資料 5 - 1 - - 4 : 電子制御工学科の教育課程

専 門 科 目 電子制御工学科 (平成17年度現在第1～5学年に在学する者に適用)

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応 用 数 学	2				2		
工 学 数 理 I	2			2			
工 学 数 理 II	2				2		
工 学 数 理 演 習	1				1		
電 気 回 路	1	1					
回 路 理 論	2			2			
電 子 回 路	2			2			
線 形 回 路 解 析	2				2		
電 子 回 路 演 習	1				1		
電 磁 気 学 I	2			2			
電 磁 気 学 II	2				2		
回 路 学	1	1					
電 気・機 械 製 回	2		2				
電 子 機 械 基 礎 実 習	2			2			(旧名称「電子機械設計」)
電 子 機 械 設 計・製 作 I	2				2		
電 子 機 械 設 計・製 作 II	3				3		
計 算 機 基 礎	2		2				
計 算 機 工 学 I	2			2			
計 算 機 工 学 II	2				2		
情 報 処 理 基 礎 演 習 I	1	1					
情 報 処 理 基 礎 演 習 II	1	1					
U N I X 入 門	1		1				(旧名称「情報処理基礎演習Ⅱ」)
プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 入 門	1		1				(旧名称「情報処理基礎演習Ⅳ」)
C 言 語 基 礎 演 習	1			1			(旧名称「情報処理演習Ⅰ」)
C 言 語 応 用 演 習	1			1			(旧名称「情報処理演習Ⅱ」)
プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 演 習 Java I	1				1		
プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 演 習 Java II	1					1	
情 報 工 学	2				2		
制 御 工 学	2				2		
シ ス テ ム 制 御 工 学 I	1				1		
シ ス テ ム 制 御 工 学 II	1					1	
制 御 シ ス テ ム 設 計	1					1	
計 測 工 学	2				2		
通 信 工 学	2				2		
電 子 材 料	2				2		
集 積 回 路 工 学	1				1		
工 業 熱 力 学	2				2		
品 質 マ ネ ジ ム ン ト 工 学	1				1		
機 械 要 素	2		2				
材 料 力 学	2			2			
人 工 知 能	2					2	
環 境 学 基 礎	1					1	
電 子 制 御 工 学 実 験	16	3	3	4	4	2	
工 業 英 語	2				1	1	
卒 業 研 究	6					6	

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
工 学 数 理 特 論 *	4					4	自由に選択し履修することができる。(集中講義)ただし、*印の科目は、本年皮肉講しない。
量 子 力 学 *	1					1	
熱・流体力学特論*	2					2	
材 料 力 学 特 論 *	2					2	
電 子 機 械 設 計 演 習	1				1		
電 子 制 御 工 学 特 演 習	1					1	
ロ ボ ッ ト 工 学 演 習	1			1			
線 形 回 路 解 析 特 論 *	2					2	
情 報 処 理 特 演 習 I *	1			1			
情 報 処 理 特 演 習 II *	1				1		
情 報 処 理 特 論 *	1					1	
シ ス テ ム 工 学 特 論 *	2					2	
電 子 制 御 工 学 特 演 習	2			2			留学生在履修できる。(集中講義)
電 子 制 御 工 学 演 習 A *	2				2		編入生が履修できる。(集中講義)
電 子 制 御 工 学 演 習 B	2				2		留学生在履修できる。(集中講義)
物 理 学 演 習 *	2				2		編入生が履修できる。(集中講義)*
電 子 制 御 工 学 応 用 演 習	2					2	留学生在履修できる。(集中講義)
学 外 実 習 I	1			1			
学 外 実 習 II	1			1			
学 外 実 習 III	1				1		
学 外 実 習 IV	1					1	
学 外 実 習 V	1					1	
学 外 実 習 VI	1					1	
必 修 科 目 合 計	91	7	11	20	26	27	
選 択 科 目 合 計	0						
履 修 科 目 合 計	91	7	11	20	26	27	
一 般 科 目 合 計	84	28	25	16	9	6	
合 計	175	35	36	36	35	33	
選 択 科 目 (専 門) 履 修 単 位 数	35			6	10	19	ただし、*印の科目は、本年皮肉講しない。

(出典：平成17年度 学生便覧)

資料 5 - 1 - - 5 : 制御情報工学科の教育課程

専 門 科 目 制 御 情 報 工 学 科 (平成17年度現在第1～5学年に在学する者に適用)

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
工 業 力 学	2			2			
工 学 数 理	2				2		
応 用 物 理	2				2		
応 用 数 学	2				2		
工 業 英 語	2				1	1	
情 報 処 理 基 礎	2	2					
計 算 機 入 門	2	2					
電 子 計 算 機	2		2				
プ ロ グ ラ ミ ン グ	4		2	2			
オ ペ レ ー テ ィ ン グ シ ス テ ム	2			2			
情 報 処 理	2			2			
情 報 数 理 I	2			2			
図 形 処 理	2				2		
数 値 解 析	2				2		
テ ー タ 通 信	1					1	
人 工 知 能	2					2	
電 気 回 路	2		2				
電 子 回 路	2			2			
電 磁 気 学	2				2		
計 測 工 学	2				2		
自 動 制 御	2				2		
制 御 工 学	2					2	
材 料 工 学	1			1			
加 工 工 学	2			2			
生 産 シ ス テ ム 工 学	1					1	
シ ス テ ム 工 学	2					2	
計 算 機 シ ム ュ レ ー シ ョ ン	1					1	
デ ー タ ベ ー ス シ ス テ ム	1					1	
ロ ボ ッ ト 工 学	2					2	
メ カ ト ロ ニ ク ス	2			2			
設 計 工 学	2				2		
熱 ・ 統 計 力 学	1					1	
機 械 ・ 電 気 製 図	2		2				
創 造 設 計 +	3				3		
制 御 情 報 工 学 演 習 +	9	3	3	3			
工 学 実 験 +	6				3	3	機械工作実習を含む
卒 業 研 究 +	10					10	
情 報 数 理 II	2				2		1科目以上履修しなければならない。
流 体 力 学	2				2		
数 理 計 画 法	1					1	
振 動 工 学	1					1	
流 体 応 用 工 学	1					1	
精 密 工 学	1					1	
情 報 数 理 III	1					1	
現 代 物 理 学	1					1	
制 御 情 報 工 学 基 礎 演 習 I	2			2			留学生在履修(必修)
制 御 情 報 工 学 基 礎 演 習 II	2				2		編入学生、留学生は必修。
応 用 物 理 概 論	1				1		編入学生が履修(必修)
学 外 実 習 A	2				2		A、Bはいずれか選択して履修できる
学 外 実 習 B	1				1		
必 修 科 目 合 計	90	7	11	20	25	27	標準履修単位数
選 択 科 目 合 計	5				2	3	
履 修 科 目 合 計	95	7	11	20	27	30	
一 般 科 目 合 計	84	27	25	18	8	6	
合 計	179	34	36	38	35	36	
選 択 科 目 (専 門) 開 講 単 位 数	18			2	10	6	

+印の科目は修得しないと進級・卒業できない「修得必須科目」である。

(出典：平成17年度 学生便覧)

資料 5 - 1 - - 6 : 物質工学科の教育課程

専門科目 物質工学科 (平成17年度現在第1～3学年に在学する者に適用)

授業科目	単位数	学年別配当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
分析化学	2		2				
無機化学 1	2			2			
無機化学 2	1				1		
有機化学 1	4			2	2		
物理化学 1	2			2			
物理化学 2	2				2		
微生物学	1		1				
基礎生物化学	1		1				
生物化学 1	2			2			
生物化学 2	1				1		
基礎化学工学	1			1			
必 化学工学 1	1				1		
化学工学 2	1				1		
化学工学 3	1					1	
反応工学	1					1	
環境工学	1					1	
機器分析	1				1		
安全工学	1					1	
品質管理	1					1	
物質工学総論	1					1	
応用数学 1	1				1		
応用物理 1	3			1	2		
電子機器	1				1		
機械工学概論	1					1	
化学製図	2	2					
修 情報基礎	1	1					
情報処理	1	1					
科学英語	4				2	2	
基礎化学実験	1	1					
分析化学実験	3		3				
無機化学実験	3		3				
微生物実験	2		2				
有機化学実験	3			3			
生物化学実験	2			2			
物理化学実験	3			3			
化学工学実験	2				2		
卒業研究	10					10	
材料コース必修							
無機材料化学	2				2		
有機材料化学	2					2	酵素工学と並列
有機化学 2	1					1	生物工学コースの学生は選択科目として履修
材料物性化学	1					1	
材料化学実験 1	2				2		
材料化学実験 2	2				2		

(出典：平成17年度 学生便覧)

前ページからの続き

(資料5-1-6:物質工学科の教育課程)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
生物 コ ー ス 必 修	分子生物学	2			2			
	培養工学	1				1	材料化学コースの学生は選択科目として履修	
	細胞工学	2				2		
	遺伝子工学	1				1		
	酵素工学	2				2	有機材料化学と並列	
	生物工学実験1	2			2			
	生物工学実験2	2			2			
選	物質工学演習	1			1		応用数学2と並列	
	応用数学2	2			1	1	4年:物質工学演習 5年:物理化学3と並列	
	応用物理概論	1			1		編入生が履修できる。	
	学外実習1	1			1		本科目を修得した場合は、学外実習2を履修することはできない。	
	学外実習2	2			2		本科目を修得した場合は、学外実習3を履修することはできない。	
	学外実習3	1				1	学外実習2を修得した学生は本科目を履修することはできない。	
	特別物質工学実習	1		1	1	1	3～5年で1単位まで修得できる。	
	触媒工学	1				1	生物有機化学と並列	
	生物有機化学	1				1	触媒工学と並列	
	薬理学	1				1		
択	プロセス制御	1				1	触媒工学からグリーンケミストリまでの9科目と応用数学2の合計10科目から4科目以上を選択する。	
	食品工学	1				1		
	応用物理2	1				1		
	機器分析2	1				1		
	物理化学3	1				1	応用数学2と並列	
	グリーンケミストリ	1				1		
	基礎分析化学実験	1		1	1		留学生(3年),編入生(4年)(必修・集中)	
	基礎有機化学実験	1			1		編入生が履修する。(必修・集中)	
専 門	必修科目合計	81 (80)	5	12	18	23	23 (25)	必修科目合計は標準履修単位数 ()は生物コース
	選択科目合計	5			1	4	4	選択科目合計は標準履修単位数
	履修科目合計	86 (80)	5	12	18	24	27 (20)	()は生物コース
一般科目合計	84	29	22	19	8	6		
合 計	170 (172)	34	34	37	32	33 (35)	()は生物コース	
選択科目(専門)開講単位数	23			2	9	12		

(出典:平成17年度 学生便覧)

資料5 - 1 - - 7 : 教育の目的等と授業科目の体系との対応

教育の目的等と授業科目の体系との対応

目的	教育目標	養成すべき人材像	対応する授業科目の体系
地域産業に寄与する社会的使命と役割の認識		企業からの信頼 指導的実践的技術者	人文・社会系の授業科目の体系 数学・自然科学系の授業科目の体系 実践的、創造的授業科目の体系
時代の変化に即応	コミュニケーション能力 国際感覚	進取の気風 新たな発想、技術革新	語学系と総合系(環境・国際性)の授業科目の体系 実践的、創造的授業科目の体系
豊かな人間性の形成 教養教育の充実	教養教育 低学年全寮制 全人格教育	幅の広い豊かな教養	一般科目の体系 (寮における教育、指導) (特別活動)
実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育	実験・実習教育 情報技術教育 早期専門教育	質の高い専門の工業技術・知識	実験・実習・演習の授業科目の体系 情報技術系の授業科目の体系 主となる専門科目の体系
実践的技術者の養成		ものづくりの基盤技術と創造性	実践的、創造的授業科目の体系

(出典：本校の目的，教育目標，養成すべき人材像及び平成 17 年度シラバスを基に作成)

上記表に基づいて，授業科目を 人文・社会系の授業科目の体系（資料5 - 1 - - 8）， 数学・自然科学系の授業科目の体系（資料5 - 1 - - 9）， 語学系と総合系(環境・国際性)の授業科目の体系（資料5 - 1 - - 10）， 一般科目の体系（資料5 - 1 - - 11）， 実験・実習・演習の授業科目の体系（資料5 - 1 - - 12）， 情報技術系の授業科目の体系（資料5 - 1 - - 13）， 主となる専門科目の体系（資料5 - 1 - - 14）， 実践的，創造的授業科目の体系（資料5 - 1 - - 15）にまとめて整理した。（資料5 - 1 - - 8～15）において灰色網掛けで表記した科目は専門科目であり，網掛け無しの科目は一般科目である。

一般科目では，専門教育の基礎となる数学，物理，化学と，併せて，コミュニケーション能力育成のための国語と英語を低学年に多く配置し，その他，豊かな人間性の形成と国際感覚育成のために芸術系，保健・体育系，人文・社会系および語学系の科目を適切に配置し，高学年では一部を選択科目として学生の多様なニーズに応えるよう配慮している（資料5 - 1 - - 8～11）。

5 学科すべての 1 年次に情報処理の基礎科目を配置し（資料5 - 1 - - 13），総合情報センターが全学生に対して演習を主にした基礎教育を行っている。また，全ての学科で実験・実習・演習科目を低学年より設け，座学で学んだ理論を各段階で体験を通して実践できる技術として身につくよう配慮し（資料5 - 1 - - 12），5 年次では全ての学科で卒業研究を置き，学生と教員が身近に触れながら研究活動を進める中で，独創的・創造的素養を育てるとともに，全人格的な人間形成を図っている（資料5 - 1 - - 15）。専門科目の内容は学年が上がるにつれて基礎的なものから応用的・実践的なものになるように配置し，高学年では選択科目の数を増やし学生のニーズの多様化に応えている（資料5 - 1 - - 14）。

以上の結果から，本校の目的，教育目標等に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程の体系性が確保されていることが確認できる。

資料 5 - 1 - - 8 : 人文・社会系の授業科目の体系

人文・社会系の授業科目の体系					
専門学科	1年	2年	3年	4年	5年
5学科共通	現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)	
	古典(1)				
	地理(2)	歴史(2)	歴史(2)	社会と文化(2)	哲学(2)
					法学(2) / 経済学(2)
					<いずれか選択>

(出典：平成 17 年度 教育課程から抜粋整理)

資料 5 - 1 - - 9 : 数学・自然科学系の授業科目の体系

数学・自然科学系の授業科目の体系					
専門学科	1年	2年	3年	4年	5年
機械工学科	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)	応用数学 A(2)	
	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)	応用数学 B(2)	
	数学 B(2)	数学 B(2)	数学 B(2)		
	物理(2)	物理(2)	応用物理(2)	応用物理(2)	現代物理学(1)<選択>
		物理実験(1)			
	化学 (2)	化学 (2)			
		化学 (1)			
	生物(1)				
電気電子工学科	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)	応用数学 A(2)	
	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)	応用数学 B(2)	
	数学 B(2)	数学 B(2)	数学 B(2)		
	物理(2)	物理(2)	応用物理(2)	応用物理(2)	
		物理実験(1)			
	化学 (2)	化学 (2)			
		化学 (1)			
	生物(1)				
電子制御工学科	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A(2)	応用数学(2)	
	数学 A (2)	数学 A (2)			
	数学 B (2)	数学 B(2)	数学 B(2)	工学数理 (2)	
	数学 B (2)		工学数理 (2)	工学数理演習(1)	
	物理(2)	物理(2)	電磁気学 (2)	電磁気学 (2)	
		物理実験(1)	物理学演習(2)<選択>	物理学演習(2)<選択>	
	化学 (2)	化学 (2)			
		化学 (1)			
	生物(1)				
制御情報工学科	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)	工学数理(2)	
	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)	応用数学(2)	
	数学 B(2)	数学 B(2)	数学 B(2)		
	物理(2)	物理(2)	工業力学(2)	応用物理(2)	現代物理学(1) <選択>
		物理実験(1)			
	化学 (2)	化学 (2)			
		化学 (1)			
	生物(1)				
物質工学科	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)	応用数学 1(1)	
	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)	応用数学 2(1) <選択>	応用数学 2(1) <選択>
	数学 B(2)	数学 B(2)	数学 B(2)		
	物理(2)	物理(2)	物理(1)		
			応用物理 1(1)	応用物理 1(2)	応用物理 2(1) <選択>
	化学 (2)	分析化学(2)	物理化学 1(2)	物理化学 2(2)	物理化学 3(1) <選択>
	化学 (2)	化学 (1)	無機化学 1(2)	無機化学 2(1)	
	生物(1)	微生物学(1)	生物化学 1(2)	生物化 2(1)	
			有機化学 1(2)	有機化学 1(2)	生物有機化学(1) <選択>

注) 灰色網掛は専門科目，網掛け無しは一般科目である。

(出典：平成 17 年度 教育課程から抜粋整理)

資料 5 - 1 - - 10 : 語学系と総合系(環境・国際性)の授業科目の体系

語学系と総合系(環境・国際性)の授業科目の体系					
専門学科	1年	2年	3年	4年	5年
機械工学科	現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)	
	古典(1)				
	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	工業外国語 A(1)
	総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)		工業外国語 B(1)
	英語W(2)	英語W(2)			
	英語C(1)			ドイツ語 A(2)	
				ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	地球環境学概論(1)		社会と文化(2)		国際理解(2) < 英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択 >
電気電子工学科	現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)	
	古典(1)				
	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	工業英語(1)
	総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)		
	英語W(2)	英語W(2)			
	英語C(1)			ドイツ語 A(2)	
				ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	地球環境学概論(1)		社会と文化(2)		国際理解(2) < 英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択 >
電子制御工学科	現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)	
	古典(1)				
	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	
	総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)	工業英語(1)	工業英語(1)
	英語W(2)	英語W(2)			
	英語C(1)			ドイツ語 A(2)	
				ドイツ語 B(1)	
				ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
			社会と文化(2)		環境学基礎(1)
					国際理解(2) < 英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択 >
制御情報工学科	現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)	
	古典(1)				
	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	
	総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)	工業英語(1)	工業英語(1)
	英語W(2)	英語W(2)			
	英語C(1)			ドイツ語 A(2)	
				ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	地球環境学概論(1)		社会と文化(2)		国際理解(2) < 英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択 >
物質工学科	現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)	
	古典(1)				
	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	
	総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)	科学英語(2)	科学英語(2)
	英語W(2)	英語W(2)			
	英語C(1)			ドイツ語 A(2)	
				ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	地球環境学概論(1)		社会と文化(2)		国際理解(2) < 英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択 >

注) 灰色網掛は専門科目, 網掛け無しは一般科目である。

(出典 : 平成 17 年度 教育課程から抜粋整理)

資料 5 - 1 - - 11 : 一般科目の体系

一般科目の体系							
対象専門学科	分類	1年	2年	3年	4年	5年	
機械工学科 電気電子工学科 制御情報工学科	自然科学系	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)			
		数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)			
		数学 B(2)	数学 B(2)	数学 B(2)			
		物理(2)	物理(2)				
			物理実験(1)				
		化学 (2)	化学 (2)				
			化学 (1)				
		生物(1)					
		総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)		
		総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)			
	語学系	英語 W(2)	英語 W(2)				
		英語 C(1)			ドイツ語 A(2)		
					ドイツ語演習 (1) <選択>	ドイツ語演習 (1) <選択> 国際理解(2) <英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択>	
		現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)		
		古典(1)				哲学(2)	
		地理(2)	歴史(2)	歴史(2)		法学(2) / 経済学(2) (いずれか選択)	
				社会と文化(2)			
		総合系	地球環境学概論(1)				国際理解(2) <英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択>
		保険・体育系	体育(2)	体育(2)	体育(2)	体育(2)	
		保健(2)					
電子制御工学科	自然科学系	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A(2)			
		数学 A (2)	数学 A (2)				
		数学 B (2)	数学 B(2)	数学 B(2)			
		数学 B (2)					
		物理(2)	物理(2)				
			物理実験(1)				
		化学 (2)	化学 (2)				
			化学 (1)				
		生物(1)					
		総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)		
	語学系	総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)			
		英語 W(2)	英語 W(2)				
		英語 C(1)			ドイツ語 A(2)		
					ドイツ語 B(1)		
					ドイツ語演習 (1) <選択>	ドイツ語演習 (1) <選択> 国際理解(2) <英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択>	
		現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)		
		古典(1)				哲学(2)	
		地理(2)	歴史(2)	歴史(2)		法学(2) / 経済学(2) (いずれか選択)	
		総合系				国際理解(2) <英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択>	
		保険・体育系	体育(2)	体育(2)	体育(2)	体育(2)	
保健(2)							
物質工学科	自然科学系	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)			
		数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)			
		数学 B(2)	数学 B(2)	数学 B(2)			
		物理(2)	物理(2)	物理(1)			
		化学 (2)					
		化学 (2)	化学 (1)				
		生物(1)					
		総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)		
		総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)			
		英語 W(2)	英語 W(2)				
	語学系	英語 C(1)			ドイツ語 A(2)		
					ドイツ語演習 (1) <選択>	ドイツ語演習 (1) <選択> 国際理解(2) <英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択>	
		地球環境学概論(1)		社会と文化(2)			
		現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)		
		古典(1)				哲学(2)	
		地理(2)	歴史(2)	歴史(2)		法学(2) / 経済学(2) (いずれか選択)	
				社会と文化(2)			
		総合系	地球環境学概論(1)			国際理解(2) <英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択>	
		保険・体育系	体育(2)	体育(2)	体育(2)	体育(2)	
		保健(2)					
制御情報工学科	自然科学系	数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)			
		数学 A (2)	数学 A (2)	数学 A (2)			
		数学 B(2)	数学 B(2)	数学 B(2)			
		物理(2)	物理(2)	物理(1)			
		化学 (2)					
		化学 (2)	化学 (1)				
		生物(1)					
		総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)	総合英語 A(2)		
		総合英語 B(1)	総合英語 B(1)	総合英語 B(2)			
		英語 W(2)	英語 W(2)				
	語学系	英語 C(1)			ドイツ語 A(2)		
					ドイツ語演習 (1) <選択>	ドイツ語演習 (1) <選択> 国際理解(2) <英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択>	
		地球環境学概論(1)		社会と文化(2)			
		現代国語(2)	国語(2)	国語(2)	文学特論(2)		
		古典(1)				哲学(2)	
		地理(2)	歴史(2)	歴史(2)		法学(2) / 経済学(2) (いずれか選択)	
				社会と文化(2)			
		総合系	地球環境学概論(1)			国際理解(2) <英語、ドイツ語、フランス語、国際教養から選択>	
		保険・体育系	体育(2)	体育(2)	体育(2)	体育(2)	
		保健(2)					

(出典：平成 17 年度 教育課程から抜粋整理)

資料5 - 1 - - 12 : 実験・実習・演習の授業科目の体系

実験・実習・演習の授業科目の体系						
専門学科	1年	2年	3年	4年	5年	
機械工学科	機械工作実習(3) < 実習 > 機械設計製図(2) < 演習 >	機械工作実習(3) < 実習 > 機械設計製図(2) < 演習 >	機械工作実習(3) < 実習 > 機械設計製図(2) < 演習 >	機械設計製図(3) < 演習 > 機械工学実験(3) < 実験 >	機械設計製図(3) < 演習 > 機械工学実験(3) < 実験 > 卒業研究(8) < 研究 > 工業外国語 A(1) < 演習 > 工業外国語 B(1) < 演習 > 学外実習 A(2) < 4.5年で選択 > 学外実習 B(1) < 4.5年で選択 > 学外実習 B(1) < 4.5年で選択 >	
		プログラム 演習(1) < 演習 >				
					学外実習 A(2) < 4.5年で選択 > 学外実習 B(1) < 4.5年で選択 > 応用物理(2) < 前期、実験 >	
	化学 (2) < 講義と実験 >	物理実験(1) < 実験 > 化学 (2) < 講義と実験 > 化学 (1) < 講義と実験 >				
		総合英語 A(2) < 講義と演習 > 総合英語 B(1) < 講義と演習 >			ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	体育(2) < 実習 >	体育(2) < 実習 > 保健(2) < 講義と実習 >	体育(2) < 実習 >	体育(2) < 実習 >		
電気電子工学科	電気電子工学実験(1) < 実験 >	電気電子工学実験(4) < 実験 >	電気電子工学実験(4) < 実験 >	電気電子工学実験(4) < 実験 >	電気電子工学実験(2) < 実験 > 卒業研究(10) < 研究 > 学外実習 A(2) < 4.5年で選択 > 学外実習 B(1) < 4.5年で選択 > 学外実習 B(1) < 4.5年で選択 >	
				学外実習 A(2) < 4.5年で選択 > 学外実習 B(1) < 4.5年で選択 > 応用物理(2) < 前期、実験 >		
		物理実験(1) < 実験 >				
	化学 (2) < 講義と実験 >	化学 (2) < 講義と実験 > 化学 (1) < 講義と実験 >				
		総合英語 A(2) < 講義と演習 > 総合英語 B(1) < 講義と演習 >			ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	体育(2) < 実技 >	体育(2) < 実技 > 保健(2) < 講義と実習 >	体育(2) < 実技 >	体育(2) < 実技 >		
電子制御工学科	電子制御工学実験(3) < 実験 >	電子制御工学実験(3) < 実験 >	電子制御工学実験(4) < 実験 > 電子機械基礎実習(2) < 実習 > ロボット工学演習(1) < 演習 >	電子制御工学実験(4) < 実験 > 電子機械設計・製作 (2) < 実習 > 電子機械設計・製作 (3) < 実習 > 電子機械設計演習(1) < 実習 >	電子制御工学実験(2) < 実験 > 卒業研究(6) < 研究 > 電子制御工学特別演習(1) < 選択 > 工業英語(1) < 演習 > 学外実習 (1) < 実習 > 学外実習 (1) < 実習 >	
		UNIX入門(1) < 演習 > プログラミング入門(1) < 演習 >	C言語基礎演習(1) < 演習 > C言語応用演習(1) < 演習 > 学外実習 (1) < 実習 > 学外実習 (1) < 実習 >	学外実習 (1) < 実習 > 学外実習 (1) < 実習 >		
		物理実験(1) < 実験 >				
	化学 (2) < 講義と実験 >	化学 (2) < 講義と実験 > 化学 (1) < 講義と実験 >				
		総合英語 A(2) < 講義と演習 > 総合英語 B(1) < 講義と演習 >			ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	体育(2) < 実技 >	体育(2) < 実技 > 保健(2) < 講義と実習 >	体育(2) < 実技 >	体育(2) < 実技 >		
制御情報工学科	制御情報工学演習(3) < 演習 >	制御情報工学演習(3) < 演習 > 機械・電気製図(2) < 演習 >	制御情報工学演習(3) < 演習 >	創造設計(3) < 実習 > 工学実験(3) < 実験 > 学外実習 A(2) < 実習 > 学外実習 B(1) < 実習 > 数値解析(2) < 講義と演習 > 応用物理(2) < 前期、実験 >	卒業研究(10) < 研究 > 工学実験(3) < 実験 > 精密工学(1) < 講義と演習 >	
		物理実験(1) < 実験 >				
	化学 (2) < 講義と実験 >	化学 (2) < 講義と実験 > 化学 (1) < 講義と実験 >				
		総合英語 A(2) < 講義と演習 > 総合英語 B(1) < 講義と演習 >			ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	体育(2) < 実技 >	体育(2) < 実技 > 保健(2) < 講義と実習 >	体育(2) < 実技 >	体育(2) < 実技 >		
物質工学科	基礎化学実験(1) < 実験 >	分析化学実験(3) < 実験 > 無機化学実験(3) < 実験 >	有機化学実験(3) < 実験 > 生物化学実験(2) < 実験 > 物理化学実験(3) < 実験 >	化学工学実験(2) < 実験 > 材料化学実験 1(2) < 実験 材料コース > 材料化学実験 2(2) < 実験 材料コース > 生物工学実験 1(2) < 実験 生物コース > 生物工学実験 2(1) < 実験 生物コース > 物質工学演習(1) < 実習・選択 > 特別物質工学実習(1) < 実習・3-5年次選択 > 応用物理(2) < 前期、実験 > 学外実習 1(1) < 実習・選択 > 学外実習 2(2) < 実習・選択 >	卒業研究(10) < 研究 > 有機材料化学(2) < 講義と演習 > 機械工学概論(1) < 実習 > 機器分析 2(1) < 講義と演習・選択 > 学外実習 3(1) < 実習・選択 >	
	化学 (2) < 講義と実験 >	化学 (2) < 講義と実験 >				
	化学 (2) < 講義と実験 >	化学 (1) < 講義と実験 >				
		総合英語 A(2) < 講義と演習 > 総合英語 B(1) < 講義と演習 >			ドイツ語演習 (1) < 選択 >	ドイツ語演習 (1) < 選択 >
	体育(2) < 実技 >	体育(2) < 実技 > 保健(2) < 講義と実習 >	体育(2) < 実技 >	体育(2) < 実技 >		

注) 灰色網掛は専門科目，網掛け無しは一般科目である。

シラバスに授業形態が「講義」と記されている科目も演習が 80%程度以上占める科目は<演習>として記述した。

(出典：平成 17 年度 教育課程から抜粋整理)

資料 5 - 1 - - 13 : 情報技術系の授業科目の体系

情報技術系の授業科目の体系					
専門学科	1年	2年	3年	4年	5年
機械工学科	情報処理基礎(1)	プログラム演習(1)	電子計算機(1)	数値解析(1)	情報工学(1)
電気電子工学科	情報処理基礎(2)	ロジック回路(2)	プログラミング(2)	コンピュータ工学(1) 通信工学(2)	情報理論(2) シミュレーション工学(1) < 選択 > デジタル信号処理(1) < 選択 >
電子制御工学科	情報処理基礎演習 (1) 情報処理基礎演習 (1)	計算機基礎(2) UNIX入門(1) プログラミング入門(1)	計算機工学 (2) C言語基礎演習(1) C言語応用演習(1)	計算機工学 (2) プログラミング言語Java (1)	情報工学(2) プログラミング言語Java (1) 通信工学(2) 人工知能(2)
制御情報工学科	情報処理基礎(2) 計算機入門(2)	電子計算機(2) プログラミング(2)	情報処理(2) プログラミング(2) オペレーティングシステム(2) 情報数理 (2) 制御情報工学演習(3) < プログラミング演習含む >	図形処理(2) 数値解析(2) 情報数理 (2) < 選択 >	データ通信(1) 人工知能(2) 計算機シミュレーション(1) データベースシステム(1) 情報数理 (1) < 選択 >
物質工学科	情報基礎(1) 情報処理(1)				

(出典 : 平成 17 年度 教育課程から抜粋整理)

資料 5 - 1 - - 14 : 主となる専門科目の体系

主となる専門科目の体系						
専門学科	系統	1年	2年	3年	4年	5年
機械工学科	実験・実習	機械工作実習(3) < 実習 > 機械設計製図(2) < 演習 >	機械工作実習(3) < 実習 > 機械設計製図(2) < 演習 >	機械工作実習(3) < 実習 > 機械設計製図(2) < 演習 >	機械工学実験(3) < 実験 > 機械設計製図(3) < 演習 >	機械設計製図(3) < 演習 > 機械工学実験(3) < 実験 > 卒業研究(8)
	力学			材料力学(2) 工業力学(2)	材料力学(2) 熱力学(2) 水力学(2) 水力学演習(1)	弾性力学(1) 伝熱工学(1) 流体機械(1) 油圧工学(1) 塑性力学(1) エネルギー工学(1) 振動工学(1)
	設計・製作	機械工学入門(1) 図学(1)	金属材料学(2)	金属材料学(1) 機構学(2) 機械工作法(2)	機械設計法(2) 機械工作法(2)	機械設計法(1) 機械要素学(1) < 選択 > トライボロジー(1) < 選択 >
	計測・制御・情報	情報処理基礎(1)	プログラム演習(1) 電気工学(1)	電子計算機(1) 電子工学(1)	数値解析(1) 数値制御(1) 機械計測(1)	情報工学(1) 自動制御(2) 電子計測(1) メカトロニクス(1) < 選択 > 経営工学(1)
	その他					
電気電子工学科	実験・実習	電気電子工学実験(1) < 実験 >	電気電子工学実験(4) < 実験 >	電気電子工学実験(4) < 実験 >	電気電子工学実験(4) < 実験 >	電気電子工学実験(2) < 実験 > 卒業研究(10)
	共通基礎	直流回路(2) 情報処理基礎(2)	電磁気学(2) 回路理論(2) ロジック回路(2)	電磁気学(2) 回路理論(2) プログラミング(2) 電気電子計測(2) 電子回路(2)	電磁気学(2) 回路理論(2)	回路網理論(2) シミュレーション工学(1) < 選択 >
	電子回路・デバイス				電子回路(2) 電子材料(2) 気体電子工学(2) CAD 回路シミュレーション演習(1)、選択 >	電子回路設計(1) 固体電子工学(2)
	電気エネルギー				電気電子機器(2) 自動制御(1) 新エネルギー工学(1) < 4, 5年次選択 >	電力工学(2) 制御工学(2) 現代制御理論(1) < 選択 > パワーエレクトロニクス(1)
	情報・通信				コンピュータ工学(1) 通信工学(2)	情報理論(2) マイクロ波工学(2) オペレトニクス(1) < 選択 > デジタル信号処理(1) < 選択 >
	その他	図学・製図(2)		機械工学概論(2)		
電子制御工学科	実験・実習	電子制御工学実験(3) < 実験 >	電子制御工学実験(3) < 実験 >	電子制御工学実験(4) < 実験 > 電子機械基礎実習(2) < 実習 >	電子制御工学実験(4) < 実験 > 電子機械設計・製作 (2) < 実習 > 電子機械設計・製作 (3) < 実習 > 電子機械設計演習(1) < 実習 >	電子制御工学実験(2) < 実験 > 卒業研究(6) < 研究 >
	設計・計画	電気回路(1) 図学(1)	電気・機械製図(2) 機械要素(2)	回路理論(2) 電子回路(2) 材料力学(2)	線形回路解析(2) 電子回路演習(1)	計測工学(2)
	情報・論理	情報処理演習基礎 (1) 情報処理演習基礎 (1)	計算機基礎(2) UNIX入門(1) プログラミング入門(1)	計算機工学 (2) C言語基礎演習(1) C言語応用演習(1)	計算機工学 (2) プログラミング言語Java (1) 制御工学(2) システム制御工学 (1)	情報工学(2) プログラミング言語Java (1) 制御システム設計(1) システム制御工学 (1) 通信工学(2) 人工知能(2) 工業熱力学(2) 電子材料(2) 集積回路工学(1) 品質マネジメント工学(1) 環境学基礎(1)
	解析 材料・化学・バイオ					
	技術関連					
	演習			ロボット工学演習(1) < 選択 > 電子制御工学基礎演習(2) < 選択 >	電子制御工学演習(2) < 選択 >	電子制御工学特別演習(1) < 選択 > 電子制御工学応用演習 < 選択 >

(出典 : 平成 17 年度 教育課程から抜粋整理)

前ページからの続き

(資料5 - 1 - - 14 : 主となる専門科目の体系)

制御情報工学科	実験・実習	制御情報工学演習(3) <演習>	制御情報工学演習(3) <演習>	制御情報工学演習(3) <演習>	創造設計(3) <実習> 工学実験(3) <実験>	卒業研究(10) <研究> 工学実験(3) <実験>
	情報	情報処理基礎(2) 計算機入門(2)	電子計算機(2) プログラミング(2)	情報処理(2) プログラミング(2) オペレーティングシステム(2) 情報数理	図形処理(2) 数値解析(2) 情報数理 (2) <選択>	人工知能(2) 計算機シミュレーション(1) データベースシステム(1) 情報数理 (1) <選択> 数理計画法(1) <選択>
	電気・磁気 制御		電気回路(2)	電子回路(2)	電磁気学(2) 自動制御(2)	制御工学(2) システム工学(2)
	機械			メカトロニクス(2)	流体力学(2) <選択>	流体応用工学(1) <選択> ロボット工学(2) 熱・統計力学(1)
	システム統合				設計工学(2) 計測工学(2)	生産システム工学(1) 振動工学(1) <選択> データ通信(1)
	モノづくり		機械・電気製図(2)	加工工学(2) 材料工学(1)	機械工作実習(1.5) <工学実験を含む>	精密工学(1) <選択>
物質工学科	実験・実習	基礎化学実験(1) <実験>	分析化学実験(3) <実験> 無機化学実験(3) <実験> 微生物学実験(2) <実験>	有機化学実験(3) <実験> 生物化学実験(2) <実験> 物理化学実験(3) <実験>	化学工学実験(2) <実験> 材料化学実験 1(2) <実験> 材料化学実験 2(2) <実験> 物質工学演習(1) <実習・選択>	卒業研究(10) <研究> 特別物質工学実習(1) <3～5年次選択>
	専門基礎		分析化学(2) 微生物学(1) 基礎生物化学(1)	無機化学 1(2) 生物化学 1(2) 基礎化学工学(1) 物理化学 1(2)	無機化学 1(1)	
	分析化学 物理化学				機器分析(1) 物理化学 2(2) 無機材料化学(2)	機器分析 2(1) <選択> 材料物性化学(1) 物理化学 3(1) <選択>
材料コース	有機化学			有機化学 1(2)	有機化学 1(2)	有機材料化学(2) 有機化学 2(1) グリーンケミストリ(1) <選択>
	生物化学				生物化学 2(1)	培養工学(1) <選択> 薬理学(1) <選択> 食品工学(1) <選択> 生物有機化学(1) <選択>
	化学工学				化学工学 1(1) 化学工学 2(1)	化学工学 3(1) 反応工学(1) 環境工学(1) 安全工学(1) 触媒工学(1) <選択> プロセス制御(1) <選択>
	その他	化学製図(2)				機械工学概論(1) 品質管理(1) 物質工学総論(1) 応用物理 2(1) <選択>
	実験・実習	基礎化学実験(1) <実験>	分析化学実験(3) <実験> 無機化学実験(3) <実験> 微生物学実験(2) <実験>	有機化学実験(3) <実験> 生物化学実験(2) <実験> 物理化学実験(3) <実験>	化学工学実験(2) <実験> 生物工学実験 1(2) <実験> 生物工学実験 2(2) <実験> 物質工学演習(1) <実習・選択>	卒業研究(10) <研究> 特別物質工学実習(1) <3～5年次選択>
	専門基礎		分析化学(2) 微生物学(1) 基礎生物化学(1)	無機化学 1(2) 生物化学 1(2) 基礎化学工学(1) 物理化学 1(2)	無機化学 1(1)	
	分析化学 物理化学 有機化学				機器分析(1) 物理化学 2(2) 有機化学 1(2)	機器分析 2(1) <選択> 物理化学 3(1) <選択> 有機化学 2(1) <選択> グリーンケミストリ(1) <選択>
生物コース	生物化学				生物化学 2(1) 分子生物学(2)	培養工学(1) 細胞工学(2) 遺伝子工学(1) 酵素工学(2) 薬理学(1) <選択> 食品工学(1) <選択> 生物有機化学(1) <選択>
	化学工学				化学工学 1(1) 化学工学 2(1)	化学工学 3(1) 反応工学(1) 環境工学(1) 安全工学(1) 触媒工学(1) <選択> プロセス制御(1) <選択>
	その他	化学製図(2)				機械工学概論(1) 品質管理(1) 物質工学総論(1) 応用物理 2(1) <選択>

(出典:平成17年度 教育課程から抜粋整理)

資料5 - 1 - - 15：実践的，創造的授業科目の体系

実践的、創造的授業科目の体系					
専門学科	1年	2年	3年	4年	5年
機械工学科	機械工作実習(3) <実習> 機械設計製図(2) <演習>	機械工作実習(3) <実習> 機械設計製図(2) <演習>	機械工作実習(3) <実習> 機械設計製図(2) <演習>	機械設計製図(3) <演習> 機械工学実験(3) <実験> 学外実習 A(2)<4.5年で選択> 学外実習 B(1)<4.5年で選択>	卒業研究(8) <研究> 機械設計製図(3) <演習> 機械工学実験(3) <実験> 学外実習 A(2)<4.5年で選択> 学外実習 B(1)<4.5年で選択>
電気電子工学科	電気電子工学実験(1) <実験> 図学 製図(2)	電気電子工学実験(4) <実験>	電気電子工学実験(4) <実験> 機械工学概論(2) <工作実習含む>	電気電子工学実験(4) <実験> 学外実習 A(2)<4.5年で選択> 学外実習 B(1)<4.5年で選択>	卒業研究(10) <研究> 電気電子工学実験(2) <実験> 学外実習 A(2)<4.5年で選択> 学外実習 B(1)<4.5年で選択>
電子制御工学科	電子制御工学実験(3) <実験>	電子制御工学実験(3) <実験・工作実習含む> 電気 機械製図(2)	電子制御工学実験(4) <実験> 電子機械基礎実習(2) <実習> ロボット工学演習(1) <演習> C言語基礎演習(1) <演習> C言語応用演習(1) <演習> 学外実習 (1) <実習> 学外実習 (1) <実習>	電子制御工学実験(4) <実験> 電子機械設計 製作 (2) <実習> 電子機械設計 製作 (3) <実習> 電子機械設計演習(1) <実習> 学外実習 (1) <実習> 学外実習 (1) <実習>	卒業研究(6) <研究> 電子制御工学実験(2) <実験> 電子制御工学特別演習(1) <選択> 学外実習 (1) <実習> 学外実習 (1) <実習>
制御情報工学科	制御情報工学演習(3) <演習>	制御情報工学演習(3) <演習> 機械 電気製図(2) <演習>	制御情報工学演習(3) <演習>	創造設計(3) <実習> 工学実験(3) <実験・工作実習含む> 学外実習 A(2) <実習> 学外実習 B(1) <実習>	卒業研究(10) <研究> 工学実験(3) <実験>
物質工学科	基礎化学実験(1) <実験>	分析化学実験(3) <実験> 無機化学実験(3) <実験>	有機化学実験(3) <実験> 生物化学実験(2) <実験> 物理化学実験(3) <実験>	化学工学実験(2) <実験> 材料化学実験 1(2) <実験 材料コース> 材料化学実験 2(2) <実験 材料コース> 生物化学実験 1(2) <実験 生物コース> 生物工学実験 2(1) <実験 生物コース> 物質工学演習(1) <実習 選択> 特別物質工学実習(1) <実習・3～5年次選択> 学外実習 1(1) <実習 選択> 学外実習 2(2) <実習 選択>	卒業研究(10) <研究> 機械工学概論(1) <工作実習> 学外実習 3(1) <実習 選択>

(出典：平成17年度 教育課程から抜粋整理)

以上の分析結果からわかるように，授業科目の系統に沿って，学年が進むにつれて基礎的な内容を教授する科目から応用的な高度な内容の科目へ連続するように科目が配置され，授業内容の計画もそれに沿って組まれている。個々の教員が，シラバスを設計図として，関連する系統の科目の授業内容を考慮しながら工夫を加え授業内容を計画している。例として，物理系のシラバスの授業内容の説明部を（資料5 - 1 - - 16）に示す。

資料 5 - 1 - - 16 : 物理系シラバスの授業内容の説明部

学科 学年	1年	科目 分類	物理 Physics	講義	必修	通年	2単位	学習教 育目標	B	担当	橋山智男 (M1前期, E1, D1後期) 住吉光介 (M1後期, D1前期, S1, C1) KATSUYAMA Tomoo, SUMIYOSHI Kohsuke
概要	中学までの理科の知識を元に、自然現象や日常生活で現れる事柄に潜む物理法則について実験例を通じて学ぶ。定性的な理解を深めるとともに、数式を用いて定量的に物理法則を扱い、物体の運動、運動の法則、種々の保存法則を用いて現象を記述することを学ぶ。										
科目目標 (到達目標)	自然現象を物理法則のもとで理解すること。物体の運動を数式で取り扱うこと。運動方程式について理解して応用すること。様々な物理量・保存法則の概念を理解して取り扱うこと。物理法則を考えながら実験を行いレポートすること。										

学科 学年	E2	科目 分類	物理 Physics	講義	必修	通年	2単位	学習教 育目標	B	担当	住吉光介 SUMIYOSHI Kohsuke
概要	1年物理の知識を元に、自然現象や日常生活で現れる事柄に潜む物理法則について実験例を通じて学ぶ。定性的な理解を深めるとともに、数式を用いて定量的に物理法則を扱う。前期には波動現象、音、光に関する法則による記述と現象の取り扱いについて学ぶ。後期には電場中での電子の振る舞いについて学び、原子・原子核の世界での量子論の初歩的な概念について学ぶ。										
科目目標 (到達目標)	自然現象を物理法則のもとで理解すること。前期：波動現象について理解すること。波の基本的な物理量、音や光の現象における物理法則を取り扱うこと。後期：電場中での電子の振る舞いについて理解すること。原子世界での物理法則の考え方を理解し、物理量のスケールを把握すること。										

学科 学年	2年 M,E,D, S	科目 分類	物理実験 Physics Experiment	実験	必修	後期	1単位	学習教 育目標	B	担当	鈴木克彦 SUZUKI Katsuhiko
概要	本実験では、Problem-based learning(PBL)の思想に基づき、学生が数人のグループを作り、自由にテーマ・目的を選択して実験を行う。学生が互いに協力して実験を行うことにより、獨創性、計画性、自主性を育み、一つの実験を企画立案・遂行する方法を習得させる。また、全員に口頭発表を行わせ、基本的なプレゼンテーションの技法を学ぶ。その際、学生に相互評価を行わせることで客観的な理解力を養う。質問等に答えられない場合や不十分と判断された場合は、学生の自己責任で再度発表を行わせる。併せて、2年生の物理で学ぶ波動、電磁気に関する全体共通実験も行う。										
科目目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画の作成法を理解する。・実験作業経過の作成法を理解する。・相互に協力し、各テーマの背後にある物理法則を理解する。 ・基礎的なOHP,PowerPoint作成法を習得する。・基本的な口頭発表の手順を理解する。 ・波動の性質、共鳴を実験を通して理解する。 										

(出典：平成17年度シラバス)

前ページからの続き

(資料5 - 1 - - 16 : 物理系シラバスの授業内容の説明部)

科目コード1 = 0522030 (科目コード2 = 052-200300) 初版'05年1月

学科 学年	E3	科目 分類	応用物理 Applied Physics	講義	必修	通年	2単位	学習教 育目標	A	担当	丹波 之宏 TANBA Yukihiko
概要	1-2年次で学んだ物理を基礎に、数学の進度に合わせ解析的な方法を用いて力学の諸問題を定量的に扱う。特に微分方程式を使った解法と種々の保存則とに力点を置く。工学への応用を配慮し、実用的な例題を多く取り入れてゆく。										
科目目標 (到達目標)	運動学的方程式による運動の解析ができること。具体例に応じて運動方程式をたて、それを微分方程式として解けること。エネルギー・運動量・角運動量の各保存則をさまざまな具体例に適用して問題を処理できること。回転運動および振動運動の運動方程式を立て、それを解けること。										

Syllabus Id	syl-052453										
Subject Id	sub-0522030 (科目コード2 = 520-200300)										
作成年月日	050117										
授業科目名	応用物理 Applied Physics										
担当教員名	前期 勝山智男, 鈴木克彦, 後期 鈴木克彦 first-semester: KATSUYAMA, SUZUKI; second-semester: SUZUKI										
対象クラス	電気電子工学科4年生										
単位数	2専単										
必修/選択	必修										
開講時期	通年										
授業区分	基礎・専門工学系										
授業形態	実験(前期)および講義(後期)										
実施場所	応用物理実験室(前期), E4HR(後期)										
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)	前期は、1-3年で履修した物理学を応用して、重要な物理現象のいくつかを実験を通して体験する。物理学は実験と理論が車の両輪のようにお互いに関連しあって発展してきた。実験をすることによって物理現象を具体的に体感することは、物理学を学ぶ上でも不可欠の作業である。また、実験を通して、データを解析したり誤差を正しく取り扱う方法などを学ぶことになるが、これらは、工学技術の基礎として重要な部分である。 後期は現代物理学の講義を行う。ガリレオ以来の古典力学、電磁気学などの体系を古典物理学と呼ぶが、それらには適用する限界が存在する。その限界を超えて、20世紀以降に発展した相対性理論、量子力学などを含む新しい体系を現代物理学と呼ぶ。現代物理学は現在の技術社会の根幹を成しており、また新しい発展も多いに期待される。本講義では、古典力学の適用限界を理解し、現代物理学の骨子をなす量子力学と特殊相対論のエッセンスを習得することを目的とする。										

(出典：平成17年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。一般科目と専門科目の履修時間を楔形に組むことは、5年間一貫教育の特徴を存分に生かすものであり、基礎から専門への移行がスムーズになされている。また、高学年になるに従い選択科目を増やすことにより、学生が学習を深める中で広がっていく興味関心の多様性に可能な限り応えている。幅広い分野の一般科目を適切に配置し、豊かな人間性の形成と国際感覚育成のために配慮している。全学科共通に情報教育の基礎科目を配置し情報技術を重視した教育体系となっている。実験・実習・演習科目を各学年に配置し講義科目と関連付けた実践的技術者養成の体系的カリキュラム構成となっている。授業内容は、授業科目の系統に沿い、シラバスを設計図として、個々の教員が工夫を加えながら計画している。

観点5 - 1 - : 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成(例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。)に配慮しているか。

(観点に係る状況) 準学士課程では、国内外の他の高等教育機関で取得した単位について 30 単位を限度に本校の単位として認める制度を設け、学生便覧にも掲載し周知している(資料 5 - 1 - - 1)。

資料 5 - 1 - - 1 : 国内外の他の高等教育機関で取得した単位の認定に関する規則

第 18 条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生の他の高等専門学校における履修を許可し、修得した単位を、30 単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を

認定することができる。

3 前項により認定することができる単位数は、第 1 項により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。

第 18 条の 2 校長は教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 校長は、前項の規定により留学することを許可した学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、30 単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 前項に関し、必要な事項は別に定める。

(出典：平成 17 年度学生便覧 p. 6 ~ 7)

各種技能検定の取得実績を単位認定する制度を設けている(資料 5 - 1 - - 2)。過去 3 年間の各種技能検定の取得による単位認定の実績は(資料 5 - 1 - - 3)に示す。

資料5 - 1 - - 2 : 各種技能検定取得実績の単位認定に関する規則

13. 技能審査の合格に係る単位修得の認定について

- 1 学則第18条の第2項に規定する、その他文部科学大臣が別に定める学修のうち、次の表に掲げる技能審査に合格した学修については、これを本校で履修したものとみなし単位の修得を認定する。次の表以外の学修については、教務委員会で審議の上、年度当初公表する。
- 2 在籍中に得た学修についてのみ単位を認定する。
- 3 認定した単位の評価はAとする。
- 4 単位の認定を受けようとする者は、「単位認定願」を、学級担任を経て、認定を希望する学年の学年末試験が開始される2日前までに合格証書の写を添えて校長〔教務係〕に提出しなければならない。
- 5 成績表への記載は、技能審査名、単位数及び評価Aとする。

技能審査名	認定単位数	単位修得学年	科目の種別
実用英語技能検定 1級	7	単位認定願が承認された学年	一般科目
” 準1級	5		
” 2級	3		
” 準2級	1		
工業英語能力検定 1級	6		専門科目
” 2級	4		
” 3級	2		
” 4級(*)	1		
デジタル技術検定1級(情報部門)(制御部門)	4		
” 2級(情報部門)(制御部門)	2		
” 3級	1		

(注) 下位の審査で単位修得を認定された後に上位の審査に合格した場合は、上位の資格の単位数から下位の資格の単位数を減じた単位数を当該学年の認定単位とする。

(*) 平成16年度入学生から1～3学年取得のみ認定)

(出典：平成17年度学生便覧 p.78)

資料 5 - 1 - - 3 : 各種技能検定単位認定実績表

技能審査合格に伴う単位認定件数

種 目	等 級	単位数	年度	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
デジタル技術検定	(情報部門)2級	2	H14				1	6		7
			H15							0
			H16							
デジタル技術検定	(制御部門)2級	2	H14				1			1
			H15							0
			H16							
デジタル技術検定	3級	1	H14				2	1		3
			H15			1	2		3	
			H16				1	1		2
工業英語能力検定	2級	4	H14					1		1
			H15							0
			H16					1		1
工業英語能力検定	2級(3級認定済)	2	H14					1		1
			H15							0
			H16					1		1
工業英語能力検定	3級	2	H14			5	3	8		16
			H15			1	9	2		12
			H16		1		4	11		16
工業英語能力検定	3級(4級認定済)	1	H14		1		2	2		5
			H15			1	3	1		5
			H16				1	2		3
工業英語能力検定	4級	1	H14	1	5	17	21	5		49
			H15	2	2	14	13	6		37
			H16	13	4	5	17	5		44
実用英語技能検定	準1級	5	H14					3		3
			H15				1			1
			H16							0
実用英語技能検定	2級	3	H14		2	1		3		6
			H15				1			1
			H16				1			1
実用英語技能検定	2級(準2級認定済)	2	H14							0
			H15			2		1		3
			H16							0
実用英語技能検定	準2級	1	H14		4	6	7	2		19
			H15	1	2	6	4	1		14
			H16			5	10	3		18
計			H14	1	12	29	37	32	0	111
			H15	3	4	25	33	11	0	76
			H16	13	5	10	34	24	0	86

(出典：平成 16 年度自己点検書「教務委員会」)

また、学生が企業等において実践的工業技術の現場を体験する学外実習を単位として認定している(前出資料 5 - 1 - - 2 ~ 6)。過去 2 年間の学外実習の単位認定実績は(資料 5 - 1 - - 4)に示す。平成 16 年度には、学外実習(インターンシップ)に関して学生に積極的に参加するよう働きかけ、平成 15 年度に比べ参加者の数が急激に増えた。また、学内全体での報告会を開き、報告書(資料 5 - 1 - - 5)にまとめている。今後、より多くの学生が参加するよう指導体制を整えているところである。また、前述したように高学年になるに従い選択科目を増やすことにより、学生の多様なニーズに応えるよう配慮している。

資料 5 - 1 - - 4 : 学外実習の単位認定実績表

平成 15年度インターンシップ状況										
学科名	授業科目名	単位数	学 年							計
			1	2	3	4	5	専1	専2	
機械工学科	学外実習A	2				4				4
	学外実習B	1								0
電気電子工学科	学外実習A	2								0
	学外実習B	1				1				1
電子制御工学科	学外実習	1								0
	学外実習	1								0
	学外実習	1				2				2
	学外実習	1								0
	学外実習	1					2			2
	学外実習	1								0
制御情報工学科	学外実習A	2				1				1
	学外実習B	1								0
物質工学科	学外実習1	1				5				5
	学外実習2	2				9				9
	学外実習3	1					2			2
専攻科	専攻科実習	2						14		14
計			0	0	0	22	4	14	0	40

平成 16年度インターンシップ状況										
学科名	授業科目名	単位数	学 年							計
			1	2	3	4	5	専1	専2	
機械工学科	学外実習A	2				10				10
	学外実習B	1				2				2
電気電子工学科	学外実習A	2				1				1
	学外実習B	1				2	1			3
電子制御工学科	学外実習	1								0
	学外実習	1								0
	学外実習	1				1				1
	学外実習	1				1				1
	学外実習	1								0
	学外実習	1								0
制御情報工学科	学外実習A	2								0
	学外実習B	1				2				2
物質工学科	学外実習1	1				7				7
	学外実習2	2				12				12
	学外実習3	1								0
専攻科	専攻科実習	2						23	9	32
計			0	0	0	38	1	23	9	71

(出典：平成 15 年度，16 年度大学等におけるインターンシップの実施状況に関する調査票より抜粋)

資料 5 - 1 - - 5 : インターシップ (学外実習) 報告書目次

沼津高专における平成 16 年度インターンシップ (学外実習) に関する報告書

今年度のインターンシップに関する活動は、前年度の 2 月 4 日に行われた 3 年生対象の「インターンシップ講演会」の後を受け、例年を超える取り組みが行われた。特に、機械工学科の体制作りは目を見張るものがあった。

また、今年度は初めて、全学科の取り組みを一冊にまとめた。こうした資料は学校全体の財産として次年度以降の活動に役立てたい。

平成 16 年 3 月 1 日
インターンシップ推進プロジェクトワーキンググループ
望月孔二

もくじ

3 年生対象 インターンシップ説明会の概要	1
望月教員が使用したパワーポイント資料	2
学生による発表の概要	4
学生向けポスター	5
M 科の資料	6
受入企業・大学	6
準備・説明・案内・実施・報告など	6
インターンシップ実施内容	7
インターンシップを終えて (先輩に伝えたい事)	7
2004/2/4 インターンシップ講演会 説明資料	8
インターンシップ注意事項・受入可能企業リスト説明資料	10
豊橋技術科学大学体験実習説明資料	10
インターンシップガイダンス 資料	11
E 科の資料	12
E4 学外実習の概要と日程	12
事前研修の資料	13
E4 の各学外実習(インターンシップ)の概要	14
D 科の資料	16
感想	17
S 科の資料	18
S4 学外実習について	18
学外実習報告	18
オープンハウスの感想	20
C 科の資料	21
概要	21
学外実習の流れ	21
評価について	23
学外実習で学んだこと	24
総括	25
第 1 回 C4 学外実習ガイダンス	26
第 2 回 C4 学外実習ガイダンス	29
C4 学外実習発表会について	31
学外実習規定	32
学外実習生学生心得	33

注意 pp.6～31 は、インターンシップ説明会の当日も配布した資料である。この資料にまとめる際に追加・訂正を行った。

(出典 : インターシップ (学外実習) に関する報告書 平成 16 年度)

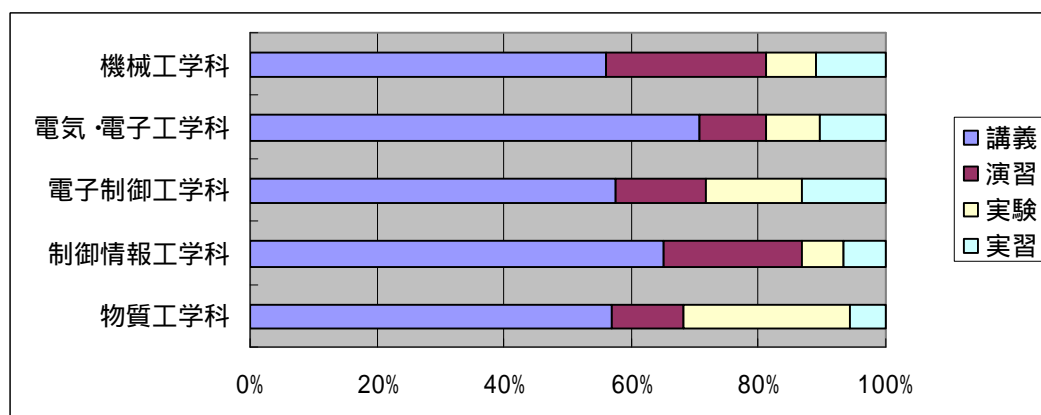
(分析結果とその根拠理由) 相応である。学生が学習を深める上で興味関心が多様化してくることを踏まえ、本校で開設していない科目について、放送大学を含む他機関で学習する機会を設けるとともに、各種技能検定の取得実績を単位認定する制度を設け、実践的技術者の養成という学校の目的に照らし、希望する学生を企業等に派遣して実習を行う制度を設けており、平成 16 年度よりその制度運用の充実を図り、より多くの学生が社会のニーズを認識する機会の確保に配慮している。

観点 5 - 2 - : 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。)

(観点に係る状況) 授業形態は講義, 演習, 実験, 実習に大別され, 本校の教育目的を踏まえ, 演習, 実験, 実習の比重を大きくして体験型学習を重視している(資料5-2- - 1)。高学年になるにつれて専門科目の開講数は増え, 演習, 実験, 実習の授業形態の科目の開講単位数も多くしている(資料5-2- - 2)。ここで資料5-2- - 1及び2において卒業研究は「演習」に含めてカウントした。また, シラバスに授業形態が「講義」と記されている科目も演習が80%程度以上占める科目は演習に含めてカウントした。

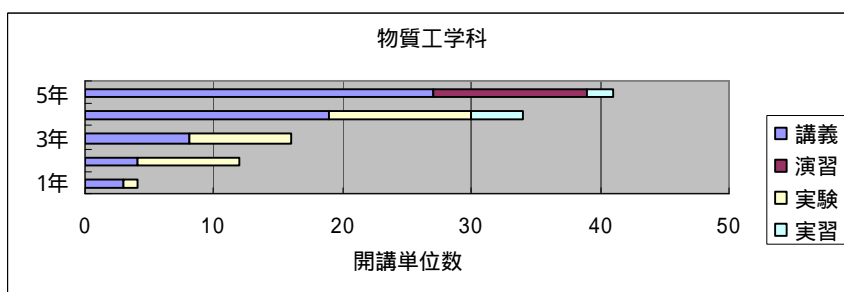
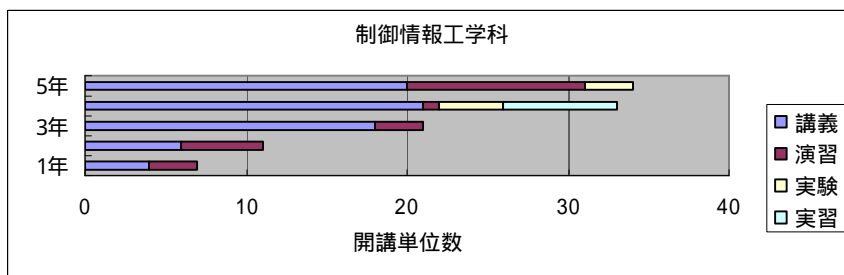
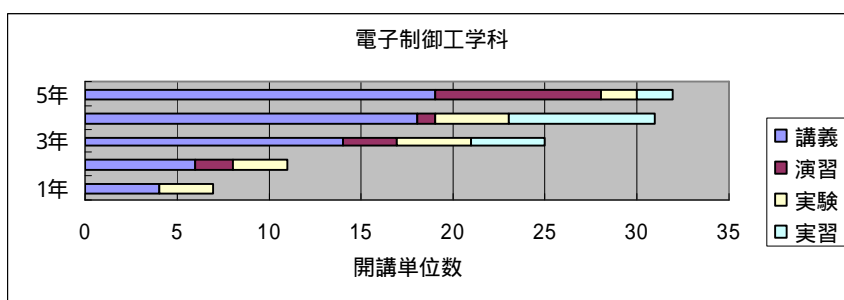
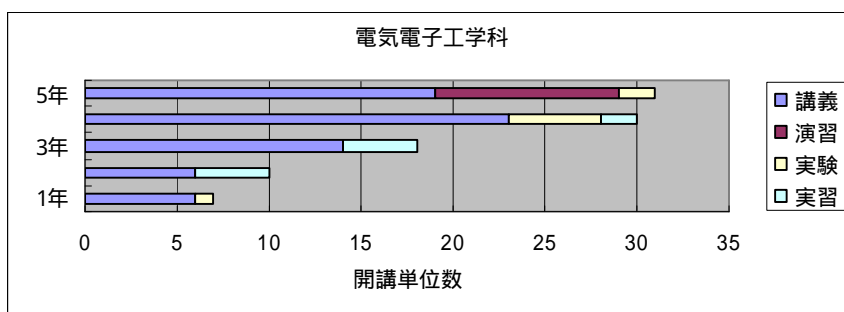
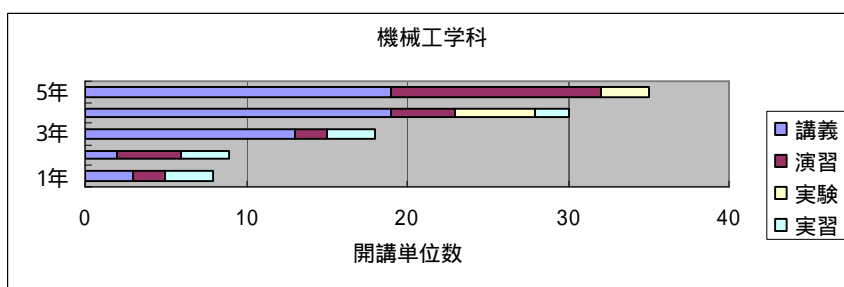
他の「講義」科目の中にも適宜演習を組み入れて実施している授業も多数ある(資料5-2- - 3)。その他に, 少人数授業の形態をとっている授業(資料5-2- - 4), 複数教員で実施している授業(資料5-2- - 5), 対話・討論型の授業(資料5-2- - 6), フィールド型の授業(資料5-2- - 7), 基礎学力不足の学生に対して配慮した授業(資料5-2- - 8)など, 担当教員が研究や研修で得た知見を生かしながら, それぞれ学習指導法の工夫を行っている。情報機器の活用に関しては, 教務係に9台のプロジェクターが保管されており, 多くの教員が授業に活用している(資料5-2- - 9)。平成16年度末には5教室にプロジェクターを常設し, 漸次全ての教室に常設する計画がある。平成16年度末にe-learningシステム「Black Board」を導入し, 数回の導入研修会を開き(資料5-2- - 10), 平成17年度より活用を始めている(資料5-2- - 11)。

資料5-2- - 1: 各授業形態の開講単位数の割合



(出典:平成17年度シラバスより集計)

資料5 - 2 - - 2 : 専門学科における各授業形態の開講単位数の分布



材料コースと生物コースの両方を含む。

(出典：平成 17 年度シラバスより集計)

資料 5 - 2 - - 3 : 演習を含む講義科目

演習を含む講義科目	
一般科目	
・化学では実験(授業の約20%)	
機械工学科	
<ul style="list-style-type: none"> ・ M1機械工学入門……演習の占める割合は、70%以上 ・ E3機械工学概論……演習の占める割合は、25%程度 ・ M4数値解析……演習の占める割合は、40%以上 	
電気電子工学科	
<ul style="list-style-type: none"> ・電気電子工学実験(1年次) LEGOを使った分については、クラスを半分に分けて、合計6回程実施している。 これは学生ごとに考えると、1年間(30回)のうちの10%に対応する。 ・プログラミング(3年次) 総合情報センター演習室において、25%程度演習を行っている。 ・CAD回路シミュレーション(4年次) 本学科の演習室において、67%程度演習を行っている。 ・シミュレーション工学(選択)(5年次) H17年度は70~80%は、E科の計算機室におけるScilabの演習を予定している。 昨年度は、50%程度演習を行った。 	
電子制御工学科	
・制御工学(4年次)	50%
・計算機工学I(3年次)	50%
・通信工学(5年次)	20%
・システム制御工学II(5年次)	20%
制御情報工学科	
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング(2年次)、演習のしめる割合 20% ・計算機シミュレーション(5年次)、演習の占める割合 50% 講義した内容を翌週プログラミングするというスタイルをとっている。 ・数値解析(4年次)、演習のしめる割合 40% 	
物質工学科	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎化学工学(C3)、化学工学1(C4)、反応工学(C5)、物理化学1(C4) 講義の中で演習を実施している。講義最後の10~15分程度行っており、90分授業換算で10~16%程度の割合を占めている。割合は上記の範囲内で、講義の進み具合により適宜変更している。また、ほとんどが時間内に終了しないため、宿題となるので、その意味では演習というより“宿題に対する解説”ともいえる。 ・情報処理(C1) 毎時間PCを使った実技的演習を30分ほど設けており、その占める割合は約33%である。 ・機械工学概論(C5) 機械実習工場での実技を伴う講義で、実技の占める割合は、約80%である。 	

(出典：授業形態・学習指導法調査結果)

資料5 - 2 - - 4 : 少人数の形態で実施される授業

少人数の形態で実施される授業

一般科目

- ・5年自由選択「ドイツ語演習Ⅱ」(1単位) 受講者7名で演習中心の授業をしている。
- ・4年生の体育で、1班6人×7班で複数のニュースポーツの種目をローテーションさせている。

機械工学科

- ・機械工学入門(M1) 1クラスを8班に分けて実施(1班は5~6名)
- ・1~3年生 機械工作実習 1クラスを6班に分けて実施(1班は7~8名)
- ・4, 5年生 機械工学実験 1クラスを5班に分けて実施(1班は8~9名)
- ・卒業研究(M5) 各研究室に3・4名ずつ配属
- ・工業外国語(M5) 各研究室に3・4名ずつ配属
- ・電子制御工学実験Ⅱ(D2) 1クラスを6班に分けて実施(1班は7~8名)
- ・機械工学概論(E3) 1クラスを6班に分けて実施(1班は7~8名)
- ・工学実験(S4) 1クラスを6班に分けて実施(1班は7~8名)
- ・機械工学概論(C5) 1クラスを6班に分けて実施(1班は7~8名)

電気電子工学科

- ・1年生 電気電子工学実験
クラスを半分に分けて実施している。
- ・2~5年生 電気電子工学実験
4~5名の10グループ程にわかれて、グループ毎に異なる実験を、週毎にローテーションしていく形で実施している。学生は、実験終了後一週間以内にレポートを完成させて、その実験担当スタッフへ提出し、試問を受ける。

電子制御工学科

- ・電子制御工学基礎演習 受講生(留学生)が教員室に来て、1対1または1対2で演習を実施
- ・電子制御工学実験(3年、4年、5年) 実験グループを10班に分けてローテーションで実施

制御情報工学科

- ・1, 2, 3年次の制御情報工学演習
メカトロ演習とコンピュータ演習の二種類の演習を準備しており、クラスを二分して、週ごとに入れ替えて受講させている。1クラスは40名程度であり、そのため、20名程度で、班A,Bを形成し、第1週目にはA班がメカトロ演習(第1回)、B班がコンピュータ演習(第1回)、第2週目には入れ替わって、B班がメカトロ演習(第1回)、A班がコンピュータ演習(第1回)、第3週目はA班がメカトロ演習(第2回)、B班がコンピュータ演習(第2回)のように実施している。
- ・4, 5年次の工学実験
7~9名のグループに分かれて、グループ毎に異なる実験室をローテーションする形式で実施している。
- ・卒業研究
11名の教員に4~5名ずつの学生を振り分け、研究指導を行っている。

物質工学科

- ・基礎化学実験(C1)、分析化学実験(C2)、無機化学実験(C2)、微生物学実験(C2)、有機化学実験(C3)、生物化学実験(C3)、物理化学実験(C3)化学工学実験(C4)、材料化学実験1,2(C4)、生物工学実験1,2(C4)
それぞれ教員1~2名、技官1名で担当し、2~8名のグループに分けてローテーションしたり、複数のグループに分けて少人数グループごとに指導している。
- ・科学英語(C4,C5)
12名の教員に3~4名ずつの学生を振り分け、工業英語の指導を行っている。
- ・卒業研究(C5)
12名の教員に3~4名ずつの学生を振り分け、研究指導を行っている。

(出典：授業形態・学習指導法調査結果)

資料 5 - 2 - - 5 : 複数教職員で実施される授業

複数教職員で実施される授業
一般科目 ・化学では実験(授業の約20%)のみ教員1名と技術職員1名の複数で実施している。
機械工学科 ・機械工学入門(M1) 担当教員9名 ・電子計算機(M3) 担当教員2名 ・力学演習(M4) 担当教員5名 ・プログラム演習(M2) 担当教員3名 ・2～5年 機械設計製図 担当教員2名 ・1～3年 機械工作実習 担当教員3名、技術職員7名 ・4,5年 機械工学実験 担当教員9名、技術職員2名 ・卒業研究(M5) 担当教員12名 ・工業外国語(M5) 担当教員12名 ・電子制御工学実験Ⅱ(D2) 担当教員3名、技術職員7名 ・機械工学概論(E3) 担当教員4名、技術職員6名 ・工学実験(S4) 担当教員2名、技術職員6名 ・機械工学概論(C5) 担当教員3名、技術職員7名
電気電子工学科 ・2～5年生 電気電子工学実験 学生をグループ分けし、教員、技術職員あわせて5～9名の人員で担当している。
電子制御工学科 ・電子機械設計製作(I,II) 教員5名 ・電子機械設計演習 教員2名 ・電子制御工学実験 1年 教員3名、技術職員2名 ・電子制御工学実験 2年 教員2名 ・電子制御工学実験 3年 教員8名、技術職員2名 ・電子制御工学実験 4年 教員6名、技術職員2名 ・電子制御工学実験 5年 教員4名 ・電子機械基礎実習 教員2名 ・UNIX入門 教員1名、技術職員1名 ・プログラミング入門 教員2名
制御情報工学科 ・1,2,3年次の制御情報工学演習 メカトロ演習とコンピュータ演習の二種類の演習を併行して実施するため、2名の教員と1名の技術職員で担当している。 ・4,5年次の工学実験 4年次は5名の教員、5年次は6名の教員と1名の技術職員が担当している。 ・4年次の創造設計 3名の教員が担当している。 ・卒業研究 11名の教員が担当している。
物質工学科 ・基礎化学実験(C1)、分析化学実験(C2)、無機化学実験(C2)、微生物学実験(C2)、有機化学実験(C3)、生物化学実験(C3)、物理化学実験(C3)化学工学実験(C4)、材料化学実験1,2(C4)、生物工学実験1,2(C4) それぞれ教員1～2名、技官1名で担当している。 ・科学英語(C4,C5) 12名の教員が担当している。 ・卒業研究(C5) 12名の教員が担当している。 ・物質工学演習(C4) 6名の教員が担当している。 ・物理化学1(C3)、無機材料化学(C4)、分子生物学(C4)、細胞工学(C5)、食品工学(C5) これらの科目は通年科目で、前後期で担当教員が替わるため、2名の教員が担当している。

(出典：授業形態・学習指導法調査結果)

資料 5 - 2 - - 6 : 対話・討論型の授業

対話・討論型の授業	
一般科目	・哲学[全学科5年履修]では ディベートを授業内で行っています。 2週間で1テーマを、先の週で問題の概要説明、次の週でディベートという順で扱い、 年間13テーマのディベートを行います。
機械工学科	特になし
電気電子工学科	特になし
電子制御工学科	・電子制御工学基礎演習(受講者が1名か2名なので、対話型の授業になる。)
制御情報工学科	特になし
物質工学科	・培養工学(C5)、微生物学(C2)、卒業研究(C5)

(出典：授業形態・学習指導法調査結果)

資料 5 - 2 - - 7 : フィールド型の授業

フィールド型の授業	
一般科目	特になし
機械工学科	特になし
電気電子工学科	特になし
電子制御工学科	特になし
制御情報工学科	特になし
物質工学科	・培養工学(C5)、地球環境学概論(C1)、卒業研究(C5)

(出典：授業形態・学習指導法調査結果)

資料 5 - 2 - - 8 : 基礎学力不足の学生に対して配慮した授業

基礎学力不足の学生に対して配慮した授業
一般科目 特になし
機械工学科 現在はなし(力学関係の科目について検討している)
電気電子工学科 ・電磁気と電気回路 対象: 高校からの編入生としているが、3年生の電磁気の学習が不十分であった学生(不合格者)を参加させたこともある。 時期: 学生と相談して決めているが、おおよそ電磁気は4月中の放課後に4~5回行い、その後は回路理論を7月種順から中旬までで10回ほど行い、全体で15回程度実施している。 内容: ベクトル解析・静電界の基礎等、直流回路、ベクトル軌跡等 従来は「電気電子工学基礎」として、編入生対象の正式な講義として実施していたが、現在は補講として行っている。
電子制御工学科 特になし
制御情報工学科 ・2年次の制御情報工学演習の班分けにおいて、1年次までのコンピュータ関連科目(計算機入門、制御情報工学演習のコンピュータ演習)の成績を合計して、成績順の偶数奇数で、班分けを行い、1班にコンピュータの苦手な学生が集中しないように配慮をしている。この配慮によって教員の学生への指導が平均化し、基礎学力不足の学生への対応が可能となっている。 ・3年次の制御情報工学基礎演習Ⅰ 留学生の主にプログラミング能力を補うために実施している。 ・4年次の制御情報工学基礎演習Ⅱ 留学生と編入生および希望する学生に対して、主に電子回路製作に関する知識と技術を補うために実施している。 ・4年次の応用物理概論 編入生の物理学の力を補うために実施している。 * 編入生に対しては、入学以前の約半年間、情報工学に関する基礎能力を補うための課題を課し、定期的に提出させ指導をしている。
物質工学科 ・応用物理概論(C4)、基礎分析化学実験(C3,C4)、基礎有機化学実験(C4) 留学生及び編入生に対し、物理的知識や基礎化学実験技術の習得を補うために実施している。 ・基礎化学工学(C3)補習 “基礎学力不足の学生”ではないが、高校からの編入生に対して補講を行っている。編入生はカリキュラム上、「基礎化学工学」を受講できないため、入学以前の8月のガイダンス時に教科書を購入させ、講義で行った資料や演習問題、試験を適宜送付する。これでも理解することは難しいことから、6回程度の補講を行っている。

(出典: 授業形態・学習指導法調査結果)

資料 5 - 2 - - 9 : 情報機器の活用状況例

6月

日	曜日	プロジェクター					ビジュアル プレゼンター	OHP		DVD	備考
		2(旧)	3(新)	4(新)	5(新)	6(新)		HP-A2R 機帯用	HP-2850		
1	水		1-2 大イ儀	3-4 147 2人 3人		3-6 147			2-4 机上	(1)	
2	木			3-4 2 3人							
3	金		1-2 147								中間試験
4	土										
5	日										
6	月		1-2 大イ儀 1-2 147	3-4 2 3人		1-2 147 1-2 147 1-2 147					No. 1 2人
7	火		1-2 西田	3-4 2 3人		1-2 147					
8	水					3-6 147			2-4 机上		
9	木										
10	金		1-2 147 6.6. 大イ儀	3-4 2 3人							
11	土										
12	日										
13	月		1-2 147 1-2 西田	3-4 2 3人		1-2 147 1-2 147 1-2 147					No. 3 4人
14	火		1-2 西田	3-4 2 3人		1-2 147					
15	水			7-8 2 3人		5-6 147	7-8 2 3人		2-4 机上		
16	木			3-4 2 3人		1-2 147	3-4 2 3人				
17	金		1-2 147	3-4 2 3人					↑ 8月		
18	土										
19	日										
20	月			1-2 147		1-2 147 1-2 147 1-2 147	1-2 147				No. 1 2人
21	火		1-2 西田	3-4 2 3人		1-2 147				1人	
22	水		3-4 下	7-8 2 3人		5-6 147			2-4 机上		
23	木										
24	金		1-2 147	3-4 2 3人	5-6 2 3人						
25	土										
26	日										
27	月		1-2 大イ儀	3-4 2 3人		1-2 147 1-2 147 1-2 147					No. 1 2人
28	火		1-2 西田	3-4 2 3人		1-2 147					
29	水		7-8 2 3人			5-6 147			2-4 机上		
30	木										

3(月) No. 10. 3-4 森 6/9 昼 16:00 47h CD3 まで
 6/22 1-2 大イ儀 N. 8. 6/24(金) No. 8. 大イ儀 6/30 No. 8. 龍

(出典：平成 17 年 6 月 プロジェクタ等の使用記録簿)

2005年3月29日

e-Learning プラットフォーム利用講習会

e-Learning 導入プロジェクト

代表 崎 直樹

すでにご案内しましたように平成17年度より、本校の学生がインターネットを利用し、寮や自宅や下宿など「どこからでも」そして授業時間以外に「いつでも」、教員の作った授業のコンテンツにアクセスして勉強できるようにする e-Learning プラットフォームを運用いたします。17年度後期には本格的に運用する予定ですが、それに先立ち利用講習会を下記のとおり開催させていただきます。これもすでにご案内のとおり校長のリーダーシップにより、来年度は4年生の5教室に PC プロジェクターを設備する計画としていただいております。その他の学年の教室も順次設備されますので、授業時間においても利用しやすくなります。教員の皆様には、すべての学生に授業内容を十分に理解させていただくためのツールとしてご活用いただきたいと切望しております。

記

1. 開催日時 1回目 3/29 (火) 15:00~16:30
2回目 3/31 (木) 15:00~16:30 (内容は1回目と同じ)
2. 開催場所 情報処理教育センター演習室 (1及び2)
3. 講習会の内容
 - (1) はじめに (Blackboard の概要)
 - (2) アカウント管理
ログインとログアウト・パスワードの変更・パスワードを忘れた場合の対処・パスワード管理におけるリスクなど
 - (3) チュートリアル
コース文章の作成・ファイルのアップロード・小テストの作成・小テストの結果を調べるなど
 - (4) 質疑応答
4. 参考資料
 - (1) Blackboard Learning System ML パンフレット
 - (2) 岐阜大学インストラクタ用簡易マニュアル (平成 16 年 4 月暫定版)

(出典：e-learning プラットフォーム利用講習会資料)

資料 5 - 2 - - 11 : e-learning を活用した授業

e-learningを活用した授業
一般科目 ・該当するのかわかりませんが、 昨年度3年選択「東洋思想史」は、教員研究室のPCをサーバとして立ち上げているウェブページを利用して行いました。 履修生に対して課題をウェブページで提示し、解答を指定期日までにウェブ掲示板に書き込ませ、編集したものをテキストとして授業を行いました。今年度も同じ方法で行います。Blackboardの体制が整えば、移行します。
機械工学科 現在はなし(力学関係の科目について検討している)
電気電子工学科 ・平成17年度実績は以下の通りである。 3年生 電子回路 プログラミング 4年生 電子材料 5年生 電子回路
電子制御工学科 ・工業英語(富士通 NavigWare TOEIC 学習ソフト)
制御情報工学科 ・3年次の情報処理、4年次の図形処理 資料、課題等をWebに提示している。
物質工学科 特になし。

(出典：授業形態・学習指導法調査結果)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。本校の教育目的には、実験・実習等の体験型学習を重視することが掲げられており、それを踏まえた授業形態のバランスが配慮されている。また、学習指導法については、各科目の特性を踏まえつつ、担当教員が適切な工夫を行い、教育効果を上げていると判断できる。

観点 5 - 2 - : 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況) 平成 17 年度シラバスの冊子版の「はじめに」に学校長が記しているように(資料 5 - 2 - - 1), シラバスは「授業科目ごとに、講義の内容と目標、各週の授業項目、学習に必要な教科書・参考書、評価方法、学生が質問に行きやすいように授業担当教員のオフィスアワー等」が記載されている。また、「これまでに実践した授業の結果等を、教員自らがさらに点検・評価を行い、毎年更新しているもので、」とも書いているように、学生の学習の助けとすること及び授業に関する教員の PDCA の重要な道具でもあるという方針に沿って本校のシラバスは作られている。

資料5 - 2 - - 1 : シラバス作成の方針

はじめに

この「シラバス（授業計画）」には、授業科目ごとに、講義の内容と目標、各週の授業項目、学習に必要な教科書・参考書、評価方法、学生が質問に行きやすいように授業担当教員のオフィスアワー等が掲載されています。

このシラバスは、これまでに実践した授業の結果等を、教員自らが更に点検・評価を行い、毎年度更新しているもので、本校の自己点検・評価の一環として公刊しているものであります。

一般科目・専門科目の教育課程については本文に示すとおりであって、一般科目については学科によって単位数の学年別配当に違いがあります。また、専門の選択科目開講の単位数についても、各学科・コースによって差があり、中には集中講義によって履修する選択科目も設けてあります。

工業高等専門学校における学修は、技術・研究を志す学生にとって学習の第一歩であり、自学自習の精神を培う良い場であります。

このシラバスの内容を把握して年間の学習計画を立てて履修に努めれば、より良き理解が得られるものと信じます。人間性豊かな人柄の良い技術者を目指して、このシラバスを有効に活用し、学業に成果をあげることを期待します。

沼津工業高等専門学校

久賀重雄

(出典：平成 17 年度シラバス 冊子版)

3 年生以下のシラバスの書式は低学年の学生達にも理解しやすいよう簡潔なもの(資料5 - 2 - - 2)とし、4, 5 年生は4, 5 年と専攻科で構成する統一プログラムである「総合システム工学プログラム」に入るため、専攻科とほぼ統一した書式とし、より詳細な記載内容を要求している(資料5 - 2 - - 3)。いずれの書式にも、学生による授業アンケートの結果を反映し改善点を明記するための「授業アンケートへの対応」の記載欄を設け、授業に対する PDCA を実行している。

資料 5 - 2 - - 2 : 3 年生以下のシラバス例

S 3 学科 学年	S 3	科目 分類	メカトロニクス (メカトロ Mechatronics)	講義 必修	通年 2 単位	学習教育 目標 f, E, F	担当	大島 茂 OSHIMA Shigeru
概要		メカトロニクスシステムの構成と特徴およびメカトロニクスシステムを構成する要素として、マイクロコンピュータ、入出力インターフェース、アクチュエータ (ムービングコイル、DCサーボモータ、ACサーボモータ、ステッピングモータなど)、パワーエレクトロニクス (増幅駆動回路)、機構、センサ、について主要なものの基本構造、動作原理、基本的特性などについて講義する。併せて、慣性モーメントの概念と算出方法についても講義する。						
科目目標 (到達目標)		メカトロニクスシステムを構成する主要な要素の構造、作動原理、基本的特性を理解する。コンピュータ、インターフェース、アクチュエータ、センサおよび運動機構が統合されて成り立つメカトロニクスシステムの構造を理解し、与えられた仕様に基づき、適した構成要素機器の選定ができる力を養う。						
教科書 器材等		土谷武士、深谷健一 共著 メカトロニクス入門 (森北出版)						
評価の基準と 方法		定期試験 (70%)、演習課題レポート (30%) で基本評価点を算出する。それに平常の受講態度および出席状況が悪い場合には減点することがある。						
関連科目		4 年次の創造設計						
授業計画								
第 1 回		メカトロニクスシステムの事例、基本構成、特徴						
第 2 回		メカトロニクスの発展の歴史とその効果						
第 3 回		マイクロコンピュータの役割、基本構造						
第 4 回		CPU の基本構造と動作原理						
第 5 回		IC メモリの種類と動作原理						
第 6 回		入出力インターフェースの機能、構造、動作原理						
第 7 回		データ伝送方式						
第 8 回		前期中間試験						
第 9 回		アクチュエータの種類と構造						
第 10 回		アクチュエータの静特性、動特性						
第 11 回		アクチュエータに関する力学 (力、トルク、動力)						
第 12 回		慣性モーメントの概念						
第 13 回		慣性モーメントの算出						
第 14 回		ムービングコイルの動作原理と基本特性						
第 15 回		前期末試験						
第 16 回		DC サーボモータの動作原理と静特性						
第 17 回		DC サーボモータの動特性 (時定数)						
第 18 回		AC サーボモータの種類と動作原理						
第 19 回		AC サーボモータの基本特性						
第 20 回		ステッピングモータの動作原理と駆動方法						
第 21 回		流体動力アクチュエータの構造と動作原理						
第 22 回		後期中間試験						
第 23 回		増幅駆動回路の役割						
第 24 回		パワーエレクトロニクス (トランジスタによる増幅回路)						
第 25 回		パワーエレクトロニクス (モータ駆動回路、アナログ駆動と PWM 駆動)						
第 26 回		機構要素の種類と特徴						
第 27 回		歯車の基礎						
第 28 回		動力伝達機構 (ベルト伝導、送りねじ)						
第 29 回		センサの種類と機能						
第 30 回		後期末試験						
オフィス アワー		月曜日の 10:00~12:30、火曜日の 16:30~17:30、木曜日の 10:00~12:30 は質問に応じ易い。						
授業アンケート への対応		学生に興味を持たせるよう、身近な事例を多く引用する。整理して板書する。						
備考		授業のなかで適宜小テスト方式の演習を行なう。毎時間電卓を持参すること。						

(出典：平成 17 年度シラバス)

資料 5 - 2 - - 3 : 4 , 5 年生用シラバス例

Syllabus Id	syl-052032		
Subject Id	sub-0524305		
作成年月日	041202		
授業科目名	設計工学		
担当教員名	大島 茂		
対象クラス	制御情報工学科4年生		
単位数	2高専単位		
必修/選択	必修		
開講時期	通年		
授業区分	基礎・専門工学系		
授業形態	講義		
実施場所	S4HR		
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味) 1.システム設計の立場から、設計過程全体の流れを学習したのち、初期研究、概念設計、詳細設計の各設計過程で必要とされる思考方法とシステム工学的手法について演習を交えて学ぶ。2.技術が進歩し、機械製品は大規模複雑化し、技術が社会に及ぼす影響は益々増大する中で、システムの立場に立った機械設計の考え方を身につけることは重要なことである。3.社会のニーズに適合した製品の企画、環境に配慮した設計の重要性などを演習を通じて考え、社会の要請に応えるもの造りが大切であることを理解する。4. ニーズ調査・予測、製品企画、工学的解析(最適化、強度設計、精度設計)、経済性評価、信頼性・安全性評価等に重点を置く。5.数学、物理で学んだ知識と解析力を統合し、具体的な設計課題に対して適用し問題解決を図る能力を養う。			
準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識) 力学(力、トルク、仕事、動力、慣性モーメント)、三角関数、微分、積分、一階微分方程式、最小二乗法、			
学習・教育目標	Weight	目標	
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
	◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
C:工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力			
学習・教育目標の達成度検査 1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。			
授業目標 1. プログラム目標に含致した学科学目標： 種々の科学・技術を利用して社会のニーズを解決するためのデザイン能力、機械工学の基礎知識と応用能力、モノづくり技術に関する基礎知識と応用能力 2. 学科学目標に含致した授業目標： 設計における各過程で必要とされる技術的行動を明確に理解し、そこで必要とされる種々の分析や解析に、数学、物理の知識を適用して解答を得ることができる。その結果が、社会のニーズを解決するために、製品の企画・設計に如何に反映されるのかを理解し、簡潔、明快に記述して説明できる。			
授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)			
回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	ガイダンス	設計とは何か	
第2回	設計の方法	システムとしての設計の重要性	
第3回	設計の相と過程	初期研究、概念設計、詳細設計の流れ	
第4回	初期研究	需要分析	
第5回	初期研究	ニーズ把握のアプローチ	
第6回	初期研究	製品企画	
第7回	概念設計の進め	構想設計、開発設計、機構設計	
第8回	前期中間試験		×
第9回	詳細設計	機能システムと形態設計	

(出典：平成17年度シラバス)

前ページからの続き

(資料5 - 2 - - 3 : 4 , 5年生用シラバス例)

第10回	詳細設計	工学的解析	
第11回	詳細設計	機械部品の強度の概念、最適化問題の基礎	
第12回	詳細設計	最適化問題の具体例、最小重量設計問題	
第13回	詳細設計	最適化問題の具体例、最大剛性設計問題	
第14回	強度設計	材料の強度、安全率、許容応力	
第15回	前期期末試験		×
第16回	強度設計	引張圧縮、曲げ、ねじり荷重を受ける部品の応力計算法	
第17回	強度設計	強度計算の具体例、疲労強度、疲労破壊	
第18回	精度設計	寸法許容差、はめあい規格、精度鈍感設計の例	
第19回	需要予測の手法	直線傾向線、多項式傾向線、指数曲線による予測	
第20回	需要予測の手法	修正指数曲線、ロジスティック曲線による予測	
第21回	技術予測の手法	探求的予測、直観的予測、技術の前兆予測	
第22回	意思決定の手法	ラプラスの基準、フルビッツの基準、ミニマックス損失基準	
第23回	後期中間試験		×
第24回	意思決定の手法	ベイズ決定規則、意思決定問題と情報	
第25回	意思決定の手法	情報を利用した意思決定、情報の価値	
第26回	経済性評価の手	現在価値法	
第27回	信頼性評価の手	信頼度、不信頼度、故障率、MTBF、MTTF	
第28回	信頼性評価の手	直列系、並列冗長系、待機冗長系の信頼度	
第29回	安全性評価の手	MTTR、アベイラビリティ、デザインレビューの重要性	
第30回	後期末試験		×
課題			
出典:教科書章末問題/ハンドアウトとして授業時に配布など			
提出期限:出題した次週またはそれ以降の指定した日時/小課題の演習は授業終了時に提出			
提出場所:授業実施教室			
オフィスアワー:月、火、金曜日の16:30~17:15。これ以外でも教員室に在室時は質問に応じることはできる。			
評価方法と基準			
評価方法:			
学習目標に掲げた能力が身についたかどうかを、各期の中間試験と期末試験で筆頭試験を行い約70%の重みで成績に反映する。それに併せて、理解を深めるために行う授業中の小課題演習および宿題で課す課題の提出レポートを約30%の重みで成績に反映する。			
評価基準:			
前期試験30%、後期試験40%、課題レポート30%			
教科書等	機械設計工学2、瀬口・尾田・室津 共編、(培風館)、¥2,800。		
先修科目	S3メカトロニクス		
関連サイトのURL			
授業アンケートへの対応	授業に対する学生の興味を高めるよう、身近な事例を多く引用する。		
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。		

(出典:平成17年度シラバス)

シラバスに沿って授業が実施されたかどうかは、最終授業時に実施される学生による授業アンケートの中に「5. 授業内容がシラバスと一致していましたか?」の設問によりチェックされる(資料5 - 2 - - 4)。その結果は学内限定ウェブサイト上に開示されている(資料5 - 2 - - 5)。

資料 5 - 2 - - 4 : 授業アンケート質問用紙

授業アンケート 質問用紙

以下の質問について、当てはまる番号を選んで、科目毎にマークシートに回答して下さい。
それぞれの番号の意味は以下の通りです。

番号1 非常に良い 番号2 良い 番号3 あまり良くない 番号4 悪い

なお、質問項目の中で、その授業の実施形態などにより回答できない項目については、何も記入しなくて結構です。

◎授業に関してお聞きします。

＜授業内容に関する設問＞

1. あなたは授業内容に興味が持てましたか？
2. あなたは授業内容が理解できましたか？
3. 授業内容の将来における必要性について説明を受け、それを納得できましたか？
4. この授業は、あなたにとって意味のあるものでしたか？
5. 授業内容がシラバスと一致していましたか？

＜授業方法に関する設問＞

6. 授業の進行方法は、整理されて理解し易かったですか？
7. 教官の話し方は聞き取り易かったですか？
8. 黒板等の文字は、大きく丁寧に読み易かったですか？
9. 黒板等に書かれた内容は、よく整理されていましたか？
10. あなたの質問に対して教官からの的確な回答が得られましたか？
11. 演習や課題・レポートの内容と量は適切でしたか？
12. 教科書・プリント、OHP、AV教材は、適切な内容でわかり易かったですか？
13. 休講・自習の時間は少なかったですか？（少ない場合を良いとして下さい）
14. 授業の開始・終了時間が守られていますか？（守られている場合を良いとして下さい）

＜成績評価に関する設問＞

15. 演習や課題・レポートはきちんと採点・評価を受けられましたか？
16. 成績の評価基準が明確で、納得できるものでしたか？
17. 試験の内容や量は適切でしたか？
18. 試験の採点基準が明確で、納得できるものでしたか？

◎あなた自身に関してお聞きします。

＜学生自身に関する設問＞

19. この授業に集中できましたか？
20. わからない事柄に関して、質問等積極的に解決を目指す行動がとれましたか？
21. 課題・レポートを、毎回期日内にきちんと提出できましたか？

＜総合的満足度に関する設問＞

22. 全体としてこの授業に満足できましたか？

（出典：平成 15 年度授業アンケート質問用紙）

資料 5 - 2 - - 5 : 授業アンケート集計結果開示例

		S3 回答数: 42																					
質問番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い		7	9	16	4	5	11	23	7	7	12	7	11	30	7	17	16	11	14	14	11	23	9
良い		40	42	42	54	47	42	38	52	40	50	52	38	45	59	48	42	45	50	50	42	54	41
あまり良くない		40	30	23	28	40	28	28	33	40	25	33	38	16	21	29	33	26	23	28	33	16	36
悪い		11	16	16	11	7	16	9	7	11	12	7	11	7	11	4	7	16	11	7	11	4	12
回答数		42	42	42	42	40	42	42	42	42	40	42	42	42	42	41	42	42	42	42	42	42	41

		S4 回答数: 41																					
質問番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い		14	14	36	34	40	36	46	43	29	25	17	19	55	46	37	31	26	39	9	12	43	15
良い		51	65	41	46	45	51	46	48	58	60	58	58	35	41	50	48	48	46	73	63	48	62
あまり良くない		26	12	7	9	8	7	2	0	7	7	9	9	7	4	7	12	14	9	9	21	4	12
悪い		7	7	14	9	5	4	4	7	4	7	14	12	2	7	5	7	9	4	7	2	2	10
回答数		41	41	41	41	35	41	41	41	41	40	41	41	40	41	40	41	41	41	41	41	41	40

(出典：平成 15 年度授業アンケート結果 学内限定ウェブサイトより)

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/jugyou_hyouka/index.html

教養科及び各専門学科において一定の方針の下でシラバスを作成し、教育課程の編成の趣旨に沿って各教員が計画的に授業を行っている。教養科及び各専門学科のシラバスの前書き部分に、教育課程の編成の趣旨等を明記している。教養科（資料 5 - 2 - - 6），機械工学科（資料 5 - 2 - - 7），電気電子工学科（資料 5 - 2 - - 8），電子制御工学科（資料 5 - 2 - - 9），制御情報工学科（資料 5 - 2 - - 10），物質工学科（資料 5 - 2 - - 11）の順に以下に示す。

資料5 - 2 - - 6 : 一般科目の教育課程編成方針

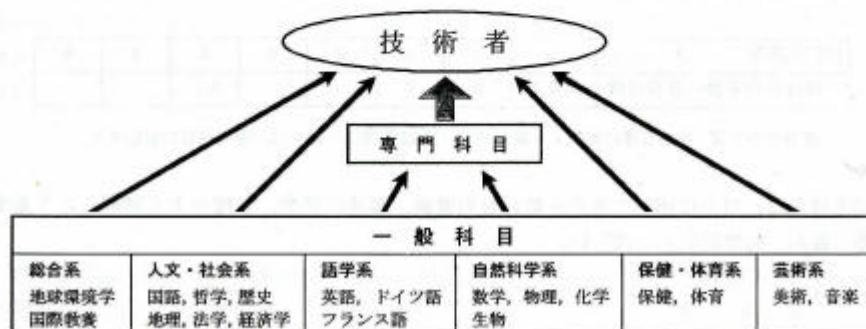
一般科目の編成の特徴

沼津高専の授業科目は、一般科目と専門科目から構成されている。一般科目は、総合系科目（地球環境学、国際教養）、人文・社会系科目（国語、哲学、歴史、地理、法学、経済学など）、語学系科目（英語、ドイツ語、フランス語）、自然科学系科目（数学、物理、化学、生物）、保健・体育系科目（体育、保健）、芸術系科目（音楽、美術）から構成されており（下図）、その大部分は教養科の教員によって教授される。

これらの科目は、将来、社会で活躍する技術者となる学生に必要な、豊かな人間性の基礎を築くうえで欠かせない知識と教養を、また、専門科目を学ぶために欠くことのできない基礎学力を身につけさせる性格をもっている。一般科目の教育カリキュラムは、この両者の側面を過不足なく修得できるよう工夫されており、第1学年から第5学年までに、専門科目や一般科目内の他教科とのバランスを考えながら機能的に配置されている。

授業内容の特徴としては、知識の習得にとどまらず、実際に役に立てる力を身につけることに重点をおいている。そのため、作業、実習、実験、レポートによる報告等を多く採用し、また資格の取得も推奨している。さらに専門科目の基礎としての性格の強い数学、物理、化学では、各学科の要請に対応した内容を提供し、専門科目の学習へスムーズに移行できるよう配慮している。

一般科目の多くは、専門科目と直接関連がないように思えるかもしれないが、広い視野と柔軟な思考力を持つ人間を形成するうえでは重要な役割を持っている。科学技術の発見と発明の多くは、こうした豊かな感性を持つ人々たちによってなされてきたのである。沼津高専で学ぶ学生諸君は、このことを謙虚に受け止め、将来、世界の科学技術を担う一人になるべく努力して欲しい。



沼津高専では、こうした授業科目の意図についての認識を教員と学生とで共有するために、学習・教育目標を掲げている。学生諸君もこの目標をよく理解して、授業に臨んでほしい。

(出典：平成 17 年度シラバス 冊子版)

資料 5 - 2 - - 7 : 機械工学科の教育課程編成方針

機械工学科のカリキュラムについて

1. 養成すべき人材

進取の気風に富み、幅広い豊かな教養と、人類の幸福に寄与する倫理観を持ち、質の高い専門の工業技術の知識を身につけて、さまざまな科学技術を具体的に実現するための機械および装置などを設計・製造する能力を有し、種々の具体的な問題に対してその能力を自ら発揮できる実践的技術者。

2. 機械工学科の教育目標

機械工学科では機械および装置などを設計・製造する能力を有し、あわせて今日の急速な科学技術の発展に柔軟に対応できる技術者の育成を目標としている。このためには、機械工学の根幹をなす専門知識・技術の修得を必修とし、さらに現在の社会において自らの専門能力をいかに発揮するために必要となる関連分野の知識を有することが必要となる。また、理論と実践を両立させ、自らの頭で考え、自らの身体を動かせる「実践的技術者」を育成することを目標としている。

各科目の学習教育目標としては、次のように分けてシラバスに記載する。

- A. 人類の幸福、福祉について理解し、技術者として社会に対する責任を自覚する能力の修得
- B. 機械工学に要求される基礎科目（数学、物理）の基礎知識および応用能力の修得
- C. 機械工学分野における専門知識および応用能力の修得
 - C-1 力学的な専門知識および応用能力の修得
 - C-2 設計・製作に必要な基礎知識および応用能力の修得
 - C-3 実験、解析を自主的に計画、遂行し、結果を工学的に考察し、説明できる能力の修得
 - C-4 機械および機械システムの設計、開発についての実践能力の修得
- D. 計測、情報、制御に関する基礎的知識および応用能力の修得
 - D-1 電気、電子工学の基礎知識の習得
 - D-2 コンピュータ、ネットワークを利用し、情報を処理できる能力の修得
 - D-3 計測、制御の基礎知識および応用能力の修得
- E. 論理的な記述、文献読解力、口頭発表や討議などのコミュニケーション能力の修得

3. カリキュラム編成

低学年では教養科目が多く、高学年では専門科目が多い、楔形となっている。教養科目については、心身ともに健全な社会人としての人間性と常識を養うことを目指している。幅広い知識・技能と、思考力・行動力を持ち、豊かな個性と社会性を備えることが目標である。また機械工学科の専門教科を学ぶのに必要な基礎学力をつけることが必要である。

専門科目については、低学年から製図、機械工作実習など基本的製作実技を学び、機械工学に関する講義科目は基礎となる数学、物理学との関係を考慮して、基礎から専門へと進める。また実験、演習により基本的な技術・知識を体得させる。電気・電子工学については、時間は短いが基礎的事項を一通り学習させる。機械技術者にとっても必要な情報処理分野については、その教科目のほか、各専門教科も多角的に取り入れ、教育効果をあげている。5年には授業と並行して機械工学科の1つの研究室に所属し、1年間にわたって卒業研究に取り組む。人格形成とともに、密度の濃い研究指導を行っている。

(出典：平成 17 年度シラバス 冊子版)

資料5 - 2 - - 8 : 電気電子工学科の教育課程編成方針

電気電子工学科のカリキュラム

1 電気電子工学科の科目編成の特徴

電気電子工学科の科目編成は、①回路理論・電磁気・情報を共通基礎として、②電気エネルギー、③情報技術・通信、④電子回路・デバイスの4分野で構成されている。

まず専門科目の基礎となる数学、物理などの工学基礎科目を低学年から学習し、学年進行と共に電磁気や回路理論などの共通基礎科目を核として、電気エネルギー、電子回路・デバイス、情報技術・通信の3分野をバランスよく学習する。そして実験や卒業研究を通じて、知識及び技術の実践的活用法、問題についての議論・発表方法など技術者に求められる総合的な能力を習得し、自らの頭で考え、行動できる実践的な技術者をを目指す。

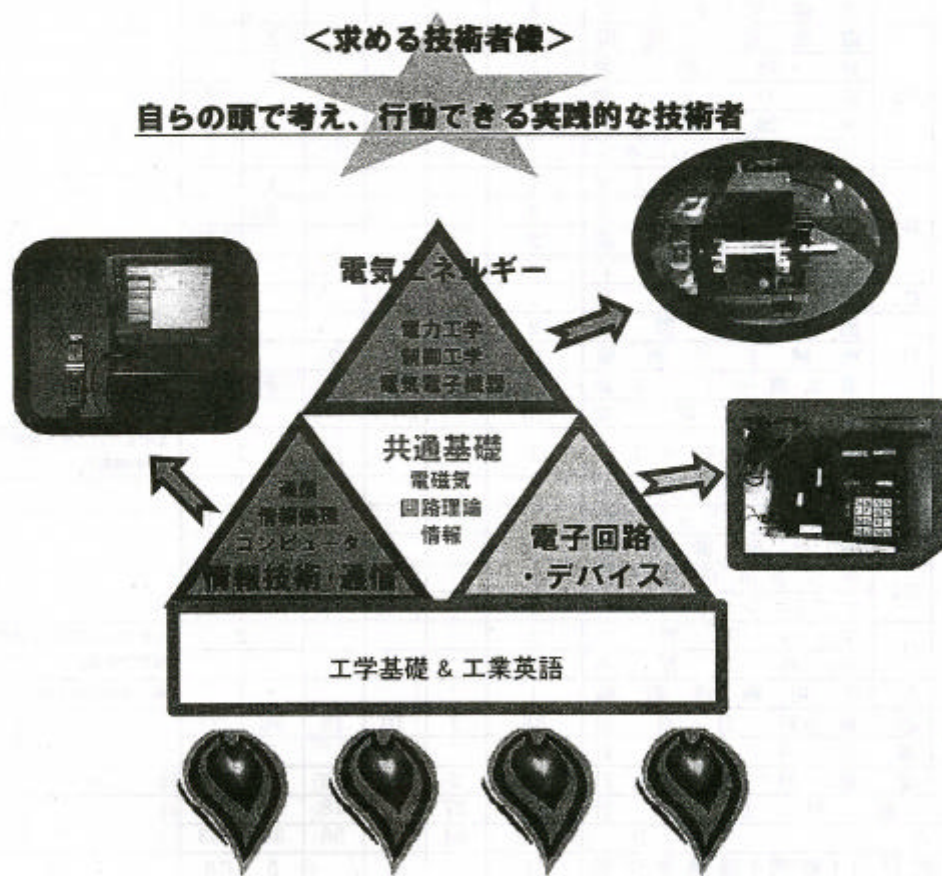


図1

(出典：平成17年度シラバス 冊子版)

資料 5 - 2 - 9 : 電子制御工学科の教育課程編成方針

2005年度 電子制御工学科シラバス

1. 教育目的・教育目標

1. 1 教育目的

本校は、学校教育法第五章の二「高等専門学校」の第七十条の二のとおり、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的としています。

また、本専攻科は、同第七十条の六のとおり、高等専門学校における基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的としています。そして「制御・情報システム工学専攻」を置いた趣旨は、「マイクロエレクトロニクスの発展は、コンピュータの計算処理能力を飛躍的に増大させ、その結果として、コンピュータは情報を高速に処理する手段として、また機械を知能化する手段として各分野に広く用いられるようになりました。しかし、一般に機械の知能化は容易ではありません。例えば、生産システムを知能化するためには、ロボットなどの個々の機械への制御理論を組み込み、それら機械群を有機的に結合するための通信ルートの整備、階層制御系の設計、データベース、知識ベースの実現が図られなければならない。これらを統合的に解決する技術者を養成するため」としています。

これらを踏まえて、工学に関する基礎学力と専門知識を身につけ、工学の社会的責任を理解し、創意工夫して、機械工学、電子工学および情報工学を社会のニーズに応用する資質のある自立の人材を養成することを、専攻科を有する電子制御工学科の教育目的とします。

1. 2 教育目標

本学科の教育目的に対する学習・教育目標は以下のとおりです。

- ・ A 社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。(工学倫理の自覚と多面的考察力)
 1. 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。
 2. 最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。
 3. 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。
 4. これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。
- ・ B 数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。(社会要請に応えられる工学基礎学力)
 1. 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。
 2. ワードプロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。
 3. 実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。
 4. 自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。
- ・ C 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。(工学専門知識の創造的活用能力)
 1. 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。
 2. 自己の取り組み研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。
 3. 自己の取り組み研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。
 4. 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力、種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出し、いく能力をいう。
- ・ D コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力を身につける。(国際的な受信・発信能力)
 1. 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。
 2. 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。
- ・ E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける。(産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力)
 1. 指定された期限内に、課題を提出できる。
 2. 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。
 3. 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。
 4. 自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。

(出典：平成 17 年度シラバス 冊子版)

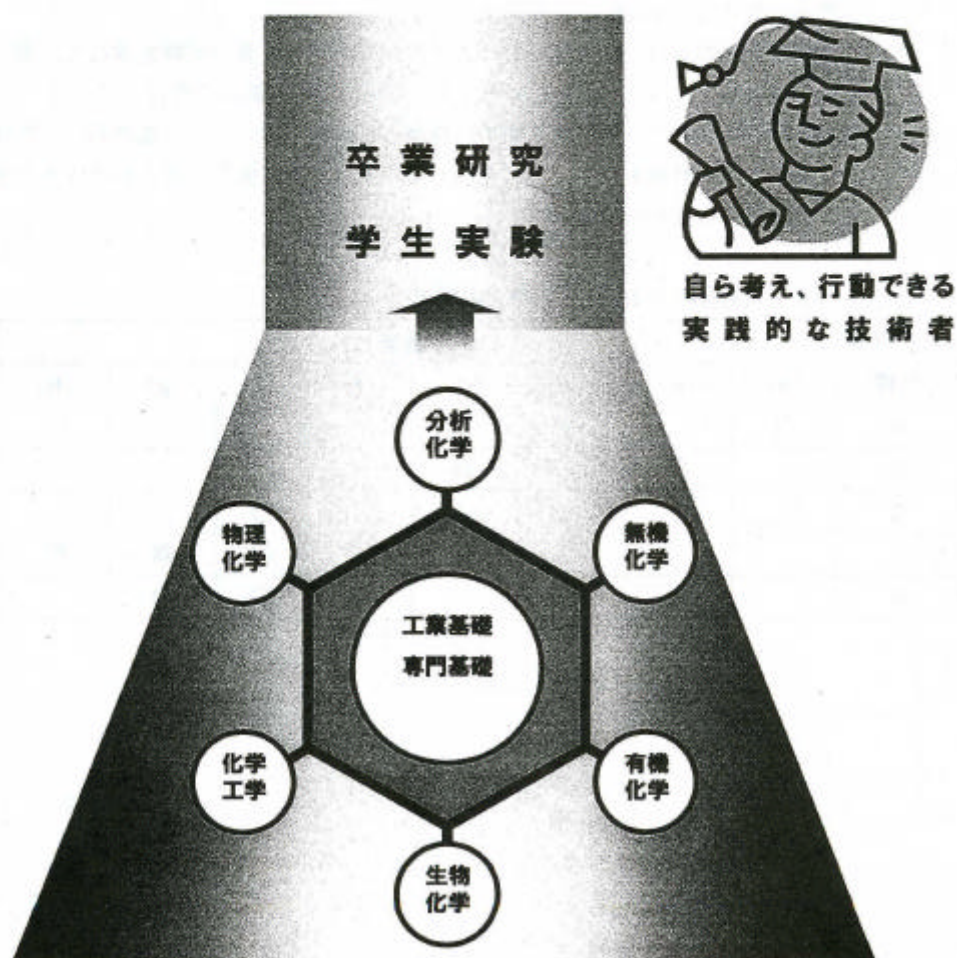
資料5 - 2 - - 11 : 物質工学科の教育課程編成方針

物質工学科のカリキュラム

1 物質工学科の科目編成の特徴

本学科の科目編成は、数学・物理学・情報処理を工学基礎科目として、さらに①分析化学、②無機化学、③物理化学、④有機化学、⑤生物化学、⑥化学工学の専門基礎科目の上に、専門発展科目が選択やコース別科目として用意されている。

まず専門科目の基礎となる数学、物理などの工学基礎科目を低学年から学習し、学年進行と共に6分野の専門基礎科目を核として履修し、その後各分野の専門発展科目をバランスよく学習する。さらに実験や卒業研究を通じて、知識及び技術の実践的活用法、課題解決方法や、その成果の発表方法など技術者に求められる総合的な能力を習得し、自ら考え、行動できる実践的な技術者養成を目指す。このカリキュラムは、主に化学工業、食品工業などの研究開発・生産技術分野で活躍できる人材の養成を目指したものである。



(出典：平成 17 年度シラバス 冊子版)

シラバスは冊子版のみならず、ウェブサイト上に公開し、全学生にウェブサイトを通じて周知している(資料5 - 2 - - 12)。

資料 5 - 2 - - 12 シラバス・リンクのトップページ

国立沼津工業高等専門学校 教授要目

1/1 ページ

国立沼津工業高等専門学校 教授要目 (シラバス)

最終更新05/04/6

はじめに

この「シラバス(授業計画)」には、授業科目ごとに、講義の内容と目標、各週の授業項目、学習に必要な教科書・参考書、評価方法、学生が質問に行きやすいように授業担当教員のオフィスアワー等が掲載されています。

このシラバスは、これまでに実践した授業の結果等を、教員自らが更に点検・評価を行い、毎年度更新しているもので、本校の自己点検・評価の一環として公刊しているものであります。

一般科目・専門科目の教育課程については本文に示すとおりであって、一般科目については学科によって単位数の学年別配当に違いがあります。また、専門の選択科目開講の単位数についても、各学科・コースによって差があり、中には集中講義によって履修する選択科目も設けてあります。

工業高等専門学校における学修は、技術・研究を志す学生にとって学習の第一歩であり、自学自習の精神を培うよい場であり、

このシラバスの内容を把握して年間の学習計画を立てて履修に努めれば、より良き理解が得られるものと信じます。

人間性豊かな、人柄の良い技術者を目標として、このシラバスを有効に活用し、学業に成果をあげることを期待します。

国立沼津工業高等専門学校長 久賀重雄

平成17年度版(2005)

平成16年度版(2004)

注意

・[画] は画像版でありファイルサイズは約5MBという大きさです。一方、特に断りがないものは電子製版であり、ファイルサイズは 0.5MB 程度へとコンパクトになりながら、文字の鮮明さや表示の速さに優れます。

・ファイルをダウンロードして Acrobat Reader から直接扱うと、pdf ファイル本来の快適な閲覧が可能です。

pdf ファイルを利用する際の便利情報

- ・マウスカーソルの形が変わったなら、他ページへのリンクです。
- ・リンク先のページから元のページに戻りたいときは、アクロバットリーダーのツールバーの左矢印(そのアイコン上にマウスカーソルを重ねると、マウスカーソルの脇に「前の画面」と表示)を押してください。
- ・なお、pdf ファイルをアクロバットリーダーで直接扱った場合には、Ctrl + ← というキー操作でも戻れます。(バージョンによっては Alt + ←)

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/syllabus/newsyllabus.top.htm>

(分析結果とその根拠理由) 優れている。本校における授業は、教養科及び各専門学科が作成した一定の方針の下に作成したシラバスを設計図として、計画的に進められている。また、学生に周知することにより、授業内容の確認や予習に役立てられており、さらに授業内容及び授業方法に対する教員のPDCAに役立てられている。

観点 5 - 2 - : 創造性を育む教育方法 (PBL など) の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況) 各専門学科においては、全学生に卒業研究を課し、研究活動の中で創造性を育むようテーマ設定や問題解決の方法などを工夫して指導している(資料 5 - 2 - - 1)。研究成果を学会等で発表する例も多くある(資料 5 - 2 - - 2)。また、PBL 型の実習または演習科目を設け、学生達が主体的に問題解決を図る中で創造性、独創性が養われるよう工夫している(資料 5 - 2 - - 3)。

観点 5 - 2 - でも触れたように、学外実習(インターンシップ)に関しては昨年度より学内全体

での報告会を開き、報告書（前出資料5 - 1 - - 5）を作成して、インターンシップで得た経験や知識を他の学生にも伝える機会を設けている（資料5 - 2 - - 4）。また、外部との共同研究・受託研究等に学生を参加させることにより、実社会におけるニーズに触れさせている（資料5 - 2 - - 5）。

資料5 - 2 - - 1 : 卒業研究シラバス

Syllabus Id	syl-052029		
Subject Id	sub-0521590		
作成年月日	50115		
授業科目名	卒業研究、Study for graduation		
担当教員名	機械工学科全教員(代表:機械工学科主任大賀喬一)		
対象クラス	機械工学科5年生		
単位数	8高専単位		
必修/選択	必修		
開講時期	通年		
授業区分	基礎・専門工学系		
授業形態	研究		
実施場所	機械工学科各教員居室および各教員研究室(卒研ガイダンス等に従う)		
授業の概要			
機械工学科1学年から5学年までの教育プログラムにおける学習・教育のまとめとして、機械工学科各教員研究室に所属して、担当教員の指導の下に具体的なテーマについて研究を行う。高専5年次までに修得し、なお修得しつづつある機械工学科および本教育プログラムが目標とする広範な知識と技術を基礎として、研究を通して新しい問題への取り組み方、自立的で継続的な問題解決の方法と態度を取得するとともに、工学技術の社会的、産業的役割を理解し、討論の方法を身につけ、成果について発表し、論文としてまとめる。			
準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)			
機械工学科における教育プログラム教科目の授業・演習・実験・実習			
学習・教育目標	Weight	目標	
	○	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
	◎	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
	◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	○	D	国際的な受信・発信能力の養成
	○	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
A:社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力 B:数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢 C:工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力 D:コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力 E:産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢			
学習・教育目標の達成度検査			
1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とす 3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。			
授業目標			
1. 研究に係る安全問題について理解し、安全かつ効率的に研究計画を遂行することができる。 2. 研究に関連する情報を探し出すために適切な情報源を用いることができる。 3. 獲得した情報を適切な方法で整理し、管理できる。 4. 研究の背景・目的および社会的、産業的意義を把握できる。 5. 問題を解決するために、複数の工学に関連する実験等(計算/フィールドワーク)の計画の立案を行うことができる。 6. 実験等により、得られた結果を解析し、異なった評価方法によって得られた結果と比較し、誤りをチェックすることができる。 7. 実験等が持つ不確定な部分を評価し、今後の展開・発展の方針の策定に生かすことができる。 8. 得られた成果や様々な情報を有効に活用し、問題を特定し、仮説を展開し、解決のための方策を探ることができる。 9. 研究成果を聴衆の前で口頭発表するとき、聴衆に伝えるべき情報を系統立てて立案することができる。 10. 研究成果とともに当該研究の背景や意義を文章や図表で記述することができ、英文で論文の概要を記述できる。			
授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観ですが、参観欄に×印がある回は参観できません。)			
回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	研究ガイダンスおよび研究室選択、安全教育	機械工学科の全教員が各自研究概要をホームルームで紹介する。学生は各教員の紹介情報を基に、希望の研究室を決定する。研究室配属は学生の希望と各研究室の受け入れ状況を考慮して決定する。配属決定後は該当の研究室へ向かい、指導教員から研究実施上必要とされる安全について教育を受ける。これ以降の授業計画は全学科卒業研究シラバスに準拠し、それぞれの研究テーマの特徴に応じて展開していく。以下に、平成16年度実施の研究テーマ等を記載する。	
第2回			
第3回			

(出典：平成17年度 シラバス)

資料 5 - 2 - 2 : 学生の研究発表実績

86号

沼津高専だより

(39)

学生の研究活動(2004.5.1~2005.4.30)

(1) 論文発表

(筆頭著者が、学生の場合のみ記す。第二著者が学生の論文は省略した。)

学科	学生氏名	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名(共著者名)	指導教員
DS2	高田 直朗	第13回CAMSUコンファレンス講演論文集、2004年、61-62頁	Double PWS型電動車椅子の開発(澤洋一郎)	澤 洋一郎
DS2	植松 亨介 川口 守孝	RoboCup Japan Open 2004 (ロボカップ日本委員会、日本人工知能学会、日本ロボット学会、計測自動制御学会)	小型リーグサッカーロボット plastic brick(澤洋一郎)	澤 洋一郎
DS1	増田 優	CEIDP(IEEE CONFERENCE ON ELECTRICAL INSULATION AND DIELECTRIC PHENOMENA)米国電気電子学会電気絶縁誘電現象国際会議 Dissipation current waveform observation of polyethylene film under AC high field	交流高電界下におけるポリエチレンフィルムの損失電流波形観測(遠山和之、長尾雅之、所哲郎、小崎正光)	遠山 和之
DS1	増田 優	平成17年電気学会全国大会	三角波印加時のLDPEの電界損失電流特性(遠山和之)	遠山 和之
D5	伊藤 大祐 高畑 祐太	RoboCup Japan Open 2004 (ロボカップ日本委員会、日本人工知能学会、日本ロボット学会、計測自動制御学会)	小型リーグサッカーロボット plastic brick(澤洋一郎)	澤 洋一郎

(2) 講演発表

(登壇者が学生の場合、及びそれに相当する場合*のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても、講演発表に含めた。)

学科	学生氏名	学会名	講演発表題名(共同研究者名)	会場	発表日	指導教員
ME2	朝河 彰詳	日本機械学会関東支部山梨講演会	摺動面間における接触熱抵抗(柳田)	山梨大学	2004.10.23	柳田 武彦
ME2	大庭 史敬	日本機械学会東海支部第54期総会・講演会	アルミニウム合金のフレッチング疲労特性に及ぼすナレルおよび液体ホーニング処理の影響(西田、水谷、武藤)	中部大学	2005.3.11	西田 友久
ME2	黒下 幸信	平成16年春季フルードパワーシステム講演会	空気圧機器のハイブリッド流量特性試験法(黒下)	機械振興会館	2004.5.27	黒下 清志
ME2	浜野 光太	日本機械学会山梨講演会	管フランジの応力・変形解析ソフトウェアの開発(小林)	山梨大学	2004.10.23	小林 隆志
ME1	矢田 千尋	日本機械学会2004年度年次大会	A1合金(Al2024T4)のフレッチング疲労特性(西田、水谷、武藤)	北海道大学	2004.9.8	西田 友久
M5	深澤 篤彦	日本機械学会東海支部東海学生会36回学生会卒業研究発表講演会	摺動面間の接触熱抵抗(鈴木、朝河、柳田)	中部大学	2005.3.10	柳田 武彦
M5	影山 淳二	日本機械学会東海支部第54期総会・講演会	移動騒音源に対する防音壁における騒音伝達の適応制御(三谷)	中部大学	2005.3.11	三谷祐一郎
M5	見城 健太	日本機械学会東海学生会第36回学生会卒業研究発表講演会	倒立振子のモデル規範型適応制御(三谷)	中部大学	2005.3.10	
M5	鈴木 達博	日本機械学会東海学生会第36回学生会卒業研究発表講演会	マイコンを用いた機械システムからの騒音の抑制手法の検討(三谷)	中部大学	2005.3.10	
M5	山本 純一	日本機械学会東海支部第54期総会・講演会	マイコンを用いた磁気浮上システムの設計と検討(三谷)	中部大学	2005.3.11	
M5	清水 拓也	日本機械学会東海支部第54期総会・講演会	十字交差2円柱の交差近傍の流れの可視化(村松、木下、大原、宮島、杉本)	中部大学	2005.3.11	村松 久巳

(出典：沼津高専だより 86号)

前ページからの続き

(資料5 - 2 - - 2 : 学生の研究発表実績)

(40)

沼津高専だより

86号

学科	学生氏名	学会名	講演発表題名(共同研究者名)	会場	発表日	指導教員
DS2	渡邊 将人	精密工学会	サーボデータ制御に基づく高速高精度化加工システムの開発-運動誤差補正への適用	東京大学	2004.3.17	
			サーボデータ制御に基づく高速高精度化加工システムの開発-実機での検証	鳥根大学	2004.9.16	
		日本機械学会	サーボデータ制御に基づく高速高精度化加工システムの開発	中部大学	2005.3.10	
S5	片野 克紀	日本機械学会	SweptVolumeを用いたCAM用オフセットモデルの生成	中部大学	2005.3.10	藤尾三紀夫
S5	加藤 翔	日本機械学会	NC加工シミュレーションの高精度化に関する研究	中部大学	2005.3.10	
S5	河上まきほ	日本機械学会	NC加工シミュレーションに基づく工具経路生成に関する研究	中部大学	2005.3.10	
S5	宮川 正好	日本ロボット学会	ウォームギアを用いた指関節トルクセンサの開発	岐阜大学	2004.9.17	吉野龍太郎
BC2	上松 康二	2004 International Conference on OCHA(tea) Culture and Science	Transformation of green fluorescent protein in tea plant(Kato.Niwa)	静岡 岡	2004.11.5	加藤美知代
BC2	小川健二郎	第10回高専シンポジウム	ホウ酸を用いたフラボノールの測定法に関する研究(芳野恭士)	鶴岡市中央公民館	2005.1.15	芳野 恭士
BC2	古谷 洋史	第34回石油・石油化学討論会	新規好熱性メタン酸化細菌を用いたアルカンの酸化反応	南海放送本町会館	2004.11.18	竹口 昌之
BC1	安杖 大輔	第10回高専シンポジウム	黒鉛軸由未セルロースに特異的な好熱性セルラーゼを用いた黒鉛軸有効利用法の開発	鶴岡市中央公民館	2005.1.15	蓮実 文彦
BC1	磯部 大介	第34回石油・石油化学討論会	ポリヒドロキシ酪酸生産能を有するメタン酸化細菌の探索	南海放送本町会館	2004.11.18	
BC1	杉浦 由佳	第10回高専シンポジウム	茶カテキンの抗酸化作用に関する研究(木村志帆、芳野恭士)	鶴岡市中央公民館	2005.1.15	芳野 恭士
BC1	木根 悠太	日本動物学会中部支部大会	魚類肝臓中のシステインジオキシゲナーゼ活性の測定方法について(蓮実文彦、望月明彦、後藤孝信)			
C5	田中奈津美	日本動物学会中部支部大会	ウナギ肝臓中の含硫アミノ酸代謝に関与した酵素活性の分布(後藤孝信、木根悠太、原崎孝)	静岡グランシップ	2004.7.24	後藤 孝信
C5	貝増 卓見	日本動物学会中部支部大会	魚類肝臓中のシスタチオンニアリアーゼ活性の性状と分布(高橋智子、田中奈津美、後藤孝信、原崎孝)			
C5	小澤 美絵	第7回化学工学会学生発表会	エポキシドヒドロラーゼ活性を有するスチレンオキシド分解菌の探索			
C5	熊倉 永子	第8回化学工学会学生発表会	メタノール酸化細菌を用いたバイオ燃料電池の構築	同志社大学	2005.3.5	竹口 昌之
C5	鈴木 研	第9回化学工学会学生発表会	Methylocaldum sp.T425株が生成する黄色化合物の精製とその性質			

(出典:沼津高専だより 86号)

資料 5 - 2 - - 3 : PBL 型授業

PBL型授業
一般科目 ・文学特論(機械工学科4年生、制御情報工学科4年生) 実社会で役立つ研究課題に対し、学生自身が会議を通じて、アイデア創出、計画立案ができ、調査研究結果を論理図解を用いて説得力のあるプレゼンテーションができる能力を、PBL方式の演習で養う。
機械工学科 ・機械工作実習と機械設計製図(3年次) 各グループ(7名位)で歯車減速機を創造設計と製作まで一貫して総合実習として行う。機械設計製図と機械工作実習を一体化して強度計算・設計・製図・加工・組み立てを一貫して行い、2軸減速機を製作させている。クラスを6班に分け1班7名でひとつの製品を一年間で完成させている。
電気電子工学科 特になし
電子制御工学科 ・電子機械設計製作(I,II)(4年次) 1クラスを5チームに分け、システム開発の一連の過程を経験させる教育プログラム。最終的に達成すべきシステム要件を競技規定として与え、システムの企画から設計、製作、試験、運用までを行なう。特に設計のアウトプットとしてドキュメント作成を重視した開発を行なせている。
制御情報工学科 ・創造設計(4年次) 一クラスを5チームに分け、製品の企画・設計・製作・動作テスト・ドキュメント作成・成果発表まで、無の状態から製品を作り上げるまでの、一連のもの造りの過程を経験させるPBL型の演習授業である。学生達が自らの力で企画・発案し、実際の物へ作り上げていく過程を通して、創造性、独創性、問題発見と解決能力を養い、8～9名のプロジェクトで作業を進める中で、協力精神、責任感、コミュニケーション能力を養い、ドキュメント作成と成果発表を通してプレゼンテーション能力を養うことを目指している。
物質工学科 特になし

(出典：授業形態・学習指導法調査結果)

資料 5 - 2 - - 4 : インターンシップ説明会

3 年生対象 インターンシップ説明会 (H17 年 2 月 18 日) の概要

インターンシップ(学外実習)は、本校では以前から単位化もできる教育として取組まれてきたが、昨今の社会的な動向の中で、その注目度が更に高くなってきた教育プログラムである。

今年度も沼津高専では主に 4 年生がインターンシップ(学外実習)を行ってきた。クラスの約半数が参加するような積極的な学科もあるが、それほど多くの学生が参加しない学科もあった。4 年生の実績を新年度の学年全体に広げるため、この説明会を開催した。

当日の参加は、3 年生約 60 名、4 年生(講演者) 5 名、教員 6 名、職員 3 名であった。

最初の 10 分間ほどは、望月教員から挨拶と、インターンシップ概要の説明を行った。続いて、各学科から 1 名ずつ派遣された計 5 名の学生が、それぞれ約 5 分ずつ体験談を語った。その後に 15 分ほど質疑応答を行った。最後に、クラスから多数の学生を参加させた M4, C4 の学級担任の先生が、簡単にまとめた。

4 年生はそれぞれ別の体験をしてきたが、インターンシップについて「役立った。とにかく行ったほうが良い」という結論であった。それに対する 3 年生は、まだ自分のことと感じていないところもあるのか少し鈍い感じもあったが、殆んどの学生がインターンシップに対して大きな興味を持ったようである。発表会の後に、2・3 名の 3 年生はインターンシップについて学科担当教員のところに具体的な相談に来た。



最初の挨拶から直ぐに本題に入ったところ

今回の形式の報告会は沼津高専では初めて行われたが、学校全体のインターンシップを盛り上げるためには今後も続けたほうが良いだろう。ただし、時期を含めて内容についてはもう少し改良の余地があると思われる。



説明会最後にあった質疑応答にて、4 年生の回答(写真左)や、3 年生の質問(写真右)

(出典：インターンシップ(学外実習)に関する報告書)

資料5 - 2 - 5 : 実社会ニーズの体得の機会

実社会ニーズ体得の機会
一般科目 特になし
機械工学科 ・共同開発研究をしている会社に卒業研究担当学生を連れて工場見学を実施し、開発研究の位置づけを明確にさせた。 また、共同研究実施企業の技術者と研究テーマについていっしょに話をする機会を設けている。
電気電子工学科 ・学外実習で、希望者に対し夏季休業中に1～2週間の間、企業または研究機関等において実習を行い、生産現場または研究機関等における研究、開発、生産活動を認識、体験することにより工業技術を体得する。 ・担当教員によって差はあるが、共同研究に対しては、卒研生にも積極的に参加させている。
電子制御工学科 ・学外実習 ・卒業研究の一部のテーマは、外部との共同研究に関連した研究テーマになっている。
制御情報工学科 ・学外実習 希望する学生には企業で実習体験する機会を与えている。 ・卒業研究 一部の研究室では、共同研究または受託研究を通じて企業の技術者と共に研究を進める機会を持っている。 ・共同研究を通じてのアルバイト 一研究室では、共同研究として地域企業と共にCADのカスタマイズソフトウェアの開発を行っている。その中で、4年と3年の比較的優秀な学生2名がアルバイトとして協力して。人選はクラスの全員に声をかけ、希望者を募って決めている。1年半になるが、会社の人と話すことで社会を知ることができ、会社で何が行われているかの勉強ができ、学生からの評判も良く、モチベーションが刺激され1年間で学生の成績も上がっている。また、学生自らが企業の方に説明したりデモンストレーションを行い1年間で自らが積極的にプロジェクトに取り組むようになり、大きく成長した。現在では、ほとんど学生主体で研究を行えるまでになっている。
物質工学科 ・物質工学総論(C5) 毎回、企業や大学等から外部講師を招いて実施する講義で、学生が実社会におけるニーズに触れる良い機会となっている。 ・学外実習1,2(C4)、学外実習3(C5) 企業におけるインターンシップを通じて、学生が実社会におけるニーズに触れる良い機会となっている。 ・特別物質工学実習(C3,C4,C5) 学内外で開催される科学イベントへのブース参加を通じて、学生が技術者として実社会と関わる体験の良い機会となっている。 ・卒業研究(C5) 多くの研究室で、企業または大学との共同研究を卒業研究のテーマとしており、定期的に相手方との報告会を学生参加のかたちで実施している研究室もある。

(出典：授業形態・学習指導法調査結果)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。学生が主体的に取り組む PBL 型の実験・実習・演習等においては、学生が自ら設定したテーマの実現に向け知識を総動員しており、既存の理論的講義の枠にはまらない教育効果を実現している。また、インターンシップや、外部との研究協力を学生を参加させることにより、学生が実社会におけるニーズに直接触れることで自らの学習内容をもう一度見直し、目標を明確化する良いきっかけを与えている。

観点5 - 3 - : 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)成績や進級・卒業に関する規定は、「学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則」(資料5-3-1)及び「卒業・進級判定基準」(資料5-3-2)が制定されており、学生便覧及びウェブサイトに掲載することにより学生に周知している。60点以上を合格として単位を認定している。各授業科目の成績評価及び単位認定は、同規則に基づき各教科目担当教員によって行われ、各教科目における評価方法と基準はシラバスに明記し学生に周知している(前出資料5-2-2及び3)。最終授業時に実施する学生による授業アンケートの設問に「成績評価に関する設問」を設け、適切な評価がなされているかをチェックしている(前出資料5-2-4)。学年成績が不合格となった科目については、学生の願い出によって再評価を受けることができ、再評価により合格になった科目については単位認定される。ただし評価はC(可)となる(資料5-3-3)。各種技能検定の取得に係る単位認定は学生からの申請を受け、「各種技能検定取得実績の単位認定に関する規則」(前出資料5-1-2)に則り単位認定される。再評価による単位認定と各種技能検定の取得に係る単位認定は、各定期試験期間に開催する教務委員会でやっている(資料5-3-4)。進級認定及び卒業認定はそれぞれ教員会議において全教員参加の下で審議・決定されている(資料5-3-5及び6)。

資料 5 - 3 - - 1 : 学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則

2. 学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則

第 1 章 総 則

(趣 旨)

第 1 条 この規則は、沼津工業高等専門学校における試験、学業成績の評価並びに進級・卒業認定等について定める。

第 2 章 試 験

(定期試験)

第 2 条 定期試験は、前期・後期の期末に行う試験（「期末試験」という。）及び前期・後期の期間中において、必要ある科目について行う試験（「中間試験」という。）とする。

2 試験実施科目及び時間割りは、原則として実施の 2 週間前に発表する。

(追 試 験)

第 3 条 次の各号に掲げる理由により、定期試験を受けることができなかった者に対しては、追試験を行うことができる。

- (1) 病 気（医師の証明がある場合に限る。）
- (2) 忌 引
- (3) その他やむを得ない事由があると認められる場合

2 追試験を受けようとする者は、速やかに追試験願を提出し、許可を受けなければならない。

第 3 章 成 績 評 価

(評 価)

第 4 条 学年成績は、その年度の試験の成績及び平素の成績並びに出席状況等を総合して決める。ただし、実技的要素の多い科目については、その科目の実情に応じて評価する。

(評価点及び評語)

第 5 条 各科目の成績は、100 点満点で評価し、評語で表わす場合は、次の基準による。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| A (優) | 80 点以上 | |
| B (良) | 70 点以上 | 80 点未満 |
| C (可) | 60 点以上 | 70 点未満 |
| D (不可) | 60 点未満 | |

第 6 条 学年成績は 60 点未満、又は欠課時数が年間授業時数の 5 分の 1（長期病

(67)

(出典：平成 17 年度学生便覧 p.67～69)

前ページからの続き

(資料5 - 3 - - 1 : 学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則)

欠者は3分の1)を超える科目は、不合格とする。

(再 評 価)

第 7 条 学年成績において、60 点未満の科目を有する進級者に対しては、願いにより、再評価を行うことができる。ただし、欠課時数超過による不合格科目は、再評価を申請することはできない。

2 再評価を受けようとする者は、再評価願を提出するものとする。

3 再評価は、60 点以下とする。

(記 録)

第 8 条 成績の指導要録への記載及び校外に対する通知は、評語をもって行い、学生に対する通知は、評語及び評価点をもってする。

第 4 章 進級・卒業認定及び再履修

(進級・卒業認定)

第 9 条 各学年の課程の修了又は卒業の認定は、原則として次の基準によるものとする。この基準に達しない者は、成績判定会議に諮り校長が及落を判定する。

2 修了認定基準

(1) 各課程に定められた全ての「修得必須」科目に合格していること。

(2) 総欠課時数が学校行事等を含む年間総授業時数の5分の1(長期病欠者は3分の1)を超えていないこと。

また、総欠課時数及び公休の総時数が学校行事等を含む年間総授業時数の3分の1を超えていないこと。

(3) 累積修得単位数が、次の基準を満たしていること。

a. 第1学年については、27 単位以上である。

b. 第2学年については、60 単位以上である。

c. 第3学年については、95 単位以上である。

d. 第4学年については、131 単位以上である。

e. 第5学年については、167 単位以上(そのうち、一般科目については75 単位以上、専門科目については82 単位以上)である。

(4) 上記の単位数には全て、外部修得単位を含む。

3 第4学年までについては、その学年課程の修了者は進級でき、第5学年については、全学年課程の修了者が卒業できる。

(再 履 修)

第 10 条 前条の認定の結果、原学年にとどめられた者は、当該学年に係る全授業科目を再履修しなければならない。

(68)

2 前項により同一学年にとどめられた者が、引き続き原学年にとどめられた場合、又は休学期間が2 年を超える場合には、本校に在籍することができない。

第 5 章 雑 則

第 11 条 この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月14日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

(出典：平成17年度学生便覧 p.67～69)

資料 5 - 3 - - 2 : 卒業・進級判定基準

3. 卒業・進級判定基準について

- 1 各学年の課程の修了の認定は、原則として次の基準によるものとする。
- (1) 各課程に定められた全ての「修得必須」科目に合格していること。
 - (2) 総欠課時数が学校行事等を含む年間総授業時数の5分の1（長期病欠者は3分の1）を超えていないこと。
また、総欠課時数及び公休の総時数が学校行事等を含む年間総授業時数の3分の1を超えていないこと。
 - (3) 累積修得単位数が、次の基準を満たしていること。
 - (4) 上記の単位数には全て、外部修得単位を含む。
- 2 第4学年までについては、その学年課程の修了者は進級でき、第5学年については、全学年課程の修了者が卒業できる。

(70)

	累積修得単位数 ※1	修得必須授業科目					
		各学科共通	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科
1年	27以上	体育②	機械工作実習③ 機械設計製図②	電気電子工学実験①	電子制御工学実験②	制御情報工学演習③	基礎化学実験①
2年	60以上	体育②	機械工作実習③ 機械設計製図②	電気電子工学実験④	電子制御工学実験③	制御情報工学演習③	分析化学実験③ 無機化学実験③ 微生物学実験②
3年	95以上	体育②	機械工作実習③ 機械設計製図②	電気電子工学実験④	電子制御工学実験④ 電子機械設計②	制御情報工学演習③	有機化学実験③ 生物化学実験② 物理化学実験③
4年	131以上		機械設計製図③ 工学実験③	電気電子工学実験④	電子制御工学実験④ 電子機械設計・製作Ⅰ② 電子機械設計・製作Ⅱ③	工学実験③ 創造設計③	化学工学実験② 材料化学実験Ⅰ・Ⅱ④ または生物工学実験Ⅰ・Ⅱ④
5年	167以上 (一般科目75単位以上、専門科目82単位以上)		機械設計製図③ 工学実験③ 卒業研究⑧ ※2	電気電子工学実験② 卒業研究⑩	電子制御工学実験② 卒業研究⑥	工学実験③ 卒業研究⑩	卒業研究⑩

※1 外部修得単位を含む。

※2 機械工学科は、卒業要件として上記の修得必須科目以外に次の授業科目の中から14単位以上を修得していなければならない。

- 2年 金属材料学②
3年 機械学② 工業力学② 材料力学② 機械工作法②
4年 熱力学② 水力学②
5年 自動制御② 伝熱工学③ 振動工学①

(出典：平成17年度学生便覧 p.70)

資料 5 - 3 - - 3 : 再評価に係る規定

6. 学年成績不合格科目の再評価について

学年成績が不合格(D)となった科目については、願い出により、再評価を受けることができる。

1 願い出手続き

- (1) 再評価を願い出る学生は再評価申請用紙を4月末日までに該当教科担当教員に提出し、再評価の指示を受けなければならない。再評価申請用紙は年度当初にクラス担任教員から再評価申請用紙を受け取る。
- (2) 再評価により、なお不合格の場合には、次年度以降も、(1)の手続きを経て、再度願い出ることができる。

2 評価

再評価により、合格となった科目の評価は、C(可)となる。

(出典：平成17年度学生便覧 p.72)

資料 5 - 3 - - 4 : 教務委員会議事次第

平成 17 年 2 月 10 日

平成 16 年度 第 4 回教務委員会議事次第

日 時 2 月 10 日 (木) 16 : 00 ~

場 所 学生課小会議室

議 題

1. 再評価について	資料 1
2. 公休の認定について	資料 2
3. 技能審査合格における単位修得の認定について	資料 3
4. その他	

(出典 : 平成 16 年度 第 4 回教務委員会資料)

資料 5 - 3 - - 5 : 進級判定会議資料表紙

教員会議 資料 1

平成 17 年 3 月 11 日

平成 16 年度

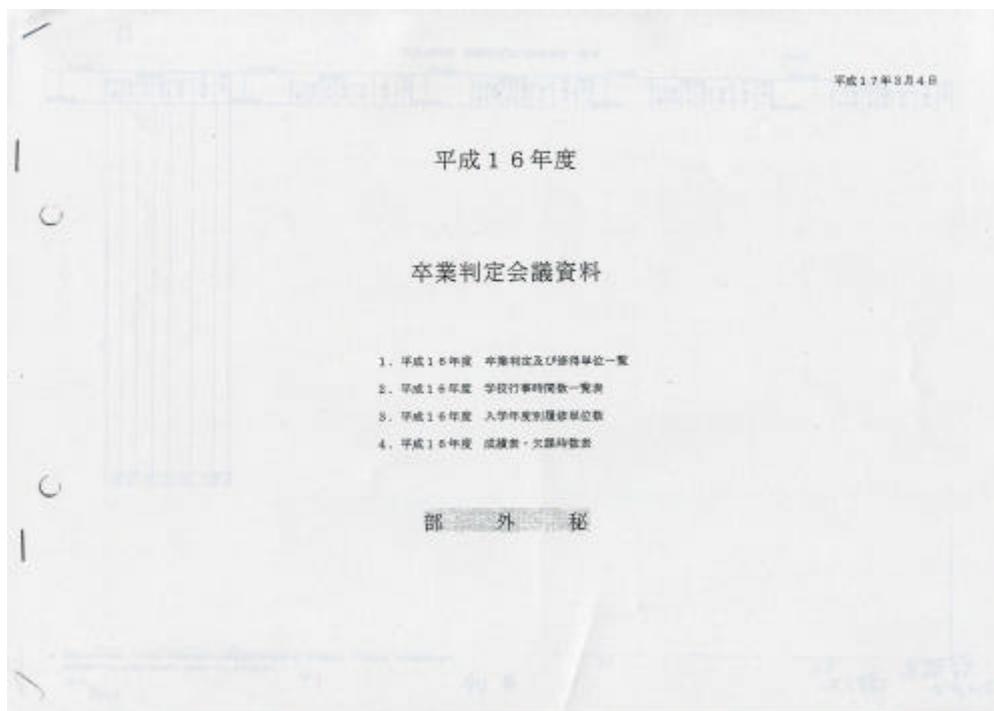
進級判定会議資料

1. 平成 16 年度 進級判定及び修得単位一覧表
2. 平成 16 年度 学校行事時間数一覧表
3. 入学年度別履修単位表
4. 平成 16 年度 成績表・欠課時数表

部 外 秘

(出典 : 平成 16 年度教員会議資料)

資料 5 - 3 - - 6 : 卒業判定会議資料表紙



(出典：平成16年度教員会議資料)

4, 5年次に関しては, 専攻科と共に単一の「総合システム工学プログラム」を構成し, 「沼津高専における総合システム工学プログラム規則」(資料5-3--7)に則って各学科の総合システム工学要件として「プログラム前半部のカリキュラム要件」(資料5-3--8)を定め, 学生便覧及びウェブサイトに掲載することにより学生に周知している。「総合システム工学プログラム」の前半部(準学士課程)の修了要件を平成16年度第6回総務委員会確認事項として定め(資料5-3--9), 学科ガイダンス等を通じて学生に説明し周知している(資料5-3--10)。

資料 5 - 3 - - 7 : 沼津高専における総合システム工学プログラム規則

1. 沼津高専における総合システム工学プログラム規則**(構成)**

- 1 沼津工業高等専門学校の第4学年及び第5学年並びに専攻科は、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学プログラム」(以下「プログラム」という。)を構成する。

(学習・教育目標)

- 2 プログラムは、学生が次に掲げる能力及び姿勢を身に付けることを学習・教育目標とする。
- A. 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力(工学倫理の自覚と多面的考察力)
- B. 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢(社会要請に応えられる工学基礎学力)
- C. 工学的な解析・分析及びこれらを創造的に統合する能力(工学専門知識の創造的活用能力)
- D. コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力(国際的な受信・発信能力)
- E. 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢(産業現場における実務への対応能力と自覚的に自己研鑽を継続できる能力)

(総合システム工学要件)

- 3 プログラムは、技術者に求められる基礎能力並びに基礎工学及び専門工学の知識・能力の育成のため、各学科及び専攻科においてそれぞれ定める総合システム工学要件をカリキュラムの基本とするものとする。この場合において、各学科にあつては主要教科目、専攻科にあつては専攻科総合システム工学要件がそれぞれ対応するものとする。

(組織と運営)

- 4 プログラムは、別に定めるプログラム担当教員によって構成されるプログラム担当教員会議において、審議され、合意された事項にしたがって運営される。

(細目)

- 5 この取扱いのほか、プログラムに関し必要な細目は、別に定める。

(56)

(出典：平成17年度学生便覧 p.56)

資料 5 - 3 - - 8 : プログラム前半部のカリキュラム要件

2. プログラム前半部のカリキュラム要件

I. 基礎能力、基礎工学に関する講義・演習教科

機械工学科	単位数	電気電子工学科	単位数	電子制御工学科	単位数	制御情報工学科	単位数	物質工学科	単位数
総合英語	2	総合英語	2	総合英語	2	総合英語	2	総合英語	2
文学特論	2	文学特論	2	文学特論	2	文学特論	2	文学特論	2
ドイツ語	2	ドイツ語	2	ドイツ語	2	ドイツ語	2	ドイツ語	2
哲学	2	哲学	2	哲学	2	哲学	2	哲学	2
応用数学	4	応用数学	4	環境学基礎	1	応用数学	2	環境工学	1
応用物理学	2	応用物理学	2	応用数学	2	応用物理学	2	安全工学	1
				工学数理解	2	工学数理解	2	応用数学 1	1
				工学数理解演習	1			応用物理学 1	2
				電磁気学Ⅱ	2			物理化学 2	2
								無機化学 2	1

II. 専門工学に関する講義・演習科目

材料力学	2	電磁気	2	線形回路解析	2	図形処理	2	有機化学 1	2
熱力学	2	回路理論	2	計算機工学Ⅱ	2	数値解析	2	生物化学 2	1
水力学	2	電子回路	2	制御工学	2	計測工学	2	化学工学 1	1
機械工作法	2	電気電子機器	2	通信工学	2	自動制御	2	化学工学 2	1
機械設計法	2	電力工学	2	電子材料	2	設計工学	2	無機材料化学	2
自動制御	2	情報理論	2	計測工学	2	工業英語	2	分子生物学	2
		工業英語	1	工業英語	2			化学工学 3	1
								反応工学	1
								科学英語	4

III. 専門工学に関する実習・実験科目

機械設計 製図 4 年次	3	電気電子工学 実験 4 年次	4	電子機械 設計・製作Ⅰ	2	創造設計	3	化学工学実験	2
機械設計 製図 5 年次	3	電気電子工学 実験 5 年次	2	電子機械 設計・製作Ⅱ	3	工学実験 4 年次	3	材料化学実験 1	2
機械工学 実験 4 年次	3	卒業研究	10	電子制御工学 実験 4 年次	4	工学実験 5 年次	3	材料化学実験 2	2
機械工学 実験 5 年次	3			電子制御工学 実験 5 年次	2	卒業研究	10	生物工学実験 1	2
卒業研究	8			卒業研究	6			生物工学実験 2	2
								卒業研究	10

(57)

(出典：平成 17 年度学生便覧 p. 57)

資料5 - 3 - - 9 : 「総合システム工学プログラム」の前半部(準学士課程)修了要件

沼津工業高等専門学校における準学士課程の修得主要教科目について

〔平成16年10月13日〕
平成16年度第6回総務委員会確認

主要教科目については、指定単位数以上の修得を準学士課程の修了要件とする。

- (1)以下の開講講義・演習教科目の指定単位数は20単位とする。
- (2)実習・実験教科目の指定単位数は開講科目単位数の全てとする。
- (3)講義・演習教科の主要教科目、及び指定単位数は学科ごとに社会の要求、学生の要望を配慮して4年間毎に見直すものとする。

(出典：平成16年度第6回総務委員会資料)

資料5 - 3 - - 10 「総合システム工学プログラム」の前半部(準学士課程)修了要件の周知例

4

総合システム工学プログラムは、技術者に求められる基礎能力並びに基礎工学及び専門工学の知識・能力の育成のため、沼津高専5学科(機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科)と専攻科においてそれぞれ定める総合システム工学要件をカリキュラムの基本とします。このカリキュラムには各学科にあつては「プログラム前半部のカリキュラム要件」が、専攻科にあつては「専攻科総合システム工学要件」がそれぞれ対応します。

<プログラム前半部のカリキュラム要件>

- (1)以下のI、II、の開講講義・演習教科目の20単位以上の修得
- (2)III、の実習・実験教科目の開講科目単位数の全ての修得

主要教科目 (*他学科に関する表記は一部省略したところがあります。)

I.基礎能力、基礎工学に関する講義・演習教科

機械工学科	単位数	電気電子工学科	単位数	電子制御工学科	単位数	制御情報工学科	単位数	物質工学科
総合英語	2	総合英語	2	総合英語	2	総合英語	2	総合英語
文学科論	2	文学科論	2	文学科論	2	文学科論	2	文学科論
ドイツ語	2	ドイツ語	2	ドイツ語	2	ドイツ語	2	ドイツ語
数学	2	数学	2	数学	2	数学	2	数学
応用数学	4	応用数学	4	応用数学	4	応用数学	4	応用数学
応用物理学	2	応用物理学	2	応用物理学	2	応用物理学	2	応用物理学
				工学概論	2	工学概論	2	応用物理学 1
				工学概論実習	1			応用物理学 1

II.専門工学に関する講義・演習科目

機械工学科	単位数	電気電子工学科	単位数	電子制御工学科	単位数	制御情報工学科	単位数	物質工学科
材料科学	2	基礎化学	2	制御系設計	2	制御系設計	2	基礎化学
高力学	2	基礎物理	2	制御系実習	2	制御系実習	2	基礎物理
力学	2	電子制御	2	制御工学	2	制御工学	2	基礎物理
機械工学II	2	電気電子制御	2	電子工学	2	電子工学	2	基礎物理
機械設計I	2	電子工学	2	電子工学	2	電子工学	2	基礎物理
自動制御	2	制御工学	2	制御工学	2	制御工学	2	基礎物理
		工業英語	1	工業英語	2			電子工学

III.専門工学に関する実習・実験科目

機械工学科	単位数	電気電子工学科	単位数	電子制御工学科	単位数	制御情報工学科	単位数	物質工学科
機械設計実習I	3	電気電子工学実習I	4	電子制御設計実習I	2	制御系設計	3	化学工学実習
機械設計実習II	3	電気電子工学実習II	4	電子制御設計実習II	2	工学実習I	3	材料化学実習
機械工学実習I	3	工学実習	10	電子制御工学実習I	4	工学実習II	3	材料化学実習
機械工学実習II	3			電子制御工学実習II	2	卒業研究	10	生物工学実習
卒業研究	3			卒業研究	4			生物工学実習

(出典：制御情報工学科4年生への学科ガイダンス資料)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。成績評価及び単位認定は、全学生及び教職員が周知の規則に基づいて行われ、進級認定及び卒業認定は、全教員参加の教員会議で公平性・透明性を持って適切に行われている。各教科目においてシラバスに評価方法と基準を明記し、学生に周知した方法と

基準で成績評価を行っている。学生による授業評価の中で成績評価に関する設問を設け、適切な評価がなされているかをチェックしている。

観点 5 - 4 - : 教育活動の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況) 本校では教育目的の中に豊かな人間性の形成を掲げており、学則別表により特別活動を 90 単位時間以上行うことを定めている(前出資料 5 - 1 - - 1 最下段)。1, 2 年生に対しては授業時間割に週 1 時間の「特別活動」の時間を設け(資料 5 - 4 - - 1), クラス担任が中心となって、諸連絡、成績指導、清掃指導(学校周辺清掃活動(後出資料 5 - 4 - - 5)を含む)等の他、作文やクラス討論、ビデオ鑑賞などを企画し実施している(資料 5 - 4 - - 2)。その他、特別活動の時間を使用して、1, 2 年生のうちから技術者として社会へ貢献する意識と展望を与えるため、進路決定に関する話を 5 年生から聞く「進路ガイダンス」を昨年度より実施している(資料 5 - 4 - - 3)。3 年生に対しては特別活動として 3 泊 4 日のスキー合宿研修(資料 5 - 4 - - 4)と、課外教育特別講演(資料 5 - 4 - - 5)を実施している。

上記のほか、特別活動に実施時間数を含めていないが、学校行事の中で 4 年生に対しては見学旅行を実施し、学科ごとの企画により、工場、研究機関、技術博覧会などの見学を通じて、実社会における技術を見聞する機会を設けている(資料 5 - 4 - - 6)。

資料 5 - 4 - - 2 : 特別活動 (1 , 2 年生) の主な実施内容の例

平成 16 年度 機械工学科 1 年 特別活動の主な実施内容

- 5月21日(金)・・・作文「沼津高専に入学して1ヶ月を過ごして」
(作文は保存してあります。)
- 6月25日(金)・・・喫煙の害を解説したビデオを見る。
- 7月 2日(金)・・・世界遺産のビデオ鑑賞
(グラナダのアルハンブラ宮殿・セビリア大聖堂)
- 9月 3日(金)・・・作文「夏休みを振り返って」
(作文は保存してあります。)
- 12月13日(月)・・・5年生による進学・就職に対する心構えの話
(感想文があります。)
- 2月14日(月)・・・学校周辺清掃活動

平成 16 年度機械工学科 2 年 特別活動の主な実施内容

- 4月14日(水)・・・2学年の学年目標について
- 6月 9日(水)・・・保護者懇談会について, 懇談日時の決定
- 6月30日(水)・・・連絡事項
- 7月14日(水)・・・夏休みの過ごし方・体験入学スタッフ募集
- 9月 1日(水)・・・防災の考え方, 授業料免除制度と奨学金について
- 10月 1日(金)・・・後期授業開始にあたって
- 10月22日(金)・・・2学年特別研修(浜松)
- 11月19日(金)・・・学生生活アンケート
- 11月26日(金)・・・中間試験に向かって諸注意
- 12月10日(金)・・・5年生による進路ガイダンス
- 12月17日(金)・・・試験の成績表配布, 最履修相談, 成績相談
- 1月14日(金)・・・防災のはなし・注意情報と予知情報, 進級に関する個別面談
1月21日(金)・・・学内クリーンアップ作戦(校舎周辺の清掃活動)
- 1月28日(金)・・・交通講話(交通安全の話)
- 2月 4日(金)・・・留学生とそのチューターについて
- 2月18日(金)・・・教室一斉清掃・入試のための教室整備

(出典:平成16年度担任教員の情報提供)

資料5 - 4 - - 3 : 5年生による進路ガイダンス

戻る 編集2004/12/10:立ち上げ2004/12/10

5年生による進路ガイダンス

低学年の学生の中には安定した生活を送れない者がいるが、その一因はここから編入できる大学あるいは就職先などの進路について理解できていないことである。そこで、今までどのような大学・企業にどのようにして過去の卒業生が進んだか、さまざまな道、可能性が開けていることを説明すれば学生生活が改善されると考えられる。

注意:この表からリンクされているページはプライバシー未配慮(学生氏名を消していない)であるため、学生に見せたりしないで下さい

2004年5年生による進路ガイダンス 進路ガイダンスの様子 pdf		
1・2年生の感想文		
機械工学科	1年生	2年生
電気電子工学科	1年生	2年生
制御情報工学科	1年生	2年生
物質工学科	1年生	2年生

- H16年度第7回厚生補導委員会(11/17)にてやり方が確定
- H16年度第4回厚生補導委員会(8/30)にて議論。各種委員会にも連絡

リンク:平成16年度ぶんの記録(pdf, 注意:プライバシー未配慮(学生氏名を消していない)であるため、学生に見せたりしないで下さい)

上記記録の内容は次の通り

- H16年12月9日 電気電子工学科で、4名の5年生が2年生相手に体験談を話す
- H16年12月10日 制御情報工学科で、5名の5年生が2年生相手に体験談を話す
- H16年12月10日 機械工学科で、4名の5年生が2年生相手に体験談を話す
- H16年12月13日 機械工学科で、4名の5年生が1年生相手に体験談を話す
- H16年12月13日 電気電子工学科で、4名の5年生が1年生相手に体験談を話す
- H16年12月13日 制御情報工学科で、5名の5年生が1年生相手に体験談を話す
- H16年12月21日 物質工学科で、5名の5年生が1,2年生相手に体験談を話す

(出典:学内限定ウェブサイト厚生補導関係資料より)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/guidance-5to12/index.html>

資料 5 - 4 - - 4 : スキー合宿研修実施要項

平成16年度沼津工業高等専門学校
3年生合宿研修実施要項

1. 目的 高専生活の意義を見直す。
2. 心構え
 - ・時間厳守
 - ・人に迷惑をかけない
 - ・自主的に行動する
3. 対象 第3学年全員(204名)
4. 期 日 平成17年1月11日(火)～1月14日(金) 3泊4日
 詳細 P.2～5
 注意 P.6
5. 場 所 国立乗鞍青年の家
 (〒506-0815 岐阜県高山市岩井町913-1 Tel. 0577-31-1011)
 詳細(青年の家資料抜粋) P.7～11
6. 交通機関 貸切バス 5台 集合: 8時20分学生玄関前(点呼完了次第出発)
 1号車 C3, 2号車 S3, 3号車 E3, 4号車 D3, 5号車 M3
7. 引率者等 野澤正信(学生主事) 井上 聡(M3担任) 嶋 直樹(E3担任) 川上 誠(D3担任)
 鈴木茂樹(S3担任) 竹口昌之(O3担任) 西田友久 加藤賢一 遠山和之
 長谷賢治 押川達夫 鈴木克彦 藤科知之 大石加奈子
 益本俊治 山口正志 小澤 光 松本勝子

8. 日 程(予定)

	6:30	9:00	12:00	14:00	16:00	17:10	18:00	19:30	20:00	21:00	22:00
11日	出発	SA・昼食		到着	ウェア・セッペン等受取	夕食	入浴	アイス・ブレーキング		研修	就寝
12日	起床 清掃 朝食	スキー板受取	スキー教室(昼食)		休憩	夕食	入浴	講演		研修	就寝
13日	起床 清掃 朝食		スキー教室(昼食)		ウェア・セッペン等返却	夕食	入浴	レクリエーション		研修	就寝
14日	起床 清掃 朝食	出発	SA・昼食		到着・解散						

※ スキー教室実施場所 … 飛騨高山スキー場

9. 割振り等 全学生は何らかの係に割り振られています。
 また、荷物置き場や部屋も決まっています。 詳細 P.13～15
10. その他
 - (1) 健康保険証(コピー可)を必ず持参してください。
 - (2) 筆記用具, 運動着, 着替え, 防寒着, 洗面用具, シャンプー類, 上履き用運動靴(スリッパ不可), 常備薬ほかを持参してください。
 - (3) 出発日(11日)及び最終日(14日)の昼食は弁当を手配してあります。
 - (4) 病気等の理由で参加できなくなった場合, 前日までは学級担任へ, それ以降は学校(056-926-5734学生係)へ必ず連絡してください。

(出典: 学内限定ウェブサイト厚生補導関係資料より)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/gasshuku-ski/index.html>

資料 5 - 4 - - 5 : 課外教育特別講演実施の案内

平成16年11月24日

第3学年全学生へ

校長補佐(学生主事)

課外教育特別講演の実施について

標記のことについて、3年生を対象にエイズに関する正しい知識と理解及び認識を深めるため、下記のとおり特別講演を実施するので、必ず聴講すること。

また、講演終了後にスキー合宿研修の説明会を行いますので、必ず出席すること。

記

日時 平成16年12月15日(水) 15:00~16:00

場所 第一視聴覚教室

講師 教養科 助教授 佐藤 誠

(出典：課外教育特別講演実施の案内通知)

資料 5 - 4 - - 6 : 見学旅行実績

機械工学科

ご旅行期日：平成16年10月6日(水)～10月8日(金) 2泊3日(旅館・ホテル泊)

日次	月日(曜)	行 程	宿泊地	備 考
1	10月6日(水)	学校→沼津IC→東野中井IC→日立→東野中井IC→横浜町田IC 8:00 8:10 9:00 9:30-11:00 11:20 11:40 東アトレ→ホテル チェックイン後、自主研修→ホテル(泊) 12:00-14:30 16:00頃 18:30	<横 浜> ホテルベネタレーン 横浜鶴屋 〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-29-1 TEL:045-604-8900 FAX:045-504-8919	朝食：× 昼食：○ 夕食：○
2	10月7日(木)	<東京圏アクアライン> ホテル→青島→水戸湾IC→青森IC→JFEビル→ 8:30 9:10 10:10-12:10 JAL航空機整備成田→ホテル(泊) 13:30-15:00 17:00頃	<水 戸> 水戸プリンスホテル 〒310-0801 茨城県水戸市桜川2-2-11 TEL:029-227-4111 FAX:029-227-4110	朝食：○ 昼食：○ 夕食：○
3	10月8日(金)	ホテル→日立サイエンスシステムズ→ツインリンクもてぎ→水戸IC→沼津IC→学校 8:20 9:00-10:00 11:30-14:00 19:00頃		朝食：○ 昼食：× 夕食：×

記入例：バス J.R. 徒歩 特設行機 HHHH私鉄 ^^^船 ~~~~~ロープウェイ ~~~~~ケーブル

電気電子工学科

ご旅行期日：平成16年10月6日(水)～10月8日(金) 2泊3日(旅館・ホテル泊)

日次	月日(曜)	行 程	宿泊地	備 考
1	10月6日(水)	学校→須走IC→山中湖IC→ファナック→山梨県リニア見学センター→ 8:20 9:10 9:30 10:00-12:00 13:15-14:15 河口湖クラブパーク(見学)→河口湖散策→寄(泊) 14:30-16:20 16:30-16:00 17:00 ※津波がある場合はお申し添えください。	甲府湯村温泉 ホテル湯伝 〒400-0073 甲府市湯村3-11-10 TEL:055-252-319L FAX:055-252-3216	
2	10月7日(木)	湯村温泉→甲府昭和IC→石川PA→国立府中IC→東芝府中工場(昼食)→ 8:00 9:30 10:00-12:00 独立行政法人情報通信研究機構→ホテル(泊) 14:00-15:30 17:00	東 京 ホテル磯山館 〒113-0253 東京都文京区本郷4-37-25 TEL:03-3812-1211 FAX:03-3812-1219	
3	10月8日(金)	東京(前) { 東京都内自主研修→東京駅(八重洲口) } →沼津IC→学校 8:40頃 { 二編組(エレクトロニクスショー)→東京駅(八重洲口) } 10:00-13:30 15:00		

記入例：バス J.R. 徒歩 特設行機 HHHH私鉄 ^^^船 ~~~~~ロープウェイ ~~~~~ケーブル

電子制御工学科

ご旅行期日：平成16年10月5日(火)～10月7日(木) 2泊3日(旅館・ホテル泊)

日次	月日(曜)	行 程	宿泊地	備 考
1	10月5日(火)	学校→沼津IC→厚木IC→日産車体→厚木IC→海老名SA(昼食) 8:00 8:10 9:00 9:30-11:30 12:30-13:15 横浜町田IC→守屋町ランプ→日産機工→お宿(泊) 14:00-16:00	<東 京> マルコーイン東京 〒164-0004 東京都豊田区太千代2-17-9 TEL:03-3792-0900 FAX:03-3419-0500	朝食：× 昼食：× 夕食：○
2	10月6日(水)	お宿→NEEC放送センター→幕張メッセ→お宿(泊) 10:00-11:30 田舎中昼食 (CEATEC JAPAN) 13:00-16:30	<成 田> 成田ビューホテル 〒298-0127 千葉県成田市小菅700 TEL:0476-32-1111 FAX:0476-32-1078	朝食：○ 昼食：○ 夕食：○
3	10月7日(木)	お宿→日本オーテス芝山工場→成田空港(昼食)→成田IC→大黒埠頭→横浜町田IC→ 9:30 9:30-11:30 12:00-13:30 15:30-15:45 沼津IC→学校 17:45頃		朝食：○ 昼食：× 夕食：×

記入例：バス J.R. 徒歩 HHHH私鉄 特設行機

(出典：4年生見学旅行の実施について(通知))

前ページからの続き

(資料5 - 4 - - 6 : 見学旅行実績)

制御情報工学科

日付	行	時間	宿泊地・備考・ポイント
10/6 日	学校前 9:00	富士通沼津工場 (沼津駅大正記念公園) 9:30~11:00 海老名SA 12:00~12:30 横須賀IC 13:00~14:30 建設シミュレータ&制御実験室 アグアライン JFE スチール 千葉0号	【千葉】 ホテルグリーン タワー千葉 TEL043-302-1122
10/7 月	ホテル 8:30	三郷IC 9:00 谷田部IC 10:00~13:00 東京産業技術専門学校沼津校 根土浦IC 17:00 藤岡IC 14:00~16:00 日立製作所日立研究所 沼田IC いわき製本工場	【いわき製本工場】 ホテルハイアランス TEL0246-43-3191
10/8 火	ホテル 7:00	いわき製本IC 9:00-9:15 守谷SA 10:30-12:00 お台場 (日本科学未来館) 13:00~16:00 東京IC 16:00~16:15 海老名SA 沼津IC 学校前 17:30	

物質工学科

日付	行	時間	宿泊地・備考・ポイント
10/6 日	学校前 8:30	沼津IC 9:30~9:30 海老名SA 市川IC 千葉国立研究開発科学館 11:00~13:00 ツル石社北学館5井製作所 14:00~16:00 木更津0号 17:00	【木更津】 桜宮ホテル三日月 TEL0438-41-8111
10/7 月	ホテル 8:30	新日本製鐵沼津製鉄所 9:00~11:30 アグアライン(沼津) 12:00~13:00 味の素沼津工場 13:30~15:30 大森0号 16:00	【大森】 大森東急イン TEL053768-0109
10/8 火	ホテル 12:00	三井物産沼津工場 13:30~15:30 東野中井IC 沼津IC 学校前 17:00	

(出典：4年生見学旅行の実施について(通知))

(分析結果とその根拠理由) 相応である。特別活動の時間を活用し、種々の活動を通して学生の人間性を向上させる機会の確保を図っている。5年生が1, 2年生へ進路決定の経験談を聞かせる等、技術者として社会に貢献する意識と展望を低学年のうちから育てる機会を設けている。課外活動以外に学校行事として、4年生の見学旅行の他、スポーツ大会、体育祭、高専祭など学生主体で企画運営させる行事も多く実施している。

観点5 - 4 - : 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況) 生活指導面では、学生主事、学生主事補(資料5 - 4 - - 1)を含む厚生補導委員会(資料5 - 4 - - 2)が中心となった体制が生まれ、学生主事補の中で役割分担を定め(資料5 - 4 - - 3)、クラス担任および他の教員と連携して、交通指導(資料5 - 4 - -

4) や校外清掃(資料5-4-5)などに取り組み、また、外部講師を招いて課外教育特別講演(3年次)(前出資料5-4-5)を実施するなど、人間性の素養の涵養に努めている。また、ゴミの分別収集を学生に徹底指導することにより、環境保全と省資源に配慮できる素養を養うよう配慮している(資料5-4-6)。全教職員が輪番でゴミ集積場に立つなどして徹底した分別を指導している。

校則違反等を犯した学生の指導においては、「懲戒処分及び指導の基準」(資料5-4-7)を定めそれに則って反省を促し倫理観を向上させるよう厚生補導委員会とクラス担任が協力して指導している。厚生補導委員会議事録はメールで全教員に配布し、生活指導に関する情報を全教員が共有し、協力しやすいよう配慮している(資料5-4-8)。生活面や学力不振などで悩みを持つ学生に対しては、カウンセラー及び保健室職員(看護師)を含む学生生活支援室(資料5-4-9)を平成16年度より組織し、クラス担任教員と連携して学生の相談に乗る他、学生の現状に関する情報収集活動等を実施している(資料5-4-10)。

資料5-4-1:平成17年度学生主事補

校長補佐(学生主事)	教授	野澤	正信
学生主事補	助教授	宮内	太積
"	助手	新富	雅仁
"	助教授	加藤	繁
"	助教授	遠山	和之
"	助教授	大原	順一
"	講師	鈴木	康人
"	助教授	押川	達夫
"	教授	勝山	智男
"	助教授	塩谷	三徳
"	助教授	鈴木	克彦
"	助教授	佐藤	志保

(出典:平成17年度校務分掌)

資料5 - 4 - - 2 : 厚生補導委員会

厚生補導委員会	○ 野澤 正信	大久保清美	宮内 太積	新富 雅仁	加藤 繁	(事務)	遠山 和之
	大原 順一	鈴木 康人	押川 達夫	勝山 智男	塩谷 三徳	鈴木 克彦	
	佐藤 志保	◇学生課長			(事務)	学 生 係	

(出典：平成17年度 各種委員会委員名簿)

資料5 - 4 - - 3 : 学生主事補の役割分担

2. 役割分担

[決定]

基本的には昨年度と同じであるが、以下のように決定する。また、高専祭、体育祭について、その実施内容についても簡単に検討がなされた。

●生活指導

- 押川先生：クリーン作戦
- 加藤先生：生地研・学内外巡回日程作成
- 佐藤先生：女子学生指導担当
- 宮内先生：低学年対象進路ガイダンス

●交通指導

- 遠山先生：交通指導全般指揮
- 新富先生：長期休暇中の交通指導
- 鈴木(克)先生：交通講話の企画（加えて、スキー研修）
- 鈴木(康)先生：一斉交通指導案内

●学生会

- 勝山先生：本部顧問
- 塩谷先生：体育祭・応援団
- 大原先生：高専祭

(出典：平成17年度 第1回厚生補導委員会議事録)

資料5 - 4 - - 4 : 平成 16 年度 秋の一斉交通指導

題名 秋の一斉交通指導について(再送)
 差出人 Kazuyuki Tohyama

to 担当教員各位
 CC 教員

厚生補導(交通担当)の道山です。
 先ほど流したメールで日付が10月になっていました。11月の間違いです。
 訂正させていただきます。よろしくお願ひします。

(ここから)
 秋の一斉交通指導を下記の要領で実施したいと思います。
 ご協力いただける先生方にはよろしくお願ひいたします。

今回の交通指導においても春と同様、学生に対して「全教官(教職員)が諸君に安全な通学を求めている」・「気をつけて通学するように」というメッセージが伝わるようにお願ひしたいと考えています。
 このため、無届車輛などの違反者の摘発よりも、担当場所での声かけ(挨拶)などを中心に和やかな雰囲気でお願ひしたいと思います。

両日とも、
 ・まきせき橋・・・現地に8:20
 ・校門・・・守衛所前に8:30
 までにお集まりください(雨天決行)。
 担当を下記の通りとさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。
 (敬称略/〇は責任者(当日実施方法などの説明をします))

11月9日(火)
 <校門>
 菊地(L)、高橋(E)、川上(D)、長谷(S)、〇道山(D)、望月(E)、鈴木(克)(L)

<まきせき橋>
 佐藤(誠)(L)、西田(M)、小林(美)(C)、〇新富(M)

11月11日(木)
 <校門>
 勝呂(L)、浦崎(L)、三谷(M)、長澤(D)、藁科(C)、〇望月(E)、新富(M)

<まきせき橋>
 平林(E)、古野(S)、〇道山(D)、鈴木(克)(L)

題名 交通指導のお礼
 差出人 Kazuyuki Tohyama

to 担当教員各位
 CC 教員

厚生補導(交通担当)の道山です。
 おかげさまで、9日(火)と11日(木)に秋の交通指導を実施することが出来ました。
 朝早くからまきせき橋や正門で交通指導に協力していただいた先生方にお礼申し上げます。
 今回の交通指導では、バイク通学生のヘルメットのベルトの未着用が目立ちました。

9日 22名
 11日 9名(そのうち、9日にも注意された学生は2名)

今回の指導で、バイクの二人乗り(沼津高専の学生かどうかは不明)、学校周辺の道路での自動車の駐車等が立ち会ってくださった先生や交通担当の先生方より報告されています。先日も取付の2段階右折を守っていないバイク通学生がいるという報告があったばかりです。

学生の安全運転に対する意識の低下が、交通事故を招くと考えられますので、機会があるごとに注意をしていただければと思います。

交通指導へのご協力、本当にありがとうございました。

(出典：平成 16 年度 秋の一斉交通指導の通知メール)

資料 5 - 4 - - 5 : 平成 16 年度校外清掃活動実績

[戻る](#) 編集2004/10/26; 立ち上げ2004/10/25

学校周辺クリーン作戦

学校周辺をクラス別に毎週きれいにする、平成15年度から開始した取組です。

簡単な取り決め

- ・2年目となる今年は、冬の早く暗くなる時の女子の帰宅時間を心配し、C科から先にCSDEMの順で行います。
- ・軍手、火ばし、ゴミ袋などは学生係に用意してありますので、開始の前にお立ち寄りください。
- ・沼津高専の活動であることのPRのため、腕章の利用もお願いいたします。
- ・実施間隔が短い場合、外周には取り立てて拾うゴミがなくなることがありますが、そうした時は、学内の清掃に適宜切り替えてくださればと思います。

平成16年度担当表

- ・厚生補導の担当者は、時期が近づいたら担任に日程を問い合わせてください。
- ・厚生補導の担当者は、実施後に厚生補導委員会宛に簡単に報告して下さい。

H16年度 清掃月週	クラス	担任	厚生補導
5/10-5/15	C5	浜渦	押川
5/17-5/21	S5	芹澤	長谷
5/24-5/28	D5	長澤	遠山
5/31-6/3	E5	西村	加藤繁
6/14-6/18	M5	岩谷	新富
6/21-6/25	C4	小林美	押川
6/28-7/2	S4	吉野	鈴木克
7/12-7/16	D4	牛丸	佐藤崇
9/6-9/10	E4	望月孔	大石
9/13-9/17	M4	三谷	谷垣

H16年度 清掃月週	クラス	担任	厚生補導
10/4-10/8	C3	竹口	塩谷
10/12-10/15	S3	鈴木茂	野澤
10/18-10/22	D3	川上	大久保L
10/25-10/28	E3	嶋	鈴木克
11/2-11/5	M3	井上	望月孔→加藤繁
11/8-11/12	C2	村上	押川
11/15-11/19	S2	平田	長谷
11/22-11/26	D2	遠藤	大石
12/13-12/17	E2	菊地	野澤
1/11-1/14	M2	勝山	大久保L
1/17-1/21	C1	佐藤志	鈴木克

(出典：学内限定ウェブサイト 学生生活関連情報(厚生補導, 学生係)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/clean/index.html>

資料 5 - 4 - - 6 : 環境保全 (ゴミ処理) に関する指導

2. 環境保全について (ゴミ処理について)

環境保全のため、本校ではゴミの分別収集を実施する。

ゴミは基本的には所属する自治体内で処理することが法的に定められており、従って、本校では沼津市 (学校)・長泉町 (学寮) に処理を委託する。そのため、原則として沼津市、長泉町の基準に従わなくてはならない。

(1) 基本方針

- ・学外から持ってきたものは持ち帰る。
- ・自分のゴミは自分で処理する。
- ・校内歩行中の飲食は禁止する。
- ・教室 (ホームルームに限定) 内における飲食については、当面認める。
- ・ゴミの減量に心がける。
- ・ゼミ室、視聴覚教室、体育館等共用室での飲食は禁止する。

(2) ゴミ収集体制

- ・教室内には、紙類 (可燃)、プラスチック製容器包装類、容器包装以外プラスチック類、缶類、ビン類、ペットボトル、埋め立てゴミ、古紙リサイクルの 8 種類のゴミ箱を設置する。
- ・ゼミ室、視聴覚教室及び体育館などの共用室には、ゴミ箱を置かない。
- ・屋外にはゴミ箱を置かない。

(3) 収集責任

- ・教室 各クラスが責任を持って処理する。
- ・部室 各クラブ・同好会が責任を持って処理する。部室の前にはゴミ箱を置かない。
必要があれば部室の中に用意し、クラブ・同好会で責任を持つ。
- ・体育館 クラブ・同好会活動中の水分補給等に対しては、当該クラブ・同好会等が責任をもって処理する。
- ・練習試合等で部外者が来校した場合は、担当クラブ・同好会等が責任をもって、ゴミを持ち帰ってもらうよう呼びかける。

(4) ゴミ袋

- ・紙類用とプラスチック類用の 2 種類のゴミ袋を使用する。ただし「沼津市指定」の袋の使用は認める。
- ・ゴミ袋は透明な袋を教務係で準備支給するので、受領の際にクラス名をゴミ袋に記入する。
- ・缶・ビン類等には、袋は使用せず、ゴミ箱のまま運び集積所でそれぞれのコンテナに分類して入れる。

(5) ゴミ集積所における指導体制

- ・集積所には教職員が待機、指導に当たるのでその指示に従うこと。
- ・ゴミを出す日 毎週火、金曜日 12:30 ~ 13:00

注 1 : 分別が指示通りなされていない場合には、その場で再分別させる。

注 2 : 教室等のゴミ箱に捨てられないゴミは、集積所に各自運び処理する。

注 3 : 缶・ビン・ペットボトルは中を軽く水で洗って、ゴミ箱に入れること。

(出典 : 平成 17 年度学生便覧 p . 84 ~ 87)

前ページからの続き

(資料5 - 4 - - 6 : 環境保全 (ゴミ処理) に関する指導)

2 (1) 日常生活の中で出るゴミの処理

次の表に従って、ゴミを分別すること

【教室内分別】

容器包装リサイクル法に基づく新区分表

a. 紙類	b. プラスチック製容器包装類	c. 缶類	d. ペットボトル	e. ビン類	f. 埋立てごみ類	g. 容器包装以外プラスチック類
<ul style="list-style-type: none"> 紙屑 紙コップ 紙製のアイスクリーム容器 アイス用木スプーン ティッシュペーパー トイレットペーパーの紙芯 割りばし 食べ残し食品 牛乳パック 	<ul style="list-style-type: none"> パンの袋 カップラーメン容器 (紙製を除く) 内側が銀色の菓子袋 ふた (ペットボトル) ヨーグルト容器 各種トレイ 発泡スチロール製プラスチック製 ビニール袋 スーパーのレジ袋 ポリ袋、ラップ スティック類容器 	<ul style="list-style-type: none"> コーヒー・ジュース類の缶 缶詰の空き缶 ドロップの缶 菓子の缶 *アルミ・スチールの分別不要 	<ul style="list-style-type: none"> 清涼飲料等の容器でリサイクル可の表示があるもの 	<ul style="list-style-type: none"> 靴、サンダル アルミ箱 かばん せともの ガラス ゴム チョーク 		<ul style="list-style-type: none"> ストロー プラスチック製スプーン フォーク ビニール紐 (長いものは1m程度に裁断すること) 定規 洗濯バサミ カセットテープのケース CD、フロッピーディスク プラスチック容器 (食器等) ポリバケツ等 カセット、ビデオテープ
	1. 中を軽く水で洗うこと。		1. 中を軽く水で洗うこと。 2. 足で踏みつぶすこと。 3. ふたは、金属類 (缶類) 又は軟質プラスチック類に分別すること。			1. ごみ集積場で ・容器包装以外プラスチック類 (③類) ・カセット、ビデオテープ (④類) に分別すること。

(2) ゴミ集積所におけるゴミの分類と入れ物 (コンテナ、倉庫)

a. 紙類	b. プラスチック類		c. 缶類	d. ペットボトル	e. ビン類
	b. 容器包装類	g. 容器包装以外			
<ul style="list-style-type: none"> 紙屑 紙コップ 紙製のアイスクリーム容器 アイス用木のスプーン ティッシュペーパー 割り箸 食べ残し食品 牛乳パック チョークの粉 	<ul style="list-style-type: none"> パンの袋 プラスチック製容器 (紙製を除く) 内側が銀色の菓子袋 ふた (ペットボトル) ヨーグルト容器 各種トレイ 発泡スチロール製プラスチック製 ビニール袋 スーパーのレジ袋 ポリ袋、ラップ スティック類容器 	<ul style="list-style-type: none"> ストロー プラスチック製スプーン フォーク ビニール紐 (長いものは1m程度に裁断すること) 定規 洗濯バサミ カセットテープのケース CD、フロッピーディスク プラスチック容器 (食器等) ポリバケツ等 カセット、ビデオテープ 	<ul style="list-style-type: none"> コーヒー・ジュース類の缶 缶詰の空き缶 *アルミ・スチールの分別不要 	<ul style="list-style-type: none"> 清涼飲料等の容器でリサイクル可の表示があるもの 	<ul style="list-style-type: none"> 清涼飲料等の容器でガラス製のもの
				洗浄後踏みつぶすこと ふたはプラスチック類に分別すること	中を洗浄すること ふたは金属類 (缶類) またはプラスチック類に分別すること

f. 金属類	g. 資源ゴミ類	h. 埋め立てゴミ	i. 乾電池
<ul style="list-style-type: none"> 電気コード類 電線類 やかん 蛍光灯 	<ul style="list-style-type: none"> ナベ ハサミ 傘骨 新聞紙 本、雑誌類、漫画本 ダンボール類 広告類 ゼロックス用紙等 	<ul style="list-style-type: none"> 陶器 われた鏡 サンダル 瓶ガラス かばん 靴 	<ul style="list-style-type: none"> (ニカド電池・ボタン電池を除く)

(出典：平成17年度学生便覧 p. 84 ~ 87)

資料 5 - 4 - - 7 : 懲戒処分及び指導の基準

懲戒処分及び指導の基準

1 原因

- A. カンニング F. 器物損壊
 B. 喫煙・飲酒及び所持・同席者 G. 窃盗（万引き）・暴行、脅迫等刑法犯罪
 C. 無許可通学（自転車）及び通学車輛の貸借 H. 薬物等の不正使用、所持違反
 D. 無許可通学（原付・自動二輪・自動車などによる） I. 不純異性交遊（社会通念上見苦しい行為）
 E. 交通事故（歩行者への加害等） J. その他の学則違反

2 処分及び指導の段階

原因	処分及び指導の内容（数字は処分及び指導回数）						
	訓 告	停学 3 日	停学 1 週間	停学 2 週間	無期停学	退学勧告	退 学
A			①		②	③	
B		①	②	③	④		
C	①②	③	④				
D	①	②	③	④			
E			※○	※○	※○	※○	
F		①	②	③	④		
G				※○	※○	※○	
H					※○	※○	※○
I	※○	※○	※○	※○			
J	※○	※○	※○	※○	※○	※○	※○

※ ○は、その都度、厚生補導委員会で協議し決定する。

処分及び指導措置は、担任教員・保護者（留学生の場合は指導教員）及び本人立会のうえ、校長補佐（学生主事）が申し渡す。ただし、寮生活に関わる訓告は、校長補佐（寮務主事）が申し渡す。

不祥事が繰り返された場合は、回数で示されたように右に移動し、処分及び指導が重くなる。

また、異なる原因にまたがり繰り返された場合、その前の処分及び指導を加算する。（厚生補導委員会で協議）

(138)

(出典：平成 17 年度学生便覧 p . 138)

資料 5 - 4 - - 8 : 厚生補導委員会議事録

題名 第1回厚生補導委員会議事録
差出人 小澤 光

2005年4月12日

久賀校長及び全教員各位

校長補佐(学生主事)

4月5日(火)、第1回厚生補導委員会を開催しました。
その議事録をお送りいたします。

第1回 厚生補導委員会 議事録

日付：平成17年 4月 5日

時間：16:00 - 17:40

(以下敬称略)

欠席：遠山(出張)

書記：鈴木康人

[要約]

0. 書記について

学生主事補50音順で、もちまわり。初回は、鈴木(康)が、鈴木(康)のときに、大原が行う。

1. 学生指導について

1) 無期停学中の学生の処遇について

[決定]

平成17年4月6日午後4時半をもって、解除とする。保護者と本人を学校まで呼び出した上で主事より説諭の後、解除。

なお、今後、指導中の学生による日誌については、主事から、学生に厚生補導委員会で回覧することを事前に説明する。

2. 役割分担

[決定]

基本的には昨年度と同じであるが、以下のように決定する。また、高専祭、体育祭について、その実施内容についても簡単に検討がなされた。

●生活指導

押川先生：クリーン作戦

加藤先生：生地研・学内外巡回日程作成

佐藤先生：女子学生指導担当

宮内先生：低学年対象進路ガイダンス

●交通指導

遠山先生：交通指導全般指揮

新富先生：長期休暇中の交通指導

鈴木(克)先生：交通講話の企画 (加えて、スキー研修)

鈴木(康)先生：一斉交通指導案内

●学生会

勝山先生：本部顧問

塩谷先生：体育祭・応援団

大原先生：高専祭

3. 今年度方針

[決定]

昨年度と同じく、指導内容が一週間以内のものは厚生補導委員会を開かず、関係者と主事で決定、指導する。また、顔末書には、原則、学生に自署ないし署名をさせ、正確な状況把握につとめる。

4. 今年度の懸案事項

[決定と確認ないし状況報告]

1) スクールパスについて

新富先生、鈴木(康)先生が担当する

2) 文化部部室について

防災の観点から、学生から改造の要望が出るよう学生会を指導する

3) その他

(出典：平成17年度 厚生補導委員会議事録 メール)

前ページからの続き

(資料5 - 4 - - 8 : 厚生補導委員会議事録)

- ・夜間課外活動について、引続き、審議することを確認した
- ・新築された施設について、4月20日のクラブ顧問会議で使用法について検討する旨、主事より報告された
(注： 20日は総合プログラム教員会議開催のためクラブ顧問会議は延期)
- ・学生会による春の行事予定について、説明があった。

5. 4月6日(水) バイク・自転車通学許可証発行業務

[決定]

交通指導担当の他、生活指導担当教員に応援を願う。交通指導担当は13:30に、生活指導担当は13:50に集合し、業務を分担。

6. その他

1) 御殿場宿泊研修について(主事報告)

勝山先生には4月14日、学生会担当で参加。他の厚生補導委員は担任以外、特に参加を必要としない。

2) 校歌指導について(塩谷先生報告)

以下の日程で始業前校歌指導を行う

4/ 7, 4/11 : M1, E1 塩谷、勝山

4/ 8, 4/12 : D1, S1, C1 塩谷、大原

3) スポーツ大会について(塩谷先生報告)

スポーツ大会について、アンケートを実施する予定である。

4) 校歌の録音について

7月までに、校歌録音を検討する。

以上

これらの情報は、itwgの「学生生活関連情報 (厚生補導, 学生係)」のページに保存してありますので、ご参照ください。URLは次の通りです。

<http://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/index.html>

〒410-8501

静岡県沼津市大岡3600

沼津工業高等専門学校

学生課学生係

学生主任

小澤 光

TEL 055-926-5734

FAX 055-926-5882

mail hikaru@numazu-ct.ac.jp

(出典：平成17年度 厚生補導委員会議事録 メール)

資料 5 - 4 - - 9 : 学生生活支援室

学生生活支援室	○ 浦崎 巖 学生課長	三谷祐一朗 松本 諒子	佐竹 利文	加藤美知代	渡邊志保美 (事務)	八十川 徹 学生係
---------	----------------	----------------	-------	-------	---------------	--------------

(出典：平成 17 年度 各種委員会委員名簿)

資料 5 - 4 - - 10 : 学生生活支援室の活動

第 1 表 16 年度保健室利用状況及びカウンセラー相談、個別相談状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	合計 (延べ数)
保健室利用者数	121	293	249	151	6	207	217	256	187	225	264	2176
カウンセラー相談数	7	14	21	23	4	6	14	9	5	6	7	116
個別相談数 (教員対応)	0	3	1	2	1	3	22	1	1	1	3	38

第 3 表 学生生活支援室プログラム (2004, 4 - 2005, 3)

全ての学生に対する援助	学ぶ意欲を高めるための援助
1) 個別的、具体的問題の援助 2) 学生の現状に関する情報収集と公開	学業不振から派生する問題への援助とともに
* 新入生に対する入学時適応援助	5 月連休後の調査と対応 11 月高専祭後における本校生活全般調査と対応
* 2 年生時の学習内容理解に対する援助	5 月はじめの学年進級後の学習内容理解調査
* 3 年生時の進路決定に関する援助	自己の特性と就業への知識理解の対策
* 4, 5 年生への個別問題に対する援助	個別対応
* 保護者の協力体制のために	5 月 保護者アンケート

(出典：平成 16 年度 学生生活支援室のまとめ)

課外活動については、学校行事の中で、学生会が主体となって実施する学校祭（高専祭）（資料 5 - 4 - - 11）やスポーツ大会、体育祭（資料 5 - 4 - - 12）を実施している。学生会の活動としては上記のほか、毎年文集の発行も行っている（資料 5 - 4 - - 13）。学校行事の中では、

外部有識者を招いた文化講演会を毎年開き，幅広い分野の方々の話を聞かせている（資料5 - 4 - - 14）。学校行事の一覧は資料5 - 4 - - 15に示す。

クラブ活動については，多くの運動部，文化部または同好会が存在し，各クラブに顧問教員を配置し，その指導の下，学生が自主性を発揮しつつ活動できるよう配慮している（資料5 - 4 - - 16）。活動時間は屋外種目については主に放課後日没前までであるが，グラウンドには夜間照明を設備し冬季には日没後も活動ができるよう配慮している。屋内種目に関しては曜日と時間を定めて夜間にも体育館の使用を許可している。土曜日，日曜日にも対抗戦や練習試合が盛んに行われている。

多くの運動部が高専大会に出場している（資料5 - 4 - - 17）。また，ロボットコンテスト（資料5 - 4 - - 18）やプログラミングコンテスト（資料5 - 4 - - 19）への参加を促している。平成16年度にはロボコン同好会の部室を新設した（資料5 - 4 - - 20）。

資料5 - 4 - - 11：高専祭プログラム



（出典：平成16年度高専祭プログラム）

資料5 - 4 - - 12 : 体育祭 (学内スポーツ大会)

題名 平成16年度体育祭(学内スポーツ大会)について
 差出人 SAND Yukiko
 平成16年10月7日

教職員各位
 校長補佐(学生主事)

平成16年度体育祭(学内スポーツ大会)について
 標記のことについて、学生会主催によるスポーツ大会を下記のとおり実施しますので、ご承知をお願いします。

記

日 程 平成16年10月14日(木)
 開会式 9:30 競技開始予定 10:00~
 終了予定時刻 16:30

種 目 [クラス別対抗種目]
 サッカー・男女バスケットボール・男女バレーボール・ハンドボール
 ソフトボール・ドッジボール

[有志種目]
 騎馬戦 バン食い競争

[学科別対抗種目]
 綱引き リレー

当日雨天の場合 バスケットボール・バレーボール・ドッジボール

当日は専攻科を除いて晴天・雨天に問わず授業はありませんので、併せてご承知をお願いします。
 なお、試合開始時刻につきましては、
<http://jimbu.numazu-c.t.ac.jp/osirase.htm> 学生課
 をご覧下さい。

沼津工業高等専門学校
 学生課 学生係
sandhoff.numazu-c.t.ac.jp
 TEL: 0559-26-5734 (内線 6734)

題名 平成17年度体育祭(学内スポーツ大会)について
 差出人 Yoshitake Ozawa
 平成17年 5月10日

教職員各位
 校長補佐(学生主事)

平成17年度体育祭(学内スポーツ大会)について
 標記のことについて、学生会主催によるスポーツ大会を下記のとおり実施しますので、ご承知をお願いします。

記

日 程 平成17年 5月12日(木)
 競技開始予定 9:30~
 終了予定時刻 16:30

種 目 [クラス別対抗種目]
 長縄・サッカー・ソフトボール・男女バスケットボール・
 男女バレーボール・ドッジボール

[有志種目]
 バン食い競争・ビーチフラッグ

[学科別対抗種目]
 リレー・綱引き

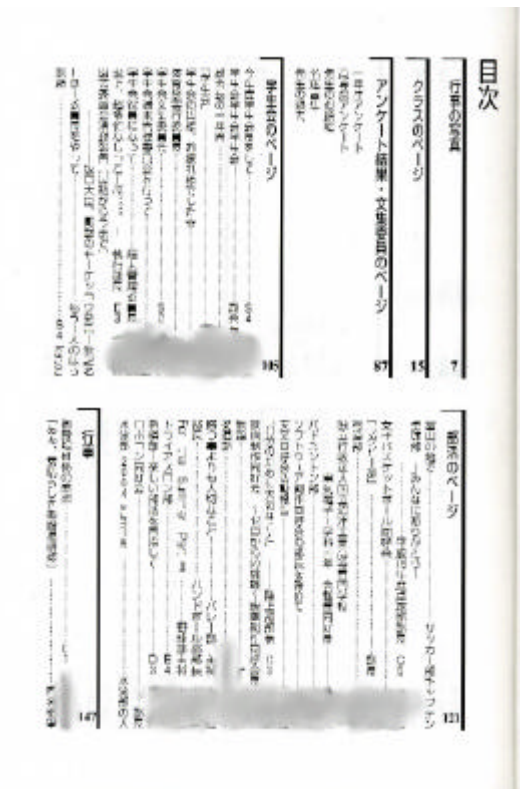
当日雨天の場合、体育館にて
 バスケットボール・バレーボール・ドッジボール

当日は専攻科を除いて晴天雨天にかかわらず授業はありませんので、併せてご承知をお願いします。
 なお、タイムスケジュールにつきましては
<http://jimbu.numazu-c.t.ac.jp/osirase.htm>
 をご覧下さい。

 学生課 学生係
 TEL: 0559-26-5734 (内線 5734)

(出典：平成16年度秋及び17年度春の体育祭，学内スポーツ大会の案内メール)

資料5 - 4 - - 13 : 学生会文集の表紙と目次の1例



(出典：平成16年度 学生会発行文集「礎」 第36号)

資料 5 - 4 - - 14 : 文化講演会開催実績例

年度	実施年月日	演 題	講 師	対 象	場 所
平成 6年度	H6 .11.1	「昭和基地 その自然と生活」	星 合 孝 男 (国立極地研究所長)	2年生 以上	第2体育館
平成 7年度	H7 .11.1	「大昔と現代」	佐 原 眞 (国立歴史民族博物 館企画調整官・教授)	2年生 以上	第2体育館
平成 8年度	H8 .11.1	「技術者の夢 -私の歩んだ 道-」	鈴 木 秀 幸 (富士工業株式会社 代表取締役社長)	2年生 以上	第2体育館
平成 9年度	H9 .11.4	「感性豊かな人間になるた めには」	金 子 満 雄 (県西部浜松医療セ ンター 副院長)	2年生 以上	第2体育館
平成 10年度	H10 .11.4	「将来の設計生産システム」	小 山 健 夫 (東京大学大学院工 学系研究科教授)	2年生 以上	第2体育館
平成 11年度	H11 .11.2	「知的冒険の人生を生きよう」	慶 伊 富 長 (元校長、北陸先端科学技 術大学院大学初代学長)	2年生 以上	第2体育館
平成 12年度	H12 .11.1	「人口が地球の定員を超え る日、諸君らはどうする」	板 谷 良 平 (前新居浜工業高 等専門学校校長)	2年生 以上	第2体育館
平成 13年度	H13 .11.1	「次の世代を豊にし得るも のはなにか。」	松 島 三 夫 (元日本特許協理事)	2年生 以上	第2体育館
平成 14年度	H14.10.31	「日本の南極観測-自然・人 ・技術-」	佐 藤 夏 雄 (国立極地研究所 情報科学センター長)	2年生 以上	第2体育館
平成 15年度	H15.10.30	「私が選んだもうひとつの 旅 "チェルノブイリ"」	菅 谷 昭 (長野県衛生部長)	4年生 以下	第2体育館
平成 16年度	H16.10.15	「自動車づくりの魅力」	二 橋 岩 雄 (トヨタ自動車(株) 常務役員)	4年生 以下	第2体育館

(出典：平成17年度第1回総務委員会資料)

資料 5 - 4 - - 15 : 平成 16 年度実施学校行事一覧

平成16年度 学校行事時間数一覧表

学校行事/学年	1年	2年	3年	4年	5年
入学式	7				
1年生学内オリエンテーション	2				
始業式	7	7	7	7	7
1年生学外オリエンテーション	11				
教育後援会総会準備	1				
定期健康診断	3	3	3	3	3
スポーツ大会	7	7	7	7	7
壮行会	1	1	1	1	1
防災訓練	2	2	2	2	2
体育祭	7	7	7	7	7
高専祭関係	準備	7	7	7	7
	高専祭	14	14	14	14
	片付け	7	7	7	7
文化講演会	2	2	2	2	
4年見学旅行				21	
2年特別研修		7			
1年野外研修	7				
卒研発表				7	7
終業式	1	1	1	1	
卒業式					7
時間数	86	65	58	86	69

(出典：平成16年度 進級判定会議資料)

資料5 - 4 - - 16 : 学生会・クラブ・同好会顧問

平成17年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧 問 教 員 名				
陸上競技部	渡邊志保美	大久保清美	牛丸 真司	野澤 正信		
ソフトテニス部	塩谷 三徳	佐藤 崇徳	住吉 光介			
バレーボール部	高野 明夫	加藤 繁				
バスケットボール部	遠山 和之	西村 賢治				
野球部	大久保進也	鈴木 克彦	勝山 智男	藁科 知之	渡辺 敏雄	藤井 数馬
卓球部	高橋 儀男	勝呂 諺				
柔道部	西垣 誠一	吉野龍太郎	松澤 寛			
剣道部	遠藤 良樹	谷 次雄	佐藤 志保			
サッカー部	平田陽一郎	押川 達夫	永禮 哲生	大石加奈子	江上 親宏	
ラグビー部	井上 聡	黒下 清志	鄭 萬溶	小林 隆志		
体操部	佐藤 誠	浦崎 巖	江間 敏			
水泳部	小林 美学	山岸 文明	相原 義弘	新富 雅仁		
合気道部	長谷 賢治					
テニス部	竹口 昌之	川上 誠	西田 友久	若松 勝寿		
スキー部	嶋 直樹	川上 誠	大原 順一			
ハンドボール部	望月 孔二	大島 茂	西田 友久			
弓道部	芳野 恭士	大賀 新一	柳田 武彦			
空手部	宮内 太積	柳田 武彦	後藤 孝信			
バドミントン部	加藤 賢一	押川 達夫	坂本 信男			
トライアスロン部	三谷祐一朗					
写真部	後藤 孝信					
吹奏楽部	鈴木 茂樹	蓮実 文彦				
美術部	長澤 正氏	望月 明彦				
囲碁将棋部	浜満 允紘					
茶道部	村上 真理	加藤美知代				
ゴルフ同好会	岩谷 隆史	黒下 清志				
オリエンタリング同好会	休部中					
女子バレーボール同好会	大庭 勝久	加藤美知代	長澤 正氏			
女子バスケットボール同好会	佐竹 利文					
フットサル同好会	藤尾三紀夫					
ソフトボール同好会	嶋 直樹					
E S S 同好会						
合唱同好会	佐藤 志保	浦崎 巖				
天文同好会	嶋 直樹	瀬尾 邦昭	勝山 智男			
軽音楽同好会	佐藤 志保					
機械工学同好会	村松 久巳					
環境問題研究会	西村 賢治					
ソフトウェア創作同好会						
映画製作同好会						
ロボコン同好会	吉野龍太郎	望月 孔二	柳田 武彦			
学生会	勝山 智男	大原 順一	塩谷 三徳			

(出典：平成17年度学生会・クラブ・同好会顧問教員一覧表)

資料 5 - 4 - - 17 : 平成 16 年度高専大会における成績

86号

沼津高専だより

(17)

クラブ活動・同好会・課外活動報告

第39回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧

テニス	第27回 全国高等専門学校テニス選手権大会 女子個人(ダブルス)	準優勝	S4 高橋 沙佳 C4 円丁由香利
サッカー	第39回 全国高等専門学校体育大会サッカー競技	準優勝	
柔道	第39回 全国高等専門学校体育大会柔道競技 個人(73kg級)	3位	C5 竹内 力矢
	平成16年度全国高等専門学校女子柔道選手権大会 個人	3位	C3 内藤みゆき

第42回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧

種 目	種 類	平成 16 年 度	
		地区大会	全国大会
陸上競技	総 合	4位	
バレーボール	男 子	2位	
	女 子	6位	
バスケットボール	男 子	4位	
	女 子	4位	
ソフトテニス	男 子 団 体	準決勝敗退	
テ ニ ス	男 子 団 体	2位	
	女 子 団 体	1位	
	男子個人(ダブルス)	1位 E4 近藤 剛・C5 鈴木 研	1回戦
	女子個人(ダブルス)	1位 C4 円丁由香利・S4 高橋紗佳	2位
	女子個人(シングルス)	1位 M4 清真 由美	2回戦
卓 球	女子個人(シングルス)	2位 C2 高橋佳澄	
	男 子 団 体	2位	
	女 子 団 体	2位	
	男子個人(ダブルス)	2位 M4 近藤 希好・C3 成島 優	
	女子個人(ダブルス)	3位 S4 安田 未美・E3 吉村みのり	
サッカー	女子個人(シングルス)	2位 E3 吉村みのり	
ハンドボール		1位	2位
柔 道		3位	
	団体(全国大会予選)	3位	
	団体(替抜き選)	1位	
	個人の部(軽量級)	2位 M3 鎌田祐太郎	
	個人の部(中量級)	1位 C5 竹内 力矢	3位
	個人の部(中量級)	2位 C3 櫻木 渥	
	個人の部(軽重量級)	2位 E5 村上 孝之	
	女子個人の部	1位 C3 内藤みゆき	3位
女子個人の部	2位 C2 藤山 夏美	2回戦	
剣 道	男子団体(全国大会予選)	4位	
	男子団体(替抜き選)	5位	
硬式野球	女 子 団 体	5位	
		準決勝敗退	

(出典：沼津高専だより 86号)

前ページからの続き

(資料5 - 4 - - 17 : 平成 16 年度高専大会における成績)

(18)

沼津高専だより

86号

種 目	種 類	平成 16 年度	
		地区大会	全国大会
水 泳	総 合	2 位	
	4 0 0 m リ レ ー	2 位	M4 村松 哲広・M5 鈴木 達博 C5 前田 洋・C3 柴田潤一郎
	4 0 0 m 自 由 形	2 位	C3 柴田潤一郎
	8 0 0 m リ レ ー	2 位	D5 小野田晃久・D4 長谷川 拓 C3 柴田潤一郎・M5 鈴木 達博
	8 0 0 m 自 由 形	2 位	C3 柴田潤一郎
	2 0 0 m 背 泳 ぎ	2 位	M4 村松 哲広
	2 0 0 m 平 泳 ぎ	3 位	S2 青野 嘉之
	1 0 0 m 平 泳 ぎ	2 位	S2 青野 嘉之
	1 0 0 m 平 泳 ぎ	3 位	M5 鈴木 達博
	1 0 0 m 背 泳 ぎ	2 位	M4 村松 哲広
	1 0 0 m 自 由 形	3 位	C5 前田 洋
	400mメドレーリレー	2 位	M4 村松 哲広・S2 青野 嘉之 E2 大石 直人・C5 前田 洋
	個人 (200m自由形)	3 位	
	100mバタフライ	2 位	M3 川合 貴大
	200mバタフライ	1 位	M3 川合 貴大
200m個人メドレー	3 位	E2 大石 直人	
バドミントン	男 子 団 体	5 位	
弓 道	団 体	3 位	
空 手	総 合	1 位	
	団 体 (形)	2 位	
	団 体 (組 手)	1 位	
	個 人 (形)	2 位	C5 廣澤智之
	個 人 (組 手)	1 位	M5 朝比奈宙
		3 位	S3 平野 誠

(出典 : 沼津高専だより 86 号)

資料5 - 4 - - 18 : ロボットコンテスト出場記

86号

沼津高専だより

(23)

ロボコン出場記



ロボコン報告

クラブ顧問

電気電子工学科 望月 孔二

この11月7日(日)に鈴鹿市立体育館でNHKのアイデア対決ロボットコンテスト東海北陸大会が行われました。残念ながら全国大会こそ行けませんでした。鈴鹿で好成績を取ることが出来た様子について、副顧問の望月から報告させていただきます。

今年度の競技名は、「マーズラッシュ」です。ルールを簡単に言うと、赤と青のチームが、競技場に用意された赤と青のボールのうちチームカラーのものを競技場中心部により近づけたほうが勝ちというものです。

沼津高専からは今年もロボコン部がエントリーしました。Aチーム(主に上級生)は「NUMARS」、Bチーム(主に下級生)は「OPERATION-N」です。

大会当日の昼ごろには、校長先生を始めとした沼津高専応援団も到着し、気分はいよいよ盛り上がりです。そして、午後からいよいよトーナメント大会です。

計算された動きができる「NUMARS」は、厳しい

ブロックに入ってしまった。緒戦の2回戦は金沢Bに勝ちましたが、3回戦では準優勝チームの福井Aに敗れてしまいました。手作りロボットの雰囲気が残る「OPERATION-N」は、初戦の2回戦は豊田Aに、3回戦は岐阜Aに勝ちましたが、準決勝では操作ミスから優勝チームの鳥羽Aに敗れてしまいました。

かなりのチームが全く動かなかったり故障したりする中で、本校の、学生が作ったロボットはどちらか(ほぼ)思い通りに動作させる事が出来ました。これは素晴らしいことだと思います。顧問の目から見れば、沼津高専は全国大会に行ける実力があったと思います。また、部員達は大会を通して技術以外の試練にも何度も直面しました。当事者には困難なことであり、時として回りをご迷惑をおかけした事もありましたが、そうしたことを学ぶことも出来ることは教育の場として非常に優れたものであると感じました。

こうした成績が得られたのも、沼津高専関係の方々のおかげだと思います。この場を借りてお礼を述べたいと思います。部室も新しくなることが決まり、部員の士気もますます上がることでしょう。

(出典 : 沼津高専だより 86 号)

資料 5 - 4 - - 19 : プログラミングコンテスト参加報告

題名 プログラミングコンテスト参加報告
差出人 Yasuhito SUZUKI

校長先生、教員、事務部 各位

制御情報工学科の鈴木康人です。

先日、伊豆半島は台風に被災しましたが、ちょうど、その10月9日、10日、四国は愛媛県、新居浜市において、第15回 全国高等専門学校プログラミングコンテストが開催されました。コンテストの競技部門に参加して参りましたことを御報告いたします。

高専プログラミングコンテストは、競技部門の他に、課題部門と自由部門がありますが、今回は、競技部門のみの参加となりました。

競技部門は全国58高専、ならび、今回は国際化の一貫として、(全部門に)ベトナムのハノイ工科大学がオープン参加しました。

競技部門の課題は、画像を192個の正方形に分割してランダムに並べられたものを制限時間7分間で、正しく配置しなおす、というものでした。

今回、本校からは制御情報工学科4年の学生、3名が参加しました。工場見学の日程と移動日が重なっていたため、最終日は関東から四国へと長距離の移動となりました。第1回戦第3試合を4位、敗者復活戦第2試合を5位、という成績でした。(まったくよい成績ではありません。)本校から参加した学生のプログラミングスキルは、クラス内で平均的で、比較的短時間でそれなりに動くものが出せたことは十分、評価に値すると思っています。

競技全体としては、一試合の制限時間7分であるにも関わらず、最初の30秒以内に満点を納める高専が多く、予行では2.4秒で満点を出す高専もあったと聞いております。高専生のプログラミングスキルの高さを知ることが出来たことは、成果でした。また、他の展示についても、学生は色々と刺激を受けたようでした。

今回のプログラミングコンテストの様子は、11月20日ないし27日の午後7時からNHK-ETVにおいて放映予定だそうですので、よろしかったら、ごらん下さい。

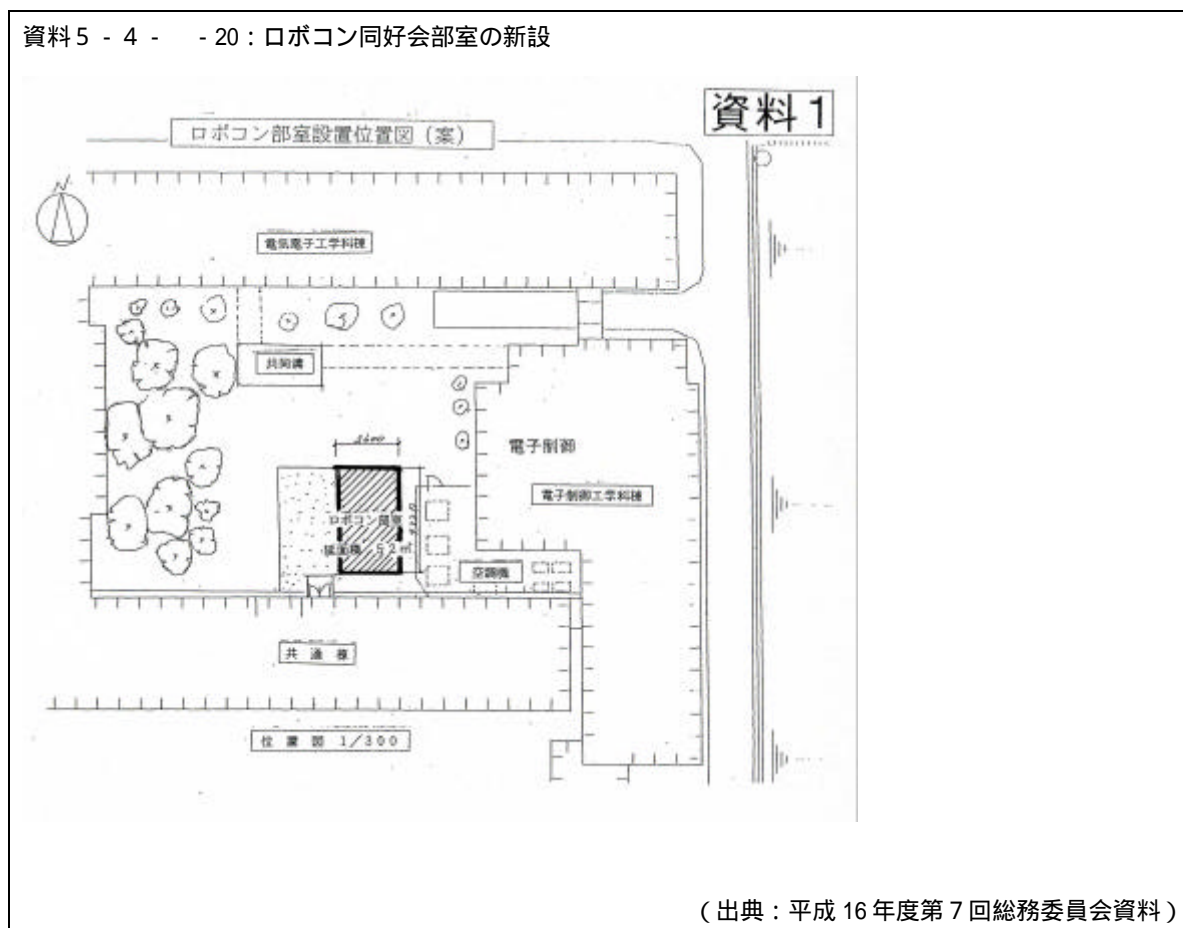
なお、来年は、10月8日、9日、米子高専が主幹として実施の予定だそうです。

今回の競技参加において、学生課教務係のみなさまに、色々と御世話になりました。この場を借りて、御礼申し上げます。

Yasuhito SUZUKI, Department of Control and Computer Engineering,
Numazu College of Technology.
E-mail: x-suzuki@numazu-ct.ac.jp

(出典：プログラミングコンテスト参加報告メール)

資料 5 - 4 - - 20 : ロボコン同好会部室の新設



(出典：平成 16 年度第 7 回総務委員会資料)

本校の教育目標に、「低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人格教育を行う」ことを挙げているように、寮における生活指導や課外活動を通じても人間の素養の涵養が図れるよう十分な配慮がなされている。寮務主事、寮監、寮務主事補の組織が中心となって寮生指導の教員組織を組み、各棟に顧問教員を決め寮生が相談しやすい環境を整えている（資料 5 - 4 - - 21）。学生による組織として寮生会をおき、多くの上級生を指導的立場の役職に就かせることで、奉仕の精神とリーダーシップを養わせるよう配慮している（資料 5 - 4 - - 22）。寮生会と寮生指導教員の組織と定期的な話し合いの場（資料 5 - 4 - - 23）を持ちながら、寮生活の規律の保持や行事の企画・運営、上級生役員による下級生の指導など、できるだけ寮生達が自主的に行動するよう配慮しながら指導している。そのような体制の下で多くの行事が運営され（資料 5 - 4 - - 24）、自主性、協調性、協力心、責任感等、多くの人間の素養の涵養が図られている。寮生心得と寮生活の目標を定め（資料 5 - 4 - - 25）、規律ある生活を送ることにより、健康的で好ましい生活習慣が身についている（資料 5 - 4 - - 26）。夜は男性教員が 2 名ずつ輪番で宿直し、寮生の安全確保に備えるとともに、寮生の質問や相談に応じ、寮内を巡回し勉強するよう仕向けるなどの指導をしている（資料 5 - 4 - - 27）。また年間数回の教養講座を開き、種々分野の講師による講演を寮生に聞かせる機会を設けている（資料 5 - 4 - - 28）。

資料 5 - 4 - - 21 : 寮務担当教員組織

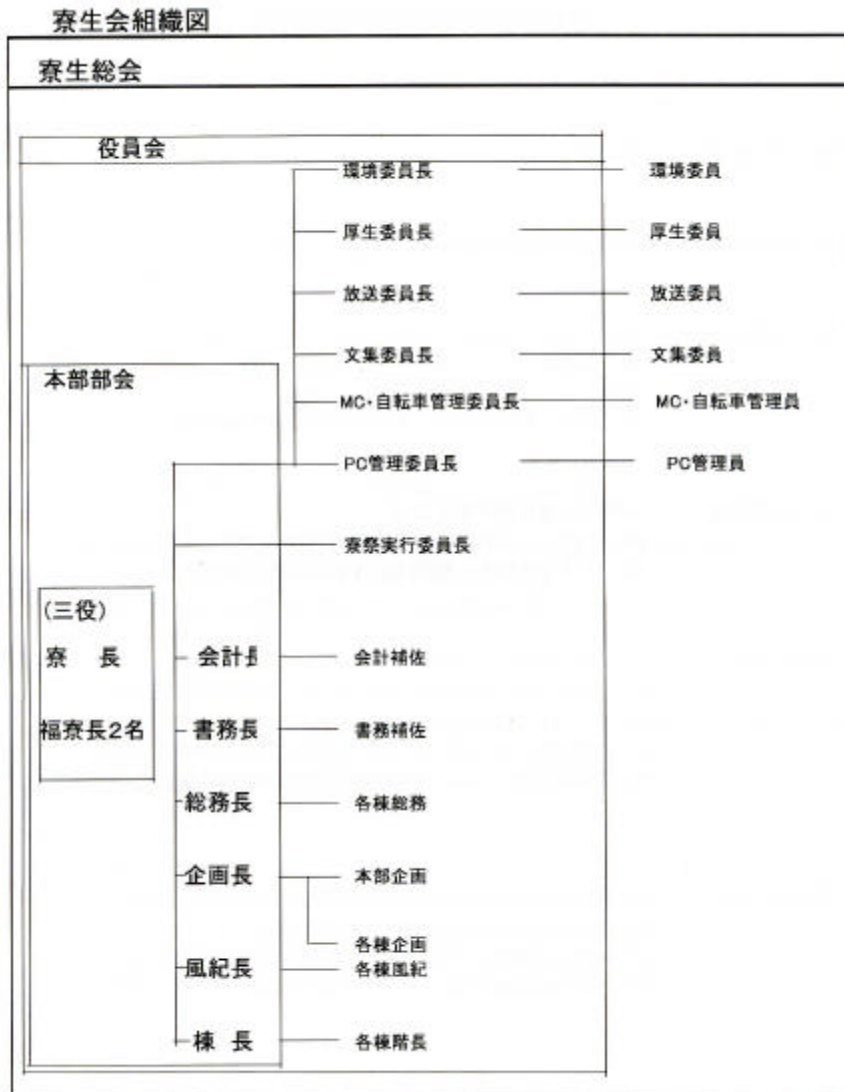
2005 (平成17) 年度 寮務担当教員名簿

主事： 大久保清美 (教養)	寮務委員長・寮務運営委員長・総務委員・厚生補導委員・外国人留学生部会委員・環境保全委員他・総轄
寮監： 水口好美 (教養)	寮務運営委員・外国人留学生部会委員・総轄
主事補： 遠藤良樹 (教養)	寮監代行 (後期水曜)・主事代理・寮務運営委員・風紀・栄峰顧問
村上真理 (教養)	外国人留学生部会委員・明峰顧問
平田陽一郎 (教養)	寮監代行 (後期火曜)・風紀・光峰顧問
藤井数馬 (教養)✓	議事録作成・秀峰顧問
松澤 寛 (教養)✓	防災・優峰顧問
永禮哲生 (機械)	寮監代行 (前期火曜)・風紀・翔峰顧問
嶋 直樹 (電気電子)	寮監代行 (前期水曜)・コンピュータ管理・優峰顧問
大庭勝久 (電子制御)	寮監代行 (後期火曜)・宿直割振り (前期)・清峰顧問
江上親宏 (電子制御)	宿直割振り (後期)・清峰顧問
大澤和夫 (制御情報)	寮監代行 (前期水曜)・寮務運営委員・バイク自転車管理・翔峰顧問
大久保進也 (制御情報)	寮監代行 (前期火曜)・防災・光峰顧問
渡辺教雄 (物質)↓	議事録作成・栄峰顧問
蘆科知之 (物質)	寮監代行 (後期水曜)・バイク自転車管理・秀峰顧問

* 上記 15 名の寮務担当教員は全員、寮務委員 (主事は委員長) となります。

(出典 : 平成 17 年度 寮務担当教員名簿)

資料 5 - 4 - - 22 : 寮生会組織図



(出典：平成 17 年度 寮生活の手引き)

資料 5 - 4 - - 23 : 寮指導教員と寮生会の話し合い (木曜日) の記録例

題名 第2回木曜会(+全体会)報告
差出人 Kiyomi OHKUBO

平成17年4月26日

久賀校長先生
全教員・事務部長・学生課職員各位 (Cc: 人事係長)

こんにちは、大久保Lです。標記報告をお届けいたします。

第2回木曜会 (+全体会)

日時: 平成17年4月21日 (木) 16:00~17:25 (教員会議)
17:30~18:15 (教員と寮生会本部役員との全体会)

場所: 寮管理棟集會室 (教員会議)、合宿所大部屋 (全体会)

出席: 水口、遠藤、村上、平田、藤井、松澤、永禮、嶋、大庭、江上、大澤、大久保進也、
渡辺教雄、薬科、大久保清美

①現員報告

560名 (男子: 495名 女子: 65名)

1年: 212 (22) 2年: 181 (23) 3年: 83 (13) 4年: 67 (7) 5年: 17 (0)

専攻科: 0 (0) 留学生: 9 (1) 4年次編入生: 3 (1) (括弧内は女子人数)

*前回との異同なし

②行事等活動報告

4月17日 (日) 第1回寮生総会 (20:10~20:40、第2体育館)

*平成17年度寮生会予算案が承認された

立会: 水口寮監、大久保L

寮生会による一斉持ち物検査 (22時点呼後)

4月18日 (月) 第1回朝礼 (6:45~7:20)

訓話: 望月寮長、待井風紀長、水口寮監、大久保L

4月20日 (水) 第1回教養講座 (1年対象、19:30~21:00、第1視聴覚)

講演「正しい食生活」

講師: 土屋栄養士

担当: 江口書務長+書務役員3名、大久保L

4月22日 (金) 第1回防災避難訓練 (火災想定、6:45~7:20)

担当: 長泉消防署員2名、佐野・安田厚生委員長、大久保進也・松澤主
事補 (防災担当)、水口寮監、大久保L

*浦崎先生・鄭先生 (宿直)、益本事務部長・小粥学生課長・岡本寮務
係長・山本寮務主任も参加してくださいました。

4月23日 (土) 留学生と関係教員との懇談会 (15:00~16:10)

出席: 全留学生9名、水口寮監、村上主事補 (留学生担当)、

遠藤主事補 (栄峰顧問)、大久保L

寮生親睦会 (18:00~21:30、点呼変更→17:20)

監督: 水口寮監、遠藤主事補 (宿直)、大久保L

*予め「お知らせ」はしていたが、近隣住民より騒音について抗議を受
けた。→来年度より場所等の変更を考える。

4月24日 (日) 優勝棟別杯 (バスケット、第1体育館、点呼変更→19:20)

4月25日 (月) 学寮周辺地域巡回 (昼休み)

担当: 遠藤・平田主事補 (風紀担当)、大久保L

→不審な行動をとる学生なし

③今後の予定

4月27日 (水) 新任教員のための宿直ガイダンス (14:50~15:30)

出席: 水口・藤井・松澤・江上・渡辺教員、大久保L

1年生対象PC持込説明会 (20:10~、寮食堂)

担当: PC管理委員長、嶋主事補 (PC管理担当)、大久保L

4月29日 (金・祝) 完全閉寮 (10:00)

5月5日 (木・祝) 開寮 (13:00)

5月7日 (土) テーブルマナー (2年対象、11:30~13:30、三島プラザホテル)

引率: 平田・藤井・松澤・永禮・大庭・江上・大久保進也主事補、

(出典: 平成17年度 第2回木曜会報告)

資料5 - 4 - - 24: 寮の年間行事

寮年間スケジュールと寮の行事案内 (平成17年度)

月		火		水		木		金		土		日		
28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
4	PM入寮式	5	お花見(10:00)写真撮影・夜更張り・去思	6		7		8		9		10		
11		12		13		14		15		16		17	第1回寮生総会	
18	第1回朝礼	19		20	第1回教養講座	21		22	第1回防災訓練	23	観戦会	24	優勝権別杯	
☆27	25	26	27	28		29	みどりの日 完全閉寮(10:00)	30				1		
2	開校記念日(寮生休日)	3	憲法記念日	4	国民の休日	5	子供の日 閉寮(13:00)	6		7	テーブルマナー 2年生対象 (教育後援会協賛) 保護者見学会	8		
9	第2回朝礼 第2回教養講座	10		11		12		13		14		15		
18		17		18		19		20		21	寮祭前夜祭	22	寮祭	
23		24		25		26		27		28		29		
☆27	30	31	1	2		3		4		5		6		
8		7		8		9		10		11		12		
13		14	※第3回朝礼	15	※清峰権別杯	16		17		18		19		
20		21	※栄峰権別杯	22		23		24	※三校-主事-寮監 懇談会	25		26	※夏祭り 優勝権別杯	
☆30	27	28	夏季在寮懇談会	29	※光峰権別杯 臨峰権別杯	30		1		2		3		
3	4	5		6	※ビデオ上映会	7		8		9		10		
11		12		13		14		15		16		17		
18	海の日	19		20		21		22		23		24		
☆16	23	26		27		28		29		30		31		
1		2	一日休職入寮 寮生集会	3		4		5		6		7		
8		9		10		11		12		13		14		
15		16		17		18		19		20		21		
22		23		24		25		26		27		28	寮生リーダー研修	
☆1	29	寮生リーダー研修 寮生リーダー研修 閉寮(13:00)	30	寮生リーダー研修 寮生リーダー研修 閉寮(13:00)	31	寮生リーダー研修 寮生リーダー研修 閉寮(13:00)	1	寮生リーダー研修 寮生リーダー研修 閉寮(13:00)	2	寮生リーダー研修 寮生リーダー研修 閉寮(13:00)	3	寮生リーダー研修 寮生リーダー研修 閉寮(13:00)	4	寮生リーダー研修 寮生リーダー研修 閉寮(13:00)
9	5	6	※第4回朝礼	7		8		9		10		11		
12	※明峰権別杯	13		14		15		16		17		18		
18	敬老の日	20		21		22		23	教日の日	24		25		
☆30	28	27		28		29		30		1		2		
3	4	5	※第5回朝礼	6	※第2回ビデオ上映会	7		8		9		10		
10	11	12	※寮長選挙	13		14		15		16		17		
17	18	19	※再入寮懇談会 1年生対象	20	※再入寮懇談会 上級生対象	21		22		23		24	寮生運動会	
24	25	26		27		28		29		30		31		
☆31	1	2		3		4	文化の日 ※清峰権別杯	5		6		7		
11	7	8	※第2回防災避難訓練	9	※第3回教養講座	10	※優勝権別杯	11	※第4回教養講座	12		13		
14	15	16	※瑞峰権別杯	17		18		19		20		21	※バス旅行	
21	22	23	※秀峰権別杯	24	勤労感謝の日	25		26		27	テーブルマナー 1年生対象	28		
☆20	28	29	30	1		2		3		4		5		
12	5	6	7	8	※光峰権別杯	9	※栄峰権別杯	10		11		12		
19	13	14	15	16	※第3回ビデオ上映会	17		18		19		20		
26	20	21		22		23	※クリスマスパーティー	24	天皇誕生日 閉寮(10:00)	25		26		
☆23	28	27	28	29		30		31		1	元日	2		
2	3	4		5		6		7		8		9		
9	成人の日 閉寮日(13:00)	10		11		12		13		14		15		
16	17	18	第7回朝礼	19		20		21		22		23		
23	24	25		26		27		28		29		30	※指導寮生交流会	
☆30	30	31	※明峰権別杯	1	※栄峰権別杯	2	※優勝権別杯	3		4		5	※那部分	
2	6	7	※寮生総会	8	※秀峰権別杯	9	※清峰権別杯	10		11	建国記念の日	12		
13	14	15		16		17		18		19		20		
20	21	22		23		24		25		26		27		
☆28	27	寮生リーダー研修	28	完全閉寮(10:00)	29		30		31			1		
3	6	7		8		9		10		11		12		
13	14	15		16		17		18		19		20		
20	21	22	春分の日	23		24		25		26		27		
☆1	27	28		29		30		31						

- ※印は、H17年度日程未定のため、H16年度の月日
- H18年度のテーブルマナーは、中止されたため、H17年度は2回開催予定。
- ☆印は閉寮日数

(出典：寮年間スケジュールと寮の行事案内(平成17年度))

資料 5 - 4 - - 25 : 寮生心得と寮生活の目標

寮 生 心 得

寮生活の意義は、規律ある共同生活を行うことにより、5年一貫教育の充実を図り、学生の将来にわたる人間形成に資することにある。

第1学年及び第2学年の期間は、全員在寮しなければならない。ただし、特別の事情により願い出て校長が認めた者は除く。また、第2学年においては全寮制を弾力的に運用し、自宅通学者に限り入寮を免除することがある。第3学年以上は任意寮とする。

1. 寮生活の目標

- (1) 共同生活を通してお互いの和を図り、積極的に寮友を啓発し、また、寮友に学ぶべきものを摂取し、各人の向上を図る。
- (2) 共同生活にありがちな安易さを自ら戒め、規律ある寮生活を維持する。
- (3) 公私、自他の厳然たる区別をわきまえ、互いにその立場を尊重した言動に心掛ける。
- (4) 寮の施設や器物は、長年にわたって使用するものであるから、愛情と注意をもって大切にす。
常に学習時間の保持、充実に努めるとともに、健康保持のため睡眠、運動等にも十分な配慮をする。
- (5) 自由時間や余暇の利用は、無駄のないように各自工夫し、豊かな趣味と健全な人格を形成することに努力する。

(出典：平成17年度 寮生活の手引き)

資料 5 - 4 - - 26 : 寮生活の日課

2. 生活

寮生は、「寮生心得」に基づき健康・安全かつ有意義な寮生活を送るため、下記の日程表により生活する。

(1) 日課

平日は、下記の日課に従って生活する。

区分	時限	寮生留意点
起床	6:55	起床時刻を厳守し、寝具の整頓を速やかにする。 居室前で点呼を受ける。不在者・病人の有無を確認する。(8:00 までに提出。)
点呼	7:00	
清掃	7:00~7:30	原則として1ヵ月に1回、月曜日に行う。
朝礼	7:00	
朝食	7:30~8:30	8:15 までに食堂に入ること。
登校	8:30	服装を整え、定刻までに登校する。
施設	8:30	欠席・欠課の場合は、必ず事前に寮監に申し出て承認を受ける。(8:40 までに提出)
授業	8:50	
昼食	11:45~13:00	短縮授業中・テスト期間中は 11:30~13:00
開錠	13:15	
夕食	17:00~19:00	18:50 までに食堂に入ること。
入浴	17:00~19:50	居室前で点呼を受ける。当番は風呂掃除を行う。 雑談、放歌等は禁止する。
点呼・門限	20:00	
静粛時間	(20:00 以降)	学習に専念する。
学習時間	20:00~22:00	
点呼	22:00	居室前で点呼を受ける。不在者、病人の有無を確認する。
施設	22:00	点呼後、棟外の外出禁止。点呼当番が帰寮後、玄関を施錠する。
消灯・就寝	23:00	1・2年生 3年生以上 (詳細は次頁表1・2参照)
	1:00	

(1) 土曜日・日曜日・祝日・臨時休業日等は朝の点呼なし。

備 考 (2) 登校時間中は、寮内への出入りは禁じる。特別の事情がある場合には寮務関係教員又は担任教員の許可を受けて出入りする。

(出典：平成 17 年度 寮生活の手引き)

資料 5 - 4 - - 27 : 宿直割表

2005年5月 教員宿直割振表

日	曜日	清峰(南寮)		明峰(女子寮)	栄峰(北寮)		寮監代行	発行事項
		宿直者		巡回者	宿直者			
1	日							
2	月							
3	火							
4	水							
5	木	大庭 勝久			鈴木 克彦			朝祭
6	金	藤井 数馬			遠藤 良樹			
7	土	平田 陽一郎			芳野 恭士			サークル マナー
8	日	長谷 賢治			大久保清美			
9	月	松澤 寛			大久保進也			
10	火	谷 次雄			遠山 和之	大久保進也		
11	水	江上 親宏		佐藤 志保	嶋 直樹	嶋 直樹		
12	木	井上 聡			水口 好美			
13	金	鈴木 康人			大原 順一			
14	土	竹口 昌之			藁科 知之			
15	日	小林 美学			大澤 和夫			
16	月	鈴木 茂樹			西垣 誠一			
17	火	渡辺 敦雄		村上 真理	永禮 哲生	永禮 哲生		
18	水	相原 義弘			真鍋 保彦	大澤 和夫		
19	木	住吉 光介			平田 陽一郎			
20	金	西田 友久			大庭 勝久			
21	土	遠藤 良樹			藤井 数馬			寮祭 前夜祭
22	日	大久保清美			松澤 寛			寮祭
23	月	大久保進也			長澤 正氏			
24	火	後藤 孝信		加藤美知代	待田 芳徳	大久保進也		
25	水	嶋 直樹			佐藤 誠	嶋 直樹		
26	木	川上 誠			藤尾三紀夫			
27	金	大澤 和夫			牛丸 真司			
28	土	西村 賢治			江上 親宏			
29	日	水口 好美			渡辺 敦雄			
30	月	藁科 知之			吉野龍太郎			
31	火	鄭 萬溶			永禮 哲生	永禮 哲生		

○宿直時間は午後5時15分から翌日の午前8時30分までです。
 ○特別な事情がある場合を除き、個人的な都合による宿直割振りの希望には応じかねます。あらかじめご了承ください。
 ○特別な事情等による割振り希望については寮務主事にご連絡ください。割振り担当者に直接連絡されても対応できません。
 ○事務手続きの都合上、25日以降の宿直交代は、その月の20日までにお願いたします。

(出典：平成 17 年 5 月 教員宿直割表)

資料 5 - 4 - - 28 : 平成 16 年度の寮教養講座実績

- 5月10日 第1回教養講座 (1年生女子対象)
「健康な心身を保つために」
講師：八十川カウンセラー
- 5月12日 第2回教養講座 (1年生対象)
「正しい食生活」
講師：土屋つね子栄養士
- 11月9日 第3回教養講座 (2年生対象)
「ガテマラで見たこと、考えたこと」
講師：河内 毅 (青年海外協力隊)
- 11月11日 第4回教養講座 (1年生対象)
「薬物乱用防止講座」
講師：沼津警察署 署員
- 17年1月30日 寮生会教養講座 (1年生全員、上級生希望者)
「S5 林さんによるエレクトーン演奏」

(出典：平成 16 年度寮教養講座実施記録より)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。生活指導面においては、各種活動や講演を通じ、また、課外活動においては学生会主催の行事やクラブ活動を通じて、それぞれ学生の人間性を向上させる機会の確保を図っている。ゴミの分別収集を学生に徹底指導することにより、環境保全と省資源に配慮できる素養を養う取組みを行っている。悩みを抱える学生の支援体制として、学生生活支援室を平成 16 年度より立ち上げ、学生に対する相談のみならず、学生達の現状に関する情報収集・分析も進めている。低学年全寮制の体制の下で、寮生会活動及び日常の寮生活を通じて人間の素養の涵養が多くの面で図れるよう配慮している。

< 専攻科課程 >

観点 5 - 5 - : 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況) 本校の専攻科課程の教育課程は、準学士課程 4・5 年次と一本化した教育プログラム「総合システム工学プログラム」であり、共通の教育目的の下に、それを達成するための学習・教育目標を定めている(資料 5 - 5 - - 1)。また、学習・教育目標の達成内容をより具体化した、実践指針(資料 5 - 5 - - 2)を示している。準学士課程の主要科目と専攻科課程の科目の連続性についても、十分に考慮されている(資料 5 - 5 - - 3)。

資料 5 - 5 - - 1 : 沼津高専における総合システム工学プログラム規則

1. 沼津高専における総合システム工学プログラム規則

(構成)

1 沼津工業高等専門学校の第 4 学年及び第 5 学年並びに専攻科は、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学プログラム」(以下「プログラム」という。)を構成する。

(学習・教育目標)

2 プログラムは、学生が次に掲げる能力及び姿勢を身に付けることを学習・教育目標とする。

A. 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力(工学倫理の自覚と多面的考察力)

B．数学，自然科学及び情報技術を応用し，活用する能力を備え，社会の要求に応える姿勢（社会要請に応えられる工学基礎学力）

C．工学的な解析，分析力及びこれらを創造的に統合する能力（工学専門知識の創造的活用能力）

D．コミュニケーション能力を備え，国際社会に発信し，活躍できる能力（国際的な受信・発信能力）

E．産業の現場における実務に通じ，与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢（産業現場における実務への対応能力と自覚的に自己研鑽を継続できる能力）

（総合システム工学要件）

3 プログラムは，技術者に求められる基礎能力並びに基礎工学及び専門工学の知識・能力の育成のため，各学科及び専攻科においてそれぞれ定める総合システム工学要件をカリキュラムの基本とするものとする。この場合において，各学科にあっては主要教科目，専攻科にあっては専攻科総合システム工学要件がそれぞれ対応するものとする。

（組織と運営）

4 プログラムは，別に定めるプログラム担当教員によって構成されるプログラム担当教員会議において，審議され，合意された事項にしたがって運営される。

（細目）

5 この取扱いのほか，プログラムに関し必要な細目は，別に定める。

（出典：平成 17 年度学生便覧 p.56）

資料 5 - 5 - - 2 : 学習・教育目標の実践指針

学習・教育目標の実践指針

本専攻科の学習・教育目標は沼津高専学則 第 46 条の 4 に定める "A～E" である。これらの目標を理解し実践するために，各項目に分項目 "1～4" 等を付して実践指針とする。

A. 社会的責任の自覚と，地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。（工学倫理の自覚と多面的考察力）

1．技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し，技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。

2．最近の工学倫理上の事例を挙げ，問題点と課題を理解し，技術者として適切に対応する方法について提案することができる。

3．二つ以上の異なる文化，価値観に基づく，工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し，説明できる。

4．これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し，工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

B. 数学，自然科学，情報技術を応用し，活用する能力を備え，社会の要求に応える姿勢を身につける。（社会要請に応えられる工学基礎学力）

1．代表的な物理・化学現象を，数学または情報処理の知識を用いて解析し，その応用例を示すことができる。

2．ワープロ，表計算ソフト，データベースソフト，プレゼンソフトを活用して，学習・研究上の資料を処理し，管理することができる。

3．実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し，そこから現象の法則性を抽出することができる。

4．自然現象をモデル化し，工学技術的な応用を前提として，シミュレーションすることができる。

C.工学的な解析・分析力，及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。(工学専門知識の創造的活用能力)

1. 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し，創造性を発揮して課題を探求し，組み立て，解決することができる。
2. 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ，いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し，データを正確に解析し，工学的に考察し，その重要性を説明・説得することができる。
3. 自己の取り組む研究課題に関して，工学技術上の機能的評価のみならず，安全性，経済性，環境負荷を考慮した社会的評価ができる。
4. 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で，必要とされるデザイン能力について理解し，説明できる。ここで，デザイン能力とは，単なる設計図面制作の能力ではなく，構想力，種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取組，実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。

D.コミュニケーション能力を備え，国際社会に発信し，活躍できる能力を身につける。(国際的な受信・発信能力)

1. 日本語で，自己の学習・研究活動の経過を報告し，質問に答えることができる。
2. 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。

E.産業の現場における実務に通じ，与えられた制約の下で実務を遂行する能力，および自主的，継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける。(産業現場における実務への対応能力と，自覚的に自己研鑽を継続できる能力)

1. 指定された期限内に，課題を提出できる。
2. 工学技術に関する課題について，チームで取組，その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。
3. 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を，定期的・継続的に読むことができる。
4. 自主的なゼミ・研究会を組織して，学習・研究活動を行うことができる。

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/object.html>

資料 5 - 5 - - 3 : 準学士課程の主要科目と専攻科課程の科目との連携表の一例

表の構成		総合システム工学プログラムの学習・教育目標		物質工学科在學生	
学習・教育目標	高専4年生	高専5年生		専攻科	
A		数学	デジタル回路論	工学概論	
		環境工学	基礎情報学	基礎情報学	
		安全工学	情報安全工学	論文の読解	
B	応用数学1		応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ	
	応用物理学		応用数学Ⅱ	量子物理学	
			量子物性Ⅰ	統計物理学	
			マルチメディア・ネットワーク	ネットワーク	
			システム制御工学	遠隔制御工学	
				運動制御工学	
			ロボット制御工学	計算力学	
			表面工学	工業材料	
				音響工学	
			通信原理	信号処理	
			電気電子材料		
			電磁波工学Ⅰ	電磁波工学Ⅱ	
			電力制御工学	電線エネルギー変換工学	
			計算機システム	計算機アーキテクチャー	
			情報ネットワークと通信理論	アルゴリズムとデータ構造	
		プログラム言語	数値シミュレーション		
		高度情報工学			
		化学概論			
	生物化学2		生物化学工学		
	分子生物学				
	物理化学2	反応工学	反応工学	材料物理化学	
C	物理化学2		材料強度論	塑性加工工学	
	有機材料化学		化学データ解析	結晶化学	
			応用伝熱学		
			流体力学	液体エネルギー変換工学	
			パワーエレクトロニクス概論	電気機器学特論	
			電子デバイスの	集積回路設計	
			プロジェクト指向プログラム設計	計算力学	
有機化学1		有機化学	有機材料設計		
化学工学1,2	化学工学3	実物生産工学	食品保存工学		
			物生工学		
D	科学英語	科学英語	組合ドイツ語Ⅰ	組合ドイツ語Ⅱ	
			英作文Ⅰ	英作文Ⅱ	
			英会話Ⅰ	英会話Ⅱ	
E	学が高度化		社会英語Ⅰ	技術英語Ⅰ	
			専攻科実習		
A B C D E	化学工学実習 材料化学実習 生物工学実習			専攻科実習	
		卒業研究		専攻科研究	

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 表 6)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。「総合システム工学プログラム」は、準学士課程 1～3 年次における工学技術の導入教育の成果を引継ぎつつ、準学士課程 4・5 年次における体験重視型教育、及び専攻科における研究指導を通じて得られる領域工学(機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学・生物工学)に関する深い専門性を基に、社会の要請に応え、文化の進展に寄与することの出来る創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成する教育プログラムであり、JABEE 基準にも対応する高い連携性を保っている。

観点 5 - 5 - : 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置(例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。)され、内容的な体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況) 教育課程は、学則別表第 3 の「専攻科総合システム工学体系」(資料 5 - 5 - - 1) を基準に作成されている(資料 5 - 5 - - 2)。また、基準の内容は、「専攻科総合システム工学要件」(資料 5 - 5 - - 3)、「専攻科授業科目履修規程」(資料 5 - 5 - - 4) にまとめている。専攻科の教育目的(資料 5 - 5 - - 5) を達成するための学習・教育目標に対するそれぞれの科目の関与の程度についても、調整している(資料 5 - 5 - - 6)。授業内容については、教育の目的を達成するための学習・教育目標をシラバスに明記し(資料 5 - 5 - - 7)、当該シラバスの授業計画に沿って各教員が計画的に実施したことを、授業完了報告書に対する学生の承認をもって確認するとともに(資料 5 - 5 - - 8)、シラバス、授業完了報告書とともに、専攻科企画・運営委員によっても、その内容が定期的に点検されている(資料 5 - 5 - - 9)。

資料 5 - 5 - - 1 : 専攻科における総合システム工学体系

別表第3
総合システム工学体系
専攻科

	基礎工学分類Ⅰ 設計・システム系	基礎工学分類Ⅱ 情報・論理系	基礎工学分類Ⅲ 材料・バイオ系	基礎工学分類Ⅳ 力学・数理・解析系	基礎工学分類Ⅴ 社会・技術連関系
1 工学共通基礎		マルチメディア・ネットワーク 化学データ解析	材料強度論 結晶化学 生物化学工学	現代物理学 量子力学 熱統計物理学 応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用数学Ⅲ	工学倫理 地球環境学 エネルギーと社会
2 専門工学系 (機械工学)	システム制御工学 振動制御工学 ロボット制御工学 適応制御工学		工業材料 塑性加工学 表面工学	流体力学 応用伝熱学 音響工学 流体エネルギー変換工学	
3 専門工学系 (電気電子工学)	集積回路設計 電磁波工学Ⅱ パワーエレクトロニクス特論 電力制御機器工学	信号処理 通信処理	電気電子材料 電子デバイス	電磁波工学Ⅰ 電気機器学特論 電磁エネルギー変換工学	
4 専門工学系 (情報工学)	計算機アーキテクチャー 数値シミュレーション オブジェクト指向プログラム設計	有限オートマトンと言語理論 アルゴリズムとデータ構造 プログラム言語 計算機システム 画像処理工学 地理情報学 化学情報学 ネットワーク		計算力学 計算流体力学	
5 専門工学系 (応用化学・生物工学)	有機材料設計 環境安全工学		有機化学 微生物工学 食品保存工学 生物生産工学 材料物理化学	反応速度論	

(39)

(出典：平成17年度学生便覧 p.39)

資料 5 - 5 - - 2 : 専攻科の教育課程表

別表第 4

専攻科	授業科目	単位数	前	期	後	期	備 考
専攻科	卒業論文	10		5		5	必修
	卒業論文指導	4		2		2	必修
	卒業論文実習	4		2		2	必修
	卒業論文発表	2		2		2	必修
語学	英語 I	1				1	4 単位以上を選択
	英語 II	1				1	
	英語 III	1				1	
	英語 IV	1				1	
	英語 V	1				1	
	英語 VI	1				1	
	英語 VII	1				1	
	英語 VIII	1				1	
	英語 IX	1				1	
	英語 X	1				1	
社会科学	社会学	2				2	(1)工学論理を含めて 6 単位以上を選択 (2)語学と人文・社会科学で、125時間以上の学習保証時間が必要
	心理学	2				2	
	政治学	2				2	
	経済学	2				2	
	倫理	2				2	
	環境学	2				2	
	現代学	2				2	
	社会学	2				2	
	心理学	2				2	
	政治学	2				2	
基礎能力	数学 I	2				2	(1)数学、自然科学、情報技術を含む 12 単位以上、125 時間以上の学習保証時間が必要 (2)総合システム工学要件にしたがって選択
	数学 II	2				2	
	数学 III	2				2	
	数学 IV	2				2	
	数学 V	2				2	
	数学 VI	2				2	
	数学 VII	2				2	
	数学 VIII	2				2	
	数学 IX	2				2	
	数学 X	2				2	
機械工学系科目	力学	2				2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	材料	2				2	
	熱学	2				2	
	流体力学	2				2	
	機械工学	2				2	
	ロボット工学	2				2	
	制御工学	2				2	
	電気工学	2				2	
	電子工学	2				2	
	情報工学	2				2	
電気電子工学系科目	電気回路	2				2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	電子回路	2				2	
	電気機械	2				2	
	電子機械	2				2	
	電気制御	2				2	
	電子制御	2				2	
	電気通信	2				2	
	電子通信	2				2	
	電気情報	2				2	
	電子情報	2				2	
情報工学系科目	情報工学	2				2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	情報システム	2				2	
	情報セキュリティ	2				2	
	情報ネットワーク	2				2	
	情報データベース	2				2	
	情報システム	2				2	
	情報システム	2				2	
	情報システム	2				2	
	情報システム	2				2	
	情報システム	2				2	
生物工学系科目	生物工学	2				2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	生物工学	2				2	
	生物工学	2				2	
	生物工学	2				2	
	生物工学	2				2	
	生物工学	2				2	
	生物工学	2				2	
	生物工学	2				2	
	生物工学	2				2	
	生物工学	2				2	
授業科目合計単位数		144		77		67	

(40)

(出典：平成 17 年度学生便覧 p. 40)

資料 5 - 5 - - 3 : 専攻科総合システム工学要件

1. 総合システム工学要件

沼津工業高等専門学校学則第 46 条の 3 第 2 項に基づき総合システム要件を定め、専攻科生が習得すべき知識・能力を以下に示す。

なお、「総合システム工学」とは、基礎工学ならびに機械、電気電子、情報、応用化学、生物工学のいずれかの領域工学に関する専門的知識・能力を統合した工学をいう。

1 基礎能力

基礎能力とは学則別表第3総合システム工学体系(以下「別表第3」という。)における工学共通基(一部の専門工学系も含む)において、数学系、物理学系、化学系、環境科学系科目、及び情報技術基礎の内、最低6科目を取得して得られる、専攻科教育目標の(2)に対応する知識とそれらを用いた問題解決能力を意味する。

(1) 数学、応用数学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力:

解析学の基礎、微分方程式、数値解析、及びそれらの応用は、別表第3の基礎工学分類Ⅳの応用数学Ⅰで授業する。

確率と統計及びその応用は、別表第3の基礎工学分類Ⅳの応用数学Ⅱで授業する。

線形数学、及びその応用、は別表第3の基礎工学分類Ⅳの応用数学Ⅲで授業する。

(2) 一般物理学、一般化学、分子生物学、遺伝子工学、環境科学の基礎知識とそれらを用いた問題解決能力:

一般物理学については、別表第3の基礎工学分類Ⅳの現代物理学、量子力学、及び熱統計物理学のいずれにおいても授業する。

一般化学については、別表第3の基礎工学分類Ⅲの結晶化学で授業する。

分子生物学については、別表第3の基礎工学分類Ⅲの生物化学工学で授業する。

遺伝子工学については、別表第3の基礎工学分類Ⅲの生物生産工学で授業する。

環境科学については、別表第3の基礎工学分類Ⅴの地球環境学で授業する。

(3) 情報技術の基礎知識およびそれらを用いたコミュニケーション能力:

情報技術基礎に関する授業は、別表第3の基礎工学分類Ⅱにおける教科目で、授業する。

2 基礎工学並びに専門工学の知識・能力

(1) 基礎工学の知識・能力とは、以下の5系からなる基礎工学の中から、少なくとも科目、合計最低6科目を取得して得られる、専攻科教育目標の(1)、(2)、(3)に対応する知識・能力を意味する。

設計・システム系科目群(別表第3における基礎工学分類Ⅰ)

情報・論理系科目群(別表第3における基礎工学分類Ⅱ)

材料・バイオ系科目群(別表第3における基礎工学分類Ⅲ)

力学・数理・解析系科目群(別表第3における基礎工学分類Ⅳ)

社会・技術連関係科目群(別表第3における基礎工学分類Ⅴ)

(2) 専門工学の知識・能力とは、専攻科研究、実験、演習、実習、並びに別表第3において専門工学系に分類され、専攻科教育目標の(1)、(2)、(3)、(4)、(5)に対応する教科目を取得して得られる知識であり、以下に示す能力である。

いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力

工学の基礎的な知識・技術を統合し、想像力を発揮して課題を探索し、組み立て、解決する能力

技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力

(出典：平成17年度学生便覧 p.41)

資料5-5-4：専攻科授業科目履修規程

3. 沼津工業高等専門学校専攻科授業科目履修規定

(趣旨)

第1条 この規程は、沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則(平成15年4月9日制定)第4条の規定に基づき、専攻科における授業科目の履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の区分等)

第2条 授業科目は、学年の別なく配当するものとする。

第3条 必修科目は、専攻科研究、専攻科実験、専攻科演習、専攻科実習及び工学倫理とする。

第4条 制限選択科目は、次の区分により行うものとする。

(1) 専門工学区分：「新しい学士への途」に従って、学位分野区分による選択を行うこと。

(2) 基礎能力区分：応用数学、自然科学、情報技術等の科目(総合システム工学カリキュラム体系(以下「体系」という。)の第1行の第II列～第IV列)中6科目以上を履修すること。

(3) 基礎工学区分：設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学・数理・解析系、及び社会・技術関係の5科目群系の5科目群系中6科目以上を履修すること。ただし、各群系から、少なくとも1科目以上を履修すること。

(4) 社会科学等区分(人文科学、社会科学、語学)：人文科学、社会科学区分の教科目から、工学倫理を含めて6単位以上、語学区分から4単位以上を履修すること。この場合において、人文科学、社会科学区分教科目には工学倫理、地球環境学、エネルギーと社会、地理情報学および歴史文化論とし、語学区分には技術英語Ⅰ,Ⅱ、英作文Ⅰ,Ⅱ、英会話Ⅰ,Ⅱ、総合ドイツ語Ⅰ,Ⅱ(各1単位)とする。

第5条 必修科目、及び制限選択科目以外の授業科目を選択科目とする。

第6条 専攻科に開設する授業科目の履修に当たって、履修希望者は、必修科目、制限選択科目及び選択科目の区別について、研究指導教員の指導を得て、別記様式の専攻科(前・後)期受講科目履修届を各学期当初の所定の期日までに専攻科長に提出しなければならない。

(単位認定の時期)

第7条 授業の合格者については、成績表が専攻科担当教員会議に提出された学期で単位認定を行うものとする。ただし、特別な理由がある場合に、当該学期以後に単位認定を行うことができる。

(細目)

第8条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な細目は、別に定める。

(出典：平成17年度学生便覧 p.47)

資料5 - 5 - - 5：専攻科課程の教育目的

学則 第9章 専攻科

第45条 専攻科は、高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

(出典：平成17年度学生便覧 p.10)

授業科目名	単位数	必修・選択などの別	学年・学期	講義、演習、実験、研究等の別	合計時間数(時間)	学習保証時間(時間)					授業形態					学習・教育目標に対する関与の程度				
						学習内容の区分					講義	演習	実験	実習	研究	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
						人文科学 社会科学 語学	数学 自然科学 情報技術	専門分野	講義	演習										
専攻科研究Ⅰ	2	必修	専1後	研究	45			45					45	◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科研究Ⅱ	2	必修	専1後	研究	45			45					45	◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科研究Ⅲ	3	必修	専2前	研究	67.5			67.5					67.5	◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科研究Ⅳ	3	必修	専2後	研究	67.5			67.5					67.5	◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅰ(工学)	2	必修	専前期	実験	67.5			67.5				67.5		◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅱ(工学)	2	必修	専後期	実験	67.5			67.5				67.5		◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅲ(工学)	1	必修	専前期	演習	22.5			22.5			22.5			◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅳ(工学)	1	必修	専後期	演習	22.5			22.5			22.5			◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅴ(工学)	1	必修	専前期	演習	22.5			22.5			22.5			◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅵ(工学)	1	必修	専後期	演習	22.5			22.5			22.5			◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅶ(工学)	2	必修	専前期	実習	67.5			67.5				67.5		◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅷ(工学)	1	必修	専後	演習	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
専攻科実習Ⅸ(工学)	1	必修	専後	演習	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
反応速度論	2		専前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
環境安全工学	2		専前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
有機材料設計	2		専後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
材料物性化学	2		専後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
有機化学	2		専後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
食品保存工学	2		専後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
生物生産工学	2		専後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
微生物工学	2		専後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
応用仏語学	2		専前	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
ロボット制御工学	2		専前	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
表面工学	2		専前	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
システム制御工学	2		専前	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
塑性加工学	2		専後	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
振動制御工学	2		専後	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
通信制御工学	2		専後	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
工業材料	2		専後	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
流体力学	2		専後	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
電学工学	2		専後	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
電気電子材料	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
パライエレクトロニクス物性	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
電子デバイス	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
電磁工学Ⅰ	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
通信処理	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
電力制御工学	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
信号処理	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
電磁エネルギー変換工学	2		後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
集積回路設計	2		後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
電磁工学Ⅱ	2		後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
電気機器学特論	2		後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
ネットワーク	2		後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
画像処理工学	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
化学情報学	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
アルゴリズムとデータ構造	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
有限オートマトンと言語理論	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
計算力学	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
計算機力学	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
数値シミュレーション	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
プログラム言語	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
計算機システム	2		前期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
計算機アーキテクチャ	2		後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
オブジェクト指向プログラミング	2		後期	講義	22.5			22.5						◎	◎	◎	◎	◎		
小計	86		36			0.0	0.0	697.5	180.0	90.0	136.0	67.5	226.0							
後半(専攻科)計			62			1,605.0	187.5	180.0	697.5	427.5	180.0	136.0	67.5	226.0						
プログラム必修合計			124			2,430.0	382.5	318.0	1,732.5	1,450.5	180.0	282.0	67.5	450.0						

(出典：平成16年度「総合システム工学」自己点検書 表4)

資料 5 - 5 - - 7 : 専攻科シラバスの一例

シラバスの表示 1/3 ページ

シラバスの表示

edit=1
user_name=faculty
あなたはこのシラバスの改訂が可能です。 [English](#) [Home](#) [Back](#)
(Previous version)

改訂記録

版数	作成/改定・年月日	作成者	改訂内容
1	2004-03-01 11:55:19	芳野恭士	初版
2	2004-03-22 12:23:23	芳野恭士	

Syllabus Id	0750
Subject Id	0254
Version	ver.0002
授業科目名	専攻科実験ITM化学生物工学演習
担当教員	芳野 恭士
対象学年	第1学年
単位数	2
必修/選択	必修
開講時期	前期
授業区分	社会科学等区分 <input type="checkbox"/> 基礎能力区分 <input type="checkbox"/> 工学基礎区分 <input type="checkbox"/> 工学専門区分 <input type="checkbox"/>
授業形態	実験
実施場所	基礎生物工学実験室
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)	
応用物質工学専攻生対象:化学・生物工学に関する基礎的な知識および実験技術をもとに、産業界で直面し得るより実務的なテーマを解決するプロセスを試行するものであり、前後期それぞれ11週(60単位時間)の実施を予定している。実験の実施には、Problem Based Learningの手法を取り入れることとし、社会で実際に起こり得る未解決のテーマが、教官から与えられる。応用物質工学専攻外生対象(総合実験):化学・生物工学分野の基礎実験として、定性分析の技術を習得する。実験実施期間は、2週間である。	
準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)	
一般化学、生物化学	
Weight	目標
<input type="radio"/> A	工学物理の自覚と多面的考察力の養成
<input type="radio"/> B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
<input checked="" type="radio"/> C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
<input type="radio"/> D	国際的な受信・発信能力の養成
<input type="radio"/> E	産業界における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

シラバスの表示 2/3 ページ

の体系的なプレゼンテーション、といった技術の向上を目指す必要がある。応用物質工学専攻外学生対象(総合実験)：化学・生物工学における基礎的な実験操作と技術者心構について学ぶ。
 学習教育目標のC(工学的な観察・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力(工学専門知識の創造的活用能力)を達成するために、以下の能力の修得を目指す。
 (1)工学技術における企画、立案、実施、管理のプロセスについて、自己の専門分野の知識を適用し、分析的、実践的な考察ができる。
 (2)自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、その解決策を考察することができる。
 (3)自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が参加できますが、参加欄に×のある回は参加はできません。)

期	メインテーマ	サブテーマ	参加
第1回	実験解説	実験テーマ・実験の進め方の説明、グループリーダーの決定	
第2回	実験計画	実験テーマに関する調査、文献検索、グループ討議による実験計画の作成	
第3回	実験準備	必要な実験器具および試薬の準備、安全対策と廃棄物の処理	
第4回	実験の実施	実験とデータの解析	
第5回	実験の実施	実験とデータの解析	
第6回	実験の実施	実験とデータの解析	
第7回	経過報告	実験結果のまとめ、経過報告会、実験計画の再検討	
第8回	実験の実施	実験とデータの解析	
第9回	実験の実施	実験とデータの解析	
第10回	実験結果のまとめ	実験結果のまとめと報告書の作成	
第11回	発表会	発表会の準備、発表会および自己点検・評価作業	
第12回	総合実験：実験解説	実験の解説、安全対策、廃棄物処理法	
第13回	総合実験：実験準備	実験器具および試薬の準備、予備実験(器具の説明と使い方)	
第14回	総合実験：実験の実施	本実験とデータの解析	
第15回	総合実験：報告会	報告資料の作成と報告会	

課題

1. 実験テーマ：食品からの特定ポリフェノールの単離抽出法を確立する。2. 実験テーマ：第1周期イオンの分離・検出。

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する「実験指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
 2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
 3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は取得できない。

評価方法と基準

実験報告書および結果報告会における実験内容の理解度を50%、実験の実施に必要なとされた操作技術の習熟度を25%、総合実験における評価25%で評価する。

教科書等	プリント
先修科目	生物化学工学、純品化学
関連サイトのURL	特になし

備考

特になし

1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
 2. 授業参加されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

edit

refresh back

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

http://syllabus.numazu-ct.ac.jp:8080/adedum/SubjectBrowse/syllabus_list

資料 5 - 5 - - 8 : 専攻科授業完了報告書の一例

版数	改定日	改定者	改定内容																																								
2版	2004-09-16 10:07:51		実習時数等記入																																								
470																																											
教科コード	254																																										
科目名	専攻科実験ITM化学生物工学I前																																										
科目名(英文)	Advanced Experiment ITM Chem./Biotech.																																										
担当者名	芳野 恭士																																										
担当者名(英文)	Kyoi YOSHINO																																										
学習・教育目標	<p>C工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。</p> <p>目標達成への実践指針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学技術における企画、立案、実施、管理のプロセスについて、自己の専門分野の知識を適用し、解析的、実験的な考察ができる。 2. 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、その解決策を考案することができる。 3. 自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。 																																										
対象学年	第1学年																																										
単位数	2																																										
必修/選択	必修																																										
開講時期	2004年度、前期																																										
授業区分	社会科学等区分	-																																									
	基礎能力区分	-																																									
	工学基礎区分	-																																									
	工学専門区分	-																																									
授業形態	実験																																										
実施場所	基礎生物学実験室																																										
受講者数	5																																										
授業実施時間	67.5時間(内訳:講義 0時間、演習 0時間、実験 67.5時間)																																										
学生別学習保証時間	学籍番号	氏名	時間																																								
	A04101		67.5																																								
	A04102		67.5																																								
	A04106		67.5																																								
	A04107		67.5																																								
	A04121		67.5																																								
学生による授業評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th rowspan="2">重み[%]</th> <th colspan="4">分布[人]</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合評価</td> <td>100</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>55</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>総合実験</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>学生の自己評価</td> <td></td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			評価項目	重み[%]	分布[人]				A	B	C	D	総合評価	100	5	0	0	0	レポート	55	0	5	0	0	総合実験	25	5	0	0	0	自己評価	20	5	0	0	0	学生の自己評価		5	0	0	0
評価項目	重み[%]	分布[人]																																									
		A	B	C	D																																						
総合評価	100	5	0	0	0																																						
レポート	55	0	5	0	0																																						
総合実験	25	5	0	0	0																																						
自己評価	20	5	0	0	0																																						
学生の自己評価		5	0	0	0																																						

[http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/subject_report/...](http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/subject_report/) 2005/04/21

授業完了報告書

2/2 ページ

学習・教育目標の達成	本教科の単位取得者は、「実習指針」に基づく目標達成度検査において、合格し、本教科が掲げる学習・教育目標を達成した。
授業実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の工学的、社会的意義をどのように説明したか。 実社会における工学技術者の仕事は、与えられたテーマ(課題)に対して、多くの場合、その解決をチームで検討する。そこで、この実験では、工学的・社会的なテーマを学生が自分たちで選択し、そのテーマを解決するための、企画・立案・実施・管理といったプロセスを自分たちで検討しながら進めていくことにした。いわゆるPBLの手法を用いた授業であることを、初回に説明した。学生たちは、「動物の学習記憶能力に対する喫煙の影響」をテーマとし、1名をリーダー、残りの4名をメンバーとしたチームでこの課題に取り組んだ。また、今回は実験動物を使用したため、動物実験に関する倫理についても、解説を行った。 2. OHP/プレゼン/ソフト、AV等、補助教材をどのように活用したか。 企画・立案時の情報収集には、図書館の書籍、インターネット検索、工学文献検索と文献取り寄せを利用し、学生は実社会での工学的情報収集と変わらない手法を体験した。また、実際の実験では必要な実験機材等を列挙させ、教員から貸与した。 3. 宿題の質と量は適切であったか。 実験のため、報告書(レポート)作成を含めたほぼすべての作業は授業時間内に行ったが、企画・立案時に多くの資料に目を通す必要に迫られ、学生たちは授業時間外にも資料の内容の検討を行ったことが、作業の進行状況から推測される。 4. 学生からの質問の質と量はどのように判断するか。 オフィスアワーは、毎週木曜日の16:30以降に設置したが、学生からの質問は授業時間中に行われることが多かった。PBLであるので、教員は学生の質問に対して問題点を指摘することと、判断と決定は作業の安全の範囲内で、学生たちにやらせた。 5. 全体的に見た場合、学生の成績はどうであったか。 学生は、今回選択した工学的社会問題を解決するための手法の考案とその実施に、チームで熱心に取り組んだ。その結果、このテーマを解決するための実験の基礎モデルを作成することに成功し、一部その予備実験を行って、作成モデルの問題点についても検討した。予備実験で得られたデータは、統計学的手法での解析も行うことができた。リーダーの学生は、作業全体をリードしてまとめるリーダーシップを、また、残りの学生はチームに協力するメンバーシップを、十分に発揮した。 6. 次回の授業計画に活かせる事項は何か。 専攻科実験ITM化学生物工学後では、今回同様PBLの手法を用いて、学生たちが自主的に、予備実験のデータの再解析・実験モデルの再構築・データの集積・問題解決の判定を行うよう指導する予定である。
授業に対する学生からの要望	図書館にもっと専門書がほしい、もっと授業時間がほしい、このテーマについて、国の研究機関等が取り組んだデータをもっと公開してほしい。教員からのアドバイスがもう少しあった方がよい。よいデータがでたら、ポスター等での発表(公表)の機会がほしい。夏季休業中のように、長い時間を実験に使用できる方がよい。調査をチームが一箇所までとまってやれる場所があった方がよい。半期の期間の中で、この実験に使用する授業時間の配分を説明してほしい。
備考	特になし。

上記報告を承認します

学生署名

印

このページの内容を編集する。

refresh

授業完了報告書作成に戻る <TOP

http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/subject_report/_ 2005/04/21

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/SubjectBrowse/subject_report/subject_report_list

資料 5 - 5 - - 9 : 専攻科シラバス・授業完了報告書の点検

6 基準 6 : 教育改善

6.1 教育点検システム

(1) 教育点検システムとその開示・実施

(中略)

(iii) 活動の実施

主要な教育点検項目は

1. シラバス
2. 授業完了報告書
3. 研究指導計画書
4. 研究指導報告書

であり、授業については

5. 学生による授業評価

が加わる。

点検は企画・運営委員会が行い、専攻科担当教員会議に報告し、次年度よりの教育活動改善の資料とする。

1～4の項目に関する点検方法は以下ようになる。

1. シラバス : シラバスは学生にわかりやすく提示されたか。

授業形態	記入の有無 (1/0)
実施場所	記入の有無 (1/0)
授業の概要	記入の有無+わかる (4/0)
準備学習	記入の有無 (1/0)
授業目標	記入の有無 (1/0)
授業計画(メインテーマ)	記入の有無 (1/0)
授業計画(サブテーマ)	記入の有無 (1/0)
課題	記入の有無 (1/0)
評価方法と基準	記入の有無 (4/0) (X%, Y%とあれば4)
教科書等	記入の有無 (1/0)
関連科目	記入の有無 (1/0)

合計 17 ポイントを持って満点とする。

点検結果は、すべて専攻科担当教員会議 IV(年度末会議)にて開示される。

以下に '03 年度専攻科シラバスの評価結果を示す。

標語 A は 14～17 ポイント、標語 B は 12～13 ポイント、標語 C は 11 ポイント、標語 D は 10 ポイント以下である。

表 6. 1 '03年度シラバス点検評価結果

授業科目名	標語	授業科目名	標語
実験・演習		語学・人文科学	
専攻科実験ITMネットワーク I 後	A	英会話 I	C
専攻科実験ITMネットワーク I 前	A	英会話 II	B
専攻科実験ITM化学生物工学 I 後	A	英作文 I	C
専攻科実験ITM化学生物工学 I 前	A	英作文 II	B
専攻科実験ITM機械工学 I 後	D	技術英語 I	A
専攻科実験ITM機械工学 I 前	D	技術英語 II	A
専攻科実験ITM制御情報工学 I 後	D	総合ドイツ語 I	A
専攻科実験ITM制御情報工学 I 前	C	総合ドイツ語 II	A
専攻科実験ITM電気電子工学 I 後	A	歴史文化論	A
専攻科実験ITM電気電子工学 I 前	A	工学共通基礎	
専攻科演習ITM化学生物工学 II 後	A	エネルギーと社会	A

(中略)

2. 授業完了報告書：授業はシラバス通り実施されたか。

実施場所変更等 記入の有無 (1/0)

受講者数 記入の有無 (1/0)

授業実施時間 記入の有無 (1/0)

学生別学習保証時間 記入の有無 (1/0)

学生による授業評価 記入の有無 (1/0)

評価 記入の有無 (1/0)

授業実施状況 記入の有無(各項目8割以上の記入を持って「有」とする)(4/0)

学生からの要望 記入の有無 (1/0)

合計 11 ポイントを持って満点とする。

点検結果はすべて、専攻科担当教員会議 IV(年度末会議)にて開示される。

以下に '03 年度授業完了報告書の評価結果を示す。

標語 A は 9 ~ 11 ポイント、標語 B は 8 ポイント、標語 C は 7 ポイント、標語 D は 6 ポイント以下である。なお、「閉講」は今年度、開講されなかった教科目であり、「欠」は授業完了報告書が提出されなかった科目である。

表 6. 2 '03年度授業完了報告書点検結果

科目名	標語	科目名	標語
専攻科実験		語学・人文科学	
専攻科実験ITM機械工学Ⅰ前	A	歴史文化論	A
専攻科実験ITM機械工学Ⅰ後	A	総合ドイツ語Ⅰ	A
専攻科実験ITM電気電子工学Ⅰ前	A	総合ドイツ語Ⅱ	A
専攻科実験ITM電気電子工学Ⅰ後	D	技術英語Ⅰ	A
専攻科実験ITMネットワークⅠ前	A	技術英語Ⅱ	A
専攻科実験ITMネットワークⅠ後	A	英会話Ⅰ	A
専攻科実験ITM制御情報工学Ⅰ前	B	英会話Ⅱ	A
専攻科実験ITM制御情報工学Ⅰ後	C	英作文Ⅰ	A
専攻科実験ITM化学生物工学Ⅰ前	A	英作文Ⅱ	D
専攻科実験ITM化学生物工学Ⅰ後	A		
専攻科演習		工学共通基礎	
専攻科演習ITM機械工学Ⅰ前	A	工学倫理	A
専攻科演習ITM機械工学Ⅰ後	B	エネルギーと社会	A
専攻科演習ITM機械工学Ⅱ前	A	地球環境学	A
専攻科演習ITM機械工学Ⅱ後	A	マルチメディア・ネットワーク	D
専攻科演習ITM電気電子工学Ⅰ前	A	材料強度論	A
専攻科演習ITM電気電子工学Ⅰ後	A	統計物理	A
専攻科演習ITM電気電子工学Ⅱ前	A	応用数学Ⅰ	A
専攻科演習ITM電気電子工学Ⅱ後	A	応用数学Ⅱ	A
専攻科演習ITM電子制御工学Ⅰ前	A	応用数学Ⅲ	A

(後略)

(出典：平成16年度「総合システム工学」自己点検書 p.93)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。教育課程は、専攻科総合システム工学要件により体系化され、語学、人文・社会科学、基礎能力、各専門工学の各分野がバランスよく配置されている。また、科目選択は学生の取得希望学位に応じて柔軟に対応できるよう配慮されている。各授業の内容と教育目標との関係がシラバスで確認でき、その実施も履修学生によって確認されるシステムを構築している。

観点5-5- : 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成(例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。)に配慮しているか。

(観点に係る状況) 専攻科課程は、3専攻を統合した「総合システム工学プログラム」を構成しており、他専攻の専門分野であっても学生のニーズに応じて柔軟な履修が可能となっている。また、国内外の他の高等教育機関で取得した単位について30単位を限度に本校の単位として認める制度を設けている。さらに、全学生必修科目である「専攻科実習」において、外部企業等におけるインターンシップに取組み、「専攻科研究」に生かしている(資料5-5--1)。教育課程に関する学生の要望は、専攻科学生支援室(資料5-5--2)あるいは「学生による授業評価」(資料5-5--3)を通して収集され、それらの内容はウェブサイトを開示されて教育改善に活かされる(資料5-5--4)。

資料5-5--1: 沼津工業高等専門学校専攻科実習規則

沼津工業高等専門学校専攻科実習規則

(趣旨)

第1条 この規則は、沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則(平成15年4月9日制定)第5条第4項及び第12条第5項の規定に基づき、専攻科実習の履修方法及び成績の評価に関し、必要な事項を定める。

(専攻科実習の目的)

第2条 専攻科実習は、企業等における実習を通じて得た結果を、専攻科研究の遂行に生かすことを目的とする。

(計画及び実施)

第3条 専攻科実習は、研究指導教員において計画し、校長の許可を得て履修するものとする。

(受入先への依頼)

第4条 専攻科実習を履修する学生(以下「専攻科実習生」という。)の受入先への依頼は、校長が行う。

(履修の時期及び期間)

第5条 専攻科実習は、原則として夏季休業期間中の2週間にわたり履修するものとする。

(経費)

第6条 専攻科実習に要する経費は、専攻科実習生の負担とする。

(研究指導教員の業務)

第7条 研究指導教員は、専攻科実習を円滑に実施するため、その実施責任者となり、次の業務を行う。

- (1) 専攻科実習生の受入先の選定及び配属先の決定
- (2) 専攻科実習生の受入先における実習指導者の指定
- (3) 専攻科実習テーマ、内容等に関する指導・助言
- (4) 専攻科実習における安全管理(傷害保険への加入を含む。)、就業心得等の事前指導
- (5) 専攻科実習中に発生した事故又は異常事態の処置及び校長への報告
- (6) 専攻科実習の目標の設定
- (7) 専攻科実習の評価基準の設定
- (8) その他専攻科実習に関し、必要な事項

(受入先選定上の留意点)

第8条 研究指導教員は、専攻科実習生の受入先を選定するに当たっては、次の各号の一に該当する場合は、選定しないものとする。

- (1) 工学倫理上問題があるとみなされる企業
- (2) 著しく危険を伴うもの
- (3) 宿舍、交通費等専攻科実習生の負担が著しいもの
- (4) 就職活動の一部とみなされるもの

(事前の届出)

第9条 研究指導教員は、専攻科実習の履修開始前に、別記様式第1号の専攻科実習開始届を、専攻科長を経て校長に提出し、許可を得なければならない。

(実地指導)

第10条 研究指導教員は、専攻科実習生に対し、必要に応じ、受入先等において実地指導を行うものとする。

(報告)

第11条 研究指導教員は、専攻科実習終了後、直ちに、別記様式第2号の専攻科実習報告書に、別記様式第3号の専攻科実習証明書及び別記様式第4号の専攻科実習日誌を添えて、専攻科長を経て校長に提出しなければならない。

(成績の評価及び単位の認定)

第12条 所定の専攻科実習を終了した専攻科実習生の成績評価は、第7条7号に定める評価基準に基づき、研究指導教員が総合的に判断し評価する。

(事務)

第13条 専攻科実習に関する事務は、学生課において処理する。

(細目)

第 14 条 この規則に定めるもののほか，この規則の実施に関し必要な細目は，別に定める。

(出典：平成 17 年度学生便覧 p.49)

資料 5 - 5 - - 2：専攻科学生支援室規程

5．専攻科学生支援室規程

(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校に，専攻科学生支援室(以下「学生支援室」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 学生支援室は，学生との人間的なふれあいを通じて，より学生の視点に立った教育環境の整備充実を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 学生支援室は，次に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の学習環境の整備に関すること。
- (2) 大学間交流の基盤の整備及び交流活動の支援に関すること。
- (3) 学生の自主的な地域社会への貢献活動の支援に関すること。
- (4) 学生が主体的に進路を選択して行うキャリア形成の支援に関すること。
- (5) その他学生が変化する社会に柔軟に対応できる能力を身につけるために必要な事項

(組織)

第 4 条 学生支援室に，次に掲げる職員を置く。

(1) 室長

(2) 室員 3人

2 室長及び室員は，専攻科担当教員の中から，専攻科長が専攻科担当教員会議の意見を聴いて委嘱する。

3 室長は，学生支援室に関する業務を掌理する。

4 室員は，上司の命を受け，学生支援室の業務に従事する。

5 室長及び室員の任期は，1年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

(報告)

第 5 条 室長は，学生支援室の活動状況について必要に応じて専攻科担当教員会議に報告するものとする。

(学生の参加)

第 6 条 学生支援室の運営に当たっては，学生の自主的な参加を得るものとする。

(事務)

第 7 条 学生支援室に関する事務は，学生課において処理する。

(細則)

第 8 条 この規程に定めるもののほか，学生支援室の運営に関し必要な細目は，別に定める。

(出展：平成 17 年度学生便覧 p.51)

資料 5 - 5 - - 3：専攻科 学生による授業評価

6 基準 6 : 教育改善

6.1 教育点検システム

(1) 教育点検システムとその開示・実施

(中略)

(iii) 活動の実施

(中略)

5. 学生による授業評価

学生の授業評価については、以下に示す 22 項目について、学生の無記名アンケート形式で、行い、結果を学内ウェブサイトを開示している。質問項目については、専攻科学生に馴染まないものもあるが、本調査は高専 1 ~ 5 年生についても同項目で実施しているので、高専 4 , 5 年生における授業評価と比較できるという利点がある。

授業評価項目

< 授業内容に関する設問 >

1. あなたは授業内容に興味が持てましたか？
2. あなたは授業内容が理解できましたか？
3. 授業内容の将来における必要性について説明を受け、それを納得できましたか？
4. この授業は、あなたにとって意味のあるものでしたか。
5. 授業内容がシラバスと一致していましたか？

< 授業方法に関する設問 >

6. 授業の進行方法は、整理されて理解し易かったですか？
7. 教官の話し方は聞き取り易かったですか？
8. 黒板等の文字は、大きく丁寧で読み易かったですか？
9. 黒板等に書かれた内容は、よく整理されていましたか？
10. あなたの質問に対して教官からの的確な回答が得られましたか？
11. 演習や課題・レポートの内容と量は適切でしたか？
12. 教科書・プリント、OHP, AV 教材は、適切な内容でわかり易かったですか？
13. 休講・自習の時間は少なかったですか。(少ない場合を良いとして下さい)
14. 授業の開始・終了時間が守られていますか。(守られている場合を良いとして下さい)

< 成績評価に関する設問 >

15. 演習や課題・レポートはきちんと採点・評価を受けられましたか？
16. 成績の評価基準が明確で、納得できるものでしたか？
17. 試験の内容や量は適切でしたか？
18. 試験の採点基準が明確で、納得できるものでしたか？

< 学生自身に関する設問 >

19. この授業に集中できましたか？
20. わからない事柄に関して、質問等積極的に解決を目指す行動がとれましたか？
21. 課題・レポートを、毎日期日内にきちんと提出できましたか？

< 総合的満足度に関する設問 >

- 22 全体としてこの授業に満足できましたか？

上記、「授業アンケート」は授業終了後に学生が無記名で記入し、記入用紙は封印され学生課教務係に提出される。教務係の職員は、「授業アンケート」を集計し、企画・運営委員会に報告する。評価結果は以下のような形式で、専攻科公式ウェブサイトに掲載される。

表 6. 5 学生による授業評価開示例

授業科目名	担当教員名	回答数: 12																				
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い	41	25	16	41	72	58	66	50	33	40	33	33	83	83	22	25	25	12	27	33	66	41
良い	58	66	83	58	27	33	33	41	66	60	58	58	16	16	77	75	75	75	45	16	16	58
あまり良くない	0	8	0	0	0	8	0	8	0	0	8	8	0	0	0	0	0	12	27	41	16	0
悪い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0
回答数	12	12	12	12	11	12	12	12	12	10	12	12	12	12	9	8	8	8	11	12	12	12

この評価表を

$$\text{評価点} = \frac{N_A \times 100 + N_B \times 75 + N_C \times 50 + N_D \times 25}{N_A + N_B + N_C + N_D}$$

で数値化する。ここで、 N_A 、 N_B 、 N_C 、 N_D はそれぞれ、授業評価で学生が「非常に良い」、「良い」、「良くない」、「悪い」とした回答数である。

‘03年度の学生による授業評価結果を以下に示す。

表 6. 6 学生による授業評価結果

教科名 [前期]	平均点	偏差	教科名 [後期]	平均点	偏差
量子物理 I	83	15	英作文 II	80	15
材料強度学	73	15	英会話 II	86	14
画像工学	88	15	総合ドイツ語 II	85	16
化学情報学	100	0	技術英語 II	88	13
電気・電子材料	84	16	ネットワーク	79	16
応用伝熱学	77	18	地球環境学	82	14
アルゴリズムとデータ構造	84	12	工学倫理	86	15
マルチメディア・ネットワーク工学	67	18	量子物理 II	85	16
ロボット制御工学	75	16	統計物理	84	15
表面工学	75	12	応用数学 II	75	22
英会話	84	15	結晶化学	80	18
オートマトンと言語理論	70	23	工業材料	81	13
計算力学	92	12	流体力学	76	15
化学データ解析	81	15	音響工学	83	16
計算機力学	69	18	電磁エネルギー変換工学	83	15
総合ドイツ語	91	14	電気機器学特論	85	15

(後略)

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.93)

資料 5 - 5 - - 4 : 専攻科学生支援室と学生による授業評価のウェブサイト

学生支援室ホームページ

学生支援室は、学生と教員の人的なふれあいを通じて、より学生の視点に立った教育環境の整備充実を図ることを目的としています。この目的を達成するために、支援室活動への、学生諸君の積極的な参加を呼びかけます。

学生支援室は次に掲げる事項を行います。

- 1 学生の学習環境の整備に関すること。
- 2 大学間交流の基盤の整備及び交流活動の支援に関すること。
- 3 学生の自主的な地域社会への貢献活動の支援に関すること。
- 4 学生が主体的に道路を選択して行うキャリア形成の支援に関すること。
- 5 その他学生が変化する社会に柔軟に対応できる能力を身につけるために必要な事項

参照: 学生支援室規定

Contents

- 1 活動歴
- 2 05年度求人情報
- 3 05年度活動計画
- 4 担当教員&協力教員
- 5 要望受付用掲示板
- 6 受講プラン及書ダウンロード
 - i 受講プランチェック表
 - ii 受講プラン単位表
 - iii 受講プラン学習保障時間表

専攻科(学内)ホームページへ戻る。

04年度前期 04年度後期 03年度前期 03年度後期

04年度前期 専攻科 学生による授業評価

回答項目内の数字は全てパーセント表示です。

月曜日第1限

量子物理Ⅰ

質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常によい	44	25	40	36	60	63	63	56	40	42	19	15	69	47	17	8	33	0	31	20	44	33
よい	50	69	47	57	33	31	31	25	53	58	69	62	25	47	75	83	50	100	63	53	56	67
あまりよくない	8	8	13	7	7	8	8	19	7	0	13	23	8	7	8	8	17	0	8	27	0	0
悪い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答数	16	16	15	14	15	16	16	16	15	12	16	13	16	15	12	12	8	8	16	15	16	15

材料強度学

質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常によい	25	25	38	43	25	14	0	0	14	43	38	88	75	67	43	40	40	62	25	62	38	38
よい	62	38	38	62	57	62	86	57	71	86	57	50	12	25	33	57	60	60	20	38	38	62
あまりよくない	12	38	38	0	0	12	0	43	29	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12	38	0	0

専攻科(学内)ホームページへ戻る。

評価項目

<授業内容>

1. あなたは授業内容に興味が持てましたか？
2. あなたは授業内容が理解できましたか？
3. 授業内容の将来における必要性について説明を受け、それを納得できましたか？
4. この授業は、あなたにとって意味のあるものでしたか。
5. 授業内容がシラバスと一致していましたか？

<授業方法>

6. 授業の進行方法は、整理されて理解しやすかったですか？
7. 教官の話し方は聞き取りやすかったですか？
8. 黒板等の文字は、大きく丁寧に読みやすかったですか？
9. 黒板等に書かれた内容は、よく整理されていましたか？
10. あなたの質問に対して教官から的確な回答が得られましたか？

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp:8080/~room/studentHP.html><http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/sennkouka/jyugyohyouka/index.html>

(分析結果とその根拠理由) 優れている。専攻科課程においては、既存の上記措置に加え、学生からの要望聴取、企業・自治体・近隣大学等との意見交換を定期的に行い、学内外の教育ニーズの把握に努めており(資料 5 - 5 - - 5)、企画・運営委員会(資料 5 - 5 - - 6)や専攻科担当教

員間連絡ネットワーク組織（資料 5 - 5 - - 7）において学習・教育目標実施方針を不断に見直している。

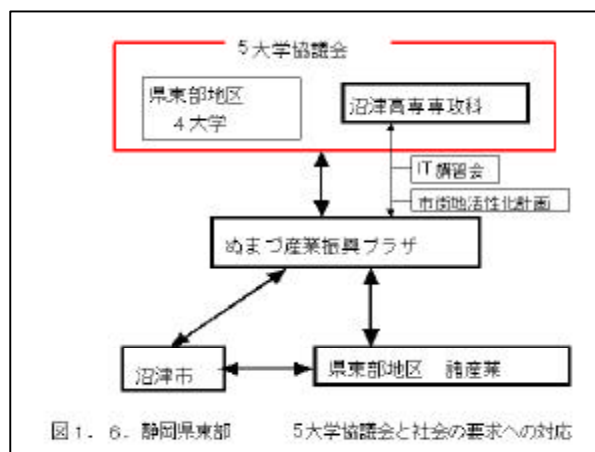
資料 5 - 5 - - 5：専攻科における学生，社会等のニーズに対する対応

（ ）社会の要求や学生の要望の考慮方法

（ 1 ）静岡県東部 5 大学協議会とぬまづ産業振興プラザを通じた地域産業との連絡

本専攻科は近隣の 4 大学(県立大学，日本大学国際関係学部，富士常葉大学，東海大学産業工学部)と協力して地域産業，文化の発展に寄与する目的で静岡県東部 5 大学協議会に参加している。この協議会は沼津市産業戦略課の実行団体である「ぬまづ産業プラザ」を通じて，地域産業からの要求と大学等の研究・教育の場の交流を図っている。

本専攻科は，「5 大学協議会」の一員として，ぬまづ産業振興プラザを通じて地域産業の要求を聴き，それに対応する活動を続けている。以下にその概略を図示する。

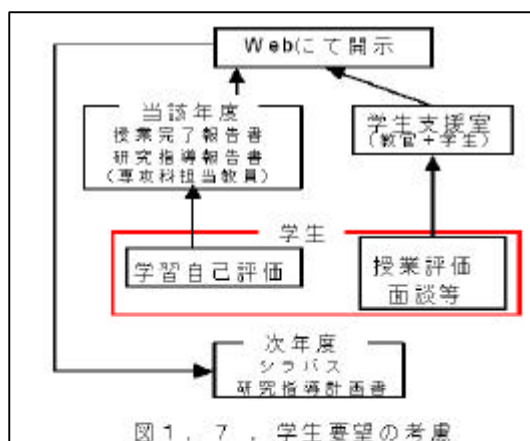


（ 2 ）専攻科の教育に対する社会の要求については，毎年 12 月に，修了生が実際に採用され，活躍している業種および職種の追跡調査を行ってその把握に努め，教育プログラムに反映させている。

（ 3 ）企業での実務を学ぶインターンシップ制として専攻科実習を必修科目としているが，当科目では，研究指導教員が受け入れ企業の担当者と実習内容の綿密な打ち合わせを行う。このような機会も，社会の要求に対する情報を収集するために活用している。

（ 4 ）03 年度の専攻科研究発表会は，広く社会に公開している。企業・自治体等からの参加者の本教育プログラムへの要請ならびに研究協力希望の情報を，収集できるものと期待している。

（ 5 ）学生の教育プログラムに対する要望については，「専攻科学生支援室規程」により設置された「専攻科学生支援室」を通して収集される。また，各開講科目の実施内容に関しては，本校教務委員会が年 2 回実施する学生対象の授業アンケートの結果を教員に公開して，その改善に生かしている。以下にその概略を図示する。



(6) これらの収集された情報は、必要に応じて「専攻科担当教員間連絡ネットワーク組織」あるいは「専攻科担当教員会議」で検討され、教育プログラムの改善に生かされる。

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.16)

資料 5 - 5 - - 6：専攻科における教育支援体制

() 教育支援体制

専攻科担当教員会議を含むプログラム会議は、プログラム全体を見渡し、個々の教育課題を支援し、点検し、改善案を策定し、プログラム会議に提案する役割を担う組織として、プログラム委員会(専攻科企画・運営委員会を含む)を置き、委員を選出する。

プログラム委員会は教育支援の課題別に第 1 委員会から第 7 委員会までのワーキング・グループを組織する。

第 1 委員会は、JABEE 基準 1 に関連する教育課題について、教育支援を行うと共に、専攻科研究発表会を準備し、専攻科研究の評価方法を研究する。

第 2 委員会は、JABEE 基準 2 に関連する課題について、教育支援を行う。

第 3 委員会は、FD を実施し、各教科間の調整・連絡を行う。本プログラムにおけるネットワークワークの要となる。本プログラムに関する社会の要請や学生の要望を集積し、分析し、それらに応えることができるように計画する。さらに、専攻科実習の実施に関して、各指導教員を支援する。

第 4 委員会は、学生支援室を運営し、学生の自主的な学習活動を支援すると共に、本プログラムに関する施設、設備について点検し、改善案策定を行う。専攻科を構成する各領域工学に関する総合実験を計画し、実施する。

第 5 委員会は、各科目の学習・教育目標達成度の評価基準と評価方法について研究し、各教科担当教員を支援する。本プログラム履修前の教育水準についての同等性を調査・研究する。

第 6 委員会は、教育点検の結果に基づき、本プログラムの学習・教育目標、達成度の評価基準と方法等に関する改善案を策定し、専攻科担当教員会議に提案する活動を行う。

第 7 委員会は、専攻科入試業務を担当する委員会で、専攻科企画・運営委員全員が兼任する。

上記教育組織の概略を以下に図示する。

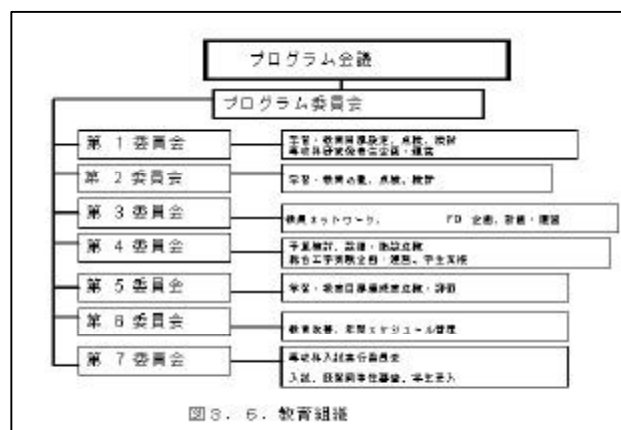


図 3. 6. 教育組織

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.57)

資料 5 - 5 - 7：専攻科担当教員間連絡ネットワーク組織規定

(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校に、専攻科担当教員間連絡ネットワーク組織(以下「ネットワーク組織」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 ネットワーク組織は、専攻科の科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、もって教育方法の改善及び向上に資することを目的とする。

(研究課題)

第 3 条 ネットワーク組織の研究課題は、次のとおりとする。

1. 専攻科の教育内容に反映する適切な地域産業への貢献の方法に関する研究
2. 専攻科の目的及び教育目標を実現するために必要な授業上の要件に関する研究
3. 専攻科学生が、授業を通じて身につけた素養と能力の適切な評価方法に関する研究
4. 専攻科の学生による授業評価及び到達度自己点検の集計結果を教員の行なう授業へ効果的に反映する方法に関する研究
5. 専攻科における教育内容及び教育方法の改善を図るための組織的な取組に関する研究(企画立案を含む)

(組織)

第 4 条 ネットワーク組織は、専攻科担当教員のうちから、校長が専攻科教員会議の意見を聴いて委嘱する者で組織する。

(責任者)

第 5 条 ネットワーク組織に責任者を置き、専攻科長をもって充てる。

2. 責任者は、ネットワーク組織の運営を掌理する。
3. 責任者に事故があるときには、あらかじめ責任者が指名するものがその職務を代行する。

(報告)

第6条 ネットワーク組織の研究成果は、必要に応じて専攻科担当教員会議に報告するものとする。

(細則)

第7条 この規定に定めるもののほか、ネットワーク組織の運営に関し必要な細目は、別に定める。

付則

この規定は平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/network.html>

観点 5 - 6 - : 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況) 授業形態は講義、演習、実験・実習に大別され、専攻科の教育目的を踏まえ、実験・実習を必修科目として体験型学習を重視している(資料 5 - 6 - - 1)。

専攻科課程は学生数が少ないことから、少人数授業が多く、また、コミュニケーション能力の育成を重視した対話・討論型授業も多い。さらには、e-learning 等の情報機器を生かした授業、PBL や研究といった創造性を養う授業、様々な分野の基礎工学実験を学生全員が行う専攻科総合実験等が実施されており、担当教員が研究や研修で得た知見を生かしながら、それぞれ工夫した授業を行っている(資料 5 - 6 - - 2)。また、教員相互の授業参観を実施し、互いの優れた授業方法を参考にする努力も行っている(資料 5 - 6 - - 3)。

資料 5 - 6 - - 1 : 専攻科の教育課程表

別表第4

専攻科	授業科目	単位数	前期	後期	備考
専攻科	研究科 研究科 研究科	10	5	5	必修 1年次前・後期各2単位 研究: 1年次前・後期各1単位 実習: 1年次、実習: 1/2年次
	研究科 研究科 研究科	4	2	2	
	研究科 研究科 研究科	4	2	2	
	研究科 研究科 研究科	2	1	1	4単位以上を選択
語学	英会話	1			
	英会話	1			
	英会話	1			
	英会話	1			
	英会話	1			
	英会話	1			
	英会話	1			
	英会話	1			
	英会話	1			
	英会話	1			
人文科学	社会学	2			(1)工学論理を含めて6単位以上を選択 (2)哲学と人文・社会科学で、125時間以上の学習保証時間が必要
	社会学	2			
	社会学	2			
	社会学	2			
	社会学	2			
	社会学	2			
	社会学	2			
	社会学	2			
	社会学	2			
	社会学	2			
基礎能力	数学	2			(1)数学、自然科学、情報技術を含む12単位以上、125時間以上の学習保証時間が必要 (2)総合システム工学要件にしたがって選択
	数学	2			
	数学	2			
	数学	2			
	数学	2			
	数学	2			
	数学	2			
	数学	2			
	数学	2			
	数学	2			
機械工学系科目	工学	2			(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
電気電子工学系科目	工学	2			(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
情報工学系科目	工学	2			(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
生物系科目	工学	2			(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
	工学	2			
授業科目合計単位数	144	77	67		

(40)

(出典：平成 17 年度学生便覧 p. 40)

資料 5 - 6 - - 2 : 授業方法の工夫の例

e-learning を取り入れた授業のシラバス例

Syllabus Id		1499
Subject Id		0311
Version		vw.0012
授業科目名	電気科(実習)電子制御工学前	
担当教員	大沼 善久	
対象学年	第2学年	
単位数	1	
必修/選択	必修	
開講時期	前期	
授業区分	社会科学区分 [-] 基礎能力区分 [-] 工学基礎区分 [-] 工学専門区分 [-]	
授業形態	演習	
実施場所	情報処理演習室(金曜日4時限)	
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)	<p>この科目は科学技術の進歩に伴い、テクノロジーの急激な発展の一方で、現代工学においては、物理現象の数理モデル化や数値解析、あるいは工学装置の制御設計等、様々な用途に用いられており、本教科では、Internet 環境を利用しての演習のプログラミング手法を学習する。</p> <p>準備学習(この授業を修習するに際し必要となる知識)</p> <p>コンピュータ及びインターネットの基礎的な利用方法</p>	
	Weight	目標
	-	A 工学基礎の自覚と多面的思考力の養成
	◎	B 社会要請に答えられる工学基礎学力の養成

PBL を取り入れた授業のシラバス例

Syllabus Id		1002
Subject Id		0302
Version		vw.0002
授業科目名	第2年度実験科目学生物工学前	
担当教員	沢野 浩士	
対象学年	第1学年	
単位数	2	
必修/選択	必修	
開講時期	前期	
授業区分	社会科学区分 [-] 基礎能力区分 [-] 工学基礎区分 [-] 工学専門区分 [-]	
授業形態	演習	
実施場所	基礎生物工学演習室	
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)	<p>応用物工学専攻学生は、化学・生物工学に関する基礎的な知識および実験技術をもとに、企業界の課題を自ら積極的にテーマを解決するプロセスを習得するものであり、前修課に採られた11週(95単位)の演習を卒業している。演習の範囲には、Problem Based Learningの手法を取り入れることとし、社会で実際に起こり得る未解決のテーマが、教官から与えられる。応用物工学専攻学生は、自己採択の化学・生物工学分野の基礎実験として、実習分野の採択を維持する。実験実施期間は、2週間である。</p> <p>準備学習(この授業を修習するに際し必要となる知識)</p> <p>一般化学・生物化学</p>	
	Weight	目標
	◎	A 工学基礎の自覚と多面的思考力の養成
	◎	B 社会要請に答えられる工学基礎学力の養成
	◎	C 工学専門知識の総合的活用能力の養成

専攻科研究のシラバス

Syllabus Id		1361
Subject Id		0340
Version		vw.0008
授業科目名	電気科研究	
担当教員	電気科研究指導教員(研究計画書に記載)	
対象学年	学年全期(ただし、)	
単位数	10(1年次前期3、後期3、2年次前期3、後期3)	
必修/選択	必修	
開講時期	通年	
授業区分	社会科学区分 [-] 基礎能力区分 [-] 工学基礎区分 [-] 工学専門区分 [-]	
授業形態	研究	
実施場所	研究指導教員に定められた計画書に記載)	
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)	<p>総合システム工学プログラム前半期までで修得した工学技術に関する広範な知識と技術を基礎として、教員の指導の下に具体的なテーマについて研究を行う。研究は関連する文献を調査し、研究の進捗や社会的意義との関係で指導。テーマの持つ産業的意義を把握するとともに、問題解決に必要なとらえ方を理解し、自ら実験・調査を実施し、その結果を論文、発表、あるいは種々の形式的な報告を提出し、正論で表現した方法でテーマをまとめ、成果を報告し、発表し、指導教員との議論を通じて評価し、得られた結果を報告して評価、論文としてまとめ、発表する。</p> <p>準備学習(この授業を修習するに際し必要となる知識)</p> <p>総合システム工学プログラム前半期の講義(演習・実験・実習で修得した知識)</p>	
	Weight	目標
学習・教育目標	◎	A 工学基礎の自覚と多面的思考力の養成
	◎	B 社会要請に答えられる工学基礎学力の養成
	◎	C 工学専門知識の総合的活用能力の養成
	◎	D 問題解決の要請・創造能力の養成

専攻科総合実験

()総合システム工学プログラムの歴史と構成, 特徴・特色

(中略)

専攻科実験では, 工学分野の中で広い視野が得られるよう, 各学生の専門工学だけでなく, それ以外の分野の実験テーマについても決められた時間行う, 「総合実験」の時間を設けている。

(後略)

(出典: 本校専攻科ウェブサイト及び平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.23)

http://syllabus.numazu-ct.ac.jp:8080/adedum/SubjectBrowse/syllabus_list

資料 5 - 6 - - 3 : 専攻科授業参観

04年度後期 授業参観記録

専攻科研究発表会
発表会1
発表会2

工学倫理
統計物理学
応用数学II
結晶化学
総合ドメインII
歴史文化論

適応制御
計算機アーキテクチャー
ネットワーク

掲示板に戻る。



(出典: 本校専攻科ウェブサイト)

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp:8080/~open/Web/jgsnkan05fall.html>

(分析結果とその根拠理由) 優れている。本校の教育目的には実験実習等の体験型学習を重視することが掲げられており、それを踏まえた授業形態のバランスが配慮されている。また、学習指導法については、各科目の特性を踏まえつつ、担当教員が適切な工夫を行うとともに、教員相互に教育技術の研鑽を行うことで教育効果を上げていると判断できる。

観点 5 - 6 - : 創造性を育む教育方法 (PBL など) の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況) 専攻科課程においては、「専攻科研究」「専攻科実験」「専攻科演習」など学生に主体的な取組みを要求する実験・実習・製作関係科目を設けている。「専攻科実験」の中にも PBL を実践している科目があるが(資料 5 - 6 - - 1), 特に全学生必修科目の「専攻科研究」では、社会的に意義のある研究テーマについて、創造性を発揮して取り組むことが求められている(資料 5 - 6 - - 2)。また、必修科目の「専攻科実習」で実社会におけるニーズに触れさせており、さらに外部との共同研究・受託研究等が近年増加の傾向にあることから、これらに学生を参加させる機会も増している(資料 5 - 6 - - 3)。

資料 5 - 6 - - 1: 専攻科における PBL の実施科目例

(1) 専攻科実験 I TM 化学生物工学 I 前 (専攻科 2 単位)

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

応用物質工学専攻生対象：化学・生物工学に関する基礎的な知識および実験技術をもとに、産業界で直面し得るより実際的なテーマを解決するプロセスを試行するものであり、前後期それぞれ 11 週(66 単位時間)の実施を予定している。実験の実施には、Problem Based Learning の手法を取り入れることとし、社会で実際に起こり得る未解決のテーマが、教員から与えられる。

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.114)

資料 5 - 6 - - 2: 専攻科研究の授業の概要と授業目標

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

総合システム工学プログラム前半期までに修得した工学技術に関する広範な知識と技術を基礎として、教員の指導の下に具体的なテーマについて研究を行う。研究は関連する文献を調査し、研究の背景や目的を社会の要望との関連で把握し、テーマの持つ産業的意味を理解するとともに、問題解決に必要なとされる情報を探し出し、実験計画を立案し、あるいは理論的な仮説を展開し、正確で秩序だった方法でデータを集め、仮説を検証し、考察し、指導教員との議論を通じて評価し、得られた結果を要約して抄録、論文としてまとめ、発表する。

授業目標

1. 複数の工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験計画、もしくは理論的な仮説を設定し、実験を行い、仮説を展開し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力
2. 工学技術の基礎的な知識とスキルを統合し、創造性を発揮して課題を考察し、分析し、統合して解決する能力

(出典：沼津高専ウェブサイト内 2005 年度専攻科シラバス「専攻科研究」)

http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/syllabus_list

資料 5-6-②-3 : 沼津高専の外部資金獲得状況

4. 2 財源

(1) 施設, 設備の整備・維持・運用に必要な財源確保への取組

中略

9. 上記□の「外部資金等」の獲得の内, 特に共同研究・受託研究・寄附金については, 地域共同テクノセンターを中心とした積極的な取組により, 今年度において以下のような成果を挙げている。

区 分	2003 年度 9 月末	2004 年度 9 月末現在
共同研究受入	0 円 (0 件)	4,840,000 円 (10 件)
受託研究受入	2,000,000 円 (1 件)	5,750,000 円 (3 件)
寄 附 金 受 入	8,026,235 円 (15 件)	9,140,840 円 (15 件)

中略

・ 科学研究費補助金

1999 年度から, 2003 年度の科研科学研究費補助金(以下「科研費」と略称する)獲得状況を示す。

表 4. 3 年度別科学研究費補助金申請件数等一覧

	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
申 請 件 数	22 (3)	19 (3)	23 (4)	21 (3)	22 (4)
採 択 件 数	5 (3)	6 (3)	7 (4)	7 (3)	6 (4)
交 付 金 額	3,400 千円	7,100 千円	8,000 千円	7,900 千円	6,000 千円

※ () は継続課題<内定済の課題>

後略

(出典:平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.68)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。「専攻科研究」では, 学生に課せられた研究テーマの社会的意義とそれを実施するための手段を考案することが求められており, 創造性を発揮しなければ, その解決は不可能である。学生が研究においていかに創造性を発揮したかについては, 複数の教員により評価が行われている(資料 5-6-②-4)。また, インターンシップや, 外部との研究協力を学生を参加させることは, 学生が実社会におけるニーズに直接触れることによって自らの学習内容をもう一度見直し, 学習・教育目標を再認識する良いきっかけとなっている。

資料 5-6-②-4 : 専攻科研究論文の審査について

沼津工業高等専門学校専攻科 2004 年度研究発表会

1. 発表会の目的

沼津工業高等専門学校専攻科 2 年次生の専攻科研究における学習成果を, 広く学内外に発表し, 学習成果達成度の評価を受けます。単に 2 年間の研究成果を公表するだけでなく, 研究を通して得た学習成果を発表する機会として臨んでく

ださい。尚、本発表会は、専攻科修了要件のひとつである「専攻科研究論文の審査」の場を兼ねています。

中略

7. 専攻科研究論文査読成績報告書について

主査・副査・発表学生は発表会に先立って配布される「専攻科研究論文査読成績報告書」を記入し、提出してください。報告書の記入方法は、「発表会実施手引き」および報告書用紙を参考にしてください。主査・発表学生は、報告書を論文提出期限の2005年1月13日（木）午後5時までに、e-mailにて専攻科長（morii@numazu-ct.ac.jp）に提出してください。副査は、報告書を発表会当日に、会場で直接専攻科長に提出してください。報告書の内容は、原則として閲覧できません。

8. 発表評価アンケートについて

主査・副査を含め、発表会場に来られた教員は、会場の入り口付近に置かれた発表についての評価アンケート票をお持ちになり、記名のうえ内容を記入し、回収箱にお入れください。ご協力をお願いします。

9. 専攻科研究論文の審査について

専攻科研究論文の審査は、主査の報告書 50%、副査2名の報告書 30%、発表学生の報告書 10%、発表についての評価 10%として、評価を行うものとします。

後略

（出典：本校専攻科ウェブサイト）

http://senkoka.numazu-ct.ac.jp:8080/~open/Web/siryoku04/04_2nenhappyouyoukou.htm

観点 5-6-③：教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点到に係る状況）専攻科課程における教科目のシラバスの作成・開示は、「学則第46条の2」に定められた専攻科担当教員を規定した「専攻科担当教員規程」（資料5-6-③-1）に基づいて行われている。通常授業のシラバスに相当するものとして、「専攻科研究」では「研究指導計画書」が、また、「専攻科実習」では「専攻科実習指導計画書」がある。それぞれには、学習・教育目標との関係、教育方法や内容、評価方法、事前に行う準備学習や関連科目等の情報を明示することが義務付けられている（資料5-6-③-2）。時機に応じた授業内容を取り入れながらも、学生の2年間の受講計画に支障がないよう、授業内容の変更には細心の注意を払っている。

シラバスは、沼津高専公式ウェブサイト、及び専攻科の公式ウェブサイトに年度の開始前に公開され、授業開始当初（オリエンテーション）にハンドアウトとして受講希望学生全員に配布され、説明される。

資料 5-6-③-1：専攻科担当教員規程

専攻科担当教員規程

（趣旨）

第1条 この規程は、沼津工業高等専門学校専攻科担当教員の資格、認定等に関し必要な事項について定めるものとする。

（担当教員の資格）

第2条 専攻科担当教員の資格は、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する（平成3年大学評価・学位授与機構規程第4号）第2条第1項第4号に規定する資格を有し、教育研究上の能力があると認められる者とする。

（担当教員の認定）

第3条 専攻科担当教員の認定は、専攻科担当教員会議の審査に基づき校長が行う。

前項の審査は、別記様式の教員個人調書により行うものとする。

第1項の認定は、毎年度、実施するものとする。

(研究指導教員)

第4条 校長は、専攻科の学生に対する専攻科研究論文の作成等の指導並びに沼津工業高等専門学校学則第46の4(専攻科規則案第2条)に規定する教育目標を達成するために必要な支援及び指導を行うため、専攻科担当教員である教授又は助教授のうちから、当該学生ごとに研究指導教員を命ずる。

校長は、前項の研究指導教員を命ずるに当たっては、専攻科担当教員会議の意見を聴くものとする。

(教育実施関係書類の提出)

第5条 専攻科担当教員は、各学期の開始前の所定の期日までに別に定める教育実施計画関係書類を、各学期の修了前の所定の期日までに別に定める教育実施報告関係書類を作成し、専攻科長に提出しなければならない。

(細目)

第6条 この規程に定めるもののほか、専攻科担当教員に関し必要な細目は、別に定める。

「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」

付則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

教育実施計画書関係書類

- i. シラバス
- ii. 専攻科研究指導計画書
- iii. 専攻科実習開始届
- iv. その他
- v. 教育実施報告書関係書類

授業実施報告書

- i. 専攻科研究指導報告書
- ii. 専攻科実習証明書、実習概要及び報告書
- iii. その他

- ・教員個人調書の書式は、「個人資料(JABEE仕様)書式要領」に従って定める。
- ・シラバス、及び授業実施報告書の書式項目は「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」の付録Aに記載する。
- ・専攻科研究指導計画書、及び専攻科研究指導報告書の書式項目は「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」の付録Bに定める。
- ・専攻科実習開始届、実習証明書、実習概要及び報告書それぞれの書式は「専攻科実習規則」に定める。

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/kyoukan.html>

資料5-6-③-2：専攻科の授業シラバス、研究指導計画書、実習指導計画書の書式

「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」の付録

中略

1号書式(シラバス)の項目

科目名：

Subject：

担当者名：

Instructor：

対象学年：

単位数：

Credits：

必修／選択：

開講時期(前期/後期)

授業区分

工学専門区分(必修となる分野区分/学位分野)：

基礎能力(数学, 自然科学, 情報技術)：

基礎工学区分：

社会科学等(人文・社会科学, 語学)：

授業形態(講義, 実験, 演習等)：

Mode：

実施場所：

Room：

授業の概要(本教科の工学的, 社会的, あるいは産業的意味)：

Object/Substance/etc.：

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識等)：

Requirements：

教育目標(□/○の選択)：A, B, C, D, E

授業目標：

Aim：

授業計画：メインテーマ, サブテーマ, 課題

第1回

1st

中略

第15回

15th

課題：

Home Work：

評価方法及び基準(学習目標評価についても記述する。):

Evaluation of Performance:

教科書等：

Required Text and Recommended References:

関連科目：

Related Subject:

備考：

Notes:

関連サイトの URL:

 中略

3号書式(研究指導計画書)の項目

年度・学期:

指導教員氏名:

学生氏名:

学籍番号:

学位申請時の専門領域:

研究題名:

研究の概要:(工学的,社会的意義を明確にすること)

今学期の研究目標:(専攻科目標 A,B,C,D,E との関連を明記すること)

今学期の指導方針:

今学期の研究実施方法:

主たる研究場所:

週間,または月間計画:

日報の記載方法等:(具体的に記述する.学生には研究ノート等の記入と提示を義務付けること.)

今学期の研究評価方法:(専攻科目標 A,B,C,D,E との関連を明記すること。学生の研究ノート等を評価対象にすることを明記すること。)

学生の受講計画(「授業科目履修要綱」に従う。)

専門工学:

基礎能力:

基礎工学:

人文・社会科学:

語学:

備考:

 専攻科実習指導計画(専攻科実習の計画がある学期にのみ記述する。)

実習における学習目標:(目標 A,B,C,D,E との関連を明記すること)

実習指導方法:

実習実施方法:

主たる実習場所:

専攻科実習日誌の記載方法等:(具体的に記述する。)

実習評価方法：(専攻科目標 A,B,C,D,E との関連を明記すること。)

後略

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/report.html>

(分析結果とその根拠理由) 優れている。専攻科課程のシラバスは、社会の要請する水準を考慮しつつ、専攻科企画・運営委員会において定められた教育目標の実践指針に基づき、適切に定められている。また、その内容も、授業の概要、学習・教育目標との関連、授業計画、評価方法等を明示しており、適切な内容となっている(前出資料 5 - 5 - - 7)。シラバスの内容が適切であるかどうかは、担当教員自身だけでなく、専攻科企画・運営委員によっても、定期的に点検されている(資料 5 - 6 - - 3)。また、シラバスは年度開始前に全科目のものをウェブサイトにより開示しており、学生の授業計画の作成及び準備学習に役立っている。また、年度の途中に変更内容が生じた場合には、授業において改訂版を配布することで対処している。

資料 5 - 6 - - 4：専攻科シラバスの点検

6 基準 6：教育改善

6.1 教育点検システム

(1) 教育点検システムとその開示・実施

(中略)

(iii) 活動の実施

主要な教育点検項目は

1. シラバス
2. 授業完了報告書
3. 研究指導計画書
4. 研究指導報告書

であり、授業については

5. 学生による授業評価

が加わる。

点検は企画・運営委員会が行い、専攻科担当教員会議に報告し、次年度よりの教育活動改善の資料とする。

1～4の項目に関する点検方法は以下ようになる。

1. シラバス：シラバスは学生にわかりやすく提示されたか。

授業形態	記入の有無 (1/0)
実施場所	記入の有無 (1/0)
授業の概要	記入の有無+わかる (4/0)
準備学習	記入の有無 (1/0)
授業目標	記入の有無 (1/0)
授業計画(メインテーマ)	記入の有無 (1/0)
授業計画(サブテーマ)	記入の有無 (1/0)

課題	記入の有無 (1/0)
評価方法と基準	記入の有無 (4/0) (X%,Y%とあれば4)
教科書等	記入の有無 (1/0)
関連科目	記入の有無 (1/0)

合計 17 ポイントを持って満点とする。

点検結果は、すべて専攻科担当教員会議 IV(年度末会議)にて開示される。

以下に '03 年度専攻科シラバスの評価結果を示す。

標語 A は 14~17 ポイント、標語 B は 12~13 ポイント、標語 C は 11 ポイント、標語 D は 10 ポイント以下である。

表 6.1 '03 年度シラバス点検評価結果

授業科目名	標語		授業科目名	標語
	実験・演習			
専攻科実験ITMネットワーク I 後	A		英会話 I	C
専攻科実験ITMネットワーク I 前	A		英会話 II	B
専攻科実験ITM化学生物工学 I 後	A		英作文 I	C
専攻科実験ITM化学生物工学 I 前	A		英作文 II	B
専攻科実験ITM機械工学 I 後	D		技術英語 I	A
専攻科実験ITM機械工学 I 前	D		技術英語 II	A
専攻科実験ITM制御情報工学 I 後	D		総合ドイツ語 I	A
専攻科実験ITM制御情報工学 I 前	C		総合ドイツ語 II	A
専攻科実験ITM電気電子工学 I 後	A		歴史文化論	A
専攻科実験ITM電気電子工学 I 前	A		工学共通基礎	
専攻科演習ITM化学生物工学 II 後	A		エネルギーと社会	A

(後略)

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.93)

観点 5 - 7 - : 専攻科で修学するにふさわしい研究指導 (例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。)が行われているか。

(観念に係る状況) 専攻科課程においては、「専攻科研究」を学習・教育目標の達成度を評価するための最重要科目として設定しており、研究を含めた学習全般の助言・指導を行うために、学生ごとに指導教員を指定する「指導教員制」を採用している(資料 5 - 7 - - 1)。これに基づき、前後期ごと、研究指導教員によって詳細な内容の「研究指導計画書」が学生ごとに作成されている(資料 5 - 7 - - 2)。計画書の内容が適切であるかどうかは、担当教員自身だけでなく、専攻科企画・運営委員によっても、定期的に点検されている(資料 5 - 7 - - 3)。また、前後期ごとの研究指導の成果は、研究指導教員が「研究指導報告書」にまとめ(資料 5 - 7 - - 4)、その内容は指導学生本人及び専攻科企画・運営委員によって、定期的に点検されている(資料 5 - 7 - - 3)。

資料 5 - 7 - - 1 : 専攻科の指導教員制

(3) 授業等での学生支援の仕組みとその開示・実施

() 学生支援の仕組み 指導教員制 -

専攻科学生は本専攻科在籍期間を通じて研究指導教員の指導を受けて学習・研究の方法を学び、態度を身につける。従って、研究指導教員の指導範囲は狭義の研究テーマに限らず、授業等についても科目担当教員と連絡を取りつつ、学業上での学生支援に及ぶ。また、学生は、自己の意志に基づき、学期毎に研究指導教員の変更を専攻科担当教員会議に申し出ることが出来る。

学習・教育目標 (5) 「産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続」できる能力」を実現するために、本プログラム後半部で必修科目として実施している専攻科実習に関し、研究指導教員が行う学生支援の内容は「専攻科実習規則」に定めている。研究指導教員は学生が専攻科実習を受講するに当たって、以下の事項を通じて学生を支援する。

1. 受入先の選定及び配属先の決定
2. 受入先における実習指導者の指定
3. 実習テーマ、内容等に関する指導・助言
4. 実習における安全管理（傷害保険への加入を含む。）、就業心得等の事前指導
5. 実習中に発生した事故又は異常事態の処置及び校長への報告

() 学生支援の仕組みの開示方法

研究指導教員は学期始毎に「研究指導計画書」を作成し、学期末毎に「研究指導報告書」を作成し、開示するものとする。

研究指導教員の指導、支援の範囲については以下の図に示す。

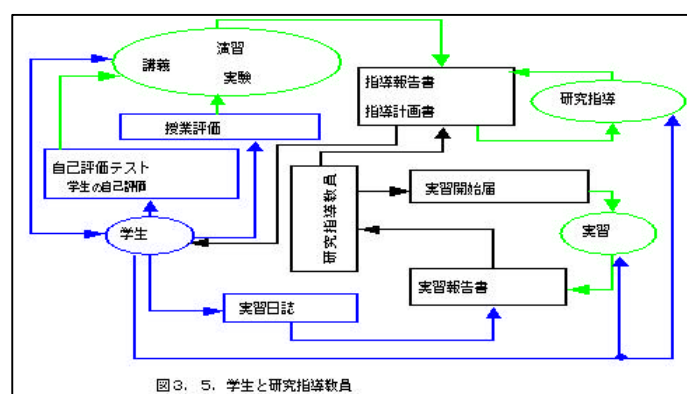


図 3. 5. 学生と研究指導教員

学生支援の仕組みは、関連する諸規則で定めており、全て専攻科公式ウェブサイトで公開している。

(後略)

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.53)

資料 5 - 7 - - 2 : 専攻科研究指導計画書の一例

1/4 ページ

研究指導計画書

研究指導計画書
(Previous version)

[Home](#) [Back](#)

改訂記録		
Version	更新日	備考
3	2005-04-11 18:55:01	

Query Id	850
年度	2005
学期	前期
指導教員名	
学生氏名	
学籍番号	
学習・教育目標	<p>上記学生が、以下の能力、姿勢を身につけるよう支援し、指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> A. 社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力 B. 数学、自然科学、情報技術を活用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢 C. 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力 D. コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力 E. 産業の現場における実務に直し、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢
学位申請時の専門領域	専門工学系(化学・生物工学)
研究題名	茶カテキンのマウスにおける抗酸化作用とその体内動態に関する研究
研究の概要	<p>茶カテキンは、天然抗酸化剤として、近年、その保健作用が注目されている。しかし、実際の動物体内での抗酸化作用の発現については、その作用メカニズムを究めて不明な点が多い。本研究は、機能性食品として高く評価されている茶カテキンの効果を、科学的に解明することを目的とする。実際には、茶カテキンを投与したマウスでの、血漿中の抗酸化能の変動を測定するとともに、その際のカテキン類の吸収・代謝・排泄の様子を測定する。</p> <p>1.達成目標/技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。(A-1) (a)PL法の意義に関するレポート及び研究の成果が社会に及ぼす「正」の効果と「負」の効果に関する専攻科研究・学習報告会およびその予稿での報告をもって、達成度合格である。 (b)「現代物理学」「生物化学工学」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>2.達成目標/最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。(A-2) (a)雷印乳業食中毒事件および三菱自動車リコール問題に関するレポートをもって、達成度合格である。 (b)「現代物理学」「生物化学工学」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>3.達成目標/二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。(A-3) (a)異なる観点から行われている同様の研究について比較したレポートをもって、達成度合格である。 (b)「現代物理学」「生物化学工学」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>4.達成目標/これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の課題について自然との調和を実現することができる。(A-4) (a)本研究の成果が自然の生態系に及ぼす影響についてのレポートをもって、達成度合格である。 (b)「現代物理学」「生物化学工学」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>5.達成目標/代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。(B-1) (a)化学データ解析の単位の取得及び専攻科研究におけるカテキンの抗酸化力や動物体内動態に関する生物統計学の手法を用いた専攻科研究・学習報告会およびその予稿での報告をもって、達成度合格である。 (b)「現代物理学」「生物化学工学」「反応速度論」「応用数学」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>6.達成目標/ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。(B-2) (a)専攻科研究・学習報告会およびその予稿の報告をもって、達成度合格である。(b)インターネットを用いて、本研究に関する情報を管理させる。 (c)DOS/V/パソコンを素人に組み立ててみることで、情報通信装置の構造と機能について、より理解させる。 (d)「現代物理学」「反応速度論」「生物化学工学」「応用数学」「環境安全工学」を履修させる。</p>

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu...> 2005/04/26

研究指導計画書

2/4 ページ

今学期の研究目標	<p>7. 達成目標／実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。(B-3)</p> <p>(a) カチンシンの体内動態に関する法則性に関する専攻科研究・学習報告会およびその予稿での報告をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「現代物理学」「反応速度論」「生物化学工学」「応用数学」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>8. 達成目標／自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を有援として、シミュレーションすることができる。(B-4)</p> <p>(a) 細菌増殖と生活習慣病の関係に関する専攻科研究・学習報告会およびその予稿での報告をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「現代物理学」「反応速度論」「生物化学工学」「応用数学」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>9. 達成目標／工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決することができる。(C-1)</p> <p>(a) 研究についての専攻科研究・学習報告会およびその予稿での報告及び2005年1月の高専シンポジウムでの研究発表をもって、達成度合格である。</p> <p>(d) 「現代物理学」「反応速度論」「生物化学工学」「応用数学」「環境安全工学」「専攻科演習ITM化学生物工学II」を履修させる。</p> <p>10. 達成目標／自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・実行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・提議することができる。(C-2)</p> <p>(a) 研究の技術上の問題点に関する専攻科研究・学習報告会およびその予稿での報告をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「現代物理学」「反応速度論」「生物化学工学」「応用数学」「環境安全工学」「専攻科演習ITM化学生物工学II」を履修させる。</p> <p>11. 達成目標／自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。(C-3)</p> <p>(a) 研究における安全性、経済性、環境負荷に関する専攻科研究・学習報告会およびその予稿での報告をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「現代物理学」「反応速度論」「生物化学工学」「応用数学」「環境安全工学」「専攻科演習ITM化学生物工学II」を履修させる。</p> <p>12. 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力、種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組む、実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。(C-4)</p> <p>(a) 研究の実用化のモデルに関する専攻科研究・学習報告会およびその予稿での報告をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「現代物理学」「反応速度論」「生物化学工学」「応用数学」「環境安全工学」「専攻科演習ITM化学生物工学II」を履修させる。</p> <p>13. 達成目標／日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。(D-1)</p> <p>(a) 2005年1月の高専シンポジウムおよび研究発表会での研究発表をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「反応速度論」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>14. 達成目標／自己の研究結果の概要を英語で記述することができる。(D-2)</p> <p>(a) 発表論文の研究概要を英語で記述させる練習をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「反応速度論」「環境安全工学」を履修させる。</p> <p>15. 達成目標／指定された期間内に、課題を提出できる。(E-1)</p> <p>(a) 研究日誌の提出をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「生物化学工学」「環境安全工学」「専攻科演習ITM化学生物工学II」を履修させる。</p> <p>16. 達成目標／工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。(E-2)</p> <p>(a) 専攻科実験ITM化学生物工学の単位の取得及び本科5年生の研究指導をもって、達成度合格である。</p> <p>(c) 「生物化学工学」「環境安全工学」「専攻科演習ITM化学生物工学II」を履修させる。</p> <p>17. 達成目標／自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。(E-3)</p> <p>(a) 論文の要約及び自分の発表論文の雑誌での掲載をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「生物化学工学」「環境安全工学」「専攻科演習ITM化学生物工学II」を履修させる。</p> <p>18. 達成目標／自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。(E-4)</p> <p>(a) 自主的な報告会の実施をもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 「生物化学工学」「環境安全工学」「専攻科演習ITM化学生物工学II」を履修させる。</p>
今学期の指導方針	<p>指示された実験技術を確実に身に付けるだけでなく、与えられた研究テーマの内容を全体的に把握する能力を身に付けさせる。提示された問題について、その解決のための計画を学生自身が立てることを、繰り返し試みさせる。また、その計画遂行に必要な知識および技術情報を、学生自身が収集でき</p>

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu...> 2005/04/26

研究指導計画書

3/4 ページ

		るよう)に指導する。	
今学期の研究実施方法			
主たる研究場所	生物工芸実験室II		
週間または月間計画	専攻科研究の授業時間は、月曜日3,4時限、火曜日4時限、水曜日3,4時限に固定し、研究を実施する。ただし、この時間帯に実施できなかった場合、および開講時間数が不足した場合には、代替時間を別に設け全部で最低135単位時間(102実時間)を実施する。実施の都合、出欠簿を記録する。また、授業の空き時間を利用しての、これ以外の時間帯での研究の実施は、それを奨励する。		
日報の記載方法等	研究を行った日には、生物工芸実験室IIに入室した時刻を、別巻式の日報に必ず記載させる。研究を終了し退室する際には、その時間と簡単な研究実施内容を日報に記載させる。日報の記載は、研究の実施時間と実施内容を保証するものとして利用する。		
今学期の学習・教育目標達成度の評価方法	I. 以下の「課題指針」について、技術者共通の課題として学生と共に議論する。「目標」A)の達成度は「工学倫理」及び「エネルギーと社会」、「地球環境学」、「環境安全工学」等の単位取得を持って合格とする。 II. 「目標」D)の達成度は 1. 2年次、研究報告論文の英文概要の検定で評価する。 2. 2年次、研究報告会、及び1年次研究・学習報告会の成績で評価する。 III. 以下の「課題指針」について、技術者共通の、あるいは研究テーマに関連した課題を提起し、学生と共に議論し、「目標達成レポート」として研究室内に掲示する。		
	B-1 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。 B-2 ワードプロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を整理し、管理することができる。 B-3 実験を通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を検討することができる。 B-4 自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。 B-5 社会のニーズを工学技術に反映した実例を複数挙げ、必要なデザイン能力について説明することができる。 O-1 工学技術における企画、立案、実施、管理のプロセスについて、自己の専門分野の知識を適用し、解析的、実験的な考察ができる。 O-2 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、その解決策を考案することができる。 O-3 自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。 E-1 指定された期限内に、課題を提出できる。 E-2 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。 E-3 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。 E-4 自主的なゼミ・研究会を結成して、学習・研究活動を行うことができる。		
今学期の研究評価方法	5つの学習教育目標のそれぞれについて、研究目標の達成度をA~Dで評価したものを70%、学生の自己評価を20%、授業評価を10%(履修放棄がない場合には研究目標の評価で代える)として点数化し、その平均を総合評価とする。		
学生の科目受講履修			
年度・学期	科目名	合否	分類
			語学 工学共通 基礎/専門工学 実験・演習
2004・前期	地理情報学	合	
2004・前期	化学情報学	合	
2004・前期	専攻科実験IⅡM化学生物工学I前	合	
2004・前期	専攻科演習IⅡM化学生物工学I前	合	
2004・前期	技術英語I	合	○
2004・前期	英作文I	合	○
2004・前期	総合ドイツ語I	合	○
2004・前期	マルチメディア・ネットワーク	合	○
2004・前期	化学データ解析	合	○
2004・前期	応用数学Ⅱ	合	○
2004・前期	エネルギーと社会	合	○
2004・後期	生物生産工学	合	○

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu...> 2005/04/26

研究指導計画書

4/4 ページ

2004-後期	材料物産化学	合			○	
2004-後期	専攻科実習ITM化学生物工学(後)	合				○
2004-後期	専攻科実習ITM化学生物工学(後)	合				○
2004-後期	技術英語II	合	○			
2004-後期	結晶化学	合		○		
2004-後期	工学倫理	合		○		
2004-後期	地球環境学	合		○		

学生の今学期受講計画

基礎工学	環境安全工学 生物化学工学 量子力学 応用数学I 反応速度論
語学・人文科学	

edit refresh

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu...> 2005/04/26

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/SubjectBrowse/StudyPlan>

資料 5 - 7 - - 3 : 専攻科研究指導計画書・報告書の点検

6 基準 6 : 教育改善

6.1 教育点検システム

(1) 教育点検システムとその開示・実施

(中略)

(iii) 活動の実施

(中略)

3. 研究指導計画書: 研究指導は適切に計画され、学生に通知されたか。

学位申請時の専門領域 記入の有無 (1/0)

研究題名 記入の有無 (1/0)

研究の概要 記入の有無 (1/0)

今学期の研究目標 記入の有無 (1/0)

今学期の指導方針 記入の有無 (4/0)

今学期の研究実施方法 記入の有無 (4/0)

主たる研究場所 記入の有無 (1/0)

週間または月間計画 記入の有無 (4/0)

日報の記載方法等 記入の有無 (1/0)

今学期の研究評価方法 記入の有無 (4/0)

[学生の受講計画]

専門工学 記入の有無 (1/0)

基礎能力 記入の有無 (1/0)

基礎工学 記入の有無 (1/0)

社会科学等 記入の有無 (1/0)

合計 22 点(学生の受講計画記載を除く)を持って満点とする。

点検結果はすべて、専攻科担当教員会議 IV(年度末会議)にて開示される。

以下に '03 年度専攻科研究指導計画書の評価結果を示す。

標語 A は 18~22 ポイント, 標語 B は 16~17 ポイント, 標語 C は 14~15 ポイント, 標語 D は 13 ポイント以下である。

表 6.3 '03 年度研究指導計画書点検結果

学籍番号	前期	後期	学籍番号	前期	後期
A03101	A	A	LX04	A	B
A03102	A	A	MX01	A	A
A03103	D	C	MX02	A	A
A03104	A	B	MX03	A	A
A03105	A	B	MX04	A	A
A03106	A	A	MX05	A	A
A03107	A	A	MX06	A	A
A03108	A	A	MY01	A	C
A03109	C	C	MY02	C	D
A03110	D	D	MY04	D	C
A03111	C	A	MY05	D	D

(中略)

4. 研究指導報告書：研究指導は「計画書」通り実施されたか。

今学期の研究の実施時間 記入の有無 (1/0)

実施時間算出の根拠 記入の有無 (1/0)

今学期の研究の達成状況 記入の有無 (1/0)

今学期の研究評価 記入の有無 (4/0)

学生による今学期の自己評価 記入の有無 (1/0)

学生の教育目標達成度 記入の有無 (1/0)

[総合評価]

評価 記入の有無 (1/0)

総評 記入の有無 (4/0)

合計 14 点を持って満点とする。

点検結果はすべて、専攻科担当教員会議 IV(年度末会議)にて開示される。

以下に '03 年度専攻科研究指導報告書の評価結果を示す。

標語 A は 12～14 ポイント，標語 B は 12～13 ポイント，標語 C は 9～11 ポイント，

標語 D は 8 ポイント以下である。

表 6. 4 '03 年度研究指導報告書の点検結果

学籍番号	前期	後期	学籍番号	前期	後期
A03101	A	A	LX04	B	A
A03102	A	A	MX01	A	A
A03103	A	A	MX02	A	A
A03104	D	A	MX03	A	A
A03105	A	A	MX04	A	A
A03106	B	A	MX05	A	A
A03107	A	A	MX06	A	A
A03108	A	A	MY01	A	A
A03109	B	D	MY02	B	A
A03110	D	D	MY04	C	A
A03111	B	A	MY05	B	A
A03112	A	A	MY06	C	A
A03113	D	A	MY07	D	A
A03114	D	A	MY08	C	A
A03115	D	D	MY09	A	A

(中略)

研究指導教員は、研究指導報告書に指導した学生による承認署名を得て、専攻科長に

提出し、もって研究指導が「計画書」通り行われたことを示すものとする。

(後略)

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書 p.93)

資料 5 - 7 - - 4 : 専攻科研究指導報告書の一例

研究指導報告書		1/6 ページ									
研究指導報告書											
[Previous version]											
Home Back		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">改訂記録</th> </tr> <tr> <th>Version</th> <th>更新日</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>2005-02-22 12:17:05</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	改訂記録			Version	更新日	備考	3	2005-02-22 12:17:05	
改訂記録											
Version	更新日	備考									
3	2005-02-22 12:17:05										
Id	976										
年度	2004										
学期	後期										
指導教官名											
学生氏名											
学籍番号											
学習・教育目標	<p>上記学生が、以下の能力、姿勢を身につけるよう支援し、指導する。</p> <p>A. 社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力 B. 数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢 C. 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力 D. コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力 E. 産業の現場における実務に適し、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢</p>										
学位申請時の専門領域	専門工学系(化学・生物工学)										
研究題名	カテキシンおよびブナシメジエタノール抽出物に関する研究										
研究の概要	<p>カテキシンおよびブナシメジエタノール抽出物について、マウス体内の抗酸化作用を高める作用およびそのメカニズムについて検討する。</p> <p>1. 達成目標／技術者と社会の関係を複数の例を挙げて説明できる。(A-1) (a)PL法の意義に関するレポートをもって、達成度合格である。 (b)本研究の成果が社会に及ぼす「正」の効果と、「負」の効果をも具体的に列挙させる。 (c)「技術英語II」「工学倫理」「地球環境学」を履修させる。</p> <p>2. 達成目標／最近の工学倫理上の事例を複数挙げる事ができる。(A-2) (a)雪印乳業食中毒事件および三菱自動車リコール騒ぎに関するレポートをもって、達成度合格である。 (b)「技術英語II」「工学倫理」「地球環境学」を履修させる。</p> <p>3. 達成目標／二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。(A-3) (a)異なる観点から行われている同様の研究について比較したレポートをもって、達成度合格である。 (b)「技術英語II」「工学倫理」「地球環境学」を履修させる。</p> <p>4. 達成目標／これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を实践することができる。(A-4) (a)本研究の成果が自然の生態系に及ぼす影響についてのレポートをもって、達成度合格である。 (b)「技術英語II」「工学倫理」「地球環境学」を履修させる。</p> <p>5. 達成目標／代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。(B-1) (a)化学データ解析の単位を取得をもって、達成度合格である。 (b)専攻科研究において、カテキシンの抗酸化力や動物体内動態に関し生物統計学的手法を用いて報告書を作成する。 (c)「材料物理化学」を履修させる。</p> <p>6. 達成目標／ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。(B-2) (a)研究報告書を同時提出させる。 (b)インターネットを用いて、本研究に関する報告を整理させる。 (c)DOS/Vパソコンを実際に組み立ててみることで、情報通信装置の構造と機能について、より理解させる。 「材料物理化学」を履修させる。</p> <p>7. 達成目標／実験を通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を検討することができる。(B-3) (a)カテキシンの体内動態に関する法則性を、実験データから検討して報告させる。 (b)「材料物理化学」を履修させる。</p> <p>8. 達成目標／自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。</p>										
http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu... 2005/04/26											

研究指導報告書

2/6 ページ

今学期の研究目標	<p>きる。(B-4)</p> <p>(a) 食品添加物と生活習慣病の関係に関するレポートを書かせる。</p> <p>(b) 「材料物理化学」を履修させる。</p> <p>9. 達成目標 / 社会のニーズを工学技術に反映した事例を複数挙げて示し、必要なデザイン能力について説明することができる。(B-5)</p> <p>(a) 本研究の実用化のモデルについて記述させたレポートを書かせる。</p> <p>(b) 「材料物理化学」を履修させる。</p> <p>10. 達成目標 / 工学技術における企画、立案、実施、管理のプロセスについて、自己の専門分野の知識を適用し、斬新的、実験的な考察ができる。(C-1)</p> <p>(a) 専攻科実験ITM化学生物工学の単位を取得させる。</p> <p>(b) 本研究について、随時報告書を提出させる。</p> <p>(c) 本研究の内容をまとめ、2005年1月に予定されている高専シンポジウムおよび研究発表会で発表させる。</p> <p>(d) 「結晶化学」「生物生産工学」「専攻科実験ITM化学生物工学(後)」「専攻科演習ITM化学生物工学(後)」を履修させる。</p> <p>11. 達成目標 / 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、その解決策を考察することができる。(C-2)</p> <p>(a) 本研究の技術上の問題点に関するレポートを書かせる。</p> <p>(b) 「結晶化学」「生物生産工学」「専攻科実験ITM化学生物工学(後)」「専攻科演習ITM化学生物工学(後)」を履修させる。</p> <p>12. 達成目標 / 自己が取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。(C-3)</p> <p>(a) 本研究における安全性、経済性、環境負荷に関するレポートを書かせる。</p> <p>(b) 「結晶化学」「生物生産工学」「専攻科実験ITM化学生物工学(後)」「専攻科演習ITM化学生物工学(後)」を履修させる。</p> <p>13. 達成目標 / 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。(D-1)</p> <p>(a) 本研究の内容をまとめ、2005年1月に予定されている高専シンポジウムおよび研究発表会で発表させる。</p> <p>(b) 「技術英語II」を履修させる。</p> <p>14. 達成目標 / 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。(D-2)</p> <p>(a) 本研究の概要を英語で記述させる練習を行わせる。</p> <p>(b) 「技術英語II」を履修させる。</p> <p>15. 達成目標 / 指定された範囲内に、課題を提出できる。(E-1)</p> <p>(a) 研究目標を提出させる。</p> <p>(b) 「技術英語II」を履修させる。</p> <p>16. 達成目標 / 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。(E-2)</p> <p>(a) 専攻科実験ITM化学生物工学の単位を取得させる。</p> <p>(b) 随時提出の研究報告書に、本科5年生の研究指導について報告させる。</p> <p>(c) 「技術英語II」を履修させる。</p> <p>17. 達成目標 / 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。(E-3)</p> <p>(a) 論文の要約をさせる。</p> <p>(b) 「技術英語II」を履修させる。</p> <p>18. 達成目標 / 自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。(E-4)</p> <p>(a) 自主的な論文紹介の会を開かせる。</p> <p>(b) 「技術英語II」を履修させる。</p>
今学期の研究の実施時間	252
今学期の研究の実施時間算出の概要	授業開講期間中は、主に月曜日3.4時間および火曜日4時間(に)研究を実施した。この時間数に実施できなかった場合は、代替時間を別に設けた。また、授業時間外での研究は、これを奨励した。これらの研究時間の合計として、最終90単位時間≒0.59時間の実施を確認した。研究の実施状況は、学生の目標をもとに確認し、科目実施時間数を算出した。
	<p>1. 達成目標 / 技術者と社会の関連を複数の例を挙げて説明できる。(A-1)</p> <p>(a) PL法の意義に関するレポートをもって、達成度合格である。</p> <p>(b) 本研究の成果が社会に及ぼす「正」の効果と、「負」の効果も専攻科研究・学習報告会およびその予稿で報告することができた。</p> <p>(c) 「技術英語II」「工学倫理」「地球環境学」の単位を取得した。</p>

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu...> 2005/04/26

今学期の研究の達成状況

- 2.達成目標／最近の工学倫理上の事例を複数挙げるができる。(A-2)
 (a)「重印乳業食中毒事件および三菱自動車リコール騒動に関するレポート」をもって、達成度合格である。
 (b)「技術英語II」「工学倫理」「地球環境学」の単位を取得した。
- 3.達成目標／二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。(A-3)
 (a)異なる観点から行われている同様の研究について比較したレポートをもって、達成度合格である。
 (b)「技術英語II」「工学倫理」「地球環境学」の単位を取得した。
- 4.達成目標／これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を案議することができる。(A-4)
 (a)本研究の成果が自然の生態系に及ぼす影響についてのレポートをもって、達成度合格である。
 (b)「技術英語II」「工学倫理」「地球環境学」の単位を取得した。
- 5.達成目標／代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用を示すことができる。(B-1)
 (a)化学データ解析の単位の取得をもって、達成度合格である。
 (b)専攻科研究・学習報告会およびその予稿を報告することができたため、達成度合格である。
 (c)DOS/Vパソコンを実際に組み立ててみることで、情報通信装置の構成と接続について、より理解させることは、今回は行わなかった。
 (d)「材料物理化学」の単位を取得した。
- 6.達成目標／ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを基用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。(B-2)
 (a) 専攻科研究・学習報告会およびその予稿を報告することができたため、達成度合格である。
 (b)インターネットを用いて、本研究に関する報告を整理させることは、今回は行わなかった。
 (c)DOS/Vパソコンを実際に組み立ててみることで、情報通信装置の構成と接続について、より理解させることは、今回は行わなかった。
 (d)「材料物理化学」の単位を取得した。
- 7.達成目標／実験を通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を検討することができる。(B-3)
 (a)カテキンの体内動態に関する法則性を、実験データから検討して専攻科研究・学習報告会およびその予稿を報告することができたため、達成度合格である。
 (b)「材料物理化学」の単位を取得した。
- 8.達成目標／自然現象をモデルとし、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。(B-4)
 (a)消費過剰と生活習慣病の関係に関して専攻科研究・学習報告会およびその予稿で報告することができたため、達成度合格である。
 (b)「材料物理化学」の単位を取得した。
- 9.達成目標／社会のニーズを工学技術に反映した事例を複数挙げて示し、必要なデザイン能力について説明することができる。(B-5)
 (a)本研究の実用化のモデルに関して専攻科研究・学習報告会およびその予稿で報告することができたため、達成度合格である。
 (b)「材料物理化学」の単位を取得した。
- 10.達成目標／工学技術における企画、立案、実施、管理のプロセスについて、自己の専門分野の知識を適用し、分析的、実証的な考察ができる。(C-1)
 (a)「専攻科実験ITM化学生物工学」の単位を取得した。
 (b)本研究について、専攻科研究・学習報告会およびその予稿で報告することができたため、達成度合格である。
 (c)本研究の内容をまとめ、2005年1月の高専シンポジウムおよび研究発表会で発表することができた。
 (d)「結晶化学」「専攻科演習ITM化学生物工学I後」「専攻科実験ITM化学生物工学I後」「生物生産工学」の単位を取得した。
- 11.達成目標／自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、その解決策を考案することができる。(C-2)
 (a)本研究の技術上の問題点に関して専攻科研究・学習報告会およびその予稿で報告することができたため、達成度合格である。
 (b)「結晶化学」「専攻科演習ITM化学生物工学I後」「専攻科実験ITM化学生物工学I後」「生物生産工学」の単位を取得した。
- 12.達成目標／自己が取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。(C-3)
 (a)本研究における安全性、経済性、環境負荷に関して専攻科研究・学習報告会およびその予稿で報告することができたため、達成度合格である。
 (b)「結晶化学」「専攻科演習ITM化学生物工学I後」「専攻科実験ITM化学生物工学I後」「生物生産工学」の単位を取得した。

研究指導報告書

4/6 ページ

	<p>13.達成目標／日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。(D-1) (a)本研究の内容をまとめ、2005年1月の高専シンポジウムおよび研究発表会で発表することができたので、達成度合格である。 (b)「技術英語II」の単位を取得した。</p> <p>14.達成目標／自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。(D-2) (a)本研究の概要を英語で記述させる練習を、発表論文を通じて行うことができたので、達成度合格である。 (b)「技術英語II」の単位を取得した。</p> <p>15.達成目標／指定された範囲内に、課題を提出できる。(E-1) (a)研究日誌を提出することができたので、達成度合格である。 (b)「技術英語II」の単位を取得した。</p> <p>16.達成目標／工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。(E-2) (a)専攻科実験ITM化学生物工学の単位を取得したので、達成度合格である。 (b)本科5年生の研究指導を行うことができた。 (c)「技術英語II」の単位を取得した。</p> <p>17.達成目標／自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。(E-3) (a)論文の要約を行った。また、自分の発表論文を雑誌で確認したので、達成度合格である。 (b)「技術英語II」の単位を取得した。</p> <p>18.達成目標／自主的なゼミ-研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。(E-4) (a)自主的な論文紹介の会を開くことは出来なかったが、自主的な報告会を開いたので達成度合格とする。 (b)「技術英語II」の単位を取得した。</p>
今学期の研究詳細	<p>A.社会的責任の自覚と、地球-地球環境についての深い洞察力と多面的考察力評価-A コメント:技術者と社会の関連、工学倫理、二つ以上の異なる価値観、自然との調和等について、自分の研究を通して十分にその能力を身に付けることができた。</p> <p>B.数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢評価-A コメント:化学現象の数学的解析、情報処理技術による学習・研究上の資料の処理、自然現象の法則性の検討、自然現象のモデル化、社会のニーズを工学技術に反映するためのデザイン能力等について、自分の研究を通して十分にその能力を身に付けることができた。</p> <p>C.工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力評価-A コメント:工学技術における企画、立案、実施、管理のプロセス、解析的、実践的な考察、研究課題の問題点の認識と解決策の考察、研究課題の機能的評価と社会的評価等について、自分の研究を通して十分にその能力を身に付けることができた。</p> <p>D.コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力評価-A コメント:学習・研究活動の経過の報告と質問への応答、研究成果の概要の英語での記述等について、自分の研究を通して十分にその能力を身に付けることができた。</p> <p>E.産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢評価-A コメント:指定された範囲内での課題の提出、工学課題へのチームでの取り組み、学会が発行する雑誌の読読、自主的なゼミ-研究会の組織等について、自分の研究を通して十分にその能力を身に付けることができた。</p>
学生による今学期の自己評価	<p>2005年1月に学生自身による自己評価アンケートを実施した結果を、以下に示した。ただし、アンケートにおける5段階評価については、5-A-A、3-B、2-C、1-Dとした。学生自身の総合評価はAであった。</p> <p>1. 社会的責任の自覚と、地球-地球環境についての深い洞察力と多面的考察力-工学倫理の自覚と多面的考察力の養成- 評価:A</p> <p>2. 数学、自然科学、情報工学を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢-社会要請に応えられる工学基礎学力の養成- 評価:A</p> <p>3. 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力-工学専門知識の創造的活用能力の養成- 評価:A</p> <p>4. コミュニケーション能力を備え国際社会に発信し、活躍できる能力-国際的な受信・発信能力の養成- 評価:A</p>

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu...> 2005/04/26

研究指導報告書

5/6 ページ

5. 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で業務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢—産業現場における実務への対応能力と、自主的に自己研鑽を継続できる能力の養成—
評価：A

学生の科目受講履修

年度・学期	科目名	合否	分類			
			語学	工学共通	基礎/専門工学	実験・演習
2004・前期	地場情報学	合			○	
2004・前期	化学情報学	合			○	
2004・前期	専攻科実験ITM化学生物学I前	合				○
2004・前期	専攻科演習ITM化学生物学I前	合				○
2004・前期	技術英語I	合	○			
2004・前期	英作文I	合	○			
2004・前期	総合ドイツ語I	合	○			
2004・前期	マルチメディア・ネットワーク	合		○		
2004・前期	化学データ解析	合		○		
2004・前期	応用数学II	合		○		
2004・前期	エネルギーと社会	合		○		
2004・後期	生物生産工学	合			○	
2004・後期	材料物性化学	合			○	
2004・後期	専攻科実験ITM化学生物学I後	合				○
2004・後期	専攻科演習ITM化学生物学I後	合				○
2004・後期	技術英語II	合	○			
2004・後期	結晶化学	合		○		
2004・後期	工学倫理	合		○		
2004・後期	地球環境学	合		○		

学生の教育目標達成度	達成状況	評価
A-1 技術者と社会の関連を複数の例を挙げて説明できる。	[達成]	[達成]
A-2 最近の工学倫理上の事例を複数挙げるができる。	[達成]	[達成]
A-3 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。	[達成]	[達成]
A-4 これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の課題について自然との調和を案出することができる。	[達成]	[達成]
B-1 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。	[達成]	[達成]
B-2 ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を編纂し、管理することができる。	[達成]	[達成]
B-3 実験を通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を検討することができる。	[達成]	[達成]
B-4 自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。	[達成]	[達成]
B-5 社会のニーズを工学技術に反映した事例を複数挙げて示し、必要なデザイン能力について説明することができる。	[達成]	[達成]
C-1 工学技術における企画、立案、実施、管理のプロセスについて、自己の専門分野の知識を適用し、分析的、実証的な考察ができる。	[達成]	[達成]
C-2 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、その解決策を考案することができる。	[達成]	[達成]
C-3 自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。	[達成]	[達成]
D-1 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。	[達成]	[達成]
D-2 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。(但し、総合ドイツ語IIはこの項目を除く。)	[達成]	[達成]
E-1 指定された期限内に、課題を提出できる。	[達成]	[達成]
E-2 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。	[達成]	[達成]

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu...> 2005/04/26

研究指導報告書 6/6 ページ

	E-2 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。	[達成]
	E-4 自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。	[達成]

総合評価	
評価	A
総評	研究だけでなく、実験等の他の科目に対しても積極的に取り組み、自分で計画しながら与えられた課題の解決を目指す能力が身に付いた。

上記報告を承認します

学生署名 _____ 印

http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/StudyPlan/Stu... 2005/04/26

(出典：本校専攻科ウェブサイト)

<http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/SubjectBrowse/StudyReport>

(分析結果とその根拠理由) 優れている。指導教員制を採用することで、学生ごとに教育の目的に即した学習・教育目標達成のための研究指導計画及びそれに関連した学習計画の策定が行われ、それが実施されたことを複数の教員及び学生が報告書で確認する体制ができている。

観点 5 - 8 - : 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況) 成績評価や単位認定、修了認定等に関する規定は、学則(資料 5 - 8 - - 1)、
「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」(資料 5 - 8 - - 2)、「専攻科授業科目履修規定」(資料 5 - 8 - - 3)及び「専攻科規則補遺」(資料 5 - 8 - - 4)に制定されており、
学生便覧及びウェブサイトに掲載することにより学生に周知している。成績評価は、授業シラバス、
専攻科研究指導計画書、専攻科実習開始届に記載されている方法に従って行われ、学生の自己評価
も含めて行うことになっている。学習・教育目標を通しての教育の目的の達成度については、「専
攻科研究指導報告書」において確認される。これらの資料に基づき、単位認定及び修了認定は、専
攻科担当教員会議において全担当教員参加の下で審議・決定されている(資料 5 - 8 - - 5)。

資料 5 - 8 - - 1 : 学則中の専攻科修了認定規定

第9章 専攻科

第52条 校長は、以下の要件をすべて満たした者について、修了を認定し、所定の修了証書を授与する。

- (1) 専攻科に2年以上在学した者
- (2) 総合システム工学要件を満たす所定の授業科目を履修し、124 単位以上(そのうち、専攻科においては 62 単位以上、高等専門学校の第4学年及び第5学年、短期大学等(以下「高専等」という。)においては 62 単位以上とする。)習得した者
- (3) 教官の教授又は指導の下に行った学習時間を 1,800 時間以上(専攻科及び高専等において、それぞれ、900 時間以上とする。)受けた者。この場合において、人文科学、社会科学等(語学教育を含む。)の学習が 250 時間以上(専攻科及び高専等において、それぞれ、125 時間以上とする。)、数学、自然科学及び情報技術の学習が 250 時間以上(専攻科及び高専等において、それぞれ、125 時間以上とする。)並びに専門分野の学習が 900 時間以上(専攻科及び高専等において、それぞれ、450 時間以上とする。)含むものとする。
- (4) 専攻科研究論文の審査及び最終試験に合格した者

2 前項に規定する単位の修得については、別に定める。

(出典：平成 17 年度学生便覧より抜粋 p.12)

資料 5 - 8 - - 2 : 専攻科の授業科目の履修等に関する規則中の単位認定・進級規定

(単位)

第5条 1 単位の授業科目は、教室内及び教室外を合わせて 45 単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。

2 1 単位時間は 45 分を標準とする。

3 授業科目の単位計算は、次の各号の基準によるものとする。

- (1) 講義については、15 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 演習については、30 単位時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 実験, 実習及び実技については, 45 単位時間の授業をもって 1 単位とする。

(4) 専攻科研究については, 45 単位時間の研究指導をもって 1 単位とする。

4 専攻科実習については, 前項第 3 号に定めるもののほか, 沼津高等専門学校専攻科実習規則によるものとする。

(単位の授与)

第 6 条 授業科目を履修し, 授業日数の 5 分の 4 以上出席し, 別に定められた評価基準を達成した者には, 所定の単位を授与する。但し特別な理由がある場合, 出席については第 11 条に定める公欠を認めることがある。

(進級要件)

第 7 条 1 年次から 2 年次への進級要件は, 第 1 年次の必修科目を含む 24 単位以上の単位修得とするものとし, この要件を満たさない場合には, 留年とする。この場合, 当該年度は, 在学年数に通算する。

(成績の評価)

第 12 条 成績は, その学期の試験の成績及び平素の成績並びに出席状況等を総合して決定するものとする。

2 評価方法は研究指導計画書, 及びシラバスに定められた基準によるものとする。

3 授業科目の試験の成績は, A, B, C 及び D の 4 種の評語をもって表し, A, B 及び C を合格とする。

4 評語と評価点の相互換算は以下のとおりとする。ただし, 専攻科担当教員会議が必要と認める場合は, 合格及び不合格の評語を用いることができるものとする。

(1) A (優) 80 点以上

B (良) 70 点以上 80 点未満

C (可) 60 点以上 70 点未満

D (不可) 60 点未満

(2) 成績を評語で表し, 4 点満点の評価点で表す場合は, 次の基準によるものとする。

A 4 点

B 2 点

C 1 点

D 0 点

5 前項の規定にかかわらず, 実習にかかる成績評価は沼津工業高等専門学校専攻科実習規則によるものとする。

(出典 : 平成 17 年度学生便覧より抜粋 p.43)

資料 5 - 8 - - 3 : 専攻科授業科目履修規定中の科目履修・単位認定規定

(授業科目の区分等)

第 2 条 授業科目は, 学年の別なく配当するものとする。

第 3 条 必修科目は, 専攻科研究, 専攻科実験, 専攻科演習, 専攻科実習及び工学倫理とする。

第 4 条 制限選択科目は, 次の区分により行うものとする。

- (1) 専門工学区分：「新しい学士への途」に従って、学位分野区分による選択を行うこと。
- (2) 基礎能力区分：応用数学，自然科学，情報技術等の科目(総合システム工学カリキュラム体系(以下「体系」という。))の第1行の第II列～第IV列)中6科目以上を履修すること。
- (3) 基礎工学区分：設計・システム系，情報・論理系，材料・パイオ系，力学・数理・解析系，及び社会・技術関係の5科目群系の5科目群系中6科目以上を履修すること。ただし，各群系から，少なくとも1科目以上を履修すること。
- (4) 社会科学等区分(人文科学，社会科学，語学)：人文科学，社会科学区分の教科目から，工学倫理を含めて6単位以上，語学区分から4単位以上を履修すること。この場合において，人文科学，社会科学区分教科目には工学倫理，地球環境学，エネルギーと社会，地理情報学および歴史文化論とし，語学区分には技術英語Ⅰ,Ⅱ，英作文Ⅰ,Ⅱ，英会話Ⅰ,Ⅱ，総合ドイツ語Ⅰ,Ⅱ(各1単位)とする。

第5条 必修科目，及び制限選択科目以外の授業科目を選択科目とする。

(単位認定の時期)

第7条 授業の合格者については，成績表が専攻科担当教員会議に提出された学期で単位認定を行うものとする。ただし，特別な理由がある場合に，当該学期以後に単位認定を行うことができる。

(出典：平成17年度学生便覧より抜粋 p.47)

資料5 - 8 - - 4：専攻科規則補遺中の科目履修・単位認定規定

- ・「授業科目の履修等に関する規則」の第12条補遺追加
- ・補遺1.多岐にわたる項目の評価基準を統合的に決定する場合には以下の方法に従うものとする。
 1. 各項目についてA,B,C,Dをつけて，4点満点のポイント(pt.)にする。
 2. シラバス等に公開された方法(重み)をつけて総合評価pt.を算出する。
 3. 上記pt.を以下のように標語化する。
 - I. 3pt.以上4pt.以下=A
 - II. 2pt.以上3pt.未満=B
 - III. 1pt.以上2pt.未満=C
 - IV. 1pt.未満=D
- ・補遺2.専攻科研究に関する評価は以下の方法に従うものとする。
 1. 最終試験に合格しない者の専攻科研究Ⅳの評価は"D"とする。
 2. 最終試験に合格した者の専攻科研究Ⅳの論文・発表に関する評価は補遺1.に従う。
 3. 学習・教育目標に関する評価は，指導教員がこれを行い，顕著な成果について0.5pt.を越えない範囲で1.によって得た評価に加点することが出来る。(指導教員はその内容を『指導報告書』に記載すること)

(出典：本校専攻科ウェブサイトより抜粋)

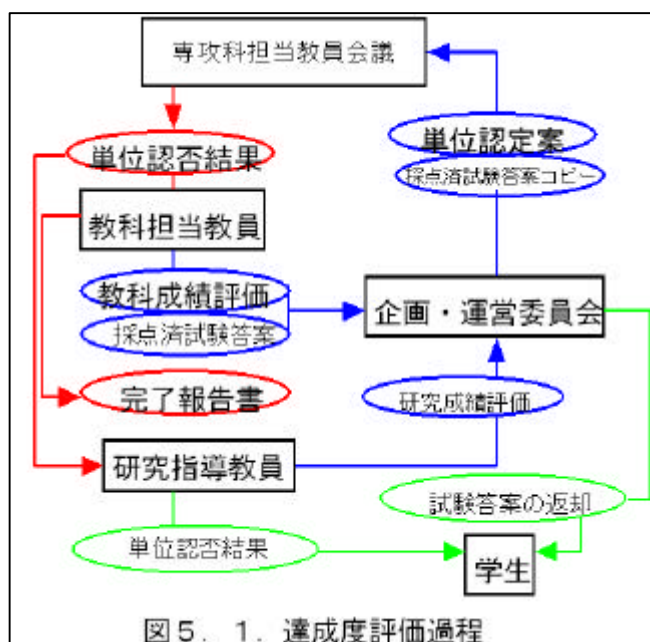
<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/suppli.html>

資料 5 - 8 - - 5 : 専攻科における単位認定・修了認定の過程

5 . 基準 5 : 学習・教育目標の達成

(1)科目ごとの目標に対する達成度評価の実施

教科目ごとの目標に対する達成度は、研究指導計画書、及びシラバスに記載された評価基準に従って評価される。教科目担当教員が指定した「目標の重み」に沿って評価成績が目標ごとに示され「単位認定案」として成績判定会議(プログラム後半部では専攻科担当教員会議、前半部の場合には年度末教員会議)に提出され審議される。「単位認定案」は当該教科目の単位として認定され、「成績」として確定する。専攻科の場合に、教科目担当教員はこの「成績」を授業完了報告書に記載し、開示する。(但し、学生個々の「成績」は当人に通知されるが、開示されない。) 以下の図に、プログラム後半部学期末毎の達成度評価過程、及び結果の学生への伝達過程の概略を示す。



(中略)

(4)修了生全員のすべての学習・教育目標の達成

学習・教育目標(A)～(E)の達成は、「目標」毎の実践指針について検査されて、その結果はプログラム後半部においては研究指導報告書に記載され開示される。18項の「指針」全ての達成が、必修科目「工学倫理」、及び専攻科研究の単位取得要件となっている。学生は、全ての学習・教育目標の達成なしでは、プログラムの修了要件を充たす事はできない。さらに、(A)～(E)の目標のいずれにおいても、目標達成度0.5ポイント以上、総合達成度0.6ポイント以上が要求される[5(3)]。

専攻科の修了生は、以下の手順で大学評価・学位授与機構(以下「機構」と略す)において、学士(工学)を取得できる。

- (1) 高専等を卒業して、基礎資格を有していること。
- (2) 「機構」が認定した専攻科で、所定の「積み上げ単位」を修得すること。
- (3) 「学修成果」レポートを作成し、「機構」に提出すること。

(改善を要する点)特になし。

(3) 基準 5 の自己評価の概要

準学士課程においては、一般科目と専門科目の履修時間を楔形に組み、基礎から専門への移行がスムーズになされ、5年間一貫教育の特徴を存分に生かすカリキュラム構成となっている。幅広い分野の一般科目を適切に配置し豊かな人間性の形成と国際感覚の育成に配慮し、全学科共通に情報基礎科目を置くことで情報技術教育を重視し、実験・実習・演習科目を各学年に配置し講義科目と関連付けた実践的技術者養成の体系的カリキュラム構成となっている。学生が主体的に取り組む PBL 型の実験・実習・演習も多く取り入れ、また、希望する学生を企業等に派遣して実習を行う制度を設け、学生が社会のニーズを認識する機会を得られるよう配慮している。

教養科及び各専門学科が定めた一定の方針の下にシラバスが作成され、それに沿って授業は計画的に進められている。シラバスは、ウェブサイトにも開示し、学生に周知され授業計画の確認や予習に役立てられている。成績評価及び単位認定は規則に基づいて行われ、進級認定及び卒業認定は、全教員参加の教員会議で公平性・透明性を持って適切に行われている。

特別活動、課外活動において、様々な種類の活動を通して学生の人間性を向上させる機会の確保を図っている。悩みを抱える学生の支援体制として、学生生活支援室を平成 16 年度より立ち上げ、学生に対する相談のみならず、学生達の現状に関する情報収集・分析も進めている。低学年全寮制の体制の下で、寮生会活動及び日常の寮生活を通じて人間の素養の涵養が多くの面で図られている。

専攻科課程は、準学士課程の 4・5 年次と合わせて「総合システム工学プログラム」を構成し、準学士課程 1～3 年次における工学技術の導入教育の成果を引継ぎつつ、4・5 年次における体験重視型教育、及び専攻科における研究指導を通じて得られる領域工学(機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学・生物工学)に関する深い専門性を基に、社会の要請に応え、文化の進展に寄与することの出来る創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成する JABEE 基準に対応した教育プログラムとなっている。教育課程は、専攻科総合システム工学要件により体系化され、語学、人文・社会科学、基礎能力、各専門工学の各分野がバランスよく配置されている。

学内外の教育ニーズの把握に努め、企画・運営委員会や専攻科担当教員間連絡ネットワーク組織において学習・教育目標実施方針を不断に見直している。学習指導法について、教員相互に教育技術の研鑽を行うことで教育効果を上げている。また、インターンシップや、外部との研究協力に学生を参加させることで、学生が実社会におけるニーズに直接触れる機会を得られるよう配慮している。

シラバスは、専攻科企画・運営委員会において定められた教育目標の実践指針に基づき作成され、ウェブサイトを開示し、学生の授業計画の作成及び準備学習に役立っている。学生ごとに指導教員を付けることで、研究指導及び学習の支援が適確に行われ、それが実施されたことを複数の教員及び学生が報告書で確認する体制ができている。成績評価は、それぞれの授業計画によって学生に予め示された方法に従って行われ、単位認定及び修了認定は、規則に基づいて学習・教育目標の達成度を意識しつつ全教員参加の教員会議で公平性・透明性を持って適切に行われている。

基準 6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6 - 1 - : 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

< 準学士課程 >

(観点に係る状況) 準学士課程においては、教育目標を達成するために必要なカリキュラム編成（前出資料 5 - 1 - - 7 ~ 15）がなされており、そのカリキュラム編成に従って開講されている科目（単位）のうち一般科目は 89%，専門科目は 86%以上（卒業に必要な単位数は一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上で、開講されている単位数は一般科目 84 単位、専門科目 95 単位（最大）である。）を修得することが卒業要件（前出資料 5 - 3 - - 1）の一つとなっている。このことから、卒業要件を満たすことが、学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について目標を達成したことを保証するものであり、その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われているといえる。それに加えて、例えば学科によっては主要科目の修得を卒業要件として学生便覧に提示している（前出資料 5 - 3 - - 2）。あるいは卒業論文と卒業研究発表会での内容、そして卒業研究指導教員による日常的な指導の中での質疑応答や観察から、卒業研究の成績評価の基準（資料 6 - 1 - - 1）に沿って目的の達成度を把握・評価している。さらに、各学科において毎週会議が開催され学生の状況把握や教育方針等についても議論が行われている。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。本校の教育課程は、本校の目的、教育目標、養成すべき人材像に対応づけて体系化されており、そのカリキュラム編成に従って開講されている科目（単位）の大多数を修得することが卒業要件の一つとなっていることから、学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われていると判断できる。

資料 6 - 1 - - 1 : 卒業研究の成績評価の基準（制御情報工学科の例）

卒業研究評価基準

制御情報工学科

1. 授業目標

- 1) 研究に係る安全問題について理解し、安全かつ効率的に研究計画を遂行することができる。
- 2) 研究に関連する情報を探し出すために適切な情報源を用いることができる。
- 3) 獲得した情報を適切な方法で整理し、管理できる。
- 4) 研究の背景・目的および社会的、産業的意義を把握できる。
- 5) 問題を解決するために、複数の工学に関連する実験等(計算/フィールドワーク)の計画の立案を行うことができる。
- 6) 実験等により、得られた結果を解析し、異なった評価方法によって得られた結果と比較し、誤りをチェックすることができる。
- 7) 実験等が持つ不確定な部分を評価し、今後の展開・発展の方針の策定に生かすことができる。

- 8) 得られた成果や様々な情報を有効に活用し，問題を特定し，仮説を展開し，解決のための方策を探ることができる。
- 9) 研究成果を聴衆の前で口頭発表するとき，聴衆に伝えるべき情報を系統立てて立案することができる。
- 10) 研究成果とともに当該研究の背景や意義を文章や図表で記述することができ，英文で論文の概要を記述できる。

2. 課題

- 1) 前期末に，研究中間報告（1）の抄録を作成して担当教員に提出する。
- 2) 研究中間報告（2）の抄録を作成して卒研統括教員に提出し，学科内で発表する。
- 3) 卒業研究の成果を論文としてまとめ，学科内で発表し，質疑応答の結果を論文に付記して，卒研統括責任教員へ提出する。

3. 評価方法

- 1) 授業目標の 1)～5)までは，研究中間報告（1）の抄録に記載させ，担当教員と卒研統括責任教員がチェックする。
- 2) 授業目標の 6)～8)は研究中間報告（2）の抄録および卒業論文に記載された内容から，担当教員と卒研統括責任教員を含む複数の教員がチェックする。
- 3) 授業目標の 9),10)は，卒業研究論文とその発表会における質疑応答を通じて，担当教員と卒研統括責任教員を含む複数の教員がチェックする。

4. 評価基準

- 1) 中間発表における評価（10%）
研究中間報告（2）の抄録と中間発表に基づいて評価する。その基準は別に定める「卒業研究中間発表評価基準」による。
- 2) 最終発表における評価（30%）
最終発表会における抄録と発表に基づいて評価する。その基準は別に定める「卒業研究最終発表会評価基準」による。
- 3) 卒業論文における評価（30%）
卒業論文について評価する。その基準は別に定める「卒業論文評価基準」による。
- 4) 研究活動全般の総合的評価（30%）
研究中間報告（1），（2）および卒業論文，研究作業日誌，研究指導中での質疑応答等から総合的に判断して評価する。その基準は別に定める「研究活動全般の総合的評価の基準」による。

以上

（出典：制御情報工学科）

< 専攻科課程 >

（観点に係る状況）専攻科課程においては，プログラム委員会の第5委員会において，各科目の学習・教育目標達成度の評価基準と評価方法について研究（前出資料5 - 8 - - 1 ~ 5）し，各教科

担当教員を支援している（前出資料5-5-③-6）。また、プログラム委員会の第6委員会において、教育点検の結果に基づき、本プログラムの学習・教育目標、達成度の評価基準と方法等に関する改善案を策定し、専攻科担当教員会議に提案する活動を行っている（前出資料5-5-③-6）。学生の教育目標達成度は、定められた各項目毎に指導教員によって把握・評価され、専攻科研究指導報告書に明記される（前出資料5-7-①-4）。

（分析結果とその根拠理由）優れている。上記委員会における研究は、定期的に行われており、その結果は、専攻科担当教員にフィードバックされている。学生の教育目標達成度は、各項目毎に指導教員によって把握・評価されている。

観点6-1-②：各学年や卒業（修了）時などにおいて学生に身に付けさせる学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）単位取得に関する成績評価基準（前出資料5-3-①-1）、進級・卒業（修了）認定基準（前出資料5-3-①-1）は適切に設定されており、その基準に即した単位認定、進級・卒業（修了）判定は厳格に行われている（前出資料5-3-①-5及び6）。求人数及び就職率は極めて高い水準を維持している。進学状況も学生の更なる学修への希望を満たすものとなっている。準学士課程の卒業研究及び専攻科課程の専攻科研究は、指導担当教員の指導の下、全学生が行っている。

（i）単位取得

本校では準学士課程において、年度内に4回の定期試験（前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、学年末試験）を実施し、学生の学業成績を評価し単位認定を行っているが、不認定となった場合は次年度に追認試験を行い、再度学習を促して学力の向上を図っている。年度末の成績より単位認定されなかった科目を有する学生の延べ人数の合計（準学士課程は資料6-1-②-1、専攻科課程は資料6-1-②-2）を示す。準学士課程において不認定科目数が平成13年度以降大幅に増加していることは問題である。特に低学年になるほど不認定科目数が増加する傾向にある。この原因の一つとしては“ゆとり教育”や“本県では一昨年度から公立高校が前期後期2度の入学試験を行い、前期入学が本校の一般入学試験より前にあり、優秀な生徒を確保していること”による影響も考えられる。また、上級生においても不認定科目数が増加しているが、その理由については今後検討すべき事柄である。本校では特に低学年に対して4回の定期試験以外に英語一斉運用能力基礎テスト（資料6-1-②-3）や授業中に小テストを実施し、さらに、授業内容をよく理解していない学生や成績不振者のために教員によるオフィスアワーの設定や上級生による学習指導も行い学力低下防止に努めている。

専攻科課程においては毎年の変動が大きいが、概ね横ばい状態である。

資料 6-1-②-1 : 不認定科目数 (準学士課程)

	H16	H15	H14	H13	H12
1年	157	117	72	52	39
2年	193	122	82	83	121
3年	254	171	116	146	115
4年	291	192	200	153	173
5年	313	201	145	109	124
合計	1,208	803	615	543	572

(出典：学生課教務係)

資料 6-1-②-2 : 不認定科目数 (専攻科課程)

年 度	H16	H15	H14
不認定科目数	31	37	33

(出典：学生課教務係)

資料 6-1-②-3 : 英語一斉運用能力基礎テスト

実施テストについて

1年生の4月に実施：英語運用能力基礎テスト 810円
 (B.A.C.E. = Basic Assessment of Communicative English)
 1年生の1月および2年生に実施：英語運用能力テスト 1350円
 (A.C.E. = Assessment of Communicative English)
 主催団体名：英語運用能力評価協会
 (ELPA = Association for English Language Proficiency Assessment)

- ・テストの実施対象は1、2年全員
- ・欠席者については、別の日に実施し、代金の返却は行わない。
- ・何らかの形で総合英語の評価に加える
 (来年度については最初の授業で口頭で学生に連絡、再来年度からはシラバスに明記)
- ・来年度の実施時期はそれぞれ4月と1月(再来年度以降については来年度中に検討)
- ・テスト代金は口座に振り込んでもらう(教務係に連絡済み)。
 - 1年 810円(4月) + 1350円(1月) = 2160円
 - 2年 1350円(4月) + 1350円(1月) = 2700円
- ・6月の時点で振り込まれていない者については、クラス氏名のリストを英語科がもらい、英語授業担当者が現金で徴収する。

実施予定

2年：4/15(金) 14:50 16:10
 E2は特活をテストに、C2はこの日の授業はオリエンテーションで6時限で終了
 試験監督： M2村上 E2塩谷 D2山岸 S2勝呂 C2大石(クラス担任)

1年：4/21(木)
 M1, S1 16:30 17:15(7,8時限まで授業あり)
 E1, D1, C1 14:45 15:30
 試験監督： M1藤井 E1勝呂 D1塩谷 S1村上 C1山岸

- ・1月の実施については、後期時間割確定後に英語科会議で案を作り、決める。

(出典：教養科英語科)

資料 6-1-②-4 : 学科個別の学力低下防止取組例

第 14 回物質工学科夏期ゼミナールについて

目的 専門科目への興味付けと基礎学力の定着および参加者間の親睦を図る

期間 2005 年 7 月 19 日(火)～21 日(木) 2 泊 3 日

7 月 19 日 11 時 30 分 沼津高専学生玄関前出発 (学校からバスにて移動)

会場 富士山麓山の村 (〒418 静岡県富士宮市栗倉 2745, TEL (0545)36-2236)

費用 7,500 円

引率教員 小林, 加藤, 藁科

参加者 学生 25 名(男子 13 名, 女子 12 名) C1 : 3 名, C2 : 7 名, C3 : 10 名, C5 : 5 名

教材 1, 2 年生 : リードα (化学の教科書も持参のこと)

3 年生 : 理系なら知っておきたい化学の基本ノート「物理化学編」

注意事項・補足事項など

- 施設は国立公園内にあるため, 認められた場所以外での火気の使用は禁止です。花火も禁止です。
- 施設は, 飲食物の持ち込みは禁止です。(パンとジュース程度の夜食を用意しています)
- 公衆電話はありません。携帯電話の電波状況はよくありません(ドコモは通信可)。
- 蜂は黒い物や動いている物を攻撃する習性があります。黒の服装はなるべく避けてください。
- 教材以外の勉強もできるので, 自分で必要な教材(苦手な科目の教科書, ノート, 宿題など)も持参してください。電卓, 辞書などがあると良いと思います。特に下級生は, 上級生や先生方に勉強を教わるチャンスなので, 積極的に持ち込んでください。

日程表

19日(火)	20日(水)	21日(木)
6:30	6:30 起床・洗面・清掃	6:30 起床・洗面・清掃
7:00	7:00 朝食	7:00 朝食
8:30	8:30 セミナー4 (1時間30分)	8:30 セミナー8 (1時間10分)
10:00	10:00 休憩	9:40 セミナー7 (1時間10分)
10:20	10:20 セミナー5 (1時間10分)	10:00 清掃・退所
11:30	11:30 昼食	11:00 沼津高専へ移動
13:00	13:00 セミナー6 (2時間)	12:30 解散
14:00	15:00 夕食 (バーベキュー)	勉強時間:12.5時間
15:30	19:00 セミナー7 (2時間)	
15:50	21:00 入浴	
17:00	22:00 就寝準備・就寝	
18:30	23:00	
20:30		
21:30		
23:00		

● 日程は他団体の都合により一部変更されることがあります。

(出典 : 物質工学科)

() 留年者および退学者数

学生の学業成績不振または進路変更の希望により留年者および退学者が発生する。近年の留年者および退学者数（準学士課程は資料 6 - 1 - - 6，専攻科課程は資料 6 - 1 - - 7）は年度によって変動は大きいですが、概ね横ばい状態といえる。

資料 6 - 1 - - 6：原級者および退学者数（準学士課程）

年度	H16	H15	H14	H13	H12
留年者数 (人)	22	7	7	18	12
退学者数 (人)	16	24	22	21	33

(出典：学生課教務係)

資料 6 - 1 - - 7：原級者および退学者数（専攻科課程）

年度	H16	H15	H14
留年者数 (人)	1	1	0
退学者数 (人)	3	1	4

(出典：学生課教務係)

() 学業成績

学年末試験の平均値の推移（準学士課程は資料 6 - 1 - - 8，専攻科課程は資料 6 - 1 - - 9）によると、成績平均値はほぼ維持されている。ただし、準学士課程は 100 点満点の平均値，専攻科課程は A が 4 点，B が 2 点，C が 1 点，D が 0 点としたときの平均値とした。

資料 6 - 1 - - 8：成績平均値（準学士課程）

年度	H16	H15	H14	H13	H12
成績平均値	77.4	78.6	78.9	79.6	79.1

(出典：学生課教務係)

資料6 - 1 - - 9 : 成績平均値 (専攻科課程)

年度	H16	H15	H14
成績平均値	3.5	3.3	3.4

(出典: 学生課教務係)

() 資格取得 (英語検定および工業英語検定)

各年度の資格所得件数 (資料6 - 1 - - 10) は年度によって変動もあるが、概ね横ばい状態といえる。学科においては工業英語検定4級レベル合格を基準とした能力評価を実施しているところもある。また、本校を英語検定試験および工業英語検定試験の会場にして学生が試験を受けやすい状態にするなど、資格取得を推進している。

資料6 - 1 - - 10 : 資格取得件数 (準学士課程及び専攻科課程)

年度	H16	H15	H14	H13	H12
資格取得件数	171	152	156	182	200

(出典: 学生課教務係)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。成績平均点、進級、卒業 (修了) 時の状況は、毎年高い水準を保っており、基本的に教育活動は健全に機能しているといえる。ただし、全体的に不認定科目数を軽減させることは重要な課題であり、前出の通り学内での学習指導や寮生活での学習時間の確保についても検討している。

観点6 - 1 - : 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業 (修了) 後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況) 就職率および進学率 (準学士課程は資料6 - 1 - - 1, 専攻科課程は資料6 - 1 - - 2) はいずれの課程においても極めて高い水準を維持しており、学生の更なる学修への希望を満たすものとなっている。ただし、就職者数を就職希望者数で除した値を就職率とし、進学者数を進学希望者数で除した値を進学率とした。

資料 6 - 1 - - 1 : 就職率および進学率 (準学士課程)

	H16	H15	H14	H13	H12
求人数 (人)	1,469	900	900	1,027	1,032
就職希望者数 (人)	94	83	91	94	104
就職者数 (人)	94	83	91	94	104
就職率 (%)	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
求人倍率 (倍)	15.63	10.85	9.90	10.93	9.93
進学希望者数 (人)	114	113	123	107	101
進学者数 (人)	111	107	115	99	97
進学率 (%)	97.37	94.70	93.50	92.53	96.04

(出典: 学生課教務係および学生係)

資料 6 - 1 - - 2 : 就職率および進学率 (専攻科課程)

	H16	H15	H14	H13	H12
就職希望者数 (人)	10	17	18	19	13
就職者数 (人)	10	17	18	18	13
就職率 (%)	100.00	100.00	100.00	94.74	100.00
進学希望者数 (人)	9	7	3	5	6
進学者数 (人)	8	6	3	3	6
進学率 (%)	88.89	85.72	100.00	60.00	100.00

(出典: 学生課教務係および学生係)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。就職率, 進学率も高い水準を維持していることから, 本校の教育の実績や効果が上がっており, 企業・大学等外部機関からも高く評価されていると判断できる。

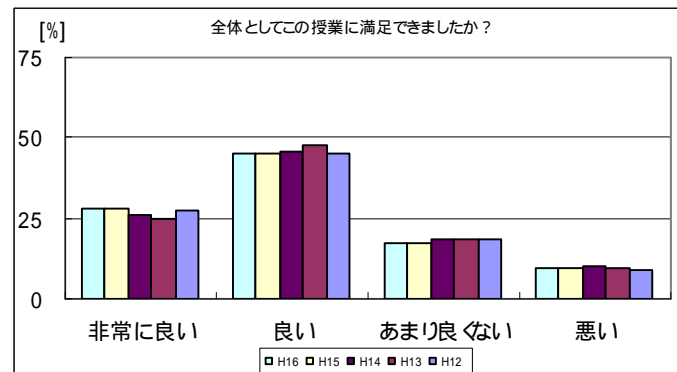
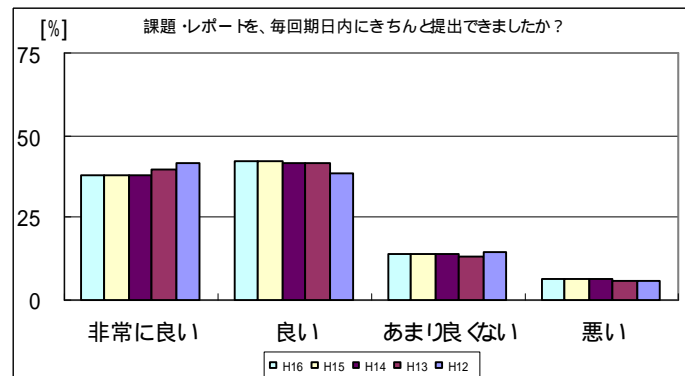
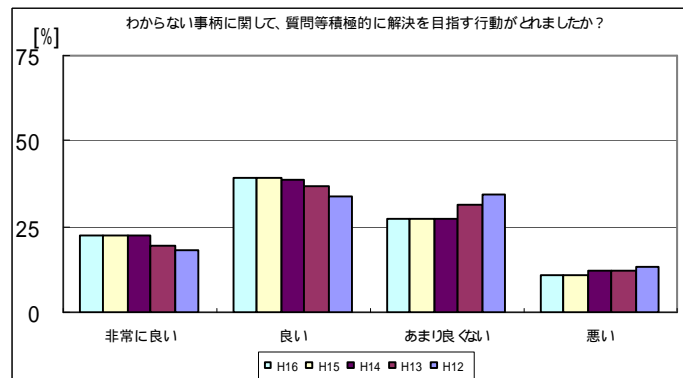
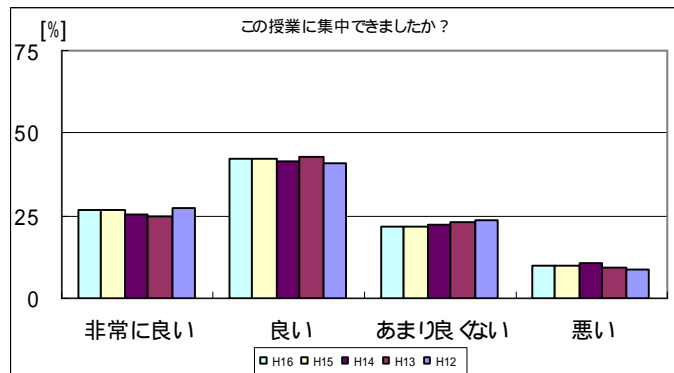
観点 6 - 1 - : 学生が行う学習達成度評価等から判断して, 学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況) 準学士課程及び専攻科課程において, 平成 12 年度から学生による授業アンケートを実施し, その結果をまとめて全教職員にフィードバックしている(準学士課程は資料 6 - 1 - - 1, 専攻科課程は資料 6 - 1 - - 2)。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。学生による授業アンケートの結果から, アンケートの回答は「非常によい」と「良い」の割合が年度を問わず, 準学士課程において 7 ~ 8 割, 専攻科課程において 8 ~ 9 割と全体的に高い評価が与えられており, この点では教育の効果が上がっている。特に専攻科課程では一昨年度の結果に比べてその割合が明らかに向上している。しかし, わからない

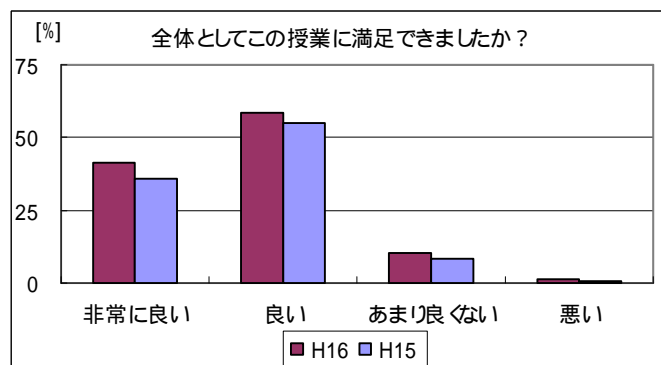
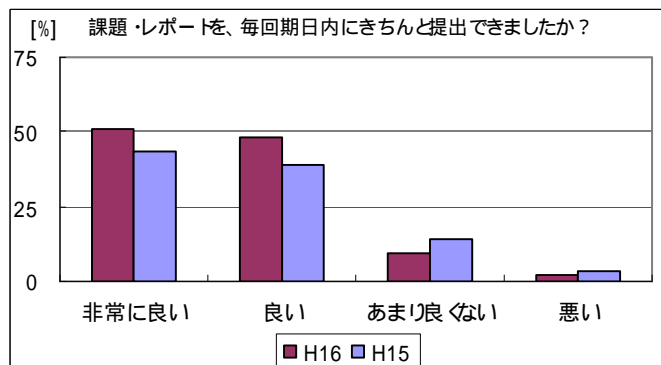
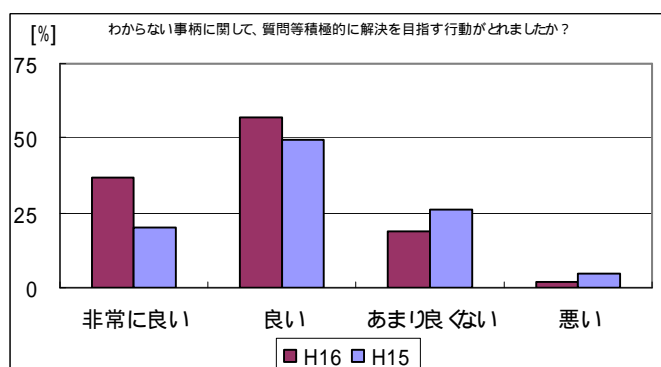
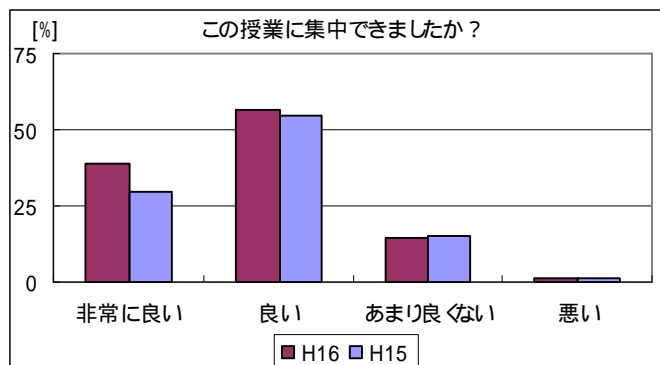
事柄に対して積極的に解決を目指す行動をしていない学生も3割程度おり、学生が消極的であるか、または現況が質問しにくい状態にあることを示している。最近ではこのことに対して、教員によるオフィスアワーの設定や上級生による下級生の補習的指導などの取組みを行っているため、徐々に改善されてきている。

資料 6 - 1 - - 1 : 授業アンケート結果 (準学士課程)



(出典：学生課教務係 授業アンケートより)

資料 6 - 1 - - 2 : 授業アンケート結果 (専攻科課程)



(出典：学生課教務係 授業アンケートより)

観点 6 1 : 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

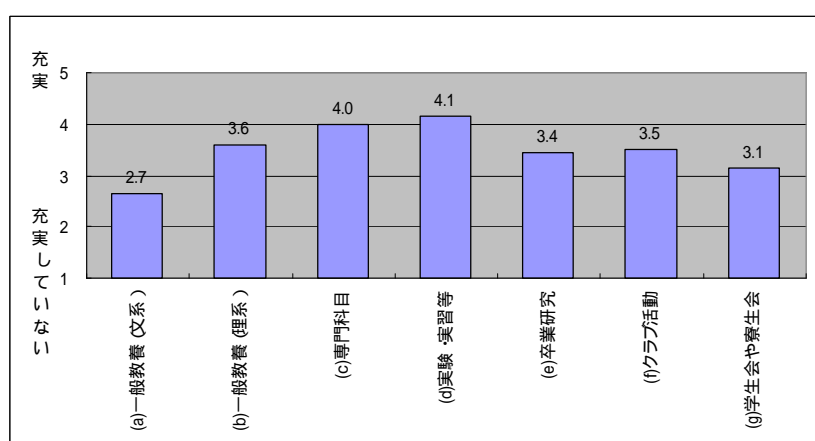
（観点に係る状況）各学科において、進学説明会や就職説明会に卒業生を招いており、企業での状態等について懇談し、また、企業の方が求人等で来校した際に本校卒業生の様子について聞いている。また、卒業生が組織する同窓会と定期的に意見交換の場を設け、実社会で活躍する卒業生から本校で身に付けた能力の活用状況について意見を聞いている。さらに、学校全体として平成 17 年度から卒業生や求人企業にアンケート調査を行い、本校に対する意見を聴取した。その結果は教員会議で報告し、全教員に周知している。

（分析結果とその根拠理由）相応である。同窓会から聴取した意見によると、在学当時の高専教育および授業・学生生活で身に付いた事柄について、それぞれ 7 種類程度の評価項目に対してアンケート調査を行った結果（資料 6 - 1 - 1 及び 2 ），前者はほぼ平均値 3 以上で専門科目や実験・実習等は 4 以上の高い評価を受けており、後者は発表・討議能力と国際社会に対する表現能力の 2 項目を除いて平均値 3 以上で、特に専門分野の基礎学力、実践力、技術者としての倫理観に対する評価が高いという結果が得られた。これらのことより、本校で身に付けた能力は実社会において十分に活用されていると判断できる。

次に求人企業 18 社へのアンケート調査結果を資料 6 - 1 - 3 に示す。10 種類の評価項目に対して語学力やリーダーシップの点ではやや劣るが、全体的に高い評価を受けている。また、資料 6 - 1 - 4 は本校卒業生と一般の大学学部卒業生との比較を行った結果であり、大学学部卒業生と比較しても遜色ないといえる。以上のことから本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

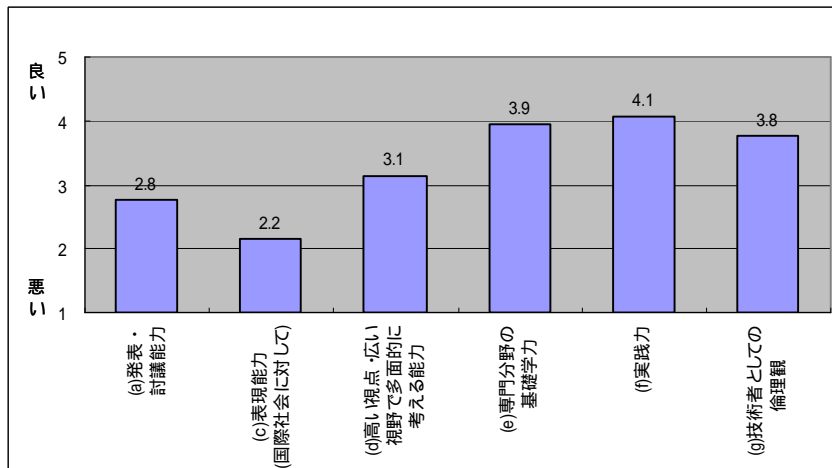
なお、上記はいずれも準学士課程におけるアンケート結果であり、専攻科課程においては母数が少ないので資料を示していないが、同様の傾向であった。

資料 6 - 1 - 1 : 在学当時の高専教育について



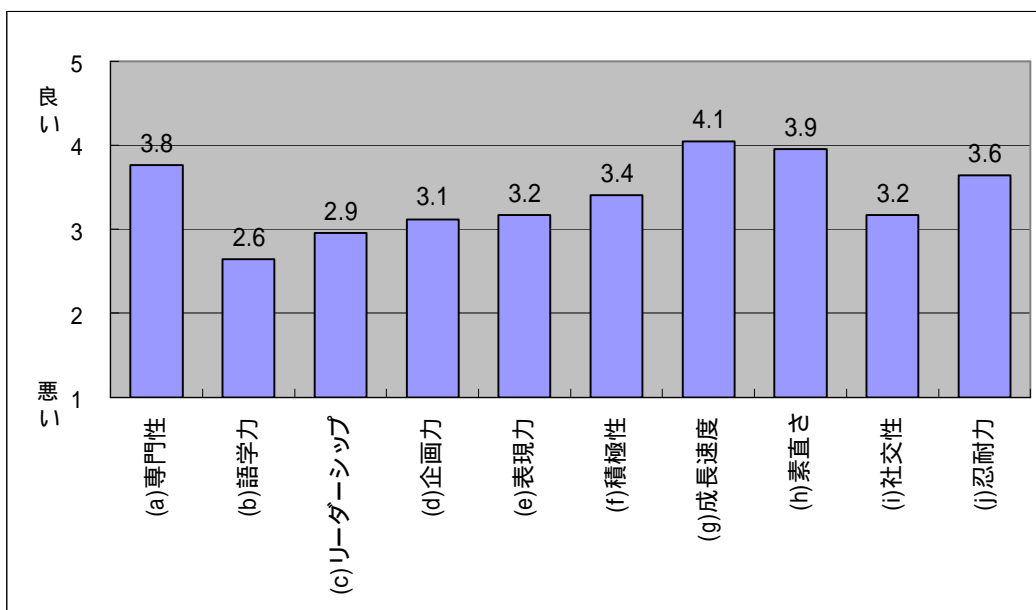
（出典：卒業生による本校に対するアンケートより）

資料6 - 1 - - 2 : 沼津高専での授業・学生生活等で身に付いた事柄



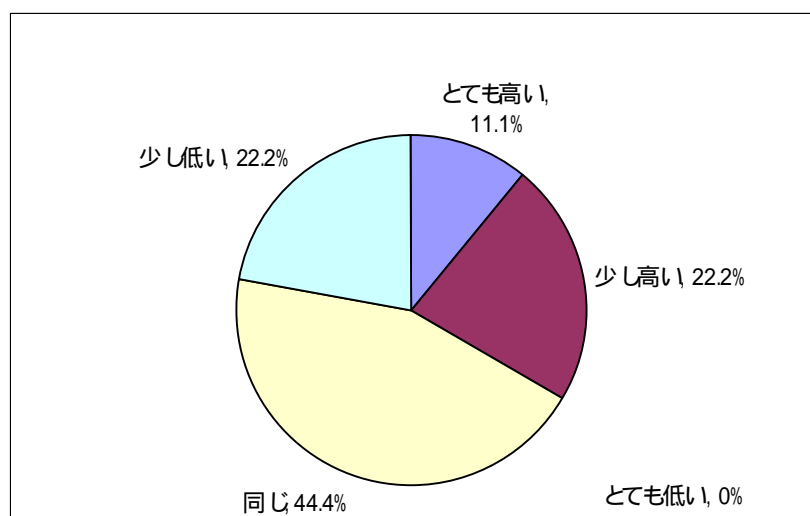
(出典：卒業生による本校に対するアンケートより)

資料6 - 1 - - 3 : 本校卒業生に対する評価



(出典：求人企業による本校卒業生に対するアンケート)

資料 6 - 1 - - 4 : 本校卒業生を大学学部卒業生と比較



(出典：求人企業による本校卒業生に対するアンケートより)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校の過去 5 年間の就職率および進学率は高い水準を維持しているのみならず、卒業生および求人企業によるアンケート結果からも本校卒業生が大学卒業生と同等以上の学力を有している点が優れている。このことは本校の教育の実績や効果が上がっているものと判断できる。また、「学生による授業アンケート」を毎年実施する取組みは、学生の認識を的確に把握し改善に役立てることができる点から、優れている。

(改善を要する点) 学力不足を感じている学生の欲求を満たす教育指導・環境を構築するために英語一斉運用能力基礎テスト(前出資料 6 - 1 - - 6) や小テストなどの改善策が講じられているが、まだ着手したばかりであり、今後その結果を踏まえた更なる改善が望まれる。

平成 17 年度から求人企業や卒業生にアンケート調査への協力を依頼し、本校に対する意見を聴取した結果、実践力や専門科目をはじめとする実験・実習等は高い評価を受けているが、語学力や国際社会に対する表現能力がやや不足していると思われる。このように学外関係者から本校に対する意見を聴取することは今後も継続して行い、全教職員および学生にフィードバックすることが大切である。

(3) 基準 6 の自己評価の概要

本校は教育目標を達成するために必要なカリキュラム編成がなされており、そのカリキュラム編成に従って開講されている科目(単位)の大多数を修得することが卒業要件の一つとなっていることから、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているといえる。また、5 年間の集大成である卒業研究については、いずれの学科も卒業論文と卒業研究発表会での内容、そして卒業研究指導教員による日常的な指導の中での質疑応答や観察から、卒業研究の成績評価の基準に沿って目的の達成度を把握・評価している。

準学士課程および専攻科課程の各科目における評価基準はシラバスで明文化されており、またその

成績評価資料や卒業研究報告書は適切に保管されている。

専攻科課程においては、プログラム委員会において、各科目の学習・教育目標達成度の評価基準と評価方法について研究し、各教科担当教員を支援している。また、教育点検の結果に基づき、本プログラムの学習・教育目標、達成度の評価基準と方法等に関しての改善案を策定し、専攻科担当教員会議に提案する活動を行っているので教育目標の達成状況を把握・評価するための取組みは適切である。

就職率や進学率は高い水準を維持していることから、本校の教育の実績や効果が上がっており、企業・大学等外部機関からも高く評価されていると判断できる。

学生による授業アンケートの結果から、アンケートの回答は「非常によい」と「良い」の割合が年度を問わず、準学士課程において7～8割、専攻科課程において8～9割と全体的に高い評価が与えられており、この点では教育の効果が上がっている。

低学年に対しては4回の定期試験以外に英語一斉運用能力基礎テストや授業中に小テストを実施し、さらに、授業内容をよく理解していない学生や成績不振者のために教員によるオフィスアワーの設定や上級生による学習指導も行い学力低下防止に努めている。

平成17年度から求人企業や卒業生にアンケート調査への協力を依頼し、本校に対する意見を聴取した結果、本校卒業生が大学卒業生と同等の学力を有していると考えられる。具体的に語学力や国際社会に対する表現能力がやや不足していると思われる点もあるが、実践力や専門科目をはじめとする実験・実習等は高い評価を受けている。このように学外関係者から本校に対する意見を聴取することは今後も継続して行い、全教職員および学生にフィードバックすることが大切である。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①：学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

<準学士課程>

(観点に係る状況) 学校や学科がどのような方向を目指すかを明らかにすることは、学生が自主学習をする上の指針になる。そうした情報は在学生に対して、学生便覧(資料7-1-①-1)やシラバス(資料7-1-①-2)や学科のウェブサイト(資料7-1-①-3)で明示されている。加えて、学習を進める上でのガイダンスを学生に明示する機会として、毎年新入生に対して入学直後の合宿オリエンテーション(資料7-1-①-4)を用意し、徹底している。平成17年度からは、従来個別に行っていた2～5年生に対する年度当初のオリエンテーションを組織的なものとした(資料7-1-①-5)。

日々の指導については、各クラスに学級担任教員を配置し、学生の相談に乗る体制を整えている。オフィスアワーも学科別にまとめられている(資料7-1-①-6)。メールや、平成17年に立ち上げたe-learningシステムによって電子的に学生の個別指導を行える(資料7-1-①-7)。また、学生生活支援室を設け(資料7-1-①-8)、必要に応じて学生の相談を受け付けている。学生生活支援室は、自主学習の部屋を設け、学生の自主的学習習慣を付けるための指導も行っている(資料7-1-①-9)。

実践的な技術を重んじる本校では、実験・実習に伴う危険を未然に防ぐため、工場、DNA実験、動物実験などについて指針を定め、関連する学生への教育も実施している(資料7-1-①-10)。(分析結果とその根拠理由) 優れている。各学年の年度当初にオリエンテーションを実施しているほか、シラバスにも学習内容やスケジュール等について詳細に記載されている。また、学級担任教員が相談の受付及び助言を行っており、本校に所属する全学生が最初の相談相手を特定できる体制となっている。また、それ以外に学生生活支援室も設置しており、相談・助言体制は優れている。

<専攻科課程>

(観点に係る状況) 専攻科課程においては毎年前期・後期の2回にわたりガイダンスを実施している。また、これら行事以外にも各科目担当教員がシラバスや学生便覧等を利用して最初の授業等において実施している。また、学生全員に指導担当教員を割り当てているほか、全担当教員がオフィスアワーを設定し(資料7-1-①-11)、各教員室前に時間帯を掲示するなどして学生に活用を促している。また、専攻科学生生活支援室を設け、必要に応じて学生の相談を受け付けている。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。各学年の年度当初にオリエンテーションを実施しているほか、シラバスにも学習内容やスケジュール等について詳細に記載されている。指導担当教員が、相談の受付及び助言を行っており、本校に所属する全学生が最初の相談相手を特定できる体制となっている。また、それ以外に学生生活支援室も設置しており、相談・助言体制は優れている。

資料 7-1-①-1 : 学科の概要

4. 学修・教科

1. 学科の概要

教養科

教養科は、5年間にわたり、やがて、人間性豊かな社会人として必要になる知識と教養を、また、各専門学科に進むために欠くことのできない基礎学力を身につけるため、1学年時から5学年時までのカリキュラムを、機能的に編成しており、語学等における最新のマルチメディア教室、CAI教育設備、物理、化学の実験室等すぐれた設備が導入され効率良く活用されている。

特に本校には、全国の高专に先駆けて、平成5年度から、総合的な知識と国際協調の精神を養うことを目的として、多教科教官によるオムニバス方式授業の「国際教養」が、5学年時の選択科目の中に新設された。また、平成9年度からは、3年生に選択科目が導入され、学生にとって、より一層興味ある科目を開講することとなった。

このように、国際化時代に対応した新しい教育を行うために、教養科のカリキュラム編成は十分な配慮が施されている。

機械工学科

機械工学科では、機能的に編成されたカリキュラムのもとに、機械・装置およびシステムを開発・設計・製作する能力を養成することを主眼とし、さらにそれらを企画・運用管理するための創造力や応用力を養うことにつとめている。

低学年から始まる工場実習によって基礎的な製作技術を、また5年間にわたる設計製図により製図技術を体得させる。金属材料学、材料力学、水力学、熱力学、機械工作法などの専門科目は数学、物理などの基礎科目との密接な関係のもとに講義を行い、さらに十分な時間の演習・実験を行うことによって機械工学の基幹的知識を確実に習得させる。最近機械技術者にも強く要求される情報処理技術については、その教科目に加えて各専門教科目からも多角的に教授し、完成度の高いものとしている。

5学年の卒業研究では、機械工学科の全教官ならびに技官が研究のプロセスについて実践的に教授している。また、最先端の技術を紹介する場を積極的に取り入れ、大学や企業で研究開発に携わっている人による特別講義や工場見学の機会を設け、新技術に関する視野を広められるようにつとめている。

(出典：平成15年度学生便覧p. 33)

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/gakusei_binrann_naiki/gakuseibinran15r4.pdf

資料 7-1-①-2 : 学科の教育目的・教育目標

2005年度 電子制御工学科シラバス

1. 教育目的・教育目標

1.1 教育目的

本校は、学校教育法第五章の二『高等専門学校』の第七十条の二のとおり、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的としています。

また、本専攻科は、同第七十条の六のとおり、高等専門学校における基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的としています。そして「制御・情報システム工学専攻」を置いた趣旨は、「マイクロエレクトロニクスの発展は、コンピュータの計算処理能力を飛躍的に増大させ、その結果として、コンピュータは情報を高速に処理する手段として、また機械を知能化する手段として各分野に広く用いられるようになりました。しかし、一般に機械の知能化は容易ではありません。例えば、生産システムを知能化するためには、ロボットなどの個々の機械への制御理論を組み込み、それら機械群を有機的に結合するための通信ルートの整備、階層制御系の設計、データベース、知識ベースの実現が図られなければなりません。これらを統合的に解決する技術者を養成するため」としています。

これらを踏まえて、工学に関する基礎学力と専門知識を身につけ、工学の社会的責任を理解し、創意工夫して、機械工学、電子工学および情報工学を社会のニーズに応用する資質のある自立の人材を養成することを、専攻科を有する電子制御工学科の教育目的とします。

1.2 教育目標

本学科の教育目的に対する学習・教育目標は以下のとおりです。

- ・ A. 社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。(工学倫理の自覚と多面的考察力)
 1. 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。
 2. 最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。
 3. 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。
 4. これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を実現すること

(出典：ウェブサイト上の各学科のシラバス)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/syllabus/newsyllabusH17top.htm>

資料 7-1-①-3 : 各学科の概要

(出典：本校公式ウェブサイトの学科説明)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_frm.htm

資料 7-1-①-4 : 新入生オリエンテーションのしおり

平成16年度 新入生オリエンテーションのしおり

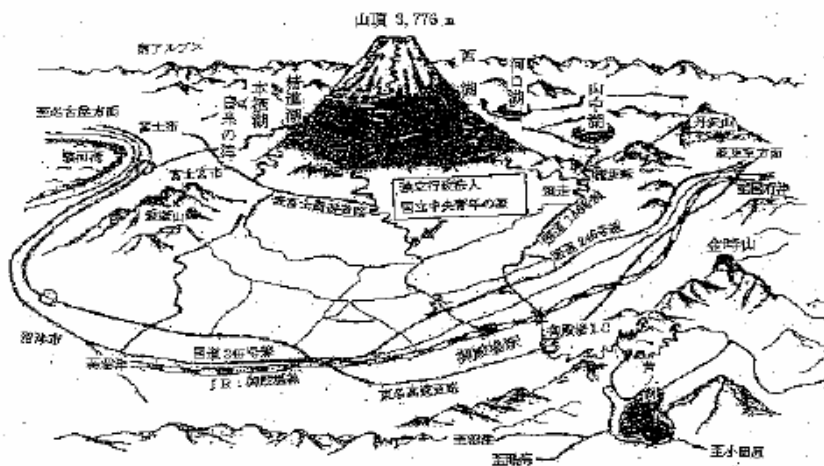
平成16年4月15日(木)～4月16日(金)

独立行政法人 面積 178,174㎡
国立中央青年の家 標高 700m (青年群像台地)

所在地 丁412-0006
静岡県御殿場市中畑2092-5

電話 (0550) 89-2020 (代)

FAX (0550) 89-2025



沼津工業高等専門学校

学 路	氏 名	
-----	-----	--

(出典：合宿オリエンテーションのしおり)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/orientation-gotemba/20040415.pdf>

資料 7-1-①-5 : 2～5年生向け年度当初ガイダンスの記録

平成 17 年 5 月 12 日

沼津高専

副校長 濱屋 先生

物質工学科 学科長 蓮実 文彦

平成 17 年度 沼津高専物質工学科ガイダンス実施報告書

平成 17 年度の物質工学科ガイダンスを以下の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

実施日時

2年：平成 17 年 4 月 6 日 始業式終了後のホームルームの時間

3年： 同上

4年： 同上

5年：平成 17 年 4 月 6 日 始業日のホームルームの時間

担当者

2年：学科長（蓮実文彦 教授）

3年：担任（竹口昌之 講師）

4年：担任（後藤孝信 助教授）、

5年：担任（小林美学 助教授）

内容

本校の教育理念、目的、教育目標、養成すべき人材像について、学生便覧を用いて学生に説明した。さらに、学科の目標についてもシラバスに明記されている内容を説明した。以下に、その実施風景の一部を撮影した写真を掲載する。



2年生 ガイダンス風景



2年生 ガイダンス風景

(出典：物質工学科の年度当初ガイダンスの記録)

資料 7-1-①-6 : オフィスアワー一覧表

平成18年度 本科学用生用オフィスアワー 一覧表(五十音順)

機械工学科						
教員名	期間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
井上	前期	放課後-17:00	放課後-17:00	放課後-17:00	放課後-17:00	放課後-17:00
岩谷	前期	16:30-17:15	16:30-17:15	16:30-17:15	16:30-17:15	16:30-17:15
		授業実施日とする。				
大賀	前期	放課後-17:15	放課後-17:15	放課後-17:15	放課後-17:15	放課後-17:15
黒下	前期	16:30-17:15	16:30-17:15		16:30-17:15	16:30-17:15
		授業実施日とする。				
新富	前期	16:30-17:15	16:30-17:15	16:30-17:15		16:30-17:15
		授業実施日とする				

表 8 平成 17 年度電気電子工学科教員のオフィスアワー (教員、常勤・非常勤五十音順)

教員名	期間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	注
江間 敏 *	通年		15:00 以降	15:00 以降	15:00 以降		
加藤 賢一 *	通年		13:05-17:00	14:00 以降			
加藤 繁	通年		16:30-17:15	16:30-17:15	8:30-12:00	8:30-17:15	
嶋 直樹 *	通年		昼休	12:00-17:15	昼休	12:00-17:15	
高野 明夫 *	通年		昼休	午前中			
高橋 儀男 *	通年		午前中	午前中		昼休	
西村 賢治 #	通年	昼休	昼休	いつでも	昼休	昼休	A
濱屋 進	通年	昼休	昼休	昼休	昼休	昼休	
平林 純治	通年		放課後	放課後	放課後	放課後	

制御情報工学科教員オフィスアワー

教員氏名	対象科目名	オフィスアワー	備考
柳下福蔵	全担当科目共通	月、火曜日 13:05~16:50	
大島 茂	全担当科目共通	月、火、水曜日 16:30~17:15	第2水曜日は除く
長谷賢治	全担当科目共通	水曜日 16:30~17:15	
吉野龍太郎	全担当科目共通	毎日 ~17:15	不在時は除く
大澤和夫	下記以外の担当科目 制御情報工学基礎演習Ⅱ	月、火、金曜日 16:20~17:15 夏季開講期間中随時	夏季集中講義
藤尾三紀夫	全担当科目共通	水曜日 16:00~17:00	
鈴木茂樹	制御情報工学演習 上記以外の担当科目	月曜日17:00~18:00 前期:火曜日午後、後期:木曜日午後	
佐竹利文	全担当科目共通	月~金曜日 17:00~18:00	
芹澤弘秀			今年度不在
鈴木康人	全担当科目共通	月、水曜日 15:00~17:00	
大久保進也	全担当科目共通	月曜日の休み時間(16:30まで) 火曜日の午後(17:15まで)	

(出典：各学科のウェブサイトから)

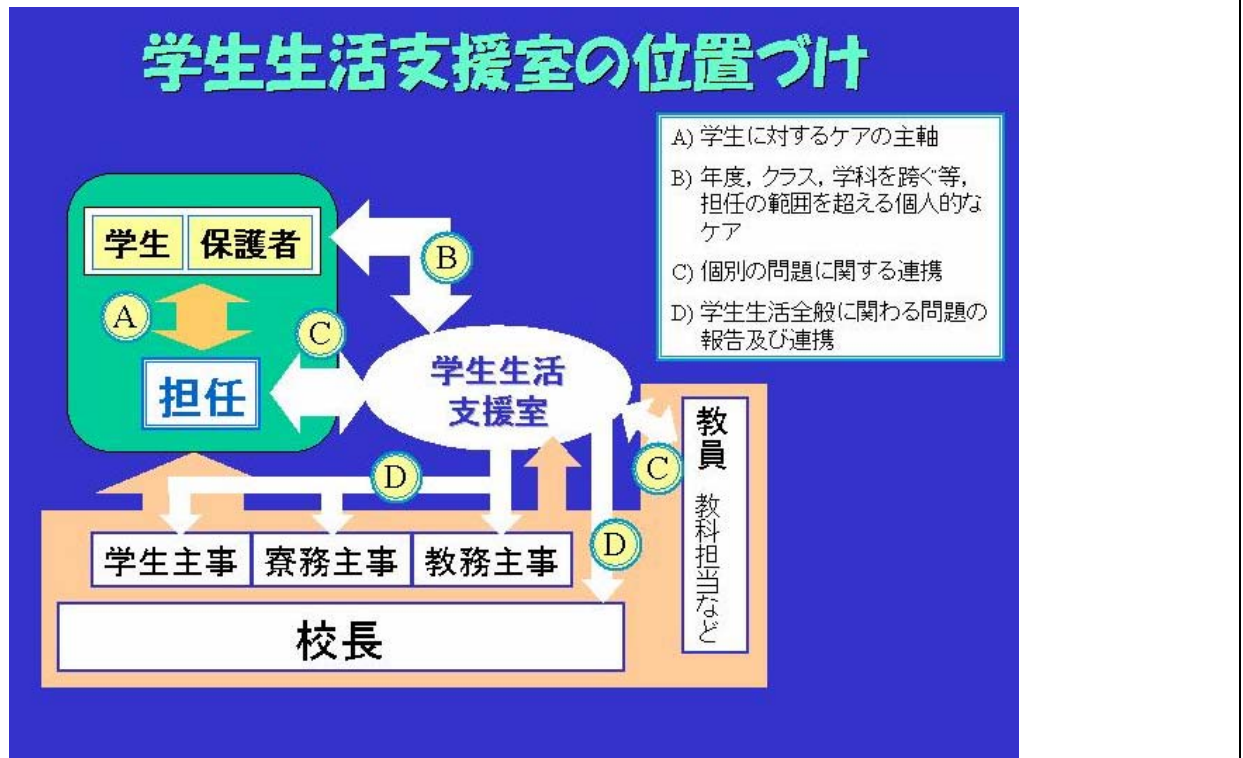
<http://www.denki.numazu-ct.ac.jp/a-kyouiku/syllabus/>

資料 7-1-①-7 : e-learning システムの実行例



(出典 : <http://blackb.numazu-ct.ac.jp/>)

資料 7-1-①-8 : 学生生活支援室の、学生・担任・学校・保護者とのつながり



(出典 : http://nct_support.numazu-ct.ac.jp/sienn.jpg)

学生生活支援室のURLは, http://nct_support.numazu-ct.ac.jp/

資料 7-1-①-9 : 「自主学習の勉強部屋」の記録



勉強部屋総括

2004, 12, 10

1) 目的

前期末試験結果において成績不振な1年生20名の勉学状況を各自個別に面接して調査したところ、1名を除いて、毎日一定時間寮において勉強している者はいなかったことにより、後期中間試験までの放課後1時間程勉強を自主的にするところを設置し、分からないところは高学年生に教えてもらうことにより、自学自習の習慣を付ける様にする。

2) 実施状況

11月10日より11月30日までの10日間、毎日授業の有る日の16時30分より約1時間選択教室Ⅱにおいて開催した。

出席1年生の状況は表1のようであり、1名のみが全日程に出席し、殆どは半分の日程に出席するに留まった。これに対して高学年生は殆ど毎日誰かがサポートしており、1年生よりサポート学生の方が多きこともあった。

一方教員の参加は支援室以外の教員は4名であった。

3) 問題点と今後の有り方

問題点としては、授業修了が16時30分以前であると一旦寮に帰り再び登校することになり、次第に足が出なくなることになる。勉強部屋の雰囲気は勉強するためのところなので、一度行かないと入りづらいところがある。毎日担任などから催促されることもなく自主性に任されているので、あいまいになる。

以上のことから、毎日一定時間自習をする習慣になったのは20人中2人で、それに近くなったのは2人であり、まだ4分の3はその習慣の大切さが理解出来ないままである。これは、これまで全く習慣として存在していないので、新たな習慣作りの必要性を如実に表しているとみられる。従って今後この自習の習慣を、入学当初から厳しく付けさせていく対策が必要である。そのためには、寮での生活において自習時間には必ず自習をする習慣を4月初めからつけていくようにする対策を早急につくり、来年度の4月より実施していけるように今から準備していかなければならないという結論になった。

(出典：学生生活支援室)

資料 7-1-①-10：本校規則集から（抜粋）

- 沼津工業高等専門学校組換えDNA実験安全管理規則
- 沼津工業高等専門学校組換えDNA実験に関する安全委員会規則
- 沼津工業高等専門学校における動物実験に関する指針
- 沼津工業高等専門学校動物実験委員会規則
- 沼津工業高等専門学校情報ネットワークシステム規則
- 沼津工業高等専門学校施設整備計画委員会規則
- 沼津工業高等専門学校防災対策委員会規則
- 沼津工業高等専門学校防災対策要綱
- 沼津工業高等専門学校防火管理規程
- 沼津工業高等専門学校校内環境保全委員会規程
- 沼津工業高等専門学校毒物及び劇物管理規則
- 沼津工業高等専門学校毒劇物管理委員会規則
- 沼津工業高等専門学校電気工作物保安規程
- 沼津工業高等専門学校学外実習規程
- 学外実習学生心得
- 沼津工業高等専門学校専攻科実習規則
- 沼津工業高等専門学校情報処理教育センター規則
- 沼津工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

（出典：沼津高専規則集から抜粋）

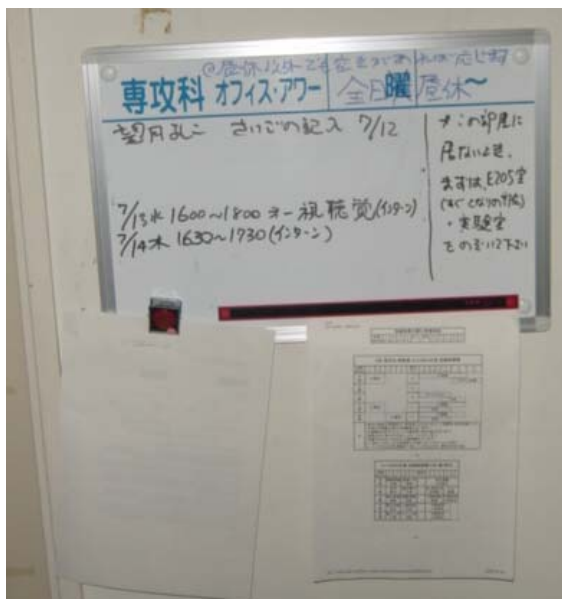
<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/kisokusyuu-mokuji.htm>

資料 7-1-①-11：専攻科指導のためのオフィスアワー

↑専攻科のホームページから、1/8に公開されています。	
教科書等	[正]初めての「工学倫理」: 斎藤了文、坂下浩司: 昭和堂
先修科目	環境学基礎
関連サイトのURL	http://www.onlineethics.org/
備考	オフィス・アワー: 金曜日 13:10~14:30 及び 16:30~17:30 曜日を問わず16:30~17:30

（出典：専攻科シラバス）

http://syllabus.numazu-ct.ac.jp:8080/adedum/SubjectBrowse/syllabus_list



（出典：専攻科担当教員の教員室前の写真）

観点 7-1-②：自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）自主的学習環境は，各クラスのホームルーム教室のほか，図書館（資料 7-1-②-1）及び総合情報センター（資料 7-1-②-2）を利用に供している。特に，図書館は，学生の便宜を考慮し，平成 16 年度に開館時間を午後 8 時までに延長するとともに，閲覧機をプライバシー保護の観点から個人ごとに区分した物に整備したところである。なお，図書館で可能なパソコンによる蔵書検索も学習に役立っている。

本校は学生の IT 関連の教育環境は総合情報センター以外でも整備が進んでいる。低学年の語学教育を中心としたマルチメディア教室や，情報処理を学ぶ学科の科別 PC 室，各学科卒研室でもパソコンの利用環境が整えられている（資料 7-1-②-3）。また教室や図書館では学生が用意した無線 LAN を介してインターネットへの接続が可能である。こうした充実した環境を背景に，平成 17 年度から e-learning システムによる学生の学習支援も開始した（資料 7-1-②-4）。

厚生施設は，福利施設（資料 7-1-②-5）と課外活動用各施設（資料 7-1-②-6）が整備されており，学生の課外活動と学生及び教職員の福利厚生に供している。

コミュニケーションスペースは，尚友会館，講義棟の学生リフレッシュコーナー，学生寮談話室等が利用されている。

こうした施設の効果的な利用のために，清掃状況等を厚生補導委員会が定期的巡回によって確認している（資料 7-1-②-7）。

（分析結果とその根拠理由）優れている。図書館の開館時間延長及び閲覧機の整備により，学生が放課後存分に自主学習できる環境が整えられたほか，福利施設等も新築・改修等を計画的に行い，効果的に利用できる環境を整えている。

資料 7-1-②-1 : 図書館の概要

図書館

[図書館のホームページへ](#)

図書館は、学校全体の学習センターとしての役割を果たしている。ここでは、教育及び研究に必要な情報資料を中心に、授業に欠かせない参考図書、豊かな情操を養うための教養書、美術書等が開架書架に並べられている。また、情報化時代に即応して学術専門雑誌、一般及び自然科学雑誌のほか、新聞、白書等の政府刊行物等も自由に閲覧できるようになっている。

本校では、図書館業務の電算化により、貸出・返却業務の自動化はもとより、パソコンによる図書検索、蔵書の管理を行っている。

- 閲覧貸出法・開架式
- 閲覧定員・100座席
- 検索用端末2台

※平成17年3月31日現在

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	合計
● 図書の冊数											
和漢書	4753	2264	4575	3193	14633	16557	325	2025	2665	6982	57972
洋書	587	414	320	243	9545	3234	50	155	783	724	16055
計	5340	2678	4895	3436	24178	19791	375	2180	3448	7706	74027
割合(%)	7.2	3.6	6.6	4.6	32.7	26.7	0.5	2.9	4.7	10.4	100
● 雑誌の種類											
和雑誌	99	3	20	19	47	148	5	5	14	5	365
洋雑誌	7	2	4	3	130	79	0	6	3	1	235
計	106	5	24	22	177	227	5	11	17	6	600



図書館配置図



図書館

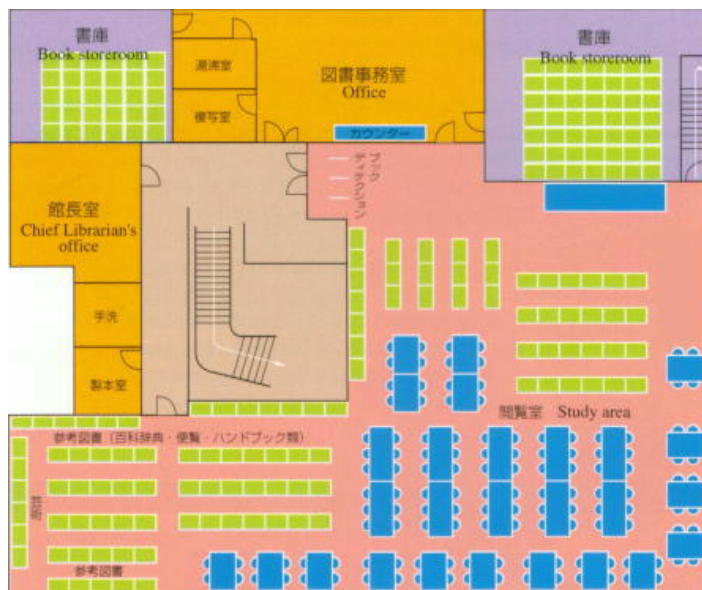


閲覧室

(出典：http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/sisetu_L.htm)

注意：平成17年7月現在では、検索用端末は6台

(うち2台は学内情報、残りは学外データベース検索用)



(出典：<http://www.numazu-ct.ac.jp/images/tosyohaitizu.jpg>)

前頁からの続き

(資料 7-1-②-1 : 図書館の概要)

H 15				H 16				H 17				
	8:00~ 17:00	17:00~ 18:00	合 計		8:00~ 17:00	17:00~ 18:00	17:00~ 20:00	合 計		8:00~ 17:00	17:00~ 20:00	合 計
4	2,572		2,572	4	2,395			2,395	4	2,354	688	3,042
5	2,787	55	2,842	5	2,265	24		2,289	5	2,344	1,042	3,386
6	2,510	26	2,536	6	2,675	89		2,764	6			
7	1,812		1,812	7	1,910			1,910	7			
8	832		832	8	763			763	8			
9	2,375	81	2,456	9	2,470		752	3,222	9			
10	2,325		2,325	10	1,993		543	2,536	10			
11	2,211	41	2,252	11	2,325		832	3,157	11			
12	1,710	42	1,752	12	1,695		510	2,205	12			
1	1,778		1,778	1	1,660		400	2,060	1			
2	1,779	93	1,872	2	2,026		760	2,786	2			
3	766		766	3	700			700	3			
計	23,457	338	23,795	計	22,877	113	3,797	26,787	計			

(出典：図書室運営委員会資料)

資料 7-1-②-2 : 総合情報センターの概要

情報処理を取り巻く環境は、IT革命という言葉に代表されるように劇的に進化している。インターネットを一般の人が利用するのが当たり前になってきたのは数年前のことだが、最近では、コンピュータ以外に携帯電話などの移動体通信機器でもインターネットに接続できるようになり、有線接続についてはこれまでのモデムやISDNを利用した低速な接続環境から、ADSLやケーブルテレビ、光ファイバを利用したブロードバンドと呼ばれる高速接続環境への移行が進んでいる。

また、情報処理教育は、今や小中学校教育に取り入れられるまでに一般化し、情報処理機器の活用は個人生活から社会生活に至るまで浸透しつつある。このような状況に対応するため、センターでは1年次より全学科の学生を対象にコンピュータを利用した情報処理教育が行われている。また2年次以降においては各学科の専門科目に関連した情報処理教育が行われ、情報処理に強い技術者育成に中心的な役割を担っている。

本校は光ケーブルにより学内LANローカルエリアネットワークが構築されており、学内全域からセンターの計算機群を利用することが可能である。さらに学内LANからは、常時インターネットが利用可能である。センターの計算機システムは数台のLinuxサーバにより構成されている。第1演習室には49台、第2演習室には25台のコンピュータがネットワークで接続されており、別々の授業を行うことができる。それぞれのコンピュータはLinuxとWindowsの2つのOSを選択して起動することができる。利用可能なソフトウェアは、言語関係としてFortran, Pascal, C, C++, Java, Perl, Rubyなどがある。またワードプロセッサ、グラフィックスソフト、表計算、数式処理、データベースなどのアプリケーションも充実している。

なお、センターでは専任の教員、技術職員を擁しており、教育研究環境の維持、向上に努めている。

総合情報センター
ネットワーク構成図

第1演習室

(出典：http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/sisetu_I.htm)

前ページからの続き

(資料 7-1-②-2 : 総合情報センターの概要)

++目次++

1	総合情報センターについて	1
1.1	総合情報センターの概要	1
1.2	施設について	1
1.3	システム構成	3
1.4	諸注意	6
2	WINDOWSXP の利用について	8
2.1	WINDOWSXP のログイン・ログアウト	9
2.2	WINDOWSXP の画面とマウスの操作	13
2.3	一般的なアプリケーションの使い方	14
2.4	日本語入力-MS-IME2003 (ナチュラルインプット 2003) の操作	20
2.5	フォルダ (ディレクトリ) とファイルの操作	23
2.6	E-MAIL の使い方	29
2.7	WWW ブラウザ (INTERNET EXPLORER) の使い方	37
3	LINUX の利用について	40
3.1	LINUX のログイン・ログアウト	41
3.2	X WINDOW SYSTEM について	43
3.3	ファイル・ディレクトリの操作	45
3.4	テキストエディタの利用	51
3.5	日本語入力	52
3.6	プログラミング	53
3.7	印刷	56

(出典：総合情報センター利用の手引2005)

総合情報センター編集の学生向けマニュアルリスト

- ・ Wordの操作 (30ページ)
- ・ Excelの操作 (39ページ)
- ・ Web Pageの作成 (33ページ)

(出典：総合情報センター)

資料 7-1-②-3 : 学内のパソコン利用環境

学生が使えるパソコン

場所	台数	主な対象
総合情報センター	75台	全ての学生
マルチメディア教室	46台	全ての学生
M, E, D, S科のPC室	123台 (うちわけ	学科の学生 M科 23台 E科 25台 D科 45台 S科 30台)
卒研室や実験室	377台 (うちわけ	卒研や実験を行う学生 M科 68台 E科 75台 D科 70台 S科 65台 C科 99台)
寮の棟ごとのPC室	1台/棟以上	寮生
総計	計628台以上	

(出典：基幹ネット管理)

資料 7-1-②-4 : e-learning システムの運用画面

(出典：http://blackb.numazu-ct.ac.jp/)

しょうゆうかいかん
資料 7-1-②-5 : 福利施設（尚友会館）の概要

尚友会館(福利施設)

尚友会館は、学生及び教職員の福利厚生を図ると共に、学生の課外活動を育成し、学生生活を豊かにすることを目的に建設された。

構造は、鉄筋コンクリート二階建てで、延べ面積は723m²である。

会館には、一階に食堂・売店・理容室、二階に保健室・相談室・研修室・課外活動共用室があり、学生・教職員の食事、研修及び会議等に利用される。



館内配置図



尚友会館



食堂



カウンセリングルーム



保健室

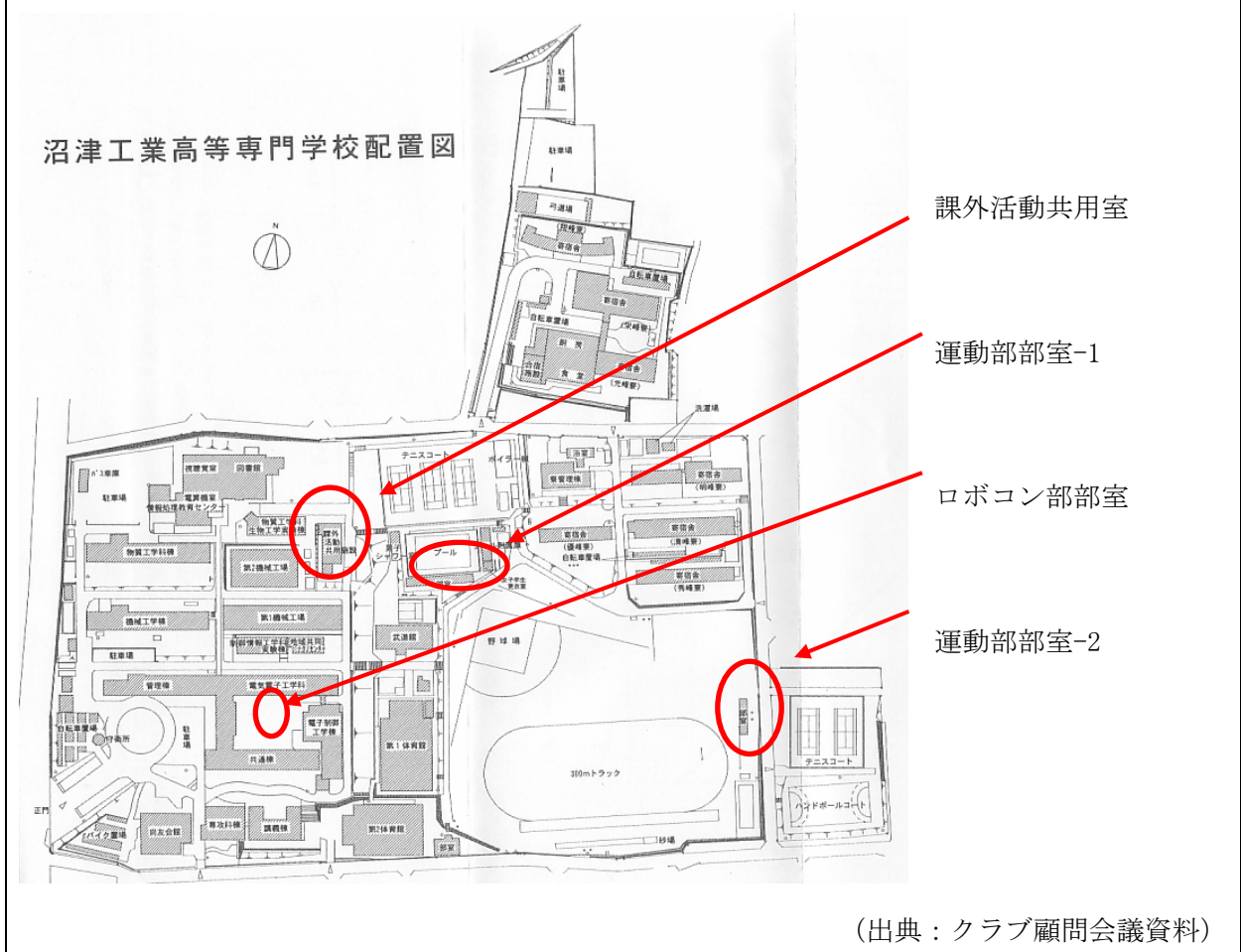
(出典 : http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/sisetu_S.htm)

平成17年度学生食堂利用状況

項目	営業日数	A定食	B定食	丼	パスタ	カレー	蕎麦等	ラーメン	計
4月	22	560	328	313	84	245	214	174	1,918
5月	18	541	240	340	76	206	234	138	1,775
6月	18	406	208	271	67	176	185	108	1,421

(出典 : 尚友会館内学生食堂の利用実績)

資料 7-1-②-6 : 課外活動用各施設の概要



資料 7-1-②-7 : 定期的巡回による清掃状況等の確認

From: Miho Tanigaki <tanigaki@numazu-ct.ac.jp>
 Date: Fri, 21 Jan 2005 16:49:48 +0900
 To: kousei

本日午後3時から、大石先生と学内巡回をいたしました。

D科棟・講義棟、女子更衣室・女子シャワー室、部室周辺、図書館等を巡回しました。授業中でチェック出来なかった教室を除き、どこもきれいでした。特定の子の机周りがだらしない感じがすることもありますが、教室全体の清掃はきちんと行われている印象でした。荷物を置いて他教室に移動しているクラスもありましたが、貴重品は見受けられませんでした。蛍光灯・暖房・換気扇の消し忘れもありません。ただ、E2教室だけはちゃんと清掃が行われていない感じでした。またリフレッシュルームの長椅子を教室に持ち込んでいるのも良くないと思いました。

講義棟の女子トイレの私物は、担任の先生のご指導や貼り紙の効果か、1～4階は完全になくなりました。しかし地階だけは減りません。特に洗面台に歯ブラシを置いているのは、手を洗うときに飛び散ったウイルスが付着する可能性があり、危険だと思います。ちょうどトイレにいたS3の女子学生に声をかけましたが、その子が置いているのではないのか、無反応でした。大石先生と私の名前で置き手紙をしておきました。

本日のE科棟横にとまっている車は、白いクラウン 静岡XX XX-XX でした。

 Miho Tanigaki tanigaki@numazu-ct.ac.jp

(出典：厚生補導委員会内メール)

観点 7-1-③：学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）学生の学習と生活に関するアンケート（資料 7-1-③-1）に資格試験等の受講意欲に関する質問項目を設けており、ニーズの把握に努めている。

（分析結果とその根拠理由）相応である。アンケート調査の結果は、全教職員に周知され、学生のニーズに関する認識の共有が図られている。

資料 7-1-③-1：学生の学習と生活に関するアンケート概要

戻る 最終編集2004/12/22；新規2004/10/27。

学生の学習と生活に関するアンケート

1. 概要

このページは、標題のアンケートの生データとその分析結果をしめすものです。

2. 報告

参考資料（他組織との比較）

- link to アサヒコム 「意欲低下」くっきり 高校生学力テスト・学習意欲アンケート 1/24。その追加記事
- link to 高等学校教育課程実施状況調査 国立教育政策研究所
- link to 学生生活報告書 早稲田大学
- link to 学習基本調査 ベネッセによる、小中高の調査。同 速報 ベネッセ報告の概要は、速報に十分に現れています。

第5回（2004年11月アンケート実施）

時期を見直した。（年度内のクラス指導へのフィードバックを狙った）アンケート項目は2増2減。学習に関して増やし、生活の自明なことは省いた。

なお、前年度と同じ質問でも、幾つかは選択肢の並び方を修正した。

- 資料A（4ページ、pdf）調査方法と集計方法と質問内容
 - 資料B（18ページ、pdf）アンケート結果のグラフ化（クラス別統計含む）
- （参考）統計作業に用いたファイル（xls，含：VBA自作アプリ（ウイルスはありません）-望月孔）
 （参考）生データ（txt）

* 中略 *

第2回（2002年2月アンケート実施）

第2回からは厚生補導委員会が実施。新規に8つの質問が追加された。

主な担当者は大賀校長補佐（学生主事），学生主事補 蓮實，望月孔，川上であり，質問整備と集計と報告書原案を作成した。また，学生係主任が事務的な支援をした。

- 報告書(pdf)（調査結果概要と分析，質問の内容，学年別にグラフ化した集計結果）

（参考）アンケート結果のクラス別学科別グラフ(pdf. '04 12月作成)←NEW！

（参考）集計に使用したエクセルファイル(xls)

（参考）生データ(csv)

第1回（2001年2月アンケート実施）

自己点検委員会により実施された。質問は全部で22項目である。

主な担当者は自己点検ワーキンググループの村松，芹沢（新規企画・実施・集計・報告書作成）

- 報告書(pdf)，報告書(word)（分析・集計結果・質問用紙）なお，この報告書は自己点検書の一部でもある。

○学生のために教室に掲示した報告書(word)

//

（出典：学内限定ウェブサイト・厚生補導部分）

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/anquete/index.html>

前ページからの続き

(資料 7-1-③-1 : 学生の学習と生活に関するアンケート概要)

学生の生活と学習に関するアンケート 質問用紙

学生の生活と学習状況を調査する目的でアンケートを行います。この調査は、学生の生活状況や意識を教員が把握し、学生が有益な助言を得られるように活用する目的で行われるものです。

以下の設問に対して、自らのことについてマークシート用紙に回答して下さい。マークシート用紙への記入にあたっては、下記のマークシート記入要綱をよく読み記入漏れやミスのないようにして下さい。

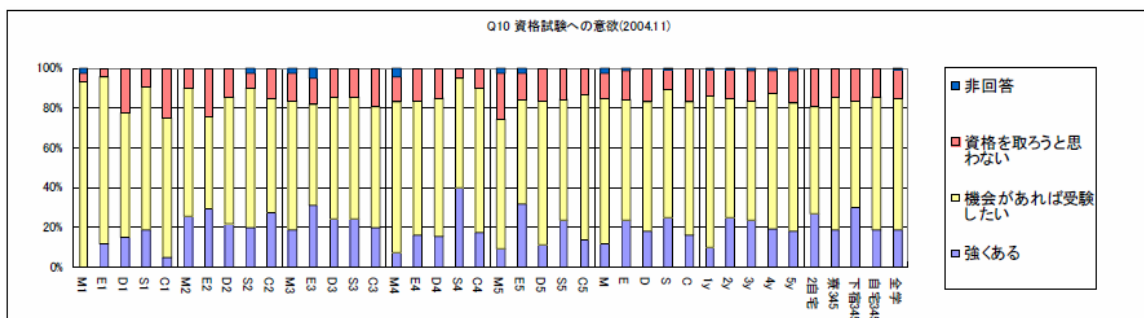
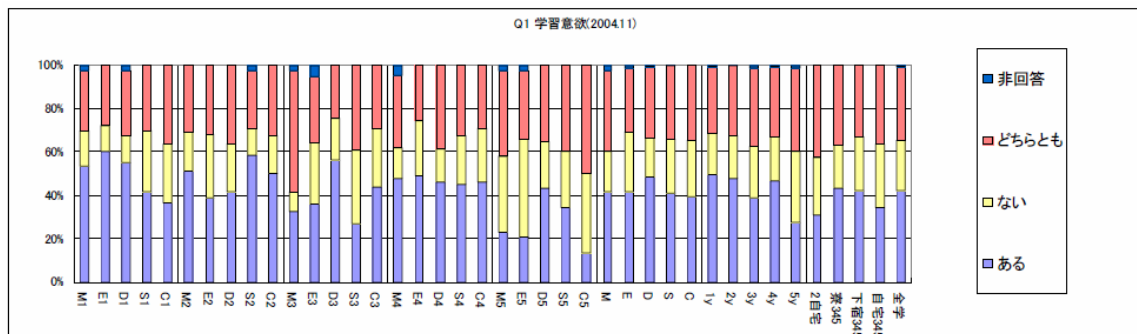
マークシート記入要綱 (授業アンケートの記入と異なる点がありますので注意して下さい)

- No, 名前, 月日の欄には何も記入しないで下さい。
- マークシートへの書き込みについては、表内の指示に従って下さい。
- 一つの質問に2つ以上のマークをしてはいけません。また、回答番号にない番号へのマークもいけません。
- マークは、HBよりも濃い鉛筆またはシャーペンで行って下さい。(HB以上のものがない場合は、十分な濃さになるようにマークして下さい)
- マークシートカードの右にある「マーク例」のようにマークして下さい。

質問番号等	回答欄	質問 または 指示 (特に断りが無い限り、各質問に対するマークは1箇所です)
—	区分	[A]の欄をマークしてください
調査の年	年	[4]の欄をマークしてください(本日は2004年ですから)
学科	クラス 10桁	あなたはどの学科に所属していますか [1]M科 [2]E科 [3]D科 [4]S科 [5]C科
学年	クラス 1桁	あなたは何年生ですか [1]1年生 [2]2年生 [3]3年生 [4]4年生 [5]5年生
—	番号	(番号欄の3行には何もマークしないで下さい)
—	D	(D欄の4行には何もマークしないで下さい)
1	1	現在、学習意欲がありますか? [1]ある [2]ない [3]どちらとも言えない

(出典：学習と生活に関するアンケート実施要項)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/anquete/index.html>



(出典：学内教職員向けアンケート集計資料)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/anquete/index.html>

観点7-1-④：資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況) 資格試験及び検定試験については，担当教職員が受験の取りまとめ(資料7-1-④-1)を行っているほか，本校の基準を満たした試験(資料7-1-④-2)の合格を規則にのっとり単位として認定している。

外国留学に関しては，学級担任教員等が随時相談に乗っているほか，留学先で取得した単位を一定の範囲で本校の単位として認定するなど体制を整えている。

MSOE (Milwaukee School of Engineering) へは毎年のように夏休み期間中3週間の研修を行っている(資料7-1-④-3)。その中で海外留学について具体的なガイダンスも行っている。その結果，ここ10年で7名の学生がMSOEを含めた外国の大学に留学している(資料7-1-④-4)。なお，こうした留学の際に，英語表記のシラバスといった必要書類を整えた(資料7-1-④-5)。

(分析結果とその根拠理由) 相応である。資格試験・検定試験や外国留学などの成果を単位として認定する制度を整えている。

こうしたものへの支援のために，図書館も蔵書を整備している(資料7-1-④-6)。

資料7-1-④-1：学生の資格試験等への本校教職員の関わり

From: suguro@la.numazu-ct.ac.jp (勝呂 謙)
Date: Thu, 28 Apr 2005 12:19:05 +0900
To: MOCHIZUKI Kouji <mochizuki-k@numazu-ct.ac.jp>

スグロです。
数十年來英検の面倒をしています。(一部略)

英検は一年に3回実施されるのですが，本校では6月と10月の2回，準会場として実施しています。(一部略)

この5年間のデータを記します。

平成12年度		
第一回(6月)	2級	17人志願して，3人合格
	準2級	16人志願して，8人合格
第二回(10月)	2級	24人志願して，6人合格
	準2級	39人志願して，24人合格
平成13年度		
第一回(6月)	2級	14人志願して，合格者ゼロ
	準2級	18人志願して，13人合格
第二回(10月)	2級	12人志願して，1人合格
	準2級	27人志願して，19人合格
平成14年度		
第一回(6月)	2級	6人志願して，1人合格
	準2級	17人志願して，5人合格
第二回(10月)	2級	20人志願して，8人合格
	準2級	34人志願して，19人合格
平成15年度		
第一回(6月)	2級	9人志願して，3人合格
	準2級	15人志願して，11人合格
第二回(10月)	2級	6人志願して，2人合格
	準2級	4人志願して，2人合格

前ページからの続き

(資料 7-1-④-1 : 学生の資格試験等への本校教職員の関わり)

平成 16 年度
 第一回 (6月) 2級 6人志願して, 合格者ゼロ
 準2級 12人志願して, 5人合格
 第二回 (10月) 2級 9人志願して, 1人合格
 準2級 18人志願して, 11人合格

以上のほか, この 5 年間に, 準 1 級を受けた人が延べで 10 人いて, 4 人合格しています。また 3 級は 3 人が受けて 3 人とも合格しています。

(一部略)

From: suguro@la.numazu-ct.ac.jp (勝呂 譔)

追伸です。勝呂です。
 実際の仕事は次のとおりです。
 ポスター貼り。受験申し込み書を学生に配る。
 申し込み書とお金を集める。必要な手続きをして送金。
 学校に頼んで会場(教室)を借りる。
 送られてくる受験票を志願者に配る。
 試験監督。答案送付。模範解答を作って壁に張り出す。
 一次合格者に面接(二次)の指導。
 合格証書の配布。

(出典：英語担当教員からのメール(一部削除))

From: Kenji Nishimura <nisimura@numazu-ct.ac.jp>
 Date: Mon, 02 May 2005 12:11:50 +0900
 To: mochizuki-k

(一部略)
 西村@今年度の工業英検担当です

(一部略)
 工業英検については, だいたい以下の通りとなります。
 体裁の調整は必要に応じて勝手にやってもらっていいように構いません。

見出し
 ・ 年間の実施回数
 2. 担当者の仕事
 3. 本学での取り扱い
 4. 実績

・ 年間の実施回数
 工業英検は年に 3 回実施されていて, 本校でもそれに準じて行っている。
 例年おおよそ 5 月, 11 月, 1 月の下旬に予定されている。

2. 担当者の仕事
 担当者は 2 人で,
 ・ 協会から送付されたポスター以外に
 ・ 具体的な内容を伝えるポスターを作成して掲示する。
 ・ 出願者を取りまとめて, 学校単位で一括して出願手続きを取る。
 ・ 試験会場の確保や会場設営を行う。
 ・ 過去の問題を閲覧したり, トレーニングしたりできるように問題用紙,
 解答用紙を常備している。
 ・ 受験票や可否結果の公表, 合格通知の配布を行う。
 などの業務を担当している。

3. 本学での取り扱い
 本検定の合格者は, 申請すれば本校の単位としても認定される。

4. 実績
 可否結果については, 時期によってばらつきが多いが,
 H16 年度実績では, 合格者/受験者が
 5 月 2 級 0/1 人, 3 級 2/11 人, 4 級 1/2 人
 11 月 2 級 2/5 人, 3 級 13/23 人, 4 級 28/34 人
 1 月 2 級 1 月は実施しない, 3 級 2/5 人, 4 級 15/16 人
 ただし欠席は総数に含めた。

(出典：工業英検担当教員からのメール(一部削除))

前ページからの続き

(資料 7-1-④-1 : 学生の資格試験等への本校教職員の関わり)

From: Kiyomi OHKUBO <ohkubo@la.numazu-ct.ac.jp>
Date: Wed, 27 Apr 2005 14:09:23 +0900
To: mochizuki-k

・ 一部略*
大久保@ドイツ語です。

2002年度合格者
4級=E 5 : 1名, S 5 : 1名, C 5 : 3名 (合計5名)

2003年度合格者
3級=C 5 : 1名
4級=E 5 : 1名, S 5 : 3名, C 5 : 1名 (合計6名)

2004年度合格者
4級=S 5 : 2名, C 5 : 2名 (合計4名)

2001年度以前の記録は散逸してしまいましたが、毎年大体5名前後が合格しています。

授業としては、次の科目で独検対策を行っています。

- ・ 4年(後期)自由選択「ドイツ語演習Ⅰ」(1単位)
- ・ 5年(前期)自由選択「ドイツ語演習Ⅱ」(1単位)
- ・ 5年(通年)選択必修「ドイツ語Ⅱ」(2単位)

独検は毎年春秋2回行われています。その都度、校内にポスターを掲示し、受験希望者には願書を配布しています。
以上、よろしくお願いたします。
(一部略)

(出典：ドイツ語担当教員からのメール(一部削除))

Date: Thu, 28 Apr 2005 14:25:54 +0900
From: 青田広史 <aota@cs.numazu-ct.ac.jp>
To: mochizuki-k@numazu-ct.ac.jp

望月先生

センターの青田です。こんにちは。

昨日お電話いただきました件、添付したファイルの通り、
まとめてみました(単なる羅列ですが...)
(一部略)

■情報処理技術者試験関係(担当 青田)

- 通知
 - ・ 学生玄関および総合情報センター内にポスターを掲示する
 - ・ Web上に案内を掲載する
→ <http://www.ccst.numazu-ct.ac.jp/jouhou/jouhou.html>
- 申込
 - ・ 技術者試験センターより案内書・願書を取り寄せ(50部)、受験希望者に配布する
 - ・ 団体扱い(10名から)として申し込みをする(通常20名程度の申し込みがある)
- 教育
 - ・ 練習問題(基本情報技術者試験)をWeb上に掲載し、学生に自由に練習させている
→ <http://www.ccst.numazu-ct.ac.jp/jouhou/practice/>
→ e-learningシステムへの移行を検討中
 - ・ 総合情報センター内のページから試験関係のページへのリンクをはっている
→ <http://www.ccst.numazu-ct.ac.jp/jouhou/jouhou.html>
 - ・ 月刊誌『合格情報処理』(学研)を購読し、学生に自由に閲覧させている
 - ・ 聞きに来た学生には試験の傾向や対策(勉強方法など)をアドバイスしている
- 合格発表
 - ・ 合格者を総合情報センター内の掲示板に掲示する
 - ・ 合格者を総合情報センター内のページに掲載する
 - ・ 合格者に直接メール連絡する
 - ・ 合格者に合格証書を手渡す
- データベース
 - ・ 学内の受験者数および合格者数の統計をとる
 - ・ データをWeb上に公開する
→ <http://www.ccst.numazu-ct.ac.jp/jouhou/data.html>
 - ・ 学内データと受験者(合格者)総データを比較し、Web上に公開する

以上

(出典：情報処理担当職員からのメール(一部削除))

前ページからの続き

(資料7-1-④-1：学生の資格試験等への本校教職員の関わり)

情報処理技術者試験データ

☆平成16年度春期

- 基本情報技術者試験
受験者 18名 合格者 4名 合格率 22.2%
- 初級システムアドミニストレータ
受験者 1名 合格者 1名 合格率 100.0%

☆平成15年度秋期

- 基本情報技術者試験
受験者 17名 合格者 5名 合格率 29.4%
- 初級システムアドミニストレータ
受験者 1名 合格者 1名 合格率 100.0%

☆平成15年度春期

- ソフトウェア開発技術者試験
受験者 2名 合格者 0名 合格率 0.0%
- テクニカルエンジニア(データベース)試験
受験者 1名 合格者 0名 合格率 0.0%
- 基本情報技術者試験
受験者 29名 合格者 7名 合格率 24.1%
- 初級システムアドミニストレータ
受験者 1名 合格者 1名 合格率 100.0%

☆平成14年度秋期

(一部略)

☆平成10年度春期

- 第一種情報処理技術者試験
受験者 7名 合格者 2名 合格率 28.6%
- 第二種情報処理技術者試験
受験者 2名 合格者 0名 合格率 0%

統 計

(以下略)

(出典：情報処理試験の結果(個人情報など一部削除))

<http://www.ccst.numazu-ct.ac.jp/jouhou/data.html>

資料 7-1-④-2 : 技能審査の合格に係る単位修得の認定について

13. 技能審査の合格に係る単位修得の認定について

- 1 学則第 18 条の第 2 項に規定する、その他文部科学大臣が別に定める学修のうち、次の表に掲げる技能審査に合格した学修については、これを本校で履修したものとみなし単位の修得を認定する。次の表以外の学修については、教務委員会で審議の上、年度当初公表する。
- 2 在籍中に得た学修についてのみ単位を認定する。
- 3 認定した単位の評価は A とする。
- 4 単位の認定を受けようとする者は、「単位認定願」を、学級担任を経て、認定を希望する学年の学年末試験が開始される 2 日前までに合格証書の写を添えて校長〔教務係〕に提出しなければならない。
- 5 成績表への記載は、技能審査名、単位数及び評価 A とする。

技能審査名	認定単位数	単位修得学年	科目の種類
実用英語技能検定 1 級	7	単位認定願が承認された学年	一般科目
" 準 1 級	5		
" 2 級	3		
" 準 2 級	1		
工業英語能力検定 1 級	6		専門科目
" 2 級	4		
" 3 級	2		
" 4 級(*)	1		
デジタル技術検定 1 級(情報部門)(制御部門)	4		
" 2 級(情報部門)(制御部門)	2		
" 3 級	1		

(注) 下位の審査で単位修得を認定された後に上位の審査に合格した場合は、上位の資格の単位数から下位の資格の単位数を減じた単位数を当該学年の認定単位とする。

(*) 平成16年度入学生から 1～3 学年取得のみ認定

(出典：平成17年度学生便覧p. 78)

資料 7-1-④-3 : MSOE への研修について

まえがき

1996 年に第 1 回目を実施してスタートした Milwaukee School Of Engineering (MSOE) における海外研修も今年で第 7 回目を実施することができました。昨年度は SARS の世界的流行のため実施を断念しましたが、今年度は男子学生ばかり 9 名(1 年生 1 名、2 年生 1 名、3 年生 4 名、4 年生 3 名)の参加があり、7 月 18 日(日)から 8 月 7 日(土)までの 3 週間で行って参りました。2001 年 9 月 11 日に発生した同時多発テロ、その後のイラク戦争の影響、さらにアテネ・オリンピックの開会を間近に控えていることも手伝って、空港でのセキュリティチェックは非常に厳しく、手荷物の中の小さなハサミを没収されたり、靴まで脱いでチェックされたり、スーツケースの鍵を掛けずに預けるよう指示されたりして往復の飛行機の旅は緊張する場面がありましたが、研修期間中は毎日朝から晩まで楽しい時を過ごして参りました。"You brought good weather here with you." と MSOE の人達から言われたように、ミルウォーキーでは我々が行く数日前までは暑い日が多かったようですが、我々が滞在した 3 週間は日本の秋を思わせるようなすがすがしい毎日でした。東京で 40.5℃を記録したなどのニュースを開くと、我々は 3 週間の快適な時を得たような気がしました。

本研修を毎回引き受けてくれている MSOE の Donna 先生が、今年も革命話のレッス

(出典：平成16年度(第7回)MSOE 紀行文集)

前ページからの続き

(資料 7-1-④-3 : MSOE へ研修について)

**Master the Challenge.
Experience the Rewards.**

Welcome to Milwaukee School of Engineering.

If you want an education from a university that:

- provides individualized attention from faculty in small classes
- provides the basis for a rewarding career with impressive starting salaries
- includes challenging, real-world experiences and opportunities
- is well respected and sought after by employers (97% placement rate)
- offers a small college feeling within an exciting city environment; and
- guarantees graduation in four years for on-track students ...

You've come to the right place.

Enjoy your visit to our Web site, and please [let us know](#) if we can help you.

Lifelong Learning Open House  **Evening Classes**





Comments to webmaster@msoe.edu
 © 2005 Milwaukee School of Engineering
 1025 North Broadway
 Milwaukee, WI 53202-3109
 (800) 332-6763

- Privacy Policy -

(出典 : MSOE のウェブサイト)

<http://www.msOE.edu/>

資料 7-1-④-4 : 卒業時に留学希望だった学生の留学状況

当該学生の卒業	留学先または備考
・平成17年3月	2005年10月からの留学に向けて努力中
・平成16年3月	College of the Desert, California 92260 (在学中。卒業後はUniversityへの進学を希望)
・平成14年3月	不明
・平成14年3月	Milwaukee School of Engineering (MSOE) (2005年9月同校卒業予定。就職の内定済み)
・平成13年3月	不明
・平成10年3月	Northern Arizona University; Flagstaff, Arizona (Intensive English & Undergraduate Core Requirements) (August 1998 - May 1999) Iowa State University; Ames, Iowa (Computer Engineering) (August 1999 - May 2002)
・平成7年3月	3ヶ月の海外語学留学実施(留学先不明)

(出典：各科の学科長から)

資料 7-1-④-5 : 英語のカリキュラム表とシラバス

平成14年度 教育課程表
Curriculum (April 2002 to March 2003)

電気電子工学科 Department of Electrical and Electronics Engineering								
注: H13年度学生便覧p.21(1-4年生=H11-入学), p.22(5年生=H10入学から)								
	授業科目 Subject	単位 Credits	学年別配当 Grades					備考 Remarks
			1	2	3	4	5	
必修 Required	応用数学A Applied Mathematics A	2				2		
	応用数学B Applied Mathematics B	2				2		
	応用物理 Applied Physics	4			2	2		
	電磁気 Electro-magnetism	6			2	2	2	
	直流回路 Electric Circuit Theory	2	2					
	回路理論 Circuit Theory	6			2	2 e	2 e	
	回路網理論	2						2
	図学・製図 Drawing & Drafting	2	2					
	情報処理基礎 Introduction to Information Processing	2	2					
	ロジック回路 Logic Circuit	2		2				
	プログラミング Computer Programming	2			2 e			
	コンピュータ工学 Computer Engineering	1				1 e		
	通信工学 Communication Engineering	2				2 e		
	情報理論 Information Theory	2					2 e	
	電子回路 Electronic Circuit	4			2 e	2 e		
	電子回路設計 Design of Electronic Circuit	1					1 e	
	電子材料 Electronic Materials	2				2 e		
	気体電子工学 Gaseous Electronics	2				2 e		
	固体電子工学 Solid State Electronics	2					2 e	
	マイクロ波工学 Microwave Engineering	2					2 e	
	電気電子計測 Electrical & Electronic Instrumentation	2			2 e			
	機械工学概論 Introduction to Mechanical Engineering	2		2			2	(E5ぶんじま, H14年度まで実施)
	電気電子機器 Electric Machines	2			2 e			
	パワーエレクトロニクス Power-electronics	1					1 e	
	自動制御 Automatic Control	1				1		
制御工学 Control Engineering	2					2 e		
電力工学 Power engineering	2					2 e		
工業英語 Technical English	1					1	(H15年度から開講。E13年度までE4で実施)	
電気電子工学実験 Experiments in Electrical & Electronics Engineering	17	1	4 e	4	4	4 e		
卒業研究 Study for Graduation	8					8 MTZK		
新エネルギー工学 Alternative Energy Engineering	1				1	1	4年または5年で履修可	
CAD・回路シミュレーション演習 CAD and circuit simulator								

(出典：電気電子工学科)

注：“e”のついた科目には英語のシラバスも用意されている

前ページからの続き

(資料 7-1-④-5 : 英語のカリキュラム表とシラバス)

E4 電子材料 望月孔二

Subject	Electronic Materials
Academic year	4th
Credit	2 (30 weeks)
Lecture Hours per Week	2
Lab Hours per Week	0

The objective of this course is acquirement of electronic materials.

#	Title	Subject
1.	Introduction	Application of electronic materials
2.	Basic theory-I	Crystal structure
3.	Basic theory-II	Schrodinger equation
4.	Basic theory-III	Behavior of electron in potential well
5.	Basic theory-IV	Statistics
6.	Basic theory-V	Energy band
7.	Exercises	
8.	Conduction-I	Conductivity of metals
9.	Conduction-II	Conductivity in magnetic field
10.	Semiconductor Intro. -I	Summary
11.	Semiconductor Intro. -II	Intrinsic, p-type, n-type
12.	Semiconductor Intro. -III	Device process
13.	Semiconductor-I	Fermi energy and carrier concentration:intrinsic
14.	Semiconductor-II	Fermi energy and carrier concentration:n/p-type
15.	Examination	
16.	Semiconductor-III	Optical property
17.	Semiconductor-IV	Current density equations
18.	Semiconductor-V	Continuity equations
19.	Diode-I	P-N junction
20.	Diode-II	Variable capacitance diode
21.	Diode-III	Light emit diode
22.	Diode-IV	Other diode (Esaki, IMPAT, Solar cell)
23.	Exercises	
24.	Transistor	Bipolar transistor
25.	Transistor	FET
26.	Magnetic materials-I	Theory
27.	Magnetic materials-II	Devices
28.	Dielectric materials-I	Theory
29.	Dielectric materials-II	Devices
30.	Final examination	

(出典：電気電子工学科)

以上 2 点の資料は平成14年10月に学生が米国に留学した際に整備

資料 7-1-④-6 : 資格取得などを支援する図書館の蔵書

検索結果: 23冊

チェック	番号	書名	著訳編者	出版社	出版年
<input type="checkbox"/>	1	TOEFL・TOEIC日本人の英語力	鳥飼玖美子	講談社	
<input type="checkbox"/>	2	TOEIC OFFICIAL TEST- PREPARATION GUIDE	BO ARBOGAST [& OTHERS]	PETERSON'S	
<input type="checkbox"/>	3	TOEIC TEST英文法出るとこだけ!	小石裕子著	アルク	
<input type="checkbox"/>	4	TOEIC TEST模擬試験パーフェクト攻略	松野守峰	桐原書店	
<input type="checkbox"/>	5	TOEIC official test- preparation guide	Bo Arbogast ... [et al.]	Peterson's	
<input type="checkbox"/>	6	TOEICの英語	長崎玄弥	荒竹出版	
<input type="checkbox"/>	7	TOEICテストボキャブラリー	藤浦文夫	オーム社	
<input type="checkbox"/>	8	TOEICテストリスニング	井洋次郎	オーム社	
<input type="checkbox"/>	9	TOEICテスト完全総合対策		マクミラン ランゲージハウス	
<input type="checkbox"/>	10	TOEICテスト完全模擬問題集	三枝幸夫 監修	ジャパントイムズ	

(出典: 沼津高専図書検索システムにて, 「TOEIC」で抽出した蔵書)

検索結果: 54冊

チェック	番号	書名	著訳編者	出版社	出版年
<input type="checkbox"/>	1	初級情報処理技術者育成指針	日本情報処理開発センター	日刊工業新聞社	
<input type="checkbox"/>	2	初級情報処理技術者育成指針	日本情報処理開発センター 編	日刊工業新聞社	
<input type="checkbox"/>	3	初級情報処理技術者育成指針	日本情報処理開発センター 編	日刊工業新聞社	
<input type="checkbox"/>	4	昭和55年度情報処理技術者試験問題集(第2種)	日本情報処理開発協会		
<input type="checkbox"/>	5	詳解・第1種情報処理技術者既往問題集	オーム社 編	オーム社	
<input type="checkbox"/>	6	詳解・第1種情報処理技術者既往問題集	オーム社 編	オーム社	
<input type="checkbox"/>	7	詳解・第1種情報処理技術者既往問題集	オーム社 編	オーム社	
<input type="checkbox"/>	8	詳解・第2種情報処理技術者既往問題集	オーム社 編	オーム社	
<input type="checkbox"/>	9	詳解・第2種情報処理技術者既往問題集	オーム社 編	オーム社	
<input type="checkbox"/>	10	詳解・第2種情報処理技術者既往問題集	オーム社 編	オーム社	

(出典: 同システムにて, 「情報処理技術者」で抽出した蔵書)

観点 7-1-⑤: 特別な支援が必要な者(例えば, 留学生, 編入学生, 社会人学生, 障害を持つ学生等が考えられる)がいる場合, 学習支援体制が整備され, 機能しているか。

(観点に係る状況) 外国人留学生に関しては, 国際交流委員会に外国人留学生部会を設け, 諸課題について検討しているほか, 全員に担当指導教員(資料 7-1-⑤-1)及び学生チューター(資料 7-1-⑤-2)を割り当て, きめ細かい支援を行っている。また, カリキュラムについても, 一部特別な編成にしている(資料 7-1-⑤-3)。なお, 留学生の日本語能力については, 本校への留学が決まった後に東京で1年間(マレーシア政府派遣留学生は本国で1年以上)の日本語教育を受けている上にチューターの支援もあり, 特に問題になったことはない。

編入学生に関しては, もともと本校の授業についていけるかどうか判断するために編入学試験を行っているが(資料 7-1-⑤-4), 試験に合格した直後に学生に対し, 科目担当教員から入学までの課題(資料 7-1-⑤-5)を与えて事前準備をさせることによって入学後のスムーズな受け込みに配慮しているほか, 入学後も補習や一部特別なカリキュラムを用意するな

どの支援を行っている（資料7-1-⑤-6）。

社会人学生や障害を持つ学生は現在在籍していないが、入学する者があった場合に備えて、指導担当教員の割り当てや補習の実施などの対応が可能である。また、教務としての申し合わせに「身体的ハンディキャップを持つ学生には、クラス担任がクラス員からチューター学生(複数)を選び、対応する」があり、適切に対応する用意がされている。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。留学生・編入学生ともに可能な限りの配慮をして学習支援を行っており、優れていると判断できる。

資料7-1-⑤-1：留学生を支援する担当教職員

国際交流委員会	○ 久賀重雄, 濱屋進, 野澤正信, 大久保清美, 大賀喬一, 江間敏, 舟田敏雄, 大島茂, 蓮實文彦, 山岸文明, 事務部長庶務課長, 会計課長学生課長(事務), 専門員(学務担当)
国際交流委員会 外国人留学生部会	○ 濱屋進, 野澤正信, 大久保清美, 大賀喬一, 江間敏, 舟田敏雄, 大島茂, 蓮實文彦, 山岸文明, (M), 永禮哲生, 高野明夫, 大原順一, 鄭萬溶, 長谷賢治, 鈴木茂樹, 後藤孝信, 新富雅仁, 水口好美, 村上真理, (事務) 専門員(学務担当)
外国人留学生指導教員	(M), 永禮哲生, 高野明夫, 舟田敏雄, 大原順一, 鄭萬溶, 長谷賢治, 鈴木茂樹, 後藤孝信

(出典：平成17年度委員会名簿)

直接 <http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/2005/iinkai17.pdf>

各種名簿のもくじ <http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/meibotou.htm>

資料 7-1-⑤-3 : 留学生や編入学生のためのカリキュラム整備

学科	科目名	単位数の学年別配当			備考
		3年	4年	5年	
一般教養	日本語	2	2	1	外国人留学生は、国語、文学特論、歴史、「国際理解」の振り替え科目として履修しなければならない。
	日本事情	2	2		
	数学演習(1)*1	2			
	物理学演習	2			外国人留学生はこの科目を履修できる。
	数学演習(2)*2		2		高校からの編入学生はこの科目を履修しなければならない。
機械工学科	機械工学演習I		2		編入生、留学生が履修できる。
	機械工学演習II			2	留学生が履修できる。
	応用物理概論		1		編入生が履修できる。
電気電子工学科	応用物理概論		1		編入生が履修できる。
電子制御工学科	電子制御工学基礎演習	2			留学生が履修できる。(集中講義)
	電子制御工学演習B		2		
	電子制御工学応用演習		2		
	電子制御工学演習A		2		編入生が履修できる。(集中講義)*3
	物理学演習			2	
物質工学科	応用物理概論		1		編入生が履修できる。
	基礎分析化学実験	1	1		留学生(3年), 編入生(4年)(必修・集中)
	基礎有機化学実験		1		編入生が履修する。(必修・集中)

*1 年次進行により、学年によって呼び名が異なる。

*2 平成17年度5年生まで実施。

*3 今年度は編入生がいないために実施せず。

(出典：平成17年度学生便覧pp. 17-38 (カリキュラム表) から抜粋整理)

資料7-1-⑤-4：編入学生募集要項

6. 選 抜 方 法

編入学生の選抜は、学力検査、調査書及び面接等の結果を総合して行う。

学力検査

共通科目

検査科目	出 題 範 囲	配 点
数 学	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ	100点
英 語	英語Ⅰ・英語Ⅱ(第3学年第1学期終了程度)	100点

専門科目

志願学科	検査科目及び出題範囲	配 点
機 械 工 学 科	物理Ⅰ(波・運動とエネルギー) 物理Ⅱ(力と運動・電気と磁気)	100点
電 気 電 子 工 学 科	電気基礎	200点
電 子 制 御 工 学 科	物理Ⅰ(波・運動とエネルギー) 物理Ⅱ(力と運動・電気と磁気) 電気基礎	100点
制 御 情 報 工 学 科	物理Ⅰ・物理Ⅱ(力と運動・電気と磁気) ※	100点
物 質 工 学 科	化学Ⅰ・化学Ⅱ(課題研究を除く)	200点

注※「物理Ⅰ」は全範囲、
「物理Ⅱ」は(力と運動・電気と磁気)が範囲となります。

7. 検 査 日 時

期 日	時 間			
8月4日(木)	9:20~10:50	11:10~12:10	13:00~14:30	15:30~
	数 学	英 語	専門科目	面 接

8. 検 査 場 所

沼津工業高等専門学校

(出典：平成18年度編入学生募集要項)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/daa96mk/bosyu05/hennyu/body.pdf>

資料 7-1-⑤-5 : 編入学生への、入学までの特別な支援

・ 英語のガイダンスと課題

教材：チャート式 LEARNERS' (ラーナーズ) 高校英語
新訂版 (数研)

はじめに：工業高校から高専に編入して来る方は語学（英語とドイツ語）に一番苦労すると思います。高専生も一般の高校生（普通科）と比べると英語の力が格段に劣る（ゆえに大学編入後に苦労する）というのが定評ですから、それほど恐れる必要はありません。しかしせっかく入学したのに4年の前期あたりで早々とつまずいてしまって専門の勉強もままならないというのでは残念です。高専生活を順調に滑り出すためにも、入学までに、現高専生の下の方のレベルぐらいまでには達してきてください。何をやればいいのかというと、「語彙（単語力）」と「文法・構文の知識」の修得です。以下に指定した手順でコツコツと課題をこなせば、いつの間にか要求される程度までには英語が身につけているはずですよ。

毎月、月末までに勉強の成果をレポートで提出してください。

- 1) 9月末までに、p. 47まで勉強する。
- 2) 10月 " p. 91 "
- 3) 11月 " p. 141 "
- 4) 12月 " p. 200 "
- 5) 1月 " p. 226 "
- 6) 2月 " p. 284 "
- 7) 3月 " p. 343 " (*この3月分については4月の入学のとき直接提出すればよい)

中略

どんな風にレポートを書けばいいか説明します。

レポートにするのはすべてのREVIEW (レビュー) と章末問題の問題と答です。

- (例1) p.22 REVIEW 1-1 書く
- 次の各文を否定文に書き換えなさい。 書く
- 1) My brother is a musician. 書く
- My brother is not a musician.* } 書く
- 私の兄は音楽家ではありません。
- *このように必ずfull sentence (一文全体) を書き、文章の意味を日本語で添える。

- (例2) p.25 REVIEW 1-3 書く
- 次の各文の()内に適当な語を入れ、付加疑問文にしなさい。 書く
- 1) Ken didn't join the baseball club. () he? 書く
- Ken didn't join the baseball club, (did) he?* } 書く
- Kenは野球部には入らなかったのか。
- *解答欄にあるようにただdidとだけ書くのではなく、上のように、面倒でもfull sentenceを書き、できたら原文の和訳を添える。

中略

それでは他の必要なことを記します。

- a. A4サイズのレポート用紙を使うこと。
- b. 丁寧な字で、できるだけ漢字を使い、なるべく濃く書くこと。
- c. 毎回指定された期日(月末)までに、決められた分量だけ送ること。(*当日消印有効)
- d. 教務係へ直接持参、または友人等を介して提出するの可。
- e. 封筒はA4版の大型封筒を使うこと。
- f. 宛先は 〒410-8501 沼津高専 勝呂 譲 宛
(* 学校の住所は 沼津市 大岡 3600ですが、専用の郵便番号なので住所を書く必要はありません)
- g. 質問等は上記勝呂宛にe-mailで: suguro@numazu-ct.ac.jp

(出典：編入学生へのガイダンス資料)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑤-5 : 編入学生への, 入学までの特別な支援)

- ・ 応用数学のガイダンスと課題

平成17年度編入学予定者の皆さんへ

数学からのお願い。

編入学試験合格おめでとうございます。

皆さんは沼津高専で使われている教科書と問題集を今日購入されたと思います。

高等学校では専門学科によって受講する数学の内容が異なっているかもしれませんが、高専では3年までは、機械、電気電子、電子制御、制御情報、物質工学科、全5学科で同じ内容を教えています。教科書で申しますと基礎数学、線形代数、微分積分Ⅰ、微分積分Ⅱ以上すべてを3年間で教えています。微分積分Ⅱの内容:偏微分、重積分、微分方程式などは普通、大学で教える内容ですが高専では3年で教えています。

内容の多さに驚かれたことと思いますが、高専では設立以来ずっと同じ内容を教えています。来年4月までに以上の内容をマスターするようがんばってください。そこで必ずマスターしなければいけないところを4月までの課題といたします。

課題

教科書、基礎数学、線形代数、微分積分Ⅰ、以上3冊のすべての問と微分積分Ⅱの微分方程式の問を実際に解いて、ノートにまとめてください。
特に微分と積分、微分方程式が重要です。
そのノートは4月の応用数学A(応用数学I)の最初の授業時に先生に提出してください。

注)この課題の提出は入学後の単位に何ら関係ありません。
皆さんの実力向上を願ってのものです。

これだけのことをやっておけば、数学、専門科目での編入学後の苦労は少しは減るでしょう。
もちろん、これ以上の問題をこなし、問題集もやることを大いに勧めます。

なお、分からないところ、質問等がありましたら沼津高専 数学 谷 まで問い合わせてください。
手紙でも、メールでも結構です。諸君の頑張りを期待しています。
メール:tani@numazu-ct.ac.jp

(出典：編入学生へのガイダンス資料)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑤-5 : 編入学生への, 入学までの特別な支援)

・ 応用物理のガイダンス

平成16年8月23日

平成17年度編入生の皆さんへ

物理・応用物理のガイダンスと課題について

教養科物理担当教官：勝山智男，住吉光介，鈴木克彦

[1] 高専3年までの物理科目

皆さんと同学年の高専生は、3年生年度末（平成17年3月）までに、下記の内容を学んでいます。（数字は1週間の時間数を示す：1時間は50分で通常2時間が1コマ）

1年物理：前期2、後期2

2年物理：前期3、後期3

2年間で、高校の物理教科書を使い、「運動の表し方，力，運動の法則，運動量の保存と衝突，エネルギーの保存，熱，電荷と電場，電流による磁場，電磁誘導と電磁波，音，光」などを学習しています。教科書は実教出版の「物理 I, II」を使っています。

なお、2年物理のうちの3分の1は物理実験にあてられています。

3年応用物理：前期2、後期2（MESC科）

大学1年教養課程の物理「科学者と技術者のための物理学 Ia, Ib 力学・波動」（学術図書出版、サーウェイ著）の、主に力学の部分

*注意：学科により、学習範囲などが異なっている場合があります。

これらは普通の高校で行われる物理教育よりも内容も進んでいて、時間も多いです。従って4年次に編入して応用物理の授業や専門の授業を受ける上で基礎となる部分を前もって自分で補っておく必要があります。

上述の科目のうち、3年応用物理の内容を補うため、編入学後4月から編入生に対して「応用物理概論」（前期毎週水曜日放課後予定）が行われますが、この授業はあくまでダイジェスト版であり、それ以前の物理の基礎を前提として行います。

(出典：編入学生へのガイダンス資料)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑤-5 : 編入学生への, 入学までの特別な支援)

- ・ 応用物理の課題

[2]4年編入学までの課題

下記の課題を平成17年4月編入学時までに必ず行っておくこと。

(1) 高校物理 : 全学科共通 :

高校で「物理」を選択している学生は、現在使っている教科書のうち、あなたが高校で学ばない所を全部良く読み理解して、各章の途中にある小問を全部と、各章末の間の奇数番を全問解いてください。(高校で「物理」を選択していない学生は、あなたの高校で現在使われている「物理」の教科書を買って、教科書全体を学習範囲としてください。) わからない所はあなたの高校の物理の先生に教えてもらってください。

これらは4月から始まる「応用物理概説」の授業の初回にそのノートを必ず提出してください。評価の対象になります。

(2) 大学教養物理 : ME S C 科 :

「科学者と技術者のための物理学 Ia, Ib、力学・波動」(学術図書出版、サーウェイ著)の教科書を必ず購入し、1～14章の各章の前半の基礎的部分に目を通しておくこと。

4年での「応用物理概説」や「応用物理」の授業を理解して、ついていくためには、これらの事前の予習が不可欠です。

(出典 : 編入学生へのガイダンス資料)

- ・ 機械工学科 : 基礎材料力学「基礎材料力学」編集委員会著, 槇書店出版の第1章～3章までを読んで理解するように指示する。入学後, 質問事項への解答を求める。

(出典 : 機械工学科)

- ・ 制御情報工学科 : 学科編集のホームワーク資料 (四章構成, 全225ページ) を課す。

(出典 : 制御情報工学科)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑤-5 : 編入学生への, 入学までの特別な支援)

- ・ 物質工学科 : 有機化学に関して, 高専生が使用する教科書のページ範囲と, キーワード11個を指定し, 学習を求める。

2005年度 物質工学科4年次編入学生
「有機化学」入学時までに勉強して欲しいこと

- * 物質工学科3・4年次に使用する教科書 : マクマリー「有機化学概説」
- * 物質工学科3年次までに進行している内容 : 第1章～第5章末 (一部を除いて4年次は第6章から始まる)
- * 絶対に勉強して欲しい基本事項。
 - (1) 原子の電子配置(第1章)
 - (2) 化合物を Lewis 構造で描画できること(第1章)
 - (3) sp²と sp³ 混成軌道の相違を理解していること (第1章)
 - (4) 酸・塩基の定義 : Bronsted-Lowry の定義と Lewis の定義(第1章)
 - (5) 第1章～第5章までに扱われている化合物の命名法が理解されていること。
 - (6) シス、トランス、E、Z-異性体の相違を理解していること(第3章)。
 - (7) 付加、脱離、置換、転位反応の相違を理解していること。
 - (8) 反応速度と平衡を理解していること (第3章)。
 - (9) Markovnikov 則とカルボカチオンの安定性(第4章)
 - (10) 共役ジエンと芳香族化合物の共鳴構造式(第4章)
 - (11) 芳香族化合物の求電子置換反応における置換基効果(第5章)
- * 教科書問題を繰り返し解くこと。

理解できない事項は高校の先生に質問するか、下記の連絡先まで質問してください。

連絡先 : 〒410-8501 沼津市大岡3600
 国立沼津工業高等専門学校・物質工学科
 押川 達夫
 TEL&FAX: 055-926-5804
 e-mail: oshix@numazu-ct.ac.jp

(出典 : 物質工学科)

資料 7-1-⑤-6 : 編入学生への, 入学後の単位にならない授業

クラス	科目名	備考
M 4	編入生用実習 (仮称)	このページに資料
E 4	電気工学基礎	次ページに資料
S 4	プログラミング補講	次ページに資料
C 4	基礎化学工学補講	次々ページに資料

(出典 : 各学科の教育エビデンス)

編入生の補講予定 参加者 1 名

実施日時 : H 1 6 年 7 月 2 0 日 (火) ~ 2 2 日 (木)

- * 作業着と帽子と運動靴は必ず着用する事
- * AM 8 時 5 0 分工場前に集合 (午後 5 分前に集合)

午前 : 9 時 ~ 1 1 時 5 0 分まで

午後 : 1 3 時 ~ 1 5 時 5 0 分まで

7 月 2 0 日 (火)

午前 : 測定 (中川, 佐藤)

ノギス、マイクロメータの取り扱い (外側、内側測定)

午後 : 旋盤 (松本)

旋盤の取り扱いと基本作業 (段削り加工等)

7 月 2 1 日 (水)

午前 : 手仕上げ (中川)

段付きブロックの製作 (ヤスリ、ドリル、タップ)

午後 : フライス加工 (河野)

立フライス盤の取り扱い (T 溝ナットの製作)

7 月 2 2 日 (木)

午前 : 溶接 (佐藤)

溶接器具の取り扱い (ガス溶接、ガス切断、アーク溶接等)

午後 : マシニングセンタ (内野)

基本プログラミングと加工

質疑応答 (N C 室)

(出典 : 機械工学科)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑤-6 : 編入学生への, 入学後の単位にならない授業)

学科 学年	E 4	科目、 分類	電気工学基礎 Introduction to Electrical Engineering	講義、 選択	前期 1 単位	担 当	平林紘治 HIRABAYASHI Hiroharu
【内容と目標】 高校からの編入学生は、本校学生が3年次までに学んだ回路理論の内容において、ギャップがある。このギャップをできるだけ早い時点で解消し、4、5年次の授業についていけるようにする。 そのため、数学の基礎、交流回路及び電磁気の基礎を学習させる 数学：3角関数、ベクトル演算、複素数演算、行列、行列式等、複素数演算 回路理論基礎：交流回路基礎、電圧電流のベクトルへの変換、回路行列等 【教科書等】 回路理論基礎 柳沢健 電気学会編 オーム社、プリント 参考文献：詳解電気回路例題演習(1) 山口、井上、佐藤、西田 コロナ社 【評価方法】 講義の理解度、演習、修了試験の成績を総合して評価する 【関連科目】 数学、電磁気、回路理論、物理							
授 業 計 画							
第1週 3角関数の諸定理と演習、行列の諸定理と演習 第2週 行列式と演習、オームの法則、キルヒホッフの法則の復習 第3週 行列式と演習、オームの法則、キルヒホッフの法則の復習 第4週 正弦波交流のベクトル表示 第5週 R、L、C、R-L、R-C、R-L-C回路の解析 第6週 インピーダンス、アドミッタンス 第7週 回路解析演習 第8週 電力のベクトル表示：有効電力、無効電力、皮相電力、電力ベクトル 第9週 ベクトル軌跡(円線図) 第10週 回路行列：閉路方程式、節点方程式、演習 第11週 マトリクスの線形回路網への応用 第12週 最大電力伝送定理、演習 第13週 修了試験							
【備 考】 集中講義方式で実施する。							

注：このシラバス平成12年度のもの。平成13年度からは非単位となったが、ほぼ同じ内容で毎年授業をしている。なお、これには書かれていないが、電磁気学についても補講を行っている。

(出典：電気電子工学科)

From: Shigeru Oshima <oshima@numazu-ct.ac.jp>

Date: Wed, 29 Jun 2005 14:07:25 +0900

To: MOCHIZUKI Kouji mochizuki-k@numazu-ct.ac.jp

一部略

(回答) 現S4の編入学生に対して、C言語によるプログラミングの補習をしています。不定期ですが、1回2時間程度で4月から現在まで5回ほど実施しました。(担当 鈴木茂樹先生)

一部略

(出典：制御情報工学科)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑤)-6 : 編入学生への、入学後の単位にならない授業)

C4	基礎化学工学補講 [基化工補講] Basic Chemical Engineering	講義	学習教育 目標 B-2	竹口 昌之 TAKEGUCHI Masayuki
概要	化学工学とは、実験室的な化学操作を工業的に応用しようとした場合に必要なる方策を体系化したものである。これは化学プロセスと呼ばれる、物理化学的・電気化学的・機械工学的観点を含めた広い意味での化学変化・生物化学変化を与える生産過程を対象とする。講義ではプロセスを理解するために必要な物質収支・熱収支をはじめ流体・熱移動を中心に述べる。			
科目目標 (到達目標)	基礎化学工学は、実験室規模で開発された化学プロセスを、大量生産施設である工場生産規模に応用拡大する技術であるので、パイプラインを用いた輸送、ヒーターや熱媒体を用いた熱交換器が的確に行えるように各部装置(ユニット、単位)の設計法習得を目標とする。そのため、流動・伝熱をはじめ、拡散分離・機械的分離を学ぶ。基礎化学工学では基礎となる物質収支、エネルギー収支を理解した上で流動と伝熱について学ぶ。			
教科書 器材等	教科書：新版 化学工学 一解説と演習－ 化学工学会編 槇書店			
評価の基準と 方法	定期試験60%、演習40%の割合で評価をおこなう。			
関連科目	化学工学1、化学工学2、化学工学3、反応工学、プロセス制御、化学工学実験			
第 1回 (4/23)	単位と単位換算 次元解析による実験式の作成		演習問題 演習問題	
第 2回 (5/ 7)	物質収支による未知量の推算		演習問題	
第 3回 (5/14)	流体の流れとレイノルズ数(層流・乱流) 流体の輸送・流体の管内摩擦損失		演習問題	
第 4回 (5/21)	流速・流量測定法		演習問題	
第 5回 (5/28)	総括伝熱係数の計算法		演習問題	
第 6回 (6/11)	試験			
オフィス アワー	水曜日16時30分より			
備考				

注：この科目はシラバスと同じ形式で書かれているが、非単位のもの。

(出典：物質工学科)

観点 7-1-⑥：学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 学生会及び各運動部・文化部などの課外活動に関しては、それぞれ顧問教員(資料 7-1-⑥-1) が割り当てられ、指導・助言が行われているほか(資料 7-1-⑥-2)、校長補佐(学生主事)を委員長とする厚生補導委員会や、クラブ顧問会議において、定期的に諸課題の報告・検討が行われている(資料 7-1-⑥-3)。また、学生課学生係による事務的支援も行われている(資料 7-1-⑥-4)。経費は全学生から徴収した学生会費によって賄われ、必要に応じて運営費交付金及び教育後援会からの援助も行われている(資料 7-1-⑥-5)。

学生の帰省先が広範囲にわたる本校では、長期休業中のクラブ活動も活発に行えるよう、男子運動部等によるクラブ活動のようにチームワーク教育を重視する際は合宿所を、卒業研究を目的としたものや女子学生のためには寮の一部を宿泊所として使用している。利用者の少ない期間もあるが、健康維持のため学生食堂が営業するようにした。また、期間中は宿直担当者も割り振って学生の指導や健康に注意を払っている(資料 7-1-⑥-6)。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。校長補佐(学生主事)を中心とした学生主事補・クラブ顧問教員・学生課職員等による人的支援、及び運営費交付金及び教育後援会による財政支援が適切に行われており、学生の組織的活動が自主的に活動できる環境が整っている。

資料 7-1-⑥-1：学生会・クラブ・同好会顧問教員表

平成 17 年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧問教員名				
陸上競技部	渡邊志保美	大久保清美	牛丸 真司	野澤 正信		
ソフトテニス部	塩谷 三徳	佐藤 崇徳	住吉 光介			
バレーボール部	高野 明夫	加藤 繁				
バスケットボール部	遠山 和之	西村 賢治				
野球部	大久保進也	鈴木 克彦	勝山 智男	蘆科 知之	渡辺 敦雄	藤井 敦馬
卓球部	高橋 儀男	勝呂 譲				
柔道部	西垣 誠一	吉野龍太郎	松澤 寛			
剣道部	遠藤 良樹	谷 次雄	佐藤 志保			
サッカー部	平田陽一郎	押川 達夫	永禮 哲生	大石加奈子	江上 親宏	
ラグビー部	井上 聡	里下 清志	都 薫彦	小林 隆志		

(出典：本校学内限定ウェブサイト、各種名簿情報)

http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/2005/kurabu_doukoukai_komon.pdf

資料 7-1-⑥-2 : 学生会・クラブ等指導の記録

学生会顧問(学生会本部担当)引き継ぎ資料

学生会顧問 小林美学

学生会顧問は、平成 13 年度までは①学生会本部担当、②応援団、スポーツ大会、体育祭担当、③高専祭担当に別れて担当していた。平成 14 年からは顧問教官が 4 名になったので、それまで学生会本部担当者が担当していた文集活動を分離し、①学生会本部担当、②応援団、スポーツ大会、体育祭担当、③高専祭担当、④文集担当とした。この資料は、現担当者が担当した平成 14 年度、15 年度の活動から学生会本部の引き継ぎについてまとめたものである。

1. 組織について

- 資料 1 組織表
- 資料 2 「平成 16 年度学生会役員(案)」

1.1 会長について

会長は選挙で選ばれる。ただし、自ら立候補する学生は少ないので、通常は現役員が次年度役員の仕事を手配してくれるが、念のため夏休みが終わったあたりから次年度会長候補について現役員に聞いてみた方がよい。

1.2 会長以外の役員について

副会長以下の選挙は行われない。会長が自分と仕事をしてくれそうな学生を数人選び、それ以外は募集を行う。1 月末頃には、次年度の体制がほぼ決まる。

1.3 委員会について

- 資料 3 「各委員会人数割りについて」(平成 14 年度)
- 資料 4 「平成 15 年度 委員会割り振り表」

会則第 5 章で定められた 8 つの実行委員会(総務局、書記局、会計局、広報局、広報局、文集委員会、高専祭実行委員会、体育祭実行委員会、風紀美化)と、必要に応じて設けられている特別委員会(応援団、園芸委員会など)がある。

委員長は 2 年生以上であるが、委員はほとんどが 1 年生。御殿場研修で学生会役員が各委員会の仕事内容を説明し、1 年生は全員がいずれかの委員会に所属するように割り当てを決めさせる。本来は 1 年生から 5 年生までが一様に学生会活動に関わるのがよいと思うが、2 年生以上は活動に非協力的であるという考えから、1 年生主体になっているようである。

各委員会の活動状況は、良くも悪くも委員長によるところが大きい。2002 年度は広報委員の活

各委員会の人数は 2002 年度

(出典：学生会活動指導担当者の引継ぎ資料(全 9 ページ)から)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑥-2 : 学生会・クラブ等指導の記録)

From: XXXXXXXX <XXXXXX@numazu-ct.ac.jp>
 To: Nozawa Masanobu <nozawa@1a.numazu-ct.ac.jp>
 Cc: XXXXXXX
 Subject: 報告[学生会活動6月-現時点まで]

学生主事 野沢先生

いつも御世話になっております。学生顧問のXXです。

報告がぎりぎりになってしまい申し訳ございません。

本報告の構成：

- [A] 学生会活動6-7月分の大まかな報告
- [B] その他の動いているプロジェクト：
- [C] 今後（夏休みまで）の予定について：
- [D] その他：お叱りを受けた事柄とその対応：

[A] 学生会活動6-7月分の大まかな報告

以下は、6月から現時点までの活動内容を要約です

(1) フリースロー選手権

日時：6月14日(月)-6月18日(金)12:45-13:00

イベント： フリースロー選手権

企画者： 執行部

内容：フリースローを1人1投行う。勝敗をクラスごとに決め、その成績を得点化する。

得点化された成績は今後の※通年企画に持ち越し、1月の最終通年企画でその通算成績を表彰する。

場所：第1・第2体育館

* 3 3 行削除 *

(6) 定例会

日時： 毎月1回火曜日

イベント： 委員会定例会議

企画者： 各部署長

内容： 各部署に分かれて活動計画を立て、実行に移す

場所： 講義棟全域

[B] その他の動いているプロジェクト：

[1] 「花壇・花畑作り」プロジェクト（園芸委員会）

[2] 「文集」プロジェクト（文集委員会）

印刷業者との接触

[C] 今後（夏休みまで）の予定について：

(1) 壮行会（応援団）

目的：高専大会出場選手の激励。

日時：7/8(Thur.)

場所：グラウンド

内容：

(1) 挨拶

(2) 選手入場

(3) 応援団によるエール

(4) 学生主事のお言葉

(5) 閉会の挨拶

追記：雨天の場合15時30分から校内放送により行う。

(2) 野球応援（応援団・1年生・吹奏楽部・学生会本部）

日時：7/19(Mon.)

[D] その他：

お叱りを受けた事柄とその対応：

(P1) シャワー室の清掃状況の不備

アクション：学生会に対しシャワー室の清掃徹底の指示を出した。

(P2) 掲示物の掲示箇所についてのお叱り

アクション：下記のルールに則って行動するように学生会に指示。

ルール：

前ページからの続き

(資料 7-1-⑥-2 : 学生会・クラブ等指導の記録)

(Rule 1)学生会用掲示板以外には掲示を行わないこと。
 #ただし、高専祭などの特別な行事の場合はこの適用は除外。
 (Rule 2)教室内の掲示も極力減らす。
 (Rule 3)掲示後ある期間を過ぎたものは速やかにはずす。

—

XXXXXX, Department of Control and Computer Engineering,
 Numazu College of Technology
 E-mail: XXXXX@numazu-ct.ac.jp

(出典：厚生補導委員会内メール)

資料 7-1-⑥-3 : 厚生補導委員会等による学生指導・助言の記録

	厚生補導委員会の議題 (概要)
第4回厚生補導委員会 ‘04/8/30	報告：学生指導4名。(今回訓告指導をした中に、沼津高専からの進路を理解できていないことが不安定な生活の一因になっている者がいた。3年生にインターンシップの説明なども含めて、過去の卒業生の進路の説明が必要。スキー研修の中に組み込むことも考えられる。)、交通事故3件、その他 議題1. 生活指導関係 (周辺クリーン作戦, 生地研) 議題2. 交通指導関係 (草刈り作業の指導, 駅P使用法指導, 通学許可証交付に伴う保険の確認, バイク通学許可保留中の2学生の保留解除時期) 議題3. 学生会関係 (野球応援, 夏季合宿, 高専祭準備用の学生の自動車使用) 議題4. その他
第3回厚生補導委員会 ‘04/7/8	学生指導報告 (第2回会議以降の不祥事学生指導 2件) 議題1. 不祥事指導措置フローチャート 議題2. 生活指導関係 (学内外巡視, 学外周辺クリーン作戦, 禁煙指導, ハンドソープの設置, 不審者対策) 議題3. 交通指導関係 (交通指導, 『学生便覧』通学方法関連事項改訂案, 朝の交通指導) 議題4. 学生会関係 (7月8日 (木) 壮行会, 野球応援) 議題5. 研修関係 (3年生スキー合宿研修, 特に学生に積極的に参加させる方を模索中) 議題6. その他

(出典：学内限定ウェブサイト・厚生補導部分から抜粋)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/houkoku/2004/index.html>

前ページからの続き

(資料 7-1-⑥-3 : 厚生補導委員会等による学生指導・助言の記録)

クラブ顧問会議議事録

日 時 : 平成 17 年 5 月 24 日

場 所 : 3 階会議室

1. 平成 17 年度クラブ・同好会強化費予算配分について
 - ・ トライアスロン部・吹奏楽部の基本経費配分がされていないので、予算(案)の見直しをする。
 - ・ 予算配分方針の見直しを今後することになった。
試合参加数の勘案をしてほしい。
部員加入数を積算条件にすることについて再考願いたい。
2. 東京高专定期戦
 - ・ 平成 17 年 6 月 18 日(土)
 - ・ 沼津高专会場競技及び東京高专会場競技
について日程一覧配付
3. その他
 - ・ 夜練について
現状調査する。(アンケート作成:宮内先生・学生課)
 - ・ スキー部の練習場所について
講義棟通路を許可する。
 - ・ 全国高专体育大会時期について
8 月末ならよいと回答する。
 - ・ 技能五輪代替施設について (10/4~12/2)
候補予定施設・愛鷹多目的競技場・香陵グラウンド・香陵体育館
東芝機械体育館
利用希望施設
移動手段をどうするか 等。

(出典:クラブ顧問会議議事録)

資料 7-1-⑥-4 : 学生課職員による学生会活動支援の記録

歳出科目 経理分類 合 計 請求内容				運動場維持費		課外活動関係費		保健管理費	
				支出見込	支出済	支出見込	支出済	支出見込	支出済
				0	178,174	129,725	1,540,018	38,010	705,069
請求番号	請求日	摘 要	備 考						
58	6/23	綿棒 他	全国大会用						
59	6/24	レンズ	写真部			20,000			
60	6/24	弓	弓道部			22,050			
61	6/28	香陵武道場使用料	東海大会			13,200			
62	7/1	筒茶碗 他	茶道部			18,805			
63	7/1	パワースライドラダー	陸上競技部			18,690			
64	7/1	ホイッスル 他	男子バレー部			20,580			
65	7/1	ダイナミックマイク	軽音楽同好会			13,020			
66	7/1	スーパートレーニングボール	卓球部			16,065			
67	7/1	プロテクター	体操部			18,900			
68	7/1	八角素振 他	合気道部			16,485			
69	7/1	硬式ボール	野球部			23,100			
70	7/1	スポーツベンチST180	ハンドボール部			23,100			
71	7/1	リモコン三脚 他	テニス部			15,950			
72	7/1	スポンジボール	テニス部			4,410			
73	7/1	フットサルボール 他	フットサル同好会			21,210			
74	7/1	ブレーキノーツクリーナー 他	トライアスロン部			21,420			
75	7/1	ソフトウェア	囲碁将棋部			12,905			
76	7/2	CD雷込み	全国大会用						
77	7/2	野外天幕点検	全国大会用						
78	7/2	野外天幕修理	全国大会用						
79	7/2	バスケットゴールネット	男子バスケット部			13,650			
80	7/2	ラグビーボール	ラグビー部			20,475			

(出典：学生課学生係)

資料 7-1-⑥-5 : 学生の活動経費に関する資料

平成16年度学生会決算報告書

収入の部

学生会費	¥6,308,000
入会金	¥812,000
前年度繰越金	¥4,335,414
コピー機収入	¥87,097
統計	¥11,842,511

支出の部

	予算	実支出	残高
学生会本部			
物品購入費	¥150,000	¥36,629	¥113,371
租代	¥100,000	¥80,887	¥19,113
コピー機維持費	¥800,000	¥466,534	¥333,466
中部高専交流費	¥100,000	¥31,250	¥68,750
全国高専交流費	¥100,000	¥0	¥100,000
修繕費	¥50,000	¥30,000	¥20,000
小計	¥1,100,000	¥644,300	¥455,700
国益委員会			
花・プランター	¥120,000	¥87,347	¥32,653
応援団			
合宿費	¥250,000	¥122,109	¥127,891
チャリレーン			
物品購入費	¥120,000	¥36,108	¥83,892
高専寮			
高専寮	¥1,500,000	¥2,111,708	¥688,292
執行部			
新入生歓迎金	¥440,000	¥430,661	¥9,339
一日体験入学	¥20,000	¥2,198	¥17,802
遠征・学研企画	¥140,000	¥141,875	¥-1,875
体育寮			
前期体育寮	¥350,000	¥274,467	¥75,533
後期体育寮	¥250,000	¥316,424	¥-66,424
端末管理			
物品購入費	¥200,000	¥140,955	¥59,045
風紀美化			
エプロン・折り紙	¥30,000	¥8,635	¥21,365
文庫委員会			
文集作成費	¥1,000,000	¥48,144	¥951,856
部員会			
クラブ・同好会費	¥1,287,120	¥2,031,410	¥744,290
半額費	¥100,000	¥0	¥100,000
手摺裏			
手摺裏	¥1,708,888	¥712,485	¥996,403
小計	¥4,515,888	¥6,489,631	¥2,026,257
統計	¥16,615,888	¥7,161,611	¥9,454,277

クラブ同好会費内訳

団体名	予算額	実支出額	残高
合気道	¥14,400	¥8,595	¥5,805
空手	¥42,000	¥34,873	¥7,127
柔道	¥80,250	¥80,090	¥160
剣道	¥40,240	¥46,890	¥-6,650
硬式テニス	¥249,438	¥246,410	¥3,028
サッカー	¥153,200	¥153,200	¥0
柔道	¥29,800	¥7,182	¥22,618
写真	¥48,000	¥46,578	¥1,422
柔道	¥31,180	¥12,214	¥18,966
囲碁・将棋	¥53,430	¥86,394	¥-32,964
水泳	¥28,200	¥0	¥28,200
吹奏楽	¥168,000	¥152,316	¥15,684
スノーボード	¥34,700	¥19,818	¥14,882
ソフトテニス	¥24,000	¥24,000	¥0
剣道	¥77,200	¥77,200	¥0
トライアスロン	¥10,000	¥10,000	¥0
男子バスケ	¥78,350	¥78,850	¥-500
バドミントン	¥98,978	¥58,104	¥40,874
男子バレー	¥44,808	¥44,775	¥33
ハンドボール	¥127,300	¥126,513	¥787
野球	¥223,000	¥206,110	¥16,890
ラグビー	¥73,900	¥71,118	¥2,782
陸上	¥28,458	¥0	¥28,458
映画制作	¥13,500	¥0	¥13,500
合唱	¥10,500	¥2,315	¥8,185
調理実習	¥10,000	¥0	¥10,000
同好会			
将棋	¥76,000	¥76,000	¥0
女子バスケ	¥48,500	¥43,478	¥5,022
女子バレー	¥240,000	¥240,000	¥0
ソフトボール	¥41,800	¥33,690	¥8,110
天文	¥18,818	¥18,817	¥1
フットサル	¥7,000	¥0	¥7,000
ロボコン	¥70,000	¥67,816	¥2,184
環境	¥13,100	¥11,210	¥1,890
小計	¥2,287,120	¥2,031,410	¥255,710

総収入	総支出	残高
¥16,640,801	¥7,161,611	¥9,479,190

H16年度会計長

H16年度会計監査代表

内田 唯之介
長澤 真之介

(出典：平成16年度学生会予算決算報告)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑥-5 : 学生の活動経費に関する資料)

平成17年度学生会予算案

収入の部

項目	予算額	人数	小計
学生会費	¥8,000	1053	¥8,318,000
入会費	¥1,000	211	¥211,000
編入生・留学生	¥1,000	12	¥12,000
前年度繰越金	¥3,788,898		¥3,788,898
コピー収入予定	¥500,000		¥500,000
総計			¥10,829,898

支出の部

クラブ・同好会活動費内訳

全体

クラブ	団体名	予算額	部署	項目	予算額	
クラブ	合気道	¥27,200	本部	物品購入費	¥450,000	
	空手	¥55,200		紙代	¥50,000	
	弓道	¥101,860		コピー維持費	¥800,000	
	剣道	¥59,090		中部道専交流会補助	¥35,000	
	柔道テニス	¥155,278		全国道専交流会補助	¥100,000	
	サッカー	¥204,400		庫平費	¥50,000	
	茶道	¥35,600		小計	¥1,280,000	
	写真	¥40,000		福祉美化委員会	交通費	¥15,000
	楽道	¥77,850			小計	¥15,000
	囲碁・将棋	¥49,200			法科	紙代
	水泳	¥40,000	小計	¥50,000		
	吹奏楽	¥238,000	執行部	新入生歓迎会	¥440,000	
	スキー	¥43,000		一日体験入学	¥30,000	
	ソフトテニス	¥40,500		通年・学期企画	¥129,000	
	体操	¥21,283		小計	¥599,000	
	卓球	¥109,592	体育祭実行委員会	前期体育祭	¥300,000	
	トライアスロン	¥52,000		後期体育祭	¥300,000	
	男子バスケット	¥272,000		小計	¥600,000	
	バドミントン	¥61,000	高専祭実行委員会	高専祭	¥2,500,000	
	男子バレー	¥35,000		小計	¥2,500,000	
	ハンドボール	¥104,500	文芸委員会	文芸作成費用	¥800,000	
	野球	¥250,400		小計	¥800,000	
	ラグビー	¥170,900	園芸委員会	花、土、作業用具	¥80,000	
	陸上	¥42,231		小計	¥80,000	
	同好会	音楽	¥7,000	結束管理	物品購入費	¥50,000
理髪同好会		¥15,000	小計		¥50,000	
機械工学		¥18,000	応援部	会費	¥200,000	
経営		¥90,000		物品購入費	¥50,000	
ゴルフ		¥12,700		小計	¥250,000	
女子バスケット		¥36,600	部長会	クラブ・同好会活動費	¥2,588,784	
女子バレー		¥19,800		予備費	¥100,000	
ソフトボール		¥21,800		小計	¥2,688,784	
天文		¥17,000		予備費	¥1,201,336	
フットサル		¥12,000	予備費	小計	¥1,201,336	
ロボコン	¥80,000	小計		¥1,201,336		
合計		¥2,568,784	昨年度文芸祭納金	作年度文芸作成費用	¥755,790	
			小計	小計	¥755,790	
			控計		¥10,829,898	

平成17年度会計長

長池 美世

平成17年度会計監査

内田 晴

(出典：平成17年度学生会予算(案))

前ページからの続き

(資料 7-1-⑥-5 : 学生の活動経費に関する資料)

平成16年度 沼津工業高等専門学校教育後援会決算書

収入の部

科 目	予 算 額	収 入 額	予算額との差	備 考	
項 目					
1. 正会員会費	1. 入 会 金	3,090,000円	3,150,000円	60,000円	*下記参照
	2. 会 費	24,106,000	23,614,000	△492,000	
	3. 過年度会費	0	0	0	
	4. 臨時会費	0	0	0	
2. 賛助会員会費	1. 賛助会員会費	610,000	585,000	△25,000	117名
3. 寄 付 金	1. 寄 附 金	0	0	0	預金利息
4. 雑 収 入	1. 雑 収 入	133	60	△73	
5. 繰 越 金	1. 前年度繰越金	2,087,867	2,087,867	0	
6. 積立金受入	1. 積立金受入	0	0	0	
合 計		29,894,000	29,436,927	△457,073	

【会費】在学者数見積相連 △279,000円 本科 (1,063名-1,051名=12名分)、専攻科 (48名-47名=1名分)
 休学者 △150,500円 本科 (@22,000円×5名+@11,000円×3名)、専攻科 (@7,500×1名)
 退学者 △62,500円 本科 (@22,000円×1名+@11,000円×3名)、専攻科 (@7,500×1名)

支出の部

科 目	予 算 額	流 用	改 予 算 額	支 出 額	残 額	
項 目		増 減(△)額				
1. 事 務 費	1. 諸 給 与	1,319,000円	0円	1,319,000円	1,122,294円	196,706円
	2. 事 務 費	524,000	45,764	569,764	569,764	0
	3. 会 議 諸 費	340,000	30,121	370,121	370,121	0
2. 事 業 費	1. 教育援助費	4,416,000	0	4,416,000	4,077,146	338,854
	2. 課外活動援助費	3,607,000	0	3,607,000	3,089,440	517,560
	3. 体育大会経費	11,548,000	0	11,548,000	11,425,721	122,279
	4. 学生誌・厚生補給費	467,000	0	467,000	315,900	151,100
	5. 学生保健衛生費	12,000	0	12,000	9,350	2,650
	6. 会員との連絡費	369,000	0	369,000	368,550	450
	7. 慶弔記念費	52,000	0	52,000	69,379	△17,379
	8. 研究研修助成費	2,640,000	0	2,640,000	2,193,100	446,900
	9. 進路開拓及び職業進学指導費	160,000	0	160,000	152,570	7,430
	10. 学校紹介費	679,000	0	679,000	450,893	228,107
	11. 渉外補助費	84,000	0	84,000	38,560	45,440
	12. 環境整備助成費	200,000	0	200,000	193,075	6,925
	13. 卒業式関連諸経費	380,000	0	380,000	328,303	51,697
	14. 交 際 費	0	0	0	0	0
3. 積立金	1. 積立金	300,000	0	300,000	300,000	0
4. 学生安全関係費	1. 学生安全関係費	1,620,000	0	1,620,000	1,605,240	14,760
5. 予 備 費	1. 予 備 費	1,177,000	△75,885	1,101,115	0	1,101,115
合 計		29,894,000	0	29,894,000	26,679,406	3,214,594

平成17年度へ繰越額 29,436,927円-26,679,406円=2,757,521円

(出典：教育育後援会予算決算書)

前ページからの続き

(資料7-1-⑥-5：学生の活動経費に関する資料)

16年度クラブ強化費 クラブ内訳

2005/6/24 15:47

クラブ・同好会名	支出日	支分1 支分2 支分3 支分4 支分5 支分6 支分7 支分8 支分9 支分10 支分11 支分12 支分13 支分14 支分15 支分16 支分17 支分18 支分19 支分20 支分21 支分22 支分23 支分24 支分25 支分26 支分27 支分28 支分29 支分30 支分31 支分32 支分33 支分34 支分35 支分36 支分37 支分38 支分39 支分40 支分41 支分42 支分43 支分44 支分45 支分46 支分47 支分48 支分49 支分50 支分51 支分52 支分53 支分54 支分55 支分56 支分57 支分58 支分59 支分60 支分61 支分62 支分63 支分64 支分65 支分66 支分67 支分68 支分69 支分70 支分71 支分72 支分73 支分74 支分75 支分76 支分77 支分78 支分79 支分80 支分81 支分82 支分83 支分84 支分85 支分86 支分87 支分88 支分89 支分90 支分91 支分92 支分93 支分94 支分95 支分96 支分97 支分98 支分99 支分100	予 算										合計	備 考		
			1 教 育 後 援 会												2 国費	3 関係経費
			1 基本経費		2 活動経費										3 謝金	4 謝金
			登録費	参加費	参加費	付添旅費	付添手当	その他	謝金	謝金	付添旅費					
陸上競技 1	1				2,880	3,400							6,280			
	5	55,900		9,500									65,400			
	6				8,780	8,500							17,280			
	16			2,800									2,800			
	17				1,440	1,700							3,140			
	21			1,400	1,440	1,700							4,540			
	23			1,000	1,440	1,700							4,140			
	29				1,440	1,700							3,140			
	30			1,000									1,000			
	34			8,070	1,240	1,700							11,010			
46				2,600	3,400							6,000				
67				1,440	1,700							3,140				
												0				
ソフトテニス 2	1				1,440	5,100							6,540			
	5	10,000											10,000			
	6				1,440	15,300							16,740			
	8									70,000			70,000			
	21				2,880	3,400							6,280			
	29				3,320	10,200							13,520			
												0				
												0				
												0				
男子バレーボール 3	5	29,500		5,000									34,500			
	6				2,560	1,700							4,260			
	13								50,000				50,000			
	16			5,000									5,000			
	17				4,260	3,400							7,660			
	23				2,140	1,700							3,840			
	51								10,000				10,000			
												0				
												0				
男子バスケットボール	3								27,000				27,000			

(出典：学生課学生係，クラブ強化費の内訳)

資料 7-1-⑥-6 : 合宿等長期休業中に学内で活動する学生への支援



(出典：会計課施設係)

長期閉寮中の宿直割振表

平成17年8月

日	曜日	宿直者	巡回者	
1	月	永禮哲生	佐藤志保	
2	火	西垣誠一		一日体験入学
3	水	西村賢治		
4	木	蓮實文彦		
5	金	長谷賢治		
6	土	濱渦允紘	鈴木康人	▼
7	日	平田陽一郎	住吉光介	
8	月	平林紘治	村上真理	編入学合格発表
9	火	藤尾三紀夫		
10	水	川上 誠		
11	木	藤井敦馬		
12	金	竹口昌之		
13	土	渡辺敦雄	瀬尾邦昭	寮事務閉鎖
14	日	西田友久	高野明夫	
15	日	高科知之	渡邊志保美	

(出典：長期閉寮中の宿直割振表)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑥-6 : 合宿等長期休業中に学内で活動する学生への支援)

平成 17 年度夏季合宿マニュアル (説明会資料)

説明会日時 7月5日(火) 16:30～
場 所 第一視聴覚教室

1. 基本事項

該当学生 夏季合宿を行うクラブ・同好会参加学生及び顧問教員
合宿所使用期間 7月16日(土) 9:00～8月31日(火) 10:30
(8/10～16は教職員夏季一斉休業のため対応不可。注意すること。)
指導体制 クラブ・同好会顧問教員及び宿直教員
生活管理 クラブ・同好会による自己管理
料金関係 1日当たり 150円 (風呂代100円・参加基本料50円)

2. 手続関係

合宿練習願 各クラブ・同好会の顧問教員並びに部長連名で各部員の保護者からの合宿参加承認書を添付して学生課学生係に提出する。
合宿食事申込書 各クラブ・同好会単位で合宿期間中の食数を正確に取りまとめたうえ、7月8日(金)までに学生食堂へ提出する。
食数を変更したい場合は食数変更届出用紙(合宿生用)を2日前までに学生食堂に提出する。
合宿として在寮許可されている女子学生の食事申込みは、各クラブ・同好会の合宿食事申込書で提出する。

3. 指導体制

顧問教員 合宿全般にわたる学生指導、合宿期間最終日の立会
宿直教員 毎日 20:00 に点呼 (清峰寮宿直室)
学生係 合宿日課表の受渡し、合宿場所の点検、合宿費用精算

4. 合宿生活上の指導(連絡)事項

- ① 各クラブ・同好会は合宿練習に対して目的を明確にして参加し、目的を達成できるよう専念すること。
- ② 合宿の生活場所は指定された場所(合宿所、合気道場、柔剣道場、尚友会館共用室、)以外の建物には絶対に立ち入らないこと。
特に学寮のトイレ使用は厳禁とする。

(出典：合宿・在寮説明会資料，学生課学生係)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑥-6 : 合宿等長期休業中に学内で活動する学生への支援)

平成 17 年度夏季在寮マニュアル (説明会資料)

説明会日時 7月 5日 (火) 16:30～
場 所 第2視聴覚教室

1. 基本事項

閉寮期間 7月16日(土) 12:00～8月26日(金) 17:00
 [8月10日～16日の間は学校全体が原則夏季休業となる
 ので、寮事務所は担当者がいませんので注意すること。]

在寮許可該当学生 卒業研究等、女子合宿生、留学生
 指導体制 卒研指導教員、女子合宿生のクラブ顧問、留学生顧問教員、
 宿直教員

生活管理 学生側責任者選出による自己管理体制
 料金関係 1日当たり 150円 (風呂代100円・光熱水費50円)
 を期間終了後、寮務係へ支払うこと。

入寮・退寮 入寮・退寮は土曜・日曜・祝日及び夏季休業期間中には行わな
 いこと。

2. 手続関係

在寮申請 所定の申請用紙に必要事項を記入し、指導(クラブ顧問)教員
 の署名を受け、7月8日(金)までに寮務係に提出する。

期間変更申請 所定の申請用紙に必要事項を記入し、指導教員を通じて、3日
 前までに寮務係に届け出て承認を得ること。その際「在寮許可
 書」を提示し、承認印を得、直ちに「棟責任者」へ変更内容を
 伝えること。

外泊申請 原則として認めない。特別の事情がある場合、上記の期間変更
 申請手続きによる。

3. 指導体制

指導(クラブ顧問)教員 最終日に立会い、寮務係及び教務主事への報告
 宿直教員 点呼報告、当直体制「長期閉寮中の宿直について」を参照
 学生側責任者 各棟ごとの在寮責任者(棟責任者)は、寮務係で選出する。
 棟責任者任務

- ・棟責任者日誌の記帳。
- ・20時点呼(留学生を除く)の結果を宿直教員へ報告する【点呼報告用紙】。
- ・廊下、共有エリアの清潔確認。
- ・1日1度は、寮務係へ出向くこと。
- ・責任期間満了時には、次期「棟責任者」へ確実に申し送りをする
 こと。
- ・「棟責任者」の変更：元の「棟責任者」が事前に寮務係へ届出
 るとともに在寮生へ周知させること。

(出典：合宿・在寮説明会資料，学生課寮務係)

前ページからの続き

(資料 7-1-⑥-6 : 合宿等長期休業中に学内で活動する学生への支援)

沼津高専学生食堂夏休み中の合宿食事について

日本ゼネラルフード㈱

1. 合宿中の食事対応期間 7月16日～8月31日朝食まで

2. 喫食時間

○ 合宿生

朝食 7:30 ～ 8:15

昼食 11:30 ～ 12:15

夕食 16:30 ～ 17:15

○ 在寮生

朝食 8:15 ～ 9:30

昼食 12:15 ～ 13:00

夕食 17:15 ～ 18:00

※ 各食事については、合宿生と在寮生の方々が交代で喫食しますので、食事時間は厳守して下さい。

練習等で食事時間が遅くなる場合は、必ず事前に学生食堂までご連絡下さい。

連絡先 学生食堂 (日本ゼネラルフード㈱) 055-920-9810
担当 木村・福田

3. 食事料金について

○ 朝食 370円

○ 昼食 430円

○ 夕食 430円

4. 食事の申込について

① 合宿生 所定の合宿食事申込書に、責任者の方が各食の総食数を曜日ごとに記入のうえ学生食堂まで提出して下さい。

② 在寮生 所定の食事申込書に、曜日ごと各食について○をつけて学生食堂まで提出して下さい。

③ 申込期限 7月8日(金)までに申込んで下さい。

(出典：合宿・在寮説明会資料，学生食堂(対応担当学生課学生係))

観点 7-2-①：学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 学生の生活に関しては、厚生補導委員会による学校全体的なもの(資料7-2-①-1)、学級担任(準学士課程)(資料7-2-①-2)あるいは指導担当教員(専攻科課程)(資料7-2-①-3)による日常的な個々に行われるものが根幹である。また、健康維持のために保健室には看護師が常勤している(資料7-2-①-4)。

更にきめ細かい相談、助言のため、スクールカウンセラーを委嘱し、学生の悩みなどに専門的に対応している(資料7-2-①-5)。なお、同カウンセラーはクラス運営に関する担任からの相談にも対応している。

学生生活支援室は、平成16年度から設けられた組織であり、カウンセラーと看護師を含む教職員によって、本科の学生の様々な問題に対する相談及び援助等を行っている(資料7-2-①-6)。このほか、専攻科学生支援室(専攻科課程)(資料7-2-①-7)あるいはセクシャルハラスメント相談室(資料7-2-①-8)が設置されていることなど、組織的に生活に関する指導・相談・助言を行う体制が整えられている。セクシャルハラスメント相談室においても、相談を受けた実績があり、機能しているといえる。

本校が属する地域における、高等学校間の生徒指導連絡協議会である沼駿地区生徒指導研究協議会(通称、生地研)には、平成14年度から加わっている。地域全体での街頭補導に参加したり、近隣高等学校との情報交換によって生活指導、交通指導に生かしている(資料7-2-①-9)。

学生生活を豊かにするためには家庭と協力する体制を作ることも重要である。高専だよりの定期的刊行等(資料7-2-①-10)によって、保護者と緊密な関係を築き上げている。同様な関係は、保護者を主な構成員とする教育後援会にも築き上げている(資料7-2-①-11)。

学生の経済面に関しては、まず授業料免除の申請を受け付けており、一日体験入学の際に経費に関する相談コーナーを設けているほか、入学説明会における説明や学生便覧への掲載により制度の周知を図り、困窮した学生を経済的に支援している(資料7-2-①-12)。奨学金については、日本学生支援機構など外部奨学金制度の活用や、本校同窓会による奨学金制度の設置など、学生が経済状態に応じて幅広く利用できる制度を整えている(資料7-2-①-13)。

学生が安心して生活を送るためには万への備えも重要である。学生生活保険や、通学用の保険については、漏れが無いように保護者や学生に周知させている(資料7-2-①-14)。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。厚生補導委員会や担任・指導担当教員による真正面から指導があるだけでなく、スクールカウンセラー及び支援室制度も整備され、学生及び教員に周知されており、十分に活用されている。

また、経済面についても、授業料免除制度を始めとして多様な制度が用意されている。

資料 7-2-①-1 : 厚生補導委員会の概要

厚生補導関係資料

学生生活関連情報 (厚生補導, 学生係)

1. 連絡事項

- A) お知らせ：★交通事故注意喚起, 学校周辺に現れた不審者, 手洗いうがい励行など★
- B) 厚生補導委員会報告★重要★
- C) 学校周辺クリーン作戦と, 担当者の割当表
- D) 巡回担当者の割当表

2. 取組事項

常に取組むこと

- E) 学則 (教務Webの「H15学生便覧」へのリンク)
- F) 懲戒処分の規定 (H16学生便覧から抜粋)
- G) 生活指導
- H) クラス担任の協力による1年生の禁煙指導
- I) 交通指導
- J) 学生会指導
- K) 生地研 (沼津駿東地区生徒指導研究協議会)

季節ごとに取組むこと

- L) 新規バイク通学者のためのバイク講習会(4月) (→ e. 交通指導)
- M) バイク/自転車通学許可証・ステッカーの発行(4月) (→ e. 交通指導)
- N) 新入生オリエンテーション (御殿場の国立中央青年の家での合宿研修) (4月)
- O) 一斉交通指導(5月頃, 11月頃 --- 年度ごとに変化あり)
- P) スポーツ大会(5月) (→ f. 交通指導)
- Q) 長期休業中の駅付近無料駐輪場の使用方法指導(長期休業直前)
- R) 厚生補導担当教官研究会(夏休み)
- S) 体育祭(10月)
- T) 高専祭(11月上旬頃)
- U) 学習と生活に関するアンケート(11月 --- H15年度までは2月実施)
- V) 5年生による進路ガイダンス(H16-)
- W) 2年生を主な対象としたOD式運転検査(12月~1月のいずれか) (→ e. 交通指導)
- X) 3年生対象課外教育特別講演(12月)
- Y) 3年生合宿研修 (別名スキー研修) (1月)
- Z) 2年生への交通講話・校内の交通規則と手続き徹底(2月) (→ e. 交通指導)

(出典：学内限定ウェブサイト・厚生補導関係部分)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/index.html>

○沼津工業高等専門学校厚生補導委員会規則

(昭和 49. 4. 1 制定)

最終改正 平成 16. 4. 14

(目的)

第1条 沼津工業高等専門学校の厚生補導に関する重要な事項を審議するため, 厚生補導委員会 (以下「委員会」という) をおく。

(組織)

第2条 委員会は, 次の委員をもって組織する。

- (1) 校長補佐 (学生主事)
- (2) 校長補佐 (寮務主事)
- (3) 学生主事補
- (4) 本校教員で校長が任命した者

(審議事項)

第3条 委員会は, 校長の諮問に応じ, 次の事項を審議する。

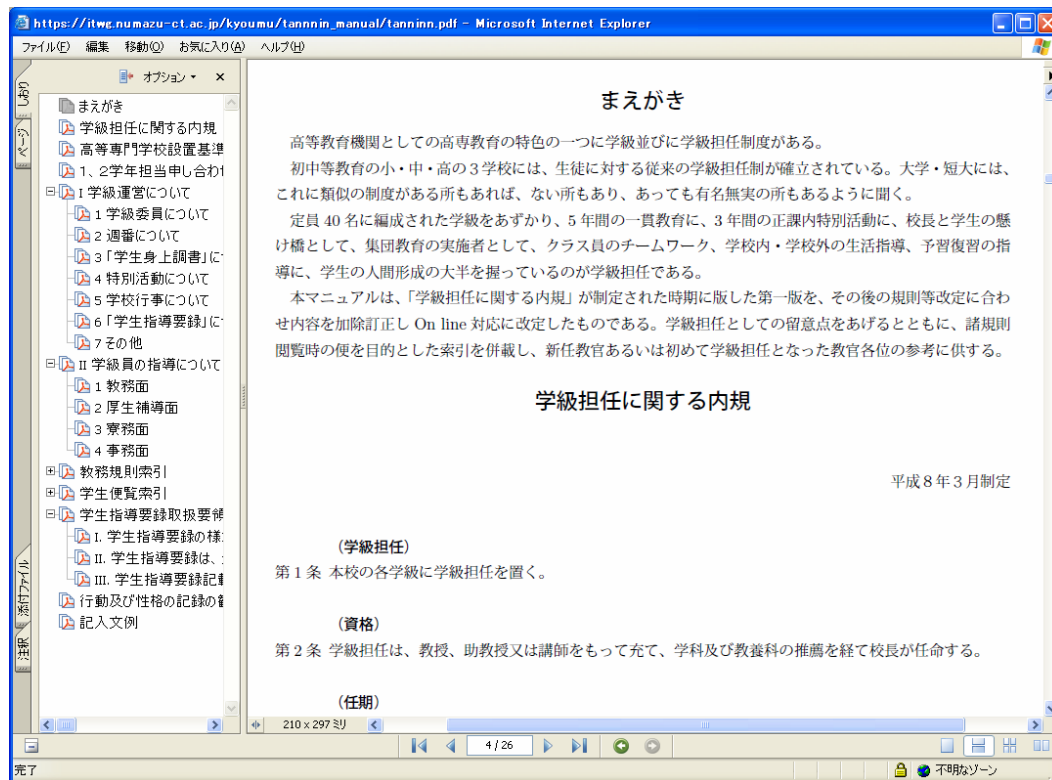
- (1) 課外教育及び校外活動に関すること。
- (2) 集団指導に関すること。
- (3) 生活指導に関すること。
- (4) 集会及び催物並びに出版及び掲示に関すること。
- (5) 学生会に関すること。
- (6) 保健衛生に関すること。
- (7) その他厚生補導に関し必要と認められること。

以下省略

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0070_kouseihodou-iinkai.htm

資料 7-2-①-2 : 学級担任の役割の概要



(出典：担任マニュアル)

(https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/tannin_manual/tanninn.pdf)

学級担任 教官印	月 4月 7日 曜日	天候	当番氏名	
授業科目名	教官名	学習内容の要点	遅刻者氏名	
1	電子回路	松岡 雄	シラバス etc	
2				
3	工業英語	松岡 雄	2015.9 内容 自己紹介	
4				
5	身体測定			
6				
7				
8				
教室 清掃 当番	No. ~ No.	清掃状況	本日の反省と所感	授業者氏名
			授業が始まって、早くも新年度らしい、 たっ 感じている。	

(出典：クラス日誌)

資料 7-2-①-3 : 専攻科担当教員の役割の概要

専攻科担当教員規程

(研究指導教員)

第4条 校長は、専攻科の学生に対する専攻科研究論文の作成等の指導並びに沼津工業高等専門学校学則第46の4(専攻科規則案第2条)に規定する教育目標を達成するために必要な支援及び指導を行うため、専攻科担当教員である教授又は助教授のうちから、当該学生ごとに研究指導教員を命ずる。

2. 校長は、前項の研究指導教員を命ずるに当たっては、専攻科担当教員会議の意見を聴くものとする。

(出典：沼津工業高等専門学校専攻科担当教員規程 (抜粋))

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/04kisokusyu/kyoukan.html>

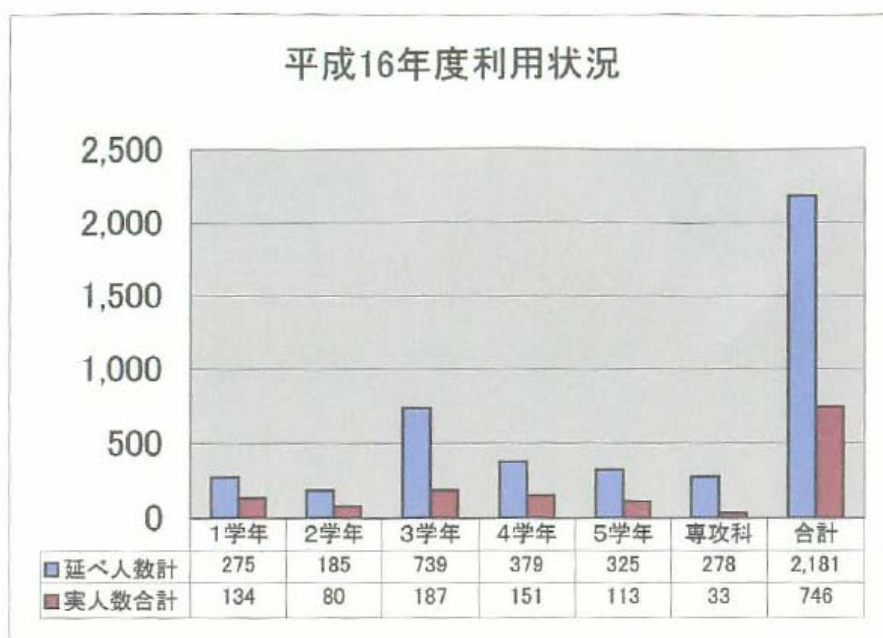
資料 7-2-①-4 : 保健室の概要

○沼津工業高等専門学校学校保健法関係事項取扱要領 (平成10.9.9制定)

- 1 学校保健法, 第2条, 第3条, 第3条の2に基づき, 平成10年9月9日に作成された「沼津工業高等専門学校学校保健安全計画」により, 各年度毎「学校保健安全計画書」実施計画表を作成し, 環境衛生検査の徹底を図る。
- 2 実施に当たり, 検査報告書の書式等については別に定める。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0940_gakkouhokenhou-youryou.htm



(出典：保健室)

前ページからの続き

(資料7-2-①-4:保健室の概要)

平成16年度保健室利用状況報告

平成17年 3月31日現在

1. 保健室内容別利用状況表(延べ人数) (単位:人)

	内科	外科	その他	合計
4月	24	11	85	120
5月	79	15	200	294
6月	37	15	197	249
7月	17	10	124	151
8月	0	0	7	7
9月	44	29	134	207
10月	69	28	118	215
11月	46	40	173	259
12月	31	18	143	192
1月	38	19	154	211
2月	35	9	221	265
3月	3	0	8	11
合計	423	194	1,564	2,181

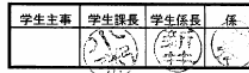
2. 病院搬送件数表 (単位:件)

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		職員		他	合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
4月	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5月	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0
6月	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	0	0	1	3	0	1	0	2	0	1	0	0	8	1

3. 保健室利用状況表

	1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		専攻科		合計																	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女																
4月	8	5	2	2	5	5	11	2	15	5	24	6	34	10	2	2	4	3	7	2	8	4	0	0	74	34	46	14		
5月	19	15	5	4	9	8	29	5	55	13	45	9	64	21	19	3	11	7	13	5	25	2	0	0	183	70	111	26		
6月	12	11	5	4	6	4	13	1	39	8	51	10	54	14	11	4	7	5	17	4	33	3	1	1	151	49	98	24		
7月	5	5	3	3	7	6	11	6	26	5	32	12	29	15	6	2	3	3	9	3	20	2	0	0	90	39	61	26		
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4	3	3	2		
9月	9	5	6	5	9	5	11	4	31	8	41	14	18	13	10	6	25	12	21	10	26	3	0	0	118	51	89	39		
10月	8	6	6	5	5	4	16	7	27	13	42	14	18	14	14	8	29	13	19	6	31	0	0	0	118	55	97	40		
11月	12	11	21	6	7	4	9	2	28	6	45	11	24	14	3	3	32	8	30	6	48	5	0	0	151	54	108	28		
12月	13	6	28	5	0	0	13	3	20	5	25	2	13	5	1	1	20	4	23	4	36	4	0	0	102	29	90	15		
1月	49	12	28	7	4	4	5	4	28	6	46	11	11	3	1	1	2	2	16	4	21	3	0	0	115	37	96	27		
2月	15	10	21	7	2	2	12	3	46	12	62	11	37	8	9	3	18	7	16	2	27	4	0	0	145	50	120	26		
3月	0	0	0	0	1	1	0	0	5	3	2	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	8	6	3	2		
計	150	86	125	48	55	43	130	37	322	85	417	102	303	118	76	33	152	65	173	48	277	32	1	1	1,259	477	922	269		
延べ人数計	275		185		739		379		325		278		2181																	
実人数合計	134		80		187		151		113		33		746																	

(出典:保健室)



6月 21日 (火)

年	性	M	E	D	S	C	男	女	内科	外科	その他	相談	合計	教職員
1	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	2	0
2	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	2	0	3	2	0	1	0	3	0
3	男	1	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0
	女	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0
4	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専	男	1					1		1		0		1	
	女	0					0						0	
人		3	0	1	1	5	4	6	5	1	4	0	10	2

人	連絡	入室	退室	男	女	MED	SC	専	氏名	主訴	静養	休養	外科	その他
1		9:00	12:00		○		S2			風邪	○			
2		10:30	12:00		○		C2			風邪	37.3℃			
3		10:30	10:35		○		C2			怪我			○	
4		12:00	13:00	○				2						○
5		12:40	14:00		○					胃痛	○			
6		13:00	14:00		○		C1			風邪				○
7		13:50	14:00		○		C1							○
8		15:00	17:40		○		C3				○			
9		15:00	17:15	支授室										○
10		15:30	15:35	○			D3			足首痛			○	
11		16:20	17:15	○			M3							○
12		17:00	17:30	○			M4							○
13														
人					5	7								

(出典:保健室)

前ページからの続き

(資料 7-2-①-4 : 保健室の概要)

6. 健康診断について

1. 定期健康診断

毎年4月中旬に行い、学生の健康管理の基礎となる重要なものであるため、全員受診しなければならない。また疾病等が発見された場合は治療を勧告する。

2. 心電図測定

毎年9月に新入生、編入学生、前年度に異常が認められた者を対象に実施する。対象学生以外であっても自覚症状のある場合は学生係に申し込むこと。

3. 高専大会参加者健康診断

毎年7月初旬に、高専大会出場者を対象に実施する。受診しない者は大会に参加できない。

4. スポーツ大会水泳参加者健康診断

スポーツ大会に水泳を実施する場合は、大会前に実施する。受診しない者は大会に出場できない。

5. その他の健康診断

高専大会ラグビー種目出場者健康診断その他臨時の健康診断を実施する。

(出典：平成15年度学生便覧p. 77)

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/gakusei_binrann_naiki/gakuseibinran15r4.pdf

資料 7-2-①-5 : スクールカウンセラーの概要

平成 17 年 4 月 1 日

クラス掲示用

副校長 (教務主事)
校長補佐 (学生主事)

平成 17 年度学生相談について

このことについて、下記のとおり実施しますので気軽に来室してください。

記

1. カウンセラー 八十川 徹 先生
2. 場所 尚友会館2階相談室
3. 時間 15:30~18:30
4. 曜日 水・金
5. 月日

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
水	13		1			5	2		11	1
金	15	6	3	1	2	7	4	2	13	3
水	20	11	8	6	7	12	9	7	18	8
金	22	13	10	8	9	14	11	9	20	10
水	27	18	15	13	14	19	16	14		15
金		20	17	15	16	21	18	16	27	17
水		25	22		21	26		21		22
金		27	24			28	25			24
水			29		28		30			
金					30					

(出典：保健室発行のクラス掲示用ポスター)

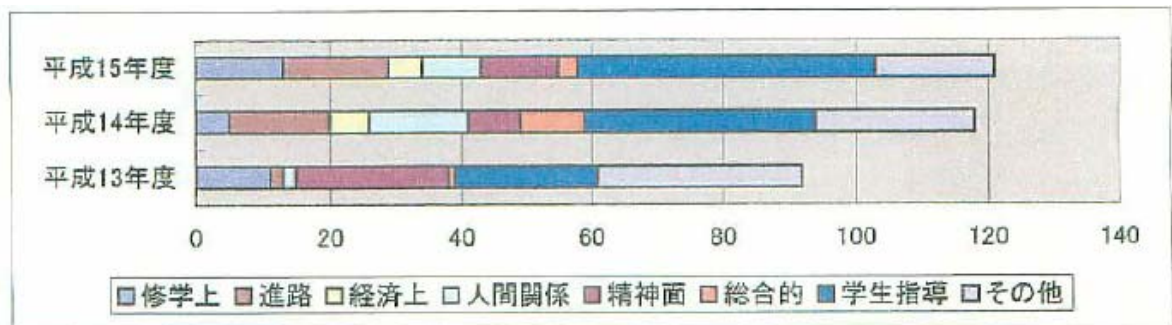
前ページからの続き

(資料7-2-①-5 : スクールカウンセラーの概要)

16年度相談室延べ人数・実人数

月	男子		女子		教員		保護者		その他			
	延べ	実数	延べ	実数	延べ	実数	延べ	実数	延べ	実数	延べ	実数
4	2	1	1	1	2	2	0	0	2	1	7	5
5	2	2	0	0	7	4	4	3	1	1	14	10
6	5	5	0	0	15	8	0	0	1	1	21	14
7	2	2	2	2	15	7	4	2	1	1	24	14
8	0	0	0	0	2	1	1	1	1	1	4	3
9	7	5	2	1	8	5	2	2	1	1	20	14
10	6	3	1	1	7	5	0	0	0	0	14	9
11	2	1	0	0	3	2	0	0	0	0	5	3
12	1	1	0	0	2	2	0	0	2	1	5	4
1	2	2	2	2	1	1	0	0	1	1	6	6
2	5	5	0	0	1	1	0	0	1	1	7	7
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
件	34	27	8	7	63	38	11	8	11	9	127	89

(出典：カウンセラー)



(出典：カウンセラー)

資料 7-2-①-6 : 学生生活支援室の概要

観点 7 内では、学生生活支援室の概要を資料 7-1-①-7 でも説明

○沼津工業高等専門学校学生生活支援室規則
(平成 15. 11. 12 制定)

最終改正 平成 16. 4. 14
(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、学生生活支援室(以下「支援室」という。)を置く。
(業務)

第 2 条 支援室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学習、進路、対人関係、精神衛生上の問題等、本校学生個人が抱えている問題に対する相談及び援助に関すること。
- (2) その他学生の生活支援に必要な資料の収集、作成、提供等に関すること。

(組織及び任期)

第 3 条 支援室は、次に掲げる支援室員で組織する。

- (1) 室長
- (2) カウンセラー
- (3) 教員 若干名
- (4) 学生課長
- (5) 看護師

以下省略

(出典：本校規則集)

(http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0941_gakuseisensitu.htm)

月	定例会議					毎週金曜日10:30より、教員のみ会議		メモ
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	教職員	その他	
4月	御殿場研修において室長(加藤)が学生に挨拶							校長との面談
5月	女子教養講座(10日)							取り組みの方向性について説明 昨年まで、厚生指導あるいは寮で行っていたものを主催だけ支援室に変更
	新学期開始から1ヶ月で、すでに学習困難な学生がいるかを調査							HRの時間を借りて、分担して1、2年生の10クラスを回る。黒板に質問事項(授業についていけない科目、具体的部分)を書き白紙に名前と回答を書かせる。1年生については調査の項目にクラスにないかどうかがどうかというのを追加。
	オフィスアワーの使い方説明と担当教員へのお願い							科目毎にわからないという学生の名前を整理し、それを持って担当教員の部屋を回る
	不応答の疑いのある学生へ手紙と面談							クラスにないかいないかという学生を寮の部屋を訪問し「手紙」を渡し、できればそこで話をする。あるいは、後日、話をする。
6月	保護者へのアンケート実施、回収(教育講演会にて)							全員に配布する書類に入れ、講演会総会の最後に室長よりお願いする。
	中間試験の結果について調査(オフィスアワーの効果を見る)							2年生しか判断できないが、成績が向上したクラスあり
7月	保護者アンケートの結果報告(保護者面談にて)							保護者面談時に担任に依頼し配布、ホームページにも掲載
8月						セクシャルハラスメントにかんする講演会		教務主事、寮主事、寮監とそれぞれ別の日程で、現状の学校(学生)の問題についての意見を聞く 寮監、寮主事ともに学習時間の強制の仕方に苦慮しているという話がある。教務主事に話をしたところ、数学の授業で電卓を出してもらえないように依頼すること。
9月								平成16年度メンタルヘルス研究協議会へ参加(発表)
10月								従来、学生相談(個人的な悩み)を中心としていたが、学習を中心とした学生生活全体を支援するという方向へ変化している。本校の「学生生活支援室」の活動の方向性が正しいことを確認
								1、2年生の成績不良学生に強制参加させる、学内塾生について、校長リーダーシップ経営を申請 校長との面談(1年生の学習支援について)、その後教務主事と相談の上、経費なしで支援を行うことを決める
11月	1年生を対象とした、自習室の開設。(5年生がボランティアで、毎月4:30から) 指導員として1年生の指導員と行う。内容は、メンタル的なもの							選択制教室2にて自習室開設(11月10日より試験まで)
12月								校長先生との面談、学習部報告、1年生の成績低下について報告し、対策の必要性を訴える。
1月								寮主事と寮生の勉強時間の確保について話し合う。
								次期寮生全役員と、勉強時間の確保についての話し合い。
2月								
3月								本年度で卒業する留学生から学校、寮生活の感想を聞く。 留学生の意見を寮主事に伝える。

(出典：学生生活支援室)

資料 7-2-①-7 : 専攻科学生支援室の概要

○沼津工業高等専門学校専攻科学生支援室規程

(平成 15. 3. 12 制定)

最終改正 平成 16. 4. 14

(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校に、専攻科学生支援室（以下「学生支援室」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 学生支援室は、学生との人間的なふれあいを通じて、より学生の視点に立った教育環境の整備充実を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 学生支援室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の学習環境の整備に関すること。
- (2) 大学間交流の基盤の整備及び交流活動の支援に関すること。
- (3) 学生の自主的な地域社会への貢献活動の支援に関すること。
- (4) 学生が主体的に進路を選択して行うキャリア形成の支援に関すること。
- (5) その他学生が変化する社会に柔軟に対応できる能力を身に付けるための必要な事項

(組織)

第 4 条 学生支援室に、次に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 室員 3 人

以下省略

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0942_senkouka-gakuseisiensitu.htm

資料 7-2-①-8 : セクシャルハラスメント相談室の概要

○沼津工業高等専門学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則

(平成 12. 5. 10 制定)

最終改正 平成 16. 4. 14

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等については、独立行政法人国立高等専門学校機構セクシュアル・ハラスメント防止等に関する規則（平成 16 年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 26 号）及び他の法令等に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

* 中略 *

第 2 章 相談室（相談窓口）

(設置)

第 5 条 セクシュアル・ハラスメントの防止等のため並びにセクシュアル・ハラスメントに関する相談等に対応するため、「沼津工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメント相談室（相談窓口）」（以下「相談室（相談窓口）」という。）を置く。

* 中略 *

第 8 条 相談員は、教職員、学生等及び関係者からのセクシュアル・ハラスメントに関する相談等（以下「相談等」という。）を受けたときは、それぞれ対応する主幹に報告するとともに、セクシュアル・ハラスメントによって生じる問題の適時適切な解決に努めるものとする。

* 以下略 *

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0470_sexual-harassment-bousi.htm

前ページからの続き

(資料 7-2-①-8 : セクシャルハラスメント相談室の概要)

セクシュアル・ハラスメント相談室自己点検・評価報告書

【相談・防止対策】

本校においては、セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する諸法令の主旨を踏まえ、良好な教育・研究・労働環境を育む立場から本校独自の「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則」を平成12年5月10日制定し、常設の相談室（相談窓口）の開設を行うとともに、教職員、学生等及び関係者からのセクシュアル・ハラスメントに関する相談等への対応手順・要領の基準化を図るために「セクシュアル・ハラスメントに関する苦情相談を受けたときの対応について」の必要事項を定め、苦情相談に適時適切に対応することとしている。

セクシュアル・ハラスメントの防止等のための啓発活動として平成11年度から4月に開催されている新任教職員オリエンテーションにおいて、新規採用者及び転任者を対象にセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する研修（講義）を実施するとともに平成12年度から各年度においてパンフレットを作成し、ホームページ及び掲示板により周知を行っている。

平成16年度においては、外部講師を招聘し、セクシュアル・ハラスメントの認識及び意識の高揚を図ることを目的に教職員を対象としたセクシュアル・ハラスメント講演会を開催した。

また、教職員及び学生を対象に意識調査「セクシュアル・ハラスメントに関するアンケート」を平成12年度、13年度及び15年度に実施し、それぞれの意識調査結果については、その概要を公表し、ホームページ及び掲示板により周知を行っている。

なお、平成15年度におけるアンケート調査結果は下記のとおりである。

(資料略)

(出典：セクシャルハラスメント相談室、自己点検資料から)

資料 7-2-①-9 : 沼駿地区生徒指導研究協議会の協議事項

第 5 回 生地研（沼駿地区生徒指導研究協議会）報告 : 加藤繁

実施日 : 平成 17 年 2 月 25 日（金）

会場 : 沼津市青少年教育センター

次第

1. 開会の挨拶

2. 所管事項説明

- (1) 静岡県教育委員会 高等教育課 : 欠席
- (2) 静岡県総務部私学振興室 : 欠席
- (3) 沼津警察署交通第一課
 - : 管内での 12 月から 2 月までの交通死亡事故 10 件。稀の多発。
 - : 1 月 25 日には自転車の高校生の例もある。
 - : 注意が必要である。
- (4) 沼津警察署 生活安全課
 - : 県内では 4000 人が補導されたが前年比 500 人ほどの減。
 - : 管内では 503 人で 52 人の増。
 - : 自転車がらみの事故、事件が多発している。
 - : 不法駐輪への注意への依頼。(卒業生の放置)
- (5) 沼津市青少年教育センター
 - : 資料 A
 - インターネットカフェの出入。
 - 変質者への対応と連絡網の充実。
 - : 資料 B
 - 夜間徘徊者の減少。
 - カラオケ店への出入の増加。女子の喫煙者の増加。
 - 無灯火自転車の増加。
 - 危険な遊び（路上ローラスケート等）の増加。
- (6) 沼津市役所 交通対策課 : 欠席
- (7) 小・中生徒指導連絡協議会 : 欠席
- (8) 沼津市教育委員会 学校教育課
 - : 不審者、変質者に関する連絡網は小中高の壁がなくなっている。
 - 通学路の確保と侵入者対策の必要性。
 - 過去の性犯罪者の情報。管内にも多数いるので注意が必要。
 - : 家での増加傾向が見られる。
 - : 小学校ではいじめの報告されている。

(出典 : 生地研出席教員の報告書)

86号

沼津高専だより

(1)



第 86 号
平成17年 3月14日発行
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL (055) 921-2700



3年生 スキー合宿研修

目次

☆独立行政法人化一年目にあたって校長 久賀 重雄... 2	☆ロボコン出場記...クラブ顧問 Aチーム E科 望月 孔二...23 Bチーム D3 伊沢 多聞...23 S2 佐藤 正健...24
☆沼津高専の使命、目的と教育目標副校長(教務主事) 濱屋 進... 3	C4 杉山 実美子...25 D5 笹川 雄祐...25
☆この一年を振り返って校長補佐(学生主事) 野澤 正信... 3	M科 井上 聡...26 D3 天野 雄太...27
☆平成16年度を振り返って校長補佐(寮務主事) 大久保清美... 4	S3 小林 真紀...27 C3 小野 慎紀...27 C3 天野 ちひろ...28
☆各学科の近況・年度方針機械工学科主任 大賀 尚... 6電気電子工学科主任 江間 敏... 7電子制御工学科主任 舟田 敏雄... 7制御情報工学科主任 大島 茂... 8物質工学科主任 蓮実 文彦... 9教養科主任 谷 次雄...10専攻科長 森井 宣治...10	☆留学生教育の現場から 非常勤講師 高澤 啓子...29 ☆ミネソタへの国際的共同研究の旅 D5 齋藤 学...30 ☆退職挨拶.....L科 黒川 幸男...31 ☆卒業生から OBより.....E科 31期生 長塚 俊...32 卒業研究成果論文が国際論文誌に受理されてD科 18期生 前原 貴恵...32 近況の活動.....S科 2期生 ナホレ オシ...33
☆文化講演会報告-トヨタ自動車㈱ 常務役員 二橋 岩雄報告:柳下 福蔵...12	☆5年生から ...5年間を振り返って M5 山本 純...345年間を振り返って E5 中川 翔太...35寮生活 D5 武藤 圭祐...35
☆在外研究員報告.....電子制御工学科 大原 順...13	☆平成16年度卒業予定者進路先一覧.....36
☆国際会議等参加者一覧.....14	☆学生の研究活動(2004.5月1日~2005.4月30日).....39
☆工場見学報告.....機械工学科 三谷祐一朗...15電気電子工学科 待井 規豊...16電子制御工学科 坪内 洋...16	☆教育後援会から 「卒業に際して」教育後援会会長 (C5)加藤 一平...41教育後援会副会長 (E5)遠藤 正...41
☆クラブ・同好会・課外活動報告.....体育大会成績一覧...17サッカー部 C5 新井 裕亮...18テニス部 S4 高橋 紗佳...19柔道部 C5 竹内 力也...20ラグビー部 S4 青山 承平...21囲碁将棋部 D3 奥澤 怜...22	☆学生生活支援室からのお知らせ.....42 ☆事務部より 就職活動につけ込む資格商法にご注意!!.....42 除幕式(卒業記念品「交差する形」).....43 平成17年度行事予定表(平成17年4月~7月).....44

題字:久賀重雄 学校長

☆沼津工業高等専門学校 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

(出典: 高専だより (第86号, 全44ページ))

資料 7 - 2 - ① - 11 : 教育後援会の概要

沼津工業高等専門学校教育後援会会則

49.	2.	2	制定
51.	5.	8	改正
61.	5.	17	改正
	6.	5.	14 改正
	8.	5.	11 改正
14.	5.	11	改正

(名 称)

第1条 本会は、沼津工業高等専門学校教育後援会と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、沼津市大岡3600番地沼津工業高等専門学校内に置く。

(目 的)

第3条 本会は、沼津工業高等専門学校の教育の発展振興に寄与し、併せて会員と学校との親睦並びに連絡の緊密化を図ることを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 一 学校教育の発展のため必要な諸施設並びに運営に対する助成
- 二 学生の課外活動に関する助成
- 三 学生及び教職員の福利厚生に関する助成
- 四 教員の研究及び教職員の研修等に関する助成
- 五 全国又は地区高専体育大会出場及び応援に関する助成
- 六 その他必要な事業

(会 員)

第5条 本会の会員は、次のとおりとする。

- 一 正 会 員 沼津工業高等専門学校に在学する学生の保護者又はこれに代わる者
- 二 賛助会員 本会の趣旨に賛同して入会を希望する者

(役 員)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- 一 会 長 1名
- 二 副 会 長 3名
- 三 理 事 若干名
- 四 監査理事 2名
- 五 審査理事 3名

(役員を選出)

第7条 役員は、総会の決議によって選出する。

- 一 会 長 会員の互選により正会員の中から選出する。
- 二 副 会 長 会員の互選により正会員の中から選出する。
- 三 理 事 会員の中から会長の推薦した者について総会に諮り会長が委嘱する。
- 四 監査理事 会員の中から会長の推薦した者について総会に諮り会長が委嘱する。
- 五 審査理事 会長の推薦した者について総会に諮り会長が委嘱する。

前ページからの続き

(資料 7-2-①-11: 教育後援会の概要)

平成16年度 沼津工業高等専門学校教育後援会決算書

収入の部

科 目	目 目	予 算 額	収 入 額	予算額との差	備 考
1. 正会員会費	1. 入 会 金	3,090,000円	3,150,000円	60,000円	*下記参照
	2. 会 費	24,106,000	23,614,000	△492,000	
	3. 過年度会費	0	0	0	
	4. 臨時会費	0	0	0	
2. 賛助会員会費	1. 賛助会員会費	610,000	585,000	△25,000	117名
3. 寄 付 金	1. 寄 附 金	0	0	0	預金利息
4. 雑 収 入	1. 雑 収 入	133	60	△73	
5. 繰 越 金	1. 前年度繰越金	2,087,867	2,087,867	0	
6. 積立金受入	1. 積立金受入	0	0	0	
合 計		29,894,000	29,436,927	△457,073	

【会費】 在学者数見積相違 △279,000円 本科 (1,063名-1,051名=12名分)、専攻科 (48名-47名=1名分)
 休学者 △150,500円 本科 (@22,000円×5名+@11,000円×3名)、専攻科 (@7,500×1名)
 退学者 △62,500円 本科 (@22,000円×1名+@11,000円×3名)、専攻科 (@7,500×1名)

支出の部

科 目	目 目	予 算 額	流 用 増減(△)額	改予算額	支 出 額	残 額
1. 事 務 費	1. 諸 給 与	1,319,000円	0円	1,319,000円	1,122,294円	196,706円
	2. 事 務 費	524,000	45,764	569,764	569,764	0
	3. 会 議 諸 費	340,000	30,121	370,121	370,121	0
2. 事 業 費	1. 教 育 援 助 費	4,416,000	0	4,416,000	4,077,146	338,854
	2. 課外活動援助費	3,607,000	0	3,607,000	3,089,440	517,560
	3. 体育大会経費	11,548,000	0	11,548,000	11,425,721	122,279
	4. 学生表彰・厚生指導費	467,000	0	467,000	315,900	151,100
	5. 学生保健衛生費	12,000	0	12,000	9,350	2,650
	6. 会員との連絡費	369,000	0	369,000	368,550	450
	7. 慶弔記念費	52,000	0	52,000	69,379	△17,379
	8. 研究研修助成費	2,640,000	0	2,640,000	2,193,100	446,900
	9. 進路開拓及び 職業進学指導費	160,000	0	160,000	152,570	7,430
	10. 学校紹介費	679,000	0	679,000	450,893	228,107
	11. 渉外補助費	84,000	0	84,000	38,560	45,440
	12. 環境整備助成費	200,000	0	200,000	193,075	6,925
	13. 卒業式関連諸経費	380,000	0	380,000	328,303	51,697
	14. 交 際 費	0	0	0	0	0
3. 積 立 金	1. 積 立 金	300,000	0	300,000	300,000	0
4. 学生安全関係費	1. 学生安全関係費	1,620,000	0	1,620,000	1,605,240	14,760
5. 予 備 費	1. 予 備 費	1,177,000	△75,885	1,101,115	0	1,101,115
合 計		29,894,000	0	29,894,000	26,679,406	3,214,594

平成17年度へ繰越額 29,436,927円-26,679,406円=2,757,521円

- 1 -

(出典：平成17年度教育後援会総会資料)

前ページからの続き

(資料 7-2-①-11 : 教育後援会の概要)

平成17年度教育後援会年間行事予定表

月	日	曜	行事関係	事務関係	学校関係
4	9	土	会計監査 (11:00~) 新旧会長・副会長打合せ (12:00~)		4日 入学式 (PM) 6日 始業式 14日~15日 1年生合宿研修
5	14	土	理事会 (11:30~) 総会 (13:30~)		14日 保護者懇談会 (総会終了後) 22日 寮祭
6					3日~9日 中間試験
7				中旬 沼津高専だより No.87発行	2日~3日 東海地区高専体育大会 (陸上・ソフトテニス) 7日 壮行会 9日~10日 東海地区高専体育大会 21日~22日 1年~4年保護者懇談会 21日~8月31日 夏季休業
8					2日 一日体験入学 3日~10日 全国高専体育大会
9					1日 授業再開 防災訓練 22日 前期授業終了 26日~30日 前期末試験
10					3日 後期授業開始 18日 体育祭 21日 2年特別研修 27日 文化講演会 (PM) 30日 ロボコン東海北陸大会
11	5	土	賛助会員懇談会 (12:00~)		5日~6日 高専祭 13日 高専ラグビー大会
12				下旬 1年生理事等 候補選出	4日 ロボコン全国大会 6日~12日 1~4年中間試験 25日~1月7日 冬季休業
1					10日 授業再開 17日~20日 3年生合宿研修 25日 推薦入試
2					10日~16日 5年生学年末試験 17日~24日 1~4年生学年末試験 19日 入学試験 24日 終業式 25日 合格発表 27日~28日 卒研発表
3	4	土	会長・副会長打合せ (10:30~) 理事会 (13:00~)	上旬 沼津高専だより No.88発行	17日 卒業・修了証書授与式 21日~31日 学年末休業
4	8	土	会計監査 (11:00~) 新旧会長・副会長打合せ (12:00~)		
5	13	土	理事会 (11:30~) 総会 (13:30~)		

(出典：平成17年度教育後援会総会資料)

資料 7-2-①-12 : 授業料免除による経済的支援の実績

授業料免除実施状況					
年度		申請(名)	全額免除(名)	半額免除(名)	基準外(名)
平成10年度	前期	36	26	3	7
	後期	33	26	3	4
平成11年度	前期	34	25	5	4
	後期	41	31	5	5
平成12年度	前期	43	35	4	4
	後期	64	42	9	13
平成13年度	前期	65	42	15	8
	後期	56	41	12	3
平成14年度	前期	66	47	11	8
	後期	79	57	15	7
平成15年度	前期	74	48	15	11
	後期	66	52	7	7
平成16年度	前期	55	47	7	1
	後期	65	52	10	3
平成17年度	前期	67	51	5	11
	後期				
奨学金申請状況					
年度		申請	認定	申請枠人数超	基準外
平成14年度	一種	24	21		3
	二種	1	1		
平成15年度	一種	23	17	3	3
	二種	3	3		
平成16年度	一種	16	14		2
	二種	4	4		
平成17年度	一種	10	10		
	二種	4	3		1

(出典：学生課学生係)

資料 7-2-①-13 : 本校独自奨学金と、奨学金制度の学生への周知例

2. 奨学金制度について

1. 日本育英会

学校教育法に定める学校に在学し、学業優秀、品行方正、身体強健であって、学資の支弁が困難と認められる者に学資を貸与する奨学制度であり、貸与月額、応募方法等は次頁の通りである。

* 中略 *

2. 沼津工業高等専門学校同窓会奨学金

本校同窓会が在学生ののために特に設けた奨学制度であり、本校に在学し、人物優秀であって、学資の支弁が困難と認められるものに対して、当該期（前期又は後期）の授業料の全額又は半額相当額を給付する。選考は学級担任教官の推薦に基づき授業料免除選考会議で行う。

3. その他の奨学金

- (1) 知恩会 大学編入学時に募集（給付）
- (2) タミヤ奨学会 大学編入学時に募集（給付）
- (3) 沼津中央ライオンズクラブ 原則として保護者が沼津市在住の者
年1回募集（給付・1～3年生）
- (4) 交通遺児育英会 保護者が道路における交通事故により死亡又は著しい後遺障害を受けた者

(出典：平成15年度学生便覧pp. 75, 76)

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/gakusei_binrann_naiki/gakuseibinran15r4.pdf

資料 7-2-①-14：各種保険について

9. 各種保険について

1. 日本体育・学校健康センター

学校管理下における学生の負傷、疾病、障害又は死亡に関して必要な給付を行う制度であり、本校学生は全員加入している。

(1) 給付対象となる災害

学校管理下で起きた事故による負傷（療養費負担900円以上のもの）、後遺障害、死亡及び学校管理下でなされた行為に起因するもので文部科学大臣が定めるもの。

(2) 給付金の請求

事故等が起こった場合は、速やかに学級担任教官等の関係教官及び学生係に連絡する。

後日（治療終了時又は次の月の初め）学生係の指示する書類を提出する。請求は学生係で行う。

(3) 給付金の支払い

給付金支払いは諸経費納入用のスルガ銀行長泉支店の学生名の口座に振り込む。なお給付額は療養に要した費用の4割、又、別に障害見舞金、死亡見舞金がある。

2. 高等専門学校学生団体総合保険

学生の学校管理下及び学校管理下以外の障害、学資負担者の災害による死亡等に関し給付を行う任意加入の保険であり、現在全学生の88%が加入している。

(1) 給付対象

学生が事故により通院、入院、死亡した場合、著しい機能障害又は不具廃疾になった場合、学生の学資負担者が事故により死亡した場合。

(2) 給付金の請求及び支払い

請求は本人又は保護者が行うこととなっているので、学生係に申し出て請求用紙を受け取り手続きすること。なお事故が起こった場合は30日以内に保険会社あてに『事故の通知』を提出しておく必要がある。

（出典：平成15年度学生便覧p.79）

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/gakusei_binrann_naiki/gakuseibinran15r4.pdf

観点 7-2-②：特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害を持つ学生等が考えられる。）がいる場合、生活面での支援が適切に行われているか。

（観点に係る状況）留学生は全員学生寮に入寮し（資料 7-2-②-1）、その支援は、個別に割り当てられる担当教員及び学生チューターを始めとして、学級担任教員、寮務担当教員、学生課職員、非常勤の日本語担当教員などが緊密に連携を取りながら実施している（資料 7-2-②-2）。

障害を持つ学生の入学例はないが、教務の申し合わせに「身体的ハンディキャップを持つ学生には、クラス担任がクラス員からチューター学生（複数）を選び、対応する」があり、適切に対応する用意がされている。また、その際には設備についても同時に整える用意がされている。なお、エレベータ及び身障者用トイレの設置など施設面の配慮は各施設の改修の際に考慮している。

（分析結果とその根拠理由）優れている。留学生に対する配慮は、担当教員を中心としてきめ細かく行われており、留学生は日本人学生と何ら変わることなく学生生活を送っていることから、優れていると判断できる。また障害を持つ学生が入学したとしても、低学年の教室は既にエレベータ等の設備が完備している。

資料7-2-②-1：寮内の留学生専用施設



留学生の捕食室

留学生のシャワー室

(※宗教の違いを考慮し捕食室とシャワー室はそれぞれ2室ずつある。)

(出典：認証評価ワーキンググループによる写真)

資料7-2-②-2：非常勤の日本語担当教員による留学生指導の例

From: hamaya@numazu-ct.ac.jp (濱屋 進)
 Date: Tue, 26 Oct 2004 04:39:51 +0900
 To: kocho@numazu-ct.ac.jp, kyoukan@numazu-ct.ac.jp, jimubu@numazu-ct.ac.jp
 Cc: KEIKO TAKASAWA <XXXX@XX.XXXX.ne.jp>

平成 16年 10月 26日

教職員各位

濱屋です。メールで失礼します。

留学生については公私にわたって面倒をみて頂いている留学生科目担当の高澤先生から下のメールを頂きましたのでご紹介します。

本年の留学生はいろいろな面で問題を抱えている、と聞いていましたが、少し、ホッと致しました。

取り急ぎ、メールの紹介まで。

----- 以下は転送メッセージです。-----

日時：平成 16年10月26日(火) 午前1時15分
 件名：日本語の高澤です
 差出人：高澤けい子★KEIKO TAKASAWA <XXXX@XX.XXXX.ne.jp >

濱屋先生、滝田様

留学生日本語非常勤講師の高澤と申します。
 いつも大変お世話になっております。

今日教務でお会いした際にお話し致しました、スピーチコンテストの件につきましてお知らせ致します。

10月17日(日)に沼津市立図書館視聴覚ホールにおきまして、**NICE沼津国際**

交流協会の「英語 & 日本語スピーチコンテスト」が開催され、日本語の部に、沼津高専の留学生が四名出場いたしました。出場したのは、四年生のXXXX, 三年生のXXXX, XXXX, XXXX, XXXXです。

その中からXXXXが三位に入賞し、トロフィー、賞状、副賞(一万円の商品券)が授与されました。

翌日の静岡新聞の朝刊にこの記事が載っており、四年生のXXXXがスピーチをしている写真も載っています。

静岡新聞の記者にはXXXXのスピーチが心に響いたのでしょうか、日本人の友達が出来ない辛さを語り、最後に、僕と友達になって下さい！と叫んでスピーチを終わりにしたXXXXのスピーチの内容と写真が採り上げられています。

このスピーチコンテストは今年で13回目になり、毎年沼津高専の留学生が参加しています。数年前には優勝、準優勝、3位を沼津高専の留学生が総なめにした年もありました。

しかし年々参加者のレベルが高くなり、近年は少々の練習ではなかなか入賞できなくなりました。

出場者は静岡県東部に在住・在勤・在学の外国人ということで、日本語学習経験・在日期間・来日目的などがまちまちの外国人が出場するため、ポイントの50%が内容、25%が発表態度、25%が日本語能力というコンテストです。

今年は英語の勝呂先生、図書館の青木さんが聴きに来ていただきました。

また5年生のXXXXがカメラを持って応援に来てくれました。

コンテスト終了後の交流会では、NICEの若いスタッフや英語の部に出場した日本人の短大生、高校生がXXXXの周りに集まり、他の留学生も一緒に携帯のメールアドレスの交換をして盛り上がっていました。

このような交流が続いてくれたら良いなと思いながら見ておりました。

三位に入賞したXXXXは前日からラマダンで、交流会の終わる直前までオアズケ状態でしたが、日没と同時に、密かに確保してあったお菓子をすごい勢いで食べていました。

応援に来ていたXXXXは自転車であつたため早めに帰りましたが、出場した四人は交流会終了後に、NICEのスタッフと一緒にファミレスで食事をして、私が車で寮まで送り届けました。

普段接することが少ない、高専生や教職員以外の日本人との交流で、楽しんでもらったのではないかと思います。

日本事情のテーマ学習についてご連絡いたします。

当初は、ひとりひとりに自分のテーマを決めさせて実施する予定でしたが、五年生は卒論などで忙しそう、三年生は(XXXX以外は)単独で何かが出来る状態ではありませんので、**留学生全員で高専祭で「留学生の部屋」**をつくり、訪れる日本人に**自分の国について日本語で正しく説明する**というタスクに変更いたしました。

国の概要、国旗のデザインが持つ意味、国歌とその日本語訳などを頑張つてやっています。

「ミニマレー語／シンハラ語／ラオス語／スワヒリ語／インドネシア語講座」と称し簡単な挨拶でいどの母国語を教える時間も設ける予定です。

高専祭終了後は、アンケートを集計したり、良かった点、改善点をまとめ、当初はウェブサイトを作らせる予定でしたが、高専祭参加報告及び感想の作文に切り換えることに致しました。

学年末には文集のような形あるものにして記念に持たせてやりたいと思っております。

留学生達は、これまでにこのようなイベントを自分の手でしたことがなく、飾り付けをした部屋がどのようになるのかも想像出来ないようです。

そのための予算もなくどうしても購入が必要なものは私からのカンパということでやっていますので、立派なものはありませんが、高専祭の日には是非D4の教室を覗きに来ていただけましたら幸いです。

以上どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

たかさわ

高澤 けい子 (TAKASAWA KEIKO)

- ・NNCT 国立沼津高専／留学生日本語・日本事情講師
- ・SIEE 静岡県認証 特定非営利活動法人
NPO@静岡あい(静岡教育国際インスティテュート)
／理事、留学・教育・国際交流プログラム担当
- ・NICE 沼津国際交流協会／理事

濱屋 進

〒410-8501 沼津市大岡3600 沼津高専電気電子工学科
 e-mail hamaya@numazu-ct.ac.jp
 Tel/Fax 055-926-5821

(出典：学内メールから (一部削除))

メール内の**太字**は、認証評価ワーキンググループによる

観点7-2-③：学生寮が整備されている場合、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況) 本校は、低学年全寮制を特色の一つとして掲げており、校長補佐(寮務主事)や寮監を中心とする寮務担当教員及び学生課寮務係職員による人的支援体制(資料7-2-③-1)を整えた上で、様々な角度から学生指導を行っている(資料7-2-③-2)。一方、居室等の施設整備(資料7-2-③-3)も充実させている。

寮生が組織する寮生会(資料7-2-③-4)があり、寮長・副寮長を始めとする指導寮生を中心に、毎日の学習はもとより、規則正しい有意義な共同生活を送ること、年間行事を楽しく盛り上げることを目指して、日々の寮生活が営まれている(資料7-2-③-5)。

寮生の健康管理や欠席管理は寮監や寮事務室が責任を持ち、欠席者情報を学内にメール通知してトラブルを未然に防いでいる(資料7-2-③-6)。

留学生は全員が入寮している。留学生を一番近くから支援する学生チューターも寮生である。他にも指導寮生、寮務担当教員、寮務係職員などが連携を取りながら支援している。また、高校からの編入学生にも入寮の門戸を開いている。このように、特別な配慮が必要な学生に対して寮は支援の場として機能している。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。学生寮の生活においては、十分な学習時間を保証するタイムスケジュールが組まれている。また、設備の改修等居住環境の見直し・改善が定期的に行われている。さらに、教員2名と職員1名が毎晩宿直として寮に滞在しているほか、各棟各階ごとに指導寮生が入居し、寮生の相談に応じる体制が整えられており、学生寮は学生の生活及び勉学の場として極めて有効に機能し、優れている。例年寮生の現員がほぼ定員一杯なのは、次年度も寮に残りたいと希望する学生が多数のためであり、生活の場として優れている証拠である。

資料 7-2-③-1 : 寮生活指導の人的支援体制

6. 学寮規則と心得

1. 学寮規則

(目的)

第1 条 学寮の人間形成を助け、かつ、学生の修学に便宜を供与し、教育目的達成に資することを目的として、本校に学寮を設ける。

(学寮生活の基本)

第2 条 学寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は、この規則及びこの規則に基づいて定められた諸規程を守り、相互に啓発して自己及び共同生活の向上充実に努めなければならない。

(管理)

第3 条 学寮は、校長が管理する。

2. 学寮に関する訓育指導の業務を掌理するために、校長補佐（寮務主事）を置く。
3. 事務部長は、学寮管理の業務を掌理する。
4. 学寮に関する事務は、学生課の所管とする。

(寮務主事補)

第4 条 校長補佐（寮務主事）を補佐するために、寮務主事補を置く。

(寮務主任)

第5 条 校長補佐（寮務主事）、寮務主事補の業務を分掌するため、寮務主任を置くことができる。

(寮監)

第6 条 寮生の生活指導及び相談に当たるため、寮監を置く。

(寮務運営委員会・寮務委員会・学寮給食業務委託業者選定委員会)

第7 条 学寮運営に関する業務の企画立案及びその実施について連絡調整を図るため、校長の諮問機関として、寮務運営委員会・寮務委員会・学寮給食業務委託業者選定委員会を置く。

2. 寮務運営委員会・寮務委員会・学寮給食業務委託業者選定委員会の委員は、校長が任命し、両委員会の組織及び運営に必要な事項は、別に定める。

(出典：平成15年度学生便覧p. 69)

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/gakusei_binnrann_naiki/gakuseibinran15r4.pdf

寮務主事・主事補	校長補佐(寮務主事)大久保清美 寮務主事補 永禮哲生, 嶋直樹, 大庭勝久, 江上親宏, 大澤和夫, 大久保進也, 渡辺敦雄, 藁科知之, 遠藤良樹, 村上真理, 平田陽一郎, 藤井数馬, 松澤寛
寮監・寮監代行	寮監 水口好美 寮監代行(前期)永禮哲生, 嶋直樹, 大澤和夫, 大久保進也 寮監代行(後期)大庭勝久, 藁科知之, 遠藤良樹, 平田陽一郎
寮務委員会	○ 大久保清美, 濱屋進, 野澤正信, 永禮哲生, 嶋直樹, 大庭勝久, 江上親宏, 大澤和夫, 大久保進也, 渡辺敦雄, 藁科知之, 遠藤良樹, 村上真理, 平田陽一郎, 藤井数馬, 松澤寛, 水口好美, 坂本信男, 佐藤誠, 加藤繁, 長谷賢治, 吉野龍太郎, ◇学生課長, (事務)寮務係

(出典：校務分掌から)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/2005/iinkai17.pdf>

資料7-2-③-2:寮生指導の例

From: Kiyomi OHKUBO <ohkubo@la.numazu-ct.ac.jp>
 Date: Wed, 18 May 2005 15:46:36 +0900
 To: kocho, kyoukan
 Cc: bucho, gakuseika, uno
 Subject: 第3回木曜会(+全体会)報告
 久賀校長先生
 全教員・事務部長・学生課職員各位(Cc:人事係長)
 こんにちは、大久保Lです。標記報告をお届けいたします。

第3回木曜会(+全体会)

日時:平成17年5月12日(木)16:00~17:30(教員会議)
 17:30~18:15(教員と寮生会本部役員との棟会)
 場所:寮管理棟集会所(教員会議),合宿所大部屋(棟会)
 出席:水口,遠藤,村上,平田,藤井,松澤,永禮,大庭,江上,大澤,大久保進也,
 渡辺敦雄,藁科,大久保清美

①現員報告

560名(男子:495名 女子:65名)
 1年:212(22) 2年:181(23) 3年:83(13) 4年:67(7) 5年:17(0)
 専攻科:0(0) 留学生:9(1) 4年次編入生:3(1) (括弧内は女子人数)
 *前回との異同なし

②行事等活動報告

4月22日(金)第1回防災避難訓練(火災想定,6:45~7:20)
 担当:長泉消防署員2名,佐野・安田厚生委員長,大久保進也・松澤主
 事補(防災担当),水口寮監,大久保L
 *浦崎先生・鄭先生(宿直),益本事務部長・小粥学生課長・岡本寮務
 係長・山本寮務主任も参加してくださいました。

20行削除

5月9日(月)第2回朝礼(6:45~7:10)
 訓話:水口寮監,長谷先生(宿直),大久保L
 第2回教養講座(1年対象,19:30~21:00,第1視聴覚)
 講演「正しい性に関する知識」
 講師:黒瀬清隆氏(ハートブレイク思春期研究所)
 担当:書務長・書務委員,学生生活支援室(浦崎・加藤先生)大久保L
 出席:小粥学生課長,新井学生係長,松本看護師,土屋栄養士

4行削除

5月14日(土)保護者による寮居室等見学会・懇談会(12:20~13:15)

③今後の予定

16行削除

⑥審議事項

- ・欠席欠課願,公休願用紙の様式変更について
 →寮監(又は寮監代行)の押印欄を設ける。書式の変更は学生課長に依頼
- ・特別外出許可願用紙の様式変更について(微調整)
- ・3年以上男子の20時点呼後外出の解禁について
 →5月16日(月)より解禁とする。帰寮報告は21:30~21:50の間
 (3行削除)

全体会議事録(書記:藤井主事補)

(大久保主事より)

- ・現員報告,活動報告,今後の予定,許可事項,生活指導報告については上記参照
- ・欠席欠課願,公休願用紙の様式を変更し,寮監(又は寮監代行)の押印欄を設ける。
 学校の欠席,欠課については,寮生は寮監から報告,寮外生は保護者から報告という形を
 徹底させたい。
- ・特別外出許可願用紙の様式変更について(微調整)
- ・翔峰の学生のバイク事故について…身を大切にすること
- ・男女交際について…20時点呼以降の逢引は前年度同様,禁止する。
- ・「語り」について…節度を持たせること
- ・寮生会からの木曜会資料に対するコメント
 (水口寮監より)
- ・清掃について…清掃がしっかりとできないと,いろいろな面が乱れてくる。1年生は,今の
 時期を大切にしっかりとしつけをしてほしい。今やっておけば,今後の寮生活が安定する
- ・ルールの把握について…1年生を中心に,通院する際に欠課届けを出さずに行ってしまった
 ケースがある。学生の安全確保,学生把握の意味でも,決められた書類はしっかりと提
 出する。

(遠藤主事補より)

- ・1年生が人の話を聞いていないことがあれば,一案として,指示した内容を復唱させるの
 もいいのではないか。
- ・光峰のマテカが非常にすばらしい。
- *全体会終了後,棟顧問と棟長との懇談等を行った。

————— このメールにはファイルが添付されています —————

(出典:校長補佐(寮務主事)から全教員宛メール・一部削除)

前ページからの続き

(資料 7-2-③-2 : 寮生指導の例)

平成16年度寮生のための教養講座

- 第1回 5月10日 1年生女子対象
「健康な心身をたもつために」 講師：八十川 徹
- 第2回 5月12日 1年生対象
「正しい食生活」 講師：土屋 つね子
- 第3回 11月9日 2年生対象
「ガテマラで見たこと、考えたこと」 講師：河内 毅
(青年海外協力隊)
- 第4回 11月11日 1年生対象
「薬物乱用防止講座」 講師：沼津警察署員

(出典：学生課寮務係)

2005年5月 教員宿直割振表

日	曜日	清峰(南寮)	明峰(女子寮)	栄峰(北寮)	寮監代行	寮行事等
		宿直者	巡回者	宿直者		
1	日					
2	月					
3	火					
4	水					
5	木	大庭 勝久		鈴木 克彦		開寮
6	金	藤井 数馬		遠藤 良樹		
7	土	平田陽一郎		芳野 恭士		テーブル マナー
8	日	長谷 賢治		大久保清美		
9	月	松澤 寛		大久保進也		
10	火	谷 次雄		遠山 和之	大久保進也	
11	水	江上 親宏	佐藤 志保	嶋 直樹	嶋 直樹	
12	木	井上 聡		水口 好美		
13	金	鈴木 康人		大原 順一		

(出典：<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/ryoumu/index.html>)

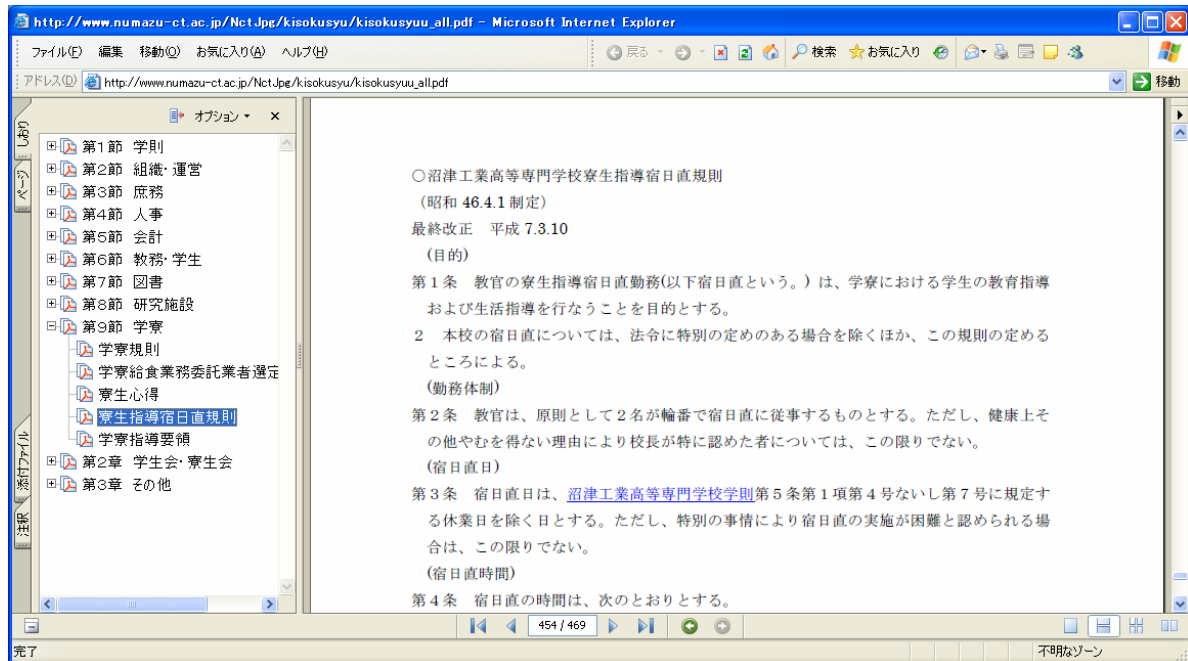
平成17年5月分宿直割振表

		宿 直	
日	曜	寮	寮関係行事等
1	日		
2	月		開校記念日振替休日
3	火		憲法記念日
4	水		国民の休日
5	木	内野 拓	子供の日
6	金	志田 誠吾	
7	土	河野 厚志	
8	日	滝田 昌稔	
9	月	宇野 裕之	
10	火	青田 広史	
11	水	小澤 光	2~5年生 オリエンテーション
12	木	小澤 喜英	スポーツ大会・学生総会

(出典：<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/warihuri.htm>)

前ページからの続き

(資料 7-2-③-2 : 寮生指導の例)



(出典：本校規則集)

次行の URL の p. 454

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/kisokusyuu_all.pdf

同じ情報は次行の URL から閲覧できる。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/1131_ryoukyouinsyukyutoku.htm

前ページからの続き

(資料7-2-③-2:寮生指導の例)

平成 17 年 2 月 24 日 木 曜日 天気 晴れ

宿直教官氏名		棟長氏名	
室番	点呼者	室番	点呼者
101		107	
301		306	

外出者				外泊者				
室番	学級	氏名	摘要	確認	室番	学級	氏名	摘要
			卒研の為					
/				/				

病 気・事 故 者				行 事・備 考・そ の 他			
室番	学級	氏名	摘要				
			体調不良の為				
/							

(出典: 学生課寮務係, 点呼日誌から)

前ページからの続き

(資料7-2-③-2:寮生指導の例)



寮生指導日誌

(必要に応じて記入のうえ、寮監まで提出してください。)

2005年2月24日 (木曜日)

宿直教官 澤 洋一郎 (印)

記 録

・ 全員帰寮確認 21:48
(3名)

指導上の所見 (点呼・日課・風紀・その他)

8点報告時

37.5℃とあり、テスト勉強の疲労とか、
ノロウイルスではないかと、病棟に行くまでとあること、
様子を視察し、異常があれば知らせよう指示 (報告者 清川 田村)

20:30~21:00 巡回

後→秀→外回り→清

〇 〇の様子:寝ていた。汗をかいていたので、
しっかり汗をぬいで着替えよう指示。
調子が悪くなったら速に受診へ行くよう指示した。

寮 監

・ 秀の戸来側雨切り板修理!



(出典: 学生課寮務係, 寮生指導日誌から)

前ページからの続き

(資料 7-2-③-3 : 寮の施設整備について)

寮内居住空間の概要

- ・ 学生寮は、7つの棟からできている。
- ・ 学生寮の居室には、学習スペースとして、学生ごとに机と椅子、本棚が整備されている。
- ・ 学生は次に表に示す広さの部屋に住む。なお、定員は572名である。

一人部屋	二人部屋
9m ² の部屋×141	15m ² の部屋×29 *1
10m ² の部屋×27	16m ² の部屋×12 *2
11m ² の部屋×54	18m ² の部屋×134 *
計 222部屋 (222名分)	計175部屋 (350名分)

*1 清峰寮 (最も古い棟) にのみ存在

*2 明峰寮 (二番目に古い棟, 現在女子寮) にのみ存在

- ・ 学生寮の各棟各階には、コミュニケーションスペースとして、談話室・補食室、コンピュータ室等が整備されている。棟別には次表の通り。

	翔峰	栄峰	光峰	優峰	秀峰	清峰	明峰	平均
補食室 (平米)	50	73	66	63	54	45	97	1.19
談話室 (平米)	95					11		
コンピュータ室(平米)		30	11					
便所・洗面室等(平米)	145	126	116	108	54	78	152	1.36
宿直室 (平米)	0	23	0	0	0	29	16	—
学生居室 (平米)	954	1014	768	441	522	813	660	9.04
学生定員 (人)	106	106	80	49	58	97	76	—
学生現員 (人)	106	105	80	49	58	97	65	—
空 (人)	0	1	0	0	0	0	11	—

注：平均とは、学生定員の場合の学生一人当たり面積という意味

- ・ 学年別現員は次の表の通り

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	本科合計	専攻科
寮生の人数	212	181	83	67	17	560	0
学内の比率	99.5%	84.5%	39.9%	31.3%	8.2%	53.0%	0%

(出典：学生課寮務係)

資料 7 - 2 - ③ - 5 : 寮生活の概要

2. 寮生心得

寮生活の意義は、規律ある共同生活を行うことにより、5 年一貫教育の充実を図り、学生の将来にわたる人間形成に資することにある。

寮生活の目標

- 共同生活を通して互いの和を図り、積極的に寮友を啓発し、また寮友に学ぶべきものを摂取し、各人の向上を図る。
- 共同生活にありがちな安易さを自ら戒しめ、規律ある寮生活を維持する。
- 公私、自他の厳然たる区別をわきまえ、互いにその立場を尊重した言動に心掛ける。
- 寮の施設や器物は長年にわたって使用するものであるから、愛情と注意をもって大切にす
- る。
- 常に学習時間の保持、充実に努めるとともに、健康保持のため睡眠、運動等にも十分な配慮をする。
- 自由時間や余暇の利用は、無駄のないように各自工夫し、豊かな趣味と健全な人格を形成することに努力する。

(出典：平成15年度学生便覧p. 70)

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/gakusei_binnrann_naiki/gakuseibinran15r4.pdf

前ページからの続き

(資料 7-2-③-5 : 寮生活の概要)

2. 生活

寮生は、「寮生心得」に基づき健康・安全かつ有意義な寮生活を送るため、下記の日程表により生活する。

(1) 日課について

平日は、下記の日課に従って生活する。

区分	時限	寮生留意点
起床	6:55	起床時刻を厳守し、寝具の整頓を速やかにする。 居室前で点呼を受ける。不在者・病人の有無を確認する。(8:00 までに提出。)
点呼	7:00	
清掃	7:00～7:30	原則として1ヵ月に1回、月曜日に行う。
朝礼	7:00	
朝食	7:30～8:30	8:15 までに食堂に入ること。
登校	8:30	服装を整え、定刻までに登校する。
施錠	8:30	欠席・欠課の場合は、必ず事前に寮監に申し出て承認を受ける。(8:40 までに提出)
授業	8:50	
昼食	11:45～13:00	短縮授業中・テスト期間中は 11:30～13:00
開錠	13:15	
夕食	17:00～19:00	18:50 までに食堂に入ること。
入浴	17:00～19:50	居室前で点呼を受ける。当番は風呂掃除を行う。 雑談、放歌等は禁止する。
点呼・門限	20:00	
静粛時間	(20:00 以降)	学習に専念する。
学習時間	20:00～22:00	
点呼	22:00	居室前で点呼を受ける。不在者、病人の有無を確認する。
施錠	22:00	点呼後、棟外の外出禁止。点呼当番が帰寮後、玄関を施錠する。
消灯・就寝	23:00	1・2年生 3年生以上 (詳細は次頁表1・2参照)
	1:00	

(1) 土曜日・日曜日・祝日・臨時休業日等は朝の点呼なし。

備考 (2) 登校時間中は、寮内への出入りは禁じる。特別の事情がある場合には寮務関係教官又は担任教官の許可を受けて出入りする。

(出典：寮生会の手引)

前ページからの続き

(資料 7-2-③-5 : 寮生活の概要)

平成16年度寮行事及び寮生会活動			4・5・6月						
4月			5月			6月			
日	曜	寮生会活動	日	曜	寮行事	寮生会活動	日	曜	寮生会活動
1	木	寮生会三役帰寮	1	土	閉寮(10:00)		1	火	
2	金	寮生会本部役員帰寮	2	日			2	水	
3	土	寮生会役員帰寮	3	月	〈憲法記念日〉		3	木	
4	日	開寮(13:00)	4	火	〈国民の祝日〉		4	金	〈中間試験〉
5	月	入寮式(13:40)学寮説明会(14:10)〈入学式〉	5	水	開寮(13:00)〈子供の日〉		5	土	
6	火	開寮式(13:00)お花見会〈新入生オリエンテシ	6	木	ラジオ体操(7時1年〜1)	風紀長教官懇談会	6	日	
7	水	〈始業式・対面式〉	7	金		秀役員教官懇談会	7	月	〈中間試験〉
8	木	〈授業開始〉〈健康清・優棟別会	8	土	保護者居室見学〈後援会総会〉		8	火	〈中間試験〉
9	金	〈健康診断124〉	9	日			9	水	〈中間試験〉
10	土	〈クラブ紹介〉	10	月	第1回教養講座(1年)	翔役員教官懇談会	10	木	〈中間試験〉
11	日		11	火	明役員教官懇談会	ねり練(19:20-21:30)	11	金	
12	月		12	水	第2回教養講座(1年全)	19:30	12	土	
13	火		13	木	第3回学寮委員会〈スホ	ツ大会・学生総会〉	13	日	
14	水	翔棟別会	14	金		延風呂(5.14~7.9)	14	月	第3回朝礼
15	木	第1回学寮委員会〈1年生合宿研修	15	土			15	火	清棟別杯
16	金	〈1年生合宿研修〉優役員教官懇談会	16	日			16	水	
17	土		17	月			17	木	
18	日	寮生総会(第2体育館)	18	火			18	金	
19	月	寮祭長会	19	水			19	土	〈東京高専定期戦〉
20	火	〈開校記念日〉寮祭スホツ全体会	20	木	第4回学寮委員会		20	日	〈東京高専定期戦〉
21	水		21	金	ステージ・前夜祭準備	寮役員教官懇談会	21	月	栄棟別杯
22	木	第2回学寮委員会	22	土		寮祭前夜祭(18~)	22	火	
23	金		23	日		寮祭(10~練り16~)	23	水	
24	土	新入生歓迎親睦会(24	月		光役員教官懇談会	24	木	三役教官懇談会
25	日	〈学生会歓迎会ホ	25	火	第2回朝礼		25	金	
26	月	第1回防災訓練・第1回朝礼・清役員教官懇	26	水			26	土	夏祭・花火(18~21)
27	火	棟長会	27	木			27	日	秀棟別杯
28	水	本部事務会	28	金	テスト週間生活時間変更(5.28~6.1)		28	月	
29	木	〈みどりの日〉優棟別杯	29	土			29	火	光棟別杯
30	金		30	日			30	水	翔棟別杯
			31	月					

(出典：学生課寮務係)

資料 7-2-③-6 : 欠席・欠課者情報通知による学生の健康管理等

件名：170704 (月) 寮生の欠席・欠課連絡
 From: minakuti@numazu-ct.ac.jp
 Date: Mon, 04 Jul 2005 09:06:34 +0900
 To: kyoukan, kyoumu, ryou

教員全員 (校長除く) ・教務係全員・寮務係全員 各位

平成17年7月4日 (月) における寮生の欠席・欠課について御連絡します。

欠席	翔峰寮	XXX室	S5	〇〇	〇〇	(公休願申請中)
	翔峰寮	XXX室	C5	〇〇	〇〇	(公休願申請中)
	栄峰寮	XXX室	S3	〇〇	〇〇	
	光峰寮	XXX室	M2	〇〇	〇〇	(公休願申請中)
欠課	光峰寮	XXX室	D3	〇〇	〇〇	(欠課：第1~4時限)

なお、授業に出席していない学生(寮生)がいましたら、寮務係(内線5736)まで御連絡いただけますようお願いします。

(出典：寮監から全教員あての電子メール・一部削除)

観点 7-2-④：就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 進路指導の全体的な方針は、就職関係は就職委員会、進学関係は教務委員会が中心となって決定している(資料7-2-④-1)。学生個別の対応は、各専門学科長及び学級担任教員が窓口となって相談・助言を行っている。また、就職・進学ともに希望者を対象とするガイダンスを開催したりガイドブックを設け(資料7-2-④-2)、伝達に漏れが無いようにしている。学生向けウェブサイト履歴書の書き方の項目を加えるなどの支援も行っている(資料7-2-④-3)。平成16年度からは低学年の意識向上を図って1・2年生を対象に「5年生による進路ガイダンス」(資料7-2-④-4)も実施している。就職・進学の実績を資料7-2-④-5に示す。

(分析結果とその根拠理由) 優れている。進路指導は、全体の方針を踏まえ、各専門学科長及び学級担任教員が学生本人の希望を把握した上できめ細かい指導を行っている。また、ガイダンスにおいては、教職員のみでなく実際に就職活動や受験等を経験した高学年生や最近の卒業生を講師として行うことにより、学生の意識を大いに刺激しており、全体として取組は優れている。

資料 7-2-④-1：就職指導担当者

就職委員会	○ 久賀重雄, 野澤正信, 大賀喬一, 江間敏, 舟田敏雄, 大島茂, 蓮實文彦, 山岸文明, 村松久巳, 望月孔二, 長澤正氏, 吉野龍太郎, 小林美学, 事務部長, 学生課長 (事務) 学生係
教務委員会	○ 濱屋進, 西田友久, 西村賢治, 川上誠, 長谷賢治, 望月明彦, 西垣誠一, 大賀喬一, 江間敏, 舟田敏雄, 大島茂, 蓮實文彦, 山岸文明, 森井宜治, 谷次雄, ◇学生課長 (事務) 教務係

(出典：各種委員会委員名簿)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/2005/iinkai17.pdf>

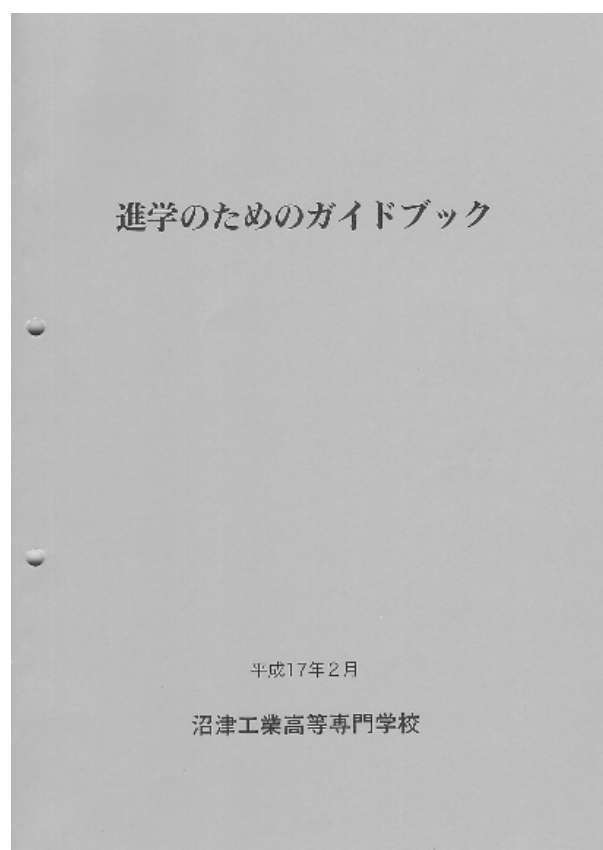
資料 7-2-④-2 : 就職のガイダンスの資料

平成16年度就職懇談会実施予定一覧表

平成16年12月24日現在

学 科	開催日時				食事券	備 考
	日 付	集合時間	開始時間	終了予定時間		
機械工学科	平成17年 2月15日(火)	12時45分	13時10分	15時00分	要	11/22付起案済
電気電子工学科	平成17年 1月18日(火)	13時00分	13時10分	14時40分	要	今回起案分
電子制御工学科	平成16年12月15日(水)	14時50分	15時00分	16時00分	不要	11/19付起案済・11/29追加起案
制御情報工学科	平成17年 1月28日(金)	12時45分	13時05分	16時20分	要	12/24起案済
物質工学科	平成17年 1月以降実施予定					

(出典：就職懇談会実施予定一覧表)



(出典：学生課教務係，進学のためのガイドブック，全42ページ)

資料 7-2-④-3 : 学内専用の学生向けウェブサイトから

資料集

ダウンロード

諸様式ダウンロード

e-Learningシステム

パスワードの再設定方法 Flash版

災害対策

東海地震に関する本校の対策(2004.10.19)

- | | |
|-------------|------|
| 1. 学生用 | pdf版 |
| 2. 保護者用 | pdf版 |
| 3. 地震防災のしおり | pdf版 |
| 4. 寮の地震防災対策 | pdf版 |

就職関係

就職活動用の履歴書の書き方について(2005.1.31)

授業アンケート

平成16年度授業アンケート結果 実施資料

平成15年度授業アンケート結果 実施資料

行事予定

平成16年度行事予定 HTML版 Excel版

時間割

平成17年度時間割

- | | | |
|------------|--------|------|
| 1. かがみ | Word版 | pdf版 |
| 2. 時間割(前期) | Excel版 | pdf版 |
| 3. 教員別時間割 | Excel版 | pdf版 |

(出典 : <http://www.ccst.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/kyoumu.html>)

矢印は認証評価ワーキンググループによる

資料 7-2-④-4 : 下級生対象進学ガイダンスの概要

厚生補導関係資料 - Microsoft Internet Explorer

アドレス <https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/guidance-5to12/index.html> 移動 リンク

戻る 編集2004/12/10; 立ち上げ2004/12/10

5年生による進路ガイダンス

低学年の学生の中には安定した生活を送れない者がいるが、その一因はここから編入できる大学あるいは就職先などの進路について理解できていないことである。そこで、今までどのような大学・企業にどのようにして過去の卒業生が進んだか、さまざまな道、可能性が開けていることを説明すれば学生生活が改善されると考えられる。

注意: この表からリンクされているページはプライバシー未配慮(学生氏名を消していない)であるため、学生に見せたりしないで下さい

2004年5年生による進路ガイダンス 進路ガイダンスの様子.pdf		
1・2年生の感想文		
機械工学科	1年生	2年生
電気電子工学科	1年生	2年生
制御情報工学科	1年生	2年生
物質工学科	1年生	2年生

- H16年度第7回厚生補導委員会(11/17)にてやり方が確定
- H16年度第4回厚生補導委員会(8/30)にて議論。各種委員会にも連絡

リンク: [平成16年度ぶんの記録](#) (pdf, 注意: プライバシー未配慮(学生氏名を消していない)であるため、学生に見せたりしないで下さい)
上記記録の内容は次の通り

- H16年12月9日 電気電子工学科で、4名の5年生が2年生相手に体験談を話す
- H16年12月10日 制御情報工学科で、5名の5年生が2年生相手に体験談を話す
- H16年12月10日 機械工学科で、4名の5年生が2年生相手に体験談を話す
- H16年12月13日 機械工学科で、4名の5年生が1年生相手に体験談を話す
- H16年12月13日 電気電子工学科で、4名の5年生が1年生相手に体験談を話す
- H16年12月13日 制御情報工学科で、5名の5年生が1年生相手に体験談を話す
- H16年12月21日 物質工学科で、5名の5年生が1,2年生相手に体験談を話す

(出典 : <https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/guidance-5to12/index.html>)

2004年 5年生による進路ガイダンス感想文

機械工学科1年 □□□□

今回、5年生達の話聞いて、もう少し進路について考えたほうが良いと思いました。僕はあまり先のことについては考えないし、考えたくないですが、早いうちから進路について考えておくことは、大切だと思いました。具体的には現在の成績でよい大学に進学できるのか、良い会社に就職できるのかと考えてみると、決してそうだとはいえないということです。将来の自分のために今の自分ができることは勉強すること、将来について考えることだとわかりました。また、「自分を磨く」ということも大切だと思いました。今の自分はどうしようもなくダメな人間です。中途半端だし、意志が弱い。(昔はもう少しましだったんですが・・・笑)今回話をしてくださった先輩達は、とても良い人でそれでいて、しっかりした自分というものを持っているような気がしました。だからこそ進学、就職と比較的に早いうちにできたのだと感じました。自分も今回の先輩たちのようになれたらよいと思いました。

電気電子工学科1年 □□□□

正直なところ、「福祉か工業か」と中学生時代に悩んだことを引きずっています。結局、高専という道を選んだのですが・・・。そんな、あいまの気持ちのときに、こういう機会があってよかったと思います。人に流れやすく、勉強嫌いで、優柔不断な自分に対してはだいぶ大きなダメージとなりました。話によっては、「中学

時代から決めていた。」あるいは「入学したときから決めていた。」などと、とても早いうちに進路を決めた先輩も多かったです。折角高専にきたんだから・・・と思いますが、優柔不断が災いして、でも・・・となってしまいます。たった一つの一回の人生だから自分が納得して終わりたいです。だからよく考えて進路を決めていきたいです。

制御情報工学科2年 □□□□

今回のガイダンスを受けて、僕はまず話をさせていただいた5年生と、機会を与えてくださった先生方に感謝したいと思います。今回の講演を通じて、「わからないことは先生や友達に聞く」、「テスト1ヶ月前から勉強する」、「将来使わない教科なんてない」、「英語や数学には力を入れたほうがよい」など、たくさんの教訓を得ることができました。進学を選んだ先輩も、就職を選んだ先輩も、よく5年まで頑張ってくれたと感心しています。僕は現段階では、3年次で進路変更を考えています。特別にやりたいことがあるのではないのですが、工業系から離れたのが理由です。世の中にはどんな職種、資格があり、どんな人が求められているのかを調べていくつもりです。今回、進路について深く考えるきっかけをくださった5年生と先生方に改めて感謝します。

物質工学科2年 □□□□

再評価の話をしてくださった人から、勉強、興味、感謝の三つを詳しく語ってくださった□□さんまで、全ての話がためになりました。真実味があり、これからとこれまでの努力次第で自分の将来が変わることがよくわかりました。今までの自分の甘さにも気づきました。中でも□□さんの話の中で「授業がすごく重要」と聞き、その言葉は以前D科5年生の先輩に言われたことと全く同じでした。その人も成績がよかったので、自分の授業態度を見直そうと思いました。今日のガイダンスは、自分をよい方向に変えるきっかけになりそうです。これから頑張ります。

(出典：<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/guidance-5to12/index.html>)

資料 7-2-④-5 : 就職・進学の実績

進路

■平成16年度卒業生の進路状況

■区分	M	E	D	S	C	■合計
卒業生数	42	41	44	41	38	206
就職者数	24	17	15	19	17	92
編入学者数	14	19	16	19	17	85
専攻科入学者数	4	4	11	3	3	25
その他	0	1	2	0	1	4
求人数	350	270	209	190	450	1469
求人会社数	260	270	209	190	130	1059
●就職者内訳						
産業別						
食品	3	2	1	-	5	11
繊維	-	-	-	1	-	1
化学	-	1	-	-	5	6
金属製品	1	-	-	-	-	1
一般機械器具	6	-	1	5	1	13
電気機械器具	1	-	2	1	3	7
輸送機械器具	5	2	3	2	-	12
精密機械器具	2	-	3	-	1	6
その他製造	5	8	1	2	1	17
電気・ガス	-	1	-	-	-	1
運輸・通信	1	2	1	1	-	5
サービス業	-	-	1	7	1	9
上記・その他	-	1	2	-	-	3
地区別						
京浜地区	6	4	1	2	-	13
静岡県内	16	12	12	15	16	71
その他	2	1	2	2	1	8

M:機械工学科 E:電気工学科 D:電子制御工学科 S:制御情報工学科 C:物質工学科

■平成16年度修了生の進路状況

■区分	ME	DS	CB	■合計
修了生数	6	9	4	19
就職者数	6	2	1	9
大学院入学者数	-	6	3	9
その他	-	1	-	1

ME:機械・電気システム工学専攻 DS:制御・情報システム工学専攻 CB:応用物質工学専攻

(出典 : http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/data_idx.htm)

前ページからの続き

(資料 7-2-④-5 : 就職・進学の実績)

進路

■卒業生の編入学状況 ※最近5年間

■大学名	■年度					■大学名	■年度				
	H13	H14	H15	H16	H17		H13	H14	H15	H16	H17
●国立											
北海道大学	-	1	1	-	1	岐阜大学	-	-	2	1	-
弘前大学	-	-	-	1	-	静岡大学	1	3	3	6	4
東北大学	-	8	10	6	2	名古屋大学	-	3	1	1	2
新潟大学	-	-	-	-	1	名古屋工業大学	1	1	1	1	1
茨城大学	1	-	-	-	1	豊橋技術科学大学	20	17	12	15	18
図書館情報大学	1	-	1	-	-	三重大学	4	1	2	2	2
筑波大学	2	3	3	3	4	京都大学	1	-	1	1	2
宇都宮大学	-	-	-	1	-	京都工芸繊維大学	-	-	-	1	-
群馬大学	-	-	1	-	1	大阪大学	2	3	8	-	1
千葉大学	3	2	4	1	4	神戸大学	-	2	4	-	-
東京大学	7	1	3	3	4	神戸商船大学	-	-	-	1	-
東京農工大学	1	2	6	5	4	岡山大学	-	2	1	-	1
東京工業大学	10	4	3	3	2	広島大学	1	2	-	-	4
お茶の水女子大学	-	-	-	-	1	島根大学	-	-	-	-	1
電気通信大学	1	2	-	-	-	徳島大学	-	-	-	1	-
東京水産大学	3	1	2	-	-	愛媛大学	-	-	-	2	-
横浜国立大学	1	2	1	3	1	九州大学	1	-	1	-	1
長岡技術科学大学	3	4	4	1	8	九州工業大学	1	-	2	-	-
金沢大学	-	2	-	-	-	佐賀大学	-	-	-	-	1
山梨大学	2	1	1	1	2	熊本大学	-	-	-	-	1
信州大学	4	3	2	1	1	琉球大学	-	-	-	1	1
●公立											
東京都立大学	-	-	1	2	1	名古屋市立大学	-	-	-	1	-
東京都立科学技術大学	-	-	1	-	3	大阪府立大学	-	-	-	1	-
静岡県立大学	-	-	1	1	-	大阪市立大学	-	-	1	-	-
愛知県立大学	-	-	-	1	-	兵庫県立姫路工業大学	-	-	-	1	-
●私立											
創価大学	-	-	-	1	-	立命館大学	1	2	1	2	2
東京電機大学	2	-	1	-	-	京都造形芸術大学	-	-	-	1	-
東京工科大学	-	-	-	-	1						
中部大学	-	-	-	-	1	合計	74	72	86	73	85

(出典 : http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/data_SR2.htm)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 厚生補導委員会を中心に学生生活支援室及び専攻科学生支援室など組織的な学生相談体制を構築していることは、学級担任教員及び指導担当教員による個別の対応と合わせ、学生の生活上の不安を取り除くことに役立っており、優れている。さらに、学生寮の運営が寮務担当教職員と寮生会が連携して適確に行われていることは、特に低学年の生活と学習環境を良好なものにするという観点から、非常に優れている。留学生や編入生といった特別な支援を必要とする学生にも、きめ細かく学習や生活の支援を行っている。

(改善を要する点) 特になし。

(3) 基準 7 の自己評価の概要

本校の学生支援等にかかわる部分は、優れている。

本科も専攻科も、各学年の年度当初のオリエンテーションによって、学生に対して学校や学科が向かう方向を徹底している。シラバスなどの資料にも学習内容やスケジュール等を詳細に記載してある上に、指導担当教員が決められ、どの学生も最初の相談相手を特定できる体制となっている。また、それ以外に学生生活支援室も設置している。

自主的な学習環境についても、図書館の開館時間延長及び閲覧機の整備により、自主学習できる環境が整えられたほか、福利施設等も新築・改修等を計画的に行い、効果的に利用できる環境を整えている。

学生の動向については定期的に各種アンケートがなされ、その結果は全教職員に周知され、学生のニーズに関する認識の共有が図られている。

資格試験等については、何人もの教職員が便宜を図っているだけでなく、取得した際に単位も認定する制度を備え、授業の枠を超えた知識習得を促す体制が機能している。

留学生・編入学生といった特別な支援が必要な学生に対しては、補講やチューターなど可能な限りの配慮がされている。

学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対しては、人的支援、及び運営費交付金及び教育後援会による財政支援が適切に行われており、学生の組織的活動が自主的に活動できる環境が整っている。

学生の生活や経済面に対しては、厚生補導委員会や担任・指導担当教員による真正面から指導があるだけでなく、学生生活支援室制度も整備され、学生及び教員に周知されており、十分に活用されている。また、経済面についても、授業料免除制度を始めとして多様な制度が用意されている。

生活の特別な支援が必要な留学生に対しては、担当教員を中心としてきめ細かく行われており、留学生は日本人学生と何ら変わることなく学生生活を送っている。

学生寮は沼津高専の大きな特徴のひとつである。寮生に対しては教職員の人的な配分を含めて最大限に支援している。例年寮生の現員がほぼ定員一杯なのも、生活の場として優れている証拠である。

進路指導は、全体の方針を踏まえ、各専門学科長及び学級担任教員が学生本人の希望を把握した上できめ細かい指導を行っている。また、ガイダンスにおいては、最近の卒業生など様々な講師を登用し、学生の意識を大いに刺激している。その結果、就職・進学ともに非常に高レベルな成果が得られている。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①：学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況) 本校の施設概要は、資料 8-1-①-1、資料 8-1-①-2 に示すとおりであり、校地、各種施設など高等専門学校設置基準の第 6 章「施設および設備等」の条件をほぼ満足している。また、施設・設備は、平成 12 年度に作成された「国立学校施設長期計画書」に基づいて継続的に整備・充実が図られている（資料 8-1-①-3）。

本校では、各教室及び実験・実習室、演習室、研究室、運動場、図書館（資料 8-1-①-4）などの一般的な施設のほか、総合情報センター（資料 8-1-①-5）とマルチメディア教室（資料 8-1-①-6）が整備され、それぞれ情報処理学習と語学学習に効果を発揮している。また、全教室には、ビデオ付きテレビと、LCD/OHP 投影用スクリーンが設置されており、特に 4 年生教室には、天井吊下げタイプの LCD プロジェクタが設置され、パソコンやビデオを用いた授業が簡単にできる環境を提供している。さらに、梅雨時や夏季などの学習環境を改善するために、全教室にエアコンが設置されている。

また、本校には機械実習工場が設置されている（資料 8-1-①-7）。機械実習工場は 1・2・3 学年次の機械工作実習教育用以外に、卒業研究及び教員研究用実験装置の製作等にも対応し、CAD/CAM/DNC を基盤にした最新鋭の数値制御工作機械などが設置されている。5 名の専任技術職員と教員とが連携して、全設備が学習内容に有機的に活用されている。本工場は機械工学科の学生だけでなく、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科の学生に対しても機械工学の基礎教育用施設として利用されている（資料 8-1-①-8）。

平成 14 年度に、施設整備計画委員会において、全ての施設・設備について利用状況や安全性などの調査を行い、その結果が施設の点検・評価報告書にまとめられている（資料 8-1-①-9）。その報告書によれば、身障者対応施設の不備など若干の問題点とそれへの改善案が示されているが、施設・設備に関しては概ね有効な利用が図られているといえる（資料 8-1-①-10）。

資料 8-1-①-1 : 施設配置図



(出典：会計課施設係)

資料 8-1-①-2 : 設置基準必要面積と保有面積の比較

必要面積・保有面積比較 (基準面積表調査单位名称により算定した場合) (H16.5.1現在)

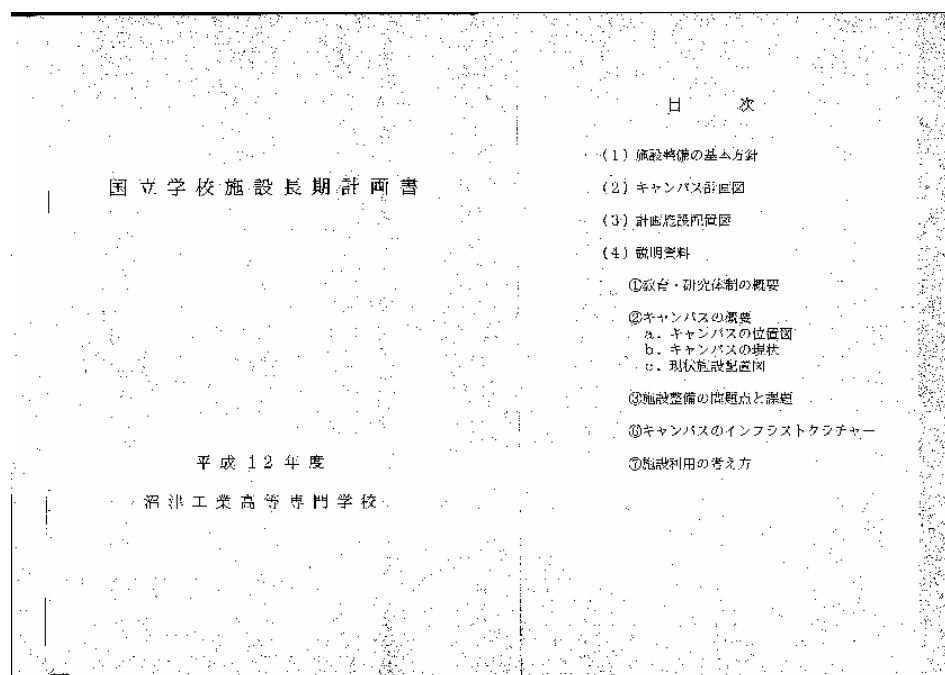
調査単位番号	調査单位名称	基準面積	保有面積	不足整備面積	備考
7010	工業高専校舎	16,700	16347	353	
7110	高専管理部	1,340	1706	-366	
7210	高専図書館	1,600	1565	35	
7310	高専屋内運動場	2,100	2370	-270	
7410	高専福利厚生施設	1,546	1269	277	
7510	高専寄宿舎	10,296	10281	15	

必要面積・保有面積比較 (現在では基準面積表調査单位名称が細分化されました。(H16.5.1現在))

調査単位番号	調査单位名称	基準面積	保有面積	不足整備面積	備考
7010	工業高専校舎	16,700	16347	353	
7110	高専管理部	1,340	1706	-366	
7120	高専一般管理施設	0	43	-43	
7210	高専図書館	1,600	1565	35	
7310	高専屋内運動場	2,100	2370	-270	
7320	高専屋内運動場付属施設	0	285	-285	
7410	高専福利厚生施設	1,546	1269	277	
7510	高専寄宿舎	10,296	10281	15	
7610	高専電算機施設	0	444	-444	
7710	高専学内共用施設	0	415	-415	
7810	高専渡り廊下	0	30	-30	
7910	高専設備室	0	630	-630	

(出典：会計課施設係)

資料 8-1-①-3 : 国立学校施設長期計画書 (表紙と目次)



(出典：沼津工業高等専門学校 国立学校施設長期計画書 平成12年度)

資料 8-1-①-4 : 図書館の整備状況

昭和45年新築 鉄筋コンクリート造2階建 1,645 m²
 主な部屋 閲覧室 396 m² 視聴覚室 205 m² 第2視聴覚室 78 m² セミナー室他 146 m²
 書庫他 193 m²
 閲覧隻数 100席 検索端末2台
 開館時間 平日 8:30-20:00 土曜日 10:00-15:00

(出典：会計課施設係)

資料 8-1-①-5 : 総合情報センターの整備状況

昭和46年度 鉄筋コンクリート造2階建 146 m²
 昭和49年度 鉄骨増平屋建 (増築) 148 m²
 昭和46年度 鉄筋コンクリート造2階建 (増築) 150 m² 合計 延面積 444 m²
 主な部屋 電子計算機室 60 m²
 第1演習室 96 m² (学生卓 46席) 第2演習室 86 m² (学生卓 24席)
 オンライン実験研究室 56 m² 教官室等 146 m²
 開館時間 平日 8:30-17:00

(出典：会計課施設係)

資料 8-1-①-6 : 語学学習のための施設 (マルチメディア教室) の整備状況

MM 教室	1 室	120 m ²	
LL 装置	学生卓	46 席	1 式
入力装置	VTR, LD, DVD, パソコン, オーバーヘッドカメラ, カセットテープ		
出力装置	プロジェクタ, モニターTV		

(出典 : 会計課施設係)

資料 8-1-①-7 : 第 1 機械工場の整備状況

第 1 機械工場

昭和 39 年新築	鉄骨造平屋建	759 m ²
主な部屋	鑄造実習室 115 m ² 鍛造実習室 83 m ² 溶接・板金・手仕上げ 177 m ² 塑性加工室 34 m ² 共同工作加工室 38 m ² , 創造設計演習室 109 m ² 他	
実習時間	平日	

第 2 機械工場

昭和 47 年新築	鉄骨造平屋建	603 m ²
主な部屋	工作機械工場 373 m ² , 機械工作実験室 77 m ² 蒸気原動機実験室 77 m ² 他	
実習時間	平日	

(出典 : 会計課施設係)

資料 8 - 1 - ① - 8 : 機械実習工場の授業利用状況

File Edit View Go Bookmarks Tools Help

http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/kojo.html

Red Hat, Inc. Red Hat Network Support Shop Products Training

実習安全教育

実習テーマ一覧

(平成17年度)

- 機械工学科 1年 [前期](#) [後期](#)
- 機械工学科 2年 [通年](#)
- 機械工学科 3年 [前期](#) [後期](#)
- 機械工学科 4年 [通年](#)
- 電子制御工学科 2年 [後期](#)
- 電気電子工学科 3年 [前期](#)
- 制御情報工学科 4年 [後期](#)
- 物質工学科 5年 [前期](#)

実習安全教育

STAFF紹介

- [佐藤 安](#)
- [河野厚志](#)
- [船本和重](#)
- [内野 拓](#)
- [中川秀則](#)

一般心得

1. 正しい服装で自分の身なりをきちんと整えること。身なりが整えば自然に心も引き締まる。緊張した心で実習を行えば、技術の向上があるのみでなく、怪我をすることも無い。
2. 規律を重んずること。
3. 実習工場の発展は自己の幸せになることを知り、時間や品物を無駄にしないこと。
4. 油断は災害のもと、不注意は過失のもと、怠慢は失敗のもととなることを十分に心がけること。
5. お互いに礼儀を守り、他人をそしめることのないようにすること。
6. 材料や作品の上に乗ったり跨いだりしないこと。
7. 危険な箇所を発見した時は直ちに注意し合うこと。
8. 工場内を走らないこと。
9. 配電盤等に触れないこと。
10. 長時間の実習によって疲れても、機械等にもたれたりしないこと。
11. 工場内では携帯電話等の電源を切っておくこと。

実習作業全般における注意事項

1. 機械類のベッド等をふき、注油個所には指定の油をさすこと。
2. 実習中無断で機械から離れぬこと。止むを得ず離れる場合には指示を受け、必ず機械を停止して離れること。
3. クラッチやギヤの掛け外しは停止してから行うこと。
4. 図面を良く読み、寸法及び注意事項を見誤らないようにすること。
5. 寸法を測る場合は、機械を止めること。
6. ワークをはずす前に切削屑等を払うこと。
7. ワークや工具の取り付けのゆるみやガタに注意すること。
8. 切り込みをうけず、切り込みを掛けたまま、機械を止めないこと。

http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/anzen.html

(出典：本校機械実習工場ウェブサイト)

<http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/kojo.html>

資料 8-1-①-9 : 教育・研究設備評価結果

施設の点検・評価報告書

平成 15 年 3 月 24 日

沼津工業高等専門学校
施設整備計画委員会
施設の点検・評価に関する専門部会

4 問題点と改善案

・現地点検の結果による問題点及び改善案については、各点検・評価表(別添資料 2)にも記載してあるが、主な問題点と改善案は、次表のとおりである。

(主な問題点と改善案)

点検・評価項目	主な問題点	改善案
土地・環境ゾーン (土地の利用状況・動線・ 風外環境)	・構内道路に安全性標識が少ない ・駐車場及び監輪場が不足 ・身障者対応施設が整備不足	・今後の施設整備の重点課題とし、計画的に実施改善を図る。
インフラストラクチャー (電力・通信・情報・給排水・ガス・冷暖房等)	・トランスが過負荷(管理棟) ・排水処理施設が老朽化顯著	・今後の施設整備の重点課題とし、早急に改善を図る。
教育・研究施設	(特に改善を要する箇所なし)	
地的管理	・一部耐震診断未実施(平屋建分)	・早急に実施を図る。
課外活動施設	・文化系の部室が不足	・全体計画の見直しにより、整備改善を図る。
福利厚生施設	・身障者対応施設が整備不足	・今後の施設整備の重点課題とし、計画的に実施改善を図る。
管理部門施設	・身障者対応施設が整備不足	・同上
防災施設	・現時点では、早急に改善を要する箇所は見当たらないが、より安全性を図るため、継続的な点検及び運用が必要である。	
地域開放等	・地域開放スペースが未整備 ・身障者対応施設が整備不足	・今後の施設整備の重点課題とし、計画的に実施改善を図る。
国際交流	・外国語の案内表示が未整備	・同上

- 4 -

(出典：施設の点検・評価報告書，平成15年3月)

資料 8-1-①-10 : 教育・研究施設・評価表 (部屋別) 抜粋

教育・研究施設点検・評価表 (部屋別)

建物名称 電子制御工学科棟 棟番号 050

頁番号	部屋番号	階	学科等名	用途				使用者					基準面積	①狭隘		②利用頻度		③快適性				
				部屋名称	大分類	中分類	小分類	室面積	教官	事務	学生	専攻科		留学生	計	床面積÷基準面積×100%	実使用面積m ² /人(合計)	評価	利用率	評価	暖房	冷房
6	1	1	電子制御工学科	玄関	B	5・6・8	ウ・エ		○	○	○	○	○			(16.18)	C	A 8	C	無 不要	無 不要	C
6	2	1	電子制御工学科	制御工学実験室1	A	1・2	ア	37	1				1	30.0	123.3	(17.18) 19.82	C	A 8	C	有 個別	有 個別	A
6	3	1	電子制御工学科	電子制御実験室1	A	1・2		35	1		5	1	7	30.0	116.7	(16.52) 2.64	C	A 8	C	有 個別	有 個別	A
6	4	1	電子制御工学科	教官室	A	1・2		71	1		4	2	7	30.0	236.7	(18.88) 7.45	C	A 8	C	有 個別	有 個別	A
6	5	1	電子制御工学科	基礎工学実験室	B	2	エ	106			21		21	138.6	76.5	(35.04) 3.38	C	C ②	C	有 個別	有 個別	A
6	6	1	電子制御工学科	情報処理演習室	B	3	ウ	136			45		45	148.5	91.6	(43.50) 2.06	C	B ⑤	C	有 個別	有 個別	A
6	7	1		女子便所				7									C		C			
6	8	1		男子便所				12									C		C			
7	1	2	電子制御工学科	教室(D3)	B	1	エ	72	1		41		42	82.0	87.8	(14.92) 1.36	C	B 5.4⑥	C	有 個別	有 個別	A
7	2	2	電子制御工学科	教室(D4)	B	1	エ	71	1		40	1	42	80.0	88.8	(14.44) 1.35	C	B 5.4⑥	C	有 個別	有 個別	A
7	3	2	電子制御工学科	リフレッシュ室				35	16				16	32.0	109.4	(9.48) 1.60	C	B	C	有 中・H5	有 H5	A
7	4	2	電子制御工学科	教室(D5)	B	1	エ	72	1		42	1	44	84.0	85.7	(14.92) 1.30	C	B 5.4⑥	C	有 個別	有 個別	A
7	5	2	電子制御工学科	基礎制御実験室	A	1・2	ア・エ	91	1		1	1	3	30.0	303.3	(32.43) 19.52	C	A 10	C	有 個別	有 個別	A
7	6	2	電子制御工学科	教官室	A	1・2	エ	45	1		5		6	30.0	150.0	(17.30) 4.62	C	A	C	有 中・H5	有 H5	A
7	7	2		女子便所				7									C		C			
7	8	2		男子便所				12									C		C			
8	1	3		教室				72									C		C			
8	2	3	電子制御工学科	学生実験室3 (電子制御実験室)	A	1・2	ア	72	1		4	2	7	30.0	240.0	(25.47) 6.65	C	A 10②	C	有 H10	有 H10	A
8	3	3	教養科	教官室	A	1	ア	21	1				1	30.0	70.0	21.00	C	B 8	C	有 個別	有 個別	A
8	4	3	教養科	教官室	A	1	ア	21	1				1	30.0	70.0	(5.95) 15.05	C	B ③	C	有 H14	有 H14	A
8	5	3	教養科	教官室	A	1	ア	21	1				1	30.0	70.0	(4.00) 17.00	C	B 8	C	有 個別	有 個別	A
8	6	3	教養科	教官室	A	1	ア	21	1				1	30.0	70.0	(9.04) 11.96	C	B 8	C	有 個別	有 個別	A
8	7	3	電子制御工学科	電子制御実験室Ⅲ	B	2	エ	94			40		40	264.0	35.6	(23.53) 1.76	C	B ④	C	有 中央	無	A

(出典：施設の点検・評価報告書，平成15年3月)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。本校の施設・設備は、長期計画に基づき整備され高専設置基準をほぼ満たしており、平成14年度に本格的な点検評価が行われ、身障者対応施設の不備など若干の問題点が指摘されているが、ほとんどの施設・設備は、有効に活用されていることが確認されている。

観点 8-1-②：教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況) 本校は，光ケーブルとレイヤ3スイッチによるギガビットの校内LAN(ローカルエリアネットワーク)が構築されており(資料8-1-②-1)，校内全域から総合情報センター等に設置されている各種サーバを利用することが可能であり，ネットワーク利用の基本ルール(資料8-1-②-2)のもとに教育・研究に活発に利用されている。また，本校LANは，ファイアウォールを介して8Mbpsの専用回線でインターネットに接続され，教育・研究に活発に利用されている(資料8-1-②-3)。また，現時点では部分的ではあるが，図書館や一部の学科で無線LANによるネットワーク接続環境を整備し，学生の利用の便宜を図っている。

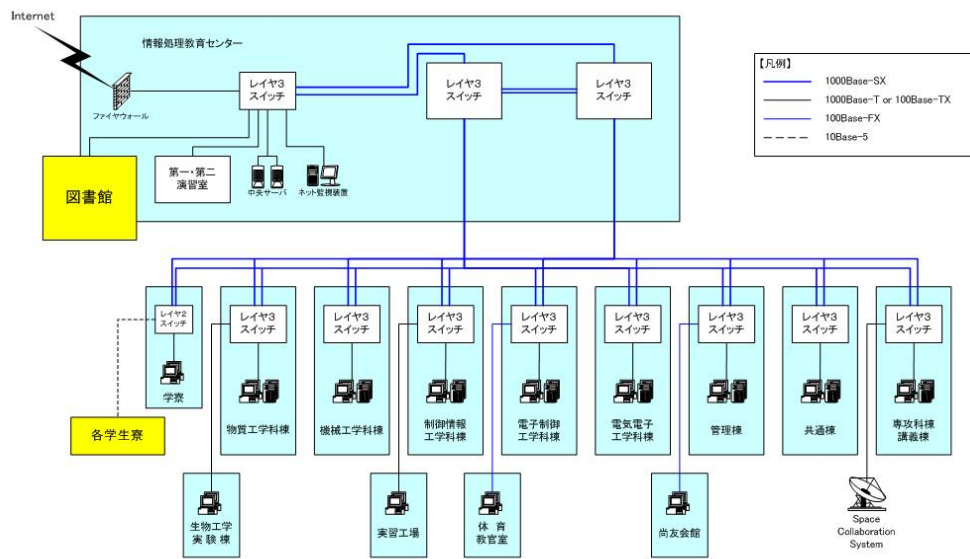
総合情報センターでは，2つの演習室に計75台のPCを設置し，1年次より全学科の学生を対象にコンピュータを利用した情報処理教育を行っている。2年次以降においても各学科の専門科目に関連した情報処理教育を実施し，本校の教育目標の一つである「情報処理に強い技術者」の育成に中心的な役割を担っている。センターの情報処理演習室の授業での利用は，前後期とも毎週32時間におよんでいる(資料8-1-②-4)。総合情報センターのサーバおよびPCは，4～5年に一度システムのリプレースを行って，最新のハードウェア・ソフトウェア環境を提供している。また，教養科ではマルチメディア教室に46台のPCを設置し，英語のリスニングの授業だけでなく，政治経済，地理情報学などの授業に利用されている。

学生のコンピュータ・ネットワーク利用環境整備は，それぞれの専門学科においても進められている。現在4つの学科が独自に情報処理演習室を持ち，計123台の情報端末を保有しており，工学実験でのレポート作成，コンピュータ関連の演習，さらに専門のアプリケーションによるシミュレーションや設計などの授業で利用されている(資料8-1-②-5)。さらに，卒研室や実験室にも，370台を超えるパソコンが設置され，卒業研究や学生実験で利用されている。また，学生寮にも，各棟にコンピュータルームが用意されインターネット利用可能なPCを配置し，寮での学習の便宜を図っている。

セキュリティ管理を含む校内LANの管理は，資料8-1-②-6に示すように，校内LAN運営委員会を意思決定機関として，ネット管理グループ(基幹LAN管理者)と学科・事務を単位とする支線管理者に管理運用されている(ただし，平成17年度より，総合情報センターにその役割が引き継がれている)。

具体的なセキュリティ対策としては，インターネットと校内LANの境界にファイアウォールを設置し，学外から学内のサーバのアクセスは明示的に許可したホストとサービスのみとすることで，学外からの不正侵入の危険性を最小限にとどめている(資料8-1-②-7)。さらにアクセスログの管理により不正アクセスに関する調査を可能にしている。また，ウィルス検知・駆除ソフトをサイトライセンスとして一括購入し，ネットワーク接続された全情報端末への導入を行っている。さらに，平成16年度の情報センターのシステム更新で，学生用のメールサーバにおいてもサーバベースのウィルス駆除ソフトを導入し(教職員のサーバは平成15年度に導入)，メールによるウィルス感染のリスクを最小化している。なお，情報システムのセキュリティポリシーは現時点では策定されていないが，新たに発足した総合情報センターを中心として，平成17年度中の作成を予定している(資料8-1-②-8)。

資料 8-1-②-1 : 校内LAN構成図



沼津高専情報ネットワークシステム構成図(2002/07)

(出典：NCT-Netウェブサイト)

<http://nct.numazu-ct.ac.jp/nctnet/open/nctnet/nct-net2.jpg>

資料：8-1-②-2：ネットワーク利用に関する基本ルール

沼津工業高等専門学校ネットワーク利用に関する基本ルール

(利用目的)

本校のコンピュータネットワークは、教育、学術研究及び学校業務における利用を目的とする。

(禁止事項)

次の各号に掲げる一切の行為を禁止する。

1) 法律に違反する行為

日本国法律等に反するネットワーク上での全ての行為。

2) クラッキング行為

パスワードを盗聴すること。

通信内容を盗聴すること。

コンピュータウイルスを意図的に配布すること。

セキュリティーホールを攻撃すること。

アカウントのないホストへ不正侵入すること。

IP アドレス、ユーザ名を詐称すること。

3) 通信を妨害する行為

IP アドレスを不正使用すること。

チェーンメールを発信すること。

その他、通信を妨害する目的で、不要なトラフィックを意図的に流す行為。

4) 人権侵害に属する行為

ウェブサイト、ネットニュース、メーリングリストなどを通じて、ネットワーク上へ個人を誹謗・中傷するような内容の記事を発信すること。

相手が不快に思うメールを送ること。

5) 営利行為

ウェブサイト、ネットニュース、メーリングリストなどを通じて、ネットワーク上に営利目的の情報を発信すること。

(罰 則)

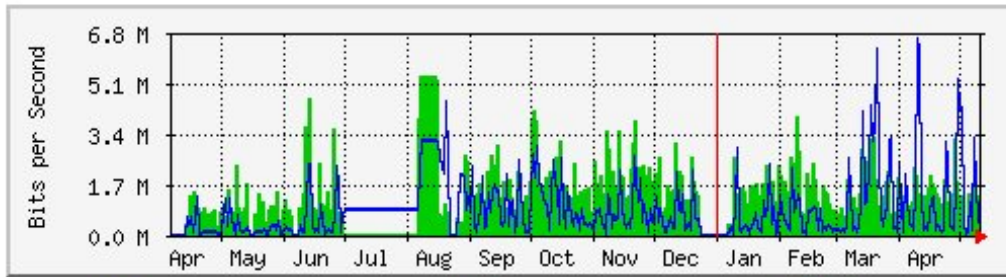
上記2の行為を行った場合は、アカウント停止、剥奪などの罰則を課する。

また、その行為が学則や社会規範に反するようなものである場合は、別途学校による処罰を課するほか、告訴する場合もある。

(出典：平成17年度学生便覧)

資料 8-1-②-3 : 学外回線の使用状況 (平成16年4月~平成17年4月)

年間グラフ(1日平均)



最大値 受信: 5398.2 kb/秒 (5.4%) 平均値 受信: 1331.0 kb/秒 (1.3%) 現在値 受信: 1230.1 kb/秒 (1.2%)
 最大値 送信: 6611.8 kb/秒 (6.6%) 平均値 送信: 916.7 kb/秒 (0.9%) 現在値 送信: 308.4 kb/秒 (0.3%)

(出典: NCT-Netウェブサイト)

http://nct.numazu-ct.ac.jp/mrtg/nctr-bb_3.html

資料 8-1-②-4 : 総合情報センター情報処理演習室の使用時間割

前期					
	月	火	水	木	金
1	情報処理基礎	情報処理基礎	情報処理基礎	数値解析	プログラミング
2	C1	E1	S1	M4	E3
3	アルゴリズム	数値解析	プログラミング	情報処理基礎	
4	と	S4	演習	D1	
5		電気電子工学	情報処理基礎	電気電子工学	(文学特論
6		実験	M1	実験	M4)
7		電気電子工学		E3	
8		実験			
9			日本事情		
10			留学生		
後期					
	月	火	水	木	金
1	情報処理基礎	情報処理基礎		データベース	電子計算機
2	S1	E1		S5	M3
3	情報処理基礎	プログラミング	設計製作	情報処理基礎	
4	D1	E3	M4	C1	
5	数値解析	電気電子工学	情報処理基礎	電気電子工学	(文学特論
6	S4	実験	M1	実験	M4)
7		E2	(文学特論	E3	
8			S4)		
9			日本事情		
10			留学生		

() 書きは不定期で利用されるもの

(出典: 総合情報センター)

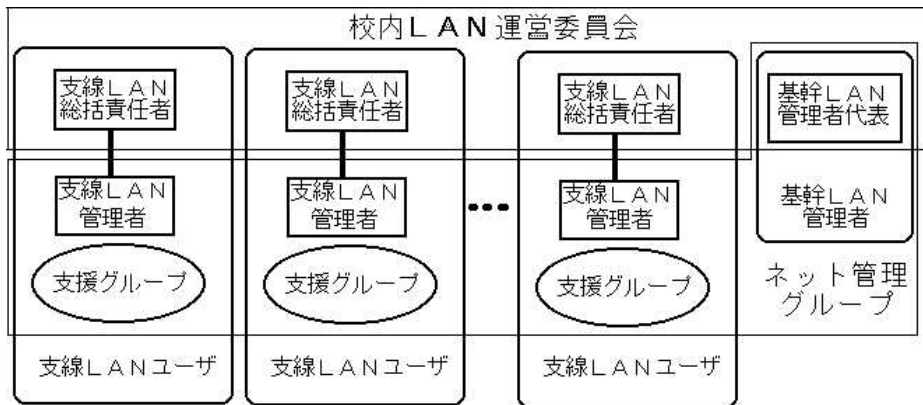
資料 8-1-②-5 : 学科でのコンピュータの整備・利用状況

各学科の学生のコンピュータ利用環境および利用状況(2005年4月現在)

	コンピュータ設置台数		年間単位数	コンピュータ演習室の授業での利用状況
	演習室	研究室等		主な科目
機械工学学科	23	68	6	工学実験
電気電子工学科	25	75	22	情報工学演習、プログラミング演習、計算機シミュレーション
電子制御工学科	45	70	56	工学実験、電子機械設計製作、制御工学、C言語演習
制御情報工学	30	65	36	制御情報工学演習、プログラミング、計算機シミュレーション
物質工学科	-	99	-	--
(計)	123	377		

(出典：総合情報センターネットワーク管理部門)

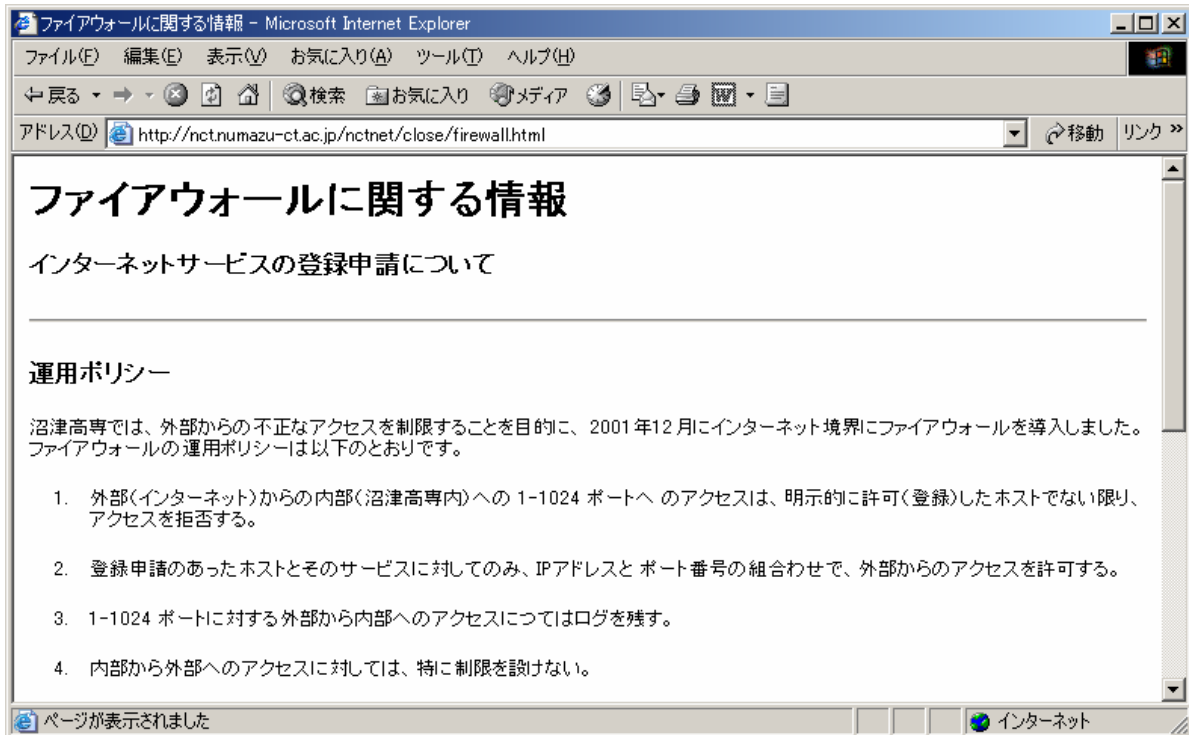
資料 8-1-②-6 : 校内ネットワークの管理体制



(出典：NCT-Netウェブサイト)

<http://nct.numazuct.ac.jp/nctnet/open/netadm.html>

資料 8-1-②-7 : ファイアウォールの運用ポリシー



(出典 : NCT-Net ウェブサイト)

<http://nct.numazu-ct.ac.jp/nctnet/close/firewall.html>

資料 8-1-②-8 : 総合情報センター平成17年度活動計画

2005 年度総合情報センター活動計画 (案)

本校の情報処理に関連する業務(教育、事務)を効率的及び円滑に推進するため、また、情報処理技術の新発展にも柔軟に、速やかに対応可能とするために、旧組織(情報処理教育センター、LAN 部門- LAN 運営委員会、基幹ネットワーク管理、SCS、ITWG)等を統括する「総合情報センター」の構想を提案し、2005年3月の統務委員会において、その構想を実現する「沼津工業高等専門学校総合情報センター規則」が認められた。この規則に基づき、「総合情報センター」として今年度の以下のような活動計画を運営会議に提案する。

1 はじめに

今年度は、センターとして2に示すような活動を計画しているが、それとともに新しい総合情報センターの運用体制を次の項目に示したことを考慮しつつ、確立する。

- センターの各委員は、従来と同様に部署の代表の役割を担うとともに情報センターのスタッフ的な活動を要請されるようになった。特に新しく2名の技術職員が、重要なスタッフ的存在として委員に加わることとなった。このスタッフ的な業務、役割分担を明確にする。ただし、専任職員以外は、その本務との関係に注意する必要がある。
- 担当者、責任者あるいは長が交代しても業務遂行に大きな影響の出ないような組織とする。すなわち、特定の職員に恒常的に大きく依存し、また過剰負担とならないような、交代可能な組織を目指す(資料1.0.1)。

2 2005 年度総合情報センターの活動計画(定常的な業務は除く、資料1 : 4p、資料2 : 5p、資料3 : 7p)

2.1 総合情報センターとして

1. セキュリティポリシーの策定(資料1.0.0)
新たな working group 立ち上げにより今年度中に策定
2. 総合情報センターのホームページの立ち上げ
3. 職員の学外の研修会、講習会への参加による技術力向上
4. サブネット管理者である技術職員の職務追加とそれに伴う名称変更検討

2.2 ネットワーク管理部門

1. 部門の体制確立とスタッフの技術力向上

(分析結果とその根拠理由) 優れている。本校は、教育目標の一つとして「情報技術に強い実践的技術者の養成」を掲げており、常に最先端の情報ネットワークを維持するよう努めており、総合情報センターおよび各科の演習室、実験室、研究室を合わせて、授業等で利用する十分な数の情報端末が整備されている。また、ネットワーク管理体制も整い、相応なセキュリティ管理がなされている。

観点 8-2-①：図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況) 教育研究に必要な図書、学術雑誌は、本校図書館を中心に整備されている。本校図書館の蔵書数は、平成17年3月末現在、74,027冊で、教育及び研究に必要な技術・自然科学の専門書だけでなく、社会科学や芸術など豊かな情操を養うための教養書も多く蔵書されている(資料 8-2-①-1)。

図書館で購入する図書選定は年度始めの図書室運営委員会で行い(資料 8-2-①-2)、随時図書の追加を行っている。この数年の図書の購入冊数は、毎年平均800冊程度となっている。ただし、平成15年度より5000円以上の図書のみを蔵書として扱うように変更したため、それ以降の蔵書追加数は1年に300冊程度となっている(資料 8-2-①-3)。図書以外では、学術専門雑誌13誌、一般及び自然科学雑誌21誌(資料 8-2-①-4)のほか、新聞6紙、白書等の政府刊行物等も自由に閲覧できるようにしている。

図書館業務の電算化により、蔵書は全てバーコード管理され、貸出・返却手続きの効率化が図られ、学生の貸出し件数は、年間約6500件となっている(資料 8-2-①-5、現在のシステムでは貸出し件数のみが記録され、貸出し冊数は記録されない)。また、図書館には2台の情報端末を設置し、本の検索と貸出し状況のチェックなどを出来るようにしている。さらに、学内のどこからでもウェブサイトでの蔵書の検索が行えるサービスを提供している(資料 8-2-①-6)。

図書館は、学校全体の学習センターとしての役割を果たすべく、平成16年9月より閉館時間を20時まで延ばした。また、平成16年度末に100席ある閲覧室の一部を学習コーナーとして改装し、自習しやすい環境を提供している(資料 8-2-①-7)。学習コーナーの設置に際しては、導入する机のタイプについて学生にアンケートを行い、その要望を反映したものとした。平成17年4月時点での1日あたり平均入館者数は103人となっている。

また、図書館には、1階に視聴覚教室(1・2)、ゼミナール室(1・2)、共用ゼミナール室が附属し(前出資料 8-1-①-4)、音楽をはじめとする授業、卒業研究などの研究発表会、各種講習会等で活用されている。また、談話コーナー、ホールなども整備され、休み時間等に利用されている。

視聴覚資料として、「プロジェクトX」「電子立国日本」などのビデオを学生課が30本程度保有しており、一部授業などで使われているが、十分に整備・活用されているとは言えない状況である。

また、研究活動をサポートする目的で、長岡科学技術大学の提供する文献検索サービス(Jdream, KANON)、国立情報学研究所の提供する文献検索サービス(GeNii)と文献複写サービス(ILL)を利用できるように、学校単位での契約を行っている。さらに、アメリカ数学協会のオンライン文献システム MathSciNet とも契約している。ILLを利用した文献複写件数は平成15年度が231件、平成16年度が178件となっている。

資料 8-2-①-1 : 図書館の蔵書数

備品図書

単位:冊

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	計
和漢書	4,753	2,264	4,575	3,193	14,633	16,557	325	2,025	2,665	6,982	57,972
洋書	587	414	320	243	9,545	3,234	50	155	783	724	16,055
計	5,340	2,678	4,895	3,436	24,178	19,791	375	2,180	3,448	7,706	74,027
%	7	4	7	5	32	27	0	3	5	10	100

雑誌

単位:種類

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	計
和雑誌	99	3	20	19	47	148	8	5	14	5	365
洋雑誌	7	2	4	3	130	79	0	6	3	1	235
計	106	5	24	22	177	227	8	11	17	6	600

平成17年3月31日現在

(出典: 庶務課図書係)

資料 8-2-①-2 : 図書館運営規則 (抜粋)

○沼津工業高等専門学校図書館運営規則

(昭和 46. 6. 1 制定)

最終改正 平成 16. 4. 14

(目的)

第 1 条 この規則は、沼津工業高等専門学校学則第 1 1 条の規定に基づき、沼津工業高等専門学校に図書館を置き、その円滑な運営を図るために必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

(図書室運営委員会)

第 1 0 条 図書館運営委員会に、第 2 条第 2 項の図書室の運営に関する事項を処理するために、図書室運営委員会を置く。

(協議事項)

第 1 1 条 図書室運営委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 図書室の運用に関すること。
- (2) 図書室の業務計画に関すること。
- (3) 図書の選定に関すること。
- (4) 図書室の経費に関すること。
- (5) その他図書室に関し必要な事項。

(出典: 沼津工業高等専門学校図書館運営規則)

資料 8-2-①-3 : 過去 5 年の新規蔵書数の推移

年度	H16	H15	H14	H13	H12
新規蔵書数	306冊	268冊	692冊	897冊	874冊

(出典: 庶務課図書係)

資料 8-2-①-4 : 図書室閲覧図書一覧 (平成17年 4月 1日現在)

専門学術雑誌

No	雑誌名	
1	自動車工学	(M)
2	機械設計	(M)
3	電気計算	(E)
4	トランジスタ技術	(E・D)
5	トランジスタ技術SPECIAL	(E・D)
6	ロボコンマガジン	(E・D)
7	インターフェース	(S)
8	Cマガジン	(S・D)
9	Unix Magazine	(S・D)
10	現代化学	(C)
11	化学工業	(C)
12	化学と生物	(C)
13	数理科学	(D)

一般および自然科学雑誌

No	雑誌名
1	ASCII
2	文芸春秋
3	I/O
4	科学
5	キネマ旬報
6	暮らしと健康
7	航空ファン
8	monoマガジン
9	ニュートン
10	日経サイエンス
11	週刊朝日
12	新潮
13	新聞ダイジェスト
14	スクリーン
15	数学セミナー
16	生徒指導
17	旅
18	鉄道ファン
19	National Geograph
20	たしかな目
21	Nature

(出典：庶務課図書係)

資料 8-2-①-5 : 図書館貸出し統計

平成16年度利用統計 (利用回数)

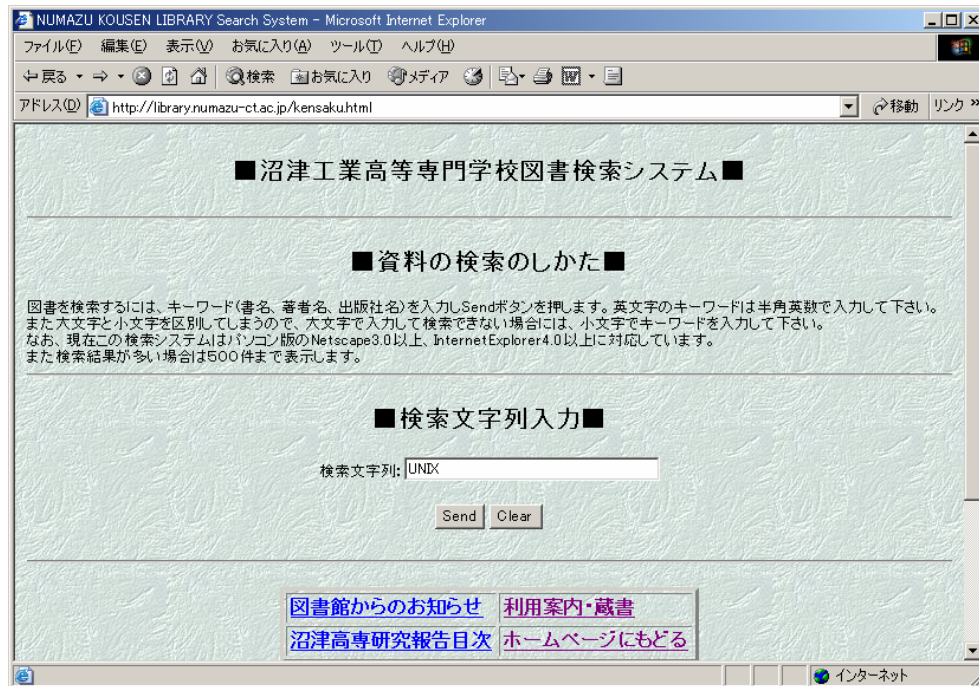
月	学 生	教 職 員	合 計
4	624	450	1,074
5	702	28	730
6	755	24	779
7	606	18	624
8	180	22	202
9	563	73	636
10	725	27	752
11	742	126	868
12	561	100	661
1	595	37	632
2	458	17	475
3	60	14	74
計	6,571	936	7,507

過去5年間の利用統計 (利用回数)

年度	学 生	教 職 員	合 計
12	6,445	9,996	16,441
13	6,408	10,550	16,958
14	5,950	9,652	15,602
15	7,514	447	7,961
16	6,571	936	7,507
計	32,888	31,581	64,469

(出典：庶務課図書係)

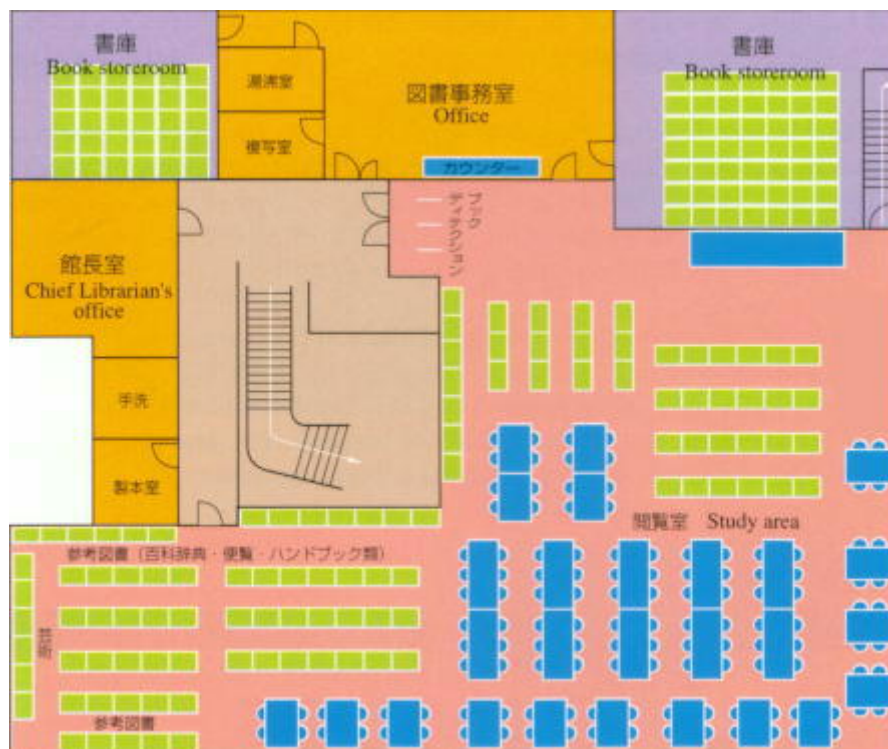
資料 8-2-①-6 : オンライン蔵書検索システム



(出典：図書館ウェブサイト)

<http://library.numazu-ct.ac.jp/kensaku.html>

資料 8-2-①-7 : 図書室配置図



(出典：本校公式ウェブサイト，施設紹介)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/sisetu_frm.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応であるが、一部に改善を要する点がある。本校図書館は、約7万4千冊の蔵書を持ち、図書館内の情報端末だけでなくオンラインでの検索システムを提供して学生の利便を図っている。また、閲覧机等設備面にも配慮し、開館時間の延長措置と合わせて、学生が資料を有効活用できる体制を整えており、この点では優れている。一方で、視聴覚資料の配備・充実については十分ではなく、この点に関しては改善を要する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校の施設・設備は現在平成12年に作成された長期計画に基づき整備が続けられており、平成14年度の施設整備計画委員会が行った自己点検において、既存施設・設備は有効に活用されていることが確認された。

校内情報ネットワークの整備は、総合情報センターを中心として常に最先端の情報ネットワークを維持するよう努めており、総合情報センターおよび各科での学生のコンピュータ利用環境が十分に整備されている。

(改善を要する点) 教育に必要な視聴覚資料の整備と活用が十分行われておらず、この点では改善を要する。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の校地、各種施設(各教室及び実験・実習室、演習室、研究室、運動場、図書館など)は、高等専門学校設置基準の第6章「施設および設備等」の条件をほぼ満足している。平成12年度に作成された「国立学校施設長期計画書」に基づいて継続的に施設・設備の整備・充実が図られ、授業環境改善のための全教室へのビデオ付きテレビとエアコンの設置、総合情報センターの設備更新、機械実習工場への最新鋭の数值制御工作機械などの設置、マルチメディア教室の整備などが進められてきた。平成14年度の施設整備計画委員会において、全ての施設・設備について利用状況や安全性などの調査が行われ、概ね有効な利用が図られているといえることが確認された。

また、ギガビットの校内LANが整備され、校内全域から教育および業務サービスを提供する各種サーバをストレスなく利用することが可能となっており、ネットワーク利用の基本ルールのもとに、教育・研究に活発に利用されている。本校ネットワークは、ファイアウォールの設置、ウィルス対応ソフトの普及、ネットワーク管理体制の整備により、必要な情報セキュリティの確保を行っている。学生が利用できる情報端末は、総合情報センター、各科演習室、研究室等に設置され、全学で500台を超えるPCが利用可能となっており、演習、実験、卒業研究等で有効に利用されている。

教育研究に必要な図書、学術雑誌は、本校図書館を中心に整備され、平成17年3月末現在の蔵書数は74,027冊となっており、教育及び研究に必要な技術・自然科学の専門書だけでなく、社会科学や芸術など豊かな情操を養うための教養書も多く蔵書されている。図書以外に、学術専門雑誌13誌、一般及び自然科学雑誌21誌などを購読し、学生が自由に閲覧できるようにしている。また、蔵書のバーコード管理による貸出・返却手続きの効率化、閲覧室の整備、開館時間の延長、オンラインでの蔵書検索サービスの提供など利用環境整備が継続的に行われている。

このように、教育課程に対して十分な施設・設備が整備され、概ね有効活用されている。また、視聴覚資料の整備・活用が十分でない点を除けば、図書館を中心として教育研究に必要な図書、学術雑誌の整備が相応に行われている。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①：教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

(i) 授業実施状況

教育科目一覧は、準学士課程・専攻科とも毎年4月に発行される学生便覧の教育課程の章に記載されており（前出資料5-1-①-1～7及び資料5-5-②-2）、科目毎の教育内容の詳細はウェブサイトで公開されるシラバスに記載されている（資料9-1-①-1）。授業の実施状況は、準学士課程においては年度末に学生課に提出している学級日誌から把握が可能であり、専攻科においては授業完了報告書により実施状況の報告を義務付けている（資料9-1-①-2）。また、それぞれの授業の実施日と学生の出欠は、出席簿に記録され、それぞれの担当教員によって管理されている（資料9-1-①-3、ただし、総合システム工学プログラム関連科目に関しては授業完了報告書の一部として学生課に提出している）。

(ii) 成績データ管理と成績評価

科目の成績データの管理は、準学士課程においては年4回の実施される定期試験毎に成績管理システム「キャンパスアシスト」に成績評価データが入力され、学生の個人成績が管理されている（資料9-1-①-4）。専攻科の成績管理は、前後期の授業完了報告書の入力ページから担当教員が成績入力を行って科目毎に管理されている（資料9-1-①-5）。また、試験答案や課題レポートなどの成績評価の根拠資料は、準学士課程においては各教員が保管管理し、専攻科においては授業完了報告書の添付資料として提出を義務付け、学生課がそれを保管している。年度末にはこれらのデータをもとに、準学士課程においては進級・卒業判定会議、専攻科においては専攻科会議において、進級・卒業・修了の要件を満たすか否かの一覧表が配布され、その判定を行っている（前出資料5-3-①-5及び6）。

(iii) 教育活動に関する評価・点検

教育活動の全般的な自己点検・評価は、校長を委員長とする自己点検・評価委員会が行い（資料9-1-①-6）、その結果を自己点検・評価報告書としてまとめている。自己点検・評価報告書は平成11年度から13年度までの3年間と平成16年度の計4回作成された（平成16年度版は資料9-1-①-7）。また、専攻科と4、5年のカリキュラムで構成される総合システム工学コースは、平成16年度に専攻科企画運営委員会を中心に詳細な自己点検評価が行われ、専攻科担当教員会議の審議を経て、自己点検書としてまとめられた（資料9-1-①-8及び9）。なおこの自己点検書は、JABEEへの報告書として提出された。

資料 9-1-①-1 : 準学士課程のシラバスの公開ページ

国立沼津工業高等専門学校 教授要目 (シラバス) 最終更新05/04/6

はじめに

この「シラバス(授業計画)」には、授業科目ごとに、講義の内容と目標、各週の授業項目、学習に必要な教科書・参考書、評価方法、学生が質問に行きやすいように授業担当教員のオフィスアワー等が掲載されています。

このシラバスは、これまでに実践した授業の結果等を、教員自らが更に点検・評価を行い、毎年度更新しているもので、本校の自己点検・評価の一環として公開しているものであります。

一般科目・専門科目の教育課程については本文に示すとおりであって、一般科目については学科によって単位数の学年別配当に違いがあります。また、専門の選択科目開講の単位数についても、各学科・コースによって差があり、中には集中講義によって履修する選択科目も設けてあります。

工業高等専門学校における学修は、技術・研究を志す学生にとって学習の第一歩であり、自学自習の精神を培うよい場であります。

このシラバスの内容を把握して年間の学習計画を立てて履修に努めれば、より良き理解が得られるものと信じます。

人間性豊かな、人柄の良い技術者を目指して、このシラバスを有効に活用し、学業に成果をあげることを期待します。

国立沼津工業高等専門学校長 久賀重雄

平成17年度版(2005)
平成16年度版(2004)

ページが表示されました インターネット

(出典：本校公式ウェブサイト，シラバス)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/syllabus/newsyllabus.top.htm>

資料 9-1-①-2 : 専攻科授業完了報告書作成に関する細目

report - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 検索 お気に入り メディア

アドレス http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/report.html#AppA2

• 2号書式(授業完了報告書)の項目

- 科目名:
- 担当者名:
- 対象学年:
- 単位数:
- 必修/選択:
- 開講時期:
- 授業区分
 - 工学専門区分(必修となる分野区分/学位分野):
 - 基礎能力(数学、自然科学、情報技術):
 - 基礎工学区分:
 - 社会科学等(人文・社会科学、語学):
- 授業形態:
- 実施場所:
- 受講者数:
- 開講(単位)時間数:
- 学生による授業評価:
- 評価:

学生番号	学生氏名	受講(実)時間	目標別評価 A,B,C,D,E	学生の自己評価	教科目評価	総合評価
- 授業実施状況(シラバスに沿った報告書)
以下の各項目について、400字程度で記述する。
 - 授業の工学的、社会的意義をどのように説明したか。(時事的な問題との関連を重視しての説明があれば特記すること)
 - OHP(or プレゼン・ソフト)、AV等、補助教材をどのように活用したか。(学生の反応を基に判断すること)
 - 宿題の質と量は適切であったか。(学生の提出物を基に判断すること。)
 - 学生からの質問の質と量はどのように判断するか。(オフィスアワーの設置・活用状況を明記すること)
 - 全般的に見た場合、学生の成績はどうであったか。(学力、モラル、社会的意識等、多面的に捉えること)
 - 次回の授業計画に活かせる事項は何か。(具体的な事項について述べる)

[文頭へ戻る。](#)

(出典：「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」の付録)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/report.html#AppA2>

資料 9-1-①-3 : 出席簿

平成 16 年度 出 席 簿 遅延

授業 科目	学科 学年組	担当 教官名	印																
		中丸真司	⑨																
実施回数	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17	総実施時間	34 時間																
実施月日	4/2 4/9 4/26 4/30 5/10 5/17 5/24 5/31 6/7 6/14 6/21 6/28 7/5 7/12 7/19 7/26	遅刻回数	合計																
実施時間数		欠課回数	合計																
1	✓	5分																	
2	✓																		
3	✓																		
4	✓																		
5	✓																		
6	✓																		
7	✓																		
8	✓																		
9	✓																		
10	✓																		
11	✓																		
12	✓																		
13	✓																		
14	✓																		
15	✓																		
16	✓	2	2																
17	✓																		
18	✓																		
19	✓	2	2																
20	✓	2	2																
21	✓																		
22	✓																		
23	✓																		
24	✓																		
25	✓	2	2																
26	✓																		
27	✓																		
28	✓																		
29	✓																		
30	✓																		
31	✓																		
32	✓																		
33	✓																		
34	✓																		
35	✓																		
36	✓																		
37	✓	2	2																
38	✓																		
39	✓																		
40	✓																		
41	✓	4	4																
42	✓																		
43	✓																		

記入要領 : 出席—無印 遅刻—×記印 欠課—1,2の数値(実施回数欄の数) 遅刻は3回につき欠課時数1とする
注 : 出席簿は、学年末に提出する成績表に添付してください 清書転記したものが望ましい

(出典：平成16年度出席簿)

資料 9-1-①-4 : 成績管理システム「キャンパスアシスト」

The screenshot shows the Campus Assist web application interface. At the top, it displays the date '2005年 6月28日(火)', user name 'ユーザー名:牛丸真司', and year '2005年度 前期'. The main content area is titled '成績一覧表' (Exam Results List). It shows a table with 9 rows of exam results. Above the table, there is a message: '「詳細」ボタンをクリックして、成績一覧が表示されない、又はエラーメッセージが表示される場合は、Downloadをマウスで右クリックして「対象をファイルに保存」を選択してください。' (Click the 'Details' button. If the exam results list is not displayed or an error message is shown, right-click the 'Download' button with the mouse and select 'Save target as file').

試験	学年	クラス	作成日	詳細	ダウンロード
前期中間	1	機械工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	1	電気電子工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	1	電子制御工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	1	制御情報工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	1	物質工学科	2005/06/27	詳細	Download
前期中間	2	機械工学科	2005/06/28	詳細	Download
前期中間	2	電気電子工学科	2005/06/28	詳細	Download
前期中間	2	電子制御工学科	2005/06/28	詳細	Download
前期中間	2	制御情報工学科	2005/06/28	詳細	Download

Navigation links at the bottom: [異動状況一覧] [学生数一覧] [トップへ戻る] [ログアウト]

(出典：キャンパスアシスト)

https://campus.numazu-ct.ac.jp/cassist/login/default.asp

資料 9 - 1 - ① - 5 : 専攻科成績評価の入力画面例

成績の表示

授業完了報告書作成に戻る <TOP

注)MS-Windows 98/98SE/MEとインターネットエクスプローラ(IE)の組合せで動作しないケースがありましたので入力ページの構成を変更しました。--->詳細
成績の入力は学生ごとに行ってください。表の最右端のeditをクリックすると当該学生の編集ページ移動します。多少使いにくくなりますが御容赦ください。

学籍番号	氏名	受講 (実)時間	科目評価項目					学生の 自己評価	総合 評価	Ver.	更新日	備考
			レポート 25【%】	発表と討論 25【%】	試験 30【%】	授業態度 10【%】	自己評価 10【%】					
		21	B	B	C	A	A	A	B	4	2005-02-17 13:15:22	edit
		19	A	B	A	A	B	B	A	4	2005-02-17 12:12:01	edit
		19.5	A	B	A	A	A	A	A	3	2005-02-17 12:10:31	edit
		22.5	A	A	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:11:05	edit
		22.5	A	A	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:11:19	edit
		22.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:11:33	edit
		19.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:12:19	edit
		21	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:12:48	edit
		19	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:13:11	edit
		22.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:13:32	edit
		21.5	B	B	B	B	A	A	B	4	2005-02-17 12:16:01	edit
		21.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:15:29	edit
		21	A	B	B	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:16:24	edit
		21	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:16:49	edit
		21	C	B	B	C	A	A	B	4	2005-02-17 12:21:00	edit
		21	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:17:09	edit
		20.5	B	B	A	A	A	A	A	3	2005-02-17 12:19:51	edit
		21	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:17:46	edit
		20.5	B	B	C	A	A	A	B	3	2005-02-17 12:22:00	edit
		21.5	A	B	A	A	A	A	A	2	2005-02-17 12:20:02	edit

(出典：専攻科成績入力システム)

http://senkoka.numazu-ct.ac.jp/adedum/SubjectBrowse/adedum/user_login

資料 9-1-①-6：自己点検・評価委員会規則

○沼津工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

(平成 11. 10. 13 制定)

最終改正 平成 14. 3. 13

(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校に、自己点検・評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 自己点検・評価に関する基本方針並びに実施計画等の策定に関すること。
- (2) 自己点検・評価の実施並びに結果に関する報告書の作成及び公表に関すること。
- (3) その他自己点検・評価に関する必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事），校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）
- (3) 各学科主任，教養科主任及び専攻科長
- (4) その他校長が指名する者

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、校長をもってあてる。

2 委員長は、委員会を招集しその議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第 6 条 委員会に特定事項について審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、委員会が定める。

(事務)

第 7 条 委員会に関する事務は、庶務課庶務係において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の定めるところによる。

附 則

この規則は、平成 11 年 10 月 13 日から施行する。

(出典：沼津工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則)

資料 9-1-①-7 : 平成16年度自己点検・評価報告書ファイル一覧

平成16年度沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告

一覧ファイル	各部署作成ファイル
各学科等一覧	教養科
	機械工学科
	電気電子工学科
	電子制御工学科
	制御情報工学科
	物質工学科
	専攻科
委員会一覧(1)	教務委員会
	厚生補導委員会
	寮務委員会
委員会一覧(2)	情報処理教育センター運営委員会
	地域共同テクノセンター運営委員会
	学生生活支援室
	外国人留学生部会
委員会一覧(3)	動物実験委員会
	組換えDNA安全委員会
	安全衛生委員会
	セクハラ相談室

(出典：平成16年度自己点検・評価報告書)

http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/other/zikotenken/index.html

資料 9-1-①-8 : 専攻科担当教員会議規則抜粋

沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則

(平成15年6月11日制定)

〈設置〉
第1条 沼津工業高等専門学校専攻科に専攻科担当教員会議(以下「会議」という。)を置く。

〈審議事項〉
第2条 会議は、校長の諮問に応じ、専攻科に関し、次に掲げる事項を審議する。

1. 教務に関する事項
2. 厚生補導に関する事項
3. 入学者の選抜に関する事項
4. 自己点検・評価に関する事項
5. 専攻科担当教員の資格審査に関する事項
6. 日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査・認定に関する事項
7. 大学評価・学位授与機構の審査に関する事項
8. その他専攻科の運営に関し、専攻科長が必要と認める事項

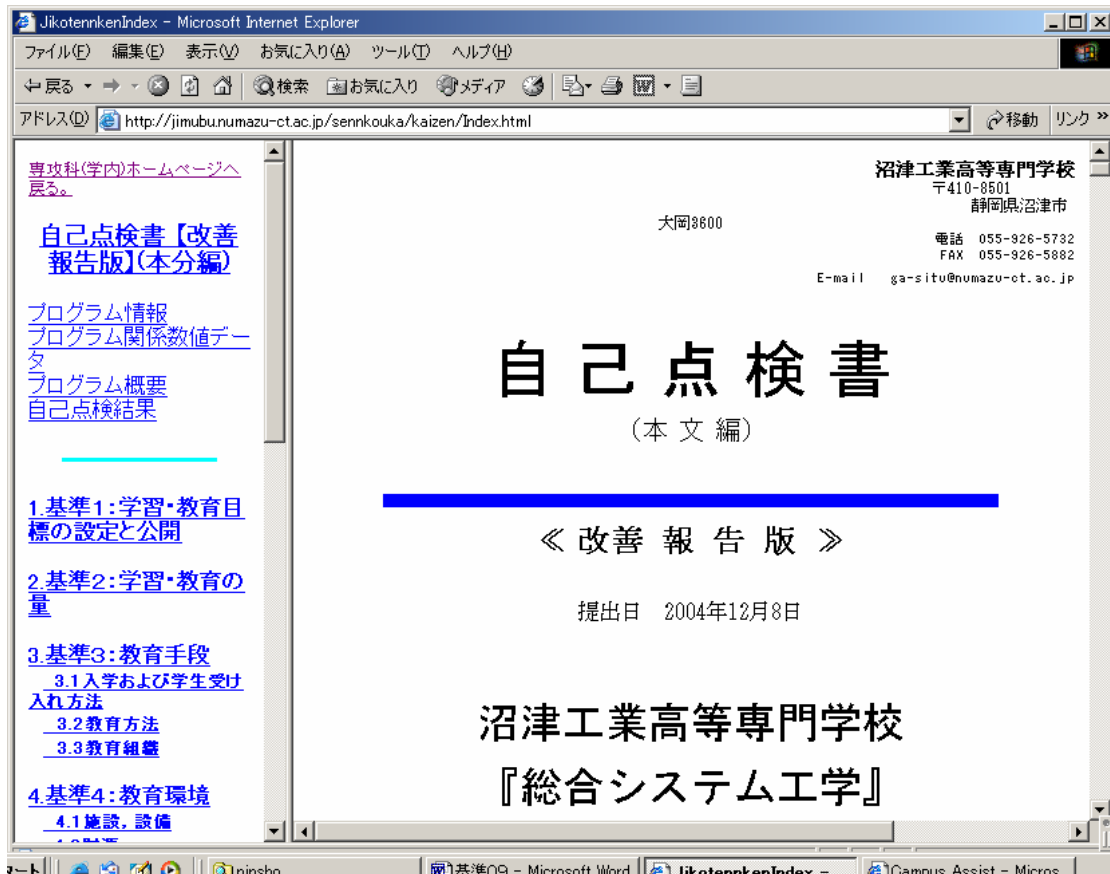
〈組織〉
第3条 会議は、次に掲げる教員をもって組織する。

1. 専攻科長
2. 専攻科担当教員(本校専任の教授、助教授及び講師に限る。)

(出典：沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則)

http://www.numazu-ct.ac.jp/Nct/Jpg/senkouka/senkouka_kyoukankaigi.html

資料9-1-①-9：総合システム工学プログラム自己点検書



(出典：平成16年度「総合システム工学」プログラム自己点検書)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/sennkouka/kaizen/Index.html>

(分析結果と根拠理由) 優れている。授業の実施内容を示すシラバスはウェブサイトで公開されており、成績評価資料と評価結果も適切に管理されている。また授業の実施記録は、準学士課程においては学級日誌を通じて、専攻科においては授業完了報告書として学生課に保管されている。教育活動の全般的な自己点検・評価は、校長を委員長とする自己点検・評価委員会が行い、その結果を自己点検・評価としてまとめている。また、専攻科と4、5年のカリキュラムで構成される総合システム工学コースは、平成17年5月にJABEEコースとしての認定を受け、専攻科企画運営委員会を中心に自己点検評価を行う体制が整っている。

観点9-1-②：学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況) 授業改善に役立てることを目的として、平成12年度より準学士課程、専攻科とも全科目を対象に、学生への授業評価アンケートを毎年実施している(資料9-1-②-1)。授業評価アンケート結果は、科目毎に集計され、学内にウェブサイトにより公開されている。授業評価アンケート結果の自己点検・評価への反映は、準学士課程では平成12年度および13年度の自己点検・評価報告書で、専攻科では平成16年度の自己点検書において、それぞれ行われている(資料9-1-②-2及び3)。

資料 9 - 1 - ② - 1 : 授業アンケート実施要綱

授業アンケートの実施要綱

教務主事

授業アンケートの目的

- アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- 学生自身の授業に対する自覚を高める。

公表範囲

- 個々の科目の基礎データ（授業毎にまとめたデータ）に関しては、学内公開とする。
- 個々の学科で作成する自己点検評価書などを通じて、アンケート結果とその分析・対応などを一般に公開する。
- 学内公開用のフォーマットは別途定める。

実施範囲

- 実験・実習・卒研などを含む全科目で実施する。

評価段階と項目

- 評価は「非常に良い、良い、あまり良くない、悪い」の4段階で行う。
- 実験・実習系の科目で、該当しない項目については、授業担当者の指示で解答しないこととする。

実施時期

- 科目担当の教官が最終の授業（試験含む）時間の中で実施する。
- 前期で終了する科目は前期の終わりに実施する。それ以外の科目は学年末に実施する。
- 最終の授業までで行うか、試験時に行うかは、個々の教官が判断する。

アンケートの配布と回収

- アンケート実施要綱、質問用紙、コード表、マークシート記入要綱を、教務係から担当教官に事前に配布する。
- 質問用紙、マークシート記入要綱、マークシートを、アンケート実施に学生に配布する。
- アンケート終了後、配布した用紙を全て回収する。
- マークシートの回答は、定められた期限までに、教務係に設置したアンケート回収箱に投函する。
- マークシート以外の用紙は、必要なら繰り返し利用する（教務係への返却は不要）。

使用する資料・物品など

	使用資料・物品名	使用個数	教務係から教官へ配布	学生から教官が回収	教務係への返却/提出
実施教官用	アンケート実施要綱	各教官1部	○		
	アンケート実施に関するお願い	〃	○		
	科目・教官コード表	〃	○		
対象学生用	質問用紙/マークシート記入要綱	各学生1枚	○	要	要
	質問用紙	〃	○	要	要
	マークシート	〃	◎	要	要
記号凡例	○実施初回にのみ配布。担当全科目に亘って使用する。 ◎実施初回に担当全科目分を配布。				

(出典：平成16年度授業アンケート実施要綱)

資料 9-1-②-2：授業評価アンケートの自己点検評価への反映

授業改善への取り組み

1. 授業アンケートの実施

平成12年度から、

- アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- 学生自身の授業に対する自覚を高める。

ことを目的に、学生に授業アンケートを行っている。平成12年度は、実施準備が整ったのが、12年度末(2月中旬)だったため、前期終了科目、5年生および専攻科生の受講科目については、アンケートが実施されなかったが、本年度は、全科目を対象に、授業アンケートを実施した。なお、昨年度は自己点検評価委員会によってこのアンケートが実施されたが、本年度からは教務委員会によって実施することになった。アンケート結果は、各科目について質問項目毎に集計したデータを学内限定のWebページにて、学内の全構成員に公開している。

上記の様に、昨年度と本年度では、実施状況が異なるが、両者の実施科目数と延解答者数を以下に示す。

総科目数 平成12年度 204 平成13年度 430

延解答者数 平成12年度 9,328人 平成13年度 17,394人

科目数は、工学実験など同一科目名で異なる学年で実施して科目や、選択科目で開講していない科目もあるので、若干の誤差はあるが、本年度の実施率は、全科目数(492)に対して、87.4%となっている。以下に質問内容と、その結果を示す。

<総合的満足度に関する設問>

22. 全体としてこの授業に満足できましたか？

表1に、アンケートを実施した全科目を総計した質問項目毎の結果を示す。括弧外が平成13年度、括弧内が平成12年度の結果である。

表1：授業アンケートの全科目総計の結果

番号	非常によい	良い	あまり良くない	悪い
1	28.0 (29.5)	45.8 (44.5)	18.7 (19.3)	7.4 (6.7)
2	18.7 (19.2)	46.1 (45.9)	26.0 (26.3)	9.2 (8.5)
3	24.8 (26.9)	43.5 (41.9)	23.3 (23.0)	8.4 (8.2)
4	27.4 (29.7)	44.0 (42.2)	20.5 (20.6)	8.1 (7.6)
5	26.7 (26.1)	51.5 (49.5)	15.6 (18.0)	6.2 (6.4)
6	24.3 (25.3)	44.3 (43.5)	22.8 (22.8)	8.6 (8.4)
7	28.7 (31.2)	43.3 (39.7)	19.6 (20.2)	8.5 (8.9)
8	24.2 (26.7)	43.3 (38.7)	23.5 (25.7)	9.0 (8.9)
9	22.7 (24.5)	41.3 (38.5)	26.0 (27.4)	10.0 (9.7)
10	27.2 (27.9)	49.3 (46.5)	16.9 (19.3)	6.5 (6.3)
11	25.8 (27.8)	50.1 (48.0)	16.8 (17.2)	7.3 (7.0)
12	24.3 (24.6)	49.4 (47.9)	19.5 (21.2)	6.7 (6.4)
13	54.3 (62.8)	34.6 (28.4)	7.3 (6.4)	.8 (2.4)
14	43.4 (45.9)	39.7 (35.2)	10.8 (12.0)	6.2 (6.9)
15	33.5 (36.2)	49.2 (46.3)	12.2 (13.2)	5.2 (4.3)
16	29.7 (31.9)	49.0 (46.2)	14.7 (16.3)	6.6 (5.6)
17	27.0 (30.6)	45.6 (43.4)	18.3 (18.1)	9.1 (7.9)
18	28.7 (33.4)	48.6 (44.3)	15.3 (16.0)	7.5 (6.3)
19	25.1 (27.3)	42.5 (40.6)	23.0 (23.5)	9.5 (8.7)
20	19.4 (18.0)	37.1 (33.8)	31.2 (34.5)	12.3 (13.6)
21	39.5 (41.3)	41.6 (38.5)	13.4 (14.8)	5.6 (5.4)
22	25.1 (27.4)	47.4 (45.4)	18.2 (18.5)	9.3 (8.7)

平成13年度の結果を平成12年と比較すると、それほど大きな違いは見られないが、ほとんど項目で、「非常によい」が1% 2%程度減って、その分「良い」が増えている。また、「悪い」という評価が0.5%程度ほとんどの項目で増えている。

授業アンケートを全面的に実施したのは本年度が最初であり、その結果をふまえた授業改善の努力も今後始るものと期待される。個々の教官が担当科目の評価結果をそれぞれ分析して、授業改善に具体的に役立てていくことが必要である。

(出典：平成13年度自己点検評価報告書)

資料 9-1-②-3 : 学生による授業評価結果

専攻科における学生による授業評価は '01年度より実施しているが、'02年度は授業評価に参加する学生数が少なく、比較しうるデータが得られていないので、ここでは '01年度と '03年度の比較を示す。

表 6. 7 学生による授業評価結果比較('01年度/ '03年度) : 専攻科

	01年度		03年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
前期	73.5	19.0	80.0	14.8
後期	77.7	17.3	82.4	14.9
通年	75.8	18.0	81.1	14.9

以下に示すのは '00年度～ '03年度の高専4,5年生における同様の調査結果である。

表 6. 8 学生による授業評価結果比較('00年度/ '03年度) : 高専4, 5年生

00年度		01年度		02年度		03年度	
平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
73.6	22.4	73.5	19.2	73.5	19.3	75.7	18.7

これらの指標はすべて、専攻科担当教員会議IV(年度末会議)にて開示される。

学生による授業評価は '01年度より行われているが、4,5年生による授業評価点は73点、標準偏差20点で推移しており、過去4年間、ほとんど変化は無い。

専攻科生の授業評価は '01年度で評価点75.4±2.1、標準偏差の信頼区間は信頼度99%で[17.1, 20.5]であり、4,5年生の評価点、標準偏差とは有意な差異は認められない。'03年度については、評価点80.2±1.7、標準偏差の信頼区間は信頼度99%で[14.4, 16.9]であり、'01年度とは明確に異なっている。評価点の4ポイント向上、標準偏差の3ポイント縮小は '03年度からの専攻科整備の成果である。

(出典：平成16年度「総合システム工学」プログラム自己点検書)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/sennkouka/kaisen/index.html>

(分析結果と根拠理由) 相応である。学生によるアンケートは継続的に実施され、その結果が集計され、準学士課程については平成12年度および13年度の自己点検・評価報告書に、専攻科については平成16年度の自己点検書に、それぞれアンケート結果の分析が行われている。

観点 9-1-③ : 学外関係者 (例えば、卒業 (修了) 生、就職先等の関係者等が考えられる。) の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況) これまでも、卒業生とは、本校同窓会の理事会 (毎年2名の連絡担当理事を送っている) や、毎年各学科で卒業生を招いて行っている就職懇談会の際などに意見交換の場を持っており、本校の教育に関する意見を聞く機会を設けてきた。また、各学科の就職担当教員による企業の人事担当者との意見交換という形で、学外関係者の意見を聞く機会があり、それらを学科会議などに伝えて教育課程を見直すきっかけとすることなどもある。しかし、これまでは、これらの活動は学校全体の系統的な取組という形にはなっていなかった。そこで、平成17年度より、学校全体の取組として、求人企業の人事担当者にアンケート調査を行い、教育に関する意見を聴取するようにした (資料 9-1-③-1)。平成17年6月28日現在で47社より回答を得ており (資料 9-1-③-2, 前出資料 6-1-⑤-1 及び 2), このデータは今後、教務委員会等で検討し、平成17年度

以降の自己点検評価に反映させていく予定である。

資料 9-1-③-1 : 企業アンケート配布資料

企業の皆様へアンケートのお願い

就職委員会委員長 沼津工業高等専門学校長

拝啓

貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、「卒業生の進路先と本校の関係」をより緊密にする目的で、今年度からアンケートを実施したいと思っておりますので、是非ご協力をお願いいたします。

敬具

.....
 ・貴社名 ()
 ・記入者氏名 ()

記入方法：特に指定の無い質問項目については、採用にあたっての優先順位を□の中にご記入ください。【同じ番号も可】

- (1) 今回はどの工学科の学生の採用をお考えですか？ 【優先順位を記入、同じ番号も可】
機械、電気電子、電子制御 制御情報 物質
- (2) 卒業見込み者以外に専攻科生や卒業生の採用をお考えですか？
卒業見込み者 専攻科 卒業生 【どちらでも良い場合は両方にレ点】
- (3) インターンシップについて、受け入れの予定はありますか？
予定している 検討中・検討する 予定はない 【該当する項目にレ点】
- (4) どのような能力を求めておられますか？ 【優先順位を記入、同じ番号も可】
指導力 社交性 行動力 技術力 知識量 その他()
- (5) どのような教科の学力を重視されていますか？ 【優先順位を記入、同じ番号も可】
数学 物理・化学 英語 その他の一般教養科目
専門基礎科目 専門科目 その他()
- (6) どのような資格の取得を望まれますか？もしあれば記入してください。
 ()、()
- (7) 採用にあたって、大学生と高専生の相違点でお気づきのことがあれば記入してください。
- (8) その他、沼津高専についての希望や質問等ございましたら、何でも記入してください。
 (別紙を添付していただいても結構です。)

ご協力ありがとうございました。

記入後に、このままFAXしていただいても構いません。(学生課 fax : 055-926-5882)

(出典：就職委員会)

資料 9-1-③-2：企業アンケート集計結果

(5) 半力重視分野						(7) 資格	(8) 特用にあたり大半、高専の相違点	(9) 希望、質問
専攻 止年	専攻 止年	専攻 止年	その他 専攻 止年	その他 専攻 止年	その他			
		1		1		TOEIC500点取	企業の中で再生できうる可能性、伸びる可能性が大きいと思 います	
3	2	1	1	2			高専生の方が、業務向きであるように思います	
1	1	1	1	1		TOEIC650点 特許士補		読み書き、そろばんの基礎能力の充実を望みます
3	4	6	5	1	2		特許は専門性が強く負担感が高いことは認めるが、F I活動での得意分野が多い	
1				1	1	CAD 情報処理	高専の学生は基礎能力が高い	今年は是非一人お取引したい
		1		1		市役所職員	製造業関係の会社にも半力士より高専生の採用の方が リアレンジを強要され、入、専門性が高い	生徒さん達の気持ちの良い研修には参加しました
5	4	6	2	1	3		地域による採用で入社まで安心感がある	初づくりの喜び、特許、考え方を今以上に身につけてほしい
2	2	2		1	1		高専生の方が業務能力に優れている	
				1		ソフトウェアエンジニア ドットコムマスター	半力は申し分なし 年齢差(2年)(メンタル 面)はある (人によりけりだが感じるケースが多い)	
2	3	4	2	1	1		高専生の方が体育レベルが高い	学生紹介
			2	3	1	パソコン資格等		
			1	1		ネットワーク系 情報処理系	高専生、真摯である 意欲に受け入れる意向	O Bも重視しておりますので、不明な点は先に必ずご質問下 さい
			1	1			年齢が若い、自主的に行動する力や言う点では、やや強い 面があるからしれない	
2	2	3	3	1	1	専攻分野(2校)	年齢のせいだと思いますが、大企業と比較すると考え方が多 少の違いがあります (教えてあげるとすればですが)	
			1	1			大企業の特用は専攻で一括特用になっており、工場特用では 高専、高専の特用を兼ねているため、特にありません	
		1		1		専攻分野(1校) 専攻分野(2校)		今後、製造関係の学生に対する合同説明会、あるいは見学会 等も考えておりますので、ご質問いただければと思います
2	2	2	2	1	1		特にありません	是非、多くの方にご応募いただいたために、先生方からもご 質問よろしくお願ひいたします
			1	2			高専生の方がより専門性が高い	特にありません
	1	1				自動車運転免許 市役所職員主任	特に大きな相違点はないが、強いて挙げればあとない人が 多いような印象を受ける	
				1		Excel Word	高専生の体育力、基礎能力に大変興味を持っています	色紙贈りではなく、お礼を兼ねて、今後とも是非お取引い たいです
	1						読書(専門分野を除く)の活さ、社会性の面ではやや大企業 がうであるが、専門性では互角と見えない	工場(採掘)職歴をしていただければ、当社の内容もより 深くご説明いただけるものと思います

(出典：学生課学生係)

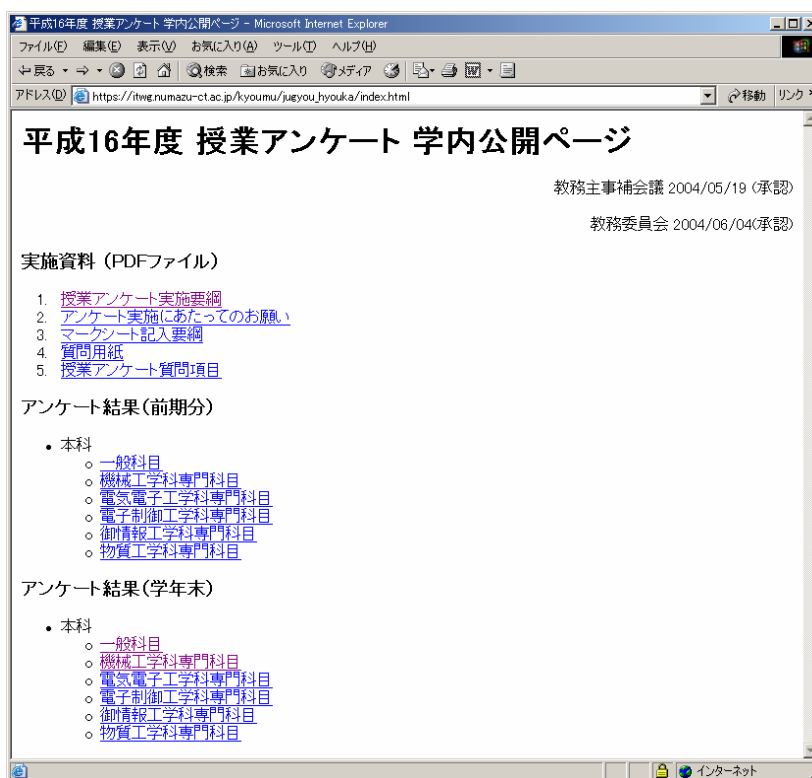
(分析結果と根拠理由) 相応であるが、改善の余地がある。これまでも各科の取組として、卒業生や求人担当者からの意見を聞く機会を設けてきた。平成 17 年からは学校全体の取組として求人企業へのアンケートを実施し、学外関係者の意見を系統的に聴取することに努めている。しかし、この取組は始まったばかりであり、そこで得られた情報を教育課程の改善等にどのように生かしていくかは今後の取組にかかっている。

観点 9-1-④：各種の評価(例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的なかつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況) 自己点検・評価の結果は、ウェブサイト等を通じて全教職員に周知されている(前出資料 9-1-①-7 及び 9)。また、授業評価アンケートの結果は、実施後 1~2 ヶ月後に科目単位で集計され、ウェブサイトにより学内に公開されている(資料 9-1-④-1)。

自己点検・評価結果を踏まえたカリキュラム改善の検討は、準学士課程においては、それぞれの学科(教養科を含む)を主体に恒常的に行われており、最終的に教務委員会の審議を経て、カリキュラムの見直しが行われるシステムになっている(資料 9-1-④-2)。平成15, 16年度に行われたカリキュラム改定の一覧を資料 9-1-④-3 に示すが、平成15年度と平成16年度で計27科目の改廃、新設が行われた。専攻科においては、企画運営委員会を中心にカリキュラムの検討が行われており、総合システム工学プログラムの改善プロセスの一環として、カリキュラムをはじめとする教育課程の改善を行っている(資料 9-1-④-4)。また、教育課程の全般の見直しについては、教員会議等の審議を経て、校長を委員長とする総務委員会が行うこととなっている(資料 9-1-④-5)。

資料 9-1-④-1 : 授業アンケートのウェブサイトによる学内公開



(出典：授業アンケート公開ページ)

https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/jugyou_hyouka/

資料 9-1-④-2 : 教務委員会規則

○沼津工業高等専門学校総務委員会規則

(昭和49.2.25制定)

最終改正 平成16.4.14

(目的)

第1条 沼津工業高等専門学校の管理運営の円滑を図るため、総務委員会（以下「委員会」という。）をおく。

(組織)

第2条 委員会は、校長が主宰し、次の委員をもって組織する。

- (1)副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）
- (2)学科主任、教養科主任及び専攻科長
- (3)本校教員で校長が任命した者
- (4)事務部長

(審議事項)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

- (1)教育の方針に関すること。
- (2)学校の管理運営に関すること。
- (3)その他必要と認められること。

(会議)

第4条 委員会は毎月1回校長がこれを招集する。ただし、必要あるときは、臨時にこれを招集することができる。

(出典：本校規則集)

資料 9-1-④-3 : カリキュラム改定一覧 (準学士課程, 平成15, 16年度)

平成15年度				
審議機関	審議日	該当科	旧	新
第1回教務委員会	平成15年6月2日	物質工学科	学外実習(4年、2単位)	学外実習Ⅰ(4年、1単位) 学外実習Ⅱ(4年、2単位) 学外実習Ⅲ(5年、1単位)
第1回教務委員会	平成15年6月2日	物質工学科	材料化学実験 (4年、材料コース、4単位)	材料化学実験1 (4年、材料コース、2単位) 材料化学実験2 (4年、材料コース、2単位)
第1回教務委員会	平成15年6月2日	物質工学科	生物工学実験 (4年、生物コース、4単位)	生物工学実験1 (4年、材料コース、2単位) 生物工学実験2 (4年、材料コース、2単位)
第2回教務委員会	平成15年9月24日	物質工学科	物質工学実験(4年、2単位)	化学工学実験(4年、2単位)
第2回教務委員会	平成15年9月24日	制御情報工学科	学外実習(4年、2単位)	学外実習A(4年、2単位、選択) 学外実習B(4年、1単位、選択)
第2回教務委員会	平成15年9月24日	制御情報工学科	ロボット工学(5年、1単位)	ロボット工学(5年、2単位)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	教養科	「政治経済」「歴史特論」「東洋思想史」「国語特論」「物理特論」「地理学特論」(3年、1科目を選択)	「政治経済」「歴史特論」「東洋思想史」「地理学特論」を「社会と文化」1科目に改定(3年、選択)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	機械工学科	機械工学入門(選択、1年) 力学演習(選択、4年) 工業外国語B(選択、5年)	機械工学入門(必修、1年) 力学演習(必修、4年) 工業外国語B(必修、5年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	機械工学科	電子工学 (3年4年、各1単位)	電子工学 (3年、2単位)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	情報処理基礎演習Ⅲ(2年)	UNIX入門(2年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	情報処理基礎演習Ⅳ(2年)	プログラミング入門(2年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	情報処理演習Ⅰ(3年)	C言語基礎演習(3年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	情報処理演習Ⅱ(3年)	C言語応用演習(3年)
第4回教務委員会	平成15年12月1日	電子制御工学科	電子機械設計(3年)	電子機械基礎実習(3年)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	電気電子工学科	電気電子工学実験 (通年4単位) 卒業研究 (通年8単位)	電気電子工学実験 (前期2単位) 卒業研究 (通年10単位)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	量子化学 (選択、1単位、5年後期)	物理化学3 (選択、1単位、5年後期)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	材料物性1 (必修、1単位、5年前期) 材料物性2 (必修、1単位、5年後期)	材料物性 (必修、1単位、5年前期)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	反応工学 (必修、1単位、5年前期)	反応工学 (必修、1単位、5年後期)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	触媒工学 (選択、1単位、5年後期)	触媒工学 (選択、1単位、5年前期)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	細胞工学 (必修、2単位、5年後期)	細胞工学 (必修、2単位、5年通年)
第5回教務委員会	平成16年2月10日	物質工学科	微生物学 (必修、2単位、2年通年)	微生物学 (必修、1単位、2年後期)
平成16年度				
審議機関	審議日	該当科	旧	新
第2回教務委員会	平成16年9月24日	電気電子工学科	学外実習A、Bは4年次のみ開講	学外実習A、Bは4、5年次の開講
第3回教務委員会	平成16年12月1日	教養科	3年選択科目を廃止	3年選択科目を廃止し、全学科3年の必修科目として「社会と文化」を新設

(出典：学生課教務係)

資料 9-1-④-4 : 総合システム工学プログラムの教育課程改善システム

JikotenkenIndex - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 検索 お気に入り メディア

アドレス http://jimubunumazu-ct.ac.jp/sennkouka/kaizen/Index.html

専攻科(学内)ホームページへ戻る。

[自己点検書【改善報告版】\(本分編\)](#)

[プログラム情報](#)
[プログラム関係数値データ](#)
[プログラム概要](#)
[自己点検結果](#)

1.基準1: 学習・教育目標の設定と公開

2.基準2: 学習・教育の量

3.基準3: 教育手段
[3.1入学および学生受け入れ方法](#)
[3.2教育方法](#)
[3.3教育組織](#)

4.基準4: 教育環境
[4.1施設・設備](#)
[4.2財源](#)
[4.3学生への支援体制](#)

5.基準5: 学習・教育目標の達成

6.基準6: 教育改善
[6.1教育点検](#)
[6.2継続的改善](#)

7.分野別要件

(1)教育点検の結果に基づいた学習・教育目標、達成度の評価方法・評価基準等の改訂と改善活動を継続していくシステム

(i) 改善するシステムの存在
 本プログラムの点検は、プログラム委員会が行い、その結果をプログラム担当教員会議に報告する。プログラム委員会のワーキング・グループとして第1委員会から第6委員会までの委員会が機能する。プログラム担当教員会議は継続的に自己点検・評価に関する事項を審議する義務を負う。

(ii) 改善活動の実施状況
 本プログラムの点検・改善活動のスケジュールは以下に示される。本スケジュールは本プログラムの年間スケジュールのバック・ボーンをなしており、その活動結果は各会議に報告され、かつ討議される。この年間スケジュールの踏襲が改善活動を継続していくシステムとなっている。

点検・改善活動スケジュール

前期 後期

4月 6月 9月 2月 3月

教員会議 I 教員会議 II 教員会議 III 教員会議 IV

改善提案 P 入試 (第7表)

改善実施計画策定 (第1~5表)

実施 D (企運表1)

実施経過報告 (企運表1)

点検 C (第6表)

調査、FDW (第3.6表)

実施報告作成 (第6表)

(出典：平成16年度「総合システム工学」プログラム自己点検書)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/sennkouka/kaizen/Index.html>

資料 9-1-④-5 : 総務委員会規則

○沼津工業高等専門学校総務委員会規則

(昭和49.2.25制定)

最終改正 平成16.4.14

(目的)

第1条 沼津工業高等専門学校の管理運営の円滑を図るため、総務委員会（以下「委員会」という。）をおく。

(組織)

第2条 委員会は、校長が主宰し、次の委員をもって組織する。

(1)副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）

(2)学科主任、教養科主任及び専攻科長

(3)本校教員で校長が任命した者

(4)事務部長

(審議事項)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

(1)教育の方針に関すること。

(2)学校の管理運営に関すること。

(3)その他必要と認められること。

(会議)

第4条 委員会は毎月1回校長がこれを招集する。ただし、必要あるときは、臨時にこれを招集することができる。

2 校長に事故あるときは、副校長（教務主事）がその職務を代行する。

(出典：本校規則集)

(分析結果と根拠理由) 相応であるが、一部改善の余地がある。教育活動に関する各種評価に基づく教育カリキュラムの見直しは、準学士課程では教務委員会が、専攻科においては総合システム工学プログラムの改善プロセスの一環としてプログラム委員会がそれぞれ行っている。準学士課程においては、毎年の教育課程の見直しの結果として、この2年間だけでも27科目の改廃、新設が行われている。ただし、第4、5学年に関しては、準学士課程の教育課程と総合システム工学プログラムの教育課程という2面を持っているが、その両方の側面をどのように協調させて教育課程の見直しを行っていくかが、現時点では整理できていないと言えない。この点に関しては今後検討と改善を行っていく必要がある。

観点 9-1-⑤：個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況) 準学士課程では平成17年度から授業アンケートの評価結果に対する対応（改善方針）をシラバスに記載することを義務付け（資料 9-1-⑤-1）、アンケート結果を授業改善に具体的に反映させる取組を行っている。専攻科では、授業完了報告書の授業実施状況欄の中で、学生の授業評価などを参考にして「次回の授業計画に活かせる事項」について具体的に記述することを義務付けている（前出資料 9-1-①-2）。

資料：9-1-⑤-1：平成17年度シラバス記入例

学科 学年	E4	科目 分類	電気電子機器[機器] Electric & Electronics Machine	講義 必修	通年 2単位	学習教育 目標 B-2	担当 沼津太郎 NUMAZU Taroh
概要							発電所の発電機により発生された電気エネルギーは、変圧器を介して遠方に輸送され、各種回転機器によって機械エネルギーへと変換される。現在、発生と輸送、及び消費を同時に行え、しかも制御が可能なエネルギー伝達媒体は電気しかない。電気電子機器は、産業現場のみならず家庭内においても広く普及し、我々の文明を支えている。本講義において、こうした全ての電気電子機器を網羅することは時間的に不可能なので、直流機、変圧器、誘導機、同期機の4項目に厳選し、その根本原理から説明する。交流機器の取り扱い、定常理論に限定し、その理解の徹底を図る。
科目目標 (到達目標)							直流機では、構造の理解、およびトルク・効率などの計算ができること。変圧器では等価回路を理解し、電圧変動率等の計算ができること。誘導機では回転磁界の発生原理、等価回路、ハイランド円線図、比例推移を理解すること。同期機では電機子反作用、電圧変動率、力率1運転の原理を理解すること。
教科書 教材等							電気機器工学 I 尾本義一他共著 電気学会、練習問題プリント
評価の基準 と方法							定期試験の平均成績を80%、授業への積極姿勢を20%として評価する。60点以上を合格とする。
関連科目							パワーエレクトロニクス、回路理論、電力工学
授業計画							
							第1回 電気機器概論 第2回 直流機 1. 原理と構造 第3回 2. 電機子巻き線とその理論 第4回 3. 整流、発電機の種類と特性 第5回 4. 電動機の種類と特性 第6回 5. 運転、損失、効率 第7回 演習問題 第8回 定期試験 第9回 変圧器 1. 原理と構造 第10回 2. 等価回路と電圧変動率 第11回 3. 三相結線と並列運転 第12回 4. 各種変圧器と損失 第13回 5. 変圧器の試験 第14回 演習問題 第15回 定期試験 第16回 誘導機 1. 原理と構造 第17回 2. 等価回路と特性式 第18回 3. 定数測定と特性計算 第19回 4. 電動機の始動、速度制御 第20回 5. 単相誘導電動機 第21回 6. その他の誘導電動機 第22回 演習問題 第23回 定期試験 第24回 同期機 1. 原理と構造 第25回 2. 等価回路と特性式電機子巻き線と電機子反作用 第26回 3. 電圧変動率と特性曲線 第27回 4. 出力特性と並行運転 第28回 5. 同期電動機 第29回 演習問題 第30回 定期試験
オフィスア ワー							月曜日の午前中に、比較的質問に対応できる。木曜日と金曜日の午後は実験で繋がっていることが多い。
授業アン ケートへの							板書をした後、少し間をおいて説明するように心掛ける。
備 考							本授業に関する質問は、次のメールアドレスでも受け付ける numazu@numazu-ct.ac.jp

(出典：平成17年度シラバス記入例)

(分析結果と根拠理由) 相応であるが、一部改善の余地がある。各教員には授業評価結果が周知され、所要の改善措置を講じるシステムが、準学士課程、専攻科とも整っている。ただし、各教員が実施した授業改善が、どの程度の改善効果をあげたかを組織的に検証する体制の確立が求められる。

9-1-⑥：研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況) 沼津高専研究報告第39号によれば平成15年9月～平成16年8月の1年間に本校教員の行った研究活動の成果として、著作刊行物13件、学協会等への発表論文143件、学協会等における口頭発表63件が報告されている(資料9-1-⑥-1)。これらの数字は本校教員の活発な研究活動を行っていることを示している。

各教員はそれぞれの専門分野に関連した授業を担当する(資料9-1-⑥-2)とともに、卒業研究(準学士課程)あるいは専攻科研究(専攻科)においては、自己の専門分野に即したテーマで、担当学生の研究指導を行っており(資料9-1-⑥-3)、研究活動を通じて得た知見を教育・研究指導に生かしている。

資料 9-1-⑥-1 : 研究活動の記録 (抜粋)

研究活動の記録

211

本校教員の研究活動の記録 (抄)

大 賀 喬 一

- B 環状突起付きパンチによる材料型内充てん；(村越らと共著)，第54回塑性加工連合講演会論文集 (日本塑性加工学会)，香川県香川町，2003年11月，pp.147-148
- C 有限要素分解ソフトを利用した型内材料流動状況の予測 (台形状突起パンチによる押し込み加工)；大塚，日本機械学会東海学生会第35回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集，名古屋市，2004年3月，pp.208-209，(指導教官)。
- D 第54回塑性加工連合講演会にて座長 (セッション；鍛造Ⅲ)，2003年11月。
- D 日本塑性加工学会 (第38期) 代議員 (2年任期)
- D 日本塑性加工学会東海支部第23・24期商議員
- D 日本塑性加工学会校閲委員 (H15年4月～H17年3月)
- D 平成16年度日本塑性加工学会賞教育賞受賞，「効果的な機械工作実践教育システムの構築」，2004年5月22日。
- D アルミニウム鍛造技術会理事 (平成16年度)
- D アルミニウム鍛造技術会「第37回技術講座 (攻めに転換するアルミニウム鍛造；最新のアルミニウム鍛造技術の展望)」の企画，名古屋市，2004年7月27日。
- D 日本機械学会東海学生会顧問 (平成16年度)
- D 論文集「高専教育」28号査読委員
- D 平成16年度高専専門教育教員研究集会聴講審査員，長野市，2004年8月26～27日。

黒 下 清 志

- A 空気圧機器の流量特性評価法に関する研究委員会成果報告書 (高崎らと共著)，2003年9月，日本フルードパワーシステム学会。
- A 空気圧シリンダ系の動特性研究委員会成果報告書 (香川らと共著)，2004年2月，日本フルードパワーシステム学会。

using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 1: General rules (小根山らと共著)，2004年4月，日本フルードパワー工業会。

- A ISO 6358 rev-3, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 3: Alternative test method-Vacuum charge method, 2004年4月，日本フルードパワー工業会。
- A ISO 6358 rev-4, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 4: Alternative test method-Simple discharge method (小根山と共著)，2004年4月，日本フルードパワー工業会。
- B Japanese proposal for a possible revision of ISO 6358:1989, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristics (小根山らと共著)，Document for ISO/TC131/SC5/WG3 meeting held in Milwaukee, 2003年9月，日本フルードパワー工業会。
- B Improvement of Test Method of Flow-rate Characteristics of Pneumatic Components (小根山と共著)，Proceedings of SICE Annual Conference 2004, 札幌，2004年8月。
- C 充填法による大気放出空気圧機器の測定-続報 (黒下幸信，田代と共著)，平成15年度秋季油空圧講演会論文集，pp.96-98，2003年11月。
- C 空気圧機器のハイブリッド流量特性試験方法 (黒下幸信と共著)，平成16年度春季油空圧講演会論文集，pp.130-132，2004年5月。
- D 空気圧機器の流量特性の表示方法と試験方法についての新提案，代替試験法-真空充填法，油空圧技術，pp.39-43，2003年11月。
- D 日本フルードパワー工業会技術委員会空気圧部会「平成16年度空気システムの高速精密制御特性に関する調査研究委員会」に委員として参加，2004年5月。
- D 日本フルードパワーシステム学会理事，2004年5月。
- D 財団法人浜松科学技術研究振興会評議員，1999年5月よ

(出典：沼津工業高等専門学校研究報告第39号)

資料 9-1-⑥-2 : 教員の専門と担当科目の一覧 (物質工学科)

専門分野	担当科目
育種工学	生物化学・遺伝子工学・細胞工学
有機合成化学	有機化学
物理化学	物理化学・材料物性化学・触媒工学
分析化学・考古化学	分析化学・分析化学実験・機器分析
応用微生物学・酵素化学	微生物学・培養工学・微生物学実験
生物化学・生物系薬学	細胞工学・薬理学・生物工学実験
化学工学、安全工学	化学工学 2, 3・安全工学・環境工学・環境安全工学
有機化学	有機化学・有機材料化学・グリーンケミストリ
水産化学	生物化学・酵素工学・生物化学実験
無機化学	無機化学・無機材料化学・無機化学実験
生物化学工学・微生物工学・生物無機化学	反応工学・基礎化学工学・化学工学実験

(出典：本校公式ウェブサイト，学科紹介)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_frm.htm

資料 9-1-⑥-3 : 教員の専門と卒業研究の一覧 (電子制御工学科)

専門分野	卒業研究題目
流体工学	風洞実験のための自動計測システムの開発
	内部重力波の空間構造に関する解析
情報工学	情報セキュリティ管理の動向と沼津高専を想定したセキュリティポリシーの策定
	ITRON 仕様 TCP/IP プロトコルスタックへの IPSec の実装
	ITRON 仕様 OS における高負荷環境時の通信制御問題
画像処理・電子回路	MIRS 用エレクトロニクス基板の開発
	ロボット用 USB インターフェースの研究
	二足歩行ロボットの制御に関する研究
通信工学	VHDL 言語学習教材の開発
	南極における流星バースト通信路観測実験の解析
	流星バースト通信システムの開発
	来客通知装置の開発
数理工学	工学数理の教材開発
	地下放水路系の解析的・数値的研究
	N 個のバネ質点系の解析
	非圧縮性気流中の液体ジェットの不安定
誘電・絶縁材料	低密度ポリエチレンフィルムの交流高電界下での電気伝導に関する検討
	損失電流波形観測手法を用いた電力ケーブルの水トリー劣化診断技術の検討
	限定された領域での水トリー劣化診断法の検討
ロボット工学	屋内用全方向移動電動車椅子の開発
	オフィス用ワゴンロボットの開発
	脚式搬送ロボットの開発
	生体電位信号を用いた車椅子のハンズフリー操縦の研究
	移動ロボット制御用ボードを用いたロボット開発
ロボット工学、画像処理・電子回路	分散移動ロボットの研究(サッカーロボットシステムの検討)
	分散移動ロボットの研究(サッカーロボットシステムの検討)

(出典：電子制御工学科卒業研究発表会資料，平成16年度)

(分析結果と根拠理由) 相応である。各教員は各学科における授業分担の適正化や学生の研究室配属の調整などにより、自己の研究活動で得た知見を授業や学生の研究指導に生かしている。

観点 9-2-①：ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況) 教員の資質向上のための学内での組織的な取組は、教務委員会、厚生補導委員会、専攻科企画運営委員会等が、企画・実施している。

この2年間の具体的な取組を、資料 9-2-①-1 に示す。本校の中期計画で示された「教員研修や教員による研究会実施の具体的方策」(資料 9-2-①-2) に従って、昨年度から教員会議において、教員研究集会、海外研修、教育関連の分析結果の報告等を行う時間を設け、それらの成果を全教員に還元し、本校教員の教育技術の育成を目指している。また、新任研修をはじめとして外部研修にも積極的に教員を派遣している(資料 9-2-①-3)。専攻科担当教員においては、専攻科規則に「専攻科ファカルティ・ディベロップメント規程」が設けられ、「年間50時間以上の活動に努めなければならない」と定めている(資料 9-2-①-4)。また専攻科では、相互授業参観による授業教授法のスキルアップの取組も行われている(前出資料 5-6-①-3)。準学士課程においても、平成17年度からは、シラバスへの授業参観可能の有無の記載を義務付け(前出資料 9-1-⑤-1)、相互授業参観を促進する取組を開始した。

資料 9-2-①-1 学内研修会・講演会一覧（平成15～16年度）

名称	実施日	実施場所	内容(テーマ)	参加人数	備考
教務関連					
教員会議報告	平成16年6月23日	本校大会議室	学業成績と入試成績・内申に関する統計分析(教務主事)	59名	
	平成16年9月22日	本校大会議室	教員研究集会報告(望月、三谷先生)	53名	
	平成17年2月2日	本校大会議室	欧米と日本の高等教育機関との違い(相原、大原先生)	64名	
	平成17年4月27日	本校大会議室	5年間の入学者データの分析(学生相談室:加藤先生)	60名	
e-Learning 説明会	平成17年3月29日、3月31日	本校第一視聴覚教室	Black-Boardシステムの利用法(嶋先生)		
厚生補導関連					
名称	実施日	実施場所	内容(テーマ)	参加人数	備考
厚生補導担当教官(員)研究会	平成15年7月23日～24日	文部科学省共済組合箱根宿泊所「静雲荘」	テーマ:学生支援 講演(講師):静岡大学保健管理センター 太田裕一氏 鈴鹿高専一般科目 長瀬治男氏	32名	厚生補導担当教員対象
厚生補導担当教官(員)研究会	平成16年8月24日	本校第一視聴覚教室	テーマ:セクシュアル・ハラスメント 講演(講師):中央大学法科大学院 山田省三氏	約100名	全教職員対象
専攻科JABEE関連					
平成16年度国立高専機構JABEE受審準備	平成16年10月16日～17日	新日鉄幕張研修センター		2名	
JABEE審査員要請研修会	平成16年10月9日	新日鉄幕張研修センター		1名	
JABEE後援会	平成15年9月9日	本校大会議室	講師:日工教専務理事、椿原治氏	40名	全教職員対象

(出典: 学生課)

資料 9-2-①-2 : 教員研修や教員による研究会実施の具体的方策

○ 教員研修や教員による研究会の実施の具体的方策

会議室にプロジェクトを常設し、FDの一環として、教官が研修成果や各種追跡調査等を教官会議後等に発表することを奨励・募集し、年間に2回以上の発表会を目指す。本校では、今まで文科省主催の研修会やその他の研究集会等に参加した教官には、教官会議でその成果を5分間程度、口頭で発表してもらっていたが、必ずしも十分なものではなかった。また、本校教官が教育に関する研究成果を本校以外の研究会で発表することは多いが、本校教官を対象として発表する機会は、非常に少ないのが現状である。これを改善するために、教官会議後等に30分程度の発表を企画・実施し、研修成果を本校教官に伝えるとともに、発表の工夫を通して教育技術を育成する。

(出典: 沼津工業高等専門学校中期計画)

資料 9-2-①-3 : 外部研修会などへの派遣状況 (平成15~16年度)

名称	実施日	実施場所	内容(テーマ)	参加人数	備考
メンタルヘルス研究協議会	平成15年11月20日 ~21日	ホテルイン金沢	テーマ:充実したキャンパスライフのためのメンタルヘルス講演(講師):香川大学教育学部 小柳晴生氏 分科会方式(5分科会)	2名	国立大学等保健管理施設協議会・文部科学省・金沢大学主催
メンタルヘルス研究協議会	平成16年9月15日 ~16日	虎ノ門パストラル	テーマ:国立大学・高専の法人化と学生支援講演(講師):国立情報学研究所所長 末松安晴氏 分科会方式(14分科会)	1名	国立大学等保健管理施設協議会・文部科学省・独立行政法人日本学生支援機構・国立大学法人東京工業大学主催
メンタルヘルス研究集会	平成17年3月22日 ~23日	KKRホテル東京	目的:国立高専において学生のメンタルヘルスを担当する教職員の資質の向上を図るとともに、情報の交換を行う講演(講師):東海学園大学 渡辺久夫氏 分科会方式(5分科会)	2名	国立高等専門学校機構主催
平成15年度高等専門学校教官研究協議会	平成15年8月20日 ~22日	国立オンライン記念青少年総合センター	目的:高専に新たに採用された教員を対象とし、教員の資質の向上を図ると共に、情報交換を行う講演(講師):国立高専協会長 四ツ柳隆夫氏 東京大学大学院 多比良和誠氏 班別方式(第12班)	3名	文部科学省主催
平成15年度高等専門学校教育教員研究集会	平成15年8月28日 ~29日	ホテルグリーンパーク鈴鹿	目的:高専における独創的な研究成果に対して発表の場を設けることにより、高専教育の振興と教員の研究業績の向上に資する 3会場77研究発表	2名	国立高等専門学校協会主催
平成15年度高等専門学校教員研究集会(第1班)	平成15年7月31日 ~8月1日	東京第一ホテル	目的:高専教育の内容及び方法の改善について研究協議し、高専教育の充実向上に資する テーマ:国語能力の低下という現状の下、高専における国語教育のあり方をコミュニケーションスキル教育を機軸として、抜本的に見直すのに必要な研究協議を行い、あわせて外国語教育についても同様の視点から協議する 講演(講師):同志社大学	2名	文部科学省主催
平成15年度高専情報処理教育担当者上級講習会	平成15年7月14日 ~25日	豊橋技術科学大学	目的:高専における情報処理教育の充実を図るため、担当教員に対し情報処理に関する高度の知識を技術を教授し、その資質の向上を図る コース別方式(教育専門コース1・課題研究コース12)	2名	文部科学省主催
平成16年度高等専門学校新任教員研修会	平成16年8月18日 ~20日	国立オンライン記念青少年総合センター	目的:高専に新たに採用された教員を対象とし、教員の資質の向上を図ると共に、情報交換を行う講演(講師):本省専門教育課長 杉野 剛氏 国立高専機構理事 高塩氏 人事院 研修調整課長 杉本芳輝氏 班別方式(第11班)	3名	国立高専機構主催
平成16年度高等専門学校教育教員研究集会	平成16年8月26日 ~27日	ホテルメトロポリタン長野	目的:高専における独創的な研究成果に対して発表の場を設けることにより、高専教育の振興と教員の研究業績の向上に資する 講演(講師):長岡技術科学大学長 小島 陽氏	1名	国立高専機構主催
平成16年度高等専門学校教員研究集会(第1班)	平成16年7月29日 ~30日	釧路東急イン	目的:高専教育の内容及び方法の改善について研究協議し、高専教育の充実向上に資する テーマ:平成15年度教育方法改善プロジェクトの報告(自身の将来像を描けないことに起因する中途退学者数や1・2年後の離職者の増加等)を基に、高専における進路指導のあり方について研究協議する	1名	国立高専機構主催

(出典: 学生課)

資料 9-2-①-4：専攻科ファカルティ・ディベロップメントの時間基準

(実施内容)
第4条 専攻科担当教員は、自己の資質向上を図るため、前条各号に掲げるFDの実施形態のうちから、年間50時間以上の活動に努めなければならない。

2. 前項の活動時間は、FDの実施形態ごとに時間重み係数を勘案して算出した時間とし、当該時間は、実施形態ごとに次表の定めるところによる。

実施形態	内容	時間
研修会、講習会、シンポジウム等への参加	1 受講	1時間につき 1時間
	2 学内講師	1時間につき 2時間
	3 学外講師	1時間につき 3時間
論文等の発表(ファーストネームのみ)	1 口頭発表	1件につき 3時間
	2 一般論文、総説等	1件につき 10時間
	3 学術雑誌の査読付論文	1件につき 40時間
企業研修	1 受講	1時間につき 1時間
	2 講師	1時間につき 3時間
技術指導	1 受講	1時間につき 1時間
	2 講師	1時間につき 3時間
産業界における業務経験	1 体験	1時間につき 1時間
	2 特許出願	1件につき 40時間
その他の活動	1 公的な技術資格取得	1件につき 20時間
	2 国際協力事業団への参加	1時間につき 4時間
	3 政府機関等が実施する事業への参加・協力	1時間につき 4時間

(出典：専攻科ファカルティ・ディベロップメント規程)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/fd.html>

(分析結果と根拠理由) 相応である。本校の中期計画に即して、教員会議での教育に関する研究成果・経験の発表や学内外の研修会への参加を通じて、教員の資質向上へ取組が組織的に行われている。また専攻科においては、教員のファカルティ・ディベロップメント規定が整備されている。

観点 9-2-②：ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結びついているか。

(観点に係る状況) 観点 9-2-①のファカルティ・ディベロップメントの成果については、例えば、「学生指導のあり方」の発表が本校の進路指導のガイダンス実施に結びついたこと、e-learningの講習会が本校e-learningシステムの活用に結びつきつつあることなどが挙げられる。また、入学者データの分析は1、2年生全員への英語運用能力基礎テスト実施に結びついた(資料 9-2-②-1)。さらに、学外研修内容の発表については、欧米の高等教育機関が学生に自学自習の十分な課題を与えていることを教員が学ぶ機会となった。

4、5年生科目と専攻科の授業科目に関しては、平成12年度から平成15年度(専攻科科目は12年度と15年度)の授業評価アンケートを得点化したデータの比較が行われており、4、5年の授業ではこの4年間でほとんど変化が見られないのに対し、専攻科の授業に関しては顕著な得点の向上が見られる(資料 9-2-②-2)。これは、専攻科がJABEE取得をめざして、シラバスの充実や授業完了報告書の作成、教員相互の授業参観の呼びかけなど、授業改善の取組を比較的早期から進め

てきたことの成果の現れであると考えられる。

資料 9-2-②-1 : 英語運用能力基礎テスト実施概要

実施テストについて

1年生の4月に実施：英語運用能力基礎テスト 810円
 (B.A.C.E. = Basic Assessment of Communicative English)
 1年生の1月および2年生に実施：英語運用能力テスト 1350円
 (A.C.E. = Assessment of Communicative English)
 主催団体名：英語運用能力評価協会
 (ELPA = Association for English Language Proficiency Assessment)

- ・テストの実施対象は1、2年全員
- ・欠席者については、別の日に実施し、代金の返却は行わない。
- ・何らかの形で総合英語の評価に加える
 (来年度については最初の授業で口頭で学生に連絡、再来年度からはシラバスに明記)
- ・来年度の実施時期はそれぞれ4月と1月(再来年度以降については来年度中に検討)
- ・テスト代金は口座に振り込んでもらう(教務係に連絡済み)。
 - 1年 810円(4月) + 1350円(1月) = 2160円
 - 2年 1350円(4月) + 1350円(1月) = 2700円
- ・6月の時点で振り込まれていない者については、クラス氏名のリストを英語科がもらい、英語授業担当者が現金で徴収する。

実施予定

2年：4/15(金) 14:50 16:10
 E2は特活をテストに、C2はこの日の授業はオリエンテーションで6時限で終了
 試験監督： M2村上 E2塩谷 D2山岸 S2勝呂 C2大石(クラス担任)

1年：4/21(木)
 M1, S1 16:30 17:15(7.8時限まで授業あり)
 E1, D1, C1 14:45 15:30
 試験監督： M1藤井 E1勝呂 D1塩谷 S1村上 C1山岸

- ・1月の実施については、後期時間割確定後に英語科会議で案を作り、決める。

(出典：教養科英語科)

資料 9-2-②-2 : 授業評価アンケート結果の推移 (平成12年度～15年度)

専攻科における学生による授業評価は '01年度より実施しているが、'02年度は授業評価に参加する学生数が少なく、比較しうるデータが得られていないので、ここでは '01年度と '03年度の比較を示す。

表 6. 7 学生による授業評価結果比較('01年度/ '03年度) : 専攻科

	01年度		03年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
前期	73.5	19.0	80.0	14.8
後期	77.7	17.3	82.4	14.9
通年	75.8	18.0	81.1	14.9

以下に示すのは '00年度～ '03年度の高専4,5年生における同様の調査結果である。

表 6. 8 学生による授業評価結果比較('00年度/ '03年度) : 高専4, 5年生

00年度		01年度		02年度		03年度	
平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
73.6	22.4	73.5	19.2	73.5	19.3	75.7	18.7

これらの指標はすべて、専攻科担当教員会議IV(年度末会議)にて開示される。

学生による授業評価は '01年度より行われているが、4,5年生による授業評価点は73点、標準偏差20点で推移しており、過去4年間、ほとんど変化は無い。

専攻科生の授業評価は '01年度で評価点 75.4 ± 2.1 、標準偏差の信頼区間は信頼度99%で[17.1, 20.5]であり、4,5年生の評価点、標準偏差とは有意な差異は認められない。'03年度については、評価点 80.2 ± 1.7 、標準偏差の信頼区間は信頼度99%で[14.4, 16.9]であり、'01年度とは明確に異なっている。評価点の4ポイント向上、標準偏差の3ポイント縮小は '03年度からの専攻科整備の成果である。

(出典：総合システム工学自己点検書)

(分析結果と根拠理由) 相応である。平成 16 年度より行っている教員会議での教育に関する研究成果の発表を受けていくつかの教育改善の取組がスタートしている。特に専攻科においては、授業関連文書の整備や教員相互の授業参観等を通じて行ってきた授業改善の取組が成果をあげていることが、授業評価アンケートの結果に示されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 授業実施状況を示す資料は、従来の紙ベースの管理とネットワークを利用した電子的な管理システムが併用され、確実に保管・管理されている。

平成16年度より教員会議での教育に関する研究成果の発表や学内外の研修会への参加を通じて、教員の資質向上へ取組が組織的に行われ、その一部は教育改善の具体的な取組のきっかけとなっている。専攻科においては教員のファカルティ・ディベロップメント規定が整備され、授業関連文書の整備や教員相互の授業参観などを通じて行ってきた授業改善の取組が成果をあげていることが、授業評価アンケート結果に示されている。

(改善を要する点) 授業評価などに基づく個々の教員の授業改善への取組を促すシステムは整いつつあるが、それらの改善活動の成果を学校として系統的に把握するシステムが、現時点は整っていない。

また、準学士課程としての教育課程と総合システム工学プログラムの教育課程という 2 面を合わ

せ持つ4, 5年の教育課程に関して, 両者の改善プロセスにどのように整合性を持たせていくかが今後の課題である。

(3) 基準 9 の自己評価の概要

授業の実施内容を示すシラバスはウェブサイトで公開されており, 成績評価資料とその評価結果も適切に管理されている。また授業の実施記録は授業担当教員によって管理される出席簿だけでなく, 準学士課程においては学級日誌を通じて, 専攻科においては授業完了報告書として保管されている。

教育活動の全般的な自己点検・評価は, 自己点検・評価委員会が行っている。自己点検・評価報告書は平成11年度から13年度までの3年間と平成16年度の計4回作成された。また, 専攻科と4, 5年のカリキュラムで構成される総合システム工学コースは, 平成17年5月にJABEEコースとしての認定を受け, 専攻科企画運営委員会を中心に詳細な自己点検評価が行われた。

点検評価に基づく教育課程の見直しは, 準学士課程においては教務委員会が, 専攻科においては「総合システム工学プログラム」の改善プロセスの一環としてプログラム委員会がそれぞれ行っており, カリキュラムをはじめとする教育課程の改善に関して継続的に検討している。また, 学校全体としての教育課程の見直しについては, 教員会議等の審議を経て, 校長を委員長とする総務委員会が行うこととなっている。

準学士課程においては, 各科でカリキュラム改善の不断の検討を行っており, 最終的に教務委員会の審議を経てカリキュラムの改訂が決定され, 平成15年度と平成16年度の2年間で計27科目の改廃, 新設が行われた。専攻科では, 企画運営委員会を中心にカリキュラムの検討が行われ, 専攻科教員会議の審議を経て, プログラム委員会が最終的な決定を行う仕組みとなっている。ただし, 準学士課程の教育課程と総合システム工学プログラムの教育課程という2面を持つ4, 5年の教育課程に関しては, 両者の改善プロセスにどのように整合性を持たせていくかが今後の課題である。

学生によるアンケートは平成12年度以降継続して実施され, 平成12年度および13年度の自己点検・評価報告書と平成16年度の自己点検書(専攻科, 4・5年)にその結果のまとめと分析が行われている。この授業評価アンケートの結果はウェブサイトにより学内公開され, シラバスや授業完了報告書に改善事項の記入を義務付けるなど, 所要の改善措置を講じるシステムを整えている。今後, 各教員が実施した授業改善が, どの程度の改善効果をあげたかを組織的に検証するシステムの確立が求められる。

卒業生や企業の人事担当者など外部関係者からの教育に関する意見はこれまで各科で独自に行われてきたが, 平成17年度から求人企業へのアンケートという形での意見収集を, 学校全体の取組として開始した。ただし, この取組は始まったばかりであり, そこで得られた意見や情報を教育課程の改善等にどのように生かしていくかは今後の取組にかかっている。

各教員は各科における授業分担の適正化や学生の研究室配属の調整などにより, 自己の研究活動で得た知見を授業や学生の研究指導に生かしている。

平成16年度から教員会議での教育に関する研究成果の発表や学内外の研修会への参加を通じて, 教員の資質向上へ取組が組織的に行われ, その一部は教育改善の具体的な取組のきっかけとなっている。専攻科においては, 教員のファカルティ・ディベロップメント規定が整備され, 授業関連文書の整備や教員相互の授業参観による授業改善の取組が成果をあげていることが, 授業評価

アンケートの結果に示されている。

基準 10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点 10-1-①：学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

(観点到に係る状況) 本校における平成16年度末の財産額は、現金・預金約157百万円、不動産(土地・建物・構築物)約6,798百万円、動産(車両運搬具・工具器具備品等)約240百万円である。また、債務額(未払金・未払費用)は117百万円であり、長期・短期借入金は0円である(資料10-1-①-1及び2)。

(分析結果と根拠理由) 相応である。本校における資産は、学校の教育活動を遂行するうえで不足はない。また、債務額については、保有している現金・預金で支払いが可能であり、長期・短期借入金もないことから、教育活動の遂行に支障はない。

資料10-1-①-1：固定資産の状況

区 分	平成12年度末	平成13年度末	平成14年度末	平成15年度末	平成16年度末	備 考	
不動産	土地	㎡	89,818	89,819	89,819	89,484	89,484
	建物	㎡	7,850	7,850	7,851	7,611	3,984
	構築物	㎡	35,908	35,959	35,551	35,968	38,795
	小 計	百万円	2,117	2,117	2,115	2,199	2,526
	小 計	百万円	1,263	1,306	1,319	1,367	288
動 産	車両運搬具	百万円	11,230	11,273	11,285	11,177	6,798
	工具器具備品	百万円	18	18	19	18	4
	小 計	百万円	976	1,019	994	1,021	236
その他の有形固定資産	百万円	994	1,037	1,013	1,039	240	9
無形固定資産	百万円					3	
合 計	百万円	12,224	12,310	12,298	12,216	7,050	

(出典：会計課作成資料)

資料10-1-①-2：貸借対照表

平成16年4月1日～平成17年3月31日

資 産 の 部		負 債 及 び 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[資産の部]	6,981,968,576	[負債の部]	376,131,623
流動資産	160,488,159	流動負債	183,489,659
現金及び預金	157,783,051	運営費交付金債務	0
未収学生納付金収入	169,200	授業料債務	0
棚卸資産	1,651,806	預り施設費	0
未収入金	0	預り補助金等	539,000
前渡金	27,125	預り寄附金	41,571,133
前払費用	121,765	前受委託研究費等	5,620,000
その他流動資産	735,212	前受委託事業費等	0
固定資産	6,821,480,417	短期借入金	0
有形固定資産	6,818,544,417	未払金	110,541,077
建物	2,526,448,519	未払費用	6,800,631
建物減価償却累計額	-150,985,579	前受金	0
構築物	288,311,290	預り金	18,417,818
構築物減価償却累計額	-34,620,407	その他の流動負債	0
車両運搬具	4,360,757	固定負債	192,641,964
車両運搬具減価償却累計額	-827,015	資産見返負債	192,641,964
工具器具備品	235,618,982	資産見返運営費交付金等	25,545,422
工具器具備品減価償却累計額	-43,345,130	資産見返補助金等	0
土地	3,984,400,000	資産見返寄附金	2,748,742
建設仮勘定	0	資産見返物品受贈額	164,347,800
その他の有形固定資産	9,183,000	長期借入金	0
無形固定資産	2,936,000	[資本の部]	6,605,615,072
ソフトウェア	2,646,000	資本金(政府出資金)	6,770,713,419
電話加入権	290,000	資本剰余金	24,666,500
[本支店勘定]機構本部	-221,881	損益外減価償却累計額	-190,133,348
[本支店]機構本部	-221,881	当期未処分利益	368,501
合 計	6,981,746,695	合 計	6,981,746,695

(出典：会計課作成資料)

観点10-1-②：学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況) 本校における平成17年度経常的収入は、授業料、検定料、入学料のほか、雑収入を合わせて年額300,371千円が見込まれている。また、事業遂行に要する経費から収入額を差し引いたものが「運営費交付金」として措置され、平成17年度は1,229,099千円が配分される予定である(資料10-1-②-1)。外部資金も科学研究費補助金等の競争的研究費をはじめ(資料10-1-②-2)、地域企業等との共同研究・受託研究、寄附等を通じて毎年獲得している(資料10-1-②-3)。なお、中期計画の期間中は毎事業年度毎に1%の業務の効率化が求められていることから、今後はより一層の業務の効率化・経費の節約削減に努め、1%コスト削減の徹底を図る必要がある(後出資料10-2-②-1)。

(分析結果と根拠理由) 相応である。当校への志願者数は定員の約2倍、入学者数も定員以上を確保しており(資料10-1-②-4)、経常的収入は安定している。また、外部資金についても増加傾向にある。

資料10-1-②-1：平成17年度予算配分表

収入予算(財源)	収入予算	収入予算示達日(機構本部通知)		
	計	H17.4.1	H17.6.2	H17.7.1
運営費交付金	1,229,099,000	1,194,963,000	28,544,000	5,592,000
入学料収入	20,979,000	20,979,000		
授業料収入	254,776,000	254,776,000		
検定料収入	8,365,000	8,365,000		
雑収入				
職員宿舍貸付料収入	9,317,000	9,317,000		
寄宿料収入	4,857,000	4,857,000		
その他収入	2,077,000	2,077,000		
収入予算計	1,529,470,000	1,495,334,000	28,544,000	5,592,000

支出予算	支出予算	支出予算示達日(機構本部通知)		
	計	H17.4.1	H17.6.2	H17.7.1
常勤教職員人件費	1,022,361,000	1,022,361,000		
退職手当	142,095,000	142,095,000		
赴任旅費	641,000	641,000		
その他経費	364,373,000	330,237,000	28,544,000	5,592,000
支出予算計	1,529,470,000	1,495,334,000	28,544,000	5,592,000

(出典：会計課作成資料)

資料10-1-②-2：科学研究費補助金の推移

(単位:件、千円)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	備考
件数	6	7	7	7	11	
金額	7,100	8,000	7,900	6,240	7,968	

(出典：庶務課作成資料)

資料10-1-②-3：収入・支出の推移

(収入)

(単位:千円)

	運営費交付金	授業料・検定料・入学料	共同研究・受託研究	寄付金	施設整備費補助金	その他収入	合計
平成12年度	0	247,323	2,650	17,490	479,521	13,631	760,615
平成13年度	0	253,086	8,688	17,061	78,848	13,160	370,843
平成14年度	0	254,198	6,974	21,771	33,227	12,914	329,084
平成15年度	0	262,287	2,250	23,756	281,939	12,529	582,761
平成16年度	1,202,507	241,556	14,270	13,860	18,092	15,790	1,506,075

(注)12~15年度は、国立学校特別会計歳入を示す。

(支出)

(単位:千円)

	人件費	物件費		施設費	合計	
		教育研究費	その他物件費			
平成12年度	1,173,607	341,991	226,911	115,080	530,065	2,045,663
平成13年度	1,313,138	330,477	173,805	156,672	154,030	1,797,645
平成14年度	1,146,050	339,761	179,924	159,837	96,000	1,581,811
平成15年度	1,266,846	363,774	178,086	185,688	305,938	1,936,558
平成16年度	1,144,716	314,841	195,334	119,507	69,168	1,528,725

(出典：会計課作成資料)

資料10-1-②-4：入試関係受験者等推移

(収入)

(単位:人)

	志願者(A)	受験者	入学者(定員)	倍率	備考
平成13年度	466	465	214 (200)	2.3	
平成14年度	449	448	208 (200)	2.2	
平成15年度	412	409	208 (200)	2.1	
平成16年度	423	419	211 (200)	2.1	
平成17年度	392	381	211 (200)	2.0	

(注) 倍率は、「志願者(A)」÷「定員(200人)」で算出。

(出典：学生課作成資料)

観点10-2-①：学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況) 本校の教育活動を遂行するにあたり、財務面を含めた総合的な計画として沼津工業高等専門学校中期計画が定められており(資料10-2-①-1)、教職員に周知されている。また、施設整備計画が策定されている(前出資料8-1-①-3及び9)。

(分析結果と根拠理由) 相応である。財務面を含めた中期計画及び施設整備計画が策定されており、それぞれ関係者に周知されている。

資料10-2-①-1：沼津工業高等専門学校中期計画（抜粋）

（前文）**○財務内容の改善に関する目標（Ⅲ）**

業務運営の簡素化・合理化を図ることにより、既定経費の徹底した見直し、及び、外部資金の獲得を、全校的に積極的に進める。

○その他業務運営に関する重要目標（Ⅴ）

既存施設の有効利用を進めながら、快適で、機能的なキャンパス環境を形成するために、必要な施設設備を着実に整備する。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置**1 外部からの教育研究資金その他の自己収入の増加のための措置**

- 外部からの教育研究資金その他自己収入の増加に関する具体的方策
 - ・ 教員の個人的な外部資金獲得活動（奨学寄付金・受託研究）や科学研究費補助金への申請を奨励する。
 - ・ 受験料収入の増加を図るため、中学校へのPR活動を強化する。（本校は、県立高校との併願を可能にしている。）

2 経費の抑制及び資産の管理の改善のための措置

- 管理的経費抑制に関する具体的方策
 - ・ 事務・管理業務の合理化、効率化を積極的に進めるとともに、アウトソーシングを含め、人員配置の効率的運用を進め、人件費の抑制を図る。
 - ・ 管理業務の見直しによる節減を行うとともに、効率的な管理運営を行うことにより、管理経費の抑制を図る。
 - ・ 事務情報データを共有化することにより、人事・会計・教務事務処理の効率化・合理化の推進による経費の抑制を図る。
 - ・ 事務のオンライン化によるペーパーレスの推進を図り、経費の抑制を図る。

Ⅴ その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置**1 施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置**

- 整備すべき施設設備に関する具体的方策
 - ・ 「国立大学等施設点検整備緊急5カ年計画」で進められている緊急の整備を継続推進し、卓越した研究拠点施設、老朽化した施設の改善整備等の計画の策定及び実施を図る。
 - ・ 施設の点検評価に基づく既存施設の使用面積の再配分計画及び効率的利用の促進を図り、有効活用を努める。
 - ・ 環境に配慮した施設、多様な利用者への配慮やバリアフリー対策等に関する計画の策定及び実施を図る。
 - ・ 学生の課外活動の強化を図れるような施設計画の策定及び実施を図る。

（出典：沼津工業高等専門学校中期計画）

観点10-2-②：収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）本校における平成16年度の収入・支出の状況は、次のとおりである（前出資料10-1-②-3）。なお、中期計画の期間中は毎事業年度毎に1%の業務の効率化が求められていることから、今後はより一層の業務の効率化・経費の節約削減に努め、1%コスト削減の徹底を図る必要がある（資料10-2-②-1）。

（分析結果と根拠理由）相応である。前出資料10-1-①-2により、過大な支出超過にはなっていないと判断できる。

資料10-2-②-1:経費の節減策

区 分	概 要	見 直 し の 内 容 等	検 討 内 容	16年度	17年度
物品	複写機、プリンターの更新	会議資料のペーパーレス化及び両面印刷の促進 複写機、プリンターを両面印刷のできるものに更新し、両面使用の手間を省き、効率的なペーパー利用に資する。			○
	印刷室内のカラー複写機保守契約の廃止又は複写機の廃止	○利用頻度が低い ○テクノセンターにもカラー複写機が設置されているが利用頻度が低いので1台にまとめ有効利用を図る。			○
	職員用のフリーマーケット的掲示板の設置 ※会計・庶務	「物品を廃棄するくらいなら、他に欲しい人をまず探して有効利用して貰いたい。」「産廃置場には掘り出し物が多い。」教員や学生がこんな話をよく聞きます。そんな中で以前から複数の教員から話を受けているのが、誤りです。誤って下さい。指示板みたいなものです。教員は供用後(官)を設けていたとは言え、実際は単独で消耗品など使用していて、なかなか共有することがありません。本校は、ネットやメールなどのコミュニケーション手段が、普及しているため、それを利用して24時間いつでも見られる形の掲示板を設置し、利用してもらえたらどうかと考えます。教職員間の中だけのものにしてあげれば、管理もそれほど必要なく、煩雑にならないのではないかと思います。片方では要らないと言って捨て、その場で必要だからと言い同じ物を購入していたのでは、いつまでたっても無駄な経費は削減されません。現実には大きな成果があるとは思いませんが、物を大切にすることを意識付けば、学生に対する教育においても不可欠だと思います。いざとなった時にそいう手段がないのとあるのでは、大きな差があります。環境に対する配慮という観点も含めて、検討したらどうかと考えます。		一部○	○
	文房具品の見直し	各課規格を統一し、ボールペンなど筆記具はなるべく管芯を利用			○
	印刷用紙の裏を使う	廃棄用紙の裏面の再利用 試しに出力する場合やメモ程度の利用は裏打(使い古しの用紙の裏)とする	※4 1×1.180円		○
	封筒の再利用	学内教職員には、新品の封筒を使用しない。(教員名・係名専用の宛名を書き利用)	※2 単位 10.5円		○
	刊行物、加除図書	定期刊行物の集約化	定期刊行物の購読を集約し、閲覧ルームを設け、常時閲覧可能な状態とし、文数ニュース等を除き原則閲覧をやめる。	新聞 △141千円 採録者費等 △131千円	
刊行物、加除式図書の必要部数の再検討		刊行物(新聞、雑誌等)の契約部数の縮減 各課で保管している刊行物等を一箇所に集約し無駄を省く			○
役務	施設関連刊行物の見直し	施設係では季刊刊行物「文数施設」定価2100円を4冊購入していたが、10月に見直しを回り1冊購入にした。これにより年間25,200円(2,100円×3冊×4回)を節約できることになった。	△25千円【平成15年度実績】		○
	レンタルマットの廃止(各課入口)	建物の入口に設置してあるため不要と思われる	△183千円【平成17年度見込】		○
	学内発行の刊行物(教職員録、各種広報物等)の廃止	学内発行の刊行物(教職員録、各種広報物等)の廃止又は作成部数の縮減 教職員録の印刷を取りやめ、必要に応じて電子的な方法により提供する。	既費集△65千円【平成16年度実績】		○
	印刷物・配付物の使用部数の適正化	年度更新の印刷物・配付物は、前年度の使用部数を考慮して発注する。(用度係に、前年度使用・配布部数を申告してから発注するシステム)			○
	ポスターの用途分け印刷	「一日体験入学」案内ポスターの用途分け印刷、現行とA4サイズのものを作成。(用途、掲示場所に合わせて発注)			○
通信費	名票等のパソコン出力	名票等パソコンで出力可能なものは、各自必要な人が出力する方式とし、各係で様式を見直ししたり新規作成して、ホームページを利用する。			○
	通信費の削減	郵便物発送時の速達・書留郵便の縮減 保護者宛て郵便物のメール便への切替えや学生による便達の促進		○	○
光熱費	光熱水料の節約	○休憩時間の節電の励行及び冷暖房期間の短縮 ○不在時の教室、研究室等の節電の励行			○
	夏期休業の一斉実施	省エネ推進	通常日と休電日の差額 24h × 200kw × 10円 = 48千円/日 夏期(3日) → △144千円		○
	冷房期間の厳守による節約	将来的には冷房期間短縮。現在は冷房期間(7月1日から9月17日まで)を設定していますが、実質的には残暑が厳しく9月30日まで延長している現状です。 また、毎年5月下旬より冷房運転をされているところがありますが、せめて冷房期間の厳守をしていただきたい。			○
	冷房時間短縮による節約(1) ~ 教室の空調運転時間を10分短縮	現在、教室の冷房時間は8:30~15:30の間運転をしています。授業終了後、教室を使用していない時は空調運転を停止するようにお願いをしているところですが、なかなか守られないのが現状です。そこで、毎日8時限授業の終了が15:20であるため、授業終了と同時に運転終了とすることで10分間の節約ができる。(本科25教室×2台×10分=500分、従って、1台の空調機が約8、3時間運転していることになり、これだけ節約ができる。)	0.89kw × 0.00 / 30分 × 90日 × 10円 = △7千円		○
冷房時間短縮による節約(2) ~ 冷房期間中1日60分の空調機運転停止	各実験室、教官室、研究室、事務室等の冷房空調運転は運転期間中の午後13時~15時30分までの間(本校のピーク時)で60分の空調機運転停止の実施をして節約をする。(現在ピーク時の対応では事務部3課、図書館、学科事務室、学生食堂、学寮では、一日数回の空調機の停止対応をしている状況であり、これ以上の節約を図るには、学校全体の運転停止時間を設けるなどして節約が必要。)	0.89kw × 240分 × 90日 × 10円 = △240千円		○	

区 分	概 要	見 直 し の 内 容 等	検 討 内 容	16年度	17年度
	夜間照明の節約	野球部等の課活動時においてランニング時、後片付け時には照明灯の節電を行うなど節約する。また、課外活動終了後の学生がいないグラウンドに照明灯が全灯点灯している状況を見受けらるが、照明を部分的に点灯する等効率良く使用する			○
	教室等使用時における照明の節約	授業終了後における学生の少人数の使用時には、全灯の照明を点灯するのではなく最小限の範囲として使用する。			○
	燃料費減	寒い時には、1枚余分に着る			○
	省エネの意識向上	普段使わない場所のコンセントを抜く、電気のスイッチを切る等、省エネ・防災の観点から徹底する。(昼休みの照明消灯、プリンタの電源等も)			○
旅費	宿泊費の実情支給	宿泊しない場合は非支給			○
	公用車等利用の場合の日当廃止	公用車による日帰り出張時の日当の廃止 官用車利用出張の日当(850円)の廃止 日帰りの公用車・借上げバス利用の場合の日当廃止	△78千円 【平成16年度1月末まで実施】		○
	職員関連	学生寮の事務宿直の廃止(宿日直手当の削減、15年度実績:1,630千円)			
職員関連	宿直経費の縮減	学生寮宿直について、業務内容の改善、見直しを図り、事務職員の宿直を廃止し宿直経費を縮減する。 事務当直の廃止	△1,630千円【平成15年度実績】		○
高専体育大会	表彰状の埋空料削減	高専体育大会の表彰状をA4に、プリンタで印刷可能なものに、地区に変更申請する。(第30代の削減、入賞者の名前の出力が大会終了時まで可能になる。)			○
その他	クリエイション経費の縮減	クリエイション行事の縮減			○
	出張命令の決裁の簡略化				○

(出典：事務連絡会資料17.4.7)

観点10-2-③：学校の目的を達成するため、教育活動等（必要な施設・設備の整備を含む。）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況) 予算配分については、総務委員会において予算配分方針及び学内支出予算配分案を審議・決定している(資料10-2-③-1~4)。配分方針の作成にあたっては、中期計画の内容を重視している。なお、校長裁量経費についても、各学科等のヒヤリングを実施するなど、必要性等を考慮のうえ、決定している(資料10-2-③-5及び6)。なお、中期計画の期間中は毎事業年度毎に1%の業務の効率化が求められていることから、今後はより一層の業務の効率化・経費の節約削減に努め、1%コスト削減の徹底を図る必要がある(前出資料10-2-②-1)。

(分析結果と根拠理由) 相応である。予算配分方針が明示され、合議により配分案を決定しており、各学科・委員会等において中期計画を踏まえつつ、事業の展開が図られている。

資料10-2-③-1：平成16年度総務委員会議事録(抜粋)

第3回総務委員会議事要録(抜粋)

平成16年6月9日(水)

司 会：校長

◎ 議 題

(1) 平成16年度収入支出予算額及び学内支出予算配分方針について

事務部長から、資料1に基づき説明があり、承認された。

なお、予算の早期執行の必要性から、配分方針案に基づき、平成16年度学内歳出予算配分案(7月総務委員会の議題)を、1週間を目処に各学科主任等に提示することとなった。

また、事務部長から、奨学寄附金の間接経費徴収については、他大学等の実績を調査検討し、次回以降の総務委員会で議論願いたい旨の提案があり、承認された。

第4回総務委員会議事要録（抜粋）

平成16年7月14日（水）

司 会： 校 長

◎ 議 題

（1）平成16年度学内支出予算配分（案）について

会計課長から、資料1に基づき説明があり、承認された。

なお、積算方法で、昨年度との変更点について、次のとおり説明があった。

①研究費及び研究旅費を一本化して配分

②情報処理教育センター教員分の配分額を、所属学科である電気電子工学科に配分

これに関連して、委員から次のような意見があった。

・上記変更点については、文書で記録に残すこと

・管理運営費充当額については、内訳（特に光熱水料）が必要ではないか。

また、事務部長から、来年度の予算配分方針案作成に当たっては、教員を含めたWGを設置して行いたい旨の提案があったが、予算配分方針案作成は、必要に応じて各学科等の意見を聴取しながら、校長のリーダーシップをもって作成すべきであるとの結論となった。

第5回総務委員会議事要録（抜粋）

平成16年9月8日（水）

司 会： 校 長

◎ その 他

①平成16年度学内支出予算配分について

会計課長から、資料8に基づき報告があった。

②校長リーダーシップ経費について

会計課長から、資料9に基づき説明があった後、校長から、本年度の同経費の配分方針として、①本校中期計画に沿ったもの②現代的教育ニーズ取組プログラムを見据えたものとする旨の説明があった。

（出典：総務委員会議事要録）

資料10-2-③-2：平成17年度学内支出予算配分方針

1. 基本方針

- (1) 独法化により従来の項目の区分がなくなったが、予算配分額積算にあたっては、昨年度までの整合性をとるため、平成15年度学内歳出当初予算配分額を基準に算定する。
- (2) 機構本部からの当初予算額は、固定的経費（教員研究費、入試・厚生補導等学生関連経費、附属施設経費、一般管理費）へ先に充当し、その残額及び追加配分額は、競争的経費（校長リーダーシップ経費）及び施設整備費等に充てる。
- (3) 学科等へ配分する経費、特定の事業に係る経費については、従来の教官研究旅費、教官研究費を合算して教員研究費として配分するなど、弾力的な運用がなされるよう配慮する。

2. 経費別配分方針

平成 16 年度	平成 17 年度 (案)																												
1. 人件費 (教職員給与、非常勤講師手当等) <ul style="list-style-type: none"> ● 人件費に係る経費は事務部で一括経理する。 2. 教職員旅費 (1) 一般旅費 <ul style="list-style-type: none"> ● 事務部において一括経理する。 (2) 教員研究旅費 <ul style="list-style-type: none"> ● 文科省配当離別単価の70%を現員に応じて配分し、30%は教官共通旅費とする。 ● 教員研究費に含めて配分する。 3. 講師等旅費 <ul style="list-style-type: none"> ● 事務部において一括経理する。 4. 諸謝金 <ul style="list-style-type: none"> ● 事務部において一括経理する。 5. 教育研究実施経費 (教員研究相当分) (1) 教育研究基盤校費 (教員数積算分) ①各学科へ文科省配当離別単価の70%を現員に応じて配分する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">☆離別別配分基準単価 (単位:円)</th> </tr> <tr> <th>教 授</th> <th>助教授</th> <th>講 師</th> <th>助 手</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>105,500</td> <td>84,500</td> <td>84,500</td> <td>68,500</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員研究費に含めて配分する。 ②30%は、次の共通経費を優先配分し、残りを管理運営費に充当する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 研究報告出版費 400千円 ● 学校案内パンフレット 2,900千円 ● 設備費補助(校長リーダーシップ経費の財源として留保) 5,000千円 ● 校内LAN等保守経費 1,374千円 計 9,674千円	☆離別別配分基準単価 (単位:円)				教 授	助教授	講 師	助 手	105,500	84,500	84,500	68,500	1. 人件費 (教職員給与、非常勤講師手当等) 同 左 2. 教職員旅費 (1) 一般旅費 同 左 (2) 教育研究実施経費 (教員研究旅費相当分) <ul style="list-style-type: none"> ● 離別別配分基準単価の70%を現員に応じて配分し、30%は教官共通旅費とする。 ☆離別別配分基準単価 (単位:円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>教 授</th> <th>助教授</th> <th>講 師</th> <th>助 手</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>105,500</td> <td>84,500</td> <td>84,500</td> <td>68,500</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員研究費に含めて配分する。 3. 講師等旅費 同 左 4. 諸謝金 同 左 5. 教育研究実施経費 (教員研究相当分) (1) 教育研究基盤校費 (教員数積算分) ①各学科へ文科省配当離別単価の70%を現員に応じて配分する。 ☆離別別配分基準単価 (単位:円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>教 授</th> <th>助教授</th> <th>講 師</th> <th>助 手</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>612,800</td> <td>328,000</td> <td>247,100</td> <td>161,700</td> </tr> </tbody> </table> ②30%は、次の共通経費を優先配分し、残りを管理運営費に充当する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 研究報告出版費 ● 学校案内パンフレット ● 設備費補助(校長リーダーシップ経費の財源として留保) ● 校内LAN等保守経費 	教 授	助教授	講 師	助 手	105,500	84,500	84,500	68,500	教 授	助教授	講 師	助 手	612,800	328,000	247,100	161,700
☆離別別配分基準単価 (単位:円)																													
教 授	助教授	講 師	助 手																										
105,500	84,500	84,500	68,500																										
教 授	助教授	講 師	助 手																										
105,500	84,500	84,500	68,500																										
教 授	助教授	講 師	助 手																										
612,800	328,000	247,100	161,700																										

平成 16 年度	平成 17 年度 (案)
(2) 教育研究基盤校費 (学生数積算分) ①各学科へ文科省配分単価の20%を学生定員に応じて配分する。 ②80%は、次の共通経費を優先配分し、残りを管理運営費に充当する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 視聴覚機器運営費 200千円 ● 図書購入費不足分 606千円 ● 高等祭学科展示経費 750千円 (5学科、専攻科各125千円) ● 一日体験入学学科展示経費 600千円 (5学科、専攻科各100千円) ● 設備費補助(校長リーダーシップ経費の財源として留保) 1,000千円 計 3,156千円	(2) 教育研究基盤校費 (学生数積算分) ①学生等配分基準単価 (②26,100円) の20%を学生定員に応じて配分する。 ②80%は、次の共通経費を優先配分し、残りを管理運営費に充当する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 視聴覚機器運営費 ● 図書購入費不足分 ● 高等祭学科展示経費 ● 一日体験入学学科展示経費 ● 設備費補助(校長リーダーシップ経費の財源として留保)
(3) 教育研究基盤校費 (大学分等) ①教官当様算校費と学生当様算校費の配分比 (7:3)で教官数積算分相当額、及び学生数積算分相当額を算定。 ②教官数積算分相当額の70%、及び学生数積算分相当額の20%について、次のとおり配分する。 ア. 校長リーダーシップ経費として、30%を留保する。 イ. 各学科等に70%を配分する。 なお、教官数積算分相当額の30%、及び学生数積算分相当額の80%については、管理運営費に充当する。 ③学科等配分にあたっては、教養科(一般)を除く各学科等に次の算式に基づいて算出された額を配分する。 $\text{算出した学} \times \frac{\text{科等配分額}}{\text{教養科(一般)を除く全学科等の教官数積算分+学生数積算分}}$ ④校長リーダーシップ経費については、校長の判断により、配分する。	(3) 教育研究基盤校費 (大学分等) ①同 左 ②同 左 ③同 左 ④同 左
(4) 図書館設備費及び図書館維持費 <ul style="list-style-type: none"> ● 文科省配当予算の全額を配分する。 	(5) 図書館設備費及び図書館維持費 <ul style="list-style-type: none"> ● 定額 (1,591千円) を配分する。

平成 16 年度	平成 17 年度 (案)
(5) 教育研究設備維持運営費 <ul style="list-style-type: none"> ● 文科省配当予算の全額を各設備管理部へ配分する。 (参考) 文科省予算配当基準に基づき、購入した翌々年度から10年経過後に配分額を0円とする。 ※今年度、配分額が0円となるシステム ⇒高精度多機能機械加工システム (M科) ⇒知能情報システム教育設備 (D科)	(5) 教育研究設備維持運営費 <ul style="list-style-type: none"> ● 同 左
(6) 教育充実設備費 <ul style="list-style-type: none"> ● 追加配分があった場合には、校長リーダーシップ経費、施設整備費等に配分する。 	(6) 教育充実設備費 <ul style="list-style-type: none"> ● 同 左
(7) 実験工場経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 文科省配当予算の全額を配分する。 	(7) 実験工場経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 定額 (621千円) を配分する。 ● 校長リーダーシップ経費より500千円を充当する。
(8) 情報処理教育センター経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 文科省配分予算(附属施設経費)を配分する。 ● 教育研究基盤校費(大学分等)の校長リーダーシップ経費より充当 1,000千円 	(8) 情報処理教育センター経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 定額 (1,138千円) を配分する。 ● 校長リーダーシップ経費より1,000千円を充当する。
(9) 大学間相互交流教育経費(内地研究員等) <ul style="list-style-type: none"> ● 当該教官の所属する学科の教育研究基盤校費から控除する。 	【削除】 ※大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実証支援)として公募される補助金となったため削除
(10) 教養科(芸術、特別教育活動等)経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 各学科に配分した教育研究基盤校費(学生数積算分)から10%を控除した金額を配分する 	(10) 教養科(芸術、特別教育活動等)経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 同 左
(11) 寄宿舎費 <ul style="list-style-type: none"> ● 事務部において一括経理する。 	(11) 寄宿舎費 <ul style="list-style-type: none"> ● 同 左
(12) 学生厚生補導経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 事務部において一括経理する。 	(12) 学生厚生補導経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 同 左
5. 産学官連携等推進経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 共同研究又は受託研究契約の内10%は間接経費とし、産学官連携等推進経費へ充当する。 	5. 産学官連携等推進経費 <ul style="list-style-type: none"> ● 定額 (1,500千円) を配分する。 ● 同 左

(出典：総務委員会会議資料)

資料10-2-③-3：学科等配分予算総括表

(単位:千円)

区 分	教員研究費			高専卒学科 学科展示経費	一日体験入学 学科展示経費	教育研究設備 維持運営費	設備費補助	校長リーダー シップ経費	附属施設経費	16年度 配分額	参 考	
	教員数経算分	学生数経算分	大学分等								15年度配分額	前年度増減額
機械工学科 (実習工場)	4,281	567	5,980	125	100	1,611			621	12,664	(12,026)	638
電気電子工学科	4,410	571	6,157	125	100					11,363	(11,253)	110
電子制御工学科	3,618	571	5,193	125	100	1,189				10,796	(11,633)	△837
制御情報工学科	3,779	571	5,358	125	100					9,933	(9,939)	△6
物質工学科	4,063	576	5,744	125	100					10,606	(11,220)	△612
専攻科 物 理	1,081	190	278	125	100			2,400		3,093	(3,088)	5
(応用物理)		587	2,159							4,719	(4,721)	△2
		362	530									
化 学	503	587	1,486							2,576	(2,578)	△2
体 育	578	587	1,532							2,697	(2,698)	△1
数 学	2,608		3,145							5,753	(5,110)	643
教 養 科	5,026					1,251						
(美術・音楽)		92								6,435	(5,875)	560
(生 物)		27	39									
情報処理教育センター								1,000	1,138	2,138	(2,138)	0
特別教育活動		173								173	(172)	1
校長リーダーシップ経費			16,115				6,000	△3,400		18,715	(12,715)	6,000
小 計	29,947	5,461	53,716	750	600	4,051	6,000	0	1,759	102,284	(95,787)	6,497
高専卒学科展示経費		750		△750	(学科、専攻科へ各125千円配分)					0	(0)	0
研究報告出版費	400									400	(400)	0
図書館(維持費)									1,591	1,591	(1,591)	0
(図書購入費)		606							1,166	1,772	(1,772)	0
プリント作成費	2,900									2,900	(2,900)	0
特殊装置維持費		200	(視聴覚)							200	(200)	0
体験入学学科展示経費		600		△600	学科、専攻科へ各100千円					0	(0)	0
設備費補助	5,000	1,000					△6,000	校長リーダーシップ経費へ		0	(6,000)	△6,000
校内LAN等保守経費	1,374									1,374	(1,374)	0
管理運営費充当	2,791	18,801	43,949							65,541	(66,043)	△502
共通等経費	12,465	21,957	43,949	△750	△600	0	△6,000	0	2,757	73,778	(80,280)	△6,502
教員共通旅費	2,501									2,501	(2,505)	△4
合 計	44,913	27,418	97,665	0	0	4,051	0	0	4,516	178,563	(178,572)	△9

(出典：総務委員会会議資料)

資料10-2-③-4：平成17年度学内支出予算配分一覧

平成17年度学内支出予算配分一覧

(単位:千円)

平成17年度学内支出予算配分説明資料

予算科目	配分額	備 考
【人件費】		
教員人件費)常勤	685,678	常勤教員の人件費(入試超勤手当を含む)
職員人件費)常勤	354,568	常勤職員の人件費(超勤手当を含む)
教員人件費)退職金	142,095	常勤教員の退職手当
職員人件費)退職金	0	常勤職員の退職手当
教員人件費)非常勤	37,300	非常勤講師の人件費
職員人件費)非常勤	6,195	非常勤職員の人件費
【物弁費】		
管理運営旅費	3,265	職員の出張旅費
赴任旅費	641	教職員の赴任旅費
教員共通旅費	2,646	教員の出張旅費(研究費によるものを除く)
非常勤講師等旅費	3,200	非常勤講師の来校交通費等
公開講座実施経費	2,522	学生補助者等謝金、公開講座物品購入等
広報活動費	4,200	高専だより、学校要覧、パンフレット作成
管理運営経費	11,787	事務用物品購入等、振込手数料、文書住宅固定資産税(1,710千円を含む)
職員厚生経費	804	教職員健康診断、レクリエーション経費
防災関係経費	689	防災用品購入等
業務委託費	16,836	警備、清掃、工業廃棄品処理、ボイラー業務委託等
図書館運営経費	5,777	図書館物品購入、学生用図書購入、研究報告出版、図書業務委託費等
通信運搬費	5,629	郵便料、電話料、宅急便、タクシー雇上等
情報ネットワーク経費	15,445	インターネット回線使用料、LAN保守費
光熱水料費	39,941	電気料、水道料、ガス代
自動車関係費	892	公用車整備費、ガソリン代、自動車重量税等
雑役務費	1,316	タスキマット、カーニング、式典会場使用料、諸会費等
重油購入費	2,749	ボイラー用重油購入
事務情報化推進経費	7,499	事務用PC借料、システム維持管理料、事務用電子計算機借料等
保守費	10,241	印刷機、複写機保守、電気工作物、生活廃水処理施設保守等
施設修繕・維持費	29,314	施設関連修繕、環境整備等

入学試験経費	1,556	入試関連物品購入等
留学生経費	1,469	チューター謝金、留学生関連物品購入等
教務関係費	5,785	教務関連物品購入、SCS維持費、特活関連経費等
学生厚生補導経費	9,318	保健管理、課外活動、学生指導、体育大会、厚生補導設備等
学寮運営費	2,781	学寮関連物品購入等
教育研究実施経費	78,027	校長研究費、学科等配分経費
専攻科経費	5,921	専攻科配分経費、専攻科関係事務費
情報センター運営経費	9,169	総合情報センター関連経費、教育用電子計算機借料
実習工場経費	1,830	実習工場関連物品購入等
産学官連携推進経費	1,500	産学官関連講習会・セミナー等開催、テクノセンター紹介資料作成等
重点配分経費	15,693	認証評価、校長リーダーシップ経費(申請等の状況により別途配分)
学内配分額	1,524,278	
予備費	5,192	※下欄参照 平成16年度予備費8,000千円
予算額計	1,529,470	

※予備費の使途

- 1) 収入減があった場合の補填
- 2) 緊急を要する経費等、予定外の支出に対する準備金
- 3) 最終的に年度末予算残へ合算して執行

1. 学内予算配分の方法

- (1) 常勤教職員の人件費及び赴任旅費は、機構積算額による。
 - (2) 第1回総務委員会において承認された配分方針に基づく経費は、当該承認額による。
 - (3) 上記以外の経費については、原則として平成16年度決算額又は平成17年度契約額とし、新規事項又は大幅な減額が見込まれるものは、所要見込による。
- ※別紙「平成17年度学内支出予算配分内訳」備考に、(1)は「機構積算額」、(2)は「配分方針」、(3)は「H16決算額」、「H17所要額」、「H17契約額」、「所要見込」とそれぞれ記載。

2. 効率化係数1%等への対応

- 平成17年度当初予算においては、効率化係数1%減の他、施設維持管理経費が大幅に減となっている。
 - 効率化係数1% 物件費相当額 $\Delta 173,000$ 千円 $\div 55$ 高専 = $\Delta 3,146$ 千円
 - 施設維持管理経費の減 $\Delta 12,800$ 千円
- 予算減の平成17年度における対応は、下記のとおりとするが、施設関連経費が大幅に削減されているため、今後も管理経費のより一層の見直しを図ると共に、必要に応じて機構本部へ予算の追加要求を行う。

事 項	対応額	対応内容
効率化係数1% (3,146千円)	$\Delta 800$ 千円	電気料の減(契約内容の見直し)
	$\Delta 1,868$ 千円	消耗品等の買控(昨年度執行額の25%減)
	$\Delta 578$ 千円	管理運営経費の一層の見直し
施設維持管理費 (12,800千円)	$\Delta 3,000$ 千円	予備費の減(8,000千円 \Rightarrow 5,000千円)
	$\Delta 1,027$ 千円	業務委託費等契約の見直し
	$\Delta 8,773$ 千円	配分額の見直し、施設費の減

3. 予備費の使途

- (1) 収入減があった場合の補填
- (2) 緊急を要する経費等、予定外の支出に対する準備金
- (3) 最終的に年度末予算残へ合算して執行(各科・課等において必要な物品・工事等を事前に照会する。)

(出典：総務委員会会議資料)

資料10-2-③-5：校長リーダーシップ経費の配分基準

教育研究基盤校費にかかる校長リーダーシップ経費の配分について

平成12年10月11日
校長 裁定

このことについては、下記の配分基準等により配分することとする。

記

1 配分基準

配分対象経費を次のとおり区分し、別紙「配分基準」によりそれぞれの配分額を決定する。

- A. 学科等教育推進・改革経費
- B. 研究活動活性化・産学連携等推進経費
- C. 全学共同利用経費
- D. その他校長が必要と認めた経費

2 配分申請

- (1) 配分を希望する配分対象者は、配分対象区分ごとに定める別紙様式に基づき、校長に配分申請する。
- (2) 配分申請時期は、毎年度の「学内歳出予算配分」決定後、1か月以内とする。ただし、校長が特に必要と認めたものを除く。

3 配分決定

- (1) 配分対象区分A及びBは、原則として、毎年度10月総務委員会までに決定する。
- (2) 配分対象区分Cは、原則として、毎年度9月総務委員会の審議後、速やかに決定する。

4 実施状況報告書の提出

被配分者は、毎年度終了後速やかに、別紙様式に基づき実施状況報告書を校長に提出するものとする。

5 本配分に関する事務は、会計課総務係が処理する。

附 則

平成12年度の配分申請等の特例

- (1) 配分申請時期は、10月末までとする。
- (2) 配分対象区分A及びBの配分決定は、11月末までとする。
- (3) 配分対象区分Cの配分決定は、11月総務委員会の審議後、速やかに決定する。]

(別紙) 配分基準

配分対象区分	対 象 経 費	配 分 予 定 額	配分対象者	配分決定方法
A. 学科等教育推進・改革経費	a. 学科等において、現行カリキュラムに基づく教育を推進するために特別に必要とする経費 b. 学科等において、カリキュラムの再編や教育方法の改革を行うための特別のプロジェクトに必要とする経費	[配分総額] 概・校長リーダーシップ経費の3分の1 [1件当たり配分額] a. 概・100万円以内 b. 概・200万円以内	・学科等	校長、副校長、校長補佐、事務部長及び会計課長が協議のうえ校長が決定する(必要に応じてヒアリング有)
B. 研究活動活性化・産学連携等推進経費	a. 研究活動の活性化に要する経費(科研費又は奨学寄付金を獲得するための準備又は先行投資的経費他) b. 産学連携を推進するために必要とする経費(受託研究・民間等との共同研究を推進するための準備又は先行投資的経費並びに民間等との交流事業を推進するための経費) c. 学外に理工系分野の魅力を情報発信するための事業に要する経費	[配分総額] 概・校長リーダーシップ経費の3分の1 [1件当たり配分額] 概・50万円以上150万円以内	・教員 ・ただし、b,cについては、配分対象区分Cに掛ける配分対象者も可	同 上
C. 全学共同利用経費	全学が共通に必要なとする教育研究基盤整備等にかかる経費	[配分総額] 概・校長リーダーシップ経費の3分の1 [1件当たり配分額] 配分総額を限度	・学科等 ・情報処理教育センター ・図書館 ・各種委員会等 ・事務部	総務委員会審議のうえ、校長が決定する。
D. その他校長が必要と認めた経費				

(注)「学科等」とは、教養科、5学科、専攻科とする。

(出典：総務委員会会議資料)

資料10-2-③-6：平成16年度校長リーダーシップ経費の採択一覧

整理 番号	資料 A-①	代表者等		申請額 (千円)	配分額 (千円)	課題等の名称	沼津高専中期計画関連 項目等
		所属等	氏名				
A. 学科等教育推進・改革経費							
a. 学科等教育推進経費							
1	1	機械工学科	小林 隆志	998		英語による基礎コミュニケーション能力向上の取組み	I-1-(1)-①
2	3	電気電子工学科	望月 孔二	389		「自動計測」と「データ解析支援」を行う学生実験支援装置導入による、『総合的能力を習得し、自らの力で考え、行動できる実践的な技術者を育成する』教育プログラムの推進	I-1-(2)-②
3	6	制御情報工学科	大島 茂	1,200		「e4創造設計」におけるものづくり演習教育の充実と推進	I-1-(2)-②
4	8	物質工学科	蓮実 文彦	600	600	学生実験用基本分析機器の保守・点検および修理	I-1-(2)-②
5	10	物質工学科	竹口 昌之	435	435	労働安全衛生規則を遵守した化学工学実験設備への更新	I-1-(3)-②、V-2
b. 学科等教育改革経費							
6	12	教養科(物理)	勝山 智男	1,000	1,000	工学基礎教育推進のための標準問題データベースの作成および基礎測定ラボの設立	I-1-(3)-②
7	14	電気電子工学科	嶋 直樹	1,568		ハンダ付けを用いた電子工作の一斉授業のための環境整備	I-1-(1)-②
8	17	制御情報工学科	鈴木 茂樹	2,000		制御情報工学科コンピュータ演習室設備拡充	I-1-(1)-②、I-1-(2)-②
小計(A)				8,190	2,035	8件	
B. 研究活動活性化・産学連携等推進経費							
a. 研究活動活性化経費							
9	19	電子制御工学科	鄭 萬溶	800		底部が拘束されていない構造物の耐震転倒防止器具の開発	I-3-(1)
10	22	電子制御工学科	大庭 勝久	1,134	500	自動風洞実験システムの構築	I-1-(1)-②
11	24	制御情報工学科	藤尾 三紀夫	975	600	サーボデータ制御に基づく加工条件の適正化に関する研究	I-3-(1)
12	26	制御情報工学科	芹澤 弘秀	480	480	フランク付行き方形導波管アンテナの特性改善に関する基礎的研究	Ⅲ-1、I-3-(2)
13	29	制御情報工学科	佐竹 利文	1,000		再構成可能型製造ソフトウェアシステムに関する研究	I-3-(1)
14	31	制御情報工学科	大久保 進也	1,500	1,000	光ナノテクノロジーに関する研究	I-3-(1)(2)
b. 産学連携推進経費							
15	33	電子制御工学科	遠山 和之	1,500	1,000	損失電流測定による水トリー劣化ケーブルの診断法の開発研究	I-3-(1)
16	37	制御情報工学科	柳下 福蔵	500	500	地域共同テクノセンターの事業運営に係わる経費	I-4
17	40	制御情報工学科	藤尾 三紀夫	720		「多段階的くさび形インターンシップ」教育プログラム構想	現代的教育ニーズ取組支援プログラム、I-4
c. 情報発信経費							
18	42	電子制御工学科	川上 誠	1,312	650	小・中学生のためのロボット教室	I-1-(2)-②、I-4
19	45	制御情報工学科	藤尾 三紀夫	1,150		公開講座およびセミナーの活性化事業	I-4
20	47	物質工学科	蓮実 文彦	1,000	1,000	沼津高専物質工学科・地域連携による地域活性化支援	I-4、現代的教育ニーズ
小計(B)				12,071	5,730	12件	
C. 全学共同利用経費							
21	50	厚生補導委員会	野澤 正信	299	299	講義棟壁修理	
22	52	図書館長	岩谷 隆史	2,363	4,051	開覧机の一部更新	V-1
23	55	学生生活支援室	加藤美知代	525		学習支援プログラム(1年生の前学期末試験成績不振者に対する学習支援)	I-1-(2)-②
24	59	ロボコン同好会顧問	吉野 龍太郎	2,500	3,000	ロボット製作室(名称ロボ・ガレージあるいはロボ・ショップ)	V-1、V-2
25	61	実習工場長	大賀 喬一	497		労働安全衛生法に沿った重量物取り扱い方法の改善	V-2
26	63	実習工場長	大賀 喬一	500	500	機械実習工場運営経費	I-1-(1)-②、I-3-(1)(2)、V-2
27	65	防災対策委員会	久賀 重雄	133		電話設備非常切替対応工事	V-2
28	67	電子制御工学科	澤 洋一郎	2,982		e-Educationプラットフォーム (Blackboard Learning System ML Basic)	I-1-(2)-②、I-1-(3)-①②、I-4、Ⅱ-2、Ⅲ-1、現代的教育ニーズ
小計(C)				9,799	7,850	8件	
		-	<調査費>		500	「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」対応のための調査費	
合計				30,060	16,115	28件	

(出典：総務委員会会議資料)

観点10-3-①：学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況) 学校を設置する独立行政法人国立高等専門学校機構の財務諸表は、官報において公表されることとなっている(資料10-3-①-1)。

(分析結果と根拠理由) 相応である。学校を設置する法人である独立行政法人国立高等専門学校機構の財務諸表は、官報において公表されることとなっている。

なお、当校の財務諸表等は、当校ウェブサイトにおいて適正に公表されている(資料10-3-①-2)。

資料10-3-①-1：独立行政法人通則法第38条第4項

(財務諸表等)

第三十八条 独立行政法人は、毎事業年度、貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書(以下「財務諸表」という。)を作成し、当該事業年度の終了後三月以内に主務大臣に提出し、その承認を受けなければならない。

2 (略)

3 (略)

4 独立行政法人は、第一項の規定による主務大臣の承認を受けたときは、遅滞なく、財務諸表を官報に公告し、かつ、財務諸表並びに第二項の事業報告書、決算報告書及び監事の意見を記載した書面を、各事務所に備えて置き、主務省令で定める期間、一般の閲覧に供しなければならない。

(出典：会計課)

資料10-3-①-2：公式ウェブサイトにおける公表(抜粋)

収入・支出決算額(平成16年度)		千円
収入	運営費交付金	1,202,607
	施設整備費補助金	18,091
	自己収入(授業料・入学科等)	280,884
	産学連携等研究収入	14,270
	寄附金収入	13,861
合計		1,529,613
支出	業務費(教育研究経費・支援経費)	991,631
	業務費(一般管理費)	491,701
	施設整備費	18,091
	産学連携等研究経費	10,302
	寄附金事業費	17,001
合計		1,528,726

(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gaiyou_frm.htm

観点10-3-②：財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況) 本校の財務に対しては、外部の監査法人による監査のほか、独立行政法人国立高等専門学校機構本部による監査、他高専との相互監査などが行われている(資料10-3-②-1及び2)。なお、今後は学内での内部監査をより一層充実する必要がある。

(分析結果と根拠理由) 相応である。数種類の監査が毎年行われている。

資料10-3-②-1：会計検査・会計監査の受検状況

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	備考
会計検査院検査						
財務省国有財産監査			14.10.30			
文部科学省会計監査	12.10.26～27	13.9.20～21				
機構本部監査人監査					16.12.8～10	
東海北陸地区高専相互監査					16.12.16	

(出典：会計課作成資料)

資料10-3-②-2：機構本部監査人監査の状況

沼津工業高等専門学校 監査講評 MEMO

中央青山監査法人

(全般)

1. 合計残高試算表について

(1) 未収入金

共同研究収入で未入金分が、矢崎総業 100,000 円、ハイテクリサーチ 250,000 円の合計 350,000 円計上されています。

この2件は、10月入金を確認していますが、前受受託研究費等と両建になっています。決算期末においては、両者(未収入金と前受受託研究費等)の相殺が必要となりますので、ご留意下さい。

(2) 授業料債務

未納者分 228,000 円を収益化せずに授業料債務として残していますが、期間進行基準による収益化処理は、授業料が未収であるか否かに関係なく行うため、同額を授業料収益に計上するようにして下さい。

(3) 仮払金・未払金

仮払金・未払金について財務会計システムから「勘定残高内訳表」が出力されますが、特定期間の発生・消滅の内容を表示したものです。

監査時点で作成していただいたところ、マイナス残高が△101,500 円ありました。旅費精算時の未払分まで借方計上したことが原因です。残高内訳書を作成することにより、現状未精算の内容をはあくすることができますので、月末特に決算末は内訳書を作成し、内容について検証するようにして下さい。

(4) 修繕費

一般管理費の修繕費が 9,656 千円計上されていますが、内容を伺うと施設係が発注するものは全て一般管理費で計上されているようです。

ロケーションに応じて、明らかに教育研究および教育研究支援に係る物の修繕については、当該経費区分で計上するようにして下さい。

(5) 一般管理費/雑役務費

一般管理費の雑費勘定には補助科目として「環境整備費」「移設撤去費」「雑役務費」があります。環境整備費は構内環境整備等に係る委託費。構内清掃、樹木剪定、消毒・害虫駆除、廃棄物処理等に係る費目として設定されています。

内容を確認しますと、校舎清掃業務や廃棄物収集運搬業務について雑役務費に計上しています。環境整備費の計上で結構だと思えますので、振替処理を行うようにして下さい。

2. システム

- ・ 財務会計システム上「予算執行集計表」に予算執行額が出力されますが、実際に入力している伝票とかけ離れた数字が出力されています。

(例)

単位：円

	予算執行集計表 A	合計残高試算表 B	差額 B-A
人件費（教員人件費/常勤）	313,413,851 円	339,294,785 円	25,880,934
人件費（教員人件費/非常勤）	15,555,557 円	15,791,644 円	236,087
人件費（職員人件費/常勤）	152,662,911 円	165,748,734 円	13,085,823
人件費（職員人件費/非常勤）	2,647,239 円	2,684,229 円	36,990

差異の詳細は調査中ですが、システム上で内容が判明できない場合は神田通信機側へ問い合わせを行う必要があります。

3. その他の事項

(1) 電子承認について

システム内での電子承認についてですが、現在承認画面では前承認者が承認した伝票以外の全ての伝票が表示されるため、前に承認がなくても最終承認者が承認可能な状況となっています。これでは適切な承認過程を経ないでも伝票が会計上反映される恐れがあります。システム内での表示条件を前承認者が承認した伝票のみを表示するように設定することが、承認過程を示す上で必要と考えます。

(2) 旅行命令発行何日の日付について

旅行命令発行何日において起票日と決済日は現在常に一致していますが、担当者によりますと業務上常に一致していることはなく、業務の便宜上に日付を統一しているということでした。正確な日付の入力をお願いします。

(3) 旅費計上について

現在、旅費については現金主義で費用計上を行なっています。費用は出張の実行日等の役務を使用したときに計上すべきです。旅費に関しては支払日にあわせて支払伝票を起票するのみで未払計上を行う振替伝票は起票されていません。期末では未払費用の認識を行う必要もありますので、旅費についても振替伝票の起票をお願いします。

(4) 旅費システムの活用について

旅費のシステム入力に現状出納係が実施しています。事務処理マニュアルによれば各自での入力を想定していますので、できるだけ早くこのマニュアル上の手順を適用すべきであります。

上記の業務フローに基づくと、全ての旅行命令発行何日が旅費システムへ入力されているかどうかの検証が行えません。各自での旅費システムへの入力を行うことで、全ての旅行命令発行何日が旅費システムへ入力＝会計システムへの入力が担保されると考えられます。

(5) 予算の差し引きについて

物件費の分割払いについて、予算が2重に消しこまれることがありました。今年4/1契約分の4件について予算差引簿や伝票等を検証したところ、支出契約決議書の承認時に予算が差し引かれ、月々の支払伝票承認時に再度予算が差し引かれていました。これについては、4・5月分のみがこのような処理となっていましたので、8月以降にシステムが変更したものかどうか、このようなことが引き起こされた原因の調査をお願いします。

(6) 旅費の仮払いについて

旅費の仮払分は出納係の任意の判断によって行なわれています。仮払の必要なものについては各自から仮払い申請書を入手するか、内部規程を設けていただくことによって、仮払を実施する判断を明確なものとする必要があります。

以 上

(出典：中央青山監査法人通知)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 特になし。

(改善を要する点) 特になし。

(3) 基準 10 の自己評価の概要

資産状況については、学校の目的に沿った教育活動を安定的に遂行するために必要な財産額を確保しており、また、債務額については、保有している現金・預金で支払いが可能であり、長期・短期借入金もないことから、教育活動の遂行に支障はなく、適切である。

入学志願者数は定員の 2.0 倍、入学者数も定員以上を確保していることから、授業料・検定料・入学料とも安定的に収納しており、経常的収入については適正である。また、共同研究・受託研究にかかる外部資金の獲得についても積極的に取り組んでいることから増加傾向にあり適切である。

収支にかかる計画等については、財務面を含めた中期計画及び施設整備計画が策定されており、各々の計画が教職員に周知されており適切である。

支出に見合う収入として、授業料・検定料・入学料・外部資金・雑収入のほか、機構本部から運営費交付金が措置されており、また、支出超過にはなっておらず、収支状況については、安定した財務基盤が確保されている。なお、中期計画の期間中は毎事業年度毎に 1 % の業務の効率化が求められていることから、今後はより一層の業務の効率化・経費の節約削減に努め、1 % コスト削減の徹底を図る必要がある。

予算の配分については、中期計画を踏まえた配分方針及び配分案を策定のうえ総務委員会において審議・決定を行なう等、適切に配分・執行している。また、校長リーダーシップ経費の配分についても、中期計画を踏まえつつ、配分基準に基づき申請のあった各学科等のヒヤリングを実施のうえ、適切に配分・執行している。

当校の財務諸表等は、公式ウェブサイトにおいて適正に公表されている。

財務にかかる会計監査等については、平成 16 年度において会計監査人監査及び東海・北陸地区高専相互間会計監査を受検し、適切な会計指導を受けている。なお、今後は学内での内部監査をより一層充実する必要がある。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの自己評価

観点11-1-①：学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況) 校長は、学校の教育理念に基づく諸活動を掌握し、総合的判断に基づいて最高責任者として学校運営に当たる役割を担っている。

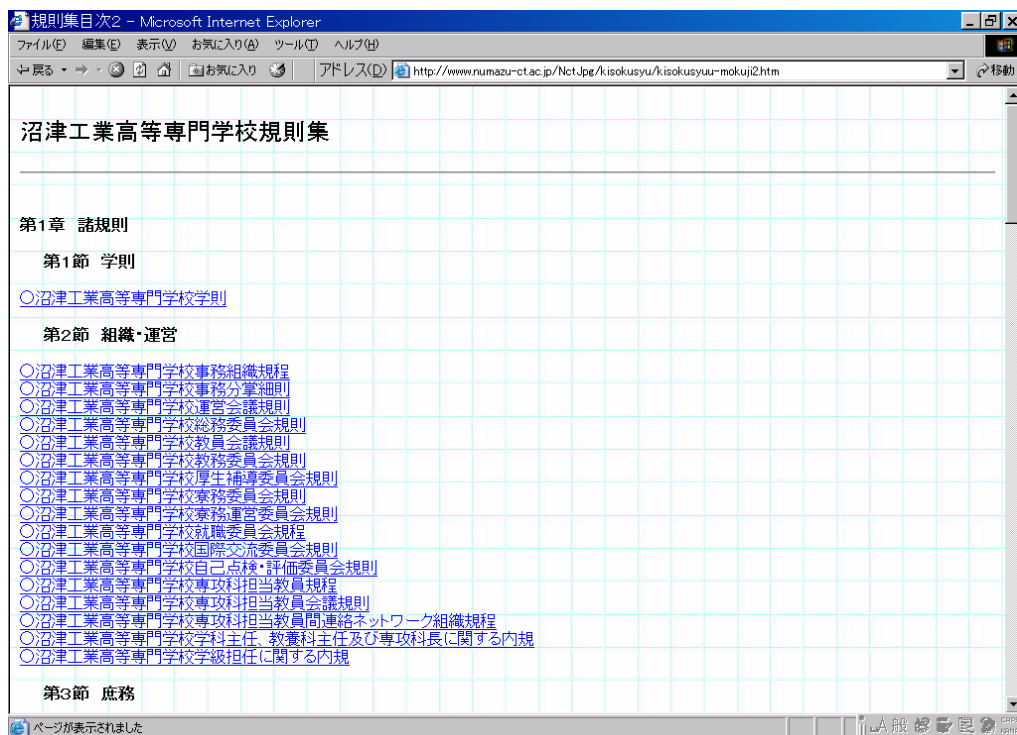
三主事の役割は、学則に明記されており(資料11-1-①-1)、各施設長や委員会の役割は、関連規程に明記されている(資料11-1-①-2)。

資料11-1-①-1：沼津工業高等専門学校学則(抜粋)

- 第9条 本校に副校長(教務主事)・校長補佐(学生主事)及び校長補佐(寮務主事)を置く。
- 2 副校長(教務主事)は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
- 3 校長補佐(学生主事)は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(校長補佐(寮務主事)の所掌に属するものを除く。)を掌理する。
- 4 校長補佐(寮務主事)は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(出典：本校規則集)

資料11-1-①-2：本校規則集目次(組織規則部分)



(出典：本校規則集)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/kisokusyu/kisokusyuu-mokuji.htm>

三主事、施設長、委員会は、学校の目的を達成するため、中期計画に基づいて担当分野の諸活動を実施する役割を担っており、校長への報告・相談を密にしながら、多様化する業務を分担して遂行している。また、合議による総合的な調整が必要な場合は、各部署から総務委員会に提案・報告され、審議・検討されている。

(分析結果と根拠理由) 相応である。校長以下、各部署の役割は明確化されており、それぞれ適任者が配置され、担当分野の諸課題について対応している。

観点11-1-②：管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況) 本校の管理運営において総合的事項を検討する委員会として総務委員会が設置され、各部署から必要事項を提案・報告し、大局的な観点から審議・検討されている(資料11-1-②-1)。

資料11-1-②-1：総務委員会議事要録(例)

第2回総務委員会議事要録

平成17年5月11日(水)

司会：校長

1 前回議事要録の確認 記録のとおり確認

2 議題等

◎ 議題

(1) 高専間教員交流制度について

校長から、高専間教員交流制度について説明があり、種々意見交換を行った。

なお、大型委託研究等調書(5月末日提出期限)を作成する必要があるため、制度の受け皿としての特色ある教育プログラムの実施、教材の開発及び大型の委託研究や共同研究等の有無について、事務部から照会を行うこととした。

◎ 報告事項

(1) 校長報告

なし

(2) 副校長(教務主事)報告

次の事項について、資料1に基づき報告があった。

① 学生現員報告

② 「高等専門学校における単位計算方法の見直し」に係る説明会の開催について

③ 第1回主事補会議報告

※山岸教養科長から9月10日(土)実施予定の学内英語スピーチコンテストについて説明があり、新たに実施経費が必要となることから何らかの手当を配慮願いたい旨の要望があった。

事務部長から、実施経費については、事務部において教育後援会予備費からの支出を含め検討したい旨の回答があった。

山岸教養科長から7月11日(月)実施予定の1、2年生統一英単語テストについて、説明があった。

(3) 校長補佐(学生主事)報告

次の事項について、資料2に基づき報告があった。

① 学生指導報告

② 業務報告

③ これからの業務

※学生事故について追加報告があった。

(4) 校長補佐(寮務主事)報告

次の事項について、資料3に基づき報告があった。

① 現員報告

② 行事等活動報告

③ 今後の予定

④ 生活指導報告

(出典：総務委員会議事要録)

また、校長・三主事・事務部長・事務部各課長による運営会議を設置し、定期的に意見交換を行っている(資料11-1-②-2)。

資料11-1-②-2：運営会議規則

○沼津工業高等専門学校運営会議規則(平成16.5.12制定)

(設置)

<p>第1条 沼津工業高等専門学校に、沼津工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。</p> <p>（任務）</p> <p>第2条 運営会議は、全校的視野に立った機動的な学校運営を推進するために必要な連絡調整を図ることを任務とする。</p> <p>（組織）</p> <p>第3条 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。</p> <p>（1） 校長</p> <p>（2） 副校長(教務主事)、校長補佐(学生主事)及び校長補佐(寮務主事)</p> <p>（3） 事務部長</p> <p>（4） 庶務課長、会計課長及び学生課長</p> <p>（議長）</p> <p>第4条 運営会議に議長を置き、校長をもって充てる。</p> <p>（会議の開催）</p> <p>第5条 運営会議は、原則として毎月2回開催する。ただし、議長が必要と認めるときは、臨時に開催することがある。</p> <p>（意見の聴取）</p> <p>第6条 議長が必要と認めるときは、第3条に規定する者以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。</p> <p>（事務）</p> <p>第7条 運営会議の事務は、庶務課において処理する。</p> <p>（雑則）</p> <p>第8条 この規則に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は、運営会議が別に定める。</p> <p style="text-align: right;">（出典：本校規則集）</p>

また、事務部でも、事務部長を筆頭に庶務課・会計課・学生課の三課を設置し、それぞれに役割を分担して学校運営を効果的に補佐する体制を整えている（資料11-1-②-3）。

<p>資料11-1-②-3：事務組織規程</p> <p>○沼津工業高等専門学校事務組織規程</p> <p>（昭和44.4.1制定）</p> <p>最終改正 平成13.4.1</p> <p>第1章 総則</p> <p>（趣旨）</p> <p>第1条 国立学校設置法施行規則に基づく沼津工業高等専門学校の事務組織及び所掌事務は、この規程の定めるところによる。</p> <p>（事務部、課）</p> <p>第2条 本校に事務部を置き、庶務課、会計課及び学生課を置く。</p> <p>（事務部長）</p> <p>第3条 事務部に事務部長を置く。</p> <p>2 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を総括する。</p>
--

(課長)

第4条 庶務課、会計課及び学生課にそれぞれ課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

(専門員)

第5条 学生課に専門員(学務担当)を置く。

2 専門員(学務担当)は上司の命を受け、学務に関する高度の専門的知識を必要とする事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。

3 専門員の分掌事務は、別に定める。

(専門職員)

第6条 庶務課に専門職員(企画調査担当)、専門職員(事務情報化担当)を、会計課に専門職員(総務・監査担当)を置く。

2 専門職員(企画調査担当)は上司の命を受け、企画調査に関する専門的知識を必要とする事務を処理する。

3 専門職員(事務情報化担当)は上司の命を受け、事務情報化に関する専門的知識を必要とする事務を処理する。

4 専門職員(総務・監査担当)は上司の命を受け、総務・監査に関する専門的知識を必要とする事務を処理する。

5 専門職員の分掌事務は、別に定める。

(係)

第7条 課に係を置き、係の名称及び分掌事務は 別に定める。

(係長)

第8条 係に係長を置き、事務職員又は技術職員をもってあてる。

第9条 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

第2章 課の所掌事務

(庶務課)

第10条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- (2) 機密に関すること。
- (3) 儀式その他の会議に関すること。
- (4) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
- (5) 内地及び外地研究員等に関すること。
- (6) 学術団体等との連絡に関すること。
- (7) 渉外に関すること。
- (8) 公文書類の接受、発送、編集及び保管に関すること。
- (9) 公印を管守すること。
- (10) 職員の任免、分限、懲戒及び服務等に関すること。
- (11) 職員の給与に関すること。
- (12) 職員の定員に関すること。
- (13) 職員の研修及び勤務評定に関すること。

- (14) 職員の健康管理，福祉及び災害補償に関すること。
 - (15) 退職者の共済組合の長期給付及び退職手当に関すること。
 - (16) 栄典，表彰に関すること。
 - (17) 人事記録に関すること。
 - (18) 公務員宿舎の居住者の選考に関すること。
 - (19) 図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関すること。
 - (20) 図書館資料の閲覧，貸出等利用に関すること。
 - (21) 図書館における参考奉仕（検索指導，読書相談等）に関すること。
 - (22) 教室系職員に関すること。
 - (23) 調査統計，その他諸報告に関すること。
 - (24) 校内警備取締に関すること。
 - (25) 企画調査に関すること。
 - (26) 事務情報化の推進に関すること。
 - (27) 事務用電子計算機に関すること。
 - (28) 校内LANに関すること。
 - (29) その他他の課の所掌に属しない事務を処理すること。
- (会計課)

第 1 1 条 会計課においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 予算及び決算に関すること。
 - (2) 債務の管理に関すること。
 - (3) 物品の管理に関すること。
 - (4) 会計の監査に助すること。
 - (5) 支出負担行為及び契約に関すること。
 - (6) 収入，支出及び計算証明に関すること。
 - (7) 歳入歳出外現金及び有価証券に関すること。
 - (8) 前渡資金に関すること。
 - (9) 所得税等の徴収に関すること。
 - (10) 国有財産の管理及び処分に関すること。
 - (11) 土地，建物の借入に関すること。
 - (12) 公務員宿舎に関すること。
 - (13) 科学研究費等の経理及び委任経理に関すること。
 - (14) 共済組合に関すること。
 - (15) 会計諸規程に関すること。
 - (16) 会計機関の公印の管守に関すること。
 - (17) 土地，建物及び工作物の整備復旧に関すること。
 - (18) 土地，建物及び工作物の維持保全に関すること。
 - (19) 学校環境の整備保全に関すること。
 - (20) その他会計経理及び営繕に関する事務を処理すること。
- (学生課)

第12条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関する事。
- (2) 学生の修学指導に関する事。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関する事。
- (4) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
- (5) 学生の学籍に関する事。
- (6) 学生の実習に関する事。
- (7) 学生の課外教育に関する事。
- (8) 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
- (9) 学生に対する奨学金、授業料の減免、猶予及び経済援助に関する事。
- (10) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (11) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (12) 学生に対する職業指導及び就職あっせんに関する事。
- (13) 学生旅客運賃割引証に関する事。
- (14) 学生寮の管理運営に関する事。
- (15) 学生の入退寮に関する事。
- (16) 寮生の指導監督に関する事。
- (17) 日本学校健康会の事務に関する事。
- (18) その他教務、学生補導及び寮務に関する事務を処理すること。

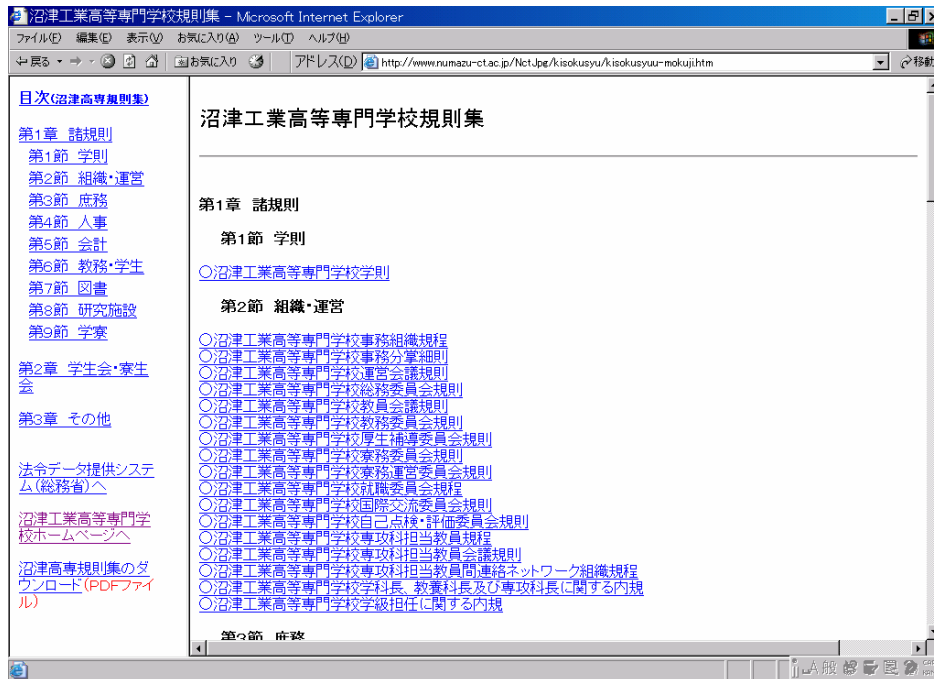
(出典：本校規則集)

(分析結果と根拠理由) 相応である。管理運営に関しては、校長の指揮により組織的に対応する体制が整えられている。

観点11-1-③：管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況) 管理運営の諸規定は、本校規則集として整備されている(資料11-1-③-1)。

資料11-1-③-1：本校規則集目次



(出典：本校規則集)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/kisokusyuu-mokuji.htm>

(分析結果と根拠理由) 相応である。諸規則は必要事項を網羅する形で整備されており、時代に合わせ不断に見直しを加えている。

観点11-2-①：外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況) 保護者で組織される教育後援会や卒業生で組織される同窓会と定期的に会合を持ち、学校に対する意見を聴取している(資料11-2-①-1)。

資料11-2-①-1：教育後援会総会議事次第

平成17年度 教育後援会 総 会

日 時 平成17年 5月14日(土) 13時30分から
場 所 沼津工業高等専門学校 第2体育館
会 次 第 (司会：山下事務局長)

1. 開会のことば……………(山下事務局長)
2. 会長あいさつ……………(加藤会長)
3. 校長あいさつ……………(校 長)
4. 会 務 報 告……………(山下事務局長)
5. 校務報告等……………(濱屋副校長・野澤校長補佐
大久保校長補佐・谷教員)
6. 議 題……………(議長：加藤会長)
 - (1) 平成16年度決算について……………(山下事務局長)
 - (2) 平成16年度会計監査報告について…(峰山監査理事)
 - (3) 役員の改選について……………(加藤会長)

(休 憩 5 分)

※平成17年度会長就任あいさつ……………(山下会長)

 - (4) 平成17年度行事予定について……………(長澤事務局長)
 - (5) 平成17年度予算案について……………(長澤事務局長)
 - (6) その他
7. 閉会のことば……………(長澤事務局長)

(出典：平成17年度沼津工業高等専門学校教育後援会総会配布資料)

また、同窓会員に対して本校で受けた教育についてのアンケート調査を実施し、意見を聴取している(前出資料6-1-⑤-1及び2)。さらに、地域連携の観点から、地方自治体や産業団体が主催する各種会議に積極的に出席し、意見交換を行っている(資料11-2-①-2)。

資料11-2-①-2：校長が参加する主な地域会議等

- ・ 静岡県東部生産性協議会
 - ・ 東部地区産業技術振興協会
 - ・ 東海工学教育協会
 - ・ 沼津地域産業振興協議会
 - ・ 大学ネットワーク静岡
- (出典：教職員兼業一覧など)

また、民間企業の勤務経験が長く技術士・中小企業診断士の資格を持つ有識者に非常勤の産学官連携コーディネーターを委嘱し、学外との連携に関する各種企画の立案に意見をj得ている(資料11-2-①-3)。

資料11-2-①-3：産学官連携コーディネーターからの提案例

平成16年度第9回地域共同テクノセンター運営委員会議事要録（抜粋）

- I 日時：平成17年2月3日（木）16：40～18：00
- II 場所：管理棟2階小会議室
- III 出席者：柳下，蓮實，村松，高野，澤，藤尾，押川，鈴木(克)，事務部長
（列席者）産学官連携コーディネーター，庶務課長，会計課長，専門職員（企画調査担当）
- IV 前回議事要録の確認 事前に委員へ送付された資料のとおり確認された。
- V 議事

1. 出前科学技術相談について

産学官連携コーディネーターから，資料に基づき説明があり，原案のとおり承認された。

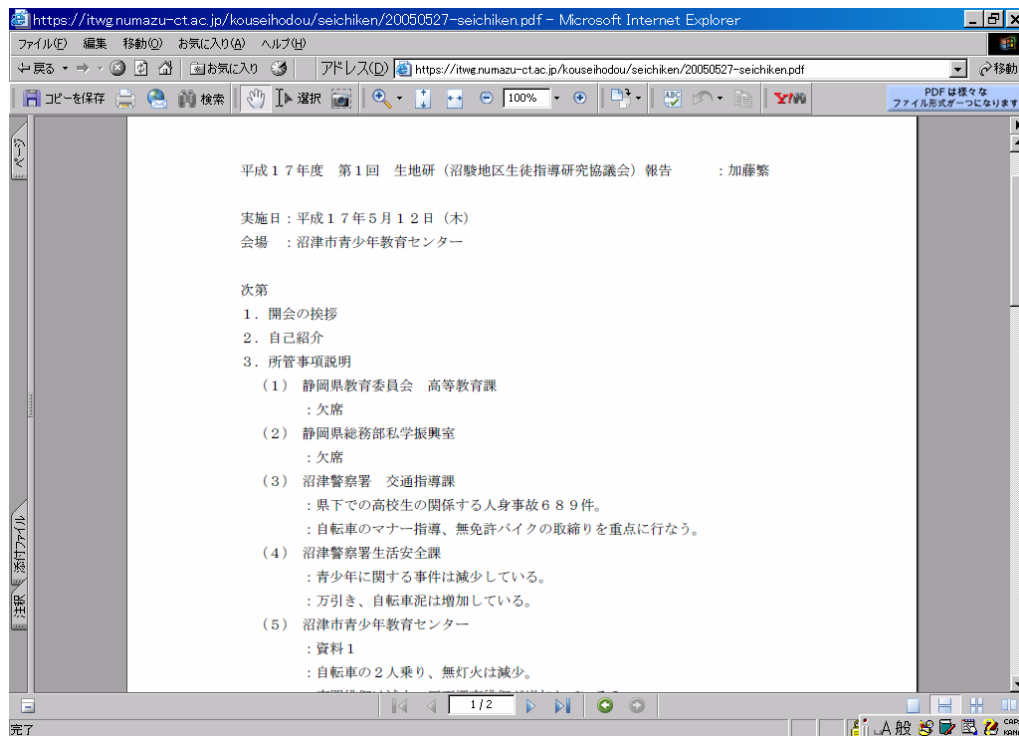
なお，資料中3①の訪問については，産学官連携コーディネーターが日程調整し，本委員会委員のうち，都合の付く教員1名と産学官連携コーディネーター（及び必要があれば事務部職員）が訪問することとした。

（以下略）

（出典：地域共同テクノセンター運営委員会議事要録）

これらの機会を通じて外部から得られた意見は，必要に応じてウェブサイト掲載等による周知や関係委員会等における報告が行われており，学校の諸活動の改善に役立てている（資料11-2-①-4及び5）。

資料11-2-①-4：ウェブサイトにおける報告例



（出典：学内情報化ワーキンググループウェブサイト）

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kouseihodou/seichiken/20050527-seichiken.pdf>

資料11-2-①-5：委員会における報告例

平成16年度第6回地域共同テクノセンター運営委員会議事要録（抜粋）

- I 日時：平成16年10月27日（水）16：30～17：20
- II 場所：管理棟2階小会議室
- III 出席者：柳下，蓮實，村松，高野，澤，藤尾，押川，鈴木（克），事務部長
（列席者）庶務課長，会計課長，総務係長，専門職員（企画調査担当）

IV 前回議事要録の確認 事前に委員へ送付された資料のとおり確認された。

V 議事

1～2 （略）

3. その他

次の事項について，報告及び意見交換が行われた。

- 産学連携関係イベント等への出席報告について

出席者から，テクノサロン富士，静岡県中小企業家同友会創立30周年記念集会等への出席報告があった。

- 今後の産学連携関係イベント等について

委員長及び蓮實委員から，テクノサロン静岡 2004（10月28日開催），静岡産学官連携セミナー（11月5日開催），静岡TLO産学交流セミナー（11月24日開催），第1回富士商工会議所ビジネスフェア（11月27日開催）にそれぞれ本校教職員が参加する予定である旨の報告があった。

（以下略）

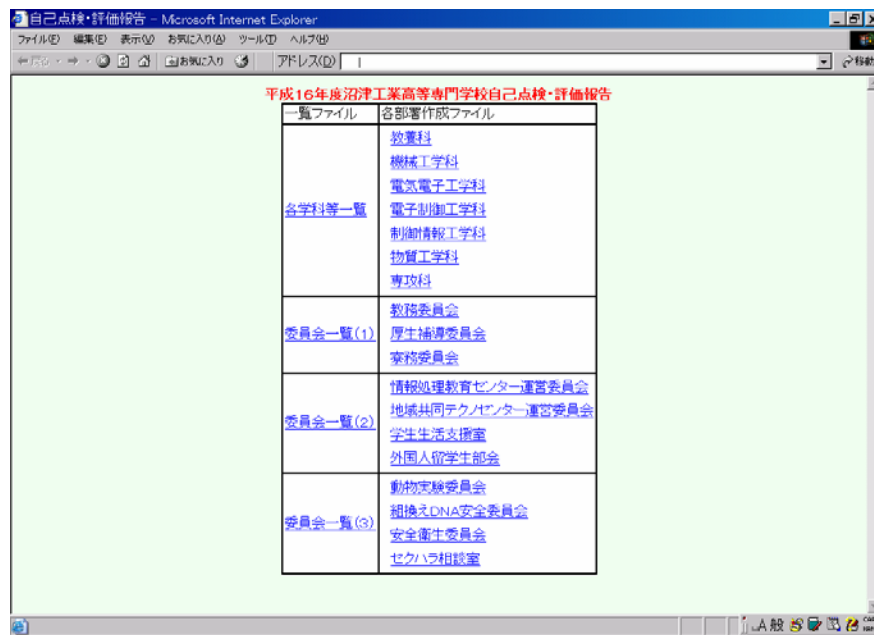
（出典：地域共同テクノセンター運営委員会議事要録）

（分析結果と根拠理由）相応であるが，一部に改善の余地がある。外部有識者の意見はさまざまな機会を通じて聴取され，教職員に周知されているが，まとまった形での意見聴取は行われていないため，速やかに外部評価委員会の開催について検討を開始する。

観点11-3-①：自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）本校には，自己点検・評価委員会が設置されており，定期的の方針を定めた上で自己点検・評価を行っている。その結果は，本校公式ウェブサイトに掲載され，広く公表されている（資料11-3-①-1）。

資料11-1-③-1：平成16年度沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告



(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/other/zikotenken/index.html

また、平成16年度にJABEE審査を受審し、準学士課程4・5年生及び専攻科課程の教育プログラムについて総合的な評価を受け、認定基準に適合しているとの認定を受け、公表されている(資料11-3-①-2)。

資料11-1-③-2：JABEE認定書



(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/images/DSCN0955.JPG>

(分析結果と根拠理由) 相応である。自己点検・評価や第三者評価は定期的に行われ、その結果は、ウェブサイト等を通じて広く公表されている。

観点11-3-②：評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況) 評価結果は、全教職員に周知されており、明らかになった課題については、自己点検・評価委員会において委員長から各部署に対し対策の検討と報告を要請している(資料11-3-②-1)。

資料11-3-②-1：平成16年度自己点検・評価フォーマットの作成要領

平成16年度自己点検・評価フォーマットの作成要領

平成17年3月

1. 添付ファイル「H16 自己点検フォーマット」の「自己点検結果欄」に、「基準(観点)」欄の各項目に対応する各学科等・委員会等の実績及び自己評価を簡潔な文章で記入し、「自己評価」欄に評価結果を評語にて記入する。

なお、評語の基準は、次のとおりとする。

- A 特に優れている
- B 優れている
- C 相応である
- D 一部問題がある
- E 問題がある

2. 各学科等・委員会等の性質上、実績等が記載不可能である項目については、自己点検結果欄及び自己評価欄に斜線を引く。

3. 資料が必要な場合は、番号を付し、別紙として添付する。

4. 各項目の自己点検・評価に当たっては、PDCA(Plan-Do-Check-Action)の観点から、前回(平成13年度)の自己点検・評価報告書の内容を踏まえ、そこで明らかになった問題点への対応状況に留意する。

5. 実績は具体的かつ明示的(誰が見てもわかるように)記載する。

6. 実績の再掲は可能である(ある評価項目で挙げた実績を、また別の評価項目で記載することができる)。

(出典：平成16年度第1回自己点検・評価委員会配布資料)

(分析結果と根拠理由) 相応である。評価結果のフィードバックは、総務委員会や自己点検・評価委員会において報告されているほか、ウェブサイトやメール等を通じて全教職員に行われている。また、前回の自己点検・評価報告の結果とその対応状況を踏まえて次回の自己点検・評価を行うことが要請されており、改善のためのシステムも整備・運営されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 特になし。

(改善を要する点) 外部有識者の意見を学校運営の改善に結び付けるようなシステムが完全に整備できていない点は、評価の有効性を担保する観点から、改善を要する。

(3) 基準11の自己評価の概要

校長は、学校の諸活動を掌握し、最高責任者として学校運営に当たっている。三 主事、施設長、委員会は、学校の目的を達成するため、中期計画に基づいて、多様化する業務を分担して遂行している。また、本校の管理運営において総合的事項を検討する委員会として総務委員会が設置され、各部署から必要事項を提案・報告し、大局的な観点から審議・検討されている。さらに、校長・三主事・事務部長・事務部各課長による運営会議を設置し、定期的に意見交換を行っている。また、事務部でも、事務部長を筆頭に三課を設置し、それぞれ役割を分担して学校運営を効果的に補佐する体制を整えている。管理運営に関しては、校長の指揮により組織的に対応する体制が整えられており、相応である。

保護者で組織される教育後援会や同窓会と定期的に会合を持ち、学校に対する意見を聴取している。また、同窓会員に対してアンケート調査を実施し、意見を聴取している。さらに、地域連携の観点から、地方自治体等が主催する各種会議に積極的に出席し、意見交換を行っている。また、外部有識者に非常勤の産学官連携コーディネーターを委嘱し、学外との連携に関する各種企画の立案に意見をj得ている。外部から得られた意見は、必要に応じてウェブサイト掲載等による周知や関係委員会等における報告が行われており、学校の諸活動の改善に役立てている。外部有識者の意見はさまざまな機会を通じて聴取され、教職員に周知されており、全体として相応であるが、まとまった形での意見聴取は行われていないため、速やかに外部評価委員会の開催について検討を開始する。

本校は、自己点検・評価委員会による自己点検・評価を行っており、結果は本校公式ウェブサイトにて公表されている。また、平成16年度にJABEE審査を受審し、準学士課程4・5年生及び専攻科課程の教育プログラムについて総合的な評価を受け、基準に適合していると認定された。自己点検・評価や第三者評価は適切に行われ、結果も公表されており、相応である。評価結果は、全教職員に周知されており、評価結果のフィードバックは行われている。また、前回の自己点検・評価報告の結果とその対応状況を踏まえて次回の自己点検・評価を行うことが要請されており、改善のためのシステムも整備・運営されている。

選択的評価基準 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点1-①：研究の目的に照らして、研究体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 高等専門学校では、「高等専門学校設置基準」及び「独立行政法人国立高等専門学校機構法」において、「その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行なわれるように努める」ことと、「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行う」ことと規定されている(資料研1-①-1)。これに基づき、本校では、教員研究、準学士課程5年生の卒業研究、及び専攻科課程の専攻科研究を実施し、教育面で、教員が常に先進専門分野での研究に従事することにより得られる知識や技術を講義や研究指導に活かすだけでなく、社会面でも、地域産業等との連携を通して工学技術の発展に寄与することを目指している。個々の教員は、これらの研究を実施するため、各研究室の施設整備を進めるとともに(資料研1-①-2)、各自の専門研究分野と授業や卒業研究・専攻科研究指導とをリンクさせることにより(資料研1-①-3)、教育活動と研究活動の相乗効果を図れるよう配慮している。また、本校における卒業研究と専攻科研究の目的としては、他の教科目の内容を総合して学習・教育目標の達成を目指すことで(資料研1-①-4)、準学士課程の教育目的である職業に必要な能力の育成や専攻科課程の教育目的である創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者の育成を実現することにある。さらに、専攻科研究では、産業社会との学術的な協力も目指すべきである(資料研1-①-5)。そこで、専攻科研究の発表会は学外にも公開としており、産業界との連携の機会を広げている(資料研1-①-6)。こうした目的を支援するため、本校は、地域企業等と教員・学生が協力して行う研究活動の中心的施設として地域共同テクノセンター棟を有し、同棟を中心に充実した施設整備が行われている(資料研1-①-7)。また、学内外の研究活動に関する諸課題を総合的に検討するための組織として、地域共同テクノセンター長を委員長とする地域共同テクノセンター運営委員会が設置されている(資料研1-①-8)。地域共同テクノセンターは、年に一度の産学官交流会及び学内施設見学会の開催(資料研1-①-9)やニュースレターの刊行(資料研1-①-10)を行うだけでなく、産業界のニーズである技術相談を無料で受け付けることで、共同研究・受託研究への発展のきっかけともなっている(資料研1-①-11)。さらに、非常勤職員として産学官連携コーディネーターを採用し、本校教員のニーズと地元企業のニーズのマッチングを図っている(資料研1-①-12)。その他、学生研究及び教員研究をより推進するため、科学研究費補助金を含む外部研究費応募情報の、庶務課庶務係による全教員への紹介メールの送付や説明会の実施(資料研1-①-13)、教育後援会による教員・学生の学会発表のための旅費援助(資料研1-①-14)、海外先進教育研究実践プログラムによる教員の海外派遣制度の積極的利用(資料研1-①-15)、校長が静岡県東部生産性協議会等に役員として参加し、地域産業との交流を深めること(資料研1-①-16)などが行われている。

資料研1-①-1：高等専門学校における研究の位置づけ

「高等専門学校設置基準」

(昭和三十六年八月三十日文部省令第二十三号)

第一章 総則

(教育水準の維持向上)

第二条 高等専門学校は、その組織編制、施設、設備等がこの省令で定める設置基準より低下した状態にならないようにすることはもとより、常にその充実を図り、もって教育水準の維持向上に努めなければならない。

2 前項の場合において、高等専門学校は、その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行なわれるように努めるものとする。

(情報の積極的な提供)

第三条 高等専門学校は、当該高等専門学校における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によつて、積極的に情報を提供するものとする。

「独立行政法人国立高等専門学校機構法」

(平成十五年七月十六日法律第百十三号)

第三章 業務等

(業務の範囲等)

第十二条 機構は、第三条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 一 国立高等専門学校を設置し、これを運営すること。
 - 二 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談、寄宿舍における生活指導その他の援助を行うこと。
 - 三 機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
 - 四 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
 - 五 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
- 2 前項第一号の国立高等専門学校の位置は、それぞれ別表の下欄に掲げるとおりとする。
- 3 国立高等専門学校の授業料その他の費用に関し必要な事項は、文部科学省令で定める。

(出典：高等専門学校設置基準及び独立行政法人国立高等専門学校機構法)

資料研 1 - ① - 2 : 各学科の所有する設備

その他の校内設備

電気電子・物性関連

メカトロラボ 2PC(各種回転機の特性比較・組み立て等), パワトロラボ(各種電力用半導体素子の特性測定と応用), 波形デジタイザ(μs オーダの波形メモリー), アナライジングレコーダ(高調波分析機能あり), デジタルパワーメータ(3相), RF マグネトロンスパッタリング装置(200W), DC マグネトロンスパッタリング装置(200W), 真空蒸着装置, X線回折装置(粉末), 分光光度計(可視, 近赤外 180~2500nm), 回路基盤 CAM, 構造物振動解析装置, マルチチャンネルデータステーション, マルチパーパス FFT アナライザ, アコースティックエミッション(AE)計測装置, PIC, CPLD 開発キット一式,

DSP 開発ツールキット, 小型風洞

機械・材料・加工関連

電子顕微鏡付き疲労試験機(2kN), 超高サイクル疲労試験機(5kN), 疲労試験機(98kN), 精密万能試験機(98kN), 万能試験機(490kN), CNC平面研削盤, NC立フライス盤, 超音波ねじり振動切削装置(施削用, 穴加工用), 卓上簡易計測・加工装置(RolandDG MDX-15), 液体ホーニング装置, ブラストドレッシング装置, 油圧源ユニット(最大圧力20MPa, 最大流量90L/min), 水圧源ユニット(最大圧力14MPa, 最大流量30L/min), タービン流量計, 歯車型流量計, 騒音計測システム, 大判プリンタ(B0サイズ対応)

物質工学関連

蛍光X線分析装置, 原子吸光光度計, イオンクロマトグラフ, X線回折装置, フーリエ変換核磁気共鳴装置(FT-NMR), DNAシーケンサー, プロテインシーケンサー, 可視紫外分光光度計, フーリエ変換赤外分光装置(FT-IR), 蛍光分光光度計, ガスクロマトグラフ(GC), 高速液体クロマトグラフ(HPLC)

(出典: 本校地域共同テクノセンターウェブサイト)

<http://techno.numazu-ct.ac.jp/gaiyou.html>

資料研1-①-3：教員の研究分野と講義や卒業研究・専攻科研究の関連性

「教員の専門分野と担当教科」

国立沼津高等 地域共同テクノセンター ■施設の概要 ■共同研究 ■受託研究 ■技術相談 ■寄附 ■講習会・セミナー等 ■書式ダウンロード ■ご利用上の規則 ■産学連携のための 諸制度 ■トップページへ戻る ■沼津高専公式HPへ	〔機械工学科〕			
	氏名	職名	専門分野	担当教科
	柳田武彦	教授	伝熱工学	熱力学、伝熱工学 (専)応用伝熱学
	黒下清志	教授	流体工学	水力学、油空圧工学 (専)流体力学
	大賀喬一	教授	塑性加工学	機械工作法、塑性力学 (専)塑性加工学
	岩谷隆史	教授	材料力学	弾性力学、材料力学 (専)材料強度学
	西田友久	教授	材料力学	材料力学 トライボロジー (専)表面工学
	小林隆志	助教授	計算力学	数値解析 機械工作法 (専)有限要素解析
	井上聡	助教授	合金設計	金属材料学 機械設計製図 (専)特殊材料
	村松久巳	助教授	流体工学	情報工学、振動工学 (専)音響工学
	宮内太積	助教授	機械力学	工業力学 機械設計製図
	三谷祐一朗	助教授	制御工学	機械設計製図 自動制御
	新富雅仁	助手	伝熱工学	機械設計製図 プログラム演習
	永禮哲生	助手	機械工作学	計測工学 機械設計製図
	〔電気電子工学科〕			
氏名	職名	専門分野	担当教科	
濱屋進	教授	マイクロ波工学	マイクロ波工学 情報工学、情報工学 (専)応用電気電子工学	
			相談分野	
			各種機器の冷却、熱交換、冷凍・空調	
			空気圧機器及び空気圧システムの特徴	
			塑性加工関連 (特)冷間鍛造、塑性加工用潤滑剤、回轉塑性加工	
			材料試験(引張最大荷重50t、ねじり、衝撃) 疲労試験(引張圧縮、回転曲げ、平面曲げ)	
			静的強度・疲労強度 摩耗特性(特にフレッティング) 竹炭の特性	
			接手の強度特性(ボルト及び接着) 構造解析、有限要素解析	
			耐熱合金、合金設計	
			空気圧工学、流体力学、空力騒音	
			CCDカメラを使用したの白黒画像の計測	
			制御工学、振動工学、電子工学	
			燃焼合成	
			金属切削、特殊加工	

(以下略)

「平成16年度卒業研究・専攻科研究のテーマ」

平成16年度 専攻科特別研究・本科卒業研究発表題目一覧
沼津工業高等専門学校

◇機械工学科(専攻科：機械・電気システム工学専攻の機械コースを含む)

指導教員	研究題目	学生氏名	
専攻科2年	柳田武彦	摺動面間の接触熱抵抗	朝河彰詳
	大賀喬一	内歯外歯共有平歯車製品における効果的な型設計の提案	大塚敬太
	西田友久	アルミニウム合金のフレッティング疲労特性に及ぼすパレルおよび液体ホーニング処理の影響	大庭史敬
	黒下清志	充填法による大気放出空気圧機器の流量特性の測定	黒下幸信
	小林隆志	管フランジの応力および変形解析ソフトウェアの開発	浜野光太
本科	柳田武彦	摺動面間の接触熱抵抗(1) 一表面を熱源が移動する二次元物体の非定常熱解析	遠藤真帆・鈴木大貴
	柳田武彦	摺動面間の接触熱抵抗(2) 一表面を熱源が移動する二次元物体の非定常熱解析	佐藤憲司・深澤篤彦
	岩谷隆史	アルミニウム合金(A6061P-T6)の平面曲げ荷重下における疲労強度特性と破断面観察	佐藤義之・中田卓弥
	岩谷隆史	ニッケルクロムモリブデン鋼(SNCM439)の回転曲げ荷重下における疲労強度特性と破断面観察	佐藤大輔・玉木淳悟
	永禮哲生	FEMを使用したモード解析プログラムの作成	浅井悠平・朝比奈 宙
	永禮哲生	振動抑制工具ホルダー開発のこころみ	岩田敏明・大川和彦
	宮内太積	振動波面の画像解析	坂本大介・藤森一朗
	宮内太積	水中での液状化の発生機構	杉野喜彦・廣瀬 豊
	村松久巳	十字交差2円柱の交差近傍における流れの可視化	清水拓也・木下祐輔
	村松久巳	高性能空気圧用消音器の開発	足立将彬・小野浩一
5 西田友久	アルミニウム合金(A2024-T4)の真空中における疲労特性	勝俣悠樹・浜崎周太	

(以下略)

(出典：本校地域共同テクノセンターウェブサイト及び平成16年度卒業式・修了式配布資料)

<http://techno.numazu-ct.ac.jp/staff.htm>

資料研 1－①－4：卒業研究及び専攻科研究の目的

3.2 教育方法

(中略)

(2) 授業計画書(シラバス)の作成・開示とそれに従った教育の実施

(i) シラバスの作成

(中略)

プログラム前半部のシラバスは、専攻科シラバスと同様の様式を取っている。例えば、本プログラムの最も主要な教科目である専攻科研究と第5学年卒業研究の各々は、以下に示す一貫した方針により指導・支援が実施されている[3.2 (2)]。

- (1) 学習・教育目標のすべてを実現するよう計画されていること。
- (2) 学習・教育目標の各々が実現されたかどうかについての評価方法と基準が具体的に示されていること。
- (3) 成績評価は複数の教員、有意の技術者の参加を得て行われること。
- (4) 成績評価に学習教育目標の実現が反映されていること。

(出典：平成16年度「総合システム工学」自己点検書 p.40)

資料研 1－①－5：準学士課程及び専攻科課程の教育目的

(準学士課程)

学則 第1章 本校の目的

第1条 本校は、教育基本法の本質にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(専攻科課程)

学則 第9章 専攻科

第45条 専攻科は、高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

(出典：平成17年度学生便覧 p.5)

資料研1-①-6：2004年度専攻科研究発表会

**沼津工業高等専門学校専攻科
2004年度研究発表会 第2部(2年次の部)**

日 時 : 2005年1月22日(土)9時30分～
場 所 : 棟建第2教室(図書館一階)
発表者 : 専攻科2年次
発表時間 : 学生1名について8分 質疑応答3分
(7分経過後に1秒、発表終了後2秒、質疑応答終了後3秒)

プログラム

演題番号	テーマ名	学生指導教官	座長
開会の挨拶 専攻科長 森井宣治 (9:30～9:34)			
研究発表 セッションⅠ -機械・電気システム工学専攻(機械システムコース)- (9:35～10:35)			
I-1	指動面間の接触熱伝達	飯河 彰彦, 柳田 武彦	宮内 太穂
I-2	内歯外歯共有平歯車製品における効果的な型設計の提案	大塚 敬次, 大賀 高一	
I-3	アルミニウム合金のフレッティング疲労特性に及ぼすバレルおよび潤滑剤ホーニング処理の影響	大庭 史敏, 西田友久	
I-4	充電池による大気放出空気圧機器の流量特性の測定	黒下 幸信, 黒下 清志	
I-5	管フランジの応力および変形解析ソフトウェアの開発	浜野 光太, 小林 陸志	
休憩 (10:35～10:45)			
研究発表 セッションⅡ -機械・電気システム工学専攻(電気電子システムコース)- (10:45～11:00)			
II-1	アンテナ給電におけるフェライトビーズを用いたインピーダンス変換器	戸田 佳英, 嶋 直樹	長谷 賢治
研究発表 セッションⅢ -制御・情報システム工学専攻(制御情報システムコース)- (11:00～11:25)			
III-1	自動往復動水圧アクチュエータの開発	香川 忠士, 大島 茂	長谷 賢治
III-2	サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発	渡邊 将人, 藤尾 三紀夫	
研究発表 セッションⅣ -制御・情報システム工学専攻(電子制御システムコース)- (11:25～12:00)			
IV-1	自律分散移動ロボットの協調行動の研究(サッカーロボットの構築)	徳松 亨介, 澤 洋一郎	牛丸 真司
IV-2	自律分散移動ロボットの協調行動の研究(サッカーロボットの行動計画部の検討)	川口 守孝, 澤 洋一郎	
IV-3	ウェブレット解析を用いた音声認識手法の検討	鈴木 達哉, 藤 篤彦	
昼食・休憩 (12:00～13:00)			
研究発表 セッションⅤ -制御・情報システム工学専攻(電子制御システムコース)- (13:00～13:45)			

(以下略)

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/senkouka/program0402.html>

資料研1-①-7：地域共同テクノセンターの施設の概要

**国立沼津高専
地域共同テクノセンター**

- 施設の概要
- 共同研究
- 受託研究
- 技術相談
- 寄附
- 講習会・セミナー等
- 書式ダウンロード
- ご利用上の規則
- 産学連携のための
諸制度
- トップページへ戻る
- 沼津高専公式HPへ

**国立沼津工業高等専門学校
地域共同テクノセンター**

Numazu National College of Technology / Cooperative Research and Development Center



企業等のみなさんの技術開発・製品開発を支援します。

- ◆ 本センターは、地域企業等と沼津高専との共同研究、受託研究等に関する実験・試験・解析等を具体的に進める場として活用されます。
- ◆ 卒業研究、専攻科研究の学生が研究のスタッフとして参加することにより、総合技術開発能力のある学生の育成に貢献します。
- ◆ 地域企業等の科学技術相談に業時対応するとともに、講習会、セミナー、社会人のリフ

施設の概要

地域共同テクノセンター棟

1階 新加工技術研究室

◇主な設備

1. 超音波振動切削加工装置

(難削金属, CFRP・GFRP等の複合材料の経済的高精度加工技術の開発)

- ・立形マシニングセンター (株)「牧野フライス製作所製 V33
- ・超音波振動切削装置 エンドミル仕様 富士工業(株)製
周波数27kHz, 出力300Wの超音波ねじり振動

2. 表面形状測定顕微鏡 (株)キーエンス VK8500

(顕微鏡をのぞく感覚で, nmレベルの世界をカラーで観察できる)

最小測定分解能: 0.01 μ m, 測定範囲: 70 \times 70 \times 28mm

測定対象物: 金属, 樹脂, セラミックス, ガラス, カラートナー

食品・微生物, 病理組織, 高分子材料, 薄膜

アプリケーション: プロファイル計測, 粗さ計測, 面粗さ計測,

表面積・体積計測, 各種平面計測

2階 環境工学研究室

◇主な設備

- ・ガスクロマトグラフ質量分析装置(GC/MS)

(低分子量の有機分子の高感度な検出, および構造解析)

環境分析, 食品分析, 薬剤の分析, 石油化学製品の分析に有効

- ・レーザーイオン化飛行時間型質量分析装置(TOF/MS)

(タンパク質を含む高分子量有機化合物の構造解析)

微量な試料で高分解能の質量分析が可能

- ・その他 物質工学科 設置分析機器

クロマトグラフ(GC, LC, イオン), NMR, FT-IR,

蛍光分光光度計, 紫外可視分光光度計

DNA シークエンサー, プロテインシークエンサー

3階 メカトロCAD/CAM・電子応用研究室

◇主な設備

- ・ロボット開発用リアルタイム制御装置

(メカトロ製品の試作段階における制御系の研究開発の短縮化をはかる)

精密モデルシミュレータ(MATLAB, Simulink 他)

開発用リアルタイム制御装置

制御系開発およびモニタ(Real Time Work Shop 他)

リアルタイム制御システム(DSP 開発システム)

- ・高度生産技術開発用CAD/CAM装置

(3次元立体の測定から加工まで生産技術開発と生産性の向上をはかる)

CADソフト(SolidWorks2003)

CAMソフト(MasterCAM 9.1 MillLevel3)

3軸, 5軸ミーリング, 3軸NCシミュレーション, 旋盤, 放電加工用

非接触3次元測定器(MINOLTA Vivid910)

3次元立体のレーザ測定とモデル化, 検証

(出典: 本校地域共同テクノセンターウェブサイト)

<http://techno.numazu-ct.ac.jp/gaiyou.html>

資料研1-①-8: 地域共同テクノセンター規則

沼津工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

(平成15年3月12日制定)

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、総合技術開発能力のある学生の育成並びに地域産業界等との共同研究の推進及び地域産業の振興に寄与するとともに、本校における教育研究の充実発展に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 総合技術開発能力のある学生の育成に関すること。
- (2) 学科間の横断的な研究協力及びその支援に関すること。
- (3) 地域産業界等との共同研究及び受託研究の推進に関すること。
- (4) 地域産業界等に対する技術相談、講習会、セミナー等に関すること。
- (5) 社会人を対象としたリフレッシュ教育に関すること。
- (6) 小中高生を対象とした体験教育に関すること。
- (7) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(組織)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 各学科及び教養科から選出される教員(以下「センター員」という。) 各1人
- (4) その他必要な職員

2 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。

3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。

4 副センター長は、本校の教授又は助教授の中から校長が任命する。

5 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。

6 センター員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。

7 センター長、副センター長及びセンター員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第5条 センターの円滑な運営を図るため、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事。
- (2) センターの利用に関する事。
- (3) センターの将来計画に関する事。
- (4) その他センター長が必要と認める事項

3 委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター員
- (4) 事務部長
- (5) その他校長が指名する者 若干人

4 前項第5号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

6 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

7 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 センターに関する事務は、庶務課において処理する。

(細目)

第7条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な細目は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成15年3月12日から施行する。

2 沼津工業高等専門学校科学技術相談室運営委員会規則（平成3年10月16日制定）は、廃止する。

(出典：本校地域共同テクノセンターウェブサイト)

<http://techno.numazu-ct.ac.jp/center-kisoku.htm>

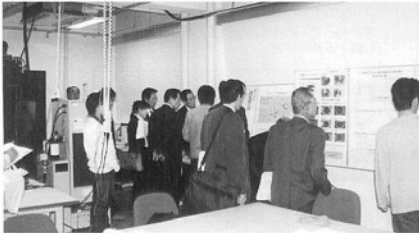

資料研1-①-9：産学官交流会及び学内施設見学会

産学官交流会及び学内施設見学会の開催について(案内)			
I. 日 時	平成16年12月3日(金)13:00~17:15		
II. 場 所	沼津工業高等専門学校 図書館 視聴覚教室		
III. 日 程	<p>【受付】(図書階ロビー) 12:30~ 受付(資料及び名札の配付)</p> <p>【説明】(視聴覚教室) 13:00 開会の挨拶 13:01 校長挨拶 13:04 日程説明 13:06 地域共同テクノセンターの概要について</p> <p>【講演】(視聴覚教室) 13:15~13:45 「産学官連携の意義とコーディネーターの役割について」 講師:沼津工業高等専門学校産学官連携コーディネーター 山本治利 氏 13:45~14:00 「竹筒は地球を救う！」 機械工学科 西田友久教授 14:00~14:15 「電子回路研究室の産学交流への取組」 電気電子工学科 望月孔二助教授 14:15~14:30 「温度成層流体の実験的研究」 電子制御工学科 大庭勝久助手 14:30~14:45 「フロン付き導液管からの電磁波放射とその応用」 制御情報工学科 芹澤弘秀助教授 14:45~15:00 「バイオマスを素材とする機能性材料開発」 物質工学科 押川達夫教授 15:00~15:10 質疑応答</p> <p>【見学】(各実験室) 15:15~17:00 見 学(学科別コース・個別コースに分けて実施する)</p>		
	<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">学系別見学会コース</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">個別コース</td> </tr> </table>	学系別見学会コース	個別コース
学系別見学会コース	個別コース		

(以下略)

平成16年度 沼津高専産学官交流会レポート

今年度の産学官交流会及び学内施設見学会は、県東部地域を中心とする約50の企業団体から70余名の参加を頂き、12月3日(金)に開催されました。テクノセンター完成後初めての交流会であり、これを機に積極的な産学交流を図るべく、見学会を新たな方式で企画しました。第1部の全体講演では、今年11月から産学官連携コーディネータとして本校に着任された山本治利氏の共同研究に関する具体的な講演が行われ、ついで、西田友久教授(機械工学科)、望月孔二助教授(電気電子工学科)、大庭勝久助手(電子制御工学科)、芹澤弘秀助教授(制御情報工学科)、押川達夫助教授(物質工学科)から現在取り組んでいる研究内容の紹介が行われました。第2部の施設見学会は、今年は参加者が興味のある研究室を長時間見学できる形式に改めて実施されました。最後にテクノセンターの施設案内が行われ、日程を終了しました。今後、益々充実した内容の交流会を企画致しますので、多くの皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

(出典：本校公式ウェブサイト及び地域共同テクノセンターニュース)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/Sangakukan/an-nai.htm>

資料研1-①-10：地域共同テクノセンターニュース

テクノセンターニュース 2005.3.10 創刊号

国立沼津高専の産学連携

創刊号 地域共同テクノセンターニュース

発行/沼津高専地域共同テクノセンター



**科学技術と企業のある
ところにあまねく**

国立沼津工業高等専門学校長

久賀重雄

**ニュースレター創刊に
あたって**

国立沼津工業高等専門学校
地域共同テクノセンター長



柳下福蔵

科学技術は、日本の発展を支え、希望ある未来を切り拓く原動力です。「知」の世紀といわれる21世紀において、高い科学技術水準と豊かな知的資産は国力の重要な源泉であり、国民の生活や経済活動を持続的に発展させていく鍵となるものです。

つまり科学技術は、経済や生活に生かされてこそ力となるのです。経済や生活を担っているのは、企業です。科学技術と企業を結ぶ産学連携は、科学技術と企業の存在するあらゆる所で行われることが必要です。科学技術と企業を結ぶ場所で、企業の要求と高等教育機関や研究機関の科学技術とを結びつけた共同研究や受託研究が行われることが必要なのです。

高等専門学校は、実践的創造的な技術者の養成を目的としております。高等専門学校が産学連携により企業と共同研究や受託研究を行うことは、研究を通じて学生に実践的創造的な技術者となるための教育を行うことに資することになります。

このような観点から、当校では平成15年度末に、静岡県東部地域に密着した産学連携の場として、地域共同テクノセンターを設置しました。

共同研究や委託研究の相談、技術相談、見学、訪問、何でも、どうぞお気軽に当テクノセンターにお越しいただき、またご利用いただきますようお願いいたします。

昨年3月3日に竣工した地域共同テクノセンターが、早1周年を迎えようとしています。この間、企業と本校教員との共同研究17テーマ、受託研究5テーマ、技術相談約30件と、当初からの期待通りに事業が展開できていますことは、地域産業界の皆様方の暖かいご理解とご協力の賜物と感謝しております。

平成15年工業統計速報および平成15年度特定サービス産業実態調査によると、わが国の「製造業全体」の従業者数約865万人、製造品出荷額等約276兆円を計上しているのに対し、「情報サービス業」では従業者数約56万人、売上高約14兆円となっており、モノづくり（製造業）が経済全体に占める割合は大きく、その活性化が地域の経済に対してより大きな効果をもたらすことが推測されます。

沼津市を中心とする県東部地域の製造業界には、産学連携を通して現製品の性能向上、ひいては新製品の開発を実現したいと希望している企業が数多く存在することが、沼津商工会議所の最近の調査で明らかになっています。沼津高専としては、地域企業のこのような要望に地域共同テクノセンターを中心として継続的に応えていく所存です。

このニュースレターが地域産業界と沼津高専の架け橋になり、産学連携の輪が益々広がり交流が益々密になっていくことを切に願っています。

(以下略)

(出典：地域共同テクノセンターニュース)

資料研1-①-11：技術相談・共同研究・受託研究

国立沼津高等
地域共同テックセンター

- 施設の概要
- 共同研究
- 受託研究
- 技術相談
- 寄附
- 講習会・セミナー等
- 書式ダウンロード
- ご利用上の規則
- 産学連携のための
諸制度
- トップページへ戻る
- 沼津高専公式HPへ

技術相談

本校には、機械、電気・電子、制御、情報、化学、生物化学など、多くの分野に携わっている教育者が在籍しています。企業の現場で発生した技術的問題や疑問を解決するために、お手伝いができることも多いと思います。お気軽にご相談下さい。

科学技術相談申込み要領

1. 具体的な相談の分野は、「教員の専門・相談分野」をご参照下さい。
2. 相談の申込みは、文書によることを原則とします。別紙「科学技術相談申込書」に、相談内容をできるだけ具体的に記入の上、8.の申込書送付先にお送り下さい。

科学技術相談申込書
WORD形式
PDF形式

3. 科学技術相談申込書受理後、速やかに、諾否について通知いたします。
4. 承諾の場合は、申込書の相談内容に最も適切と思われる相談員を選定した上で、相談日時をご連絡いたします。
5. 申し込まれた相談内容に対して、お答えできる相談員が本校にない場合は相談に応じられませんので、ご了承下さい。なお、その際、その旨を回答するか、あるいは適当な他の機関をご紹介します。
6. 沼津工業高等専門学校の名称を利用することのみを目的とする相談には、応じられません。
7. 相談内容等、職務上知ることが出来た秘密については、これを他に漏らすことはありません。
8. 相談の方法等にご不明な点がございましたら、お問い合わせ下さい。お問い合わせ先及び申込書送付先は、次のとおりです。

〒410-8501 沼津市大岡3600
沼津工業高等専門学校地域共同テックセンター
科学技術相談窓口(庶務課)
TEL 055-926-6762
FAX 055-926-6700

国立沼津高等
地域共同テックセンター

- 施設の概要
- 共同研究
- 受託研究
- 技術相談
- 寄附
- 講習会・セミナー等
- 書式ダウンロード
- ご利用上の規則
- 産学連携のための
諸制度
- トップページへ戻る
- 沼津高専公式HPへ

共同研究

「共同研究」とは、沼津高専と企業等の研究者が、共通のテーマについて共同で研究を進めることにより、独創的で優れた研究成果を期待する制度です。現在、共同研究は多くの国立学校等で実施され、高い評価を得ています。企業等の研究者は、在職のまま、沼津高専において共同研究を行います（研究経費のみの受け入れも可能）、その研究方式は、次の2つの方式があります。

- 1: 企業等から研究者と研究経費、又は研究経費のみを受け入れて実施する研究
- 2: 企業等から研究者の受け入れのみを行って実施する研究

共同研究申請書
WORD形式
PDF形式

(1)共同研究の流れ

企業等

→ 研究の申込み →

← 受入れの決定通知 ←

← 契約締結 ←

→ 研究経費の納付 →

→ 研究者の派遣 →

← 研究成果 ←

本 校

研究経費の一部
負担

共同研究の実施

特許の共同出願

国立沼津高専
地域共同テクノセンター

- 施設概要
- 共同研究
- 受託研究
- 技術相談
- 委託
- 講習会・セミナー等
- 書式ダウンロード
- ご利用上の規則
- 産学連携のための
諸制度
- トップページへ戻る
- 沼津高専公式HPへ

受託研究

「受託研究」は、本校の教員が企業等からの委託を受け、企業等に代わって研究を実施して、その成果を委託者に報告する制度です。
なお、この研究に要する経費は、委託者に負担していただきます。

受託研究申込書 WORD形式 PDF形式

(1)受託研究の流れ

企 業 等

→ 研究の申込み

← 受入れの決定通知

→ 研究の契約締結

← 研究経費の納付

→ 研究成果の報告

本 校

(2)研究成果としての特許の取扱い

受託研究の結果、発明が生じた場合は、特許は独立行政法人国立高等専門学校機構の所有となり、委託者又はその指定する者が一定期間（原則として10年以内）優先的に実施することができます。（実施料収入の配分や不実施補償等に関する事項は、個別の契約において定めま
す。）
なお、本校の持ち分の割合が二分の一を下回らない範囲内において、特許の一部を委託者に譲与することもできます。

(出典：本校地域共同テクノセンターウェブサイト)
<http://techno.numazu-ct.ac.jp/>

資料研1-①-12：産学官連携コーディネーター


■ テクノセンターニュース 2005.3.10 創刊号

沼津工業高等専門学校産学官連携コーディネーターのご紹介

平成16年11月から、沼津工業高等専門学校産学官連携コーディネーターとして山本治利さんをお招きしています。

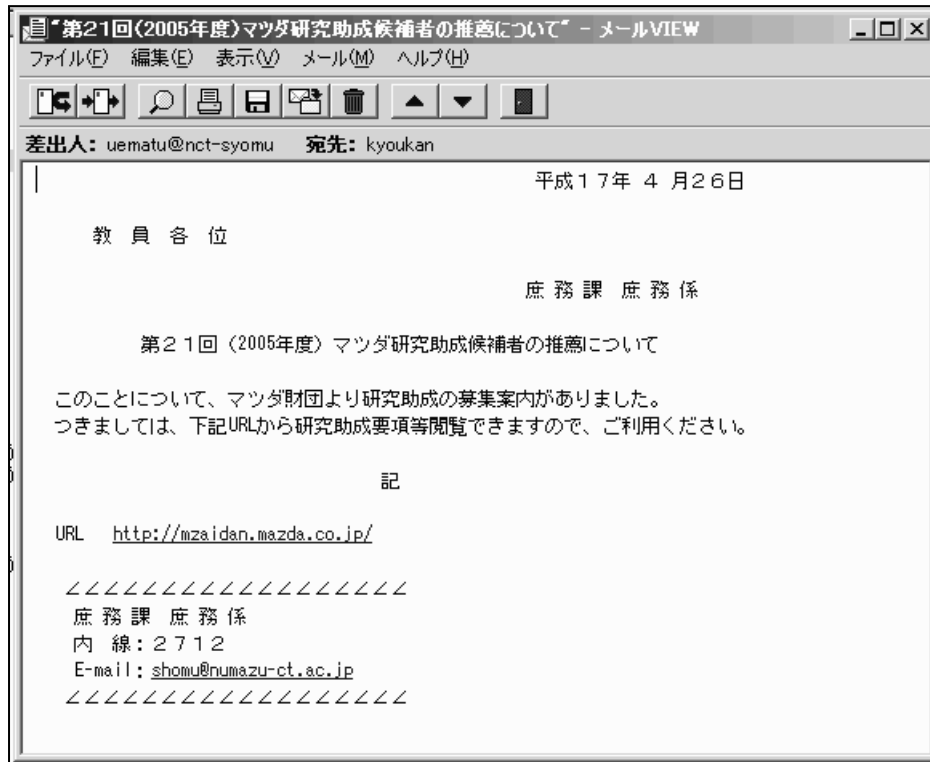
山本さんは、長年にわたり東芝機械（株）に勤務された後、本校の専任教官として在職され、さらに中央大学理工学部でも講師を勤められました。現在は技術士・中小企業診断士として活動されています。技術者としての知識と、企業・高専の双方に勤務された豊富な経験を元に、企業の皆さまと本校との橋渡し役としてご活躍いただいているところです。

山本さんは、毎週木曜日（休日を除く。）13:00～17:00に本校地域共同テクノセンター棟1階・科学技術相談室にて皆さまのご相談をお受けしていますので、下記までお気軽にご連絡ください。
TEL & FAX：055-926-5727（不在のときは055-926-5762 庶務課までおかけください）
Eメール：sangaku@numazu-ct.ac.jp



(出典：地域共同テクノセンターニュース)

資料研1-①-13：外部研究費応募情報の庶務課庶務係による全教員への紹介メールの一例



(出典：事務送付メール資料)

資料研1-①-14：教育後援会による教員・学生の学会発表のための旅費援助

教育後援会（項）事業費（目）研究・研修助成費 （事項）教官研究海外派遣旅費取扱要領	
平成 8 年 4 月 17 日 制定	
1、この助成金は、教官が海外の学会等において自身の研究成果を発表するため旅行する旅費について、旅行に要する実費額を次の経費で支弁せざるを得ない場合、予算の範囲内で補助するものとする。 （1）全額を自費で支弁する場合（学外研修願の承認を要する。） （2）全額を奨学寄付金と自費の併用で支弁する場合（旅行命令の発令を要する。）	
2、旅行に要する実費額のうち、支弁経費として奨学寄付金を優先させるものとし、補助する額は、自費で支弁する額を越えることはできない。なお、1（2）による場合は、国家公務員等の旅費に関する法律第46条に基づく旅費の調整を行うものとする。	
3、補助の対象となる者は本校教官とし、原則として助教授・講師・助手とする。なお、過去にこの補助を受けたことのない者に対し、優先的に補助するものとする。	

(以下略)

(出典：平成8年度第2回教官会議資料2)

資料研1-①-15：海外先進教育研究実践プログラムによる教員の海外派遣制度の利用

■教員の研究活動	
項目	内容
■博士学位取得者数	46名
■研究発表(平成16年度)	
◇本校研究報告	28編
■平成16年度海外先進教育研究実践プログラムによる海外派遣教員	
◇小林隆志 アクロン大学(The University of Akron)	1名
◇芹澤弘秀 オーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO)	1名

(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/data_frm.htm

資料研1-①-16：地域各種協会への役員参加

兼 業			
職名	氏名	委 嘱 先	兼業内容
校長	久賀重雄	静岡県東部生産性協議会	副会長
校長	久賀重雄	東部地域産業技術振興協会	会長
校長	久賀重雄	東海工学教育協会	理事
校長	久賀重雄	沼津地域産業振興協議会	役員

(一部抜粋)

(出典：校長兼業一覧)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。施設整備及び組織編成の両面から、本校の目的に即した研究活動が行える体制が適切に整えられている。

観点1-②：研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況) 本校教員の内46名は博士の学位を取得しており、日常的に自己の専門分野に関する研究を行い、研鑽に努めている。その成果は、論文執筆や学会発表等の形で公表され(資料研1-②-1)、最近1年間の実績は著作刊行物13件、学協会等への発表論文143件、国内外における学協会等での口頭発表63件、特許出願1件、学会等による受賞3件となっている。外部研究資金の獲得の面では、平成16年度には11件の科学研究費補助金が採択されている。また、教員はそれぞれの分野に関連した授業を担当することにより、学生に還元されており、卒業研究・専攻科研究の指導に当たっても、教員の研究活動で得た知見が生かされている。その結果、学生も積極的に研究成果を論文や学会等での講演で発表を行っている(資料研1-②-2)。学生が主体となって発表されたものは、昨年度1年間で、本校研究報告2編、学会発表等35件であった。

産学連携形式の研究活動に関しては、平成16年度には技術相談は34件であり、共同研究21件、受託研究5件の契約が民間企業等との間で結ばれており、それぞれ成果を上げている(資料研1-②-3)。また、こうした産学連携形式の研究活動に、各研究室に所属する学生が卒業研究・専攻科研究の一環として関わっている(資料研1-②-4)。

資料研1-②-1:教員の研究活動の記録

研究活動の記録	211
本校教員の研究活動の記録 (抄)	
大賀 喬一	
B 環状突起付きパンチによる材料型内充てん；(村越らと共著)，第54回塑性加工連合講演会論文集(日本塑性加工学会)，香川県香川町，2003年11月，pp.147-148.	using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 1: General rules (小根山らと共著)，2004年4月，日本フルードパワー工業会。
C 有限要素分解ソフトを利用した型内材料流動状況の予測(台形状突起パンチによる押し込み加工)；大塚，日本機械学会東海学生会第35回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集，名古屋市，2004年3月，pp.208-209，(指導教官)。	A ISO 6358 rev-3, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 3: Alternative test method-Vacuum charge method, 2004年4月，日本フルードパワー工業会。
D 第54回塑性加工連合講演会にて座長(セッション；鍛造Ⅲ)，2003年11月。	A ISO 6358 rev-4, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristic Part 4: Alternative test method-Simple discharge method (小根山と共著)，2004年4月，日本フルードパワー工業会。
D 日本塑性加工学会(第38期)代議員(2年任期)	B Japanese proposal for a possible revision of ISO 6358:1989, Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristics (小根山らと共著)，Document for ISO /TC131/SC5/WG3 meeting held in Milwaukee, 2003年9月，日本フルードパワー工業会。
D 日本塑性加工学会東海支部第23・24期商議員	B Improvement of Test Method of Flow-rate Characteristics of Pneumatic Components (小根山と共著)，Proceedings of SICE Annual Conference 2004, 札幌，2004年8月。
D 日本塑性加工学会校閲委員(H15年4月～H17年3月)	C 充填法による大気放出空気圧機器の測定一統報(黒下幸信，田代と共著)，平成15年度秋季油空圧講演会論文集，pp.96-98，2002年11月。
D 平成16年度日本塑性加工学会賞教育賞受賞、「効果的な機械工作実践教育システムの構築」，2004年5月22日。	
D アルミニウム鍛造技術会理事(平成16年度)	
D アルミニウム鍛造技術会「第37回技術講座(攻めに転換するアルミニウム鍛造；最新のアルミニウム鍛造技術の展望)」の企画，名古屋市，2004年7月27日。	
D 日本機械学会東海学生会顧問(平成16年度)	

(以下略)

(出典：沼津工業高等専門学校研究報告第39号)

資料研1-②-2：学生の研究活動の記録

86号		沼津高専だより			(39)	
学生の研究活動(2004.5.1~2005.4.30)						
(1) 論文発表						
(筆頭著者が、学生の場合のみ記す。第二著者が学生の論文は省略した。)						
学科	学生氏名	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名(共著者名)	指導教員		
DS2	高田 直朗	第13回CAMSUコンファレンス講演論文集、2004年、61-62頁	Double PWS型電動車椅子の開発(澤洋一郎)	澤 洋一郎		
DS2	植松 亨介 川口 守孝	RoboCup Japan Open 2004 (ロボカップ日本委員会、日本人工知能学会、日本ロボット学会、計測自動制御学会)	小型リーグサッカーロボット plastic brick(澤洋一郎)	澤 洋一郎		
DS1	増田 優	CEIDP(IEEE CONFERENCE ON ELECTRICAL INSULATION AND DIELECTRIC PHENOMENA)米国電気電子工学会電気絶縁誘電現象国際会議 Dissipation current waveform observation of polyethylene film under AC high field	交流高電界下におけるポリエチレンフィルムの損失電流波形観測(遠山和之、長尾雅之、所哲郎、小崎正光)	遠山 和之		
DS1	増田 優	平成17年電気学会全国大会	三角波印加時のLDPEの電界損失電流特性(遠山和之)	遠山 和之		
D5	伊藤 大祐 高畑 祐太	RoboCup Japan Open 2004 (ロボカップ日本委員会、日本人工知能学会、日本ロボット学会、計測自動制御学会)	小型リーグサッカーロボット plastic brick(澤洋一郎)	澤 洋一郎		
(2) 講演発表						
(登壇者が学生の場合、及びそれに相当する場合*のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても、講演発表に含めた。)						
学科	学生氏名	学会名	講演発表題名(共同研究者名)	会場	発表日	指導教員
ME2	朝河 彰詳	日本機械学会関東支部 山梨講演会	摺動面間における接触熱抵抗(柳田)	山梨大学	2004.10.23	柳田 武彦
ME2	大庭 史敬	日本機械学会東海支部 第54期総会・講演会	アルミニウム合金のフレットینگ疲労特性に及ぼすバレルおよび液体ホーニング処理の影響(西田、木谷、武蔵)	中部大学	2005.3.11	西田 友久
ME2	黒下 幸信	平成16年春季フルードパワーステム講演会	空気圧機器のハイブリッド流量特性試験法(黒下)	機械振興会館	2004.5.27	黒下 清志
ME2	近野 光太	日本機械学会山梨講演会	管フランジの応力・変形解析ソフト	山梨大学	2004.10.23	小林 隆志

(以下略)

(出典：沼津高専だより第86号)

資料研1-②-3:「産学連携での研究の実績」

科学研究費等の研究に対する助成

■科学研究費(学術研究補助金)平成16年度

研究種目	研究題目
基礎研究C	好熱菌由来セルラーゼによる難分解バイオマス糖化機構の解明
	異なる幾何構造のツイスター対応と微分方程式、場の理論などへの応用
	サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発
	人間の感性情報に基づく空気圧騒音の低減方法
若手研究B	不安定核データ・ニュートリノ輸送流体計算による超新星爆発メカニズムの解明
	移動する騒音源に対する有視界性防音壁における騒音伝達のマルチ適応制御
	石刻史料を用いた西魏・北周・隋代の兵制に関する基礎的研究 メタン産化細菌由来銅結合性化合物の銅クラスター構造の解析

■共同研究経費(外部機関と共同で行う研究)平成16年度

研究題目
宇宙・航空機用複合材料の経済的高精度加工技術の開発
プラスチック成型の高効率・高精度加工
電波の反射を利用した、舗装路面の状態検知技術の開発
抗原の特異的エピトープに対する抗体の作成
酵素センサーを用いた難培養性病原微生物検出法の開発
大腸癌モニター用物質とその測定用キットの開発に関する研究
TIボード無線ロボットシステムの開発
カルシウム清涼飲料水賞味期限
「マイクロガスセンサ」の検出機構および使用触媒に関する改善並びに技術確立に関する共同研究開発
損失電流測定による水トリー劣化ケーブルの診断法の開発研究
プレス成型表面処理
低コスト・高信頼性分散クラスターサーバの開発
エポキシハイドロラーゼ生産菌の探索
馬鈴薯澱粉工場における産業廃棄物の有効利用について
電力ケーブル絶縁体部分の劣化診断技術に関する共同研究
業務アルコール測定機器の性能評価
封書の静電容量測定による内容特定装置の実現
アルミニウム合金のフレッティング疲労強度に及ぼす表面処理の影響
電力ケーブル絶縁体部分の劣化診断技術に関する共同研究
業務アルコール測定機器の性能評価
封書の静電容量測定による内容特定装置の実現
アルミニウム合金のフレッティング疲労強度に及ぼす表面処理の影響
微生物培養装置システムの開発
(ほか2件)

■受託研究経費(外部からの委託を受けて行う研究)平成16年度

研究題目
ペーパーラッジ由来セルロースに特異的な熱安定セルラーゼを用いたペーパーラッジの資源化
無線テレメトリ受信データの収録及びインターネットによるユーザ配送システムの研究
新規大腸がんマーカーの探索とそれを用いた診断薬の開発
茅野市駒形遺跡の研究
転倒防止シールの性能評価

■寄附金 平成16年度

内訳
研究助成 17件

(以下略)

(出典:本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/data_frm.htm

資料研1-②-4：平成16年度卒業研究・専攻科研究のテーマ

平成16年度 専攻科特別研究・本科卒業研究発表題目一覧
沼津工業高等専門学校

◇機械工学科（専攻科：機械・電気システム工学専攻の機械コースを含む）

指導教員	研究題目	学生氏名	
専攻科2年	柳田武彦	摺動面間の接触熱抵抗	朝河彰詳
	大賀喬一	内歯外歯共有平歯車製品における効果的な型設計の提案	大塚敬太
	西田友久	アルミニウム合金のフレッティング疲労特性に及ぼすパレルおよび液体ホーニング処理の影響	大庭史敬
	黒下清志	充填法による大気放出空気圧機器の流量特性の測定	黒下幸信
	小林隆志	管フランジの応力および変形解析ソフトウェアの開発	浜野光太
本科	柳田武彦	摺動面間の接触熱抵抗(1)	遠藤真帆・鈴木大貴
	柳田武彦	摺動面間の接触熱抵抗(2) - 表面を熱源が移動する二次元物体の非定常熱解析 -	佐藤憲司・深澤篤彦
	岩谷隆史	アルミニウム合金(A6061P-T6)の平面曲げ荷重下における疲労強度特性と破断面観察	佐藤義之・中田卓弥
	岩谷隆史	ニッケルクロムモリブデン鋼(SNCM439)の回転曲げ荷重下における疲労強度特性と破断面観察	佐藤大輔・玉木淳悟
	永禮哲生	FFTを使用したモード解析プログラムの作成	浅井悠平・朝比奈 宙
	永禮哲生	振動抑制工具ホルダー開発のこころみ	岩田敏明・大川和彦
	宮内太積	振動波面の画像解析	坂本大介・藤森一朗
	宮内太積	水中での液状化の発生機構	杉野喜彦・廣瀬 豊
	村松久巳	十字交差2円柱の交差近傍における流れの可視化	清水拓也・木下祐輔
	村松久巳	高性能空気圧用消音器の開発	足立将彬・小野浩一
5 西田友久	アルミニウム合金(A2024-T4)の真空中における疲労特性	勝俣悠樹・浜崎周太	
	疲労特性解明と材料ポードの開発	遠藤真太郎・松島直樹	

(以下略)

(出典：平成16年度卒業式・修了式配布資料)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。個々の教員の研究活動は活発に行われ、その成果は学生への教授に生かされている。また、産学連携形式の研究活動は国内の高専でもトップクラスの契約件数となっており、高専に期待される社会的使命を十分に果たしているといえる。さらに、こうした活動に学生が参加することにより、学生が企業活動の一端に触れ、自らの学習内容と産業との関連性を学ぶ良い機会となっている。

観点1-③：研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 本校には、研究活動に関する諸課題を総合的に検討するための組織として、地域共同テクノセンター長を委員長とする地域共同テクノセンター運営委員会が設置され、産業界からの要請や動向を踏まえつつ、本校の目的に即した施策を提案している(資料研1-③-1)。

資料研1-③-1：地域共同テクノセンター規則

沼津工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

(平成15年3月12日制定)

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、総合技術開発能力のある学生の育成並びに地域産業界等との共同研究の推進及び地域産業の振興に寄与するとともに、本校における教育研究の充実発展に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 総合技術開発能力のある学生の育成に関すること。
- (2) 学科間の横断的な研究協力及びその支援に関すること。
- (3) 地域産業界等との共同研究及び受託研究の推進に関すること。
- (4) 地域産業界等に対する技術相談、講習会、セミナー等に関すること。
- (5) 社会人を対象としたリフレッシュ教育に関すること。
- (6) 小中高生を対象とした体験教育に関すること。
- (7) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(組織)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 各学科及び教養科から選出される教員（以下「センター員」という。） 各1人
- (4) その他必要な職員

2 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。

3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。

4 副センター長は、本校の教授又は助教授の中から校長が任命する。

5 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。

6 センター員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。

7 センター長、副センター長及びセンター員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第5条 センターの円滑な運営を図るため、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関すること。
- (2) センターの利用に関すること。
- (3) センターの将来計画に関すること。

(4) その他センター長が必要と認める事項

3 委員会は、次に掲げる委員で組織する。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター員

(4) 事務部長

(5) その他校長が指名する者 若干人

4 前項第5号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

6 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

7 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 センターに関する事務は、庶務課において処理する。

(細目)

第7条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な細目は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成15年3月12日から施行する。

2 沼津工業高等専門学校科学技術相談室運営委員会規則（平成3年10月16日制定）は、廃止する。

(出典：本校地域共同テクノセンターウェブサイト)

<http://techno.numazu-ct.ac.jp/>

(分析結果とその根拠理由) 優れている。地域共同テクノセンター運営委員会は、外部有識者の参加を得ながら定期的に開催されており、本校各部署から提起される問題等について議論が行われ、改善策が提案されている(資料研1-③-2)。

資料研1-③-2：地域共同テクノセンター運営委員会議事要録の一例

平成16年度第9回地域共同テクノセンター運営委員会議事要録（案）

- I 日時：平成17年2月3日（木）16：40～18：00
- II 場所：管理棟2階小会議室
- III 出席者：柳下、蓮實、村松、高野、澤、藤尾、押川、鈴木（克）、事務部長
（列席者）産学官連携コーディネーター、庶務課長、会計課長、専門職員（企画調査担当）
- IV 前回議事要録の確認 事前に委員へ送付された資料のとおり確認された。
- V 議事
1. 出前科学技術相談について
産学官連携コーディネーターから、資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。
なお、資料中3①の訪問については、産学官連携コーディネーターが日程調整し、本委員会委員のうち、都合の付く教員1名と産学官連携コーディネーター（及び必要があれば事務部職員）が訪問することとした。
 2. 学生との守秘義務契約について
蓮實委員及び専門職員（企画調査担当）から、資料に基づき説明があり、意見交換の結果、本資料を元に今後の検討課題として継続審議することとした。
 3. 受託試験の料金設定について
専門職員（企画調査担当）から、資料に基づき説明があり、意見交換の結果、受託試験の実施に当たっては、器具の検定や試料破損の際の補償などさまざまな問題点があることから、資料中「空気圧用電磁弁の流量特性試験（黒下研究室）」のみ先行して料金設定作業を進めることとし、他の試験項目については、実施の可否も含めて再検討することとした。
 4. 外部資金（共同研究、受託研究）関連学内規則の制定等について
会計課長から、資料に基づき説明があり、規則制定趣旨及びその他の留意点について承

（以下略）

（出典：平成16年度地域共同テクノセンター運営委員会議事要録）

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）教員の研究は盛んに行われ、その成果は学生への講義や研究指導などの教育面に十分に活かされている。また、施設整備及び組織運営の両面から教員の研究活動を適切に支援するものとして、地域共同テクノセンターを中心とした体制が整備されている点は優れている。その結果として、民間企業等との共同研究・受託研究契約件数は国内高専でもトップクラスであり、積極的な産業界への貢献が行われている点も優れている。

（改善を要する点）特になし。

（3）選択的評価基準の自己評価の概要

高専における研究の目的である、教育内容の学術の進展への即応及び産学連携形式による教育研究活動による社会への貢献を達成するため、教員研究、準学士課程5年生の卒業研究、及び専攻科課程の専攻科研究を実施している。そのため、それぞれの研究分野に即した授業を行うよう教員を

配置するとともに、産学連携形式の研究への積極的な学生の参加を進めている。こうした研究を支援するための施設整備と組織運営のため、地域共同テクノセンター及び地域共同テクノセンター運営委員会が機能しており、本校教員のシーズと地元企業のニーズのマッチングを図るとともに、研究の中心的な場所を提供する役割を果たしている。その結果、本校教員及び学生は、年間に約156編（内、学生による執筆は2編）の著書・論文等を執筆し、国内外で約63件（内、学生による発表は35件）の学会・シンポジウム等での発表を行っている。また、産学連携形式の研究活動も、年間約26件の共同・受託研究の契約が民間企業等との間で結ばれ、成果を上げている。こうした活動への学生の参加は、学生が自らの学習内容と産業との関連性を学ぶ良い機会として、教育の効果を上げている。以上のことから、本校における研究活動は、大変優れている。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

選択的評価基準 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況)

(i) 公開講座

本校では、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、毎年複数の公開講座を開設し、広く一般から受講者を募集している(資料サ1-①-1)。

資料サ1-①-1：最近3年間の公開講座実施状況

■平成15年度

講座名	対象	定員
谷崎潤一郎を読む	市民一般	15
ウェブサイト作成入門	市民一般	10
PerlによるCGI入門	市民一般	10
50代からのパソコン入門	市民一般	5
小中学校教職員のためのパソコン入門	小中学校教職員	10
中学生のための最新技術を利用したものづくり	中学生	10
“竹炭の不思議”を体験しよう	中学生	10

■平成16年度

講座名	対象	定員
中学生のための最新技術を利用したものづくり	中学生	10
ウェブサイト作成入門第1部	市民一般	15
ウェブサイト作成入門第2部	市民一般	15
モーター製作教室	小学校高学年～中学1年生	15
50代からのパソコン入門	市民一般	10

■平成17年度

講座名	対象	定員
中学生のための最新技術を利用したものづくり	中学生	10
モーター製作教室	小学校高学年～中学2年生	15
磁気振り子の製作講座	小学校高学年～中学2年生	15
未来の技術者へのコンピュータ活用塾	中学生とその保護者	15
ブロックで創るロボットの世界	小学生とその保護者	80
初心者のためのデジカメ画像活用入門	市民一般	15
中学生のための自律ロボット教室	中学生	80
中学生のための化学実験講座	中学生	30
門池環境調査隊!	中学生	10
親子で作るパソコン教室	中学生とその保護者	80

(出典：平成15～17年度沼津工業高等専門学校公開講座実施要項)

最近3年間の公開講座を対象別に見ると、小中学生向け13件、高校生以上の一般向け9件となっており、若年層へのサービスと生涯学習社会における一般の教育ニーズの双方に配慮している（資料サ1—①—2）。

資料サ1—①—2 最近3年間の対象者別公開講座実施状況

	中学生以下	市民一般
平成15年度	2	5
平成16年度	2	3
平成17年度	9	1

（出典：平成15～17年度沼津工業高等専門学校公開講座実施要項）

また、最近3年間の公開講座を内容別に見ると、機械系、情報系、化学系など多岐にわたるサービスを提供しており、できるだけ多様なニーズに応えられるよう計画している（資料サ1—①—3）。

資料サ1—①—3 最近3年間の内容別公開講座実施状況

	情報	機械・電子	材料・化学	その他
平成15年度	4	1	1	1
平成16年度	3	2	0	0
平成17年度	3	5	2	0

（出典：平成15～17年度沼津工業高等専門学校公開講座実施要項）

平成17年度からは、理工系離れの進む小中学生が科学に対する興味を抱くきっかけとするため、小中学生向け講座の受講料は全て無料とし、小中学生が本校独自の研究技術に気軽に触れられる機会を提供している（資料サ1—①—4）。

資料サ1—①—4：平成17年度公開講座案内

Invitation to Technology 2005

モノづくりから世界が見える。

沼津高専 公開講座 受講生募集

以下の講座は詳細が未定です。まだ公募は行っておりません。

中学生のための
最新技術を利用した **ものづくり**
7/28▶29
講 師/大賀 壽一 他1名
対 象/中学生
受講料/無料(保険料100円)

モーター製作講座
8/1
講 師/望月 孔二 他1名
対 象/小学校高学年~中学2年生
受講料/無料

環境調査講座
日 時/8月中旬から計5回実施
講 師/蓮実 文彦 他8名
対 象/中学生
受講料/無料

磁気振りの子の製作講座
8/1
講 師/高野 明夫 他1名
対 象/小学校高学年~中学2年生
受講料/無料

コンピュータ活用塾
8/6▶7
講 師/星谷 賢治
対 象/中学生とその保護者
受講料/無料

中学生のための
自律ロボット教室
日 時/未定
講 師/川上 誠
対 象/中学生
受講料/無料(教材費として1,000円)

初心者のための
ブロックで創る **ロボットの世界**
10/22~11/26
12/17~1/28
講 師/川上 誠 他2名
対 象/小学生とその保護者
1/28は中学生対象
受講料/無料

デジカメ画像活用入門
7/27▶29
講 師/加藤 賢一 他1名
対 象/市民一般
受講料/6,400円

親子で作るパソコン教室
日 時/未定
講 師/川上 誠
対 象/中学生とその保護者
受講料/6,400円

中学生のための
化学実験講座
11/20
講 師/小林 実学 高科 知之
対 象/中学生
受講料/無料

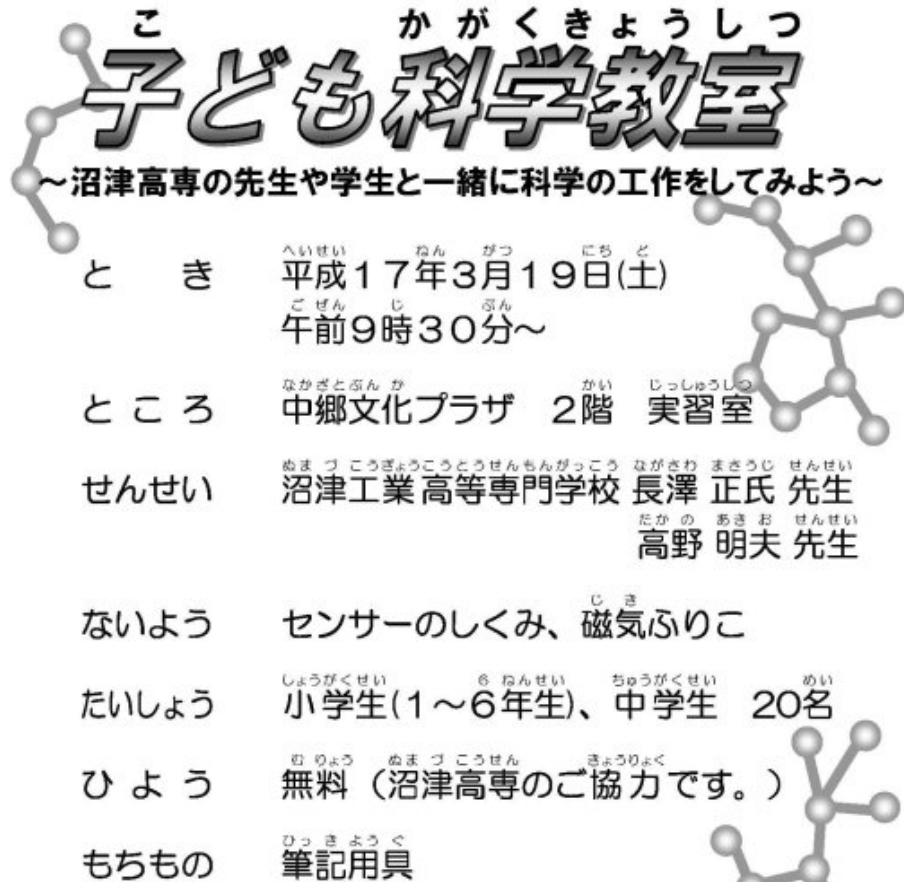
Numazu College of Technology
国立沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600 TEL:055-926-5712

申込方法など詳しくは、裏面をご覧ください。

(出典：平成15～17年度沼津工業高等専門学校公開講座実施要項)

さらに、本校内で行う公開講座に留まらず、校外で行われる科学関連イベントへの出展や、小学校のPTA祭や公民館などで行われる出張科学教室などにも教職員を派遣している（資料サ1—①—5及び6）。

資料サ1—①—5：公民館における科学教室開催案内



こ かがくきょうしつ
子ども科学教室
 ～沼津高専の先生や学生と一緒に科学の工作をしてみよう～

と き 平成17年3月19日(土)
 午前9時30分～

ところ 中郷文化プラザ 2階 実習室

せんせい 沼津工業高等専門学校 長澤 正氏 先生
 高野 明夫 先生

ないよう センサーのしくみ、磁気ふりこ

たいしょう 小学生(1～6年生)、中学生 20名

ひょう 無料(沼津高専のご協力です。)

もちもの 筆記用具

※3月12日(土)までにお申込みください。申込多数の場合は抽選になります。

申込・問合せ 中郷公民館(982-5100)

キ リ ト リ

氏 名		学 校 名	
電 話 番 号	()	学 年	年
住 所	三島市		

(出典：三島市中郷公民館イベント案内ポスター)

資料サ1—①—6：校長から教職員に対する学外教育サービスへの協力依頼

From: kawaguti@numazu-ct.ac.jp (沼津高専企画調査)

Date: Mon, 11 Apr 2005 14:23:19 +0900

To: 6syunin

Cc: shomu, nagasawa

Subject: 三島市主催「三島市こども科学教室」への協力方について (依頼)

平成17年4月11日

各学科等長 殿

校 長

三島市主催「三島市こども科学教室」への協力方について (依頼)

このたび、三島市から標記事業計画への協力方について、下記のとおり依頼がありました。

この事業は、本年3月19日に本校教員の協力のもと実施された同種の事業が好評であったことを受けて企画され、再度本校に依頼があったものです。

既にご案内のとおり、本校は、静岡県東部地区唯一の国立高等教育機関としての社会的使命と役割をもっており、その社会的使命の一つに「地域への貢献」があります。また、ものづくりに関心と適性を有する者など国立高専の教育にふさわしい入学者を的確に確保することも重要です。

については、各学科等におかれましては、積極的にご協力くださるようお願いいたします。

なお、ご協力いただける学科等におきましては、4月22日（金）までに庶務課専門職員（企画調査担当）川口までご連絡願います。

記

- 1 日 時 平成17年8月3日（水）
（本校一日体験入学の翌日であり、テーマの流用等が可能です）
- 2 場 所 三島市中郷文化プラザ
- 3 対 象 小中学生
- 4 定 員 未定
- 5 形 式 高専の提案どおり

（出典：学内通知メール）

(ii) 研究生等

本校では、本校における継続的な研究・学習へのニーズに幅広く対応するため、学則により、正規課程以外にも研究生、聴講生、科目等履修生の制度を設けている（資料サ1—①—7）。

資料サ1—①—7：本校学則における研究生、聴講生、科目等履修生の規定部分

第11章 研究生、聴講生、科目等履修生

第56条 本校において、特定の事項につき研究を志望する者があるときは、研究生として入学を許可することがある。

第57条 本校所定の授業科目中、1科目又は数科目を聴講しようとする者があるときは、聴講生として入学を許可することがある。

第58条 本校所定の授業科目中、1科目又は複数の授業科目を履修しようとする者があるときは、科目等履修生として入学を許可し単位の修得を認定することがある。

（出典：本校学則）

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0010_gakusoku.htm

各制度は、資料サ1—①—8に示すような特色を持ち、様々なニーズに対応できるようになっている。

資料サ1—①—8：研究生、聴講生、科目等履修生制度の概要

【研究生】 特定の専門事項について、研究をしたいと希望する場合、教育・研究に支障のない範囲で、研究生として入学を許可する。

資格は、高専卒業又は同等以上の学力のある者で、面接等による選考がある。

入学は、学年又は学期始めとし、研究期間は、原則として当該年度内とする。

また、検定料、入学金、授業料を徴収する。

【聴講生】 本校で開講されている授業科目のうち、特定の科目を聴講したいと希望する場合、教育・研究に支障のない範囲で、聴講生として入学を許可する。

資格は、高専卒業又は同等以上の学力のある者で、面接等による選考がある。

専攻科の聴講生は、高専卒業又は同等以上の学力が必要となる。

入学は、学年又は学期始めとし、聴講期間は、原則として当該年度内とする。聴講科目は、実験、実習以外の科目に限る。

また、検定料、入学金、授業料を徴収する。

【科目等履修生】 本校で開講されている授業科目のうち、1科目又は複数の科目の履修を希望する場合は、教育・研究に支障のない範囲で、科目等履修生として入学を許可する。

履修した科目については、単位の修得を認定する。

資格は、高専卒業又は同等以上の学力のある者で、面接等による選考がある。

専攻科の科目等履修生は、高専卒業又は同等以上の学力が必要となる。

入学は、学年又は学期始めとし、履修期間は、原則として当該年度内とする。履修できる科目は、実験、実習以外の科目に限る。

また、検定料、入学金、授業料を徴収する。

（出典：本校規則集）

(分析結果とその根拠理由) 相応である。本校が持つ教育力を、本校の学生に留まらず広く地域に提供しようとする姿勢を堅持しており、受講対象や講義内容などが偏らないよう計画的に公開講座を実施するとともに、研究生・聴講生・科目等履修生の制度を設け、学外からの教育ニーズに対応できる体制を整えている。

観点 1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

(i) 公開講座

公開講座の受講者数は毎年40～70人を数え、さらに平成17年度においても複数の講座で募集定員を大幅に超える応募があるなど、サービスの享受者数から本校の公開講座は相応な需要を得ているものと判断できる(資料サ1-②-1及び2)。

資料サ1-②-1：平成14～16年度公開講座受講者数

	総講座数	総受講者数
平成14年度	8	70
平成15年度	8	68
平成16年度	5	44

(出典：平成14～16年度公開講座関係資料ファイル)

資料サ1-②-2：平成17年度各公開講座受講希望者数(締切済みのもの)

講座名	申込人数	定員
中学生のための最新技術を利用したものづくり	23	10
モーター製作教室	59	15
磁気振子子の製作講座	51	15
未来の技術者へのコンピュータ活用塾	9	15
初心者のためのデジカメ画像活用入門	6	15

(出典：平成17年度公開講座受講申込一覧表)

また、本校内で行った公開講座についてはすべてアンケート調査を行い、平成16年度については多くの受講者から「参加してよかった」「また参加したい」という回答を得ている(資料サ1-②-3)。

資料サ1-②-3：平成16年度公開講座受講者アンケートの例

平成16年度 公開講座「モータ製作教室」に関するアンケート集計結果(受講者20名中20名回答)

設問 1. 性別をお答えください。

ア. 男 17 名
イ. 女 3 名

設問 2. あなたはこの講座を何でしましたか。

ア. 広報紙 8 名
イ. 新聞 3 名
ウ. その他 9 名

・友達に誘われた

- ・ウェブサイト
- ・中学校の手紙
- ・母が教えてくれた
- ・小学校からのたより
- ・せつめい
- ・うち 回答なし 3 名

設問 3. この講座を、来年度実施予定した場合についてお答えください。

- (1) 実施時期についてはいかがですか。
- ア. この時期で適当だと思う。・・・・・・ 19 名
- イ. 他の時期が良いと思う。・・・・・・ 1 名
- (2) (1) の設問で「他の時期が良いと思う」と回答された方はいつ頃が良いと思いますか。お書きください。
- 9 月頃
- (3) 時間帯についてはいかがですか。
- ア. この時間帯で適当だと思う。・・・・・・ 19 名
- イ. 他の時間帯が良いと思う。・・・・・・ 1 名
- (4) (3) の設問で「他の時間帯が良いと思う」と回答された方は、いつが良いと思いますか。お書きください。
- 9 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
- (5) 開設期間についてはいかがですか。
- ア. この期間で適当だと思う。・・・・・・ 19 名
- イ. 短すぎると思う。・・・・・・なし
- ウ. 長すぎると思う。・・・・・・ 1 名
- (6) (5) の設問で「イ. 短すぎると思う。」及び「ウ. 長すぎると思う」と回答された方は何日間が良いと思いますか。お書きください。
- 2 日間

設問 4. 今回の講座の感想をお書きください。

- ・たのしかった。
- ・いろいろなモータの体験ができてよかったです。モータのブレーキの力がわかってよかったです。
- ・うまく回ったり回らなかつたりした。
- ・モータを作ることができてよかった。学校の中（研究室）の見学ができてよかった。学食がおいしかった。午前中の講義は子供たちには少しむずかしかったと思う。
- ・モータのことがよくわかってよかった。
- ・モータのことがたくさんしれてよかったと思います。
- ・けっこう楽しかった。
- ・電気（モータ）のことがよくわかった。
- ・いろいろなモータがあることが分かったし、それぞれのモータのしくみがわかってよかった。おもしろかった。
- ・いろいろなことが見て感じて学べる良い講座だったと思います。

- ・モータのいろいろなことがわかってよかった。
 - ・楽しい。いろんなところを見学したり，おもしろい。
 - ・せんをまくのがたいへんだったけどおもしろかった。
 - ・（子）楽しかった。
- （母）組み立てるだけでなく，色々自分の考え，工夫 又他の人の結果を共有出来るといった点で，工作というより実験をしたという気分でした。
- ・モータについてよくわかったし，勉強になった。
 - ・モータについて知ることができました。先日リニアにも乗ったので興味深く，大変良かったと思います。
 - ・磁石のことが分かりました。S 極・N極どうして，くっついたり，はんぱつしあったりする，磁石をつくれることが分かった。
 - ・むずかしかったけど楽しかった。
 - ・楽しかった。

設問 5. 今後，他の講座を受講する場合，どのような講座を受講してみたいと思いますか。

お書きください。

- ・ソーラーカー
- ・電気製品の講座
- ・見学したところ
- ・時計作り，ラジオ作り，ソーラーカーのキットをくみたててみたい。
- ・モーターと同じでいいと思う。
- ・また何か作るもののほうがいいと思う。
- ・飛行するもの
- ・電池の作成講座
- ・モーターなどの電気関係が好きなので電気関係にしたいです。
- ・電気教室
- ・ラジコン
- ・水の動き流れ方など知りたい。
- ・ロボット製作
- ・ロボットをつくる。
- ・レゴの講座

設問 6. その他，ご意見等ございましたらお書きください。

- ・とても楽しく勉強できてよかったです。
- ・ありがとうございました。夏休みの一日を有意義に過ごせました。
- ・同じキットを使って，富士の児童館で無料（協力 東電）の工作教室が夏休みのこの時期に開催されます。少しキットが違くと良かった。でもこちらに参加させていただいて，自由に工夫しているいろいろ試す事が出来て実りの多い時間となりました。ありがとうございました。
- ・説明がとてもわかりやすかったです。本当にありがとうございました。
- ・修了証書があつてうれしかった。ありがとうございました。
- ・昼休みを長くしてほしい。

- ・ありがとうございました。

親子で参加させていただきました。夏休み中の良い思い出の機会を作って頂き感謝申し上げます。望月先生のお話はとても分かりやすく、ゆっくりと説明をして下さったので良かったです。また見学の方もリアモーター等について見せて下さり大変興味深いものでした。資料の提示（パワーポイント？）もとても理解しやすかったです。ご準備の方も大変だったことと存じます。ありがとうございました。

- ・とてもよかったですと思います。ありがとうございました。
- ・ご飯で、もうちょっと時間があったほうがいい。

（出典：平成16年度公開講座受講者アンケート調査）

アンケート結果は、すべて講座担当者にフィードバックし、改善のための資料としている。

また、学校名で行う公開講座の実施の可否については毎年総務委員会において審議してきたところであるが、平成17年度は、これまで各学科等が独自に行っていた公開講座もすべて総務委員会において実施案を審議して可否を決定する方式に改め、広報や予算配分などを一括して行うことにするなど、効率的に公開講座が実施できる方策を講じたところである。さらに、平成17年度中に公開講座等についてより専門的に審議する担当委員会の設置を計画している（資料サ1—①—4）。

資料サ1—②—4：公開講座に関する総務委員会議事要録（部分）

第1回総務委員会議事要録

平成17年4月13日（水）

司会：校長

※ 議事に先立ち、校長から新構成員の紹介等があった。

1 前回議事要録の確認 記録のとおり確認

2 議題等

◎ 議題

(1) 「沼津工業高等専門学校学則」の一部改正について

学生課長から、資料1に基づき説明があり、承認された。

(2) 「沼津工業高等専門学校就職委員会規程」の一部改正について

学生課長から、資料2に基づき説明があり、承認された。

(3) 沼津工業高等専門学校名誉教授の選考について

庶務課長から、資料3に基づき説明があった後、山岸教養科長から、推薦理由の説明があり、審議の結果、承認された。

(4) 平成17年度公開講座実施計画について

庶務課長から、資料4に基づき説明があり、種々検討の結果、事務局において申請講座の一部について、担当学科と教材費の徴収等を調整することとした。

なお、実施経費等については、今後、外部資金取得等の状況を勘案し、検討することとした。

また、来年度からは、事前に何らかの委員会等で検討するのが良いのではないかとの意見が出された。|

（出典：平成17年度第1回総務委員会議事要録）

(ii) 研究生等

最近3年間の研究生等の受入実績は、資料サ1—②—5に示すとおりである。

資料サ1—②—5：平成15～17年度研究生等受入実績

	研究生	聴講生	科目等履修生
平成15年度	3	0	0
平成16年度	3	0	0
平成17年度	2	1	0

(出典：学生課保存ファイル「学籍異動 研究生・聴講生・科目等履修生 平成15年度～」)

科目等履修生については近年の受入実績はないが、研究生は毎年複数名の受入実績があり、聴講生も平成17年度に受入実績がある。

満足度等の組織的な調査は行っていないが、受け入れた研究生等には必ず指導担当教員を配置し、当該研究生等のニーズに可能な限り応じており、特段の不満等は報告されていない。研究生等本人または担当指導教員から制度を改善する必要があるとの問題提起がなされた場合は、教務委員会において審議され、対応策を決定する。

(分析結果とその根拠理由) 相応である。

公開講座に関しては、受講者数は正規課程の学生のほぼ2クラス分となっており、また、アンケート調査では受講者の多くが満足の意を表しているため、活動の成果は上がっているものと判断できる。また、毎年総務委員会において公開講座の効果的な実施方法について審議しており、平成17年度においても改善の実績がある。

研究生等に関しては、毎年複数の受入実績があり、制度は活用されているといえる。また、全ての研究生等に担当指導教員を配置し、研究・学習活動へのフォローや要望への対応を行っており、制度の改善等の必要があれば速やかに教務委員会において審議する体制を整えている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 公開講座の対象年齢や分野を幅広く設定している点は優れている。

(改善を要する点) 特になし。

(3) 選択的評価基準の自己評価の概要

本校では、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、毎年複数の公開講座を開設し、広く一般から受講者を募集している。公開講座の対象年齢及び内容の設定については、できるだけ多様なニーズに応えられるよう計画している。平成17年度からは、小中学生向け講座の受講料は全て無料とし、「理工系離れ」が進むと言われる小中学生が本校独自の研究技術に気軽に触れられる機会を提供している。さらに、校外で行われる科学関連イベントへの出展や、小学校のPTA祭や公民館などで行われる出張科学教室などにも教職員を派遣している。

また、本校では、本校における継続的な研究・学習へのニーズに幅広く対応するため、学則により、正規課程以外にも研究生、聴講生、科目等履修生の制度を設けている。各制度は、それぞれ特色を持ち、様々なニーズに対応できるようになっている。

こうして、本校では、本校が持つ教育力を、正規課程の学生に留まらず広く地域に提供しようとする姿勢を堅持しており、受講対象や講義内容などが偏らないよう計画的に公開講座を実施すると

ともに、研究生・聴講生・科目等履修生の制度を設け、学外からの教育ニーズに対応できる体制を整えている。

公開講座の受講者数は、毎年正規課程の学生のほぼ1～2クラス分となっており、さらに平成17年度においても複数の講座で募集定員を大幅に超える応募があるなど、サービスの享受者数から本校の公開講座は相応な需要を得ているものと判断できる。また、本校内で行った公開講座についてはすべてアンケート調査を行い、多くの受講者から「参加してよかった」「また参加したい」という回答を得ている。アンケート結果については、すべて講座担当者にフィードバックし、改善のための資料としている。公開講座の実施の可否については毎年総務委員会において審議してきたところであり、さらに平成17年度中に公開講座等についてより専門的に審議する担当委員会の設置を計画している。

研究生等に関しては、毎年複数の受入実績があり、制度は活用されている。また、全ての研究生等に担当指導教員を配置し、研究・学習活動へのフォローや要望への対応を行っており、制度の改善等の必要があれば速やかに教務委員会において審議する体制を整えている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況がおおむね良好である。